

特別史跡

一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 21

第 63・112・113・114・118・128・137・143 次調査

2 0 2 3

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館

序 文

今回の報告書は、一乗谷川左岸の八地谷川周辺において実施した、複数の調査成果をまとめたものです。調査区は、城戸ノ内町字齊藤・木蔵・雲正寺・八地に所在し、八地谷川南岸の遺構(第63・112・114・137・143次調査)と北岸の遺構(第113・118・128次調査)に大きく区分されます。

調査区は、八地谷川の扇状地に立地し、西から東へ下降する周辺の水田一帯は通称「八地千軒」といわれ、予てから屋敷跡の存在が想定されていました。

昭和63年の第63次調査で多くの遺構が確認されたため、遺構の詳細を把握すべく、平成13年度の第112次調査から本格的に調査に着手しました。

調査の結果、一乗谷川の左岸を南北に通る基幹道路から八地谷に向かって、3本の東西道路が確認され、道路、土塁石垣、溝で区画された武家屋敷や町屋を確認することができました。伝説の八地千軒がここに姿を現したのです。

八地谷川南岸の第112・114次調査区では、大小8つの区画が存在し、中段では武家屋敷、上段では掘立柱建物で構成される町屋とともに、馬の厩舎と考えられる礎石建物が見つかりました。遺物は、国内外の陶磁器に加え、八地谷川からは石灯籠も発見されました。

八地谷川北岸の第113・118次調査区の中央付近は、大部分が削られていましたが、大小5つの区画が存在し、調査区南北端で南北基幹道路から西へ延びる2つの東西道路を確認し、中段と上段との境において、土塁石垣で挟まれた南北道路も確認することができました。最上段は石塔や火葬墓が発見され、墓域であったと考えられます。遺物は、大量の国内外の陶磁器に加え、銅鏡、刀装具、基石、漆器、釣瓶、笏谷石製の井戸枠など実に多彩です。

第128次調査は、八地谷北側の山裾に位置し、溝、礎石建物が確認されました。周辺には、現在も多くの石塔が散見され、寺院が存在したのかもしれませんが。

調査から本書の刊行まで、歳月を要しましたが、本書が今後の戦国時代研究の布石となれば幸いです。

結びになりましたが、本書の作成にあたり、文化庁をはじめ関係機関、地元の皆様から多くのご支援をいただきました。ここに深く感謝申し上げます。

令和5年3月

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館

館長 清水 邦夫

例 言

- 1 本書は、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館(令和4年10月まで福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 以下、博物館に略)および福井県教育庁埋蔵文化財調査センター(以下、県埋文に略)が特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡(福井県福井市)において実施した計画的な発掘調査の成果を報告したものであり、第21冊目にあたる。
- 2 本書で報告する調査は、国庫補助事業として、博物館と県埋文が平成10年(1998)度から同25年(2013)度までに実施したものである。各調査次の発掘調査期間、担当者は下記のとおりである。

調査機関：博物館

- 第63次 平成10年(1998)12月2日～同年12月19日 南 洋一郎
第112次 平成13年(2001)4月2日～同年12月27日 南 洋一郎 宮永一美
第113次 平成14年(2002)4月2日～同年12月25日 水野和雄 佐藤 桂 水村伸行 宮永一美
第114次 平成15年(2003)7月1日～同年12月25日 佐藤 桂 水村伸行
第118次 平成17年(2005)4月1日～平成20年(2006)3月31日 工藤俊樹 水村伸行 宮永一美 千木良礼子
第128次 平成19年(2008)5月15日～同年7月2日 川越光洋 藤田若菜

調査機関：県埋文

- 第137次 平成24年(2012)5月1日～同年6月8日 櫛部正典 川越光洋 木村孝一郎 藤田若菜
第143次 平成25年(2013)6月6日～同年7月19日 櫛部正典 松本泰典

- 3 本書を刊行するための出土遺物整理作業は、令和元年(2019)度から令和4年(2022)度まで福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館で実施した。
- 4 本書は、発掘調査の記録類をもとに、鈴木篤英(当館主任)が編集・作成を担当した。木製品の樹種分析については渡邊英明(同学芸員)が担当した。
- 5 本書で、各調査次の発掘調査・環境整備事業概報(以下、概報と略す)や、これまでの成果発表の中で齟齬がある場合は、本書をもって訂正したものと了解されたい。
- 6 本書の遺構写真撮影は発掘調査担当者による。遺物写真撮影は鈴木が担当した。その他、本書作成に関わる業務のうち、航空写真測量業務、遺構・遺物デジタルトレース業務の一部は下記に委託した。
航空写真測量業務：株式会社かんこう(第112次) 株式会社イビソク(第113・114・118次) 株式会社田中地質コンサルタント(第137次)
遺構デジタルトレース業務：セントラル航業株式会社 株式会社エヌ・エム調査設計(令和4年度)
遺物デジタルトレース業務： 株式会社文化財サービス(令和3年度)
- 7 写真図版・挿図・表の遺物番号は符合する。写真の縮尺は不同である。
- 8 遺構の検出については、上層遺構を検出・記録した後、上層遺構を回避する形で下層遺構の検出・記録を行っているため、各調査次の遺構全体図は上層遺構と下層遺構の一部が混在した形で表記している。調査区全体の層位断面は現地では保存しているが、挿図中からは煩雑さを避けるため除外した。
- 9 本書における挿図中の水平レベルの表示は海拔高(m)を示し、方位は座標北を用いた。方位、座標は日本測地系国土平面直角座標第VI系を使用した。標高や座標の数値については、測量全体図から算出した。建物の規模は、柱の中心を想定して計測し、石積遺構、井戸、溝の規模は内寸で計測した。今回の報告書作成においても、発掘調査の記録類に不十分な点が少なくなく、整合性を得るため、遺構や遺物については既報告を参考にしつつも、改めて再整理、再検討を行った。
- 10 本書で用いた遺構の略記号は次の通りである。
SA: 土塁石垣、SB: 建物、SD: 溝、SE: 井戸・溜枿、SF: 石積施設、SG: 庭、SK: 土坑または土坑群・埋甕遺構、SI: 門、SS: 道路、SV: 石垣・石列、SZ: 暗渠、SX: 石敷遺構・炉・カマド・不明遺構、P: 小穴、X: 遺物出土地点、
- 11 本書に掲載した図面・写真および遺物は、一括して福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館に保管してある。
- 12 発掘調査では、地元・地権者の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業は博物館の会計年度任用職員が行った。

目 次

I. 事業概要	
1. 調査の目的	1
2. 調査の方法および組織	1
3. 発掘調査および本報告書作成年度における組織	3
II. 調査の概要と経過	
1. 調査の概要	7
2. 調査日誌	11
III. 第 63・112・114 次調査(八地谷川南岸の遺構その 1)【城戸ノ内町字木蔵・雲正寺】	
1. 第 63・112・114 次調査(八地谷川南岸の遺構その 1)の概要	17
2. 遺 構	17
3. 遺 物	40
IV. 第 137・143 次調査(八地谷川南岸の遺構その 2)【城戸ノ内町字木蔵・斉藤】	
1. 第 137・143 次調査(八地谷川南岸の遺構その 2)の概要	91
2. 遺 構	91
3. 遺 物	97
V. 第 113・118 次調査(八地谷川北岸の遺構その 1)【城戸ノ内町字木蔵・雲正寺】	
1. 第 113・118 次調査(八地谷川北岸の遺構その 1)の概要	105
2. 遺 構	105
3. 遺 物	120
VI. 第 128 次調査(八地谷川北岸の遺構その 2)【城戸ノ内町字八地】	
1. 第 128 次調査(八地谷川北岸の遺構その 2)の概要	175
2. 遺 構	177
3. 遺 物	178
VII. ま と め	
1. 八地谷川南岸(第 63・112・114・137・143 次調査)	181
2. 八地谷川北岸(第 113・118・128 次調査)	182

写真図版目次

- PL. 1 第 63 次調査 城戸ノ内町字木蔵
(1) 第 63 次調査区遠景(南東から)
(2) 同遠景(北西から)
(3) B トレンチ SA4926、SS260 (南東から)
(4) 同(南から)
(5) 同 SD4816、SS260 (南東から)
(6) 同(南から)
- PL. 2 第 63 次調査 城戸ノ内町字木蔵
(1) B トレンチ SD5043、SE5046(南西から)
(2) 同 SD4810、SA4926、SD5043(南から)
(3) 同 SE5047、SE5046(南西から)
(4) 同 SE5047 (北西から)
- PL. 3 第 63 次調査 城戸ノ内町字木蔵
(1) C トレンチ SD5043(南東から)
(2) 同(北西から)
(3) 同(西から)
(4) D トレンチ SD5042(南東から)
- PL. 4 第 63 次調査 城戸ノ内町字木蔵
(1) D トレンチ SD5042(北東から)
(2) E トレンチ(南西から)
(3) E トレンチ SK5357(西から)
(4) F トレンチ SD5042(北西から)
- PL. 5 第 63 次調査 城戸ノ内町字木蔵
(1) F トレンチ SD5042(南東から)
(2) 同(北東から)
(3) 同(南西から)
(4) 同 SK5355(南西から)
- PL. 6 第 112 次調査 城戸ノ内町字雲正寺
(1) 第 112 次調査区遠景(北西から)
(2) 同遠景(南から)
- PL. 7 第 112 次調査 城戸ノ内町字雲正寺
(1) 第 112 次調査区遠景(北東から)
(2) 同遺構全景(南から)
- PL. 8 第 112 次調査 城戸ノ内町字雲正寺
(1) 第 112 次調査区遺構全景(南西から)
(2) 同遺構全景(北東から)
- PL. 9 第 112 次調査第 I 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) SV5063 下石灯籠 213・214(北東から)
(2) 石灯籠 214(南から)
(3) 石灯籠 213(北から)
(4) SV4904(南東から)
(5) SI4910(東から)
(6) 同(南東から)
- (7) 同(北西から)
- PL. 10 第 112 次調査第 I 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) SX5059、SE5055、SD5044・5045・5073(西から)
(2) 同(北東から)
- PL. 11 第 112 次調査第 I 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) SX5069(南西から)
(2) SX5075(北西から)
(3) SB5036、SE5049(北西から)
(4) SF5053・5054・SE5048(北西から)
(5) SF5053・5054(南東から)
(6) SE5048(南東から)
(7) SE5049(南から)
- PL. 12 第 112 次調査第 II 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) 第 II 区域遺構全景(北西から)
(2) 同遺構全景(南東から)
- PL. 13 第 112 次調査第 II～V 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) SB5034(北西から)
(2) SE5046(南西から)
(3) 第 III・IV 区域遺構全景(南東から)
(4) 第 III～V 区域遺構全景(西から)
- PL. 14 第 112 次調査第 III 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) SS5059(南東から)
- PL. 15 第 112 次調査第 III・V 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) SK5057(南東から)
(2) SD5040 出土環状鉄製品 197 (北東から)
(3) 第 V 区域遺構全景(南東から)
(4) 同遺構全景(南西から)
- PL. 16 第 112 次調査第 V 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) SS260、SI4909、SX5065、SF5050、SV4902、SD5038・5039、SZ5070(東から)
(2) 同(南東から)
- PL. 17 第 112 次調査第 V・VI・VIII 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) SI4909(南東から)
(2) SF5050(南東から)
(3) SD5038、SX5065、SS260(南西から)
(4) 第 VI・VIII 区域遺構全景(東から)
- PL. 18 第 112 次調査第 VI・VIII 区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1) SD5041・5042 (南西から)
(2) SD5039(南から)
(3) SS5059(南東から)
(4) SS5060(北から)
(5) SD5042(南東から)

- PL. 19 第 112 次調査第Ⅷ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SD5042(東から)
 (2)同(南東から)
 (3)SX5360(南東から)
- PL. 20 第 112 次調査第Ⅵ・Ⅷ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SS5060、SD5041・5042(北東から)
 (2)SS5060(北西から)
- PL. 21 第 114 次調査 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)第 114 次調査区遠景(南から)
 (2)同遠景(南東から)
- PL. 22 第 114 次調査 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)第 112・114 次調査区遺構全景(南西から)
- PL. 23 第 114 次調査 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)第 114 次調査区北側遺構全景(北西から)
 (2)同南側遺構全景(東から)
- PL. 24 第 114 次調査第Ⅵ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)八地谷川、SD5073、SV5063(北西から)
 (2)SD5073、SV5063(北西から)
 (3)同(北から)
 (4)同(南東から)
 (5)同(北から)
- PL. 25 第 114 次調査第Ⅵ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SB5337、SK5344～5352、SE5333・5354・5355(北西から)
 (2)同(南西から)
 (3)SE5354(南東から)
 (4)SE5355(南東から)
- PL. 26 第 114 次調査第Ⅵ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SB5035(北西から)
 (2)SE5333(西から)
 (3)SE5324(南東から)
 (4)SB5325(北西から)
 (5)SB5304・5311(西から)
- PL. 27 第 114 次調査第Ⅶ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SB5296、SK5291、SD5271～5273(北西から)
 (2)SB5296(西から)
 (3)SK5291(南西から)
 (4)SK5291 出土越前焼播鉢 96(西から)
 (5)同出土石盤 212(西から)
- PL. 28 第 114 次調査第Ⅶ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SK5236(北東から)
 (2)SK5236 出土越前焼壺 99(北東から)
 (3)SS5272、SD5271・5273(南西から)
- PL. 29 第 114 次調査第Ⅶ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SB5225(北東から)
 (2)SK5076(北東から)
 (3)SX5239(南から)
- (4)SF5218(南西から)
 (5)SE5225(北東から)
- PL. 30 第 114 次調査第Ⅷ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)第Ⅷ区域遺構全景(北西から)
 (2)同遺構全景(東から)
- PL. 31 第 114 次調査第Ⅷ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SS5185(西から)
 (2)SE5184(南西から)
 (3)SA5196(北東から)
 (4)SB5191・5164・5165・SA5191、SD5042(北東から)
- PL. 32 第 114 次調査第Ⅷ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SB5191(東から)
 (2)SB5165(北西から)
 (3)SB5165・5191、SK5173、SA5196、SD5176(南東から)
 (4)SB5166、SK5173、SD5175～5177(東から)
- PL. 33 第 114 次調査第Ⅷ・Ⅸ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SB5166、SK5173、SD5176(南西から)
 (2)第Ⅸ区域遺構全景(南西から)
 (3)同遺構全景(北東から)
- PL. 34 第 114 次調査第Ⅸ区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SB5200(南東から)
 (2)SX5199(北東から)
 (3)SE5198(東から)
 (4)SD5163(南東から)
 (5)SE5161、SX5160(南東から)
- PL. 35 第 137 次調査 城戸ノ内町字木蔵・斉藤
 (1)第 137 次調査区遠景(東から)
 (2)同遠景(南から)
- PL. 36 第 137 次調査 城戸ノ内町字木蔵・斉藤
 (1)第 137 次調査区遠景(南から)
 (2)同遠景(東から)
- PL. 37 第 137・143 次調査 城戸ノ内町字木蔵・斉藤
 (1)第 137 次 A トレンチ(北西から)
 (2)同(南東から)
 (3)同 SA6802(南西から)
 (4)第 143 次 4 トレンチ SA6802 断面(北西から)
 (5)第 143 次 3 トレンチ、第 137 次 A トレンチ SD4798
 (南東から)
- PL. 38 第 143 次調査 城戸ノ内町字木蔵・斉藤
 (1)3 トレンチ SD4798(南東から)
 (2)同(北西から)
 (3)1 トレンチ、第 137 次 A トレンチ SD4797(北西から)
 (4)1 トレンチ C-C' 層位(南東から)
 (5)2 トレンチ(北西から)
- PL. 39 第 137 次調査 城戸ノ内町字木蔵・斉藤
 (1)B-① トレンチ SV6806(南東から)

- (2)同(南東から)
(3)B-②トレンチ SV6806(北東から)
(4)B-③トレンチ SV6806(南西から)
(5)B-④トレンチ SD6805(南東から)
(6)同 SV6812 (南東から)
(7)同(北東から)
(8)B-④トレンチ SK6807(南東から)
- PL. 40 第137次調査 城戸ノ内町字木蔵・斉藤
(1)C トレンチ水田石垣(北東から)
(2)同(北西から)
(3)D トレンチ SE6808(西から)
(4)E トレンチ(南東から)
(5)F トレンチ SF6810、SV6809(北から)
(6)同 SF6810(南東から)
(7)G トレンチ SZ6811(北西から)
- PL. 41 第113次調査 城戸ノ内町字木蔵・雲正寺
(1)第113次調査区遠景(南から)
(2)同遠景(北西から)
- PL. 42 第113次調査 城戸ノ内町字木蔵・雲正寺
(1)第113次調査区遠景(南東から)
(2)同遠景(北東から)
- PL. 43 第113次調査 城戸ノ内町字木蔵・雲正寺
(1)第Ⅰ区域遺構全景(南から)
(2)第Ⅱ区域遺構全景(東から)
- PL. 44 第113次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字木蔵・雲正寺
(1)SA5095(北東から)
(2)同(南西から)
(3)SI5140(北西から)
(4)SD5096(南西から)
(5)同(北東から)
- PL. 45 第113次調査第Ⅰ区域 城戸ノ内町字木蔵・雲正寺
(1)SA5092、SD5127、SZ5126(北東から)
(2)SZ5126(北東から)
(3)SB5188・5199(北西から)
(4)SD5124(南東から)
(5)同(北西から)
- PL. 46 第113次調査第Ⅱ区域 城戸ノ内町字木蔵・雲正寺
(1)SK5100(南東から)
(2)同(南東から)
(3)SF5110(南東から)
(4)SF5097(北東から)
(5)SE5111(南東から)
(6)SE5099(南東から)
(7)SE5098(東から)
(8)SX5112(北東から)
- PL. 47 第113次調査第Ⅱ・Ⅲ区域 城戸ノ内町字木蔵・雲正寺
(1)SX5112・5113(北東から)
(2)第Ⅲ区域遺構全景(南東から)
- PL. 48 第113次調査第Ⅲ区域 城戸ノ内町字木蔵・雲正寺
(1)SA5094、SS2952、SA5130・5136(北東から)
(2)同(南西から)
(3)SZ5131(南東から)
(4)SI5135(南東から)
(5)SI5137(南東から)
(6)SA5138、SS5090(南西から)
- PL. 49 第118次調査 城戸ノ内町字雲正寺
(1)第118次調査区遠景(北から)
(2)同遠景(北東から)
- PL. 50 第118次調査 城戸ノ内町字雲正寺
(1)第118次調査区遠景(南東から)
(2)同遠景(北から)
- PL. 51 第118次調査第Ⅴ・Ⅵ区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1)第Ⅴ区域遺構全景(北から)
(2)第Ⅴ・Ⅵ区域遺構全景(南西から)
- PL. 52 第118次調査第Ⅳ・Ⅴ区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1)SD5992(南東から)
(2)同(北から)
(3)SD5991～5993(南東から)
(4)SS5994、SD5991～5993(北東から)
(5)SD5996・5999、SS5994、SF6000(南西から)
- PL. 53 第118次調査第Ⅳ～Ⅵ区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1)SF6000、SS6002(北西から)
(2)SF6000(南東から)
(3)SE5989(北から)
(4)SE5998(南から)
(5)SB5997、SD5996(南西から)
- PL. 54 第118次調査第Ⅴ区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1)SB5972・5973(北東から)
(2)SB5970・5972(南西から)
- PL. 55 第118次調査第Ⅴ区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1)SB5973、SX5983(北東から)
(2)SS5988(北東から)
(3)SB6019(南西から)
(4)SF5964(北東から)
- PL. 56 第118次調査第Ⅵ区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1)第Ⅴ区域遺構全景(南東から)
(2)同遺構全景(北東から)
- PL. 57 第118次調査第Ⅵ区域 城戸ノ内町字雲正寺
(1)SD5850(北東から)

- (2)SD5853(北東から)
 (3)SS5860、SX5857、SD5869、SK6014・6015(北西から)
 (4)SE5851(北東から)
 (5)SE5866(南から)
- PL. 58 第118次調査第VI・VII区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)SK5974(西から)
 (2)SK6015(南から)
 (3)SK6018(北東から)
 (4)釉裏紅 238(北から)
 (5)SV5907・5908(南東から)
- PL. 59 第118次調査第VII区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)R-T46 表土出土石塔類
 (2)R-T46 出土石塔類(南東から)
- PL. 60 第118次調査第VII区域 城戸ノ内町字雲正寺
 (1)第VII区域北側遺構全景(南西から)
 (2)SK5943～5950(南東から)
 (3)同(北東から)
 (4)SV5908(南東から)
 (5)同(東から)
 (6)c-c' 層位(北東から)
 (7)SS5909(北西から)
- PL. 61 第128次調査 城戸ノ内町字八地
 (1)調査前風景(北から)
 (2)同(南西から)
 (3)上層面検出状況(東から)
 (4)上層面遺構全景(南から)
 (5)中層面検出状況(西から)
 (6)中層面遺構全景(西から)
- PL. 62 第128次調査 城戸ノ内町字八地
 (1)下層面遺構全景(西から)
 (2)SD6314(東から)
 (3)SD6314 出土青磁梅瓶 66(北西から)
 (4)SD6312 出土羽口 47(東から)
 (5)C4 付近出土土器(北西から)
 (6)同(北西から)
- PL. 63 第63次調査 包含層出土土器、遺構出土土器
 第112次調査 包含層出土土器
- PL. 64 第112次調査 包含層出土土器、遺構出土土器
 (1)包含層出土土器
 (2)SV5063 出土土器
 (3)SX5074 出土土器
 (4)SE5046 出土土器
 (5)SB5034 出土土器
- PL. 65 第112次調査 遺構出土土器
 (1)SS5059 出土土器
 (2)SD5039 出土土器
- (3)SD5040 出土土器
 (4)SK5057 出土土器
 (5)SF5051 出土土器
 (6)SX5066 出土土器
- PL. 66 第112次調査 遺構出土土器、金属製品、土製品、
 石仏、石製品
 (1)SB5035 出土土器
 (2)SB5072・5031、SG5056 出土土器
 (3)SB5042 出土土器
 (4)小柄、五徳、環状鉄製品
 (5)土錘、土製円盤、基石
 (6)石仏
 (7)板石、台石、石灯籠
- PL. 67 第112次調査 石塔、銭貨、その他の遺物
 (1)石灯籠 宝珠、笠部、竿部 4面
 (2)銭貨
 (3)その他の遺物(縄文土器)
- PL. 68 第114次調査 包含層出土土器、遺構出土土器
 (1)包含層出土土器
 (2)包含層出土土器
 (3)SB5325 出土土器
- PL. 69 第114次調査 遺構出土土器
 (1)SE5355 出土土器
 (2)SK5291 出土土器
 (3)SK5236 出土土器
 (4)SB5225 出土土器
 (5)SE5225 出土土器
 (6)SF5218 出土土器
 (7)SA5183 出土土器
- PL. 70 第114次調査 遺構出土土器、金属製品、土製品、
 石製品
 (1)SD5176 出土土器
 (2)SB5166 出土土器
 (3)SK5167 出土土器
 (4)SD5175 出土土器
 (5)SE5161 出土土器
 (6)鉄釘、火箸、飾金具、銅板
 (7)土製円盤
 (8)石硯
 (9)砥石
 (10)基石
 (11)バンドコ
- PL. 71 第114次調査 石製品、木製品
 (1)バンドコ
 (2)石盤
 (3)木製品

- 第 137 次調査 出土土器、金属製品、石製品、銭貨、
その他の遺物
- PL. 72 第 113 次調査 包含層出土土器
- PL. 73 第 113 次調査 包含層出土土器、遺構出土土器
(1) 包含層出土土器
(2) SK5100 出土土器
(3) SK5100 出土土器
(4) SF5110、SE5099 出土土器
- PL. 74 第 113 次調査 遺構出土土器
(1) SK6025 出土土器
(2) SS5090 出土土器
(3) SS2952 出土土器
(4) SA5130 出土土器
(5) SA5136 出土土器
(6) SA5138 出土土器
(7) SE5139 出土土器
- PL. 75 第 113 次調査 金属製品、土製品、木製品、石製品
(1) 金属製品
(2) 陶錘、土錘、土鈴
(3) 土製円盤
(4) 雑器、下駄
(5) 石硯、砥石
(6) 碁石
(7) バンドコ
(8) 石盤
(9) 石盤
- PL. 76 第 113 次調査 石製品、石塔、その他の遺物、銭貨
(1) 石臼、茶臼
(2) 茶臼、石塔、その他の遺物、銭貨
第 118 次調査 包含層出土土器
- PL. 77 第 118 次調査 包含層出土土器
- PL. 78 第 118 次調査 包含層出土土器
- PL. 79 第 118 次調査 包含層出土土器、遺構出土土器
(1) 包含層出土土器
(2) SD5996 出土土器
(3) SD5993 出土土器
(4) SF6000 出土土器
(5) SS5994 出土土器
(6) SS6002、SB5970 出土土器
(7) SB5970 出土土器
(8) SB5973 出土土器
(9) SB5972 出土土器
- PL. 80 第 118 次調査 遺構出土土器
(1) SD5973 出土土器
(2) SE5964 出土土器
(3) SE5962 出土土器
(4) SD5966 出土土器
(5) SK6023 出土土器
(6) SK6027 出土土器
(7) SD6034 出土土器
(8) SD5850 出土土器
(9) SD5853 出土土器
(10) SE5851・5866 出土土器
(11) SK5974 出土土器
- PL. 81 第 118 次調査 遺構出土土器、土製品、金属製品
(1) SK6026 出土土器
(2) SK6014 出土土器
(3) SK6030 出土土器
(4) SK6036 出土土器
(5) SV5908 出土土器
(6) 土製品
(7) 金属製品
- PL. 82 第 118 次調査 石製品
(1) 石硯、砥石、舍利
(2) 碁石
(3) バンドコ
- PL. 83 第 118 次調査 石製品
(1) バンドコ、風炉、石鉢、石盤、石臼、茶臼、不明石製品
- PL. 84 第 118 次調査 石製品
- PL. 85 第 118 次調査 石塔
- PL. 86 第 118 次調査 木製品
(1) 漆器、雑器、釣瓶
(2) 釣瓶
(3) 木杵、板材
- PL. 87 第 118 次調査 銭貨、その他の遺物
(1) 銭貨
(2) その他の遺物(華南陶器、釉裏紅、種子、樺状樹皮、鉛溶解片、鉄塊)
第 128 次調査 包含層出土土器
- PL. 88 第 128 次調査 包含層出土土器、金属製品、土製品、
石製品、その他の遺物
(1) 灰釉、鉄釉、青磁、白磁
(2) 青磁
(3) 弾丸、鉄釘
(4) 羽口
(5) 砥石
(6) 石鉢
(7) 風炉
(8) 碁石
(9) 銭貨、その他の遺物(石器)
(10) 高麗青磁梅瓶

挿図目次

第 1 図	特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地点 …… 2	第 28 図	第Ⅷ区域区画Ⅶ SS5185、SE5184、SA5183・5196、 SI5197、SB5191・5165・5164・5166、SD5176・5177、 SK5173・5167、第Ⅸ区域区画Ⅷ SA5162、SD5163、SX5160、 SE5161……………折込
第 2 図	研究協議会開催風景 …… 6	第 29 図	第 63 次調査 出土土器……………40
第 3 図	八地谷川南岸・北岸の調査区と周辺の調査区 位置図 …… 9	第 30 図	第 63 次調査 出土土器、石製品……………41
第 4 図	第 63・112・114 次調査区、第 137・143 次調査区、 第 113・118 次調査区、第 128 次調査区位置図 ……………10	第 31 図	第 112 次調査 包含層出土土器 ……45
第 5 図	第 112 次発掘調査風景(1～11)……………11	第 32 図	第 112 次調査 包含層出土土器 ……46
第 6 図	第 114 次発掘調査風景(1～12)……………12	第 33 図	第 112 次調査 包含層出土土器、第Ⅰ区域区画 Ⅰ遺構出土土器 ……47
第 7 図	第 143 次発掘調査風景(1～6)、第 113 次発掘 調査風景(7～10)……………13	第 34 図	第 112 次調査 第Ⅰ区域区画Ⅰ、第Ⅱ区域区画 Ⅱ遺構出土土器 ……48
第 8 図	第 113 次発掘調査風景(1～12)……………14	第 35 図	第 112 次調査 第Ⅲ区域区画Ⅲ遺構出土土器 ……49
第 9 図	第 118 次発掘調査風景(1～12)……………15	第 36 図	第 112 次調査 第Ⅳ区域区画Ⅳ、第Ⅴ区域区画 Ⅴ、第Ⅵ区域区画Ⅵ、第Ⅷ区域区画Ⅶ遺構出土 土器 ……50
第 10 図	第 118 次発掘調査風景(1～8)、第 128 次発掘 調査風景(9～12)……………16	第 37 図	第 112 次調査 金属製品、土製品、石製品 ……51
第 11 図	第 63 次調査位置図……………17	第 38 図	第 112 次調査 石灯籠 ……52
第 12 図	第 63 次調査 B～F トレンチ ……19	第 39 図	第 112 次調査 石灯籠 ……53
第 13 図	第 112・114 次調査遺構全体図……………折込	第 40 図	第 112 次調査 銭貨、その他の遺物(縄文土器) ……………54
第 14 図	第Ⅰ区域区画Ⅰ SV5063、SD4810 ……21	第 41 図	第 114 次調査 包含層出土土器 ……70
第 15 図	第Ⅰ区域区画Ⅰ SI4910、SZ5071 ……21	第 42 図	第 114 次調査 包含層出土土器 ……71
第 16 図	第Ⅰ区域区画Ⅰ SD5044・5055、SX5069、SF5055 ……………22	第 43 図	第 114 次調査 包含層出土土器、第Ⅵ区域区画 Ⅵ・第Ⅶ区域区画Ⅶ遺構出土土器 ……72
第 17 図	第Ⅰ区域区画Ⅰ SB5036、SK5074、SF5053・5054、 SE5048・5049 ……23	第 44 図	第 114 次調査 第Ⅶ区域区画Ⅶ遺構出土土器 ……………73
第 18 図	第Ⅱ区域区画Ⅱ SB5034、SF5052、SE5047、SX5068 ……………24	第 45 図	第 114 次調査 第Ⅶ区域区画Ⅶ、第Ⅷ区域区画 Ⅶ遺構出土土器 ……74
第 19 図	第Ⅲ区域区画Ⅲ SS5059 断面……………24	第 46 図	第 114 次調査 第Ⅷ区域区画Ⅶ、第Ⅸ区域区画 Ⅸ遺構出土土器 ……75
第 20 図	第Ⅲ区域区画Ⅲ SS5059、SD5043・5039・5040、 SK5057、SE5046、第Ⅵ区域区画Ⅵ SS5060、 SX5360、第Ⅷ区域区画Ⅶ SD5042・5041 ……25	第 47 図	第 114 次調査 金属製品、土製品、石製品 ……………76
第 21 図	第Ⅲ区域区画Ⅲ SK5057 断面……………26	第 48 図	第 114 次調査 石製品、木製品、その他の遺物 ……………77
第 22 図	第Ⅲ区域区画Ⅲ SS5059、SD5043・5039・5040、 第Ⅳ区域区画Ⅳ SB5033、SF5051、SX5066、第Ⅴ区 域区画Ⅴ SI4909、SF5050、SX5065 ……27	第 49 図	第 137・143 次調査位置図……………92
第 23 図	第Ⅴ区域区画Ⅴ SB5072・5031、SG5056 ……28	第 50 図	第 137・143 次調査遺構全体図……………折込
第 24 図	第Ⅵ区域区画Ⅵ SD5073、SK5058・5344～5352、 SB5337、SE5354・5355・5333 ……32	第 51 図	第 137 次調査 G トレンチ SZ6811 ……94
第 25 図	第Ⅵ区域区画Ⅵ SE5324、SB5325・5305・5304・ 5311、SK5058 ……33	第 52 図	第 137 次調査 A トレンチ南壁・同西壁、第 143 次 1 トレンチ、同 2 トレンチ南壁、同 3 トレンチ SD4798、同 3 トレンチ SD4798 南側壁 ……折込
第 26 図	第Ⅵ区域区画Ⅵ SE5324、第Ⅶ区域区画Ⅶ SB5926・5255・5247、SK5291・5236、SS5272、 SD5271・5273 ……35	第 53 図	第 137 次調査 B トレンチ ……折込
第 27 図	第Ⅶ区域区画Ⅶ SK5236・5237・5076、SX5239 ……………36	第 54 図	第 137 次調査 C・D トレンチ……………95
		第 55 図	第 137 次調査 E トレンチ ……95

第 56 図	第 137 次調査 F・G トレンチ……………96		
第 57 図	第 137 次調査 B～G トレンチ断面(g-g'～n-n' 層位)……………折込	第 80 図	第 113 次調査 金属製品、土製品、木製品 …… 128
第 58 図	第 137 次調査出土土器 ……………97	第 81 図	第 113 次調査 石製品 …………… 129
第 59 図	第 137 次調査出土土器、金属製品、石製品、 銭貨 ……………98	第 82 図	第 113 次調査 石製品、石塔、その他の遺物、 銭貨 …………… 130
第 60 図	第 143 次調査 出土土器、金属製品 ……99	第 83 図	第 118 次調査 包含層出土土器 …………… 149
第 61 図	第 113・118 次調査位置図…………… 106	第 84 図	第 118 次調査 包含層出土土器 …………… 150
第 62 図	第 113・118 次調査遺構全体図……………折込	第 85 図	第 118 次調査 包含層出土土器 …………… 151
第 63 図	第 I 区域区画 I SB5121・5120、SA5095、SI5140、 SZ5126、SD5096・5124・5125 …………… 107	第 86 図	第 118 次調査 包含層出土土器 …………… 152
第 64 図	第 I 区域区画 I SB5118・5119 …………… 108	第 87 図	第 118 次調査 包含層出土土器 …………… 153
第 65 図	第 II 区域区画 I SK5100、SF5097・5110、SE5111・ 5099・5098、SX5112・5113、SA5093、SS5090、 第 III 区域区画 II SA5136、SI5137 ……………折込	第 88 図	第 118 次調査 包含層出土土器、第 IV 区域区画 III、第 V 区域区画 IV 遺構出土土器 …… 154
第 66 図	第 IV 区域区画 III SD5992・5128・5996・5993、 SF6000、第 V 区域区画 IV SS5994、SX5995、SI6024、 SD5991・6022、SS6001・6002、SB5970～5973、 SA5983 ……………折込	第 89 図	第 118 次調査 第 V 区域区画 IV 遺構出土土器 …………… 155
第 67 図	第 VI 区域区画 II SK5974 …………… 116	第 90 図	第 118 次調査 第 V 区域区画 IV、第 VI 区域区画 II 遺構出土土器 …………… 156
第 68 図	第 VI 区域区画 II SB5904、SD5850・5853・5864・ 5869、SS5860、SX5857～5859、SE5851、SK5974・ 6015・6018、第 VII 区域区画 V SV5908 ……折込	第 91 図	第 118 次調査 第 VI 区域区画 II 遺構出土土器 …………… 157
第 69 図	第 VII 区域区画 V SK5943～5950 …………… 117	第 92 図	第 118 次調査 第 VII 区域区画 V 遺構出土土器、 金属製品 …………… 158
第 70 図	第 VI 区域区画 II SK6003～6019 断面…………… 118	第 93 図	第 118 次調査 石製品 …………… 159
第 71 図	第 VII 区域区画 V a-a'・b-b'・c-c' 層位 ……………折込	第 94 図	第 118 次調査 石製品 …………… 160
第 72 図	第 VII 区域区画 V SV5908 立面……………折込	第 95 図	第 118 次調査 石製品 …………… 161
第 73 図	第 113 次調査 包含層出土土器 …………… 121	第 96 図	第 118 次調査 石製品 …………… 162
第 74 図	第 113 次調査 包含層出土土器 …………… 122	第 97 図	第 118 次調査 石製品 …………… 163
第 75 図	第 113 次調査 包含層出土土器 …………… 123	第 98 図	第 118 次調査 石塔 …………… 164
第 76 図	第 113 次調査 包含層出土土器 …………… 124	第 99 図	第 118 次調査 石塔 …………… 165
第 77 図	第 113 次調査 第 I・II 区域区画 I 遺構出土土 器 …………… 125	第 100 図	第 118 次調査 木製品、銭貨…………… 166
第 78 図	第 113 次調査 第 II 区域区画 I、第 III 区域区画 II 遺構出土土器 …………… 126	第 101 図	第 118 次調査 銭貨…………… 167
第 79 図	第 113 次調査 第 III 区域区画 II 遺構出土土器 …………… 127	第 102 図	第 128 次調査位置図…………… 175
		第 103 図	第 128 次調査遺構全体図…………… 176
		第 104 図	第 128 次調査区 a-a'、b-b' 断面 …… 177
		第 105 図	第 128 次調査 出土土器…………… 178
		第 106 図	第 128 次調査 出土土器、土製品、石製品 …………… 179
		第 107 図	第 128 次調査 銭貨、その他の遺物(石器) …………… 180

表 目 次

第 1 表	第 112 次調査主要遺構観察表 ……………29	第 6 表	第 137・143 次調査出土遺物観察表……………99
第 2 表	第 114 次調査主要遺構観察表 ……………39	第 7 表	第 113 次調査主要遺構観察表 …………… 112
第 3 表	第 63 次調査出土遺物観察表……………41	第 8 表	第 118 次調査主要遺構観察表 …………… 119
第 4 表	第 112 次調査出土遺物観察表 ……………54	第 9 表	第 113 次調査出土遺物観察表 …………… 131
第 5 表	第 114 次調査出土遺物観察表 ……………78	第 10 表	第 118 次調査出土遺物観察表 …………… 167

I . 事業概要

1. 調査の目的

戦国大名朝倉氏の拠点である特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡は、5代103年間にわたって営まれた城下町の遺跡であり、朝倉館を中心として山城、城戸、武家屋敷、町屋、寺院等の遺構が一体となって保存されている。これを国民共有の文化遺産として、永久に保存するため、特別史跡に指定し、公有地化を進めている。

発掘調査で検出した遺構や遺物は、保護・保存するだけにとどまらず、その調査成果を広く公開、活用し、遺跡の中に自身を置いて「歴史と生きた対話」ができる史跡公園の完成を目指している。

一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査と整備が着手され、実に半世紀以上の時が過ぎたが、多角的分野から発掘調査の成果を検討することにより、一乗谷の町並みや構造、そこで生きた人々の暮らしぶりを解明してきた。計画的な発掘調査の成果に基づいて環境整備を実施し、適切な維持管理のもとに遺跡を公開するという基本理念は、多くの関係者の不断の努力によって、今日まで貫かれている。

一乗谷朝倉氏遺跡の調査は、昭和42年(1967)度、旧足羽町教育委員会が事業主体として始めたことを皮切りに、昭和46年(1971)度から福井県教育委員会が発掘調査と環境整備事業実施し、福井市が用地取得と遺跡の管理を担当して事業を進めてきた。同年7月に278haという広大な区域が国の特別史跡に格上げ指定されると、県は昭和47年(1972)3月に「朝倉氏史跡公園基本構想」を策定し、さらに「基本構想」に基づく事業遂行の指導体制の万全を期すため、「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査研究協議会」を発足させた。同年3月、福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所を設置し、以後、5ヶ年計画を策定して、発掘調査と環境整備に取り組んできた。

平成3年(1991)に至ると、4つの庭園が国の特別名勝になり、平成19年(2007)に出土遺物2,343点が重文に指定され、令和元年(2019)に至り日本遺産に認定されるなど、国内屈指の大規模遺跡として着実に歩を進め、次世代へ継ぐ資産として、広く発信されるようになった。

現在の一乗谷における発掘調査は、「計画調査」と「現状変更に伴う調査」に対応しており(第1図)、計画調査の成果については、複数次にわたる調査区の遺構が一定の面積にまとまると、正報告書を刊行してきた。現状変更を前提とした道路・河川整備・中山間事業等に伴う発掘調査については、事業別に報告書を刊行してきた。

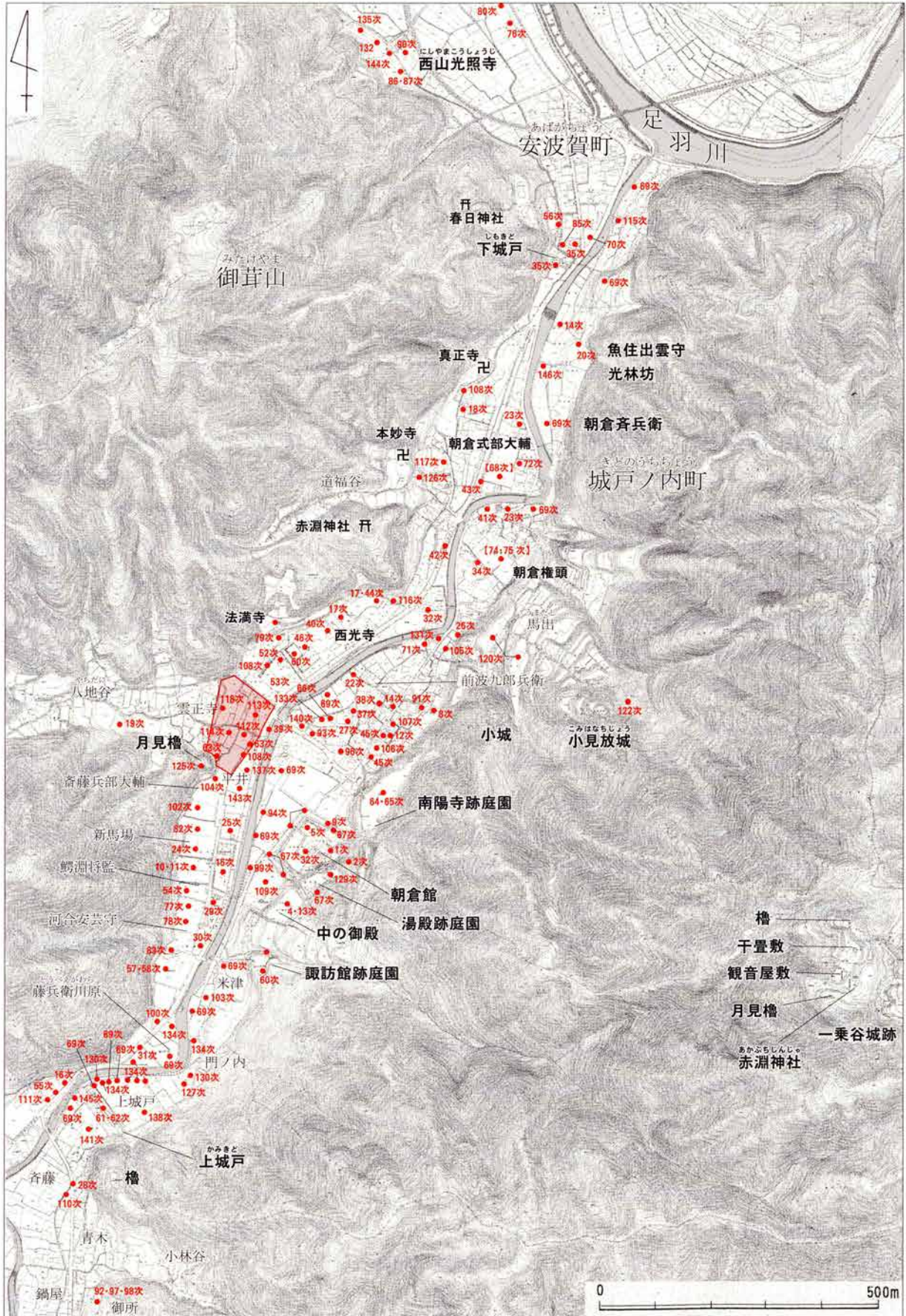
また、史跡内の「個人宅地の新・改築等に伴う発掘調査」については、研究協議会へ報告し、各年度の「発掘調査整備事業概報」で報告を行ってきた。調査次数は令和4年度の段階で第154次を数える。

本書は、昭和63年(1988)～平成25年(2013)にかけて発掘調査した、八地谷川兩岸に広がる武家屋敷・町屋の遺構に焦点をあて、第63・112・113・114・118・128・137・143次の調査成果を報告するものである。

2. 調査の方法および組織

一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査・環境整備は、国庫補助事業として県が直接実施しており、その実施機関として、福井県教育庁朝倉氏遺跡調査研究所(昭和47年(1972)4月1日～昭和56年(1981)8月19日)、福井県立朝倉氏遺跡資料館(昭和56年8月20日～平成3年(1991)3月31日)、福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館(平成3年(1991)4月1日～令和4年(2022)9月31日)が設置されてきた。途中、県の機構改革によって、資料館が教育庁から知事部局に移管され、発掘調査関連業務は、平成24～28年(2012～2016)度まで福井県教育庁埋蔵文化財調査センターの朝倉氏遺跡グループが担ったが、平成29年(2017)度から再び資料館の業務に復帰した。そして、令和4年(2022)10月1日から、資料館は福井県立一乗谷朝倉氏博物館と改称し、組織を改変した。

博物館の業務については、従来通り「朝倉氏史跡公園基本構想」に基づいて設置された福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会(旧福井県朝倉氏遺跡調査研究協議会)から適切な指導と助言を得て進めている。



第1図 特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡調査地点(縮尺 1/10,000)

3. 発掘調査および本報告書作成年度における組織

【発掘調査】

平成 10 年(1988)度 第 63 次調査

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長 近藤公夫(神戸芸術工科大学教授)
 副会長 平井 聖(昭和女子大学教授)
 委員 木原啓吉(江戸川大学教授)
 委員 河原純之(千葉大学教授)
 委員 田畑貞寿(千葉大学名誉教授)
 委員 玉置伸悟(福井大学教授)
 委員 坪井清足(大阪文化財調査研究センター理事長)
 委員 松浦義則(福井大学教授)
 委員 吉田伸之(東京大学教授)
 委員 池上裕子(成蹊大学教授)
 委員 石田 昇(朝倉氏遺跡保存協会会長)
 委員 奥田和義(城戸ノ内町内会長)

平成 13 年(2001)度 第 112 次調査

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長 近藤公夫(奈良女子大学名誉教授)
 副会長 平井 聖(昭和女子大学教授)
 委員 木原啓吉(江戸川大学教授) ※13 年度まで
 委員 田畑貞寿(千葉大学名誉教授)
 委員 玉置伸悟(福井大学教授)
 委員 河原純之(川村学園女子大学教授)
 委員 松浦義則(福井大学教授)
 委員 吉田伸之(東京大学教授)
 委員 池上裕子(成蹊大学教授)
 委員 小野正敏(国立歴史民俗博物館教授)
 委員 石田 昇(朝倉氏遺跡保存協会会長)
 委員 森本輝夫(城戸ノ内自治会長)

平成 14・15(2002・2003)年度 第 113・114 次調査

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長 近藤公夫(奈良女子大学名誉教授)
 副会長 平井 聖(昭和女子大学教授)
 委員 田畑貞寿(千葉大学名誉教授)
 委員 河原純之(川村学園女子大学教授)
 委員 松浦義則(福井大学教授)
 委員 池上裕子(成蹊大学教授)
 委員 小野正敏(国立歴史民俗博物館教授)
 委員 神吉紀世子(和歌山大学助教授)
 委員 小林千草(成城大学教授)
 委員 田中みゑ子(地元代表)
 委員 岡田光輝(朝倉氏遺跡保存協会会長)
 委員 細田博三(城戸ノ内自治会長)
 委員 石田康雄(城戸ノ内自治会長)
 (細田委員は平成 14 年度、石田委員は平成 15 年度)

平成 17 年(2005)度 第 118 次調査

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長 近藤公夫(奈良女子大学名誉教授)
 副会長 平井 聖(昭和女子大学教授)
 委員 田畑貞寿(千葉大学名誉教授)
 委員 河原純之(川村学園女子大学教授)
 委員 松浦義則(福井大学教授)
 委員 池上裕子(成蹊大学教授)
 委員 小野正敏(国立歴史民俗博物館助教授)
 委員 神吉紀世子(京都大学大学院助教授)
 委員 小林千草(東海大学教授)
 委員 高橋康雄(京都大学大学院教授)
 委員 高瀬要一(奈良文化財研究所部長)
 委員 田中みゑ子(地元代表)
 委員 岡田光輝(朝倉氏遺跡保存協会会長)
 委員 細田国雄(城戸ノ内町自治会長)

平成 20 年(2008)度 第 128 次調査

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長 河原純之(川村学園女子大学教授)
 副会長 池上裕子(成蹊大学教授)
 委員 小野正敏(国立歴史民俗博物館教授)
 委員 神吉紀世子(京都大学大学院助教授)
 委員 小林千草(東海大学教授)
 委員 高橋康雄(京都大学大学院教授)
 委員 高瀬要一(奈良文化財研究所部長)
 委員 田上 悟(地元代表)
 委員 吉田三恵(地元代表)
 委員 岡田光輝(朝倉氏遺跡保存協会会長)

平成 24・25 年(2012・2013)度 第 137・143 次調査

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長 池上裕子(成蹊大学教授)
 副会長 高橋康雄(花園大学教授)
 委員 小野正敏(人間文化研究機構理事)
 委員 高瀬要一(元奈良国立文化財研究所文化遺産部長)
 委員 神吉紀世子(京都大学大学院助教授)
 委員 久保智康(元京都国立博物館学芸企画室長)
 委員 高妻洋成(奈良国立文化財研究所保存修復科学研究室長)
 委員 高橋百合子(地元代表)
 委員 山下忠五郎(地元代表)
 委員 岸田 清(朝倉氏遺跡保存協会会長)

【遺物整理・報告書刊行】

令和元～3 年(2019～2021)度

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長 小野正敏(国立歴史民俗博物館名誉教授・中世考古学)
 副会長 高妻洋成(奈良文化財研究所副所長・保存科学)
 委員 池上裕子(成蹊大学名誉教授・中世史)
 委員 久保智康(京都国立博物館名誉館員・美術工芸)
 委員 富島義幸(京都大学大学院教授・建築史)
 委員 小野健吉(大阪観光大学教授・遺跡整備)
 委員 小浦久子(神戸芸術工科大学教授・都市計画)
 委員 杉本 宏(京都芸術大学教授・庭園整備)
 委員 中井 均(滋賀県立大学名誉教授・城郭考古学)
 委員 岸田 清((一社)朝倉氏遺跡保存協会会長)
 委員 網谷克彦(元福井県陶芸館長・考古)
 委員 吉田 智(福井県教育博運営アドバイザー・歴史)

(網谷委員の任期は令和 2 年 1 月 24 日まで。中井委員の任期は令和 2 年 1 月 25 日から)

令和 4 年(2022)度

福井県朝倉氏遺跡研究協議会

会長 高妻洋成(国立文化財機構奈良文化財研究所副所長・保存科学)
 副会長 小浦久子(神戸芸術工科大学教授・都市計画)
 委員 久保智康(京都国立博物館名誉館員・美術工芸)
 委員 富島義幸(京都大学大学院教授・建築史)
 委員 小野健吉(大阪観光大学教授・遺跡整備)
 委員 杉本 宏(京都芸術大学教授・庭園整備)
 委員 中井 均(滋賀県立大学名誉教授・城郭考古学)
 委員 染川香澄(ハンズオンプランニング代表・博物館学)
 委員 長谷川裕子(跡見学園女子大学教授・歴史)
 委員 岸田 清((一社)朝倉氏遺跡保存協会会長)

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館

<p>令和元年(2019)度(6月より)</p> <p>館長 向出宏二(事務)</p> <p>副館長 月輪 泰(考古)</p> <p>次長 下山淳子(事務)</p> <p>主任 鈴木篤英(考古) (併勤 県埋蔵文化財調査センター)</p> <p>主任 川越光洋(考古)</p> <p>主任 宮永一美(歴史)</p> <p>主任 宮崎 認(考古)</p> <p>主任 田中祐二(考古)</p> <p>主任 有馬香織(歴史)</p> <p>主査 熊谷 透(建築)</p> <p>主査 藤田若菜(庭園)</p> <p>学芸員 石川美咲(歴史)</p> <p>学芸員 渡邊英明(保存科学)</p> <p>学芸員 大竹桃子(史跡整備)</p> <p>(兼務) 藤井亜衣(事務) (交流文化部文化課)</p> <p>非常勤嘱託 花川洋介(事務)</p> <p>非常勤嘱託 眞保弘恵(事務)</p> <p>非常勤嘱託 富阪昌代(事務)</p>	<p>令和2年(2020)度</p> <p>館長 西澤弘純(事務)</p> <p>総括 川越光洋(考古)</p> <p>次長 下山淳子(事務)</p> <p>主任 鈴木篤英(考古)</p> <p>主任 宮永一美(歴史)</p> <p>主任 宮崎 認(考古)</p> <p>主任 田中祐二(考古)</p> <p>主査 酒井健治(歴史)</p> <p>主査 熊谷 透(建築)</p> <p>主査 藤田若菜(庭園)</p> <p>主査 高橋史弥(民俗)</p> <p>学芸員 石川美咲(歴史)</p> <p>学芸員 渡邊英明(保存科学)</p> <p>学芸員 大竹桃子(史跡整備)</p> <p>考古専門研究員 月輪 泰(考古)</p> <p>歴史教育専門員 花川洋介(事務)</p> <p>窓口業務支援員 眞保弘恵(事務)</p> <p>窓口業務支援員 富阪昌代(事務)</p>
<p>令和3年(2021)度</p> <p>館長 西澤弘純(事務)</p> <p>副館長 松村昌治(事務)</p> <p>副館長(調査・研究) 川越光洋(考古)</p> <p>主任 鈴木篤英(考古)</p> <p>主任 宮永一美(歴史)</p> <p>主任 宮崎 認(考古)</p> <p>主任 田中祐二(考古)</p> <p>主任 窪田裕美(美術工芸)</p> <p>主査 酒井健治(歴史)</p> <p>主査 熊谷 透(建築)</p> <p>主査 藤田若菜(庭園)</p> <p>学芸員 石川美咲(歴史)</p> <p>学芸員 渡邊英明(保存科学)</p> <p>学芸員 藤井佐由里(遺跡保存)</p> <p>学芸員 藤田理紗(史跡整備)</p> <p>考古専門研究員 月輪 泰(考古)</p> <p>発掘調査指導監視員 北野左近(考古)</p> <p>歴史教育専門員 白木明博(事務)</p> <p>窓口業務支援員 眞保弘恵(事務)</p> <p>窓口業務支援員 富阪昌代(事務)</p>	<p>令和4年(2022)度</p> <p>特別館長 小野正敏(考古)</p> <p>館長 清水邦夫(事務)</p> <p>副館長 松村昌治(事務)</p> <p>副館長(調査・研究) 川越光洋(考古・保存科学)</p> <p>主任 鈴木篤英(考古)</p> <p>主任 宮永一美(歴史)</p> <p>主任 宮崎 認(考古)</p> <p>主任 田中祐二(考古)</p> <p>主査 酒井健治(歴史)</p> <p>主査 熊谷 透(建築)</p> <p>主査 藤田若菜(庭園)</p> <p>学芸員 石川美咲(歴史)</p> <p>学芸員 渡邊英明(保存科学)</p> <p>学芸員 藤井佐由里(遺跡保存)</p> <p>学芸員 多田明加(美術工芸)</p> <p>主事 渡辺尚弘(事務)</p> <p>学芸員 藤田理紗(教育・普及)</p> <p>考古専門研究員 月輪 泰(考古)</p> <p>発掘調査指導監視員 北野左近(考古)</p> <p>歴史教育専門員 白木明博(事務)</p> <p>窓口業務支援員 眞保弘恵(事務)</p> <p>窓口業務支援員 富阪昌代(事務)</p>

発掘作業には、地元の方々の参加・協力を得た。遺物整理作業については、博物館会計年度任用職員が行った。

1. 事業概要



第2図 研究協議会開催風景

II. 調査の概要と経過

1. 調査の概要(第2図)

【八地谷川南岸の遺構その1】

第63次調査【城戸ノ内町字木蔵】 城戸ノ内町字木蔵に所在する。朝倉館跡唐門から北西へ約170m隔てた一乗谷川左岸、八地谷川南岸の中・上段水田に立地する。一帯に八地谷川南岸の扇状地が広がる。調査面積は200㎡を対象とし、調査期間は昭和63年(1988)12月2日～同年12月19日である。

調査は、八地谷川南岸に広がる水田中央付近に東西長60.5m×幅3.5mの調査区を設定し、調査区内に東から直線状にA～Fトレンチを設定した。

調査の結果、B～Fトレンチで遺構が検出され、Bトレンチで南北幹線道路SS260、石組排水溝SD4810、井戸SE5047、第112次調査区の礎石建物SB5034に伴う砂利敷が検出された。Eトレンチでは土坑SK5357と第112次調査区の道路SS5060の砂利敷きが東西に渡って散在して検出された。FトレンチではSD5042西端と越前焼大甕の破片を含むSK5355が検出された。谷地谷川南岸の水田下には、遺構が比較的良好な状態で残っていることが本調査で確認され、後に続く調査の契機となった。

第112次調査【城戸ノ内町字雲正寺】 城戸ノ内町字雲正寺に所在する。朝倉館跡唐門から北西へ約115m隔てた一乗谷川左岸、八地谷川南岸の中・上段水田に立地する。北東の一乗谷川にかけて緩やかに傾斜する。一帯は、西から一乗谷川へ直交する八地谷川の扇状地であり、通称「八地千軒」と伝えられ、第63次調査の成果を踏まえて調査に着手した。調査面積は2,000㎡を対象とし、調査期間は平成13年(2001)4月2日～同年12月27日である。

調査の結果、中・上段水田において、計5つの区画が確認され、南北基幹道路SS260から西へ上る東西道路SS5059を基準に整然とした区画が検出された。区画は中段水田の北側で、【区画Ⅰ武家屋敷】、【区画Ⅱ町屋】が検出された。SS5059の側溝でT字状に区画された【区画Ⅲ町屋】から南側では、【区画Ⅳ町屋】、【区画Ⅴ武家屋敷】が検出された。上段水田においては【区画Ⅵ町屋】と【区画Ⅷ武家屋敷】の東端が一部検出された。区画Ⅰの北側、SD5073からは石灯籠が廃棄され、区画Ⅴの武家屋敷では庭SG5056が検出された。

第114次調査【城戸ノ内町字雲正寺】 城戸ノ内町字雲正寺に所在する。第112次調査区の西側に広がる一乗谷川左岸、八地谷川南岸の上・最上段水田に立地する。調査面積は1,700㎡を対象とし、調査期間は平成15年(2003)7月1日～同年12月25日である。第112次調査区(第Ⅰ～Ⅴ区域)に継続し、第114次調査区は第Ⅵ～Ⅸ区域に区分した。

調査の結果、3つの区画が確認され、上段水田では、東西の区画溝SD5042から北側で第Ⅵ区域と第Ⅶ区域を合わせた【区画Ⅵ町屋】、南側で第Ⅷ区域の【区画Ⅶ武家屋敷】が検出され、最上段水田では、第Ⅸ区域の【区画Ⅷ町屋】の一部が検出された。第112次調査区の成果と照合すると、八地谷川南岸においては計8つの区画が検出されたことになる。

【八地谷川南岸の遺構その2】

第137・143次調査【城戸ノ内町字木蔵・斉藤】 城戸ノ内町字木蔵・斉藤に所在する。朝倉館跡から北西へ約140m隔てた一乗谷川左岸、八地谷川南岸の下段水田に立地している。第137次調査では、南北基幹道路の西側にA～Gトレンチを設定し、第143次調査では、第137次調査で検出したSD4798の全容を確認した。第137次調査の調査面積は計300㎡を対象とし、調査期間は平成24年(2012)5月7日～同年6月8日、第143次調査の調査面積は計30㎡を対象とし、調査期間は平成25年(2013)6月6日～同年7月19日である。

【八地谷川北岸の遺構その1】

第113次調査【城戸ノ内町字木蔵・雲正寺】 城戸ノ内町字雲正寺に所在する。一乗谷川左岸、八地谷川北岸の中・上段水田に立地し、調査面積は1,700㎡を対象とした。調査期間は平成14年(2002)4月2日～同年12月25日である。

調査の結果、中段・上段水田において3つの区画が確認され、第I・II区域で【区画I 武家屋敷】、第III区域で【区画II 町屋】、第IV区域で【区画III 武家屋敷】の一部が確認された。3つの区画は、全体的に後世の開墾等で削られており、遺構の残存状況は良くないが、中段水田を占める区画Iは、扇形を呈し、約2,000㎡以上を測る区画であったと想定された。上段水田に立地する第III区域の区画IIでは、広範囲に砂利敷きが認められ、区画IIIまで南北に延びる土塁石垣と南北道路が検出された。第IV区域北側の区画IIIは、第118次調査で広場と考えられる区画となるが、調査時点では南北道路側溝の一部を検出することとどまった。

第118次調査【城戸ノ内町字雲正寺】 城戸ノ内町字雲正寺に所在する。第112・114次調査区から北側の一乗谷川左岸、八地谷川北岸の上・最上段水田に立地し、調査面積は3,000㎡を対象とした。調査期間は平成17年(2005)4月1日～平成18年(2006)3月31日である。

調査区の大部分が上段水田で占められ、西側に最上段水田が控える。調査区中央付近は後世の開墾により大きく削られており、遺構は南北に偏って検出された。第113次調査区(第I～III区域)から継続するものとし、第118次調査区については、第II～V区域に区分した。

調査の結果、武家屋敷、広場、町屋、墓域などの4つの区画が確認され、上段水田において、第IV区域の【区画III 広場】、第V区域の【区画IV 武家屋敷】、第VI区域の【区画II 町屋】が検出され、最上段水田において、第VII区域の【区画V 墓域】の一部が明らかになった。第113次調査区の成果と照合すると、八地谷川北岸においては計5つの区画が検出されたことになる。

区画IIIの広場は、1辺約17.0m×幅0.3mを測る溝で正方形に区画され、敷地面積は約290㎡を測る。西側に隣接する区画IVの武家屋敷に伴う施設である。区画IVは、中規模の礎石建物を中心とした武家屋敷であり、当初は掘立柱建物であったものが北・東辺柱列を重複して大型の礎石柱建物に改築したと考えられる。

上段水田の大部分を占める第VI区域の区画IIは、多くの遺構が失われていたが、南側で掘立柱建物や道路、区画溝、井戸が密集して検出されており、本来は、八地谷川を挟んで南側に立地する第114次第VI・VII区域の区画VIと同様に、掘立柱建物を中心とした町屋が広がっていたと考えられる。

最上段水田に立地する第VII区域の区画Vは、区画の東側が抉られ、火葬墓と考えられる土坑が密集していた。区画の北側にも人為的な改変が認められ、墓域を形成していたが、ある時期に破壊され、北東に位置する区画IVの武家屋敷側に押し出された埋土と共に大量の石塔類と副葬品と見られる遺物が含まれていた。

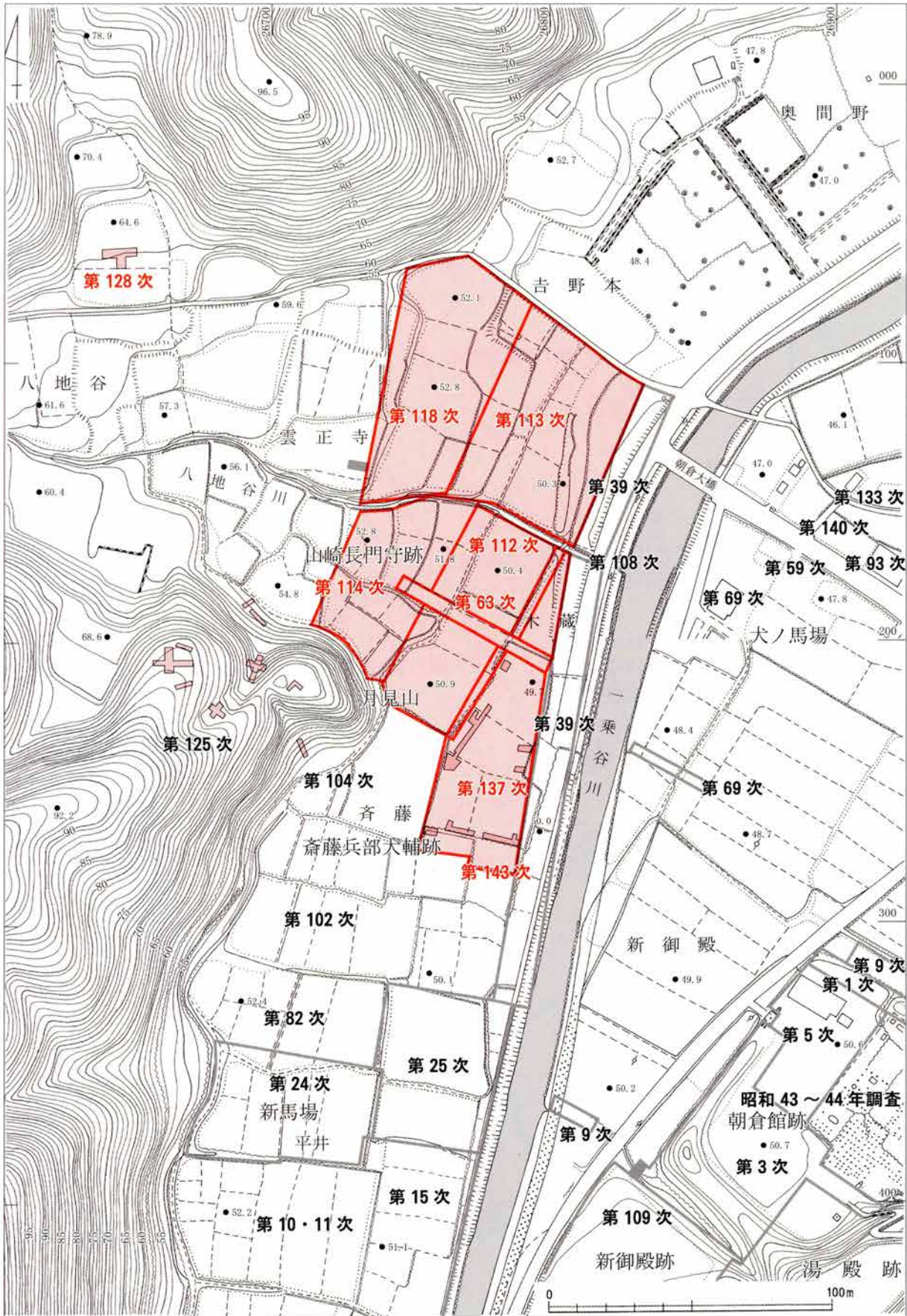
【八地谷川北岸の遺構その2】

第128次調査【城戸ノ内町字八地】 調査区は城戸ノ内町字八地、字八地谷3番地に位置する。八地谷川北岸の山林中腹部の水田に立地し、標高は約65mを測る。地形は小規模な谷であり、南方の八地谷川に下降して開く。高台にあり、南東に一乗谷川を越えて朝倉館を眺望することができる。

調査は、東西に長く、南北に短いT字形の調査区を設定し、調査面積は120㎡を対象とした。調査期間は平成20年(2008)5月15日～同年7月2日である。

遺構面は、上・中・下層の3面が確認され、上・中層面では小穴や溝等が検出されたが、共伴する遺物から近世の遺構と判断した。下層面では掘立柱建物、区画溝が検出され、中世・戦国期に属す遺構と判断した。周辺には石塔が多く散在し、寺院関連の施設が存在した可能性がある。

1. 調査の概要



第3図 八地谷川南岸・北岸の調査区と周辺の調査区位置図(縮尺 1/2,000)



第4図 第63・112・114次調査区、第137・143次調査区、第113・118次調査区、第128次調査区位置図(縮尺1/1,000)

2. 調査日誌

八地谷川南岸の遺構その1

第63次調査

平成5年(1998)12月2日～12月19日

- 12月2日 調査開始。東西方向に長さ51.0m、幅3.0mの調査区を設定。トレンチを6箇所(A～Fトレンチ)設定。
- 12月5日 第62次の埋め戻し作業
- 12月6日 A～Dトレンチ掘削。Aでは遺構確認できず。Bで砂利敷面確認。DでSD5042検出。右列下層から砂利敷面を検出。
- 12月7日 B～Eトレンチ掘削。BではSD5043西側の近代の石垣除去。Eで砂利敷面を確認。
- 12月8日 D～Fトレンチ精査。Dでは耕作土30cm下でも遺構確認できず。Eの砂利敷面は最下層の遺構面と推定。第114次第VI区域においてSK5357となる土坑上層で甕の底部出土。Fで焼土面確認。
- 12月9日 F・Eトレンチ精査。Eで越前焼を含むSK5355検出。
- 12月14日 午前中は雪。精査・写真撮影。
- 12月15日 降雪により作業不可。
- 12月19日 積雪が続き、掘削作業断念。調査終了。



第112次調査(第I～VI区域)

平成13年(2001)4月2日～12月27日

- 8月20日 調査開始。表土剥ぎ。
- 8月27日 グリッド杭設定。
- 8月28日 第V区域A' 26で笏谷石の切石検出。
- 8月30日 第III区域精査。SK5057、SD5039検出。
- 9月13日 第II区域精査。SB5034検出。
- 9月14日 第I区域精査。SF5053・5054、SE5048検出。
- 9月15日 第I区域精査。SX5074検出。U25で銭貨出土。
- 9月18日 第I区域精査。SX5069検出。上層に炭・焼土堆積。X26で銭貨出土。
- 9月19日 第I区域SF5055検出。
- 9月20日 大規模史跡連絡協議会
- 9月26日 第I区域再精査。SE4049、SF5054検出。基石、金属製品出土
- 9月27日 第I区域SI4910検出。
- 9月28日 第I区域SE5049から越前焼壺・播鉢出土。第II区域SF5052から笏谷石の切石出土。
- 10月2日 第I区域SE5048から越前焼甕出土。第II区域SB5034、SE5047検出。
- 10月3日 第II区域SB5034精査。上層で焼土、下層で腐植土確認。第III区域SS5059検出。

第5図 第112次発掘調査風景(1～11)

- 10月4日 第III区域 SK5057、SD5040、第IV区域 SF5051 検出。
- 10月5日 第III区域 SD5039 検出。SX5066 に焼土堆積。第V区域 SX5065 検出。
- 10月11日 第V区域 SG5056 検出。
- 10月24日 第III区域 SD5042、第VI区域 SS5060 精査。
- 10月25日 第VI区域 SK5058 検出。第III区域 SD5040 から環状鉄製品出土。
- 10月31日 第II区域 SB5034、SE5047 検出。
- 11月7日 第II区域 SB5034 下層精査。第III区域 SS5059 は第VI区域 SX5360 にT字に突き当たることを確認。
- 11月8日 第I区域 SD5044・5045 検出。
- 11月9日 第VI区域 SB5035 東辺柱列検出。第I区域 SX5069、SK5074 精査。
- 11月14日 第I区域 W・X23 下層精査。
- 11月20日 第V区域 A' 29 で青磁花生出土。
- 11月22日 第I区域八地谷川から石燈籠、越前焼大甕、天目茶碗、砥石出土。
- 12月4日 第I区域 Z21 にて石燈籠出土。
- 12月18日 空中写真測量。
- 12月19日 遺構全景写真撮影、器材清掃。
- 12月21日 第I区域 SI4910、第V区域 SI4909、第VII区域 SS5060 補足調査。
- 12月27日 器材撤収。調査終了。



第114次調査(第VI～IX区域)
平成15年(2003)7月1日～12月25日

- 4月1日 調査前準備。草刈り。
- 4月8日 第VIII区域表土剥ぎ開始。
- 5月23日 第VIII区域表土剥ぎ完了。
- 5月27日 第VII区域表土剥ぎ開始。
- 6月20日 第VII区域表土剥ぎ完了。
- 6月24日 第VII区域表土剥ぎ開始。
- 7月1日 調査開始。器材搬入。
- 7月3日 第VII区域表土剥ぎ完了。
- 7月8日 第IX区域表土剥ぎ開始。
- 7月17日 第IX区域表土剥ぎ完了。
- 7月22日 第VIII区域から調査着手。SA5183を既存石垣裏込めで確認。
- 8月8日 台風接近。一時器材撤収。
- 8月19日 第VIII区域 SA5183 検出。
- 8月20日 第VIII区域 SD5177 検出。
- 8月22日 第VIII区域 SD5175 検出。
- 9月10日 基本杭設定。
- 9月17日 第VIII区域 SA5196、SD5042・5175～5176、SE5184、SK5356 検出。
- 10月1日 第VI区域精査。
- 10月10日 第VII区域精査。SK5236 から越前焼壺出土。第VI区域 SK5357 精査。焼土堆積。
- 10月21日 第IX区域精査。
- 10月28日 第VII区域北側再掘削。
- 10月29日 第VI区域北側再掘削。

第6図 第114次発掘調査風景(1～12)

11月4日 第IX区域精査。
 11月5日 第VI区域北側再掘削。SE5324・5325
 検出。第VII区域 SD5073 検出。
 11月14日 第VI区域北側再掘削。SE5333・
 5335・5354の再精査。
 11月18日 第VIII区域道路SS5185 検出。
 11月26日 第IX区域道路SV5162 検出。
 12月3日 第VII区域 SX5239、SK5236 検出。
 12月25日 航空写真測量実施。
 12月26日 器材撤収。
平成16年(2003)
 3月10日 本日から13日まで記者発表、現地
 説明会開催にかかる作業。

八地谷川南岸の遺構その2
第137次調査
平成24年(2012)5月7日～6月8日
 5月7日 調査開始。A・Bトレンチ精査
 5月8日 基本測量。
 5月11日 調査区にグリッド杭設定。C～Eト
 レンチ精査
 5月16日 調査区にグリッド杭設定。F・Gト
 レンチ精査
 5月30日 空中写真測量。
 6月1日 本日から5日まで埋め戻し作業。
 6月8日 器材撤収。調査終了。

第143次調査
平成25年(2013)6月6日～7月19日
 6月6日 調査開始。昨年度に一部着手した1
 トレンチを再発掘。
 6月14日 1・2トレンチ精査。
 6月17日 2トレンチ図面作成。
 7月17日 埋め戻し作業。水野和雄氏見学。
 7月19日 器材撤収。調査終了。

八地谷川北岸の遺構その1
第113次調査(第I～IV区域)
平成14年(2002)4月2日～12月25日
 4月2日 調査開始。園路撤去。
 4月4日 18日まで表土剥ぎ。
 4月10日 第II区域 SA5093 検出
 4月11日 第III区域表土剥ぎ。
 4月18日 八地谷川の護岸石垣検出。
 4月23日 第II区域 SA5093 検出。
 4月24日 第II区域 SA5093、SE5099 検出。
 4月26日 第112次調査出土の石燈籠搬送。
 5月9日 第III区域表土剥ぎ。第I区域
 SA5094 付近は排水困難。
 5月10日 第III区域表土剥ぎ。
 5月14日 第III区域 SA5136 検出。
 5月16日 第IV区域表土剥ぎ。
 5月21日 第I区域 SD5127、SA5092 検出。
 5月22日 SA5092、SD5127 検出。園路撤去。
 5月23日 SA5092 精査。



第7図 第143次発掘調査風景(1～6)、第113次発掘調査風景(7～10)

- 5月29日 第I～IV区域表土剥ぎ終了。
 5月30日 基本杭設定。
 5月31日 第II区域 SA5093、SS5090 検出。
 6月5日 第III区域 SA5136・5138 検出。C32でSI5137 検出。第112次調査区第I区域の八地谷川内を再調査。木製品出土。
 6月6日 第III区域 SA5136 の東側で焼土検出。焼土下に砂利敷面確認。
 6月7日 第III区域 SA5136 の全容を確認。
 6月12日 第III区域で広範囲に砂利敷を検出。
 6月18日 第III区域 SS2952 で遺構面2面確認。
 7月3日 SA3136 に続く SA3130 検出。
 7月5日 SA5130 内で門 SI5130、SZ5131 検出。
 7月9日 25日まで環境整備地の草刈り・保護砂入れ作業。
 7月30日 第III区域 SI5135、SA5130、SZ5131 検出。
 8月6日 土塁 SA5130 全体検出。
 8月7日 第IV区域 SD5128 検出。SS2952 は北へ傾斜することを確認。
 8月8日 博物館学芸員実習生4名調査に参加。第II区域 SF5110・5097 の担当に配置。
 8月13日 第II区域八地谷川北岸の石垣検出。
 8月23日 第III区域南北道路 SS2952、SD5128 精査。
 9月7日 第I区域土塁石垣 SA5094 検出。
 9月20日 第II区域 C-F23 の埋土除去。立体復原地区から続く南北道路 SS260 は確認できず。
 9月26日 第II区域埋壘土坑群 SK5100 検出。壘は一つの土坑でのみ検出。
 10月3日 下層遺構 SX5112・5113 検出。一連の石列と考える。
 10月10日 第I区域 Q31 にて SA5094 がクランク状に屈曲。SB5123 の構築に関連すると推定。
 10月16日 第I区域北東隅で SD5096・5124・5125、SB5120 検出。
 10月30日 第III区域北側精査。
 10月31日 第III区域で顕著な遺構確認できず。
 11月15日 第III区域南側で SE5139 検出。
 11月19日 南北道路 SS2952 は SI5135 を頂点として南北に傾斜することを確認。SB5118、SI5137 精査。
 11月22日 第III区域 SE5139 精査。遺物多し。
 11月26日 SE5139 湧水著しく調査中止。原位置をとどめていない石を除去。
 11月28日 第I区域精査。SD5127・5128 検出。湧水多し。調査難航。
 12月3日 第I区域 V23 を精査するが SA5095 東端は削平され確認できず。
 12月6日 空中写真測量。以後、補足調査。
 12月10日 13日まで積雪。器材撤収準備。
 12月25日 器材洗浄。調査終了。



第8図 第113次発掘調査風景(1~12)

第118次調査(第Ⅳ～Ⅵ区域)
 平成17年(2005)4月1日～
 平成18年(2006)3月31日

- 4月1日 調査準備。7月まで表土剥ぎ。
 7月14日 調査開始。第Ⅶ区域の排水作業。
 7月15日 第Ⅳ区域SD5996 検出。
 7月19日 第Ⅳ区域精査。SD5996、SE5998 検出。S36で水滴出土。SD5996北側で道路と推定される石列検出。
 7月21日 第Ⅵ区域SE5998 検出。崩落の怖れあり。深度1mで調査中止。
 7月22日 第Ⅵ区域SB5997 検出。S37～39において炭化物を含む黒褐色土の包含層から遺物が集中して出土。
 8月2日 第Ⅵ区域SK6020 検出。周辺に焼土が広がる。
 8月3日 第Ⅵ区域T38・39付近の黒褐色土の包含層から遺物が集中して出土。
 8月9日 第Ⅴ区域SB5971・5972内で漆器、越前焼甕、小柄出土。
 8月11日 第Ⅴ区域西端でSB6019 検出。堂跡と考える。第Ⅳ区域精査。
 8月25日 第Ⅴ区域北西側で広範囲の炭層の堆積確認。SB5970～5973・6014を検出。
 8月26日 第Ⅴ区域北辺に沿って排水溝を掘削。
 8月30日 第Ⅴ区域U45で切羽出土。Y45で飾金具出土。SB5973 精査完了。土蔵と考える。
 9月1日 第Ⅴ区域SK6025から骨片出土。SK6042から飾金具出土。
 9月6日 台風接近。第Ⅴ区域SK6021から開扇文を施した漆器椀出土。
 9月8日 第Ⅴ区域SX5983、SS5988 検出。Z41で炭層が厚く堆積。SX5983周辺を精査。
 9月9日 第Ⅴ区域全体精査。
 9月13日 第Ⅴ区域W45で漆器底部出土。SE5989、SD6022 検出。A'39付近の包含層は遺物多し。礫石が堆積。深掘りをする。
 9月15日 SD5993を埋めて第Ⅴ区域へ上がる道路SS6002を検出。第Ⅴ区域SD5999、第Ⅳ区域SD5996、SF6000 検出。SS6002は2面の遺構面を確認。
 9月20日 第Ⅴ区域SD5991・SS6001 検出。第Ⅳ区域SD5993・SX5995 検出。調査区の北東の区画がようやく判明。
 9月21日 第Ⅴ区域SE5989、SD5991・5993 検出。SD5991北端とSD5992n西端は接続せず。SS5994へとつながることを確認。SI6024は木柱を備える門と推定。国立歴史民俗学博物館小野正敏氏から現地指導を仰ぐ。



第9図 第118次発掘調査風景(1～12)

- 10月11日 第V区域 SF5964 検出。ホゾ穴をもつ板材が出土。石積遺構の形態をとるが、溜枘と考える。最上段の第VII区域 SK5943～5949 検出。焼土・炭化物を含む覆土に骨片が含まれ、いずれも火葬墓と考える。
- 10月12日 第V区域 SF5964 精査。西側に井桁状の木枠が併設されていることを確認。SI6024 精査。整地層の下に硬化面を確認したが、いずれの面から掘り込んでいるのか確認できず。
- 10月13日 第V区域精査。第VI区域 M・L38・39 で深掘りをかけ下層確認。礫層まで掘削したが、遺構面なし。整地土中から遺物が若干出土。第VI区域南端の遺構全体図作成開始。
- 10月20日 第V区域 SD5966 検出。SD5966 東端以降で砂利敷面を検出。第VI区域 J・K39・40、A40 で下層確認精査。調査区南側の遺構全体図作成。
- 10月21日 第VI区域南側精査。SS5860、SX5857～5859、SD5864 検出。
- 10月25日 第VI区域 G・H42・43 下層精査。遺構なし。SS5860 精査。
- 11月9日 下層で SD5853 検出。M38・39 で下層精査。遺構なし。第VI区域 SS5909 検出。砂利敷面確認。図面作成。
- 11月11日 第VI区域 SE5851、SD5853 精査。
- 11月16日 第V区域 SS5988、第VII区域 SK5948 精査。

平成 18 年(2006)

- 3月31日 調査終了。
- 4月25日 補足調査実施。写真撮影。第V区域 SK6023 から漆器碗出土。
- 4月28日 第V区域 SE5962 から漆器碗・板材出土。下層から人骨出土。

八地谷川北岸の遺構その2

第128次調査

平成20年(2008)5月15日～7月2日

- 5月15日 調査開始。表土剥ぎ作業。
- 5月21日 遺構検出作業。
- 5月22日 図面作成。写真撮影。
- 5月28日 上面遺構検出。
- 6月3日 鉄砲玉、越前焼甕片出土。
- 6月10日 上層面は近世以降の水田と推定。
- 6月12日 一部に深掘りを入れて断面を確認。青磁片出土。
- 6月24日 中層面検出。近世の水田と判断。引き続き下層を検出作業続行。
- 6月25日 下層面検出。釘多数出土。溝 SD6312 から青磁出土。
- 6月26日 SD6314 から土製鋳型らしき遺物、鉾滓出土。
- 7月2日 写真撮影。埋め戻し作業。器材撤収。調査終了。



第10図 第118次発掘調査風景(1～8)、第128次発掘調査風景(9～12)

Ⅲ. 第 63・112・114 次調査(八地谷川南岸の遺構その 1)【城戸ノ内町字木蔵・雲正寺】

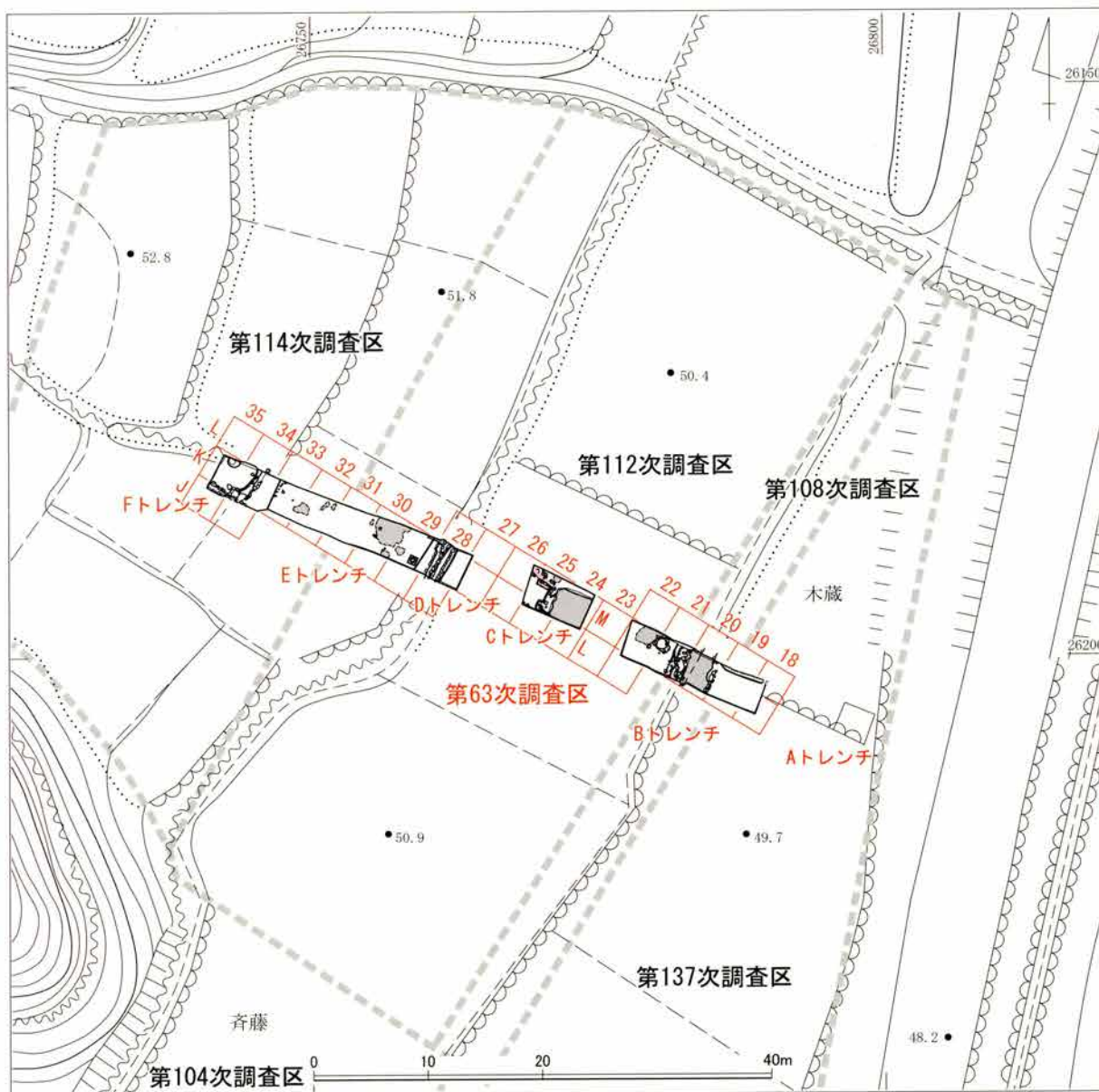
1. 第 63・112・114 次調査(八地谷川南岸の遺構その 1)の概要(PL.1 第 11 図)

第 63・112・114 次調査区は、城戸ノ内町字木蔵・雲正寺に所在し、朝倉館跡唐門から北西へ約 170m 隔てた一乗谷川左岸に位置し、西方から一乗谷川に合流する八地谷川扇状地の南岸の水田に立地する。水田は階段状に形成され、八地谷川に沿って、西から東へ向かって約 1.0m の段差を有して下降し、大きく上・中・下段に分かれる。標高は上段水田面で 51.8m、中段水田面で 50.4m、下段水田面で 49.7m を測る。地形的には、南西の月見山の山裾から北東の一乗谷川にかけて緩やかに傾斜する(第 11 図)。

2. 遺 構

第 63 次調査(PL.1~5 第 11 図)

第 63 次調査は、木蔵地区より北側の赤淵・奥間野地区で検出された寺院・武家屋敷群と、南側の平井地区で検出された南北幹線道路 SS260 の接続状況を解明し、併せて八地谷川南岸の遺構の範囲・密度を把握する



第 11 図 第 63 次調査位置図(縮尺 1/600)

ことを目的とした。調査面積は計約 200㎡を対象とし、調査期間は昭和 63 年(1988)12 月 2 日～同年 12 月 19 日である。調査の方法は、八地谷川南岸の水田中央に東西長 60.5m×幅 3.5m の調査区を設定し、調査区内に 1 辺 3.5m の方形トレンチを 10m 間隔で 6ヶ所設定した。第 112・114 次調査区のグリッドを援用すると、第 63 次調査区は L-N17～35 の範囲に相当する。トレンチには東から A～F の番号を付したが、遺構が検出段階で拡張し、最終的に D・F トレンチは、E トレンチと接続した形状になった。以下、各トレンチについて述べる。

A トレンチ(PL.1 第 12 図) 下段水田に設定し、調査区東端、N16 に位置する。県道沿いの遺構の状況を把握するために設定し、東西長 3.0m×幅 3.5m を測る。調査の結果、遺構面は一乗谷川の河川の氾濫等により大きく削られ、遺構面は確認できなかった。

B トレンチ(PL.1・2 第 12 図) 下・中段水田にまたがり、調査区東側、M19～22 に位置する。南北幹線道路 SS260 を把握するために設定し、東西長 13.0m×幅 3.5m を測る。

調査の結果、東側の下段水田において、B トレンチ中央付近から南北幹線道路 SS260 と石組排水溝 SD4810 が検出された。SS260 は幅約 2.0m 以上を測り、上面に厚く砂利敷が残り、長期にわたる使用が想定された。SD4810 は、下段と中段の境界となる水田石垣除去後に検出され、M21 付近で通路を設ける際に破壊されたと考える。SS260 と SD4810 の間には、第 108 次調査によって、幅 1.5m を測る土塁石垣 SA4926(旧 SX4926)が確認され、後に、SD4810 は土塁石垣 SA4926 の内側を流れる石組排水溝であることが判明した。西側の中段水田では、井戸 SE5047 と第 112 次調査区の礎石建物 SB5034 に伴う砂利敷が検出された。SE5047 は、径 1.0m×深さ 0.5m を測り、30 cm 大の石を 3 段積んで構築していた。深度が浅いことから井戸ではなく溜枧と考える。

C トレンチ(PL.3 第 12 図) 中段水田に設定し、調査区中央、M24・25 位置する。八地谷川南岸の遺構の範囲・密度を把握するために設定し、東西長 6.0m×幅 3.3m を測る。

調査の結果、東側で SB5034 に伴う砂利敷と、中央から西側で石組排水溝 SD5043 が検出された。SD5043 は、第 112 次調査において東西道路 SS5059 の北側側溝として検出され、幅 0.3m×深さ 0.2m を測る。L・M25 付近で北へクランク状に屈曲するが、C トレンチでは溝の両岸は破壊されていた。

D トレンチ(PL.3・4 第 12 図) 調査区西側、中段水田西端と上段水田東端の境となる水田石垣が構築された L28 に位置する。中段と上段水田の遺構の関係性を把握するために設定し、トレンチは東西長 4.3m×幅 3.3m を測る。L28 から以西は E・F トレンチが接続する。

調査の結果、東側の中段水田において、水田石垣東側に沿う石組排水溝 SD5042 が検出された。SD5042 は、第 112 次調査において、SS5059 の南側側溝が K28 で屈曲して、北に向きを変えた溝であることが判明したが、SS5059 が K28・29 付近で坂道として改修した際に、埋められ、その機能を失ったと推定される。

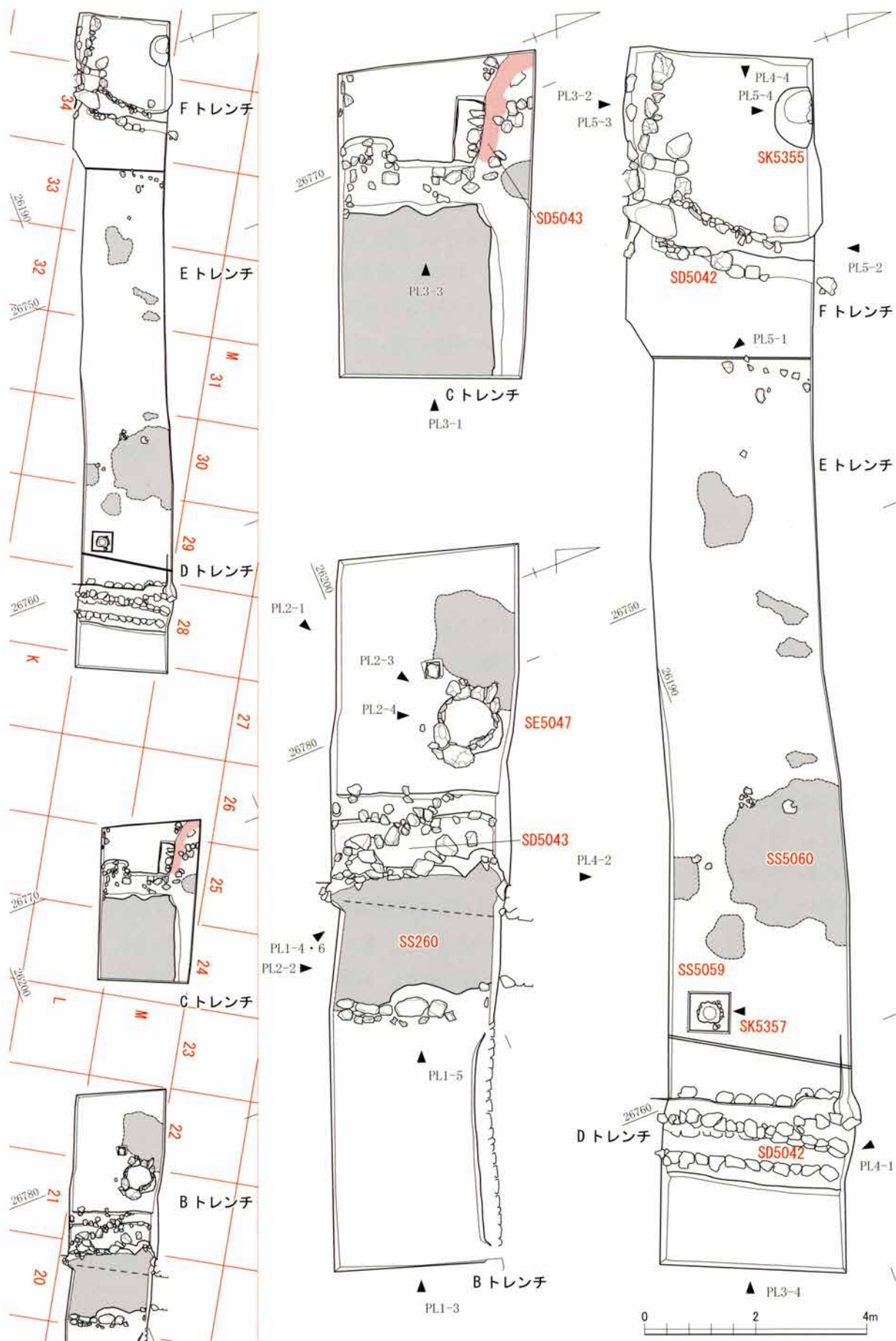
E トレンチ(PL.4 第 12 図) 上段水田に設定し、調査区西側、K・L29～33 に位置する。上段の遺構の範囲・密度を把握するために設定し、東西長 13.2×幅 3.5m を測る。K33 以西に F トレンチが接続する。

調査の結果、土坑 SK5357 と第 112 次調査区の道路 SS5060 の砂利敷きが東西に渡って散在して検出された。調査当初は、包含層出土の越前焼大甕の底部としていたが、第 112 次調査によって、直下に径 1.0m を測る土坑を伴うことが明らかになった。

F トレンチ(PL.5 第 12 図) 上段水田に設定し、調査区西端、K33～35 に位置する。上段の遺構の範囲・密度を把握するために設定した。トレンチは東西長 5.7×幅 3.2m を測り、長方形を呈す。

調査の結果、SD5042 西端と SK5355 が検出された。SD5042 は、第 114 次調査において、土塁石垣 SA5196 東端を暗渠として横断した後、SS5059 の南側側溝として西へ進むが、E・F トレンチでは確認できなかった。土坑 SK5355 は径 1.1m×深さ 0.3m を測り、底面から越前焼大甕の破片が重なって出土した。

2. 遺構



第12図 第63次調査B~Fトレンチ(縮尺 1/200、1/100)

第 112 次調査(PL.6～20 第 3・4・13～23 図 第 1 表)

第 112 次調査区は、城戸ノ内町字雲正寺に所在し、朝倉館跡から南西へ約 115m 隔てた一乗谷川左岸の階段状の水田の中・上段水田に立地する(第 3 図)。標高は南側で 50.9m、北側で 50.4m を測り、南西の月見山の山裾から北東の一乗谷川にかけて緩やかに傾斜する地形に立地している。

調査区は、南北基幹道路 SS260 が検出された第 108 次調査区の西側沿いに接続し、南北長約 75.5m×東西長約 26.5m の規模を測る。調査面積は 2,000㎡を対象とし、調査期間は平成 13 年(2001)4 月 2 日～同年 12 月 27 日である。航空測量は同年 12 月 18 日に実施し、その後、補足調査をしつつ埋め戻し作業を行った。

調査の方法は、地形に沿って、調査区内に任意の 1 辺 3m の方形グリッドをかけ、東西方向に 20～30、南北方向に A～Z の番号を付して、遺構の記録と遺物の採集に用いた(第 13 図)。

遺構は、中・上段水田に広く展開するため、検出面の高さを基準にして、まとまりを把握する必要があり、本報告の記述にあたっては、東側に接続する第 108 次・第 114 次調査区の遺構も含めて、八地谷川北岸の遺構全体を第 I～IX 区域に区分した。第 I～V 区域と第 VI・VIII 区域の一部が第 112 次調査、第 VI～IX 区域は第 114 次調査区に含まれる。

第 112 次調査区の中段水田の遺構は、北から南に第 I～V 区域、上段水田の遺構は第 VI・VIII 区域に区分した。グリッド上では、第 I 区域は中段水田北側の P-Z20～30、第 II 区域は中段水田中央の L-P20～28、第 III 区域は中段水田中央の東西道路 SS5059 の側溝 SD5043・5039・5040 で区画された H-N20～28、第 IV 区域は中段水田南側の東西道路 SD5040 から SD5039 で区画された H-K21～25、第 V 区域は中段水田南側土塁石垣 SA4783 と東側土塁石垣で区画された A'-G21～30、第 VI 区域は上段水田の北側の K-Y28～30、第 VIII 区域は上段水田の南側の B-J27～30 に含まれる。

調査の結果、3 つの武家屋敷区画と 4 つの町屋区画が確認され、中段水田の第 I～VI 区域で区画 I～V 区画を検出し、上段水田の第 VI・VIII 区域で区画 VI・VII の一部を検出した。

第 I 区域の区画 I (旧武家屋敷 II) は、武家屋敷を構成する遺構で占められ、敷地面積は約 812㎡を測り、土塁石垣 1、門 1、暗渠 1、炉 2、石積施設 3、掘立柱建物 1、溝 3、土坑 1、井戸 2 等が検出された。第 II 区域の区画 II (旧町屋 II) は、町屋を構成する遺構で占められ、敷地面積は約 91㎡を測り、礎石建物 1、石積施設 1、井戸 1、石列 1 が検出された。第 III 区域の区画 III (旧町屋 III) は東西道路 SS5059 で T 字状に区画され、道路 1、溝 3、井戸 1、埋甕遺構 1、礎石建物 1 が検出された。第 IV 区域の区画 IV (旧町屋 I) は、町屋を構成する遺構で占められ、敷地面積は約 96㎡を測り、礎石建物 1、石積施設 1、炉 1 が検出された。第 V 区域の区画 V (旧武家屋敷 I) は、武家屋敷を構成する遺構で占められ、敷地面積は約 600㎡を測り、門 1、石積施設 1、溝 1、礎石建物 1、掘立柱建物 1、庭 1、石敷遺構 1、炉 1 等が検出された。第 VI 区域区画 VI は、上段水田の東側に相当し、道路 1、石列 1、土坑 1 等が検出された。第 VIII 区域区画 VII では、区画溝 2 が検出された。以下、主要な遺構について述べる(第 1 表)。

第 I 区域 区画 I 武家屋敷(PL.6～11 第 13～17 図 第 1 表)

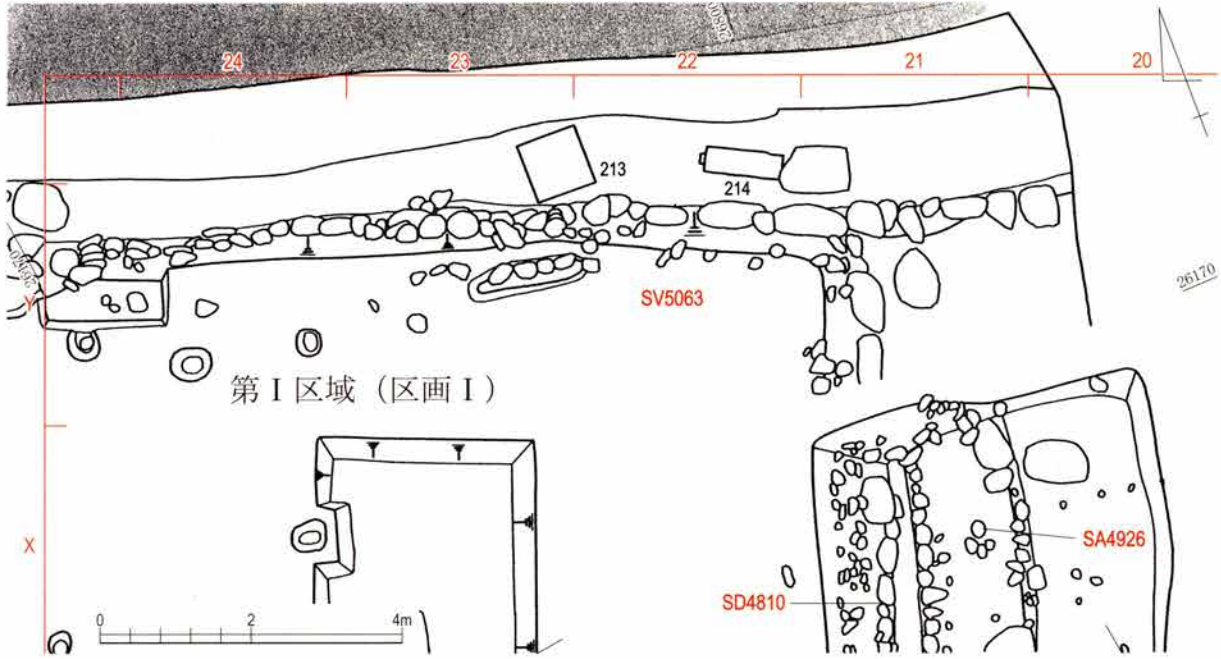
土塁石垣

SV5063(PL.9 第 14 図) Y20～32 に位置。区画 I の北側土塁石垣である。南北基幹道路 SS260 を横切り、直交する東側石垣 SV4904 よりも深い位置で基底石が確認され、東端で高さは約 1.3m を測る。八地谷川の護岸と考える。護岸外の Z21～23 において笏谷石製の石燈籠 213・214 が出土した。

SD4810(PL.9 第 14 図) Y20～32 に位置。旧 SV4904 である。区画 I の東側土塁石垣内側を流れる溝である。八地谷川護岸の SV5063 に通路を構築した際、北端は切られた様相を示すが、判然としない。



第13图 第112・114次調査区遺構全体図(縮尺 1/300)



第14図 第I区域区画I SV5063、SD4810(縮尺1/100)

門、暗渠

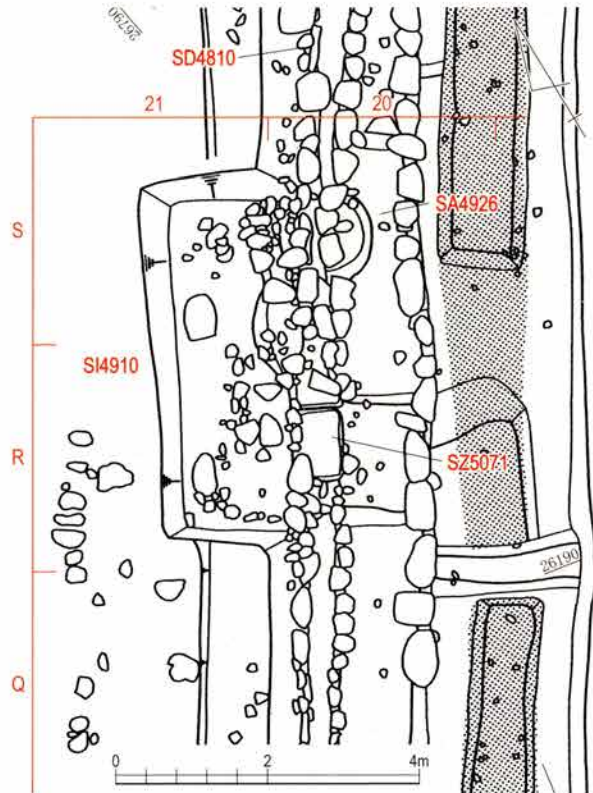
SI4910、SZ5071(PL.9 第15図) R・S21に位置。区画Iの東側土塁石垣内に構築された門である。南北道路SS260に向かって開口する。主軸はN30°Eに向き、門の内寸幅2.3m×奥行1.8mを測る。

溝SD4810の上に50~90cm大の笏谷石の板石を直線状に架構して、暗渠SZ5071を構築し、これを1段目の踏面としていた。2段目は、20~30cm大の石を5石、平坦面を上にして直線状に据えていた。2段目の石列から内側へ0.7m隔てた位置には、門柱の礎石となる50cm大の板石が2石据えられていた。門柱間は約2.0mを測る。

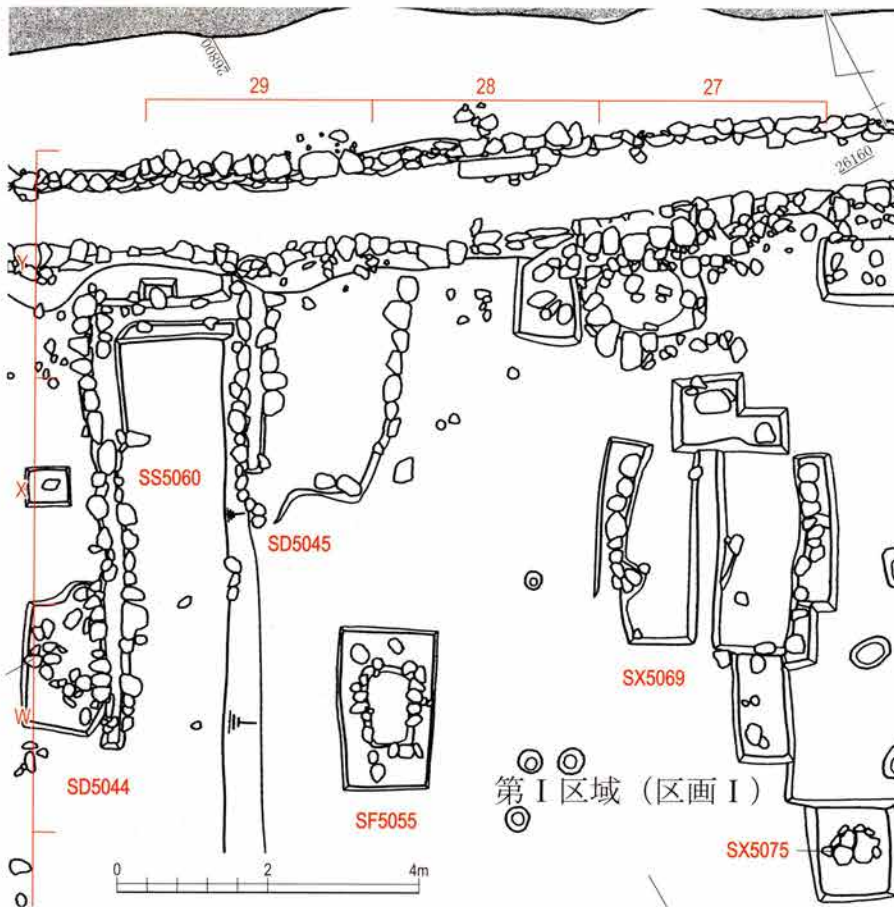
溝、石敷遺構、石積施設

SD5044(PL.10 第16図) W-Y30に位置。L字状の石組排水溝である。区画Iの西側の区画溝と考える。主軸は、南辺でN25°Eに向き、長さ6.0m×幅0.3m×深さ0.3mを測る。北端はSV5063の寸前で東へ屈曲して、並行するSD5045に直交する。両岸に20~40cm大の石を1段積み、底石はない。南端西側に20cm大の石が円形に配された遺構が接続する。調査記録の所見はないが、SD5044に伴う溜枘の可能性はある。

SD5045(PL.10 第16図) X・Y29に位置。石組排水溝である。主軸はN30°Eに向き、長さ2.7m×幅0.2mを測る。直線状の北端は八地谷川の護岸SV5063に接続する。両岸に20~40cm大の石を1段積み、底石はない。東側に1.5m隔てて石列が並行し、上段の区画VIの東端内を通る南北道路SS5060の北端の可能性が高い。



第15図 第I区域区画I SI4910、SZ5071(縮尺1/100)



第16図 第I区域区画I SD5044・5055、SX5069・5075、SF5055(縮尺1/100)

SF5055(PL.10・11 第16図) W28・29に位置。石積施設である。基底石のみが残存していた。平面形は長方形を呈す。主軸はN30° Eに向き、内寸南北長軸0.9m×内寸短軸0.5m×深さ0.2mを測る。破壊を受けており、20cm大の石材が散乱していた。石積は1段のみ残存していた。

建物、土坑

SB5036、SK5074(PL.11 第17図) R-U24~26に位置。武家屋敷の中心をなす長方形の掘立柱建物である。下層遺構と考える。桁行3間、梁間2間が検出された。主軸はN27° Eに向き、桁行9.0m、桁間寸法2.7~3.0m、梁間6.0m、梁間寸法2.7~3.4mを測る。床面積は約54㎡を測る。柱穴は径0.7m、深さ0.4mを測る。西辺と南辺の柱列は明確ではない。上層で礎石建物が一部検出されたが規模は不明である。SK5074はSB5036に伴う方形土坑であり、一辺1.1m×深さ0.8mを測る。上層に焼土が25cm、黄褐色土が10cm、中層に再び焼土が45cm堆積し、底面に炭が検出された。遺物は土師器皿114、白磁皿115・116が出土した。

石積施設・井戸

SF5053・5054(PL.11 第17図) R27・28に位置。2つの石積施設である。SB5036の南西隅から西方へ向かって並んで構築されていた。共に上部は破壊され、基底石のみが残存し、平面形は長方形を呈す。構造も同一であり、主軸はN27° Eに向き、内寸南北長軸1.3m×内寸短軸0.9m×深さ0.1mを測る。

SE5048(PL.11 第17図) Q27に位置。石組の井戸である。上部は破壊され、20~40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.0m×内寸短軸0.9mを測る。底面は不明である。越前焼甕118、灰釉椀119が出土した。

SE5049(PL.11 第17図) U28に位置。石組の井戸である。上部は破壊され、20~40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.1m×内寸短軸0.9mを測る。越前焼壺122が出土した。

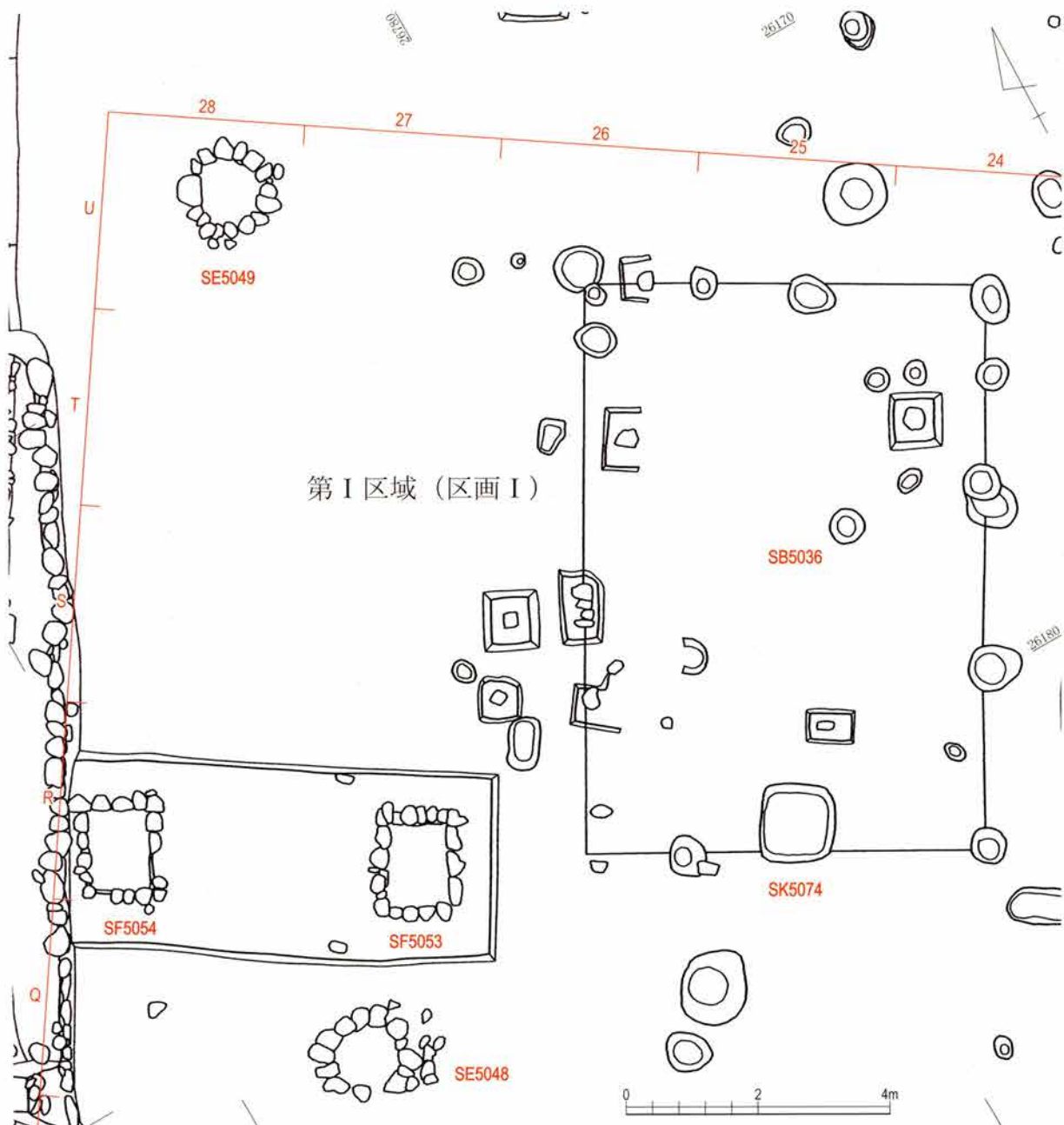
SX5069(PL.10・11 第16図)

W・X27に位置。短楕円形を呈する石組である。上部構造は破壊され、20~40cm大の石積が1段残存していた。主軸はN38° Eに向き、内寸南北長軸3.1m×内寸東西短軸2.3m×深さ0.3mを測る。覆土には焼土や炭化物が堆積し、炉またはカマドと推定される。

SX5075(PL.10・11 第16図)

V36に位置。石敷遺構である。径0.7mを測り、15~30cm大の石が平坦面上にして方形に15石敷かれていた。

SX5069に伴う石敷炉の可能性もある。



第17図 第I区域区画I SB5036、SK5074、SF5053・5054、SE5048・5049(縮尺1/100)

第II区域 区画II 町屋(PL.12・13 第18図 第1表)

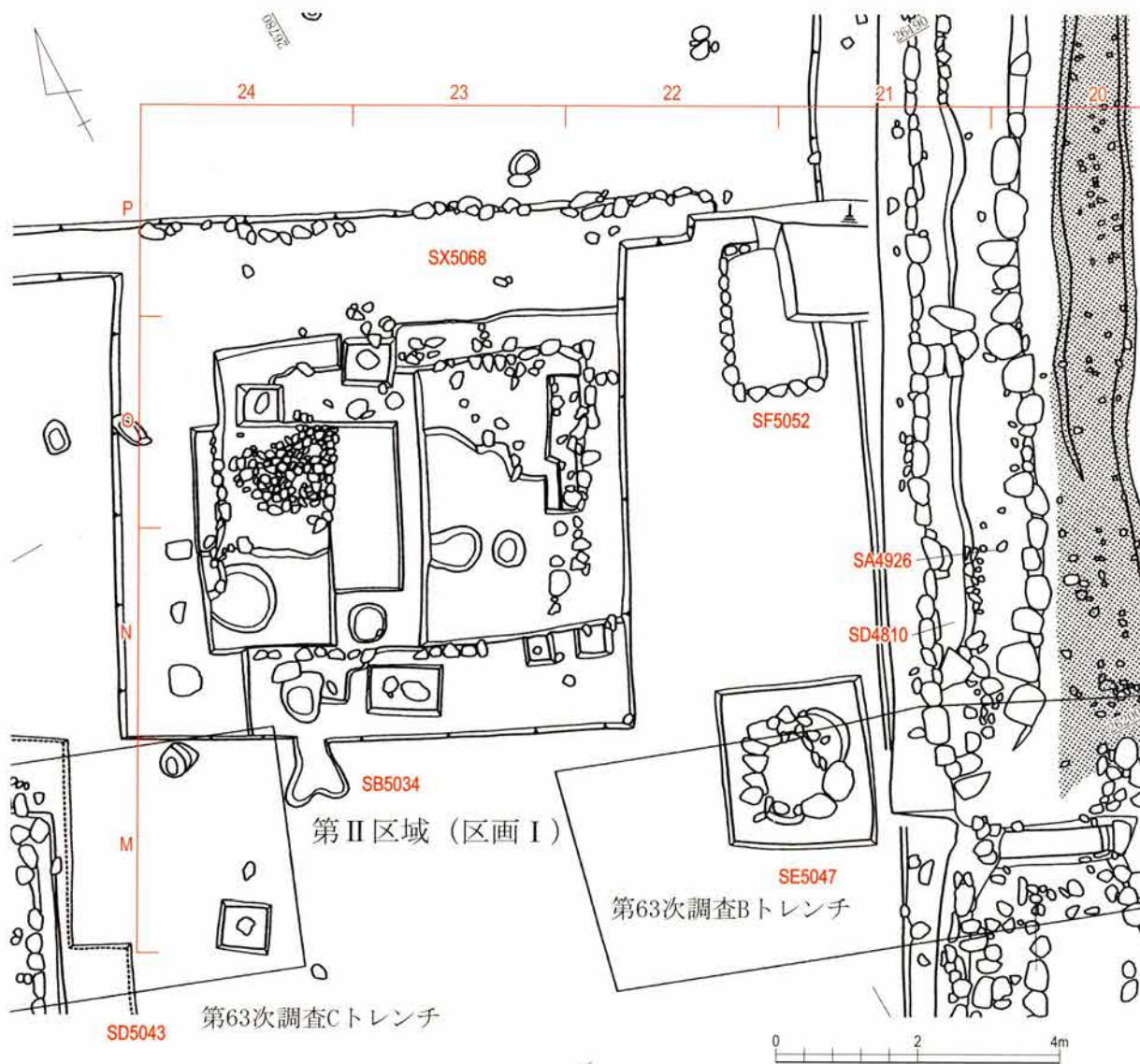
建物、石積施設、井戸、石列

SB5034(PL.12・13 第18図) N・023・24に位置。方形の礎石建物である。焼土で覆われ、上層の礎石建物は不明。下層の建物は土蔵と考える。主軸は $N73^{\circ}W$ に向き、桁行5.1m、梁間4.0mを測る。床面積は約 $20m^2$ を測る。下層で小穴と砂利敷が検出され、幅1.5mの入口が付く。土師器皿125~129、青磁皿130が出土した。

SF5052(第18図) 0・P21・22に位置。石積施設である。基底石のみが残存していた。平面形は長方形を呈す。主軸は $N10^{\circ}W$ に向き、内寸南北長軸1.9m×内寸短軸1.1m×深さ0.1mを測る。越前焼壺131が出土した。

SE5047(PL.12・13 第18図) M21に位置。石組の井戸である。内寸長軸約0.9m×内寸短軸0.8mを測る。

SX5068(PL.12 第18図) P22~24に位置。区画IとIIの境となる石列である。SB5034の北辺と並行し、北へ1.7m隔てて構築されていた。東西長8.7mを測る。土師器皿133、青磁皿134が出土した。



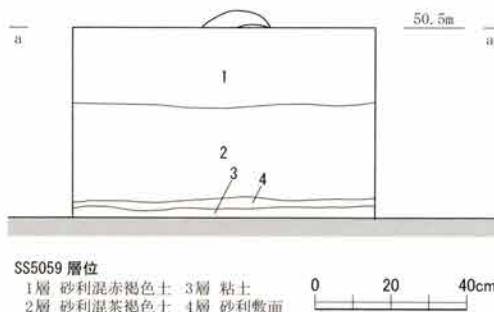
第18図 第II区域区画II SB5034、SF5052、SE5047、SX5068(縮尺 1/100)

第III区域 区画III 町屋(PL.13・14 第19・20図 第1表)

道路、区画溝

SS5059(PL.13・14 第19・20図) K21～29に位置。東側の南北基幹道路 SS260 から西に向かって直線状に登る砂利敷の東西道路である。主軸はN70° Wに向き、全長 24.0m×幅 1.8mの規模を測る。

第VI区域区画VIの南東隅、K29・30付近で、石列 SX5360 によって前方を遮られ、それ以上西には進めず、南北に延びる道路 SS5060 と直交する。平均傾斜角は4～5°である。道路両側には側溝 SD5040・5043 が構築されていた。道路面は砂利が固く突き固められ、粘土と砂利を相互に積み、2回以上補修されたと考えられる(第19図)。越前焼鉢類 135～138、白磁皿 139・140、中国製陶器壺 142、青磁琮形瓶 141 が出土した。SD5040 は、第VIII区域区画VIIの北辺区画溝 SD5042 に接続していた形跡があるが、区画IIIの拡張の際に撤去された後、埋められたと考える。

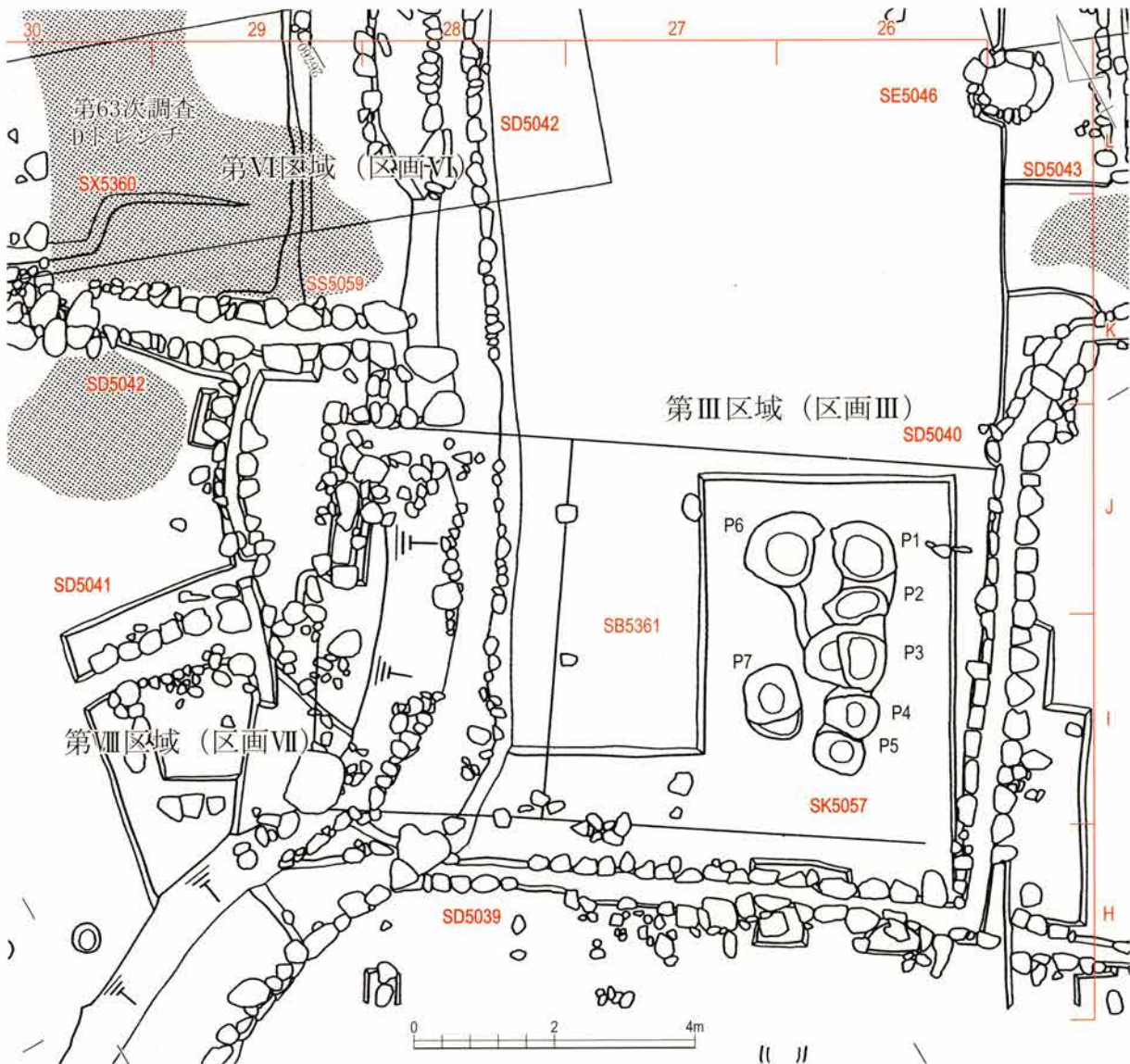


第19図 第III区域区画III SS5059 断面(縮尺 1/50)

SD5043(PL.14 第20図) L21~25、M25・26、N26 26に位置。SS5059の北岸側溝である。L21~25までSS5059に沿って西に延びた後、L25付近で北に屈曲した後、クランク状に延びる。長さ21.5m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。石積は、側溝内側に30~50cm大の石を1段、外側に3段積み、底石はない。L24付近は埋められ、SB5034の入口が構築されていた。

SD5039(PL.13 第20図) H22-25に位置。町屋Ⅲと南の武家屋敷Ⅰを区画する石組排水溝である。主軸は、N60°Wに向き、長さ28.0m×幅0.4m×深さ0.2mを測る。30~50cm大の石を東西に直線状に据え、溝の両側の石積は1段である。底石はない。東側は土壘石垣SA4901の下を潜り、暗渠SZ5070となってSS260を横断した後、土壘石垣SA4782下のSZ4911へ接続する。土師器皿143~151、鉄釉瓶152、青磁稜花皿153が出土した。

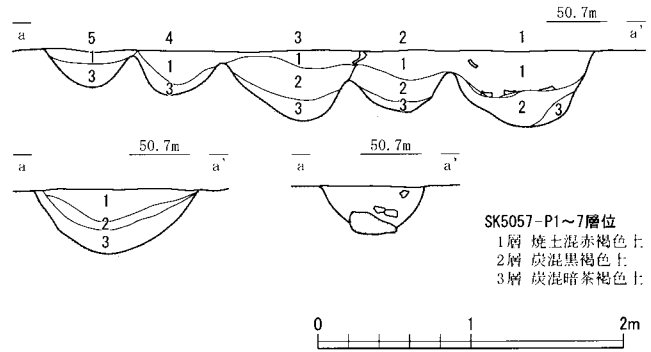
SD5040(PL.13 第20図) K21-25、H-K25に位置。SS5059の南側の石組排水溝である。長さ21.0m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。全体的にL字状を呈し、30~50cm大の石を東西に直線状に据え、K25で西から南へ屈曲し、H25でSD5039と直交する。SS5059に沿った外側の石積は3段、内側の石積は1段である。SD5039と接続した後は、SB5033の南側を通る部分のSD5039は機能しなくなったと考える。土師器皿154の他、J25付近の溝内から環状鉄製品197が出土した。



第20図 第三区域区画III SS5059、SD5043・5039・5040、SK5057、SE5046、第六区域区画VI SS5060、SX5360、第七区域区画VII SD5042・5041(縮尺1/100)

埋甕遺構、井戸

SK5057(PL.15 第20・21図) I・J26に位置。埋甕遺構である。越前前焼の大甕2個体、中甕5個体を南北方向に2列並べていた。主軸はN30°Eに向く。東列は、北から土坑P1~5、西列は土坑P6・7とした。土坑は円形を呈し、径0.7~0.9m、深さ0.5~0.7mを測る。底部を据えた状態の越前前焼は確認できなかった。越前焼壺155・中甕156・大甕157・158が図化できた。



第21図 第III区域区画III SK5057断面(縮尺1/50)

SB5361(第20図) I・J26・28に位置。SK5057を含む礎石建物である。主軸はN55°Wに向き、桁行3間、梁間2間。桁行9.3m、桁間寸法3.2~3.4m、梁間5.7m、梁間寸法3.7mを測る。床面積は約53m²を測る。

SE5046(PL.14 第20図) L25・26に位置。石組の井戸である。内寸長軸約0.8m、内寸短軸0.6mを測る。第III区域に含めたが、SS5059が区画をなしていた時期は、第II区域の町屋IIに属す遺構とも考えられる。

第IV区域 区画IV 町屋(PL.13 第22図)

建物、石積施設、炉、溝

SB5033(PL.13 第22図) I-K22~24に位置。長方形の礎石建物である。桁行3間、梁間不明。SF5051、SX5066を伴い、工房と推定される。主軸はN45°Wに向き、桁行7.5m、桁間寸法2.0~3.4m、梁間6.2mを測る。床面積は約47m²を測る。建物北辺はSS5059南側側溝のSD5040南岸と重複し、30~70cm大の礎石が4石検出された。北辺西端には60cm大の石を2石配置して踏面にし、SD5040を埋めて構築した入口が検出された。入口は幅1.4m×奥行0.9mを測る。青磁碗159が出土した。

SF5051(PL.13 第22図) J21・22に位置。石積施設である。基底石が残存していた。平面形は長方形を呈す。主軸はN36°Eに向き、内寸南北長軸1.0m×内寸短軸0.7m×深さ0.1mを測る。SB5033の施設と推定される。土師器皿160~163が出土した。

SX5066(PL.13 第22図) J23に位置。SB5033の内部施設であり、炉跡と考える。主軸はN70°Wに向き、1辺1.1m×深さ0.3mを測る。SB5033北辺の溝を切る。土師器皿164~166、青磁碗167が出土した。

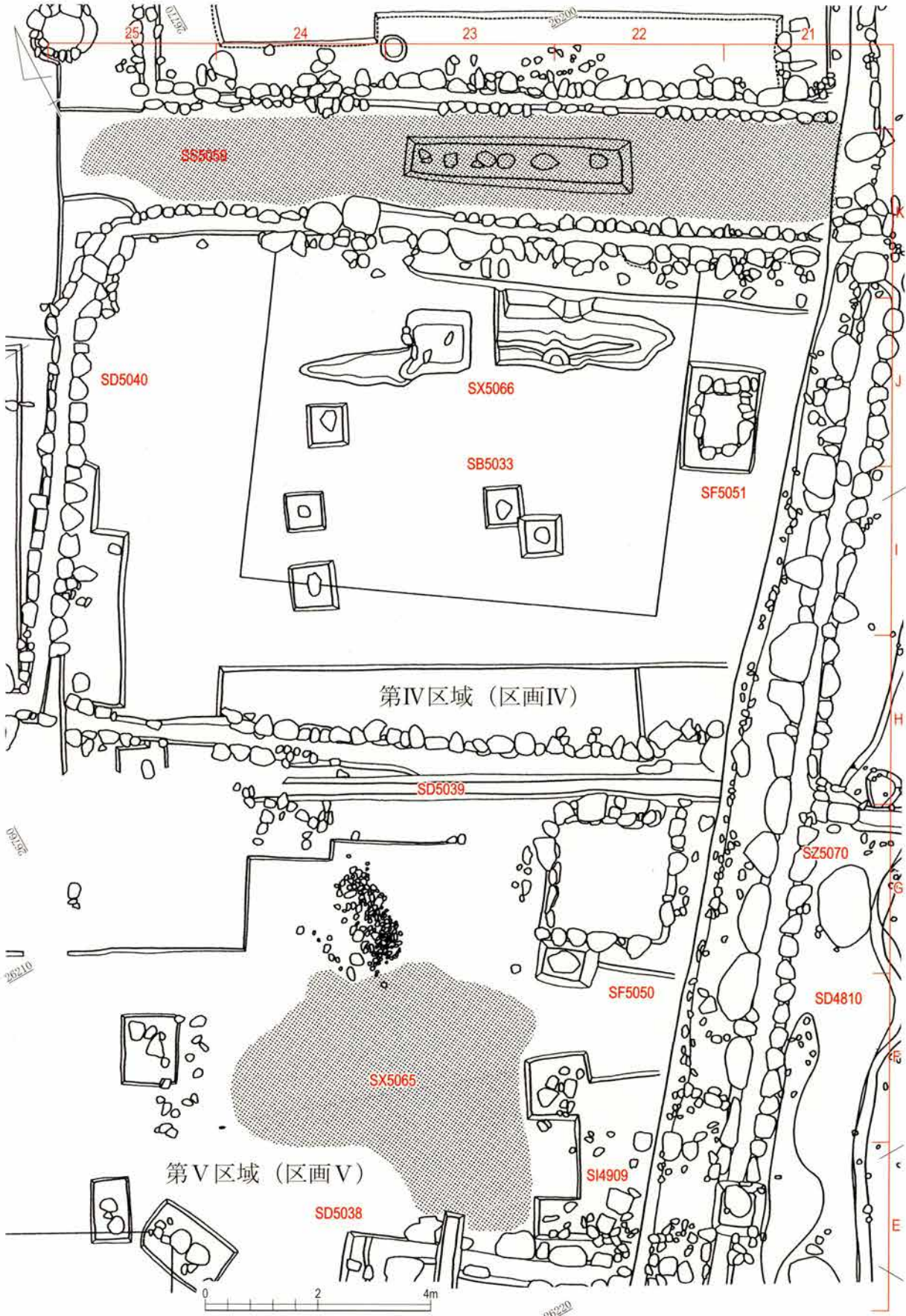
第V区域 区画V 武家屋敷(PL.15~17 第22・23図 第1表)

門、石積施設、溝

SI4909(PL.15・16 第22図) E22に位置。東側土塁石垣SA4901の中央付近に構築された、武家屋敷Iに入る門である。主軸はN40°Eに向き、門の外側内寸幅2.0m、内側内寸幅2.0m、奥行き2.0mを測る。SS260より0.2m高い。SA4901内の北側に20~50cm大の石を3石、南側に20~30cm大の石を6石据えて仕切りとした。

SF5050(PL.16・17 第22図) G22に位置。石積は3段残存し、平面形は方形を呈す。主軸はN35°Eに向き、内寸南北長軸1.9m、内寸短軸1.9m、深さ0.6mを測る。北東隅から暗渠SZ5070へ流れる。越前焼甕168、染付皿169・170、中国製陶器壺171が出土した

SD5038(PL.16・17 第23図) E22・23、A-E24に位置。SB5072の東辺に並行する石組排水溝である。南北10.8m、東西4.5m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。全体的にL字状を呈す。溝南端に位置する庭SG5056に伴う溝と考えられ、北に向かって20~40cm大の石を南北に直線状に据え、K23で東へ屈曲した後、SI4909の南側から土塁石垣SA4901を横断し、SS260の側溝SD4810へ流れる。石積は1段である。

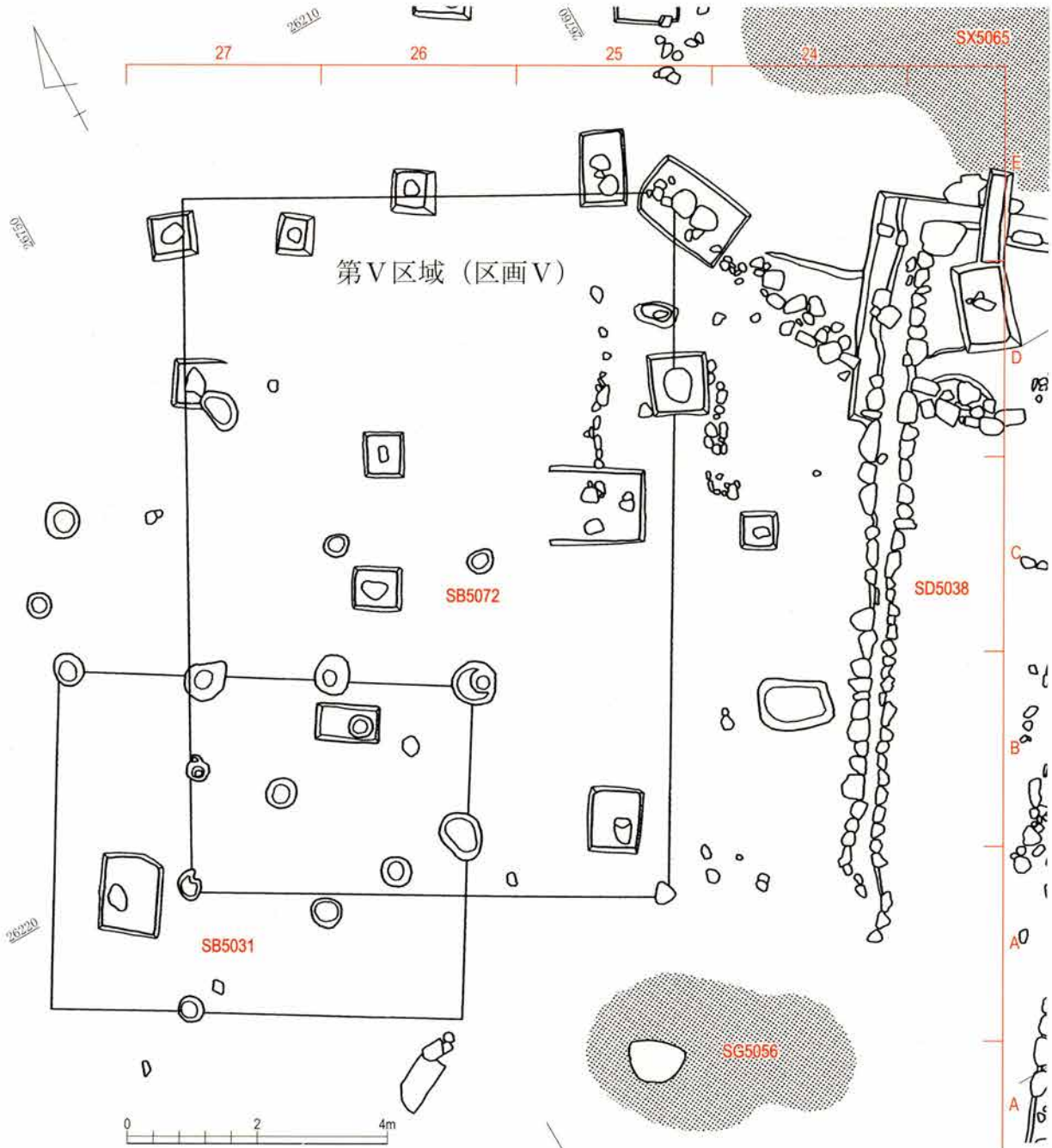


第22図 第III区域区画III SS5059、SD5043・5039・5040、第IV区域区画IV SB5033、SF5051、SX5066
第V区域区画V SI4909、SF5050、SX5065(縮尺 1/100)

建物、庭、炉、石敷遺構

SB5072(PL.15 第23図) A-E25~27に位置。旧SX5072である。上層の長方形の礎石建物であり、桁行4間、梁間3間と推定される。主軸はN30°Eに向き、桁行10.7m、桁間寸法2.8m以上、梁間7.6mを測る。床面積は約81m²を測る。越前焼甕172・壺173・卸皿174・播鉢175・176、土師器皿177・178、灰釉皿179、鉄釉天目茶碗180・181、青磁皿182、朝鮮製壺183が出土した。

SB5031(PL.15 第23図) A・B26~28に位置。SB5072の下層の長方形の掘立柱建物である。西・南辺は不明だが、桁行3間、梁間2間と推定される。主軸はN60°Wに向き、桁行6.4m、桁間寸法2.0~2.2m、梁間5.4m、梁間寸法2.2~2.8mを測る。床面積は約35m²を測る。柱穴は径0.4~0.7m、深さ0.3mを測る。土師器皿184、鉄釉壺185、青磁碗186が出土した。



第23図 第V区域区画V SB5072・5031、SG5056(縮尺1/100)

SG5056(PL.15 第23図) A24・25に位置。SB5031に伴う庭と考える。90cm大の平石を1石含み、4.2m×2.4mの範囲に砂利敷が検出された。青磁皿187・托188、白磁皿189が出土した。

SX5065(PL.17 第22図) F23・24に位置。SI4909の西側に広がる砂利敷遺構である。砂利敷は不定形であり、東西長6.5m×南北長3.0mの規模で検出された。武家屋敷の北東隅に南北長約10.0m×東西長約7.0m以上の広場的空間が存在したと想定される。

SX5064(第13図) B29に位置。炉と考えられる。SB5031から西側に3.0m隔てて構築された土坑であり、径0.5m×深さ0.3mを測る。東縁に20cm大の石が2石配置されていた。土坑内には焼土が充填していた。

第VI区域 区画VI 町屋(PL.17~20 第13図 第1表)

道路、石列、土坑

SS5060(PL.17・18・20 第13図) L-N29・30に位置。南北道路である。K29付近の中段から上段水田に上がる地点において、石列SX5360と共に東西道路SS5059と直交する。SD5042より北側は長さ約11.8m×幅約3.0mを測り、そのまま調査区北端まで続いていたと考える。南側は長さ4.0m×幅3.5mを測り、東側をSD5041に区画され、西へ屈曲した後、第114次調査の第VIII区域区画VIIの道路SS5185に接続する。

SX5360(PL.19・20 第13図) K30に位置。東西に延びるSD5042と直交して北に延びる石列である。東西道路SS5042と南北道路SS5060の交差点に位置する。主軸は、N429° Eに向き、長さ1.5mを測る。50~70cm大の石を4石直線状に据え、石の平坦面を東に向けていた。

SK5058(第24図) P29に位置。主軸はN50° Eに向き、西側のSB5035を切る大型土坑である。楕円形を呈し、内寸長軸2.0m×内寸短軸1.4m×深さ0.5mを測る。SS5060が機能しなくなった段階で構築されたと考える。

第VIII区域 区画VII 武家屋敷(PL.17~20 第13図 第1表)

溝

SD5042(PL.18・19 第20図) K29・30に位置。石組排水溝である。主軸は、N60° Wに向き、長さ5.2m×幅0.4m×深さ0.2mを測る。南北道路SS5060を東西に横断する。30~50cm大の石を両岸に直線状に据え、石積は2~3段積んでいた。底石はない。本来は、SS5059の南側側溝として直線的に延びていたと考えられる。

SD5041(PL.18・20 第20図) I-K29に位置。SS5060の東側を区画する小規模な石組排水溝である。主軸は、N40° Eに向き、長さ5.2m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。30cm大の石を蛇行線状に据え、溝の両側の石積みは1段であり、底石はない。溝の南端西側には、長さ2.1m×幅0.3m×深さ0.2mの小規模な溝が直交して接続する。

第1表 第112次調査主要遺構観察表(PL.8~20 第13~23図)

第I区域区画I【武家屋敷】

NO	グリッド	遺構	種類	上層			写真 図版	挿図
				下層	I期	II期		
1	Y 20~32	SV5063	土塁石垣				PL.9	第14図
2	J・K 24	SD4810	溝				PL.9	第14図
3	R・S 21	SI4910	門				PL.9	第15図
4	R 20	SZ5071	暗渠				PL.9	第15図
5	W-Y 30	SD5044	区画溝				PL.10	第16図
6	X・Y 29	SD5045	区画溝				PL.10	第16図
7	W・X 27	SX5069	炉				PL.10 PL.11	第16図
8	V 36	SX5075	炉				PL.10 PL.11	第16図
9	W 28・29	SF5055	石積施設				PL.10 PL.11	第16図
10	R-U 24~26	SB5036	掘立柱 建物				PL.11	第17図
11	R 25	SK5074	土坑				PL.11	第17図

NO	グリッド	遺構	種類	上層			写真 図版	挿図
				下層	I期	II期		
12	R 27	SF5053	石積施設				PL.11	第17図
13	R 28	SF5054	石積施設				PL.11	第17図
14	Q 27	SE5048	井戸				PL.11	第17図
15	U 28	SE5049	井戸				PL.11	第17図

第II区域区画II【町屋】

NO	グリッド	遺構	種類	上層			写真 図版	挿図
				下層	I期	II期		
16	Q-S 35・36	SB5034	礎石建物				PL.12 PL.13	第18図
17	O・P 21・22	SF5052	石積施設				-	第18図
18	M 21	SE5047	井戸				PL.12 PL.13	第18図
19	P 22~24	SX5068	石列				PL.12	第18図

第III区域区画III【町屋】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
20	K 21~29	SS5059	道路						PL. 13 PL. 14	第19図 第22図	
21	L 21~25	SD5043	側溝 区画溝						PL. 14	第22図	
22	H 22~25	SD5039	区画溝						PL. 13	第22図	
23	K 21~25	SD5040	側溝 区画溝						PL. 13	第22図	
24	L 25・26	SE5046	井戸						PL. 14	第20図	
25	I・J 26	SK5057 SB5361	埋蔵遺構 礎石建物						PL. 15	第20図	
31	E 22・23	SD5038	区画溝						PL. 16 PL. 17	第23図	
32	A-E 25~27	SB5072	礎石建物						PL. 15	第23図	
33	A・B 26~28	SB5031	掘立柱 建物						PL. 15	第23図	
34	A 24・25	SG5056	庭						PL. 15	第23図	
35	F 23・24	SX5065	石敷遺構						PL. 17	第22図	
36	B 29	SX5064	炉						-	第13図	

第IV区域区画IV【町屋】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
26	I-K 22~24	SB5033	礎石建物						PL. 13	第22図	
27	J 21・22	SF5051	石積施設						PL. 13	第22図	
28	J 23	SX5066	炉						PL. 13	第13図	

第VI区域区画VI【町屋】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
37	L-N 29・30	SS5060	道路						PL. 17 PL. 18 PL. 20	第13図	
38	K 30	SX5360	石列						PL. 19 PL. 20	第13図	
39	P 29	SK5058	土坑						-	第13図	

第V区域区画V【武家屋敷】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
29	E 22	S14909	門						PL. 15 PL. 16	第22図	
30	G 22	SF5050	石積施設						PL. 16 PL. 17	第22図	

第VII区域区画VII【武家屋敷】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
40	K 29・30	SD5042	区画溝						PL. 18 PL. 19	第20図	
41	I-K 29	SD5041	区画溝						PL. 18 PL. 19	第20図	

第 114 次調査(PL. 6~20 第 3・10・13・24~28 図 第 2 表)

第 114 次調査区は、城戸ノ内町字雲正寺に所在し、第 112 次調査区の西側に広がる上段水田に立地する(第 3・10 図)。標高は東側で 51.0m、西側で 52.8m を測り、八地谷川に沿って階段状に下降する地形である。

調査区は、南北長約 75.5m×東西長約 26.5m の規模を測る。調査面積は 1,700㎡を対象とした。調査期間は平成 15 年(2003)7 月 1 日~同年 12 月 25 日である。航空測量は、同年 12 月 25 日に実施した。翌年 3 月 10~13 日までは記者発表のための清掃作業等を実施した後、補足調査を行い、その後埋め戻し作業を行った。

調査の方法は、第 112 次調査区のグリッドを地形に沿って西側に延長し、東西方向に 31~42、南北方向に A~Y の番号を付して、遺構の記録と遺物の採集に用いた(第 13 図)。

調査区は、中央付近を東西に横断する区画溝 SD5042 を境に北半分と南半分に上段水田が広がり、西側に最上段水田が構える地形である。

谷地谷川南岸の遺構として、全体を把握するため、区域・区画は、第 112 次調査区(第 I~V 区域)に続くものとし、調査区については、東西に延びる溝 SD5042 より以北の上段水田については第 VI・VII 区域、以南の上段水田については第 VIII 区域、西側の最上段水田については第 IX 区域と区分した。

グリッド上では、第 VI 区域は上段水田北半分の L-Y29~35、第 VII 区域は L-W33~39、第 VIII 区域は第 112 次調査区第 V 区域の遺構の一部を含め、上段水田南半分の B-K29~39、第 IX 区域は最上段水田の D-T37~42 の範囲に相当する。

調査の結果、第 114 次調査区では 3 つの区画が確認され、第 VI・VII 区域を合わせた町屋の区画 VI(旧区画 II)、第 VIII 区域の武家屋敷を中心とした区画 VII(旧区画 I)、第 IX 区域の町屋の区画 VIII(旧区画 III)の様相が明らかになった。

第VI・VII区域の区画VIは、掘立柱建物で占められ、敷地面積は約850㎡を測り、2つの区域で溝3、土坑5、井戸4、掘立柱建物8、井戸5、道路1、石積施設2、カマド1等が検出された。第VIII区域の区画VIIは、礎石建物を中心として、敷地面積は約550㎡を測り、道路1、井戸1、土塁石垣2、門1、掘立柱建物3、石列1、溝3、礎石建物1、埋甕遺構1、土坑1等が検出された。第IX区域の区画VIIIは、掘立柱建物と若干の周辺付属施設が検出され、敷地面積は約300㎡を測り、掘立柱建物1、カマド1、井戸2、土塁石垣1、溝1、石敷遺構1、井戸1等が検出された。以下、北から各区域の主要な遺構について述べる(第2表)。

第VI区域 区画VI 町屋(PL.24~26 第24・25図 第2表)

溝、土坑、埋甕遺構、建物、井戸

SD5073(PL.24 第24図) Y31・32に位置。主軸はN75°Wに向き、蛇行して南東に流れる石組排水溝である。第I区域にかかる部分も含めると、長さ11.7m×幅0.9m×深さ1.0mを測る。両岸に20~40cm大の石を4~5段積んでいた。Y33付近から八地谷川の水を引き込み、川の中に中州状に地形が残る。越前焼甕79・鉢80、播鉢81、灰釉皿82、中国製四耳壺83、青磁碗84・壺85・86・酒会壺87、白磁皿88、石盤210が出土した。

SK5358(第25図) X32に位置。円形土坑である。SB5337の北東隅から北東へ1.5m隔てて検出された。径0.5m×深さ0.3mを測る。

SK5344~5352(PL.25 第24図) U-W32に位置。埋甕遺構である。SB5337と重複して検出された。全体的に削平を受けている。主軸はN22°Eに向き、東列に5基、西列に4基の土坑が南北方向に並行して検出された。各土坑は円形を呈し、径0.5~0.8m×深さ0.3m前後を測るが、いずれも甕は抜き取られた後、埋め戻されていた。SB5337に後出すると考える。

SB5337(PL.25 第24図) U-W32~34に位置。方形に近い掘立柱建物である。桁行3間、梁間不明。主軸はN86°Wに向き、桁行6.5m、桁間寸法2.3m、梁間5.7mを測る。床面積は約37㎡を測る。南・北辺の柱列のみ確認された。南西側に付属施設と考えられる井戸SE5355が含まれる。

SE5354(PL.25 第24図) W31に位置。石組の井戸である。南側に40cm大の石が3石配され、上面をとどめていた。20~40cm大の石を楕円形に配し、内寸長軸約0.9m×内寸短軸0.7m×深さ1.6mを測る。石積は6段検出した。

SE5355(PL.25 第24図) U33・34に位置。石組の井戸である。平面形は楕円形を呈す。20~40cm大の石を楕円形に配し、内寸長軸約1.2m×内寸短軸1.0m×深さ1.6mを測る。石積は6段検出した。羽釜94、越前焼皿95・播鉢96、土師器甕把手220・甕221、須恵器杯223・224・盤225が出土した。

SE5333(PL.26 第24図) T32に位置。石組の井戸である。T29~34付近から北側は、後世の開墾の影響を受けて、0.6mの段差が生じるほど削られており、井戸の上部は破壊されていた。20cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.2m×内寸短軸1.0mを測る。石積は7段検出したが、崩壊が危惧され、深さは約1.4mでとどめた。

SE5324(PL.26 第25図) R33に位置。石組の井戸である。上層の遺構である。平面形は楕円形を呈す。上部は破壊されていた。20~40cm大の石を楕円形に配し、内寸長軸約0.9m×内寸短軸0.7m×深さ2.6mを測る。

SB5325(PL.26 第25図) R・S31・32に位置。方形に近い掘立柱建物と推定される。北側のSB5337とSE5337を挟んで並行して構築され、主軸はN86°Wに向くと考えられるが、桁行、梁間等、全体の規模は不明である。土師器皿89・90・羽釜91、灰釉小型壺92・播鉢93が出土した。

建物、井戸

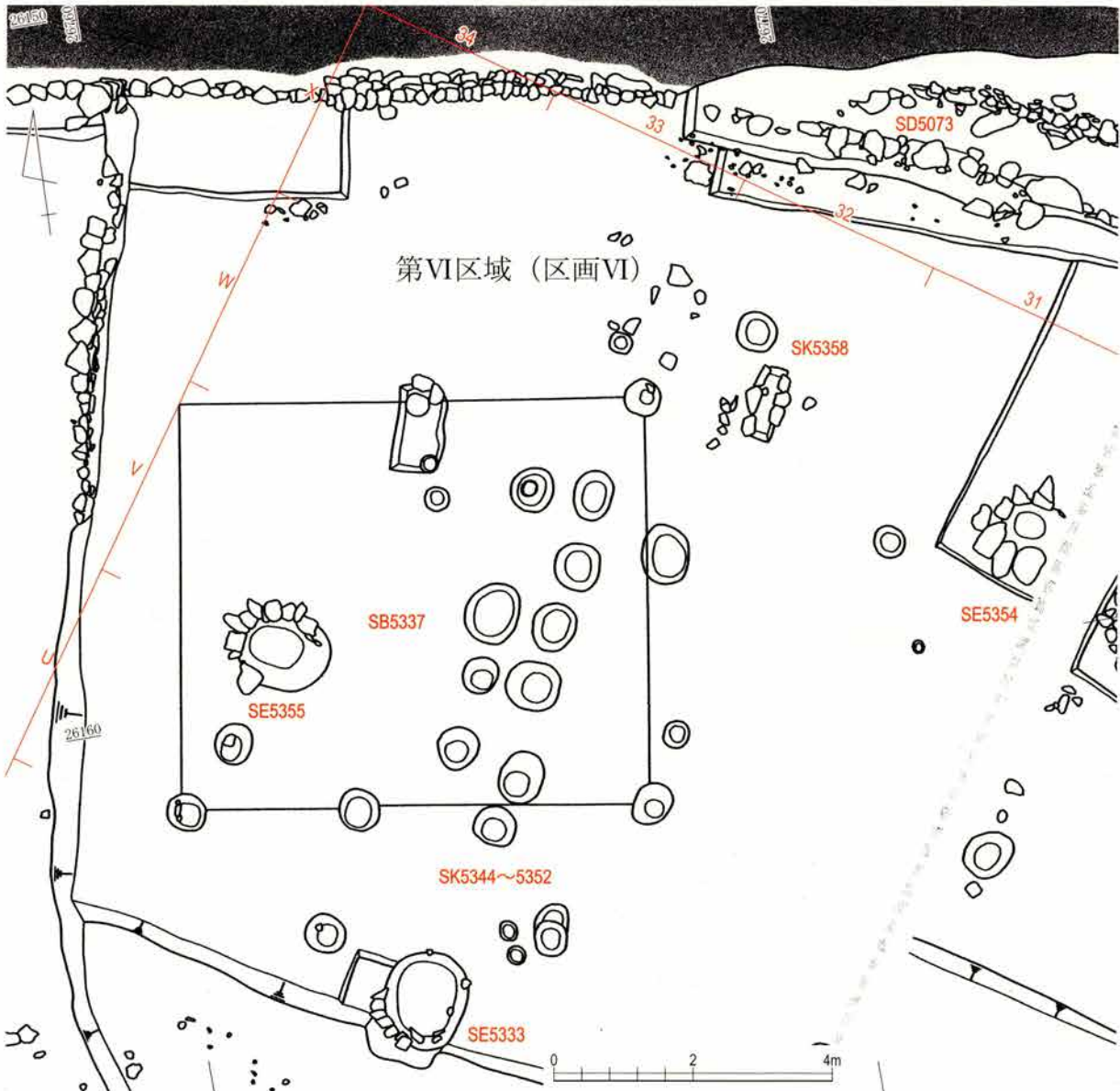
SB5035(PL.26 第25図) O-Q31・32に位置。長方形の掘立柱建物である。建物は桁行4間、梁間2間と推定される。主軸はN27°Eに向き、桁行6.7m、桁間寸法1.4~1.8m、梁間3.8m、梁間寸法1.9mを測る。床面積は約26㎡

を測る。K-Y30 付近が開墾により削られ、東西で段差が生じているが、第112次調査第V区域において東辺柱列が検出されている。

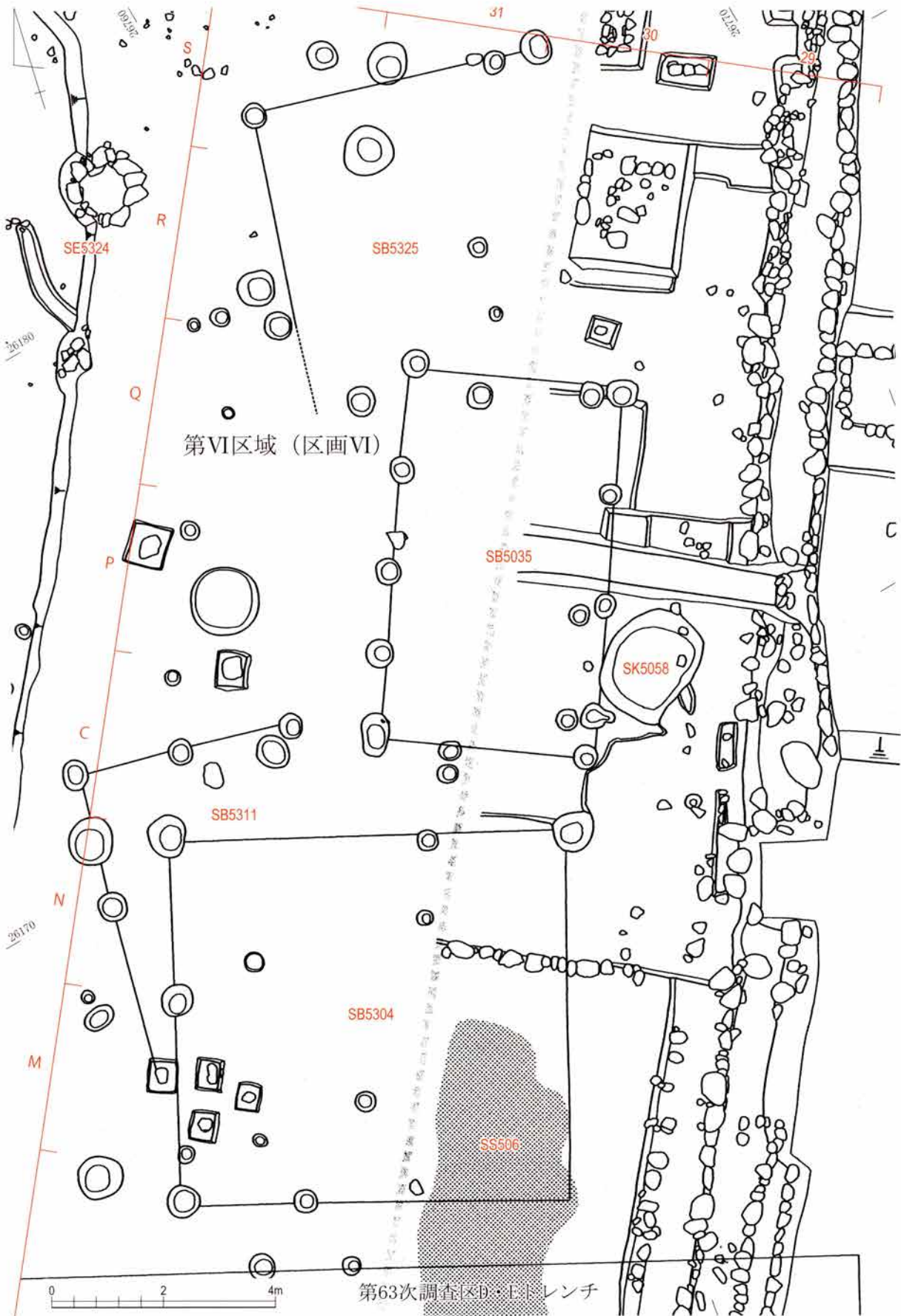
SB5304(PL.26 第25図) M-031・32に位置。方形に近い掘立柱建物である。桁行3間、梁間2間と推定される。主軸はN70°Wに向き、桁行7.0m、桁間寸法2.1m、梁間6.5m、梁間寸法3.0~3.5mを測る。床面積は約46㎡を測る。柱穴は径0.7m×深さ0.4mを測る。北辺と東辺の柱列は明確ではない。北西に12m隔てて構築された第VII区域SB5225と主軸の傾きを同じくする。

SB5311(PL.26 第25図) M-032に位置。長方形の掘立柱建物である。桁行2間、梁間2間。主軸はN10°Eに向き、桁行5.8m、桁間寸法2.5~3.2m、梁間3.8m、梁間寸法1.9mを測る。床面積は約22㎡を測る。柱穴は径0.4m×深さ0.3mを測る。南辺には桁行1.5m×梁間3.8mを測る庇が付属した可能性がある。南東に並行する南北道路SS5060と同時期と考えられ、SB5304に先行する建物と考える。白磁皿97・碗98が出土した。

SK5058(第25図) P29に位置。上層遺構と考える。楕円形土坑である。SS5060上で検出された。内寸長軸1.9m×内寸短軸1.5m×深さ0.5mを測る。



第24図 第VI区域区画VI SD5073、SK5358・5344~5352、SB5337、SE5354・5355・5333(縮尺1/100)



第25図 第VI区域区画VI SE5324、SB5325・5305・5304・5311、SK5058(縮尺 1/100)

第Ⅶ区域 区画Ⅵ 町屋 (Pl. 27～29 第 26・27 図)

建物、土坑

SB5296 (Pl. 27 第 26 図) U・V36 に位置。小規模な掘立柱建物である。2 間の柱列が検出された。柱列を梁間と想定すると、梁間の向きは N10° E に向き、梁間 3.0m、梁間寸法 1.2～1.7m を測る。建物の傾きと梁間寸法から第Ⅵ区域 SB5311 を西へ直角に向けたような建物であったと推定される。SK5291 は SB5296 に伴う施設であった可能性が高い。

SK5291 (Pl. 27 第 26 図) T・U37 に位置。SB5296 に付属する土坑群である。SB5296 の南辺に並行して構築されたと考える。各土坑は、径 0.6～0.8m×深さ 0.3m 前後を測り、12 基前後が重複することなく密集し、一部石敷も確認された。

土坑群の内、北側に位置する径 0.4m×深さ 0.3m を測る土坑には笏谷石製の石盤 212 が据えられ、盤の中に越前焼播鉢 96 が正位の状態で据えられていた。

SK5236 (Pl. 28 第 27 図) O35 に位置。上層の遺構である。楕円形土坑である。SB5255 南辺から南へ 4.5m 隔てて構築され、北側は SK5237 が重複して切っていた。内寸長軸 1.1m×内寸短軸 0.8m×深さ 0.3m を測る。土坑内から口縁部の一部を欠いた越前前壺 99、飾金具 180 が出土した。

道路、溝、建物

SS5272 (Pl. 28 第 26 図) S・T35 に位置。砂利敷道路である。主軸は N15° E に向き、全長 4.3m×幅 1.6m を測る。道路両側は側溝 SD5271 と SD5273・5297 で区画され、SB5255 の北辺中央付近から北に向かって参道のように延びる。

SD5271 (Pl. 28 第 26 図) S・T36 に位置。SS5272 の西側の区画溝である。主軸は南辺で N15° E に向き、長さ 4.3m×幅 0.2m×深さ 0.2m を測る。直線状の石組排水溝である。北端は 2 石で閉塞し、南端は攪乱を受けていた。両岸に 20～30cm 大の石を 1 段積み、底石はない。

SD5273 (Pl. 28 第 26 図) S・T35 に位置。SS5272 の東側の区画溝である。主軸は南辺で N15° E に向き、長さ 3.4m×幅 0.2m×深さ 0.2m を測る。直線状の石組排水溝である。本来、南端で SD5297 西端と直交して接続し、L 字状の溝であったと推定されるが、共に両岸の石の大部分は抜き取られていた。

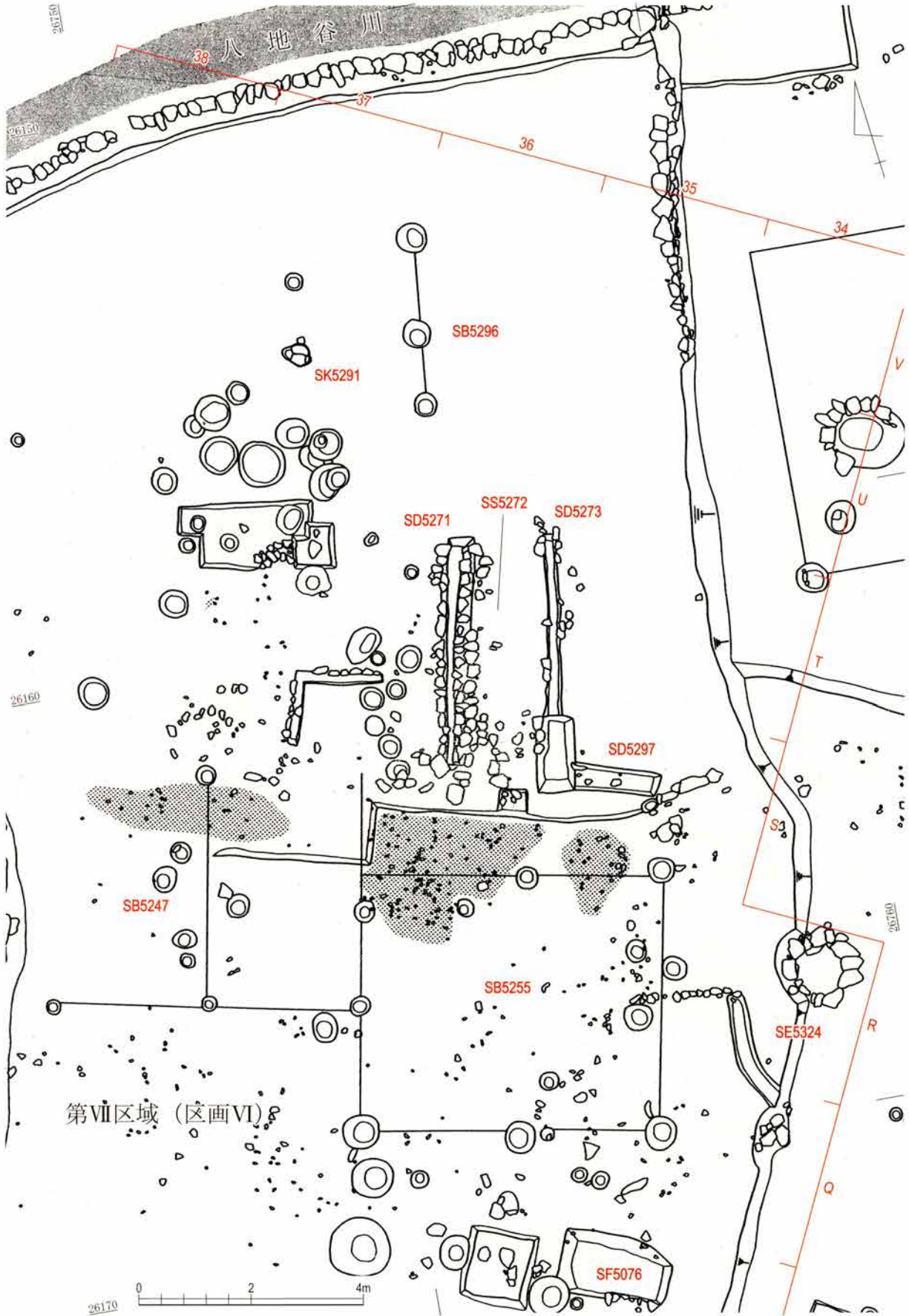
SB5255 (Pl. 29 第 26 図) Q・R34～36 に位置。方形に近い掘立柱建物である。桁行 2 間、梁間 1 間を呈す。主軸は N72° W に向き、桁行 5.3m、桁間寸法 2.5～2.7m、梁間 4.6m を測る。床面積は約 24m² を測る。北辺に沿って幅 1.0m を測る通路らしき砂利敷が検出された。同規模の建物 SB5247 が西側に接続し、梁間をずらして同時に建てられていた可能性もある。土師器皿 100・101・羽釜 102、白磁皿 103・104 が出土した。

SB5247 (第 26 図) Q・R36・37 に位置。方形に近い掘立柱建物である。SB5255 と同規模の建物とすれば、桁行 2 間、梁間 1 間を呈し、主軸は N86° W に向き、桁行 5.5m、桁間寸法 2.7m、梁間 4.1m を測り、床面積は約 23m² と推定される。

石積施設、石敷遺構、井戸

SF5076 (Pl. 29 第 27 図) P34 に位置。旧 SK5076 である。石積施設である。平面形は長方形を呈す。主軸は N70° W に向き、内寸長軸 2.0×内寸短軸 1.0m×深さ 0.3m を測る。破壊を受けており、北辺の石積の一部が 2 段残存するのみであった。

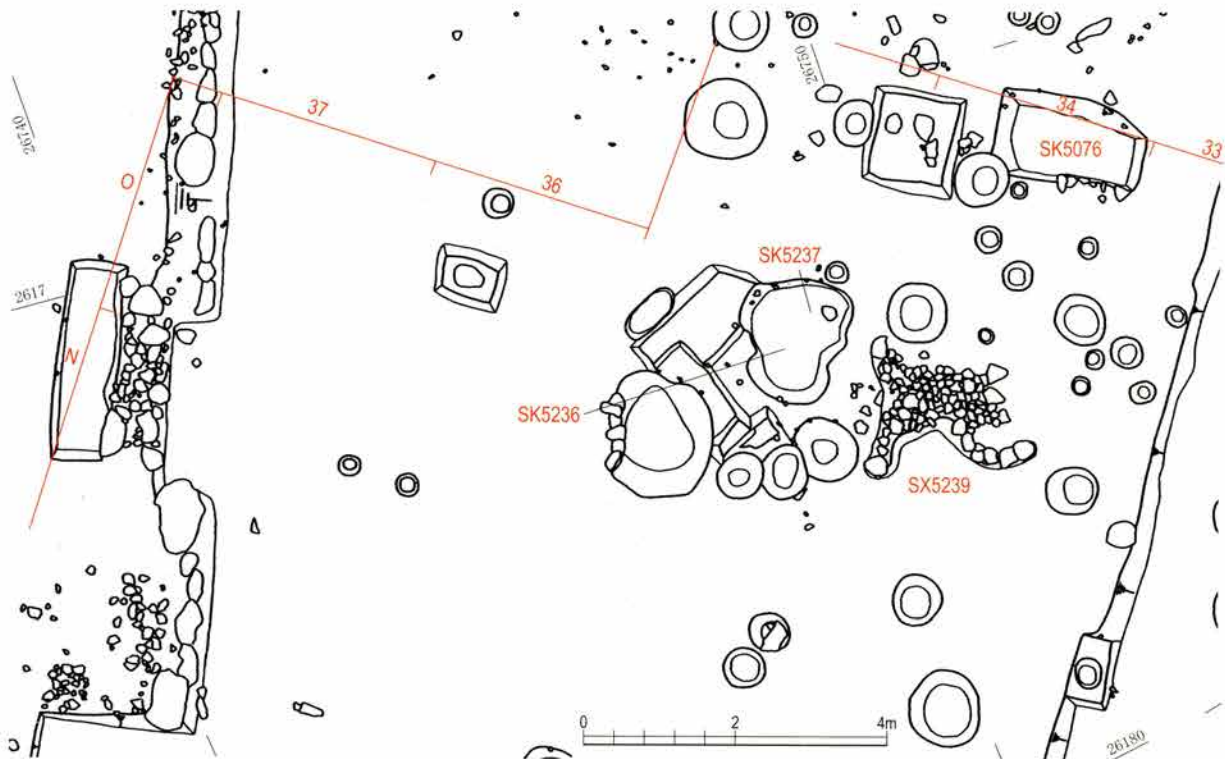
SF5218 (Pl. 29 第 28 図) L35・36 に位置。石積施設である。基底石のみが残存していた。平面形は方形を呈す。主軸は N20° E に向き、内寸南北長軸 1.1m×内寸短軸 1.0m×深さ 0.2m を測る。西側の石列は改変前の西壁と考えられ、当初は長方形を呈し、内寸東西長軸 1.7m と推定される。土師器皿 123、白磁皿 124 が出土した。



第26图 第Ⅵ区域区画Ⅵ SE5324、第Ⅶ区域区画Ⅵ SB5296・5255・5247、SK5291・5236、SS5272、SD5271・5273(縮尺 1/100)

SX5239(PL.29 第27図) 034に位置。上層の遺構である。東西の端部が破壊されているが、形状から複式のカマドと考える。10~30cm大の石を東西長1.7m×南北長0.8m規模の範囲で長方形に敷き詰めた後、両端に馬蹄形状の石組を設け、東側のカマドは内寸長軸径0.9m、西側のカマドは内寸長軸1.5m以上の規模と推定する。

SE5225(PL.29 第28図) L33・34に位置。下層の遺構である。石組の井戸である。南東側の上部は破壊されていた。20~40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.2m×内寸短軸1.0mを測る。底面は不明である。越前焼甕105・106・播鉢107・109・110・捏鉢108、土師器皿111・112・脚台113、鉄釉天目茶碗114、青磁碗115~119、朝鮮井戸茶碗120、バンドコ204・208、漆器213・面214、木簡215~217、曲物底板218が出土した。



第27図 第VII区域区画VI SK5236、SF5076、SX5239(縮尺1/100)

第VIII区域 区画VII 武家屋敷(PL.30~33 第27図)

道路、井戸、土塁石垣、門

SS5185(PL.30・31 第28図) J31・32に位置。第V区域SS5060が南下してSD5042を越えて区画VIIIに入った後、西へ直線状に上る砂利敷道路である。主軸はN65°EW向き、全長13.4m×幅3.0mを測る。本来は区画VIIIへの入口であったが、改修時に整地され、埋められたと考える。

SE5184(PL.31 第28図) G31・32に位置。区画VIII内、唯一の石組の井戸である。南西側の石積は中位から上位が破壊されていた。20~40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.0m×内寸短軸0.9mを測る。掘り込み時の規模は、内寸長軸は1.8m前後を測る。崩壊が危惧され、深さ2.0mで掘削を止め、底面は不明である。

SA5183(第28図) B-G31に位置。区画IIIの東側土塁石垣である。主軸はN25°Eに向き、全長約16.0m×外寸幅1.8m×高さ1.5mを測る。外側は50~100cm大の石を据えていた。越前焼壺125~128・卸皿129・播鉢130~133、土師器皿134、灰釉皿135、染付136・137、中国製壺138、土製円盤186、石硯187・188が出土した。

SA5196(PL.31 第28図) K34~36に位置。区画IIIの北側土塁石垣である。K34付近から東、K37付近から西は後世に大きく削れられていたが、土塁石垣の東端は第112次第VII区域SD5041、西端はSD5163と直交する地点と想定される。主軸はN70°Wに向き、全長約29.5m×外寸幅1.8mを測る。外側は30~50cm大の石を用い、

内側は20～40cm大の石を用いていた。K34付近では、暗渠の形をとらないで、土塁石垣を南北に横断するSD5042の西端が検出された。K35付近では門SI5197を設けていたが、門を廃棄する段階に至ると、土塁石垣として外側に石を積み、閉鎖していた。

SI5197(PL.31 第28図) K35に位置。区画Iの北側石垣土塁SA5196内に構築された門である。50cm大の石を南に1石、30cm大の石を北側に2石据え、門柱石としていた。主軸はN60°Wに向き、門の内寸幅2.2m×奥行き1.7mを測る。当初は北側の第VII区域に開いて機能していたと考えられるが、改修の際に門内に径20～30cm大の石を丁寧に3段積み、閉鎖したようである。SA5196内に礎石等の遺構は確認できなかった。

建物、石列、溝

SB5191(PL.32 第28図) I・J35・36に位置。下層の遺構である。長方形の礎石建物である。桁行3間、梁間2間と考える。主軸はN25°Eに向き、桁行5.4m、桁間寸法1.4～2.0m、梁間3.8m、桁間寸法0.6～1.7mを測る。床面積は約21㎡を測る。建物西辺の内外に桁行5.4m×幅0.5mを測る礎石列が検出され、外側の礎石列は庇、内側の礎石列は棚を支える柱列と考える。入口も西辺中央に設けられた可能性がある。建物内中央東寄りの石列SX5190が設けられていた。大型の礎石建物SB5165と主軸が直交するが、整地土中から検出されていることから、大型礎石建物SB5165に先行する建物と判断される。

SX5190(PL.31・32 第28図) J36に位置。下層の遺構である。南北に延びる石列である。SB5191の付属施設である。主軸はN25°Eに向き、長さ2.8mを測る。30～50cm大の石を7石直線状に据えていた。一見、暗渠に見えるが、下部に排水構造は確認できなかった。

SB5165(PL.30～32 第28図) G-J35～38に位置。上層の遺構である。長方形の大型礎石建物である。南西隅の礎石の配置状況から桁行6間、梁間5間と推定された。東辺は削られているが、主軸はN73°Wに向き、桁行11.7m、桁間寸法1.1～1.9m、梁間9.4mを測る。床面積は約110㎡を測る。建物南辺には幅1.1m×長さ11.7mの庇が設けられ、並行するSD5176は雨落ち溝と考える。西辺にも同じ幅の庇があった可能性がある。建物南半分は梁間3.8mを測る空間があったと考える。

SB5164(PL.31・32 第28図) H-J35～38に位置。最上層の遺構である。長方形の大型礎石建物である。桁行不明、梁間不明。主軸はN70°Wに向き、桁行10.6m、梁間6.6m以上を測る。床面積は約70㎡以上を測る。建物北東側に桁行5.3m×梁間3.1mを測る空間が想定された。西辺にはSB5165と同様な幅1.1mの庇が付く可能性がある。

SD5176(PL.32・33 第28図) F-G34～38に位置。上層の遺構である。SB5165の雨落ち溝であり、平面形はL字状を呈す。東西の主軸はN73°Wに向き、東西長13.5m×南北長5.5m×幅0.3mを測る石組排水溝である。南岸の石は大部分が抜き取られていた。G34付近で南に屈曲し、E34付近で南から流れるSD5175と合流する。越前焼播鉢139、土師器皿140～143・耳皿144、中国製香炉145が出土した。

建物、土坑、溝

SB5166(PL.32・33 第28図) E-G35～38に位置。上層の遺構である。長方形の礎石建物である。桁行5間、梁間2間と推定される。主軸はN73°Eに向き、桁行8.7m、桁間寸法1.3～1.8m、梁間3.8m、桁間寸法1.0～2.8mを測る。床面積は約33㎡を測る。建物の規模はSB5165の南半分の空間に類似する印象を受ける。

北辺に幅1.1m×桁行8.7mの張出部をもち、西辺にも幅1.1mの庇がつく可能性がある。北辺側に庇または通路を想定すると、礎石で区画された室内に長さ2.7m×幅1.8mを測る空間が4つの小区画見出され、SB5166は、SB5165に付属する馬小屋のような施設であった可能性が高い。土師器皿146～152、越前焼甕153・壺154、白磁杯155、青磁香炉156が出土した。

SK5173(PL.33 第28図) F36に位置。SB5166に付属する埋甕遺構である。建物内東端の小区画の北西隅に配置され、径0.7m×深さ0.3mを測る。

SK5167(第28図) F38に位置。SB5166に付属する円形土坑である。建物内西端の小区画の北西隅に配置され、径0.9m×深さ0.3mを測る。越前焼甕160、土師器皿161～165、鉄釉鉢166が出土した。

SD5175(PL.32 第28図) D・E35・36に位置。上層の遺構である。SB5166の区画溝である。C35付近から南北に流れはじめ、平面形はクランク字状を呈す。東西の主軸はN73°Wに向き、東西長3.5mを測る。南北の主軸はN30°Eに向き、南北長4.5mを測る。各々の幅は0.2～0.3mを測る。底石はない。E34付近で東に屈曲し、SD5176と合流する。その後、SD5177に接続し、井戸SE5184に向けて緩やかに北東に曲がる。土師器皿167～170が出土した。

SD5177(PL.32 第28図) E・F32・33に位置。石組排水溝である。主軸はN70～80°に向き、長さ6.7m×幅0.2mを測る曲線状の石組排水溝である。S北側から流れるSD5176と、南から流れるSD5175を集束して、北東に流れるが、土塁石垣SA5183に接続する付近は攪乱され、判然としない。

第IX区域 区画Ⅷ 町屋(PL.33・34 第13図)

建物、カマド、井戸、

SB5200(PL.34 第13図) N-P39～41に位置。最上段水田に位置し、全体的に削られていた。正方形に近い掘立柱建物である。桁行2間、梁間2間と推定される。主軸はN67°Wに向き、桁行6.3m、桁間寸法2.6～3.5m、梁間5.5m、梁間寸法1.3～4.2mを測る。床面積は約35㎡を測る。北辺に幅1.3m×桁行6.7mの庇が付く可能性がある。主軸は異なるが、第VI区域SB5337と同規模を測る。

SX5199(PL.34 第13図) M39に位置。上部は破壊を受けていた。形状と深度からカマドと考える。30cm大の石が馬蹄形に配置されていた。北側に焚口と考えられる開口部をもつ。石積は1・2段である。内寸長軸0.5m×内寸短軸0.4m×深さ0.2mを測る。

SE5198(PL.34 第13図) M・N41に位置。石組の井戸である。上部は破壊されていた。20～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m×内寸短軸0.8m×深さ1.0mを測る。

土塁石垣、溝、石敷遺構、井戸

SA5162(PL.34 第13図) D-J39に位置。旧SV5162である。最上段水田に位置する区画Ⅷの東側土塁石垣である。南北に延びるがF39付近でやや蛇行する。主軸はN39°～20°Eに向き、全長19.7m×幅1.0mを測る。

中央付近の石は大部分が抜き取られていた。K39付近は削られているが、本来は、SA5196に直交していた可能性がある。

SD5163(PL.34 第28図) I・J39に位置。南から北へ直線状に流れる石組排水溝である。主軸はN25°Eに向き、長さ4.7m×幅0.4m×深さ0.2mを測る。西岸に20～40cm大の石を2段、東岸に30cm大の石を1段積んでいた。底石はない。本来は、SA5196を暗渠で横断した後、K39付近でSD5042と直交して、SA5196の北側を流れていたと考える。土師器皿172が出土した。

SX5160(PL.34 第28図) E・F40に位置。石敷遺構である。中央は破壊を受けていた。15～30cm大の石が長さ約3.3m×幅約1.0mの範囲で直線状に敷かれていた。南端の井戸SE5161に伴う洗い場と考える。白磁杯173、染付皿174が出土した。

SE5161(PL.34 第13図) E40に位置。石組の井戸である。SX5160南端に位置する。20～40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.8m×内寸短軸0.8m×深さ0.5mを測る。西側に20～30cm大の石が十数石まとまって検出された。底面が浅く、溜枘と考える。石敷遺構SX5160が付属する。青磁稜花皿175、染付皿176が出土した。

2. 遺 構

第2表 第114次調査主要遺構観察表(PL.21~34 第13・24~28図)

第VI区域【区画VI 町屋】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
1	Y 31・32	SD5073	北側 区画溝							PL. 24	第24図
2	X 32	SK5358	土坑							—	第24図
3	U-W 32	SK5344 ~5352	土坑							PL. 25	第24図
4	U-W 32~34	SB5337	掘立柱 建物							PL. 25	第24図
5	W 31	SE5354	井戸							PL. 25	第24図
6	U 33・34	SE5355	井戸							PL. 25	第24図
7	T 32	SE5333	井戸							PL. 26	第24図
8	R 33	SE5324	井戸							PL. 26	第25図
9	R・S 31・32	SB5325	掘立柱 建物							PL. 26	第25図
10	O-Q 31・32	SB5035	掘立柱 建物							PL. 26	第25図
11	M-O 31・32	SB5304	掘立柱 建物							PL. 26	第25図
12	M-O 32	SB5311	掘立柱 建物							PL. 26	第25図
13	U-W 32	SK5058	土坑							PL. 25	第25図

第VII区域【区画VI 町屋】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
14	U・V 36	SB5296	掘立柱 建物							PL. 27	第26図
15	T・U 37	SK5291	土坑							PL. 27	第26図
16	O 35	SK5236	土坑							PL. 28	第27図
17	K 21~29	SS5272	道路							PL. 28	第26図
18	S・T 36	SD5271	区画溝							PL. 28	第26図
19	S・T 35	SD5273	区画溝							PL. 28	第26図
20	Q・R 34~36	SB5255	掘立柱 建物							PL. 29	第26図
21	Q・R 36・37	SB5247	掘立柱 建物							—	第26図
22	P 34	SF5076	石積施設							PL. 29	第27図
23	L 35・26	SF5218	石積施設							PL. 29	第28図
24	O 34	SX5239	カマド							PL. 29	第27図
25	L 33・34	SE5225	井戸							PL. 29	第28図

第VIII区域【区画VII 武家屋敷】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
26	K 21~29	SS5185	東西道路							PL. 30 PL. 31	第28図
27	G 31・32	SE5184	井戸							PL. 31	第28図
28	B-G 31	SA5183	東側 土塁石垣							—	第28図
29	K 34~36	SA5196	北側 土塁石垣							PL. 31	第28図
30	K 35	SI5197	門							PL. 31	第28図
31	I・J 35・36	SB5191	掘立柱 建物							PL. 32	第28図
32	J 36	SX5190	石列							PL. 31 PL. 32	第28図
33	G-J 35~38	SB5165	掘立柱 建物							PL. 30~ PL. 32	第28図
34	H-J 35~38	SB5164	掘立柱 建物							PL. 31 PL. 32	第28図
35	F-G 34~38	SD5176	区画溝							PL. 32 PL. 33	第28図
36	E-G 35~38	SB5166	礎石建物							PL. 32 PL. 33	第28図
37	F 36	SK5173	埋甕遺構							PL. 33	第28図
38	F 38	SK5167	土坑							—	第28図
39	D・E 35・36	SD5175	区画溝							PL. 32	第28図
40	E・F 32・33	SD5177	溝							PL. 32	第28図

第IX区域【区画VIII 町屋】

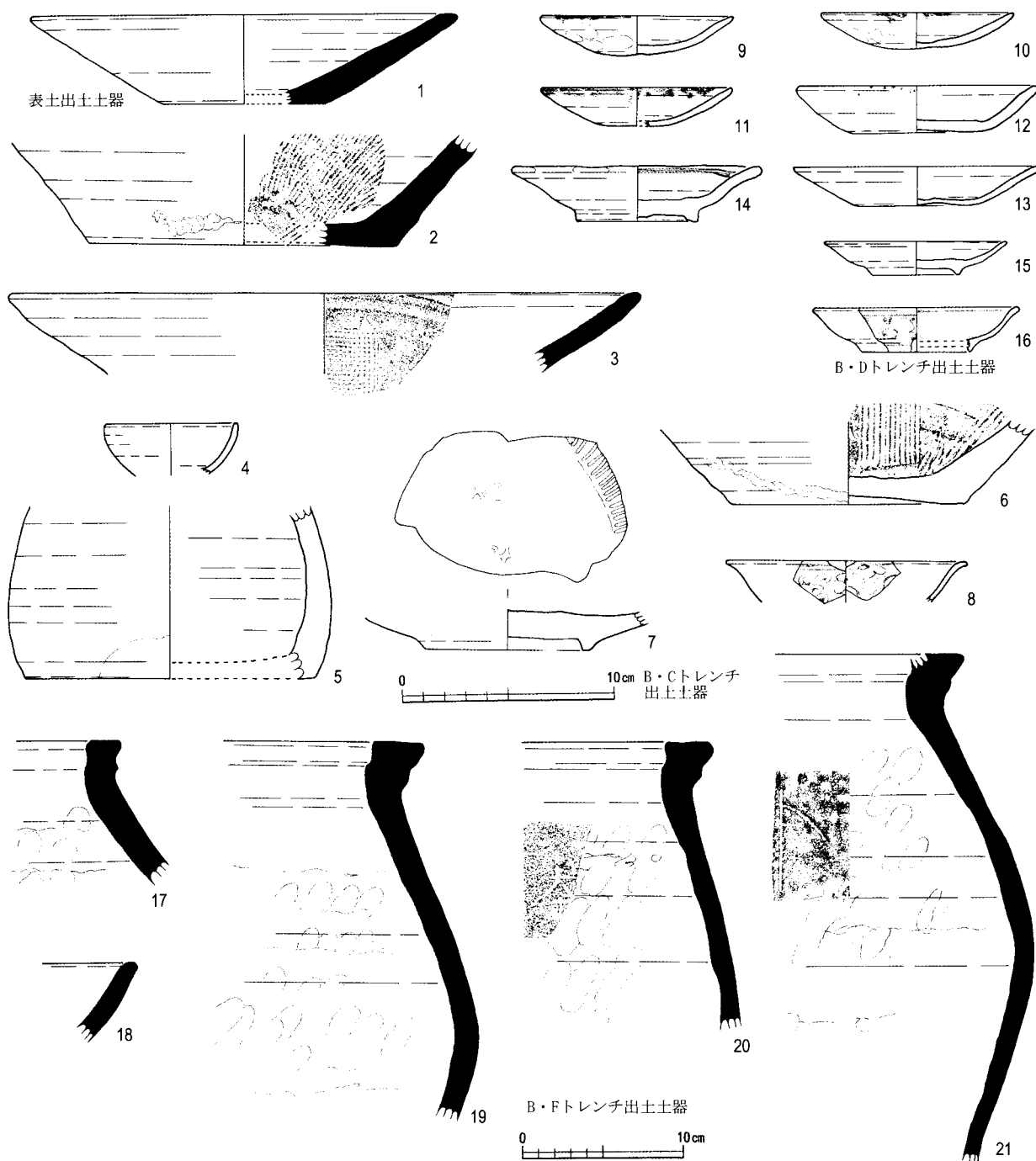
NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
41	N-P 39~41	SB5200	掘立柱 建物							PL. 34	第13図
42	M 39	SX5199	カマド							PL. 34	第13図
43	M・N 41	SE5198	井戸							PL. 34	第13図
44	D-J 39	SA5162	東側 土塁石垣							PL. 34	第13図
45	I・J 39	SD5163	区画溝							PL. 32	第28図
46	I・J 39	SX5160	石敷遺構							PL. 34	第28図
47	E 40	SE5161	井戸							PL. 34	第13図

3. 遺物 (PL. 63~71 第 29~48 図、第 3~5 表)

第 63 次調査出土遺物 (PL. 63 第 29・30 図、第 3 表)

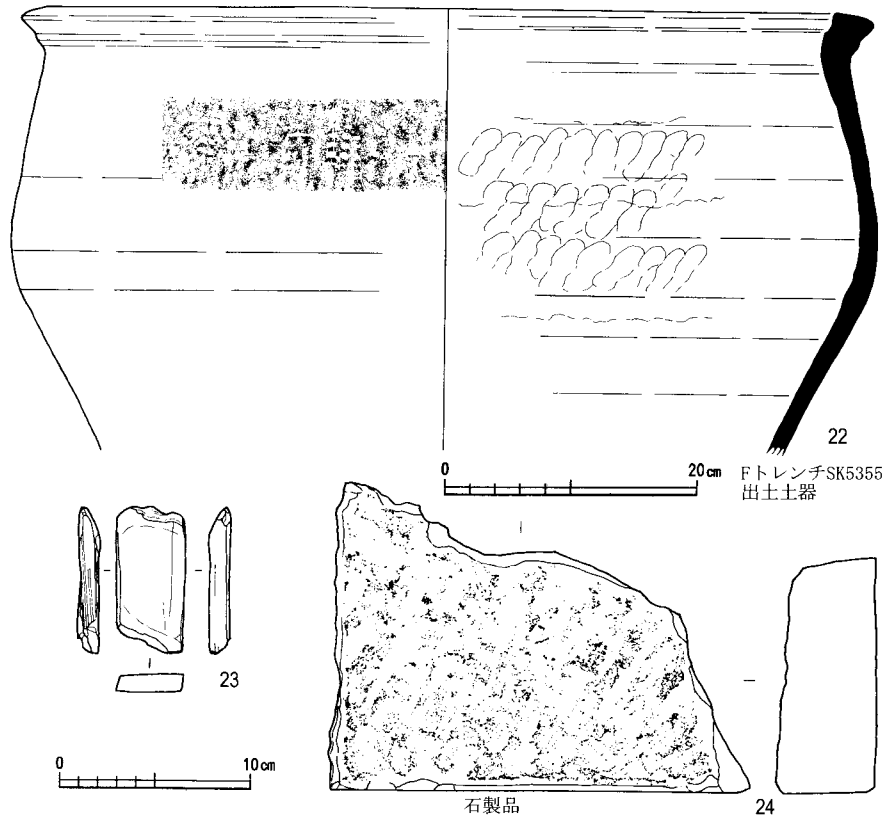
第 63 次調査の遺物は、1~24 を掲載した。大半が B~F トレンチの包含層ら出土し、遺構から出土したものは F トレンチ SK5355 出土した越前焼甕だけである。細片もあるが、図化し得たのは土器(陶磁器類) 1~22、砥石 1、板石 24 である。詳細は第 3 表に記し、以下、概要を述べる。

1 は表土出土の越前焼捏鉢である。口径に対し器高が浅く扁平な形状を呈す。大型の越前焼播鉢 2・3 は B トレンチ表土から出土し、2 の底部周辺には縄巻痕が残る。4 は小型の灰釉碗である。鉄釉瓶 5 は下膨れの胴部に平坦な底部をもつ。鉄釉は底部付近まで届かない。鉄釉播鉢 6 は C トレンチ SE5046 直上から出土し、



第 29 図 第 63 次調査 出土土器 (縮尺 1/3、1/4)

底部に回転糸切り痕が残る。青磁盤7は底径18.8cmを測る。内部底面周縁に櫛歯文帯が陰刻されている。染付皿8は外部には口縁部に条線が2条めぐり、体部に変形唐草文が施される。内部にはアラベスク文が施される。越前焼播鉢18・甕19～22は、FトレンチSK5355から出土した。口端面は平坦であり、内部口端下に段を有す。砥石23もFトレンチから出土し、淡い赤褐色の色調から一乗谷産の浄教寺砥石と見る。板石24はBトレンチから出土し、笏谷石を加工したものである。暗渠の蓋石と考える。



第30図 第63次調査 出土土器、石製品(縮尺1/4、1/6)

第3表 第63次調査出土遺物観察表(PL.63 第29・30図)

B～Fトレンチ出土陶磁器類(PL.63 第29・30図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
1	越前焼 程鉢	口: 26.8 高: 5.6 底: 10.0 焼: 良好 色: 明赤茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:ゆるやかに外方へ開く/口端面は平坦/口端部内側は凹状の段をもつ	外:回転ナデ 内:回転ナデ 内面に幅2.6cm・10条の卸目/密	表土
2	越前焼 播鉢	高: 6.0 底: 19.2 焼: 良好 色: 茶褐色		体部:外方へ開く	外:体部回転ナデ/底部周縁に縄目痕/底面粗いナデ 内:体部回転ナデ/底部ナデ・摩耗/幅3.3cm・13条の卸目/	Bトレンチ 表土
3	越前焼 播鉢	口: 39.5 高: 5.0 焼: 良好 色: 茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口唇部は丸く収める	外:体部回転ナデ 内:体部回転ナデ/幅2.8cm・10条の卸目	Bトレンチ 表土
4	灰釉 碗	口: 6.2 高: 2.4 焼: 良好 色: 淡灰緑色	極砂粒 堅緻 1/8	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部:腰部で内湾する	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ	Bトレンチ 表土
5	瀬戸美濃 鉄釉 瓶	高: 8.5 底: 13.4 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 精緻 1/10以下	底部:平底	外:胴部回転ナデ 内:胴部回転ナデ	Bトレンチ 表土
6	瀬戸美濃 鉄釉 播鉢	高: 3.9 底: 10.8 焼: 良好 色: 茶褐色	極砂粒 精緻 1/10以下	体部:外方へ開く 底部:やや凹む	外:体部回転ナデ/底部周縁に縄目痕/底面右回転糸切り痕 内:体部回転ナデ/幅2.8cm・12条の卸目	Cトレンチ SE5046
7	青磁 盤	高: 1.8 底: 7.5 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10	底部:高台端面は平坦	内:底面周縁に陰刻櫛歯文がめぐる	Bトレンチ 表土
8	染付 皿	口: 11.2 高: 2.0 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に圏線2/呉須唐草文 内:口端部に呉須圏線1/アラベスク文	Bトレンチ水田石垣

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点
						備考
9	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.8 底: 3.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 後指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	Dトレンチ表土 片口状に歪む 口縁部一部スス附着
10	土師器 小皿	口: 8.9 高: 1.8 底: 3.8 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～体部ナデ 内:口縁部～体部ナデ	Dトレンチ表土 片口状に歪む 口縁部全周スス附着
11	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.7 底: 4.6 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～体部ナデ 内:口縁部～体部ナデ	Dトレンチ表土 片口状に歪む 口縁部一部スス附着
12	土師器 小皿	口: 11.2 高: 2.2 底: 6.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	Dトレンチ表土 片口状に歪む 体部一部スス附着
13	土師器 小皿	口: 11.6 高: 1.8 底: 5.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:やや凹む	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	Dトレンチ表土 片口状に歪む
14	青磁 稜花皿	口: 11.7 高: 2.6 底: 5.6 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/4	口縁部:外反して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収め、緩い波状に成形し花卉状にする 底部:高台端面は平坦	内:口縁部に波状の線刻がめぐる	Bトレンチ表土 外:底部中央露胎
15	白磁 皿	口: 8.5 高: 1.6 底: 4.0 焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/3	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口縁部は外反する/口唇部は丸く収める		Dトレンチ表土 外:底部中央露胎
16	染付 皿	口: 9.6 高: 2.1 底: 5.0 焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口縁部は外反する/口唇部は丸く収める	外:口縁部～体部/呉須唐草文 内:口縁部に呉須園線2/底面 周縁に園線2	Dトレンチ表土 外:高台露胎
17	越前焼 大甕	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に短く上方へ立ち上がる/凹面がめぐる	外:ヨコナデ 内:ナデ/指頭痕	Bトレンチ表土 水田石垣
18	越前焼 鉢	焼: 良好 色: 暗灰色	微砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ開く/口縁部は丸く収める	外:回転ナデ 内:回転ナデ	Fトレンチ
19	越前焼 大甕	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に内傾して上方へ立ち上がる/凹面がめぐる	外:胴部上位ナデ 内:胴部上位ナデ/指頭痕	Fトレンチ SK5355
20	越前焼 大甕	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に内傾して上方へ立ち上がる/凹面がめぐる	外:胴部上位ナデ/大の押印 内:胴部上位ナデ/指頭痕	Fトレンチ SK5355
21	越前焼 大甕	焼: 良好 色: 赤紫色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に内傾して上方へ立ち上がる/口縁部内側に段あり	外:胴部上位ナデ/押印 内:胴部上位ナデ/指頭痕	Fトレンチ SK5355
22	越前焼 大甕	口: 66.0 高: 34.5 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に内傾して上方へ立ち上がる/口縁部内側に段あり	外:胴部上位ナデ/押印 内:胴部上位ナデ/指頭痕	Fトレンチ SK5355 外:自然釉

石製品(第30図)

単位: cm/g

No	器種	法量(最大値)				残存	石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長径	短径	厚	重					
23	砥石	7.8	3.6	1.0	—	4/5	凝灰岩 淡赤褐色 硬質	形状:柱状直方体/上端部欠損 砥面/表裏面・左右側面・ 下端面 断面四角形	砥面5 粒度:密 中砥 浄教寺砥石	Fトレンチ
24	板石	22.1	16.3	5.2	—	1/2	凝灰岩 淡褐色 軟質	形状:板状直方体 表裏:粗いタタキ 側面:平滑/面取り	笏谷石 暗渠蓋石	Bトレンチ 全面被熱・スス附着

第 112 次調査出土遺物(PL. 63~67 第 31~40 図、第 4 表)

第 112 次調査の遺物は、1~238 を掲載した。包含層出土遺物は区域不明なものが多い。内訳は第 I ~VI・VIII 区域の土器(陶磁器類) 1~194、金属製品 195~197、土製品 198~201、石製品 202~214、銭貨 215~238 である。詳細は第 4 表に記し、以下、特徴的なものについて概要を述べる。

包含層出土土器(PL. 63・64 第 31~33 図)

第 112 次調査における包含層とは、表土から上層遺構の検出面に至るまでの複数層を指す。越前焼甕 1~6 は口端部が平坦であり、口縁部下位が強い稜線となって凹面に調整されている。捏鉢 12 は内面に「十」のヘラ記号が入る。播鉢 13 の内面には弓矢状にヘラ記号が入る。卸皿 15 は口径 20.6cm を測り、浅皿形を呈す。底面に幅 1.9cm・9 条の卸目を密に入れる。壺 16 は短い胴形の胴部を呈し、お歯黒壺と考える。

土師器小皿は 17~51 は浅皿形 C 類、杯形 C 類が大半を占める。盤形 D 類は見られない。全体的に口端部にスガが付着し、灯明皿として使用されたものが多い。また、18・19・23~28・34~37・39・40・44~46 に見られるように、製作段階で意図して片口状に歪ませているものも少なくない。26・32・36 は口端部に強いヨコナデによる段をもつ。21・22 は中型品であり、口径 13.1~13.3cm を測る。口端部は強いヨコナデで調整されるが、底部は未調整である。44 は外面に赤色化粧土の痕跡が残る。50 は口径 23.0cm を測る大型品であり、器厚は薄く 0.3mm を測る。内外面はミガキで調整され、鎌倉期まで遡ると考えられる。

鉄釉天目茶碗 52~55 はやや内湾して外方へ立ち上がり、口端部で上方に屈曲し口唇部は短く外傾し丸く収める。体部下位~底部は露胎する。54 には黄茶色の釉がかかる。56 は台付き瓶の脚部であるが、黒褐色の釉は脚部下位にはかからない。完形品ならば細長い器形を呈す花瓶と考える。皿 57 は口径 5.1cm の小型品である。口縁部は内湾し、底部は蛇の目高台である。外面はほとんど露胎する。

灰釉卸皿 59 は精緻品であるが、灰釉は口端部付近までしか掛からない。体部下位は回転ヘラケズリで調整し、底部に右回転糸切り痕が残る。捏鉢 65 は口径 29.7cm を測る。回転ナデで仕上げられ、口端部は凹み、受口状を呈す。内外面体部下位は露胎する。

青磁碗 68 は底部のみが残存し、内面底部に圏線と「金」の字が陰刻されている。周縁は粗いながらも円形に欠損し、土製円盤として再利用した可能性がある。鉢 70 は口径 30.0cm を測り、体部は C 字状に強く内湾する。体部全体には算木文を陽刻する。瓶 72 は外反した後、口端部が直立する。頸部に蓮花文が陰刻され、72 と同一個体となる可能性がある。瓶 73 は器高 25.0cm を測る中型品であり、口縁部は外反して開き、胴部は倒卵形を呈す。頸部に 2 条、胴部に 3 条の稜が入る。底面の器厚は 2.0cm を測り厚い。掛花生 75 は完形の優品である。口径 6.0cm、器高 14.7cm を測り、口縁部は波形に押圧され、体部下位まで鎬が 7 条入る。頸部の左右に長方形の耳が付く。背面は平坦であり、体部の水平断面は蒲鉾状を呈す。底面は露胎する。

染付皿 80・82 は底部内面に圏線 2 を入れ、玉抱き獅子文を配置している。向付 84 は体部を圏線で区画し、上段に草花文、下段に宝珠文を描く。85 も同じ構図を採用している。杯 86 は外面に草花文、底部内面に太湖石を配置し、一乗谷で多く出土している。

第 I 区域遺構出土土器(PL. 64 第 33 図)

SV5063 出土(PL. 64 第 33 図) 越前焼甕 90 の胴部外面に弓矢状にヘラ記号が入る。青磁稜花皿 95 は口径 20.2cm を測る。間隔をあけて切れ込みを入れ、口縁部を花卉状に成形している。碗 96・97 は体部に線刻蓮花文が入り、底部内面にも陰刻花文が入る。瓶 98 は瓶の頸部であり、陽刻草花文をもつ。白磁皿 99 の底部は高台が楕円形を呈す。染付皿 101 は体部下位に芭蕉文がめぐり、内面の体部に呉須草花文、底部中央に呉須菊花文を描く。

SB5036 出土(第 34 図) 越前焼播鉢 110 は口径 33.0cm、器高 13.6cmを測る。外面は、回転ナデ調整され、体部下位に縄目痕が残る。内面は、体部に幅 2.7cm・10 条の卸目が入り、下位は摩耗している。口縁部に扇状卸目が入る。鉢 111 の口縁部は内湾し、体部は寸胴形である。

SK5074 出土(第 34 図) 土師器皿 114 は完形品であり、片口状に歪み、口端部にススが付着する。白磁輪花皿 116 は口唇部を緩い波状に成形し、体部内外を鎬状の花弁に成形する。

第 II 区域遺構出土土器(PL. 64 第 34 図)

SB5034 出土(PL. 64 第 34 図) 土師器皿 126～128 は口径 7.0～7.4cm、器高 1.6～1.8cmを測り、外面に指頭痕をもち、片口状に歪む。129 は口径 11.3cmを測り、口端部にヨコナデによる段をもつ。底部内面に墨痕が残る。青磁皿 130 は口径 13.4cmを測り、内面底部周囲に段を有す。

第 III 区域遺構出土土器(PL. 65 第 35 図)

SS5059 出土(PL. 65 第 35 図) 越前焼鉢 135～137 は口縁部が内湾して立ち上がり。底部は平底である。青磁琮形瓶 141 は直方体の胴部厚さ 0.5cmを測り外面に算木文を陽刻する。中国製壺 142 は黒色であり、口径 10.2cmを測る。口端部上端は内外に突出する。胴部上位で張る

SD5039 出土(PL. 65 第 35 図) 土師器皿 143～146 は口径 5.7～6.7cmを測る小型品である。143 は底部中央に焼成前穿孔を有す。148～151 は口径 8.2～9.3cmを測り、体部に指頭痕が残り、底部は平底である。青磁稜花皿 153 は口唇部を細かく押圧して花弁状に成形する。

SK5057 出土(PL. 65 第 35 図) SK5057 は埋壘遺構であり、越前焼壺 155・甕 156～158 が図化できた。156 は胴部が球形状に膨らむ。胴部上位には弓矢状のへラ記号が入る。156・158 は胴部上位にへラ記号をもつ。

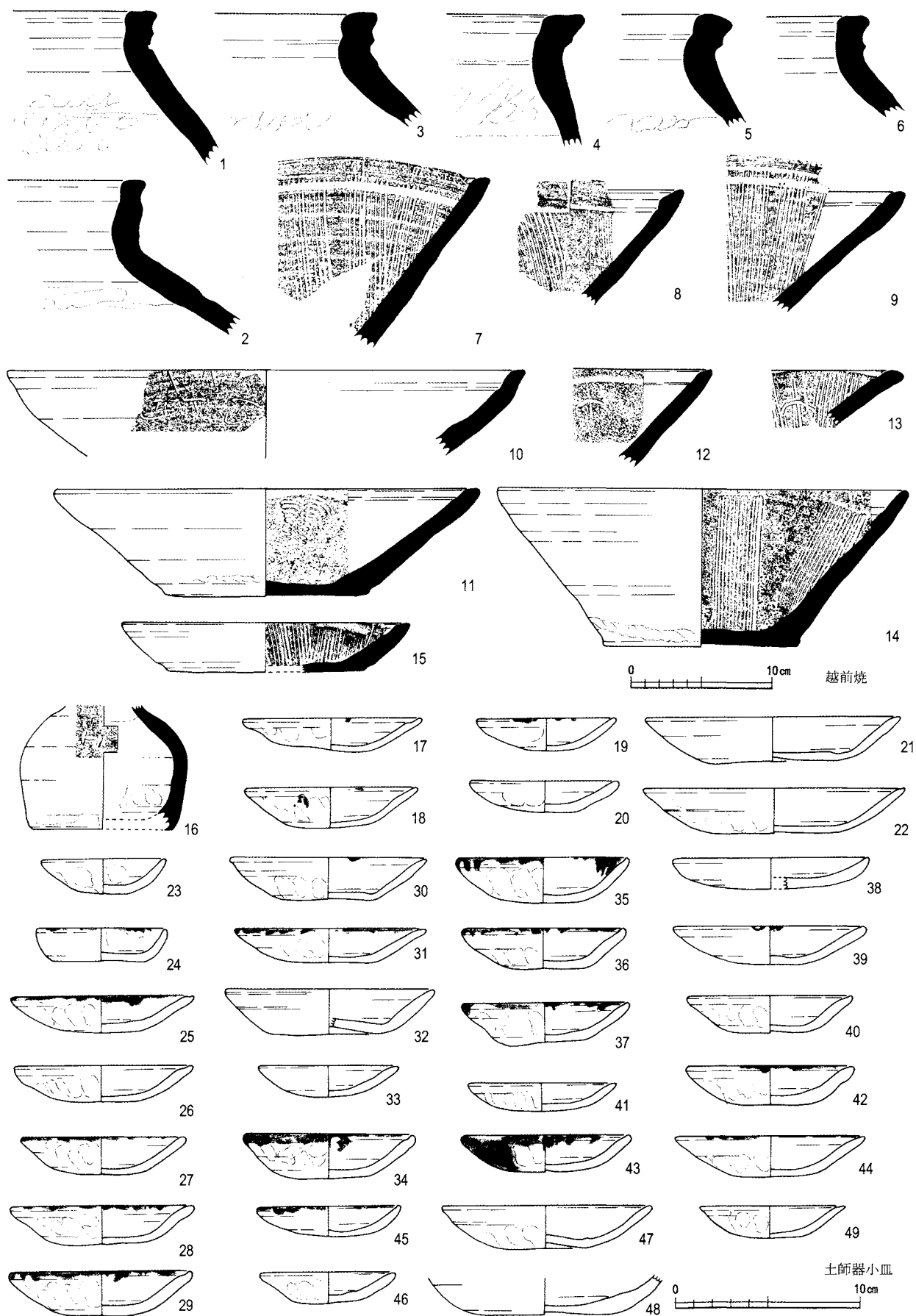
第 IV 区域遺構出土土器(PL. 64 第 34 図)

SF5051 出土(PL. 65 第 36 図) 土師器皿 161・163～166 は口端部にはススが付着し、片口状に歪むものが多い。青磁碗 167 は体部に線刻蓮花文を有し、内面に円形櫛歯文と花文を押印する。

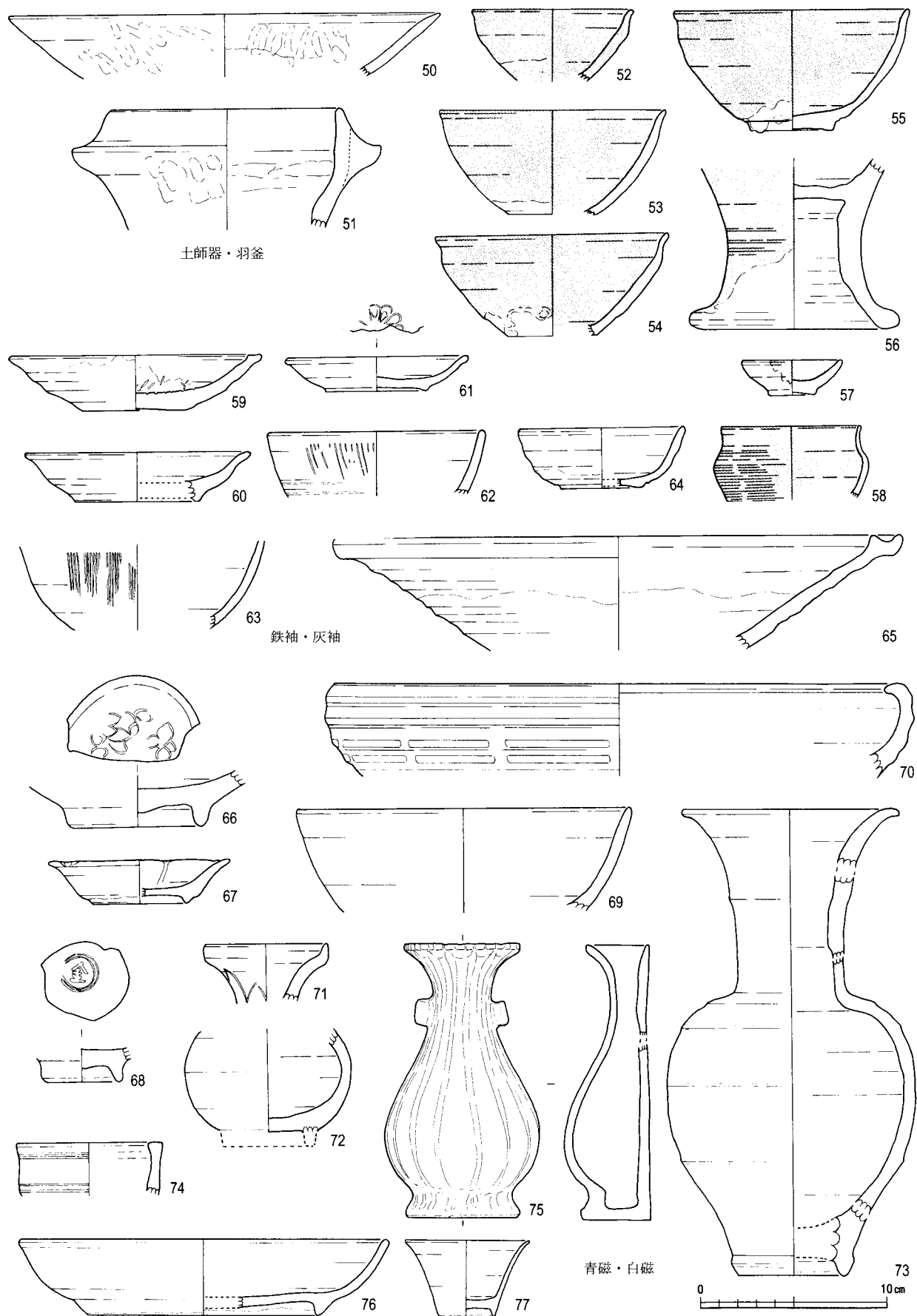
金属製品(PL. 66 第 37 図) 小柄 195 は中央が接合しないが、推定全長 15.3cmを測る。五徳 196 は支持部が残存する。環状鉄製品 197 は幅 2.2cm・厚さ 0.5cmの鉄板を巻いたものであり、貴金具と考える。

石製品(PL. 66・67 第 37～39 図) 板石 205・208・209 は、第 II 区域 SF5052 から出土した。205・208 は洗場の踏石と考えられる。204 は側辺に合欠加工、209 は側辺に L 字加工が見られ、廃棄された井戸杵材と考える。210 は幅 1.5cmを測る差込が 2 カ所あり、塔婆の台座と考える。石灯籠 211～214 は全て笏谷石製であり、第 I 区域 SV5063 下の八地谷川から出土した。212～214 は一体のものである。宝珠 212 のホゾは笠部 213 の頂部のホゾ穴に接続する。213 は上円下方形を呈し、辺幅 80cm、高さ 29.8cmを測る。四隅から方形の隅飾りが立ち上がり、頂部の露盤に向けて突帯が対角線状に延びる。竿部 214 は全長 120.0cm、幅 34.8cmを測り、頂部と底部に方柱状のホゾを有す。正面上位には舟形光背をもつ観音菩薩立像が陽刻され、下位に「三界萬靈七世父母等」と追善目的を刻む。左面には舟形光背をもつ阿弥陀如来立像が陽刻され、下位に「元龜二 未辛 年七月十一日」と誓願日が刻まれ、1571 年 7 月に造立したものと考えられる。出土時点では、銘文には漆を介した金箔が張り付いていたと報告されている。その他、右面には上位に舟形光背をもつ地藏菩薩立像が陽刻され、背面には上位に舟形光背をもつ釈迦如来立像が陽刻されていた。他の構成部位である火袋・中台・台座等については確認できなかった。

銭貨(PL. 67 第 40 図) 215-①～229 を資料化し、銭貨 16 枚が出土した。出土区域不明なものが多いが、第 I 区域の遺構から出土したものが一定量あり、216 「開元通宝」は SK5074、217 「祥符通寶」、218 「明道元宝」、226 「洪武通宝」は SX5069、225 「紹寧元宝」は SB5036 から出土した。

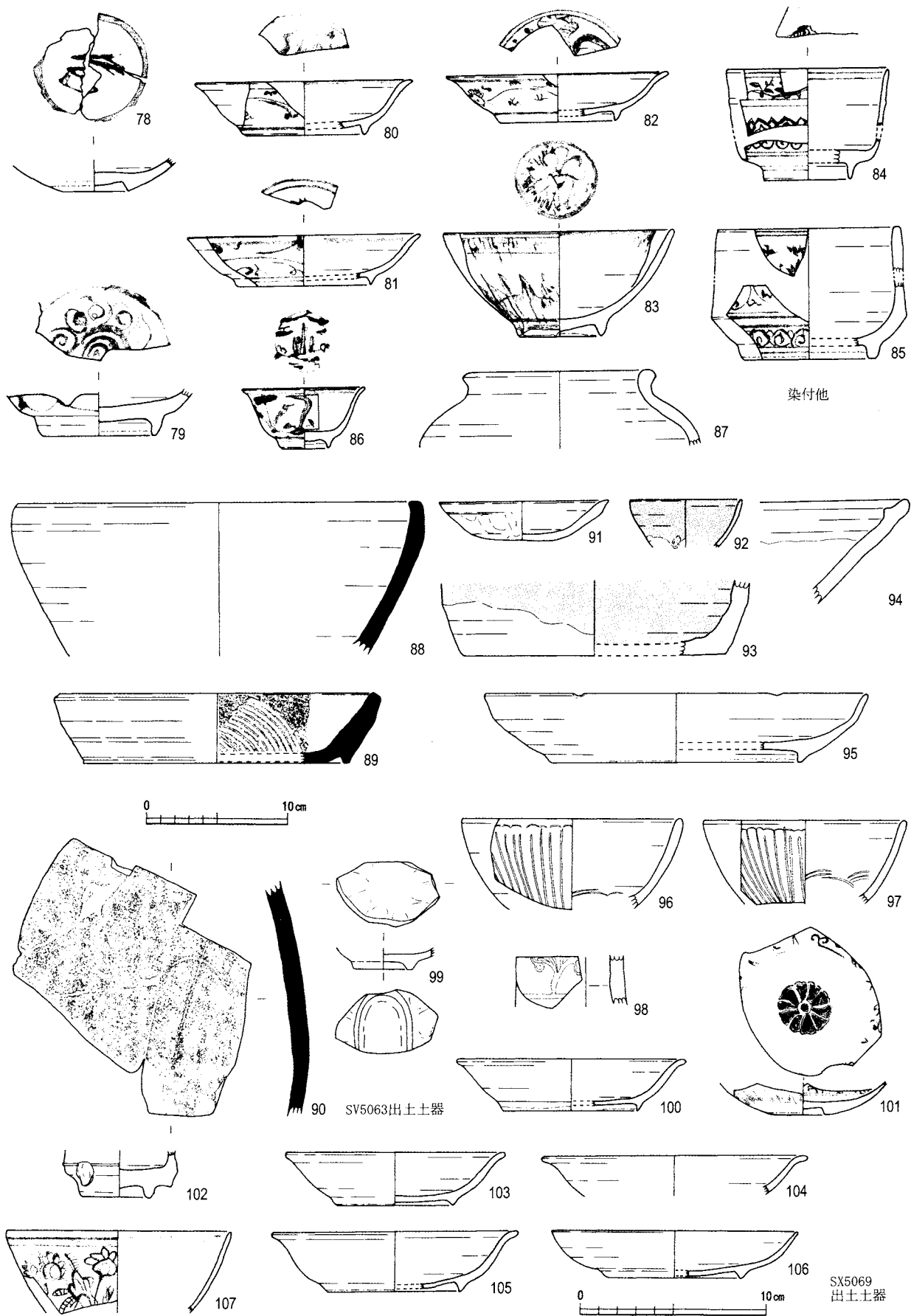


第31図 第112次調査 包含層出土土器(縮尺 1/3、1/4)

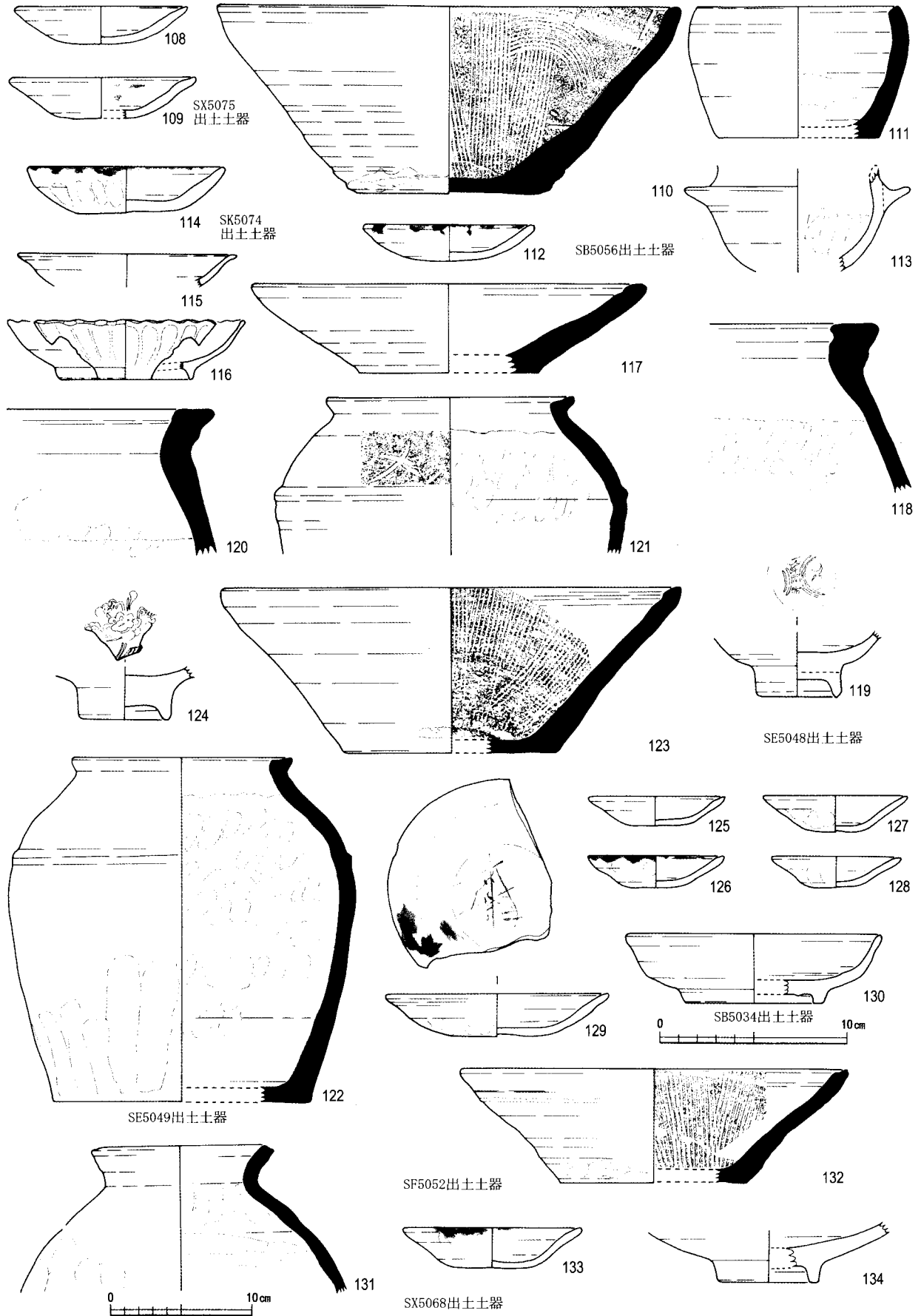


第 32 図 第 112 次調査 包含層出土土器(縮尺 1/3)

3. 遺物

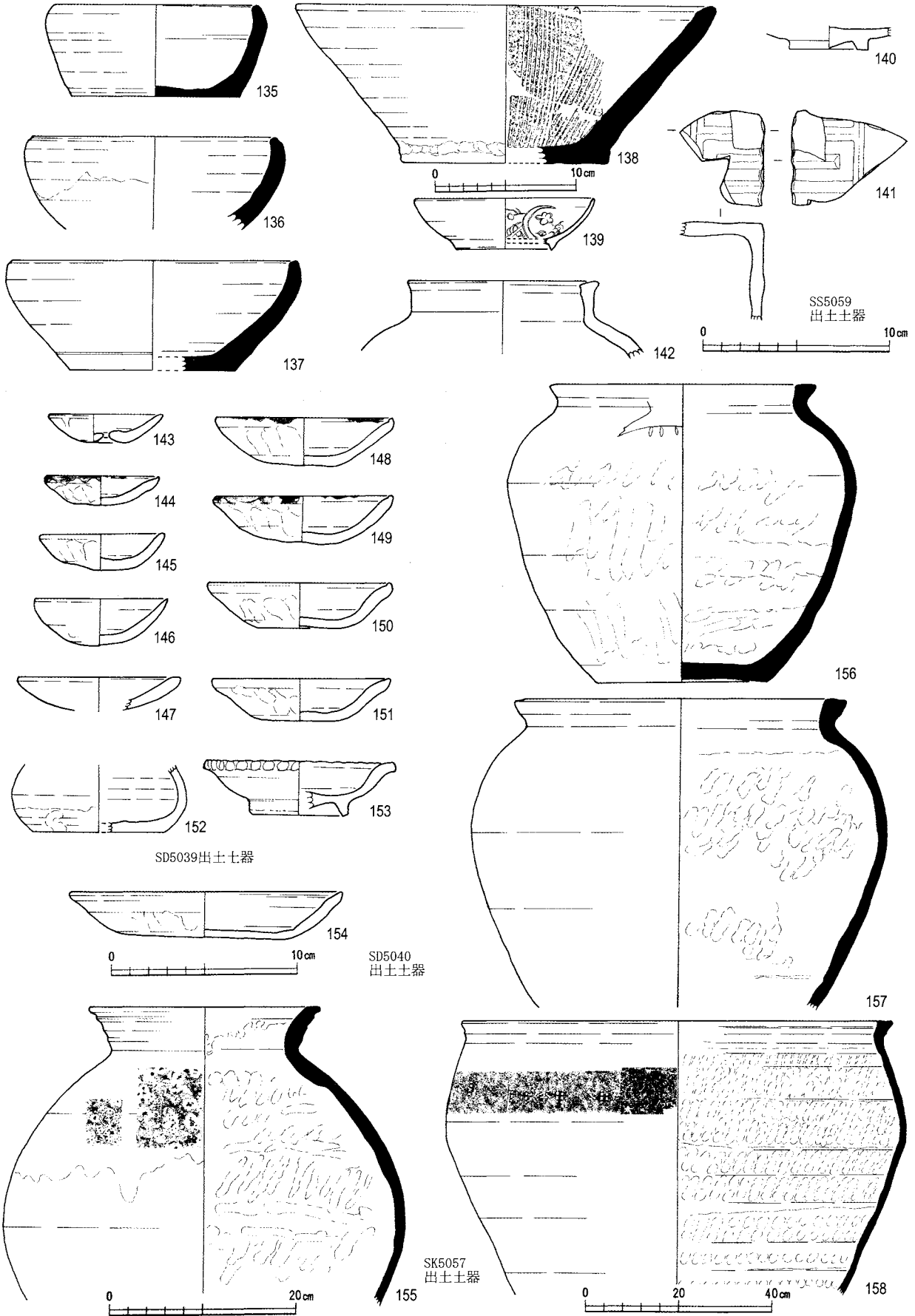


第33图 第112次調査 包含層出土土器、第I区域区画I遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)

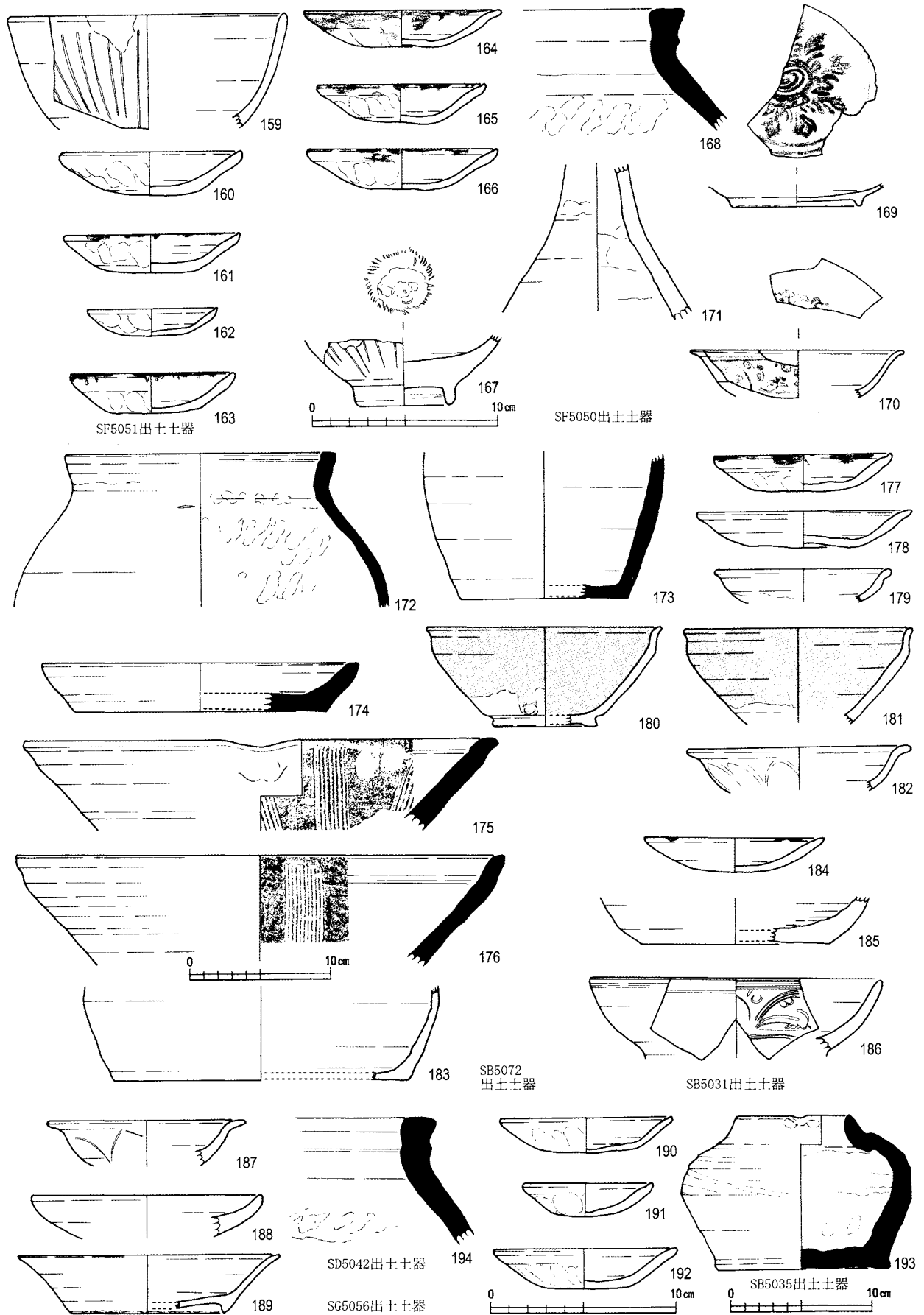


第34图 第112次調査 第I区域第I区画、第II区域区画II遺構出土土器(縮尺1/3、1/4)

3. 遺物

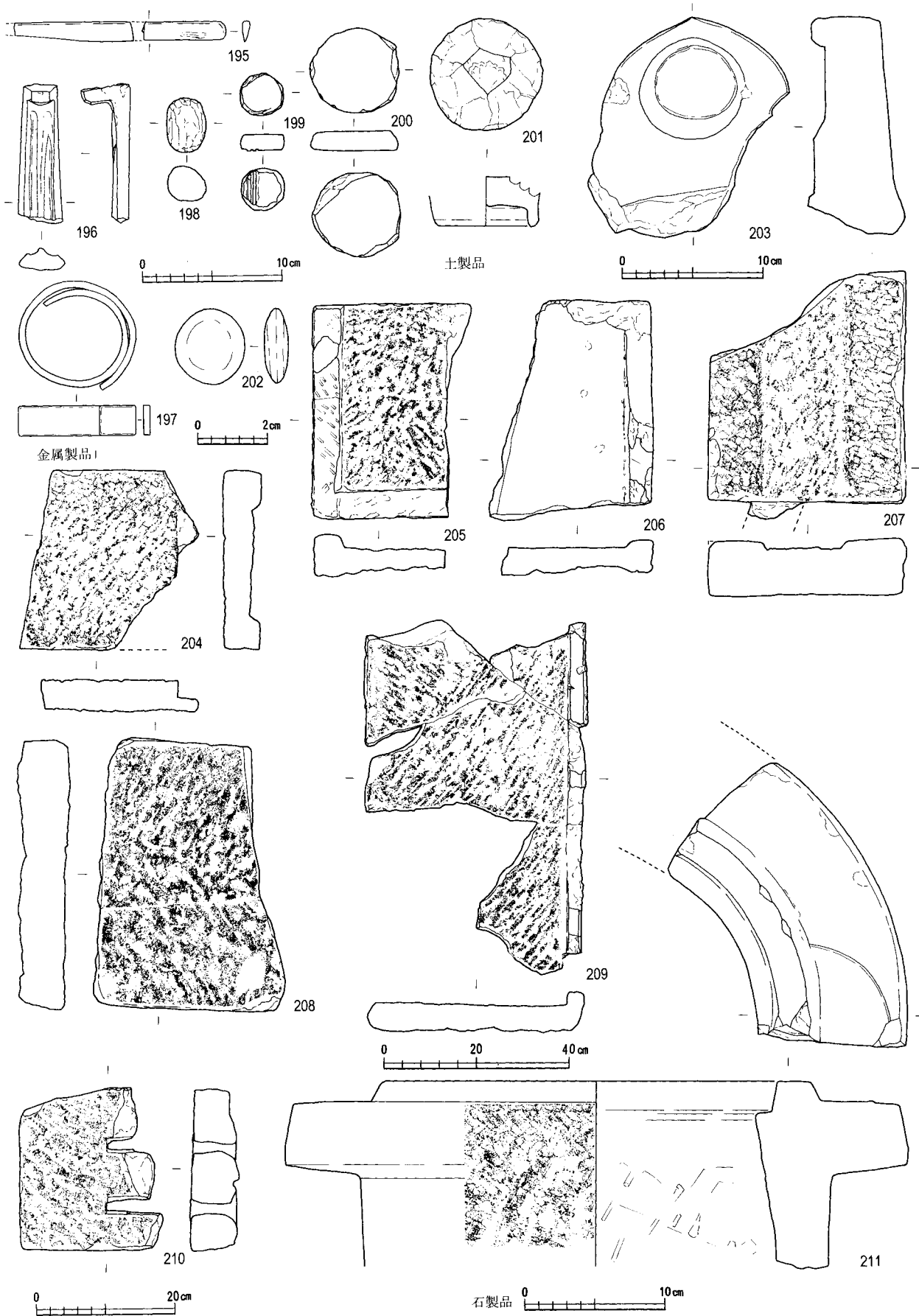


第 35 图 第 112 次調査 第Ⅲ区域区画Ⅲ遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4、1/6、1/12)

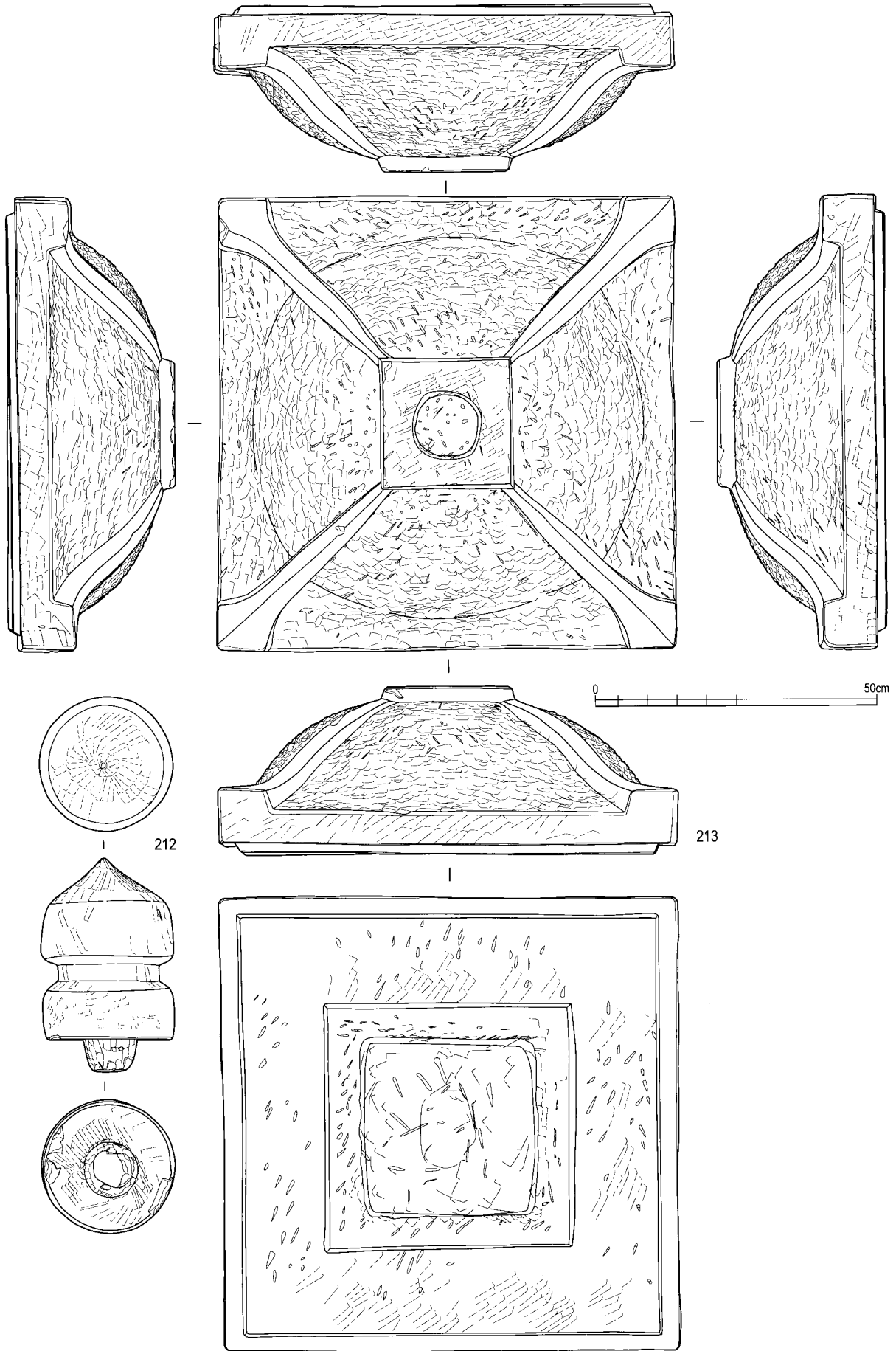


第 36 图 第 112 次調査 第IV区域区画IV、第V区域区画V、第VI区域区画VI、第VIII区域区画VIII遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)

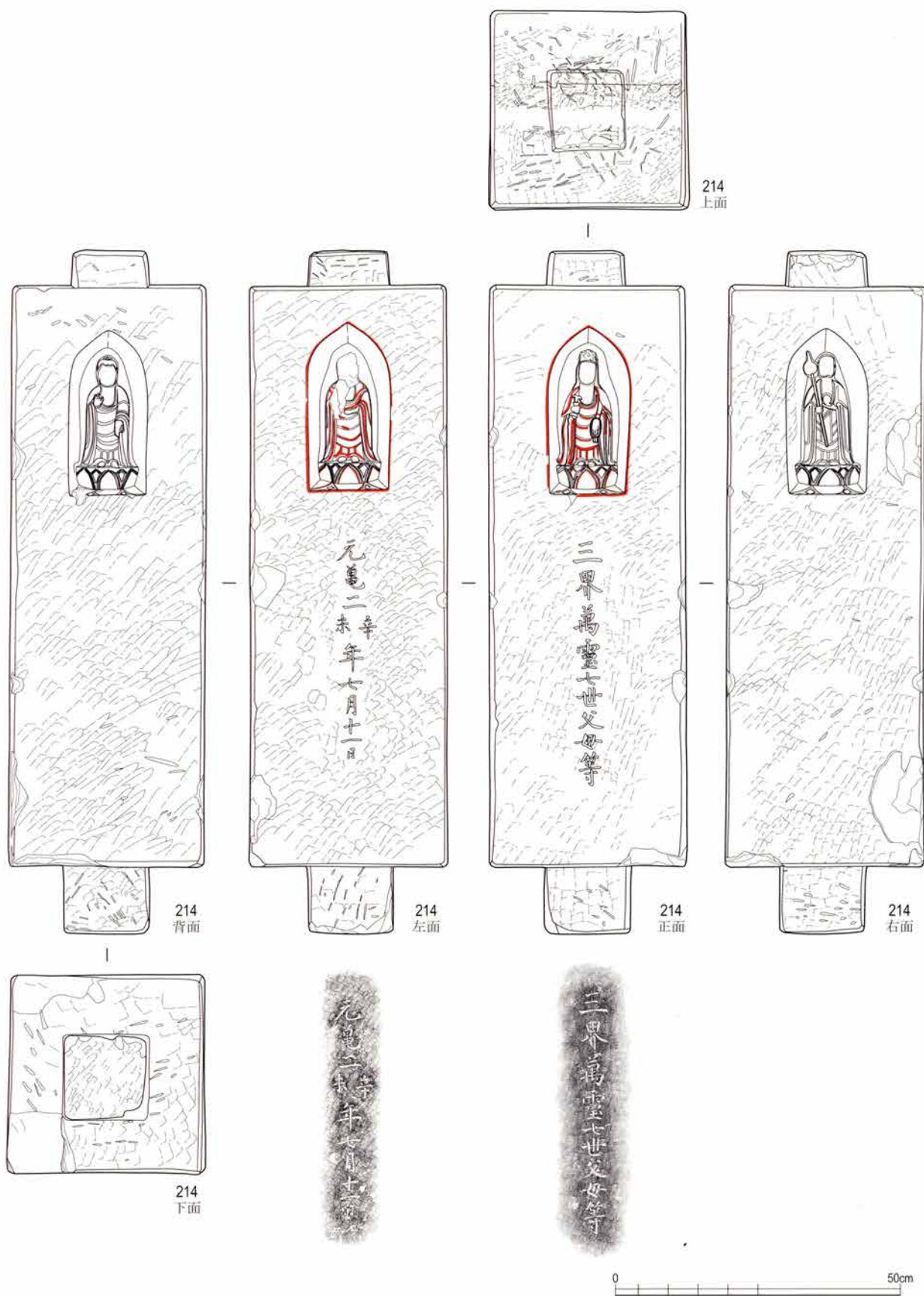
3. 遺物



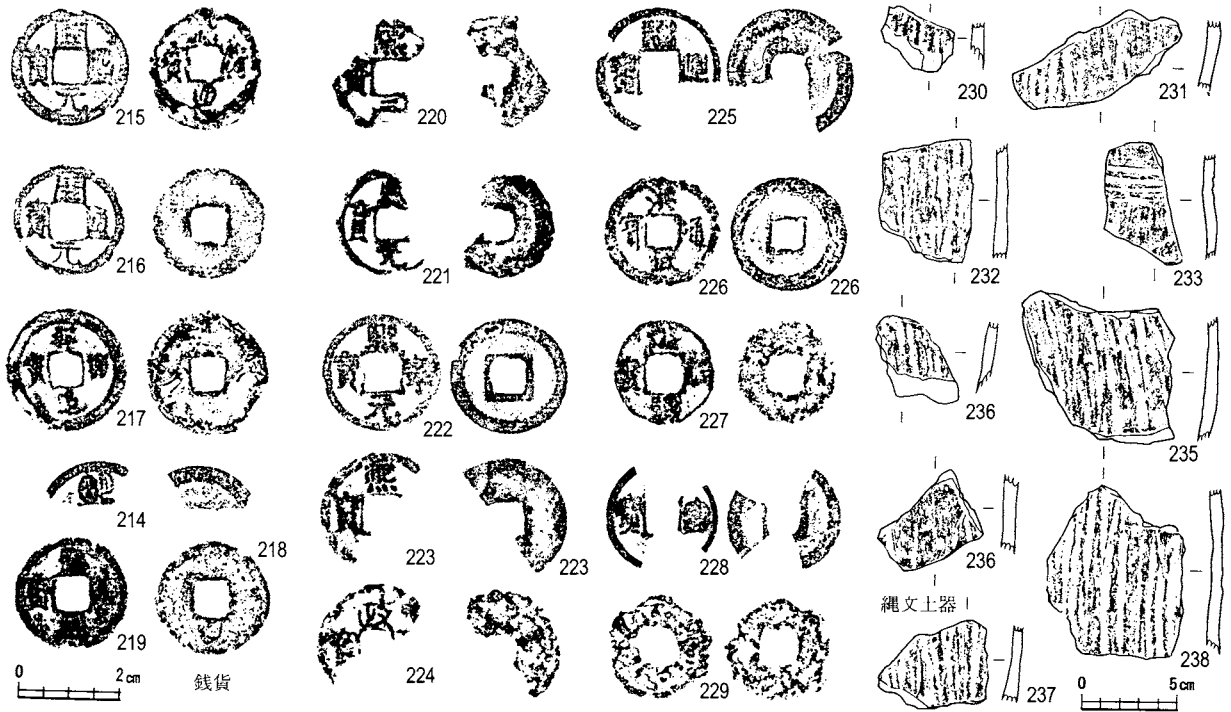
第37図 第112次調査 金属製品、土製品、石製品(縮尺1/3、1/4、2/3、1/8、1/12)



第38図 第112次調査 石灯籠(縮尺1/10)



第 39 図 第 112 次調査 石灯籠(縮尺 1/10)



第40図 第112次調査 錢貨、その他の遺物(縄文土器)

第4表 第112次調査出土遺物観察表(PL.63~67 第31~40図)

包含層出土陶磁器類(PL.63・64 第31~33図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
1	越前焼 大甕	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側に段をもつ 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ	第I区域 P25
2	越前焼 甕	焼: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ	第VI区域 G23 胴部上位自然釉
3	越前焼 甕	焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側に段をもつ 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ	区域不明
4	越前焼 甕	焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ	第V区域 A29
5	越前焼 甕	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側に段をもつ 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ	第V区域 D28
6	越前焼 甕	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側浅く凹む 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ	第VIII区域 J30
7	越前焼 播鉢	焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は平坦/口端部内側に凹線	外:回転ナデ 内:回転ナデ 内面に幅3.0cm・9条の卸目	区域不明
8	越前焼 播鉢	焼: 良好 色: 灰色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ開く/口端面は丸く収める/口端部内側に段あり	外:回転ナデ 内:回転ナデ 内面に幅2.9cm・9条の卸目	第I区域 Y29
9	越前焼 播鉢	焼: 良好 色: 灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は丸く収める/口端部内側に段あり	外:回転ナデ 内:回転ナデ 内面に幅1.8cm・7条の卸目	第I区域 Q25
10	越前焼 捏鉢	口: 高: 37.2 焼: 6.0 良好 色: 明赤茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ開く/口端面は丸く収める/口端部内側に段あり	外:回転ナデ 内:回転ナデ	第VI区域 N29

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
11	越前焼 捏鉢	口: 30.6 高: 7.9 底: 14.4 焼: 良好 色: 明赤茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/3	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は丸く 収める/口端部内側に段あり	外:回転ナデ/体部下位に縄目 痕 内:回転ナデ/底面ナデ 内面に2個1組の同心円押印が 4方向にあり	第Ⅷ区域 I30
12	越前焼 捏鉢	焼: 良好 色: 暗紫灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は丸く 収める/口端部内側に段あり	外:回転ナデ 内:回転ナデ 内面に「十」のヘラ記号	第Ⅴ区域 H27
13	越前焼 播鉢	焼: 良好 色: 明赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は丸く 収める/口端部内側に段あり	外:回転ナデ 内:回転ナデ 内面に幅2.7cm・10条の卸目/ 弓矢状のヘラ記号	第Ⅱ区域 O・N23・24 内:降灰
14	越前焼 播鉢	口: 29.4 高: 10.4 底: 14.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は丸く 収める/口端部内側に浅い凹線	外:回転ナデ/底部ナデ/体部 下位に縄目痕 内:回転ナデ 内面に幅2.9cm・14条の卸目	区域不明 内:自然釉・降灰
15	越前焼 卸皿	口: 20.6 高: 3.6 底: 14.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口 端面は浅い凹面/口端部内側に浅い凹線	外:回転ナデ/底部ナデ 内:回転ナデ/幅1.9cm・9条の 卸目 シャープな仕上げ	第Ⅵ区域 P29
16	越前焼 壺	高: 9.0 底: 10.0 焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	胴部:上位で窄まる/下位寸胴形 底部:平坦	外:回転ナデ/底面ナデ/上位 に「H」状のヘラ記号/下位ヘ ラケズリ 内:回転ナデ後指頭痕/底面ナ デ	区域不明
17	土師器 小皿	口: 9.2 高: 1.7 底: 4.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ/赤色化粧土 内:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ	区域不明 片口状に歪む
18	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.1 底: 4.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がり、 口端部は緩く外方へ屈曲する/口唇部は上 方へ立ち上がり丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部指頭 痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ	区域不明 片口状に歪む 口端部1/3スス附着
19	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.7 底: 2.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	区域不明 片口状に歪む 口端部一部スス附着
20	土師器 小皿	口: 7.7 高: 1.6 底: 3.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅵ区域
21	土師器 小皿	口: 13.1 高: 2.3 底: 7.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ /底部未調整 内:口縁部～体部ヨコナデ/底 部ナデ/底部周縁に凹線	区域不明
22	土師器 小皿	口: 13.3 高: 2.3 底: 7.4 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は上方へ立ち上がり丸く収める 体部:段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部未調整 内:口縁部～体部ヨコナデ/底 部ナデ	区域不明 外:底部摩耗
23	土師器 小皿	口: 6.4 高: 1.8 底: 5.0 焼: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～底部ナデ・指頭 痕 内:口縁部～底部ナデ・指頭 痕	第Ⅰ区域 W26 片口状に歪む
24	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.6 底: 4.7 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅰ区域 Q22 片口状に歪む 口端部一部スス附着
25	土師器 小皿	口: 9.3 高: 1.9 底: 5.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部～体部ヨコナデ/底 部ナデ	第Ⅰ区域 Q23 片口状に歪む 口端部全周スス附着
26	土師器 小皿	口: 9.2 高: 1.9 底: 5.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部～体部ヨコナデ/底 部ナデ	第Ⅰ区域 U22 片口状に歪む

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点 備 考
27	土師器 小皿	口: 8.5 高: 1.9 底: 4.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底 部ナデ	第I区域 V26 片口状に歪む 口縁部全周スス附着
28	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.0 底: 5.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がり、 口端部で緩く外方へ屈曲する/口唇部は丸 く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部未調整 内:口縁部~体部ヨコナデ/底 部ナデ	第I区域 Q27 片口状に歪む 口縁部全周スス附着
29	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.2 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がり、 口端部で緩く外方へ屈曲する/口端部内側 に段あり/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~体部ヨコナデ	第I区域 R28 口縁部全周スス附着
30	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.1 底: 5.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がり、 口端部で緩く外方へ屈曲する/口端部内側 に段あり/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部~体部ヨコナデ/底 部ナデ	第I区域 V24 口縁部一部スス附着
31	土師器 小皿	口: 9.7 高: 1.8 底: 4.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がり、 口端部で緩く外方へ屈曲する/口唇部は丸 く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部~底部ナデ	第I区域 X23 口縁部全周スス附着
32	土師器 小皿	口: 10.6 高: 2.3 底: 5.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口端部に段あり 底部:凹底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 U28
33	土師器 小皿	口: 7.1 高: 1.6 底: 4.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第II区域 P25
34	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.3 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 J26 片口状に歪む 口縁部全周スス附着
35	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.3 底: 4.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 J26 片口状に歪む 口縁部全周スス附着
36	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.2 底: 3.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部でやや外方に屈曲/口端部内側に 段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 H22 片口状に歪む 口縁部全周スス附着
37	土師器 小皿	口: 9.2 高: 4.4 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 J25 片口状に歪む 口縁部全周スス附着
38	土師器 小皿	口: 10.0 高: 1.6 底: 6.4 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:内湾して短く斜め外方へ立ち上 がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第V区域 H28
39	土師器 小皿	口: 9.8 高: 1.9 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底 部ナデ 内:口縁部~底部ヨコナデ	第IV区域 J23 片口状に歪む 口縁部一部スス附着
40	土師器 小皿	口: 8.5 高: 1.9 底: 4.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 J23 片口状に歪む
41	土師器 小皿	口: 7.6 高: 1.5 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 D23

3. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点
						備考
42	土師器 小皿	口: 8.5 高: 2.0 底: 3.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部~底 部ナデ 内:口縁部~底部ヨコナデ	第V区域 D22 口端部3/4スス付着
43	土師器 小皿	口: 8.7 高: 1.9 底: 3.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ/底面に 径0.4cmの穿孔1 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第VI区域 V30 口端部内外スス付着
44	土師器 小皿	口: 9.7 高: 2.0 底: 3.4 焼: 良好 色: 淡黄褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第VI区域 V30 片口状に歪む 内・外:赤色化粧土口 端部スス付着
45	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.5 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第VI区域 N29 片口状に歪む 口端部スス付着
46	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.6 底: 3.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第VI区域 N29 片口状に歪む
47	土師器 小皿	口: 10.7 高: 2.2 底: 4.4 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める/口端 部段あり 底部:凹底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ /底部周縁凹線	第VI区域 V30
48	土師器 小皿	高: 1.9 底: 6.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる 底部:平底	外:口縁部~体部ナデ/底部回 転ヘラ切り痕 内:口縁部~底部ナデ	第VI区域 V30
49	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.7 底: 3.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める/口端 部段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~底部ヨコナデ	第VIII区域 I30 片口状に歪む
50	土師器 皿	口: 23.0 高: 3.3 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/10	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める	外:口縁部~体部ミガキ 内:口縁部~体部ミガキ	第IV区域 H25 内:漆付着
51	土師器 羽釜	口: 14.3 高: 8.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直上へ短く立ち上がる/口唇部は丸 く収める 受部:平滑/幅1.3cm 体部:ヘラナデ	外:口縁部~受部回転ナデ/体 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 後指頭痕	第I区域 W27
52	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 8.6 高: 4.0 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がり、口縁 部でやや外反して屈曲。口唇部は短く外傾 し丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナ デ 内:口縁部~体部下位回転ナ デ	第VI区域 R30 外:体部下位露胎
53	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.8 高: 5.6 焼: 不良 色: 黒褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がり、口縁 部でやや外反して屈曲。口唇部は短く外傾 し丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナ デ 内:口縁部~体部下位回転ナ デ	第V区域 D22 外:体部下位露胎
54	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.2 高: 5.5 焼: 良好 色: 透黄茶色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:内湾して外方へ立ち上がり、口縁 部でやや外反して屈曲。口唇部は短く外傾 し丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナ デ 内:口縁部~体部下位回転ナ デ	第I区域 X23 外:体部下位露胎
55	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.3 高: 6.5 底: 4.4 焼: 良好 色: 濃黒茶色	極砂粒 精緻 1/2	口縁部:内湾して外方へ立ち上がり、口縁 部でやや外反して屈曲。口唇部は短く外傾 し丸く収める 底部:蛇の目高台	外:口縁部~体部下位回転ナ デ 内:口縁部~体部下位回転ナ デ	第II区域 P25 外:体部下位露胎 内:体部下位露胎 底部トチン3ヶ所
56	瀬戸美濃 鉄釉 台付き瓶	高: 9.3 底: 12.0 焼: 良好 色: 黒褐色	極砂粒 精緻 1/10以下	脚部:底部からやや開きながら端部でハの 字に開く	外:回転ナデ 内:回転ナデ	第VI区域 P30 外:脚部下位露胎
57	瀬戸美濃 鉄釉 皿	口: 5.1 高: 1.9 底: 2.3 焼: 良好 色: 灰白色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収める 底部:蛇の目高台	外:口縁部~体部下位回転ナ デ/底部右回転糸切り痕 内:口縁部~体部下位回転ナ デ	第VI区域 U29 外:鉄釉露胎 内:鉄釉

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
58	瀬戸美濃 鉄釉 広口壺	口: 7.2 高: 3.9 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 精緻 1/10以下	口縁部: やや外反して上方へ開く/口唇部は丸く収める/胴部上位で張る	外: 胴部カキメ 内: 胴部回転ナデ	第IV区域 J22
59	灰釉 鉢皿	口: 13.2 高: 3.0 底: 5.8 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部内側は突出/口端部外側は上方へ立ち上がる/口端面は浅く凹む	外: 口縁部～体部回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ/底部右回転糸切り痕 内: 口縁部～体部回転ナデ/底部卸目	第VI区域 R30 外: 体部灰釉露胎
61	灰釉 小皿	口: 9.4 高: 1.8 底: 5.4 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/4	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は弱く外反する/口唇部は丸く収める	外: 口縁部回転ナデ/底部高台ケズリ出し 内: 口縁部回転ナデ/底面中央に菊花文押印	第I区域 X26
62	灰釉 碗	口: 11.6 高: 3.3 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部: 腰部で内湾する	外: 口縁部回転ナデ/体部櫛歯文 内: 口縁部回転ナデ	区域不明
63	灰釉 碗	口: 12.5 高: 5.0 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部: 腰部で内湾する	外: 口縁部回転ナデ/体部櫛歯文 内: 口縁部回転ナデ	第IV区域 J24
64	灰釉 小皿	口: 8.6 高: 3.2 底: 4.4 焼: 良好 色: 淡緑色	極砂粒 堅緻 1/8	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部: 腰部で内湾する	外: 口縁部回転ナデ/底部高台ケズリ出し 内: 口縁部回転ナデ	第II区域 L24
65	灰釉 捏鉢	口: 29.7 高: 6.0 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側は突出/口端部外側は上方へ立ち上がる/口端面は浅く凹む	外: 口縁部～体部回転ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ	第V区域 G24 内・外: 体部灰釉露胎
66	青磁 碗	高: 3.0 底: 6.8 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下		内: 底面中央に陰刻花文	第VI区域 V30
67	青磁 稜花皿	口: 9.4 高: 3.3 底: 5.0 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/5	口縁部: 外反して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収め、緩い波状に成形し花弁状にする		第III区域 I26 外: 底面露胎
68	青磁 碗	高: 1.7 底: 4.0 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下		内: 底面中央に圏線2と「金」の陰刻	区域不明 内: 底面露胎 土製円盤か?
69	青磁 碗	口: 17.8 高: 5.5 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		第V区域 A26
70	青磁 鉢	口: 30.0 高: 5.0 焼: 良好 色: 濃オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して立ち上がる/口端部内側は突出	外: 体部に算木文陽刻	第V区域 D24
71	青磁 瓶	口: 6.4 高: 3.0 焼: 良好 色: 濃オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 外反して立ち上がる/口端部は上方へ突出/口唇部は丸く収める	外: 口縁部下に蓮花文陰刻	区域不明
72	青磁 瓶	高: 6.2 底: 5.0 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	胴部: 扁球形		区域不明 外: 被熱
73	青磁 瓶	口: 11.6 高: 25.0 底: 5.8 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 外反して開く/口唇部は丸く収める 胴部/倒卵形/上位膨らむ/底部窄まる	外: 口縁部～胴部下位回転ナデ/頸部中央、胴部上・中。下位に稜をもつ 内: 口縁部～胴部上位回転ナデ	区域不明 外: 高台端面露胎
74	青磁 香炉	口: 7.4 高: 2.8 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる/口端部内側突出/口端部は平坦	外: 回転ナデ/2条の沈線が口端部、体部中位にめぐる 内: 回転ナデ	第VIII区域 I30 第I区域U27
75	青磁 掛花生	口: 6.0 高: 14.7 底: 5.8 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/1	口縁部: 外反して開く/頸部左右に長方形の板状の耳が付く/胴部は下膨れ/高台はハの字	外: 口端部は波状/口縁部～底部にかけて鐳が入る/背面は平坦	第V区域 A29 外: 底面露胎
76	白磁 皿	口: 11.8 高: 4.0 底: 12.2 焼: 精緻 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第V区域 A29 外: 底面露胎

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土	形状	調整 / 文様	出土地点
			残存			備考
77	白磁杯	口: 6.6 高: 4.0 底: 3.0 焼: 精緻 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部: 外反して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第V区域 A25 外: 底面露胎
78	染付皿	高: 1.8 底: 3.6 焼: 良好 色: 暗褐色	軟質 1/3	底部: 基筒底	外: 体部下位に呉須圏線2 内: 底部中央に圏線1/圏線内に草花文	第V区域 G23/H25 外: 底面露胎
79	染付碗	高: 2.3 底: 6.0 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/8	底部: 削出高台	外: 体部下位に唐草文 内: 底部中央に圏線1/圏線内に牡丹文	第V区域 G24 外: 高台端面露胎
80	染付皿	口: 11.6 高: 2.9 底: 6.2 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部上位に呉須圏線1/体部に呉須の草花文 内: 口端部に圏線2/底面周縁に圏線2/中央に呉須の玉抱き獅子文	区域不明 高台端面露胎
81	染付皿	口: 12.4 高: 2.7 底: 7.0 焼: 良好 色: 透灰色	精緻 1/6	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部上位に呉須圏線1/体部に呉須の草花文 内: 口端部に圏線1/底面周縁に圏線2	第I区域 W23 高台端面露胎
82	染付皿	口: 11.8 高: 2.5 底: 6.2 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/4	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部上位に呉須圏線1/体部に呉須の草花文 内: 口端部に圏線1/底面周縁に圏線2/中央に呉須の玉抱き獅子文	区域不明 高台端面露胎
83	染付碗	口: 12.2 高: 5.7 底: 4.4 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 2/3	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部上位に呉須圏線1/体部に呉須芭蕉文 内: 口端部に圏線1/底面中央に圏線1・圏線内に呉須花文	第VI区域 V30 高台端面露胎 漆継ぎ
84	染付向付	口: 8.8 高: 6.0 底: 4.6 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	口縁部: 寸胴形/やや外傾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部に呉須圏線2・草花文・呉須圏線2/体部に呉須宝珠文・圏線2/高台に圏線2 内: 口端部に圏線1/底面中央に呉須文様	第VI区域 S30/T30
85	染付向付	口: 9.8 高: 7.0 底: 7.0 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	口縁部: 寸胴形/やや内傾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/腰部屈曲 底部: 削出高台	外: 口縁部に呉須圏線2・草花文/腰部に呉須圏線2/体部下位に呉須圏線1・宝珠文/高台に圏線2	区域不明 高台端面露胎
86	染付杯	口: 6.6 高: 3.0 底: 2.6 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 2/3	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部上位に呉須圏線1/体部に呉須の草花文/高台に圏線2 内: 口端部に圏線2/底面周縁に圏線2/中央に呉須太湖石文	区域不明 外: 高台中央に呉須「福」
87	中国製壺	口: 10.2 高: 4.1 焼: 良好 色: 灰色	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に短く上方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める 胴部: 上位大きく張る	外: 口縁部～胴部上位回転ナデ 内: 口縁部～胴部上位回転ナデ	区域不明 外: 胴部上位自然釉

第I区域遺構出土土器(PL. 64~66 第33~36区)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土	形状	調整 / 文様	出土地点
			残存			備考
88	越前焼鉢	口: 28.4 高: 11.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ開く/口端面は平坦	外: 口縁部～体部上位粗いカキメ 内: 口縁部～体部回転ナデ回転ナデ	第I区域 Z22-25/SV5063
89	越前焼御皿	口: 23.4 高: 5.0 底: 19.0 焼: 良好 色: 灰黒色	微砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部は平坦 底部: 削出高台	外: 回転ナデ/底部ナデ 内: 回転ナデ/幅2.8cm・8条の卸目 シャープな仕上げ	第I区域 Z22-25/SV5063
90	越前焼壺	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下		外: 胴部ナデ/胴部上位弓矢状のヘラ記号 内: 胴部ナデ・指頭痕	第I区域 Z22-25/SV5063 第III区域SK5057 第IV区域I25
91	土師器小皿	口: 8.6 高: 2.0 底: 4.1 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/体部に段あり/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 Y27/SV5063 片口状に歪む

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点 備 考
92	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 6.0 高: 2.6 焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部回転ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ	第I区域 Y27/SV5063 片口状に歪む 外: 体部下位露胎
93	瀬戸美濃 鉄釉 壺	高: 4.2 底: 14.0 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 精緻 1/1	底部: 平底	外: 体部下位回転ヘラケズリ/ 底部回転ヘラケズリ 内: 体部下位回転ナデ	第I区域 Z26/SV5063 片口状に歪む 外: 体部下位露胎
94	灰釉 鉢	焼: 不良 色: 灰緑色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端部 浅く凹む	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	第I区域 Z22～25/SV5063 内外: 体部下位露胎
95	青磁 稜花皿	口: 20.2 高: 3.7 底: 13.2 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/8	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/腰部で 内側へやや屈曲/口唇部は丸く収め、切れ 込みを入れ、緩い花弁状にする 底部: 削出高台		第I区域 Z22～25/SV5063 内外: 高台端面露胎
96	青磁 碗	口: 11.8 高: 5.0 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める	外: 口縁部～体部に線刻蓮花 文がめぐる 内: 底部周縁に線刻蓮花文	第I区域 Z22～25/SV5063
97	青磁 碗	口: 10.6 高: 4.5 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める	外: 口縁部～体部に線刻蓮花 文がめぐる 内: 底部周縁に線刻蓮花文	第I区域 Y22/SV5063
98	青磁 瓶	焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	頸部: 上方へ立ち上がる	外: 頸部に陽刻草花文がめぐ る	第I区域 Z21/SV5063
99	白磁 輪花皿	高: 1.3 底: 3.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	底部: 楕円形の削出高台	外: 鐏状の輪花文 内: 鐏状に輪花文	第I区域 Z28/SV5063
100	白磁 皿	口: 11.9 高: 2.8 底: 7.1 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/5	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口端部で外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第I区域 Z22～25/SV5063
101	染付 皿	高: 1.8 底: 2.6 焼: 良好 色: 青白色	軟質 1/3	底部: 基筒底	外: 体部下位に呉須芭蕉文 内: 体部に呉須草花文/底部周 縁に呉須圏線2/圏線内に呉須 菊花文	第I区域 Z22～25/SV5063
102	青磁 香炉	高: 2.5 底: 3.4 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/5	体部: 寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる/ 体部下位に接地しない脚部3 底部: 削出高台	外: 体部下位に1条の沈線 内: 回転ナデ	第I区域 X27/SX5069 外: 底部～高台端面露 胎
103	白磁 皿	口: 11.8 高: 2.8 底: 6.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/2	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口端部で外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第I区域 X27/SX5069 W27 外: 高台端面露胎
104	白磁 皿	口: 14.0 高: 2.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口端部で外反/口唇部は丸く収める		第I区域 X27/SX5069 外: 高台端面露胎
105	白磁 皿	口: 13.2 高: 3.2 底: 7.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/2	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口端部で外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第I区域 W27/SX5069 外: 高台端面露胎
106	白磁 皿	口: 13.0 高: 2.5 底: 7.0 焼: 良好 色: 透明灰色	精緻 1/3	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第I区域 X27/SX5069 W27 外: 高台端面露胎
107	染付 碗	口: 11.9 高: 4.3 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部上位に呉須圏線2/ 体部に呉須草花文 内: 口端部に圏線1	第I区域 X27/SX5069 W27
108	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.9 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内: 口縁部～底部ヨコナデ	第I区域 V26/SX5075
109	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.1 底: 4.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内: 口縁部～底部ヨコナデ	第I区域 V26/SX5075 口端部内外スス付着

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
110	越前焼 播鉢	口: 33.0 高: 13.6 底: 14.4 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 3/4	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部内側に やや屈曲/口端面平坦/口端部内側に凹線	外:回転ナデ/体部下位に縄目 痕 内:回転ナデ/底面ナデ・摩耗 /幅2.7cm・10条の卸目/扇状 卸目	第I区域 R26/SB5036 口縁部片口
111	越前焼 鉢	口: 14.0 高: 9.6 底: 11.5 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/4	口縁部:内湾して上方へ開く/口端部内側に やや屈曲/口端面平坦 底部:平底	外:回転ナデ 内:回転ナデ/底面ナデ	第I区域 R26/SB5036
112	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.9 底: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 R26/SB5036 片口状に歪む 口端部スス付着
113	土師器 羽釜	高: 5.5 最: 12.0 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直上へ短く立ち上がる 受部:平滑/幅1.3cm 体部:ナデ	外:口縁部～受部ヨコナデ/体 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 後指頭痕	第I区域 T26/SB5036 外:体部スス付着
114	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.4 底: 5.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 R25/SK5074 片口状に歪む 口端部スス付着
115	白磁 皿	口: 11.4 高: 1.8 底: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口端部外反/口唇部は丸く収める		第I区域 R25/SK5074
116	白磁 輪花皿	口: 12.6 高: 3.1 底: 6.8 焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収め、緩い波状に成形し花弁状にす る	外:鑄状の輪花文 内:鑄状の輪花文	第I区域 R25/SK5074 外:高台端面露胎
117	越前焼 捏鉢	口: 28.0 高: 6.4 底: 12.6 焼: 良好 色: 赤茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は丸く 収める/口端部内側に段あり	外:回転ナデ/底部ナデ 内:回転ナデ	第I区域 Q27/SE5048 内:自然釉
118	越前焼 甕	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面平坦 /口縁部中央に沈線1 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	第I区域 Q27/SE5048
119	灰釉 碗	高: 3.5 底: 4.0 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 軟質 1/8	体部:やや内湾して上方へ立ち上がる 底部:付け高台	外:口縁部回転ナデ/体部下位 凹線1 内:口縁部回転ナデ/底面中央 に押印	第I区域 Q27/SE5048
120	越前焼 甕	焼: 良好 色: 淡灰茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:短く外傾して上方へ立ち上がる/口 端面平坦/口縁部中央に凹面 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	第I区域 U28/SE5049
121	越前焼 突帯 広口壺	口: 17.6 高: 11.3 最: 25.1 焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:外方へ短く屈曲/口端部内側浅く凹 む 胴部:上位で張る/幅0.8cmの断面三角形の 突帯が付く/下位窄まる	外:回転ナデ/底面ナデ/上位 に「大」のヘラ記号/シャ ープ 内:回転ナデ後指頭痕	第I区域 U28/SE5049
122	越前焼 突帯 広口壺	口: 15.4 高: 24.7 最: 24.6 焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/6	口縁部:外方へ短く屈曲/口端部内側浅く凹 む 胴部:上位で張る/幅1.0cmの断面三角形の 突帯が付く/下位窄まる 底部:平坦	外:回転ナデ/胴部下位ヘラナ デ/底面ナデ/シャープ 内:回転ナデ後指頭痕	第I区域 U28/SE5049
123	越前焼 播鉢	口: 32.6 高: 11.9 底: 15.0 焼: 良好 色: 明橙色	極砂粒 白色粒子 軟質 3/4	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面丸く収 める/口端部内側に突帯 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に縄目 痕 内:回転ナデ/底面ナデ・摩耗 /幅3.1cm・11条の卸目	第I区域 U28/SE5049
124	青磁 碗	高: 2.8 底: 5.0 焼: 不良 色: 透褐黄色	軟質 1/10以下	底部:付け高台	内:底面に蓮花文押印	第I区域 U28/SE5049 外:底面露胎

第II区域遺構出土土器(PL. 64 第34図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
125	土師器 小皿	口: 6.9 高: 1.5 底: 3.5 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 N23/SB5034

第II区域遺構出土土器(PL.64 第34図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
126	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.8 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 N23/SB5034 片口状に歪む 口端部スス付着
127	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.9 底: 3.2 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 N23/SB5034 片口状に歪む
128	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.6 底: 3.0 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ヨコナデ	第II区域 N23/SB5034 片口状に歪む
129	土師器 小皿	口: 11.3 高: 2.1 底: 5.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部やや外方へ屈曲/口唇部丸く収める/口 端部段あり 底部:凹底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ/底面不 明墨書 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 N23/SB5034 片口状に歪む 内:底面墨痕
130	青磁 皿	口: 13.4 高: 3.6 底: 7.0 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/6	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端部 やや外反/口唇部は丸く収める 体部:腰部で屈曲 底部:削出高台	内:底部周縁に段あり	第II区域 N23/SB5034 外:高台端面露胎
131	越前焼 突帯 広口壺	口: 12.6 高: 10.4 最: 22.8 焼: 良好 色: 灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部:外方へ短く屈曲/口端部浅く凹む 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕・指ナデ	第II区域 P22/SF5052
132	越前焼 擂鉢	口: 27.6 高: 8.2 底: 13.2 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/3	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面浅く凹 む/口端部内側に凹線 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に縄目 痕/底面未調整 内:回転ナデ/底面ナデ・摩耗 /幅2.8cm・9条の卸目	第II区域 P22/SF5052
133	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 3.8 焼: 良好 色: 黒灰色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部やや外反/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ヨコナデ	第II区域 P24/SX5068 片口状に歪む 口端部スス付着
134	青磁 皿	高: 3.3 底: 5.4 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	体部:腰部から直線状に外方へ延びる 底部:削出高台	内:底部周縁に刻目文がめぐ る	第II区域 P24/SX5068

第III区域遺構出土土器(PL.65 第35図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
135	越前焼 鉢	口: 14.6 高: 6.7 焼: 良好 色: 灰褐色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ開く/口端面は丸く 収める 体部:中位に段あり	外:口縁部～体部回転ナデ/底 部ナデ/シャープ 内:口縁部～体部回転ナデ回 転ナデ/底部ナデ	第III区域 K24/SS5059
136	越前焼 鉢	口: 17.2 高: 6.8 焼: 良好 色: 濃赤茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/6	口縁部:内湾して外方へ開く/口端面平坦	外:口縁部～体部回転ナデ/シ ャープ 内:口縁部～体部回転ナデ回 転ナデ	第III区域 K22・23/SS5059
137	越前焼 鉢	口: 20.4 高: 7.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/6	口縁部:内湾して外方へ開く/口端面平坦 底部:平坦	外:口縁部～体部回転ナデ/底 部未調整/シャープ 内:口縁部～体部回転ナデ回 転ナデ	第III区域 K24/SS5059
138	越前焼 擂鉢	口: 30.0 高: 11.5 底: 14.6 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面丸く収 める/口端部内側やや屈曲 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に縄目 痕/底面未調整 内:回転ナデ/底面ナデ・摩耗 /幅2.5cm・9条の卸目	第III区域 K24/SS5059
139	白磁 皿	口: 9.4 高: 2.7 底: 5.0 焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める 底部:削出高台	内:陰刻梅花文	第III区域 K27/SS5059 外:高台端面露胎
140	白磁 皿	高: 1.2 底: 4.2 焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:底面に墨書	第III区域 K27/SS5059 外:高台端面露胎
141	青磁 球形瓶	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	体部:直方体	外:体部に陽刻算木文	第III区域 K21・22/SS5059 127

3. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
142	中国製 壺	口: 10.2 高: 4.0 焼: 良好 色: 黒色	堅緻 1/6	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端部内側 突出/口端部平坦 胴部:上位で張る	外:口縁部回転ナデ/胴部上位 ナデ 内:口縁部回転ナデ/胴部上位 ナデ	第Ⅲ区域 K24/SS5059
143	土師器 小皿	口: 5.7 高: 1.4 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:凹底	外:口縁部~体部ナデ/底部中 央に0.3cmの焼成前穿孔1 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 H26/SD5039
144	土師器 小皿	口: 5.8 高: 1.5 底: 2.2 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 H23~25/SD5039 口端部スス付着
145	土師器 小皿	口: 6.3 高: 1.8 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 H26/SD5039 片口状に歪む
146	土師器 小皿	口: 6.7 高: 2.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部丸く収める 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 H26/SD5039 片口状に歪む
147	土師器 小皿	口: 8.2 高: 1.7 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部丸く収める 底部:丸底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 H26/SD5039 片口状に歪む
148	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.5 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上 がる 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 H23~25/SD5039 片口状に歪む 口端部全周スス付着
149	土師器 小皿	口: 9.1 高: 2.4 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上 がる 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 H23~25/SD5039 片口状に歪む 口端部全周スス付着
150	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.4 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部やや外反/口端部内側に段あり/口唇部 は上方へ立ち上がる 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 H23/SD5039 外:口縁部打欠
151	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.2 底: 3.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部やや外反/口端部内側に段あり/口唇部 は上方へ立ち上がる 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 H23~25/SD5039
152	瀬戸美濃 鉄釉 水注	高: 3.7 底: 7.0 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 精緻 1/6	体部:下膨れ 底部:平底	外:体部下位回転ヘラケズリ/ 底部ナデ 内:体部下位回転ナデ	第Ⅲ区域 H23~25/SD5039 外:体部下位露胎
153	青磁 稜花皿	口: 10.0 高: 2.9 底: 5.0 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/2	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部 で外反/口唇部は棒状工具で押圧/緩い花弁 状にする 底部:削出高台	外:回転ナデ 内:回転ナデ	第Ⅲ区域 H26/SD5039 外:底面~高台端面露 胎
154	土師器 小皿	口: 13.7 高: 2.3 底: 8.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上 がる/口端部段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 J25/SD5040 外:底部黒斑 内:底部黒斑
155	越前焼 壺	口: 24.6 高: 33.0 最: 43.2 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/2	口縁部:外傾して開く/口端部下に凹線1 胴部:下膨れ	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ /胴部上位に弓矢状のヘラ記 号/シャープ 内:回転ナデ後指頭痕	第Ⅲ区域 I/J26/SK5057 第Ⅰ区域 Z25/SV5063 外:胴部自然釉
156	越前焼 甕	口: 28.7 高: 32.2 最: 37.6 底: 18.2 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 4/5	口縁部:上方へ短く屈曲/口端部平坦 胴部:上位で張る/下位窄まる 底部:平坦	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ /胴部上位ヘラ記号/胴部下 位ヘラナデ/底面未調整/シャ ープ 内:ナデ後指頭痕	第Ⅲ区域 I/J26/SK5057 外:胴部上位降灰 内:底部降灰
157	越前焼 甕	口: 35.4 高: 33.5 最: 45.0 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/4	口縁部:外方へ短く屈曲/口端部平坦 胴部:上位で張る/下位窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 内:ナデ後指頭痕	第Ⅲ区域 I/J26/SK5057 第Ⅳ区域 C26/SB5072 外:胴部上位降灰

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
158	越前焼 甕	口: 93.0 高: 60.0 最: 99.5 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 5/6	口縁部: 外方へ短く屈曲/口端部平坦/口端部中央凹面 胴部: 上位で張る/下位窄まる	外: 口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 胴部上位へラ記号 内: ナデ後指頭痕/8段以上の輪積成形	第III区域 I/J26/SK5057

第IV区域遺構出土土器 (PL. 66 第36図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
159	青磁 碗	口: 15.0 高: 6.0 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部に線刻蓮花文がめぐる	第IV区域 J24/SB5033
160	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.1 底: 4.6 焼: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上がる 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 J22/SF5051 片口状に歪む
161	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.0 底: 4.6 焼: 良好 色: 暗褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上がる 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 J22/SF5051 片口状に歪む 口端部一部・内面スス付着
162	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.4 底: 3.5 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上がる 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 J22/SF5051 片口状に歪む
163	土師器 小皿	口: 9.1 高: 2.1 底: 3.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 J22/SF5051 片口状に歪む 口端部全周スス付着
164	土師器 小皿	口: 10.1 高: 1.9 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 J22/SF5051 体部全周スス付着
165	土師器 小皿	口: 9.1 高: 2.0 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上がる 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 J22/SF5051 片口状に歪む 口端部全周スス付着
166	土師器 小皿	口: 9.7 高: 2.1 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上がる 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 J22/SF5051 片口状に歪む 口端部全周スス付着
167	青磁 碗	高: 3.5 底: 4.8 焼: 良好 色: 濃オリーブ	精緻 1/8	体部: 内湾して外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 口縁部～体部に線刻蓮花文 内: 底面中央に円形櫛歯文・花文押印	第IV区域 J23/SX5066 外: 底面～高台端面露胎

第V区域遺構出土土器 (PL. 66 第36図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
168	越前焼 甕	焼: 良好 色: 暗茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面 胴部: 上位で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/シャープ 内: 口縁部ヨコナデ	第V区域 G22/SF5050
169	染付 皿	高: 1.3 底: 6.8 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	底部: 削出高台	内: 底面周縁に呉須圏線2・呉須圏線内に花文	第V区域 G22/SF5050 外: 底面～高台端面露胎
170	染付 皿	口: 11.4 高: 2.5 焼: 良好 色: 透灰色	精緻 1/6	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める	外: 口縁部上位に呉須圏線2/ 体部に呉須草花文 内: 口端部に圏線1	第V区域 G22/SF5050
171	中国製 花瓶	焼: 良好 色: 茶色	精緻 1/8	頸部～体部: 下膨れ/断面楕円形	外: 頸部回転ナデ 内: 頸部回転ナデ	第V区域 G22/SF5050 胴部中位自然釉
172	越前焼 甕	口: 29.2 高: 16.5 最: 40.8 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外傾して立ち上がる/口端部平坦/口端部内側に段あり/口端部中央凹面 胴部: 上位で張る	外: 口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部上位へラ記号 内: 口縁部ヨコナデ/胴部ナデ後指頭痕	第V区域 A25・26/SB5072 第VIII区域 B-F31/SA5183 胴部上位自然釉

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
173	越前焼 壺	高: 10.5 最: 17.5 底: 12.0 焼: 良好 色: 灰黒色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	胴部: 胴部中位で張る	外: 胴部ナデ/底部ナデ/シャープ 内: 胴部回転ナデ/底部ナデ	第V区域 D25/SB5072 外: 胴部ヤキムラ 内: 底部降灰
174	越前焼 卸皿	口: 22.8 高: 3.5 底: 18.0 焼: 良好 色: 白褐色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に短く外方へ立ち上がる/口端部平坦 底部: 平坦	外: 回転ナデ/底部未調整/シャープ 内: 回転ナデ/粗い卸目	第V区域 C27/SB5072 外: 胴部ヤキムラ 内: 底部降灰
175	越前焼 播鉢	口: 34.0 高: 6.5 焼: 良好 色: 明橙褐色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ開く/口端面やや平坦/口端部内側やややや屈曲・凹線	外: 回転ナデ/ 内: 回転ナデ/幅2.3cm・9条の卸目	第V区域 B27/SB5072 口縁部片口
176	越前焼 播鉢	口: 35.0 高: 8.0 焼: 良好 色: 濃こげ茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ開く/口端面やや平坦/口端部内側やややや屈曲・浅い凹線	外: 回転ナデ/シャープ 内: 回転ナデ/幅2.5cm・10条の卸目	第V区域 C26/SB5072
177	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.8 底: 4.2 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上がる 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 E27/SB5072 口端部全周スス付着
178	土師器 小皿	口: 10.8 高: 1.8 底: 5.8 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外傾/口唇部は丸く収める 底部: 凹底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	第V区域 D25/SB5072
179	灰釉 小皿	口: 9.4 高: 1.8 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 精緻 1/6	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は弱く外反する/口唇部は丸く収める	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	第V区域 C27/SB5072
180	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.4 高: 5.3 焼: 良好 色: 白色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端部で上方に屈曲後外反/口唇部は短く外傾し丸く収める 底部: 蛇の目高台	外: 口縁部~体部下位回転ナデ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 C26/SB5072 外: 体部下位露胎
181	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.0 高: 5.0 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端部で上方に屈曲後外反/口唇部は短く外傾し丸く収める	外: 口縁部~体部下位回転ナデ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第V区域 C27/SB5072 外: 体部下位露胎
182	青磁 皿	口: 12.0 高: 2.4 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める	外: 体部に陰刻蓮花文	第V区域 D25/SB5072
183	朝鮮製 壺	高: 5.0 底: 15.4 焼: 良好 色: 黒灰色	堅緻 1/10以下	胴部: 中位で張る 底部: 平坦	外: 胴部回転ナデ 内: 胴部回転ナデ	第V区域 E25/SB5072
184	土師器 小皿	口: 9.1 高: 1.7 底: 3.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上がる 底部: 平底	外: 口縁部~底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第V区域 A26/SB5031 口端部一部スス付着
185	瀬戸美濃 鉄釉 壺	高: 2.3 底: 10.0 焼: 良好 色: 暗紫灰色	軟質 1/10以下	底部: 平坦	外: 胴部回転ナデ/底部回転ヘラ切り 内: 胴部回転ナデ	第V区域 B27/SB5031 外: 体部下位露胎
186	青磁 碗	口: 15.4 高: 4.3 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	体部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める	外: 口端部条線1 内: 口端部条線3/体部陰刻草花文	第V区域 A26/SB5031
187	青磁 皿	口: 10.2 高: 2.5 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める	外: 体部に陰刻蓮花文	第V区域 D25/SB5072
188	青磁 托	口: 12.2 高: 2.3 焼: 良好 色: 明オリーブ	精緻 1/10以下	体部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める		第V区域 A25/SG5056 C23
189	白磁 皿	口: 14.0 高: 3.0 底: 8.0 焼: 良好 色: 明灰白色	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第V区域 A25/SG5056 外: 高台端面露胎

第Ⅵ区域遺構出土土器(PL. 66 第36図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
190	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.8 底: 5.2 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部は上方へ立ち上 がる 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅵ区域 P30/SB5035
191	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.8 底: 5.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅵ区域 P30/SB5035
192	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.1 底: 4.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口端部段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅵ区域 P30/SB5035
193	越前焼 壺	口: 8.0 高: 11.1 最: 16.5 底: 12.2 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 2/3	口縁部:短く内傾して立ち上がる/口唇部丸 く収める 胴部:上位で張る 底部:平坦	外:口縁部～胴部回転ナデ/底 部未調整/シャープ 内:口縁部～胴部ナデ後指頭 痕	第Ⅵ区域 P30/SB5035

第Ⅷ区域遺構出土土器(PL. 66 第36図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
194	越前焼 甕	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面平坦 /口端部内側に段あり/口縁部中央に突帯 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	第Ⅷ区域 K30/SD5042

金属製品(PL. 66 第37図)

単位:cm/g

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質 色調	特 徴	出土地点
195	小柄	15.3 1.5	0.6 -	4/5	銅製品		第Ⅵ区域 R30
196	五徳	10.0 3.3	1.2 -	1/8	鉄製品	五徳の支 持金具	第Ⅲ区域 J25/SD5040
197	環状 鉄製品	8.6 2.2	0.5 -	1/1	鉄製品	貴金具?	第Ⅲ区域 J25/SD5040
No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質 色調	特 徴	出土地点
199	土製 円盤	3.1 3.1	1.1 -	1/1	越前焼 橙褐色	越前焼播鉢	第Ⅲ区域 M25/表土
200	土製 円盤	6.3 6.1	1.4 -	1/1	越前焼 暗灰褐色	越前焼甕	第Ⅰ区域 T22-25/SV5063
201	土製 円盤	6.0 5.8	2.6 -	1/1	青磁 透オリブ	青磁碗高台	第Ⅷ区域 J29/SD5041

土製品(PL. 66 第37図)

単位:cm/g

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質 色調	特 徴	出土地点
198	土錘	3.9 2.8	2.5 -	1/1	土師質 橙褐色	小判形/紐 穴径1.0cm	第Ⅰ区域 Q27

石製品(PL. 66・67 第37～39図)

単位:cm/g

No	器種	法量(最大値)			石材 色調 材質	調整・特徴	出土地点
		長 短	厚 重	残存			
202	基石	2.1 1.9	0.7 -	1/1	粘板岩 黒色 硬質	形状:円盤形 全体平滑	区域不明 /表土
203	石仏	15.9 14.5	7.1 -	1/10	笏谷石 灰色 軟質	形状:頂部舟形 額幅2.0cm/頂部中央に月輪陰刻	第Ⅴ区域 D24
204	板石	39.4 39.3	7.8 -	1/4	笏谷石 灰色 軟質	形状:板状の直方体/井戸枠? /右側面に幅4.0cm・厚さ2.9cmを測る合 欠加工/上下端に幅6.0cm・段差2.0cmを測る帯状の加工 左側面欠損	区域不明 /表土
205	板石	47.0 34.9	9.7 -	1/4	笏谷石 灰色 軟質	形状:板状の直方体/洗場踏石? /左・下側面に幅5.8cm・段差3.0cmを 測る帯状の加工 右側面欠損	第Ⅱ区域 P22/SF5052
206	板石	48.6 36.1	7.8 -	1/3	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:板状の直方体/洗場踏石? /右・上側面に幅5.8cm・段差1.5cmを 測る帯状の加工 左・下側面欠損	区域不明
207	板石	51.2 43.0	12.5 -	1/3	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:板状の直方体/洗場踏石? /右・左側面に幅12.5～13.5cm・段差 1.8cmを測る帯状の加工 上・下側面欠損	区域不明
208	板石	42.1 42.1	11.9 -	1/2	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:板状の直方体/洗場踏石? / 右側面欠損	第Ⅱ区域 P22/SF5052
209	板石	77.2 49.0	9.2 -	2/3	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:板状の直方体/井戸枠/右・右側面に幅3.6cm・段差3.0cmを測る帯 状の加工 上・下側面欠損	第Ⅱ区域 P22/SF5052

3. 遺物

単位: cm / g

No	器種	法量(最大値)			石材 色調 材質	調整・特徴	出土地点
		長短	厚重	残存			
210	板石	23.6 20.9	7.7 —	2/3	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:板状の直方体/塔婆台石? /中央に幅1.5cmの切れ込みが2ヶ所並行して穿孔 右・下側面欠損	区域不明
211	石灯籠	30.8 —	13.5 —	1/6	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:環状/石灯籠/内側に幅1.5cm・段差2.1cmの段あり/周囲に幅6.0cm・厚さ5.2cmの突帯 下位欠損	第I区域 Y22/SV5063
212	石灯籠 宝珠	38.3 23.5	23.8 —	1/1	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:砲弾形/石灯籠宝珠/中位に切れ込みが入る/底部中央に径9.5cm・長さ5.8cmの円柱状のホゾが付く	第I区域 Y22/SV5063
213	石灯籠 笠部	81.3 80.4	29.8 —	1/1	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:上円下方形/石灯籠笠部 上部部:頂部に23.5×22.2×3.0cmを測る方形の受部を有す/受部内に径12.0cmのホゾ穴を穿つ/受部から対角線上に断面三角形の突帯が伸びる 下部部:四辺は面取り/底面は外縁を幅3.0cm×段差1.5cmで削る/中央に竿部上面と接合する1辺43.3~44.0cm、深さ2.5cmを図る方形の掘り込みを設け、中央で12.0cmまで掘り込んでいます。	第I区域 Y22/SV5063
214	石灯籠 竿部	120.0 34.8	34.8 —	1/1	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:直方体/石灯籠竿部/頂部・底部の中央に幅14.8cm、奥行14.8cm、高さ5.6cmのホゾを有す 正面:上位に舟形光背をもつ観音菩薩立像/下位に「三界萬靈七世父母等」 左面:上位に舟形光背をもつ阿弥陀如来立像/仏像にベンガラ付着/下位に「元亀二 未辛年七月十一日」 右面:上位に舟形光背をもつ地藏菩薩立像 背面:上位に舟形光背をもつ釈迦如来立像	第I区域 Y22/SV5063

銭貨(PL. 67 第40図)

単位: cm / g

No	種類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時期	出土地点
		径	厚	重			
215 ①	開元通宝 2957	2.42	0.26	4.20	1/1	唐 初鑄621年	第III区域 M25
215 ②	元符通宝 2958	—	—	—	1/1	北宋 初鑄1099年	第III区域 M25
216	開元通宝 4036	2.29	0.12	2.20	1/1	唐 初鑄621年	第I区域 R25/SK5074
217	祥符通宝 5141	2.53	0.15	2.90	1/1	北宋 初鑄1008年	第I区域 W27/SX5069
218	明道元宝 5141-2	—	0.13	0.60	1/5	北宋 初鑄1032年	第I区域 W27/SX5069
219	熙寧元宝 260	2.31	0.14	2.40	1/1	北宋 初鑄1068年	耕土
220	熙寧元宝 1268	2.35	0.16	1.30	1/2	北宋 初鑄1068年	第V区域 G21/SF5050
221	熙寧元宝 1327	2.24	0.15	1.10	3/4	北宋 初鑄1068年	第V区域 G24
222	熙寧元宝 2316	2.38	0.15	2.30	1/1	北宋 初鑄1068年	第IV区域 J22
223	熙寧元宝 3351	2.51	0.15	1.10	1/2	北宋 初鑄1068年	第II区域 O24
224	政和通宝 935	2.42	0.15	1.40	1/2	北宋 初鑄1111年	第V区域 D27/SB5072
225	紹熙元宝 4519	2.59	0.14	1.50	3/4	南宋 初鑄1190年	第I区域 T26/SB5036
226	洪武通宝 5140	2.36	0.18	3.40	1/1	明 初鑄1368年	第I区域 W27/SX5069
227	紹口口宝 261	2.12	0.10	1.20	1/1	—	耕土
228	口寧口宝 2224	2.41	0.10	0.60	1/2	—	第VIII区域 I30
229	不明 6478	2.17	0.13	1.20	4/5	—	区域不明

その他の遺物(PL. 67 第40図)

単位: cm / g

No	器種	長 幅	厚 重	残存	色調	特徴	出土地点
231	縄文土器	—	—	—	橙褐色	条痕文 縄文時代晩期	区域不明
232	縄文土器	—	—	—	橙褐色	条痕文 縄文時代晩期	区域不明
233	縄文土器	—	—	—	橙褐色	条痕文 縄文時代晩期	区域不明
234	縄文土器	—	—	—	橙褐色	条痕文 縄文時代晩期	区域不明
235	縄文土器	—	—	—	橙褐色	条痕文 縄文時代晩期	区域不明
236	縄文土器	—	—	—	橙褐色	条痕文 縄文時代晩期	区域不明
237	縄文土器	—	—	—	橙褐色	条痕文 縄文時代晩期	区域不明
238	縄文土器	—	—	—	橙褐色	条痕文 縄文時代晩期	区域不明

第 114 次調査出土遺物(PL. 68～71 第 41～48 図、第 5 表)

第 114 次調査の遺物は、1～226 を掲載した。内容は包含層出土土器 1～78、第 VI～IX 区域の土器 79～176、金属製品 177～186、石製品 187～212、木製品 213～219、その他の遺物 220～226 である。詳細は第 5 表に記し、以下、特徴的なものについて概要を述べる。

包含層出土土器(PL. 68 第 41～43 図)

越前焼甕 5 の口端部は平坦であり、胴部上位に弓矢状に似たヘラ記号を入れる。7 は広口壺である。播鉢 9 は口径 40.0cm を測り、体部下位に縄目痕が残る。赤色化粧土の痕跡があり、底部は未調整である。内面に幅 3.2cm・10 条の卸目、底面に半円状の卸目が施される。10・11 の内面には扇状卸目、12 の内面には 3 本の縦線のヘラ記号が入る。卸皿 14 は口径 12.0cm を測り、底部が厚い。鉢 15 は体部が内湾する浅い器形であり、底部は凹む。火桶 16～18 は短い寸胴形を呈す。17 は口端部外側を押圧して波状に成形している。

信楽焼壺 19～21 の口縁部は外反して、口端部は厚い。黒色または暗灰色を呈し、越前焼と同じく口縁部はヨコナデで調整し、胴部にナデ・指頭痕が残る。鉢 22 は体部が内湾して立ち上がり、口端部は平坦である。

土師器小皿 23～35 は他の調査区と同様に、浅皿形 C 類、杯形 C 類が大半を占める。全体的に口端部にススが付着し、灯明皿として使用されたものが一定量ある。また、製作段階で意図して片口状に歪ませている。29・32・34・35 は口端部に強いヨコナデによる段をもつ。耳皿 36 は両端を内側に屈曲させただけで、当初から耳皿として製作している。鉢 37 は器高 3.3cm を測り、体部は球形を呈す。手捏ねで成形の祭祀品と考える。

鉄釉皿 38 は底部が碁笥底であり、トチンが残る。杯 39 は口径 5.5cm を測る小型品であり、精緻品である。体部は回転ヘラケズリされている。香炉 40 は底径 7.0cm を測り、底部周縁に三角形の脚が付き、接地する。天目茶碗 41・42 は内湾して外方へ立ち上がり、口端部で上方に屈曲し口唇部は短く外傾する。体部下位～底部は露胎する。高台は蛇の目高台である。托 43 は受部の下位に円盤状の突帯を有す。円盤～底部は露胎する。

灰釉無頸壺 46 は口径 4.4cm、器高 3.9cm を測る小型品である。瓦質土器壺 47 は小型品であり、胴部下位に掠れた S 字状渦巻文の押印がめぐる。瓦燈 48 は受皿部であり、口径 13.6cm、器高 5.0cm を測る。口縁部は受口状を呈し、底部にハの字に踏ん張る高台が付く。全体はミガキで調整されている。

青磁香炉 49 は寸胴形を呈し、体部に 3 条の沈線がめぐる。底部周縁には 3 方向に獣脚が付き、接地する。碗 51 は精緻品であり、口径 13.4cm を測り、口端部は外反する。体部に線刻蓮花文が入る。稜花皿 52 は口唇部に弱い切れ込みを入れ、緩い花卉状に成形する。体部内面は浅く花卉状に凹む。

白磁輪花皿 57 は体部内外面に粗い線刻による花卉を有す。皿 59 の底部外面には「十」の墨書、皿 60 の底部外面には「完」の墨書がある。染付皿 64 の底部は碁笥底であり、底部内面に呉須圏線・草花文を描き、中央に釉に厚みを持たせて魚文を入れる。皿 65～68 は体部に呉須変形唐草文を充填し、体部内面にアラベスク文を入れる。碗 79 は体部に呉須梅花・菊花文を描く。朝鮮碗 72・73 は素地に白土を象嵌した三島手の碗である。壺 74 は胴部中位に掬文突帯が付く。東南アジア製壺 75 は広口であり、口径 15.4cm を測る。口端部は受口状を呈す。緑彩香炉 77 は精緻品である。華南製赤絵杯 78 は体部に赤絵、緑彩が描かれる。

第 VI～IX 区域遺構出土土器(PL. 68 第 43 図)

SD5073 出土(第 43 図) 中国製褐釉四耳壺 83 は口径 14.0cm を測る。色調は濃茶色で口縁部は短く屈曲し、口端部は平坦である。回転ナデで成形され、胴部上位に耳が付く。青磁碗 84 は体部に陰刻葉文を施す。酒会壺 87 は、口縁部が上方へ短く立ち上がり、胴部上位に区画文を陰刻する。

SB5325 出土(PL. 68 第 43 図) 土師器小皿 89 は口端部にススが付着し、ヨコナデによる段を有す。羽釜 91 は口径 12.0cm、器高 8.3cm を測る。回転ナデで成形され、底部は平坦である。体部前面にススが付着する。

灰釉壺 92 は小型品である。算盤玉形を呈し、口径 3.0cm。器高 3.7cm を測る。体部下位は露胎する。捏鉢 93 は口径 30.4cm、器高 7.9cm を測る。口端部は受口状であり、底部周縁にボタン状の脚が 4 つ付く。

SE5355 出土 (PL. 69 第 43 図) 土師器羽釜 94 は口径 4.8cm を測る。回転ナデで成形され、体部内面に指頭痕が残る。越前焼卸皿 95 は中型品であり、口径 24.2cm、器高 4.2cm を測り、底部内面に幅 2.9cm・9 条の卸目が平行して施される。底部は平坦である。体部前面にススが付着する。第Ⅷ区域 SA5183 の破片と接合した。

SK5291 出土 (PL. 69 第 43 図) 越前焼播鉢 98 は、石盤 212 の上に置かれて出土したものである。口径 36.6cm、器高 13.2cm を測る。底部内面に幅 2.7cm・10 条の卸目が入り、口縁部に扇状卸目が入る。

SK5236 出土 (PL. 69 第 44 図) 越前焼壺 99 は口径 14.1cm、器高 30.8cm を測る。胴部は回転ナデ後ヘラナデで調整され、下膨れの器形を呈す。底部は平坦である。

SB5225 出土 (PL. 69 第 44 図) 越前焼播鉢 110 は大型品であり、口径 40.4cm、器高 15.8cm を測る。外面は、回転ナデ調整され、底部は未調整である。内面は、体部に幅 2.7cm・9 条の卸目が入り、底面にも卸目が及ぶ。土師器托 113 は鼓形を呈す。口径 9.0cm、器高 3.1cm を測り、体部内外面をミガキで調整している。青磁碗 115・116 は内湾して立ち上がる底が深い器形である。ともに口縁部に陰刻雷文、体部内外に線刻草花文を施す。朝鮮製碗 120 は、口縁部が直線状に外方へ立ち上がる井戸茶碗である。体部下位～底部は露胎する。越前焼甕 121・122 は大甕であり、121 の胴部上位にはヘラ記号、122 の胴部上位には格子文の押印を有す。

SA5183 出土 (PL. 69 第 45 図) 越前焼四耳壺 128 は口径 14.0cm を測る。口縁部は外傾して立ち上がり、口端部外側が突出する。胴部上位は大きく張り出し、条線が 2 条入り、耳が 4 方向に付く。卸皿 129 は口径 21.2cm を測り、底部周縁に縄目痕が残る。体部内面には幅 2.4cm・9 条の卸目が入る。底部は平坦で厚い。播鉢 130 は口径 25.0cm を測り、体部内面には幅 2.4cm・9 条の卸目が入り、底面に×字状の卸目が入る。131 は口径 39.7cm を測り、底部周縁に縄目痕が残る。体部内面には幅 2.4cm・8 条の卸目が入り、底面に十字状の卸目が入る。土師器皿 134 は口径 13.9cm を測り、片口状に歪む。灰釉皿 135 は口径 9.1cm を測り、底部内面中央に花卉 3 つの梅花文を押印する。

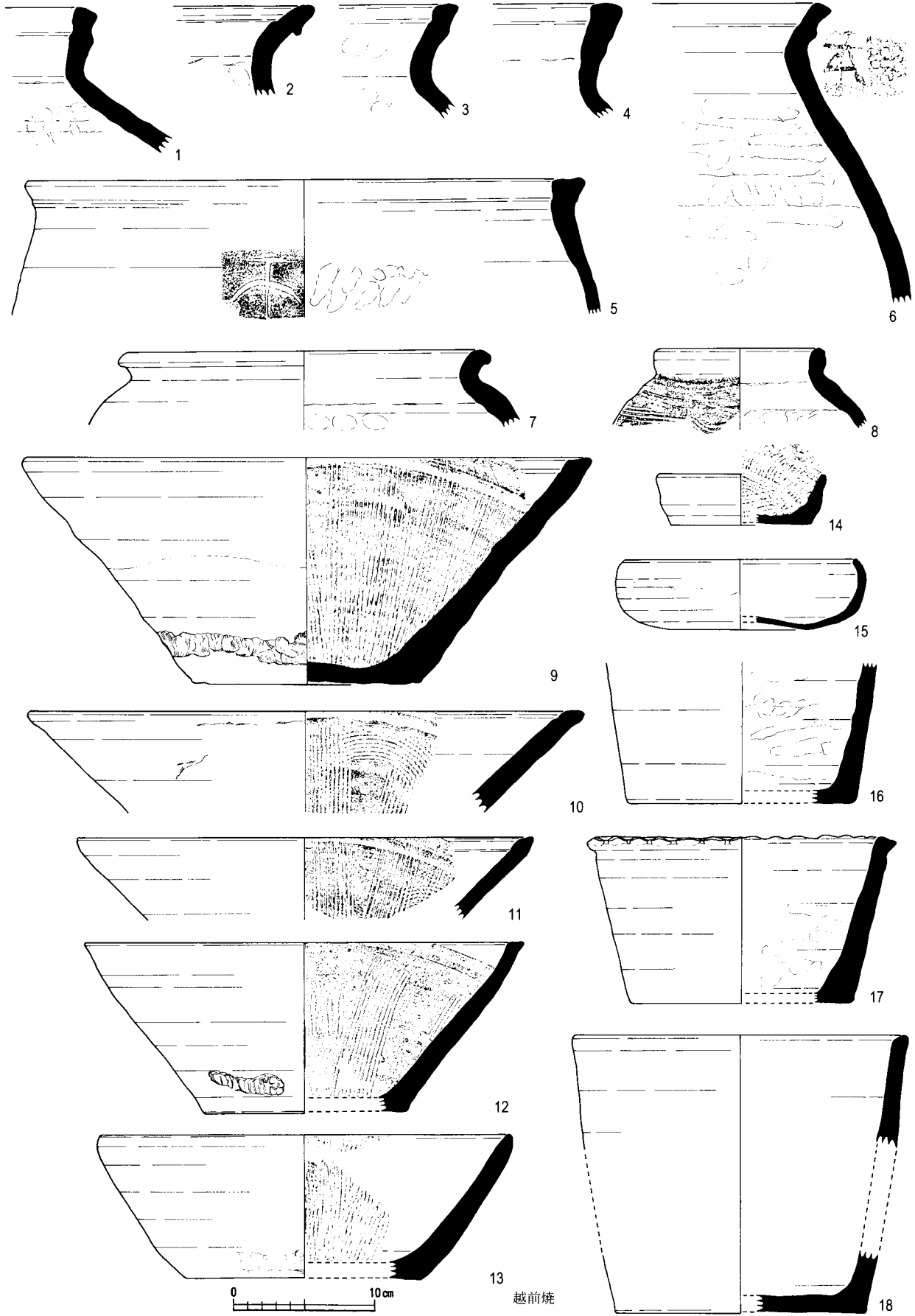
SB5166 出土 (PL. 70 第 46 図) 土師皿 149 は口径 11.4cm、器高 2.2cm を測る。口端部にヨコナデによる段をもつ。片口状に歪み、口端部全周にススが付着する。越前焼壺 154 は器高 65.7cm、最大幅 64.0cm を測る。胴部上位に「十」のヘラ記号が入る。

SE5161 出土 (PL. 70 第 46 図) 青磁稜花皿 175 は口唇部に切れ込みを入れ 6 弁の花弁状に成形する。染付皿 176 は口径 14.0cm を測り、体部に呉須変形唐草文 1、内面にアラベスク文を施している。

金属製品 (PL. 70 第 47 図) 火箸 179 は柄頭に紐孔をもつ。飾金具 180 は右端部側に穿孔があり、上下端面を折り曲げ、材の表面を装飾したものとする。銅板 181 は長さ 5.5cm、幅 3.7cm、厚さ 0.7cm を測り、楔の可能性はある。

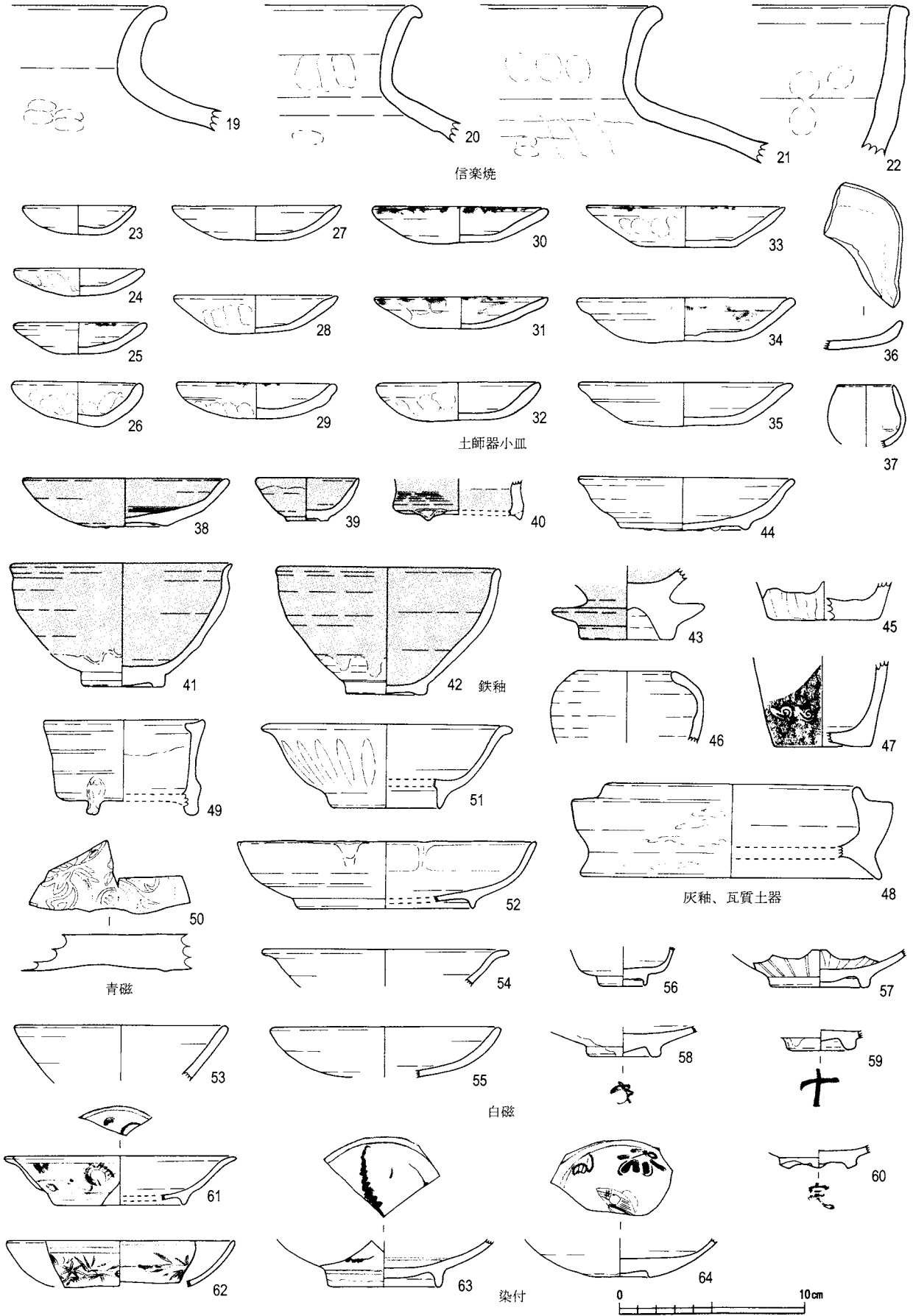
石製品 (PL. 70・71 第 47・48 図) 石硯 188 粘板岩製で方形を呈し、内側を円形で区画し、海と岡を彫ったと考える。基石は 193～203 が出土した。材質は頁岩であり、黒色、暗灰色を呈している。石盤 212 は笏谷石製であり、円形を呈す。径 32.1cm、器高 12.0cm を測る。SK5291 において播鉢 98 の下で出土した。

木製品 (PL. 71 第 48 図) 木製品は全て第Ⅷ区域 SE5225 から出土した。漆器椀 213 の底部は平底であり、体部内外面に黒漆地に朱漆で文様を描く。材質はブナ属である。面 214 は下位が残存し、内外面は黒漆地であったと考える。舌部には朱漆の痕跡が残る。材質はヒノキである。木簡 215 は上下端に直角三角形を墨書し、上端側に「工」もしくは「Z」に似た字を墨書する。216 の表裏には不明墨書が残る。217 は表裏に複数の円文と呪符らしき文字が墨書されていた。215～216 の材質はヒノキである。

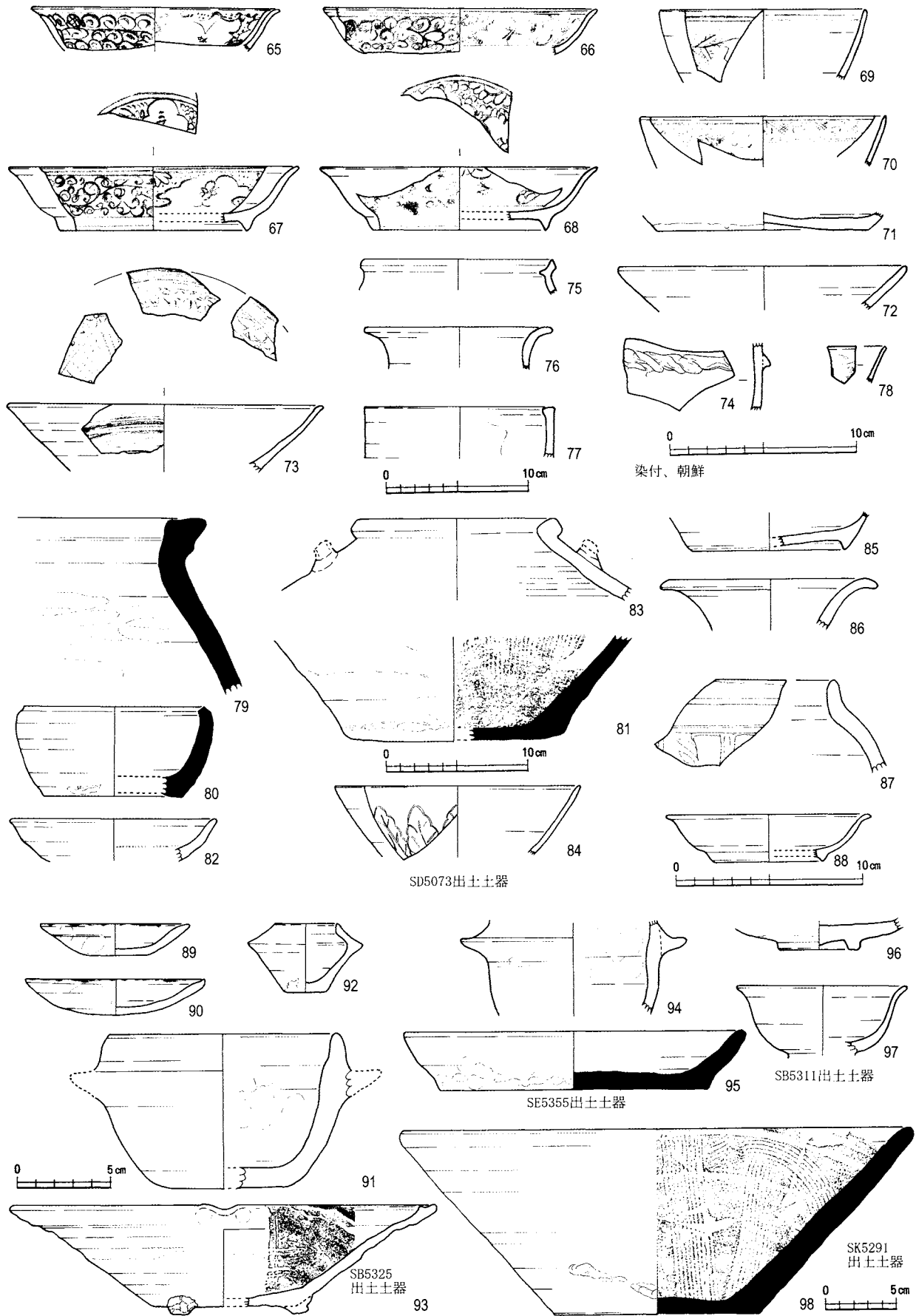


第 41 図 第 114 次調査 包含層出土土器(縮尺 1/4)

3. 遺物

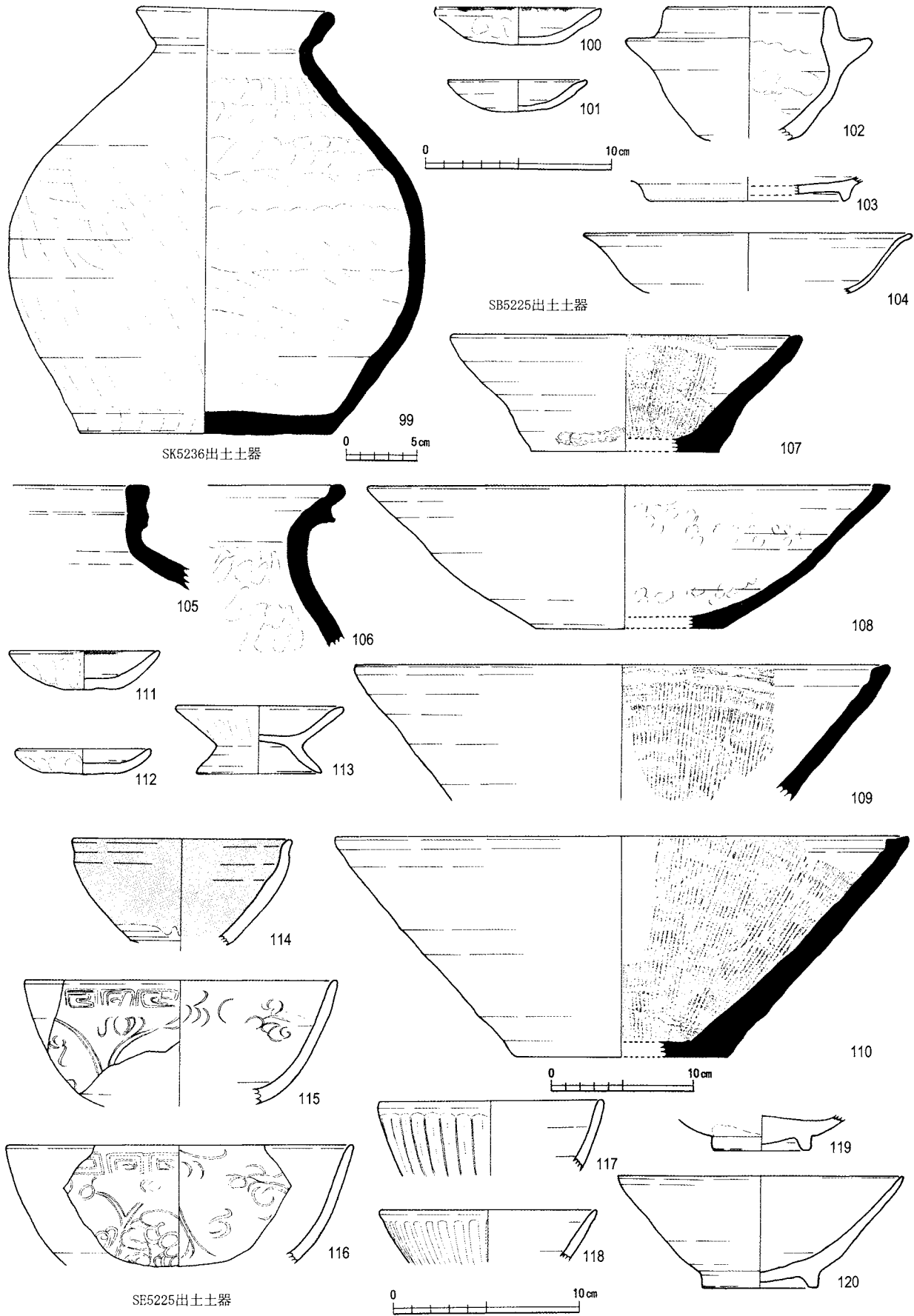


第42図 第114次調査 包含層出土土器(縮尺1/3)

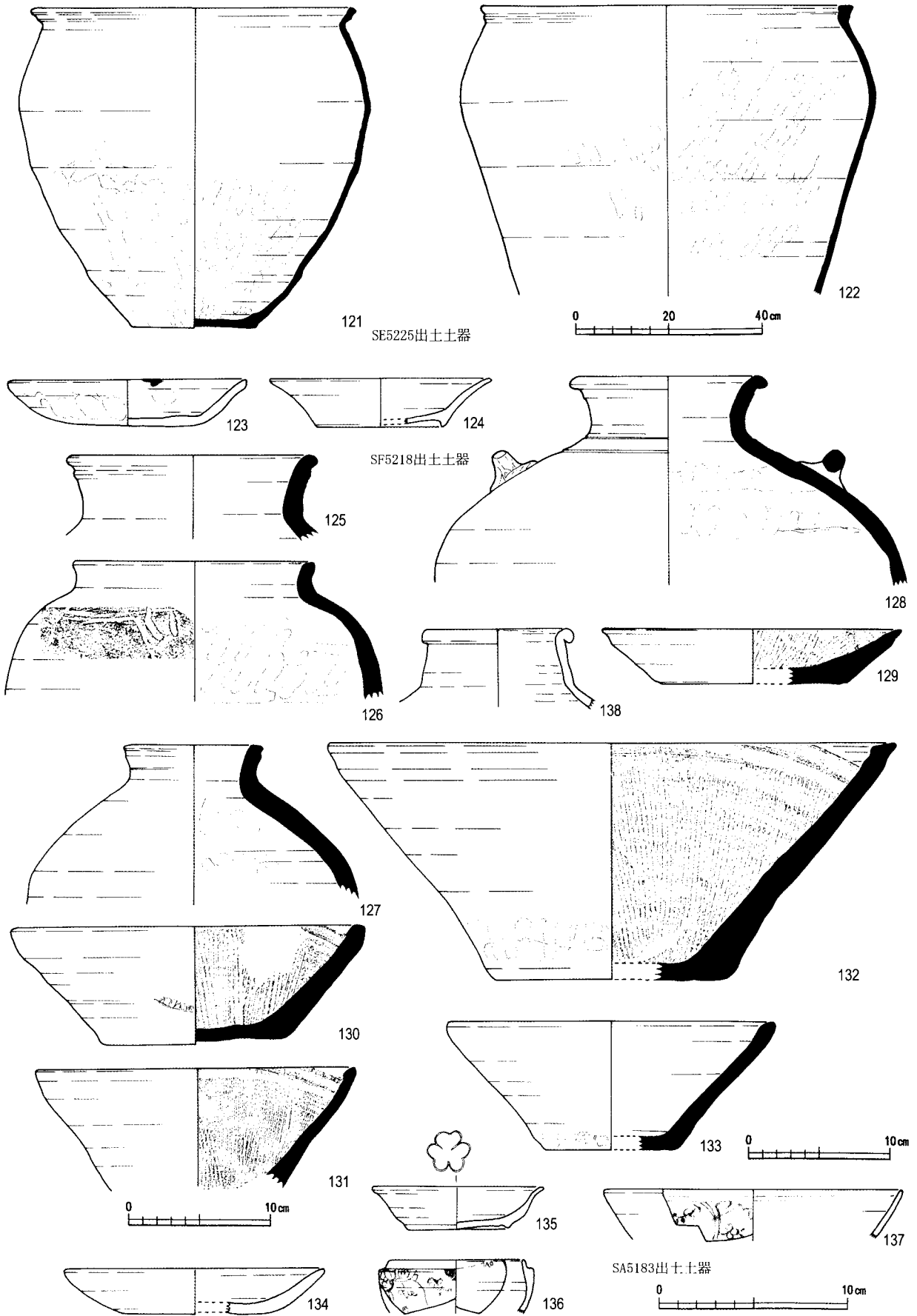


第43図 第114次調査 包含層出土土器、第VI区域区画VI、第VII区域区画VI遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)

3. 遺物

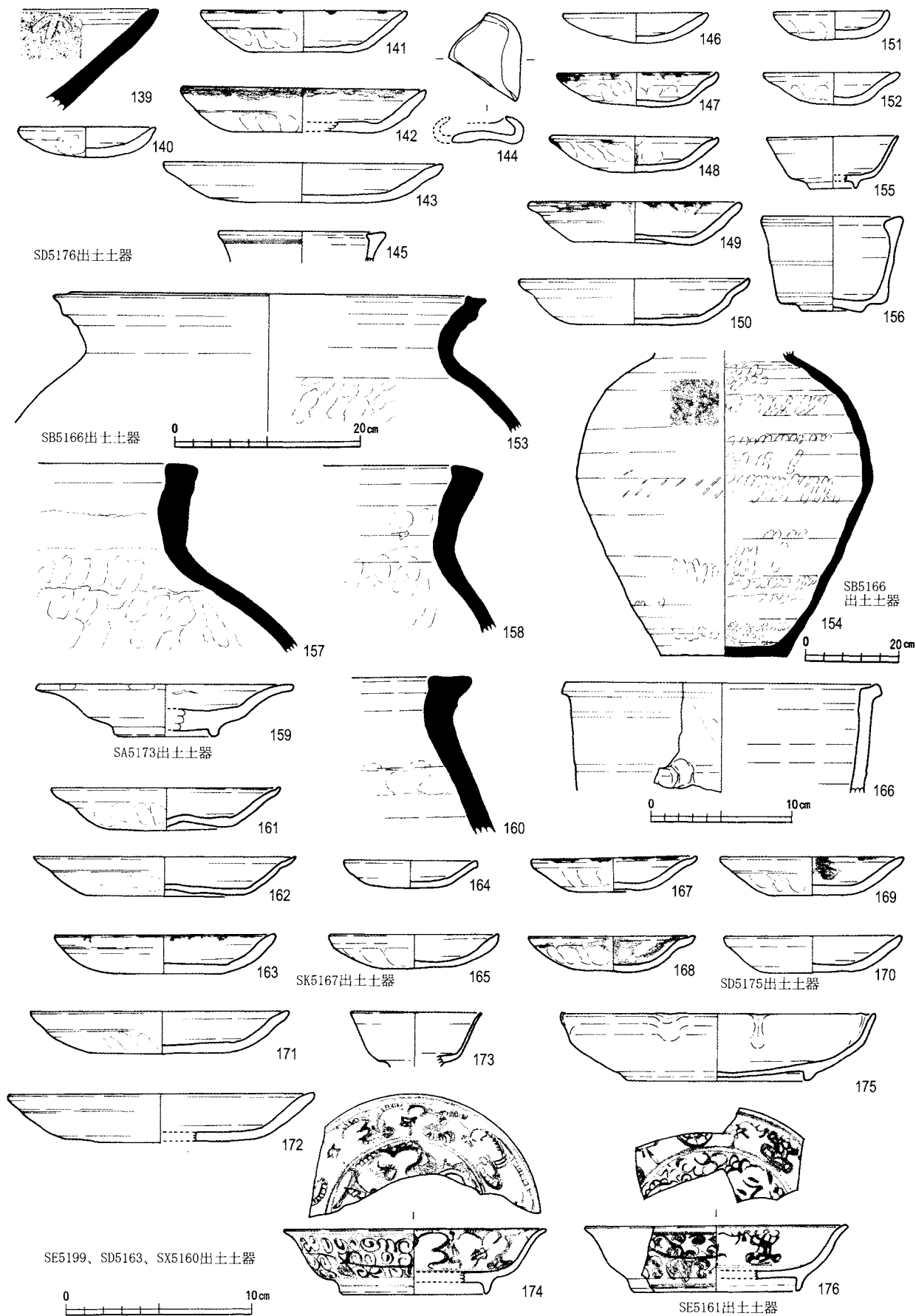


第44図 第114次調査 第Ⅶ区域区画Ⅷ遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4)

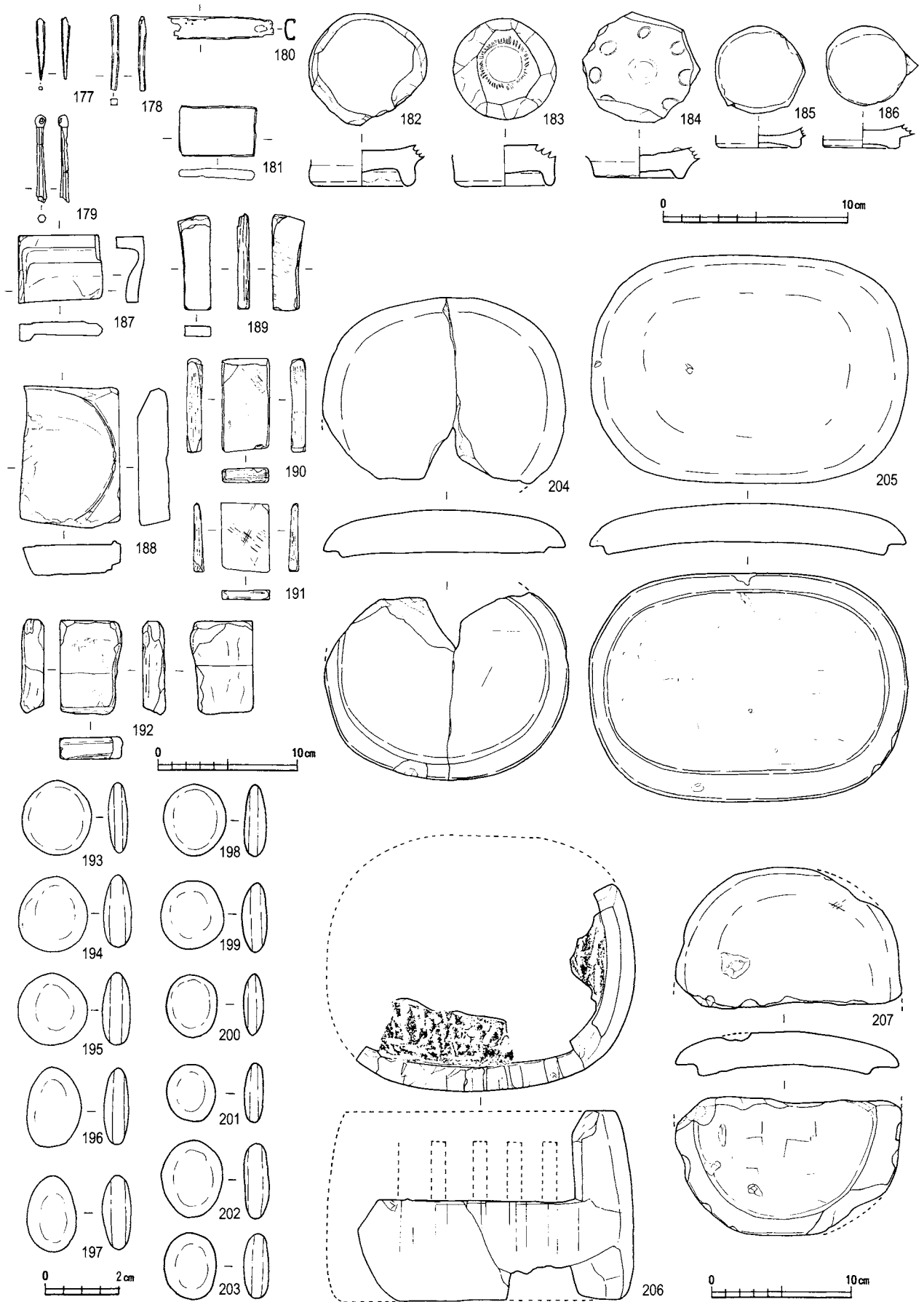


第45図 第114次調査 第Ⅶ区域区画Ⅵ、第Ⅷ区域区画Ⅶ遺構出土土器(縮尺1/3、1/4、1/12)

3. 遺物

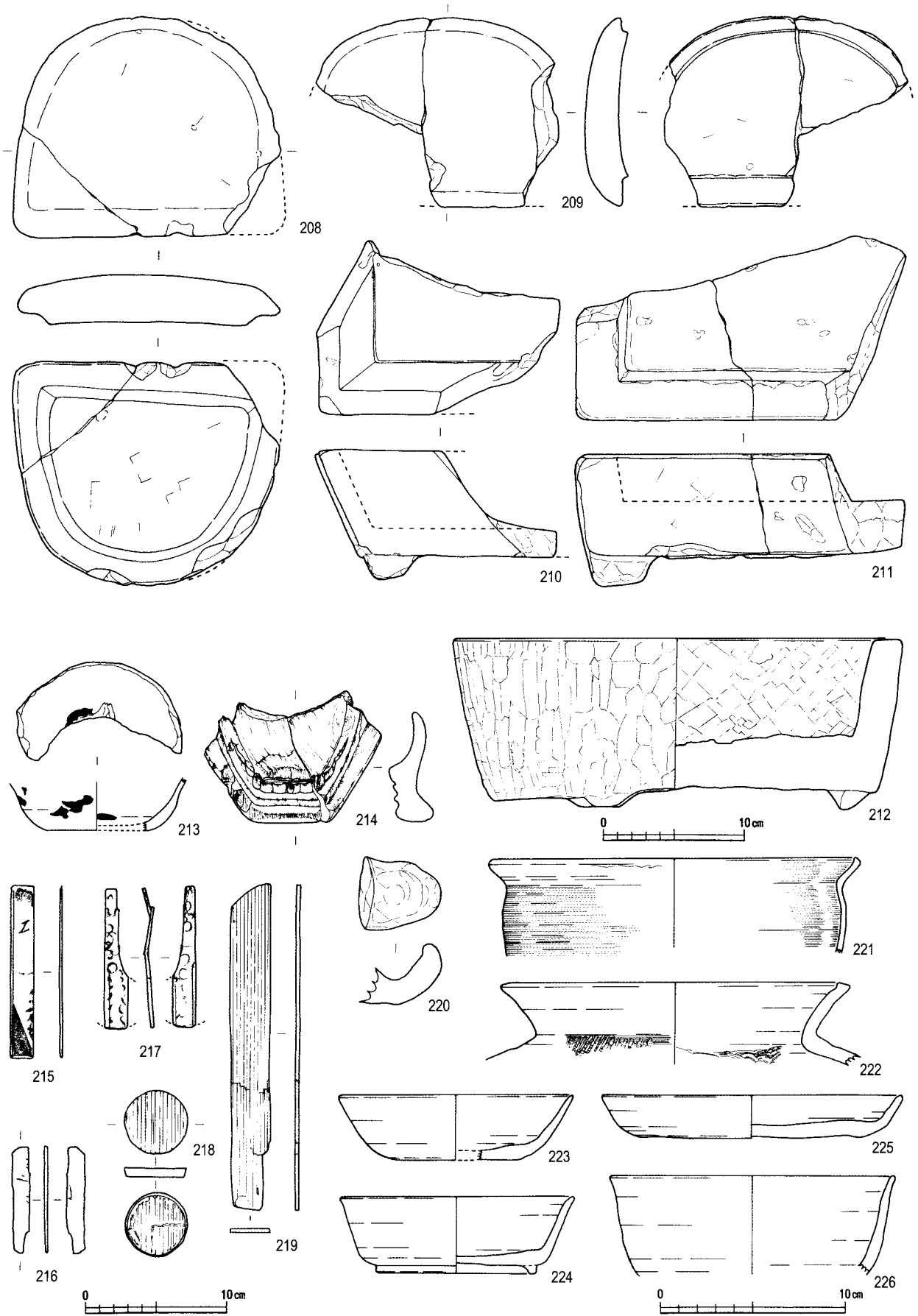


第46図 第114次調査 第Ⅷ区域区画Ⅶ、第Ⅸ区域区画Ⅷ遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4、1/12)



第 47 図 第 114 次調査 金属製品、土製品、石製品(縮尺 1/3、1/4、2/3)

3. 遺物



第48図 第114次調査 石製品、木製品、その他の遺物(縮尺 1/3、1/4)

第5表 第114次調査出土遺物観察表(PL.68～71 第41～48図)

包含層出土陶磁器類(PL.68 第41～43図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
1	越前焼 大甕	焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側に段をもつ 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ	区域不明
2	越前焼 甕	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部下端突出/口端部凹面	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ	第VI区域 M33
3	越前焼 甕	焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側に段	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ	第IX区域 S39 胴部上位自然釉
4	越前焼 甕	焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側に段	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ	第IX区域 Q39
5	越前焼 甕	口: 40.0 高: 10.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に突帯/口端部内側に段 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/ヘラ記号 内:口縁部ヨコナデ	第VI区域 Y31/V34 第VII区域 T35
6	越前焼 甕	焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側に段	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/「本」と格子文押印 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ・指頭痕	区域不明 外:胴部上位自然釉
7	越前焼 広口壺	口: 25.4 高: 5.6 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口唇部丸く収める/口唇部下端突出 胴部:上位で張る	外:口縁部～胴部回転ナデ/シャープ 内:口縁部～胴部回転ナデ・指頭痕	第VIII区域 G38 外:胴部上位降灰
8	越前焼 壺	口: 12.0 高: 5.8 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く上方に立ち上がる/口唇部丸く収める 胴部:上位で張る	外:口縁部～胴部回転ナデ/胴部上位波状線/シャープ 内:口縁部～胴部回転ナデ・指頭痕	第IX区域 K40・G39
9	越前焼 播鉢	口: 40.0 高: 16.3 底: 16.4 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/口端部内側に沈線 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に襷目痕/体部上位赤色化粧土/底面未調整 内:回転ナデ/幅3.2cm・10条の卸目/底面に半円の卸目	第VIII区域 I32 外:胴部下位ナマヤケ
10	越前焼 播鉢	口: 39.7 高: 7.4 焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/口端部内側に凹線	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ/幅2.7cm・10条の卸目/底面に半円の卸目/口縁部に扇状卸目	第VI区域 S32
11	越前焼 播鉢	口: 32.4 高: 6.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/口端部内側に段	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ/幅2.7cm・10条の卸目/口縁部に扇状卸目	第VII区域 M35 外:口端部・体部摩耗
12	越前焼 播鉢	口: 31.2 高: 12.3 底: 14.4 焼: 良好 色: 黒灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/口端部やや内湾 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に襷目痕/底面ナデ 内:回転ナデ/幅2.8cm・10条の卸目/ヘラ記号	第VI区域 R33
13	越前焼 播鉢	口: 29.6 高: 10.3 底: 16.4 焼: 良好 色: 暗茶黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ開く/口端面丸く収める 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に襷目痕/底面ナデ 内:回転ナデ/幅3.0cm・7条の卸目	第VII区域 T35
14	越前焼 卸皿	口: 12.0 高: 3.6 底: 10.0 焼: 良好 色: 橙褐色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/3	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部は丸く収める 底部:平坦	外:回転ナデ/底部ナデ 内:回転ナデ/卸目	第IX区域 M40
15	越前焼 鉢	口: 16.6 高: 5.0 底: 10.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/2	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/口端部は丸く収める 底部:凹底	外:回転ナデ/底部ナデ 内:回転ナデ	第VII区域 L35 外:自然釉
16	越前焼 火桶	高: 10.0 底: 16.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	胴部:直線状にやや外傾して立ち上がる 体部:寸胴形 底部:平坦	外:回転ナデ/底部未調整/シャープ 内:回転ナデ・指頭痕	区域不明
17	越前焼 火桶	口: 20.8 高: 12.0 底: 15.6 焼: 良好 色: 橙茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部:直線状にやや外傾して立ち上がる/ 口端部外側は押圧波状突帯 体部:寸胴形 底部:平坦	外:回転ナデ/底部ナデ 内:回転ナデ・指頭痕	第VII区域 X36 内:降灰

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
18	越前焼 火桶	口: 24.0 高: 20.0 底: 18.0 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状にやや外傾して立ち上がる/ 口端部平坦 体部:寸胴形 底部:平坦	外:回転ナデ/底部ナデ 内:回転ナデ	第IX区域 S39 内:降灰
19	信楽焼 壺	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は丸く 収める	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ	第VIII区域 G37 外:自然釉
20	信楽焼 壺	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は外方 へ屈曲して丸く収める	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ	第VIII区域 G38 外:降灰
21	信楽焼 壺	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:外反して立ち上がる/口唇部は外方 へ丸く収める	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ	第VIII区域 G38 外:自然釉
22	信楽鉢	焼: 良好 色: 暗茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:内湾して立ち上がる/口端部平坦	外:回転ナデ/底部ナデ 内:回転ナデ	第VI区域 V32 外:自然釉
23	土師器 小皿	口: 6.1 高: 1.5 底: 2.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第IX区域 Q39 片口状に歪む
24	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.4 底: 2.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	第IX区域 I39 片口状に歪む 口端部一部スス附着
25	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.7 底: 2.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 内:口縁部～底部ヨコナデ	第VIII区域 G37 片口状に歪む 口端部一部スス附着
26	土師器 小皿	口: 7.0 高: 2.4 底: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～体部ナデ・指頭 痕 内:口縁部～底部ナデ・指頭 痕	第IX区域 S39 片口状に歪む
27	土師器 小皿	口: 9.1 高: 1.9 底: 3.9 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～体部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第VIII区域 D37 片口状に歪む
28	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.0 底: 4.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	第IX区域 S39 片口状に歪む
29	土師器 小皿	口: 8.5 高: 1.9 底: 2.1 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部～底部ヨコナデ	第VI区域 Q33 片口状に歪む 口端部一部スス附着
30	土師器 小皿	口: 9.5 高: 1.9 底: 4.4 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第VII区域 P34 片口状に歪む 口端部1/2スス附着
31	土師器 小皿	口: 9.4 高: 1.9 底: 4.9 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 内:口縁部～底部ヨコナデ	第IX区域 F39 片口状に歪む 内外:スス附着
32	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.1 底: 4.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ヨコナデ	第IX区域 S39 片口状に歪む
33	土師器 小皿	口: 10.6 高: 2.2 底: 5.0 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IX区域 F39 片口状に歪む 口端部スス附着

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
34	土師器 小皿	口: 11.4 高: 2.3 底: 6.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅵ区域 S32 片口状に歪む 内外:スス附着
35	土師器 小皿	口: 11.4 高: 2.3 底: 6.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部外傾/口端部に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ /底部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ /底面周縁凹線	第Ⅶ区域 L35 片口状に歪む
36	土師器 耳皿	長: 6.7 幅: 4.2 高: 1.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:左右内側に屈曲/口唇部は丸く収め る 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅵ区域 V34 布目痕
37	土師器 鉢	口: 3.0 高: 3.3 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/3	口縁部:内傾/口唇部丸く収める 胴部:下膨れ	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅸ区域 J39
38	瀬戸美濃 鉄釉 皿	口: 11.8 高: 2.6 底: 4.0 焼: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収める 底部:碁笥底	外:口縁部～体部下位回転ナ デ 内:口縁部～体部下位回転ナ デ/底部カキメ	第Ⅸ区域 G39 外:底部トチン
39	瀬戸美濃 鉄釉 杯	口: 5.5 高: 2.2 底: 2.2 焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 精緻 1/1	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇 部は丸く収める 底部:蛇の目高台	外:口縁部回転ナデ/体部回転 ヘラケズリ 内:口縁部～底部回転ナデ	第Ⅷ区域 G38 外:体部露胎
40	瀬戸美濃 香炉	高: 2.2 底: 7.0 焼: 良好 色: 灰黒色	精緻 1/10以下	口縁部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる 底部:周縁に三角形の脚	外:回転ナデ/体部下位に条線 内:回転ナデ	第Ⅸ区域 G39
41	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.6 高: 6.7 底: 4.2 焼: 良好 色: 濃茶黒色	極砂粒 精緻 3/4	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は短く外傾し丸く収める 底部:蛇の目高台	外:口縁部～体部中位回転ナ デ/体部下位回転ヘラケズリ 内:口縁部～体部下位回転ナ デ	第Ⅶ区域 T35 外:体部下位～底部露 胎
42	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.7 高: 6.8 底: 4.3 焼: 良好 色: 茶黒色	極砂粒 精緻 1/3	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は短く外傾し丸く収める 底部:蛇の目高台	外:口縁部～体部中位回転ナ デ/体部下位回転ヘラケズリ 内:口縁部～体部下位回転ナ デ	第Ⅸ区域 J39 外:体部下位～底部露 胎
43	瀬戸美濃 鉄釉 托	最: 8.1 高: 3.8 底: 5.0 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 堅緻 3/4	底部:上位に突帯がめぐる/削出高台	底部:回転ヘラケズリ	第Ⅵ区域 W34 外:底部～突帯露胎
44	灰釉 小皿	口: 11.6 高: 2.8 底: 6.8 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 4/5	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口端部は弱く外反する/口唇部は丸く収 める	外:口縁部回転ナデ/底部高台 ケズリ出し 内:口縁部回転ナデ	第Ⅶ区域 M35 外:底部輪トチン
45	灰釉 壺	高: 2.2 底: 6.0 焼: 良好 色: 灰白色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	底部:平坦	外:体部下位ヘラケズリ/底部 ヘラ切り 内:ナデ	区域不明
46	灰釉 無頸壺	口: 4.4 高: 3.9 最: 8.0 焼: 良好 色: 淡緑色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:体部上位から内傾/口唇部丸く収め る 胴部:寸胴形/上位で張る	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ	第Ⅸ区域 F40
47	瓦質土器 壺	高: 4.8 底: 5.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	胴部:直線状に外傾して上方にのびる 底部:平坦	外:胴部ナデ/底部ナデ/胴部 下位にS字状渦巻文押印 内:胴部ナデ	第Ⅷ区域 E33
48	瓦質土器 瓦燈	口: 13.6 高: 5.0 底: 16.0 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:内傾して短く立ち上がる 受部:平坦 体部:やや内湾して短く立ち上がる底部:高 台ハの字に開く	外:口縁部～底部ミガキ 内:口縁部～底部ミガキ	第Ⅶ区域 S34

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
49	青磁 香炉	口: 8.6 高: 5.0 底: 7.4 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる /口端部内側突出/口端部は平坦 底部: 周縁に獣脚3	外: 回転ナデ/1条の沈線が口 端部、体部中位・下位にめぐ る 内: 回転ナデ	第IX区域 J39・M40 第VII区域 P34
50	青磁 盤	焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下		内: 底部陰刻草花文	第VI区域 T33・Y31
51	青磁 碗	口: 13.4 高: 4.5 底: 6.0 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口端部 外反/口唇部は丸く収める	外: 口縁部～体部に線刻蓮花 文がめぐる	第VIII区域 G38 外: 高台端部露胎
52	青磁 稜花皿	口: 16.0 高: 3.6 底: 9.3 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/腰部で 内側へやや屈曲/口唇部は丸く収め、切れ 込みを入れ、緩い花卉状にする 底部: 削出高台	外: 体部下位に条線1 内: 口縁部に花卉状の凹み	第VIII区域 G38 外: 高台端部露胎
53	青白磁 碗	口: 11.4 高: 3.0 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める		第IX区域 K41
54	白磁 皿	口: 13.0 高: 2.0 焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口端部で外反/口唇部は丸く収める		第VIII区域 K37
55	白磁 皿	口: 12.4 高: 2.7 焼: 良好 色: 透白色	堅緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める		第VI区域 R33
56	白磁 杯	高: 2.2 底: 2.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	体部: 腰部から外傾して立ち上がる 底部: 削出高台		第VI区域 X31
57	白磁 輪花皿	高: 2.0 底: 5.2 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 体部に粗い線刻の花卉 内: 体部に粗い線刻の花卉	第VI区域 W34 外: 高台端部露胎
58	白磁 皿	高: 1.7 底: 4.0 焼: 精緻 色: 白褐色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台	外: 底部に墨書	第VI区域 Q31 外: 底部～高台端部露 胎
59	白磁 皿	高: 1.1 底: 3.8 焼: 堅緻 色: 黄白色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台	外: 底部に「十」墨書	第IX区域 J39 外: 高台端部露胎
60	白磁 皿	高: 1.1 底: 4.1 焼: 堅緻 色: 黄白色	精緻 1/10以下	底部: 割り高台	外: 底部に「完」墨書	区域不明
61	染付 皿	口: 12.4 高: 2.6 底: 6.6 焼: 良好 色: 透青灰色	精緻 1/8	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収め る	外: 口縁部上位に呉須圏線1/ 体部に呉須草花文・宝珠文	第VI区域 T33 漆継ぎ
62	染付 皿	口: 12.2 高: 2.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部上位に呉須圏線2/ 体部に呉須草花文 内: 口端部に圏線1/体部に呉 須草花文/底面周縁に圏線2/ 中央に藤花文	第VI区域 T33
63	染付 皿	高: 2.6 底: 6.0 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	体部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上 がる 底部: 削出高台	外: 体部に呉須草花文/高台に 呉須圏線2 内: 底面周縁に呉須圏線2/中 央に藤花文	第IX区域 L40
64	染付 皿	高: 2.2 底: 3.0 焼: 良好 色: 白灰色	精緻 1/10以下	体部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上 がる 底部: 碁笥底	内: 底面周縁に呉須圏線2・草 花文/中央に魚文	第VII区域 S34 碁笥底周縁露胎
65	染付 皿	口: 13.2 高: 2.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収め る	外: 口縁部上位に呉須圏線1/ 体部に呉須変形唐草文 内: 口端部に圏線1/体部にア ラベスク文	第IX区域 F39
66	染付 皿	口: 14.6 高: 2.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収め る	外: 口縁部上位に呉須圏線2/ 体部に呉須変形唐草文 内: 口端部に圏線2/体部にア ラベスク文	第IX区域 F39

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点 備 考
67	染付皿	口: 15.4 高: 3.4 底: 10.0 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部上位に呉須圏線2/体部に呉須変形唐草文 内:口端部に圏線2/体部にアラベスク文/底面周縁に圏線2/中央にアラベスク文	第IX区域 F39/H39
68	染付皿	口: 14.8 高: 3.4 底: 9.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部上位に呉須圏線2/体部に呉須変形唐草文/高台に圏線2 内:体部にアラベスク文/底面周縁に圏線2/中央にアラベスク文	第IX区域 F39/G39
69	染付碗	口: 11.0 高: 3.7 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須圏線2/体部に呉須風景文 内:口端部に圏線2	第VII区域 S34
70	染付碗	口: 13.0 高: 2.7 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須圏線2/体部に呉梅花・菊花文 内:口端部に菱文・十字文の組合せ文	第VIII区域 G37
71	中国製壺	高: 1.2 底: 15.0 焼: 良好 色: 濃茶色	精緻 1/10以下	底部:平坦	外:底部回転ヘラケズリ 内:底部ナデ	第VI区域 U31 外:底部露胎
72	朝鮮製碗	口: 15.4 高: 2.5 焼: 良好 色: 明灰色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		区域不明 三島手
73	朝鮮製碗	口: 16.8 高: 3.5 焼: 良好 色: 灰色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:刷毛目 内:口縁部へ体部暗灰色地に白色の象嵌/放射状文・波線文	第VI区域 V34/T33 三島手
74	朝鮮製壺	焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/10以下		外:胴部中に振文突帯	第IX区域 J39
75	東南アジア製壺	口: 14.0 高: 2.5 焼: 良好 色: 暗灰色	精緻 1/10以下	口縁部:口端部下位内側に突出して受口状に成形	外:口縁部シャープ	第IX区域 G39
76	東南アジア製壺	口: 10.0 高: 2.2 焼: 良好 色: 暗緑灰色	精緻 1/10以下	口縁部:強く外反して開く/口唇部は丸く収める		第VI区域 外・内:自然釉
77	東南アジア製緑彩香炉	口: 5.1 高: 2.7 焼: 良好 色: 緑色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に上方に立ち上がる/口端部平坦/口端部内側突出	外:回転ナデ 内:底部ナデ	第VII区域 S34 外・内:緑釉 内:一部露胎
78	華南製赤絵杯	焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に上方に立ち上がる/口唇部丸く収める	外:口縁部～体部に赤絵・緑彩	第IX区域 K40

第VI区域遺構出土土器(PL. 64～66 第43図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点 備 考
79	越前焼甕	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/胴部上位「大」・格子文の押印/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ・指頭痕	第VI区域 Y31/SD5073
80	越前焼鉢	口: 12.8 高: 6.5 焼: 良好 色: 暗茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ開く/口端面平坦 底部:平坦	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ	第VI区域 Y31/SD5073
81	越前焼播鉢	高: 7.5 底: 15.6 焼: 良好 色: 灰茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	体部:直線状に外方へ開く 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に縄目痕/底部摩擦 内:回転ナデ/幅2.2cm・8条の卸目/底面卸目	第VI区域 Y31/SD5073
82	灰釉小皿	口: 11.0 高: 2.3 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は弱く内側へ屈曲/口唇部は丸く収める	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ	第VI区域 Y31/SD5073
83	中国製褐釉四耳壺	口: 14.0 高: 5.8 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 精緻 1/10以下	口縁部:短く屈曲/口端面は平坦 胴部:上位に耳4 胴部:上位で大きく張る	外:回転ナデ 内:回転ナデ	第VI区域 Y30/SD5073
84	青磁碗	口: 13.0 高: 3.8 焼: 良好 色: 淡オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:体部に陰刻葉文	第VI区域 Y31/SD5073

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
85	青磁壺	高: 2.0 底: 8.0 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	底部: 削出高台		第VI区域 Y31/SD5073 外: 高台端面露胎
86	青磁瓶	口: 11.4 高: 2.8 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 大きく外反して開く/口唇部丸く収める		第VI区域 Y31/SD5073
87	青磁酒会壺	焼: 良好 色: オリーブ	極砂粒 精緻 1/10以下	口縁部: 短く上方に立ち上がる/口唇部丸く収める 胴部: 上位で張る	胴部: 陽刻区画文	第VI区域 Y31/SD5073
88	白磁皿	口: 10.8 高: 2.5 底: 5.8 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める		第VI区域 Y31/SD5073
89	土師器小皿	口: 8.0 高: 1.7 底: 3.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部に段 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ 後指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第VI区域 S32/SB5325 片口状に歪む 口端部スス附着
90	土師器小皿	口: 9.5 高: 2.0 底: 3.7 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部～底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	第VI区域 S32/SB5325 口端部全周スス附着
91	土師器羽釜	口: 12.0 高: 8.3 底: 6.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部: 直上へ短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 受部: 平滑/幅1.5cm 体部～底部: 平底	外: 口縁部～受部ヨコナデ/体部ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ後指頭痕	第VI区域 S32/SB5325 体部全周スス附着
92	灰釉壺	口: 3.0 高: 3.7 底: 2.2 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部: 直線状に内傾/口唇部は丸く収める 胴部: 上位で屈曲/下位で窄まる 底部: 平坦	外: 口縁部回転ナデ/底部ナデ 内: 口縁部回転ナデ	第VI区域 R32/SB5325 内: 降灰
93	灰釉捏鉢	口: 30.4 高: 7.9 底: 10.2 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部は受口状 底部: 周縁に脚4	外: 口縁部～体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ/底部ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ/底部ナデ・摩耗・部分的な卸目	第VI区域 R31/SB5325 片口 外: 体部下位露胎・スス附着
94	土師器羽釜	高: 4.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: 直上へ短く立ち上がる 受部: 平滑/幅1.0cm	外: 口縁部～受部ヨコナデ/体部ナデ 内: 口縁部～体部回転ナデ後指頭痕	第VI区域 U34/SE5355
95	越前焼卸皿	口: 24.2 高: 4.2 底: 19.0 焼: 良好 色: 橙茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部: 直線状に短く外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部: 平坦	外: 回転ナデ/体部下位指頭痕/底部ナデ/シャープ 内: 回転ナデ/粗い卸目/幅2.9cm・9条の卸目	第VI区域 U33・34/SE5355 第VIII区域 B-G31/SA5183
96	白磁皿	高: 1.5 底: 4.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台		第VI区域 N32/SB5311 外: 底面～高台端面露胎
97	白磁杯	口: 9.0 高: 3.7 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める		第VI区域 N32/SB5311 外: 体部下位露胎

第VII区域遺構出土土器(PL. 69 第44・45図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
98	越前焼播鉢	口: 36.6 高: 13.2 底: 15.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 2/3	口縁部: 直線状に外方へ開く/口端面は丸く収める/口端部内側に浅い凹線	外: 回転ナデ/底部ナデ/体部下位に縄目痕/シャープ/底部未調整 内: 回転ナデ/内面に幅2.7cm・10条の卸目/口縁部に扇状卸目	第VII区域 U37/SK5291
99	越前焼壺	口: 14.1 高: 30.8 底: 18.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 2/3	口縁部: 短く外傾して立ち上がる/口唇部丸く収める/口端部下位に段 胴部: 上位で窄まる/下位下膨れ 底部: 平坦	外: 口縁部ヨコナデ/胴部回転ナデ後ヘラナデ/底面ナデ 内: 口縁部回転ナデ/胴部ナデ・指頭痕/底面ナデ	第VII区域 O35/SK5236

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点 備 考
100	土師器 小皿	口: 8.9 高: 2.0 底: 3.9 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅶ区域 T35/SB5272 片口状に歪む 口端部1/2スス附着
101	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.7 底: 3.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅶ区域 Q35/SB5255 片口状に歪む
102	土師器 羽釜	口: 9.0 高: 7.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部:直上へ短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 受部:平滑/幅1.5cm 体部:内湾して上方へ立ち上がる 底部:平底	外:口縁部～受部ヨコナデ/体部ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ後指頭痕	第Ⅶ区域 Q35/SB5255 外:体部スス附着
103	白磁皿	高: 1.2 底: 10.0 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:底部シャープ	第Ⅶ区域 S34/SB5255 外:高台端面露胎
104	白磁皿	口: 17.4 高: 3.1 焼: 良好 色: 灰色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める		第Ⅶ区域 S34/SB5255
105	越前焼 甕	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側に沈線 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225 外:胴部上位降灰
106	越前焼 甕	焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口端部内側に凹面/口縁部中央に凹面/口端部下位突出 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部～胴部上位ヨコナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ・指頭痕	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225
107	越前焼 播鉢	口: 25.0 高: 8.4 底: 13.4 焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面は丸く収める/口端部内側に段あり	外:回転ナデ/体部下位に縄目痕/底部ナデ/シャープ 内:回転ナデ/幅2.0cm・8条の卸目	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225 内:降灰
108	越前焼 捏鉢	口: 57.2 高: 15.4 底: 21.0 焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/5	口縁部:やや内湾して斜め外方へ開く/口端部平坦/口端部内側突出 底部:平坦	外:回転ナデ/底部ナデ 内:回転ナデ・指頭痕	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225 内:降灰
109	越前焼 播鉢	口: 38.0 高: 9.7 焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部平坦/口端部やや内傾/口端部内側に段	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ/幅2.2cm・8条の卸目	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225
110	越前焼 播鉢	口: 40.4 高: 15.8 底: 14.8 焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/5	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/口端部内側に凹線	外:回転ナデ/底部未調整/シャープ 内:回転ナデ/幅2.7cm・9条の卸目/底面卸目	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225
111	土師器 小皿	口: 8.0 高: 2.0 底: 3.4 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ・指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225 片口状に歪む 口端部スス附着
112	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.4 底: 4.4 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ・指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225
113	土師器 托	口: 9.0 高: 3.1 底: 6.6 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:脚台部はハの字に踏ん張る	外:口縁部～体部ミガキ/脚部ヨコナデ 内:口縁部ミガキ/底部ナデ/脚部ヨコナデ	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225
114	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.8 高: 5.5 焼: 良好 色: 黒褐色	極砂粒 精緻 2/3	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部は上方へ屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める	外:口縁部～体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内:口縁部～体部下位回転ナデ	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225
115	青磁 碗	口: 16.6 高: 6.7 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部に陰刻雷文/体部に繚刻草花文 内:口縁部に草花文	第Ⅶ区域 L33・34/SB5225

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
116	青磁碗	口: 18.4 高: 6.4 焼: 良好 色: 濃オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部に陰刻雷文/体部に線刻草花文 内:口縁部に草花文	第VII区域 L33・34/SB5225 第VI区域 X34
117	青磁碗	口: 12.0 高: 4.0 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:体部に線刻蓮花文	第VII区域 L33・34/SB5225
118	青磁碗	口: 11.6 高: 2.9 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:体部に線刻蓮花文	第VII区域 L33・34/SB5225
119	青磁碗	高: 1.8 底: 5.2 焼: 良好 色: 淡オリーブ	精緻 1/4	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台		第VII区域 L33・34/SB5225 外:体部下位～底部露胎
120	朝鮮製碗	口: 15.2 高: 6.0 底: 6.2 焼: 良好 色: 淡茶色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部～体部下位回転ナデ 内:口縁部～底部回転ナデ	第VII区域 L33・34/SB5225 外:体部下位～底部露胎
121	越前焼甕	口: 70.8 高: 70.6 最: 76.8 底: 26.3 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/8	口縁部:外傾して短く屈曲/口端部平坦 胴部:上位で張る/下位窄まる 底部:平坦	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ /胴部上位へラ記号/胴部下位 へラナデ/底面未調整/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ /胴部下位指頭痕	第VII区域 L33・34/SB5225 外:胴部上位降灰
122	越前焼甕	口: 80.0 高: 64.0 最: 89.0 焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/6	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端部平坦 /口端部に突帯/口端部内側に段 胴部:上位で張る/下位窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ /胴部上位格子文の押印/胴部 下位へラナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナ デ・指頭痕	第VII区域 L33・34/SB5225 P34/L35
123	土師器 小皿	口: 12.7 高: 2.5 底: 7.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部やや外傾/口唇部は丸く収める/口端部 段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第VII区域 L35/SF5218 内:スス付着
124	白磁皿	口: 12.0 高: 2.6 底: 6.6 焼: 良好 色: 灰白色	精緻 1/10以下	口縁部:外反して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める 底部:削出高台		第VII区域 L35/SF5218

第Ⅷ・Ⅸ区域遺構出土土器(PL. 69 第45・46図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
125	越前焼壺	口: 18.0 高: 6.1 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口唇部丸 く収める/口端部に凹線	外:口縁部ヨコナデ 内:口縁部ヨコナデ	第VIII区域 B・G31/SA5183 外:胴部上位降灰 内:口縁部降灰
126	越前焼壺	口: 17.2 高: 10.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端部平坦 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ /胴部上位へラ記号 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナ デ・指頭痕	第VIII区域 B・G31/SA5183 外:胴部上位降灰
127	越前焼壺	口: 10.0 高: 11.5 焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して上方へ立ち上がる/口 端部平坦 胴部:中位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部回転 ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナ デ・指頭痕	第VIII区域 B・G31/SA5183 外:胴部上位降灰
128	越前焼 四耳壺	口: 14.0 高: 15.0 焼: 良好 色: 黒灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して上方へ立ち上がる/口 端部平坦/口端部外側突出 胴部:上位に耳4/中位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部回転 ナデ/胴部上位条線2 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナ デ・指頭痕	第VIII区域 B・G31/SA5183 第VII区域 M35 外:口端部・胴部上位 降灰
129	越前焼 卸皿	口: 21.2 高: 3.9 底: 12.8 焼: 良好 色: 橙茶色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部:直線状に短く外方へ立ち上がる/口 端部平坦/口端部凹面 底部:平坦	外:回転ナデ/底部板目痕/底 部周縁縄目痕/シャープ 内:回転ナデ/幅2.4cm・9条卸 目	第VIII区域 B・G31/SA5183
130	越前焼 播鉢	口: 25.0 高: 8.3 底: 12.8 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端面平坦/口端部内側に浅い段をもつ 底部:平坦	外:体部回転ナデ/底部周縁に 縄目痕/底面未調整・へラ記 号 内:体部回転ナデ/幅2.4cm・9 条の卸目/底面×字状の卸目	第VIII区域 B・G31/SA5183

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点 備 考
131	越前焼 播鉢	口: 22.8 高: 8.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部丸く収める/口端部内側に段あり 底部:平坦	外:体部回転ナデ/シャープ 内:体部回転ナデ/幅2.8cm・ 12条の卸目/底面×字状の卸 目	第Ⅷ区域 B・G31/SA5183 外・内:赤色化粧土 外:一部スス付着
132	越前焼 播鉢	口: 39.7 高: 17.5 底: 16.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端面平坦/口端部内側に浅い段をもつ 底部:平坦	外:体部回転ナデ/底部周縁に 縄目痕/底面未調整 内:体部回転ナデ/幅2.4cm・8 条の卸目/底面に十字状の卸 目	第Ⅷ区域 B・G31/SA5183
133	越前焼 捏鉢	口: 23.4 高: 9.2 底: 9.4 焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平坦	外:体部回転ナデ/底部周縁に 縄目痕/底面未調整 内:体部回転ナデ	第Ⅷ区域 B・G31/SA5183
134	土師器 小皿	口: 13.9 高: 2.5 底: 8.0 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 B・G31/SA5183 片口状に歪む
135	灰釉 皿	口: 9.1 高: 2.3 底: 5.2 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 軟質 4/5	底部:緩やかに内湾して外方へ開く/口端部 外反 底部:削出高台	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ/中 央に梅花文刻印	第Ⅷ区域 B・G31/SA5183
136	染付 合子	口: 7.0 高: 3.0 焼: 良好 色: 淡茶色	精緻 1/10以下	口縁部:短く内傾して立ち上がる/口唇部は 丸く収める 体部:碗形/内湾して上方へ立ち上がる	外:体部に呉須草花文 内:口端部に呉須草花文	第Ⅷ区域 B・G31/SA5183
137	染付 碗	口: 15.8 高: 2.7 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外傾して立ち上がる/口唇 部は丸く収める/非常に薄手	外:口縁部上位に呉須圏線2/ 体部に呉須草花文 内:口端部に呉須圏線2	第Ⅷ区域 B・G31/SA5183
138	中国製 茶壺	口: 10.8 高: 5.8 焼: 良好 色: 茶色	精緻 1/10以下	口縁部:内傾して立ち上がる/口端部は折り 返して玉縁状に成形	外:回転ナデ 内:回転ナデ	第Ⅷ区域 B・G31/SA5183
139	越前焼 捏鉢	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面はやや 平坦/口端部内側に凹線	外:回転ヘラケズリ/シャープ 内:回転ナデ/ヘラ記号	第Ⅷ区域 G36/SD5176 E33/SD5177
140	土師器 小皿	口: 7.3 高: 1.6 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部～体部ナデ・指頭 痕 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅷ区域 G36/SD5176 片口状に歪む 外:赤色化粧土
141	土師器 小皿	口: 11.0 高: 2.3 底: 5.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 G36/SD5176 口端部一部スス付着
142	土師器 小皿	口: 13.1 高: 2.3 底: 8.0 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 G36/SD5176 口端部全周スス付着
143	土師器 小皿	口: 15.0 高: 2.1 底: 9.8 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 G36/SD5176 外・内:底面スス
144	土師器 耳皿	長: 4.3 幅: 4.0 高: 1.5 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:左右内側に屈曲/口唇部は丸く収め る 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅷ区域 G37/SD5176
145	中国製 香炉	口: 8.9 高: 1.6 焼: 良好 色: 濃茶色	精緻 1/10以下	口縁部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる /口端部内側突出/口端部は平坦	外:回転ナデ/口端部に沈線2 内:回転ナデ	第Ⅷ区域 G・H34/SD5176
146	土師器 小皿	口: 7.8 高: 1.6 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 F37/SB5166
147	土師器 小皿	口: 8.5 高: 1.8 底: 5.3 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 E37/SB5166 片口状に歪む 口端部1/2スス付着

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
148	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 5.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 F37/SB5166 口端部1/2スス附着
149	土師器 小皿	口: 11.4 高: 2.2 底: 6.7 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ /底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 E38/SB5166 片口状に歪む 口端部全周スス附着
150	土師器 小皿	口: 12.3 高: 2.5 底: 6.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口端部やや外反/口端部 内側に段 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 F38/SB5166 外・内:底面スス附着
151	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.5 底: 3.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅷ区域 F35/SB5166 片口状に歪む
152	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.8 底: 2.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:やや外反して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅷ区域 F35/SB5166 片口状に歪む
153	越前焼 甕	口: 46.6 高: 15.0 底: 6.0 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口端面は 平坦/口端部凹面/口端部内側に段 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナ デ・指頭痕	第Ⅷ区域 F36/SB5166 外:胴部上位自然釉
154	越前焼 壺	高: 65.7 最: 64.0 底: 27.0 焼: 良好 色: 明橙赤色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/6	胴部:上位で張る/下位窄まる 底部:平坦	外:胴部ナデ/胴部上位に「十」 のヘラ記号/胴部中位～下位 ヘラナデ/底部未調整/シャ ープ 内:ナデ・指頭痕	第Ⅷ区域 F36/SB5166
155	白磁 杯	口: 7.0 高: 2.8 底: 2.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める 底部:削出高台		第Ⅷ区域 E37/SB5166 外:高台端面露胎
156	青磁 香炉	口: 7.6 高: 5.0 底: 6.0 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/2	口縁部:口端部内側突出 体部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部中位に稜線 内:回転ナデ	第Ⅷ区域 G37/SB5166 G38 外:高台端面露胎
157	越前焼 甕	焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面平坦 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	第Ⅷ区域 F36/SK5173 D37 外:胴部上位自然釉
158	越前焼 甕	焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して上方へ立ち上がる/口 端面平坦 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	第Ⅷ区域 F36/SK5173 外:胴部上位自然釉
159	青磁 稜花皿	口: 14.6 高: 2.8 底: 5.0 焼: 良好 色: オリーブ青	精緻 1/6	口縁部:外反して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める/口唇部押圧して花弁状にす る		第Ⅷ区域 F36/SK5173 B-G31/SA5183 外:底部～高台端面露 胎
160	越前焼 甕	焼: 良好 色: 灰茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面平坦 /口端部突帯 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	第Ⅷ区域 F38/SK5167
161	土師器 小皿	口: 12.1 高: 2.3 底: 6.6 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:凹底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ・指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 F38/SK5167
162	土師器 小皿	口: 14.0 高: 2.1 底: 8.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 2/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部外傾・内側に段あり/口唇部丸く収め る/口端部段あり 底部:凹底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 F38/SK5167 片口状に歪む
163	土師器 小皿	口: 11.8 高: 2.1 底: 6.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部丸く収める/口端部段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 F38/SK5167 口端部全周スス附着

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
164	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.5 底: 2.7 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部平坦 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅷ区域 F38/SK5167 片口状に歪む
165	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.9 底: 3.9 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ・指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 F38/SK5167 片口状に歪む
166	瀬戸美濃 鉄釉 火桶	口: 22.4 高: 7.8 底: 良好 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に上方へ開く/口端部外側に屈曲/口端面平坦 胴部:寸胴形	外:回転ナデ/胴部上位凹線1・中位1/胴部中位に把手 内:回転ナデ	第Ⅷ区域 F38/SK5167
167	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.8 底: 4.2 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部外傾・内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:凹底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ・指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 E35/SD5175 口端部スス付着
168	土師器 小皿	口: 9.0 高: 1.8 底: 3.4 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部外傾・内側に段あり/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕・底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 E35/SD5175 外・内:スス付着 片口状に歪む
169	土師器 小皿	口: 9.8 高: 2.1 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める/口端部段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕・底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 E35/SD5175 片口状に歪む 内:一部スス付着
170	土師器 小皿	口: 9.5 高: 2.0 底: 4.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第Ⅷ区域 D35/SD5175
171	土師器 小皿	口: 13.8 高: 2.3 底: 8.1 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕・底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅷ区域 M39/SE5199
172	土師器 小皿	口: 16.3 高: 2.6 底: 10.0 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める/口端部に段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅸ区域 I・J39/SD5163 外・内:底面スス付着
173	白磁 皿	口: 7.0 高: 2.8 底: 良好 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/5	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部:腰部で屈曲		第Ⅸ区域 F40/SX5160
174	染付 皿	口: 14.0 高: 3.5 底: 7.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部上位に呉須圏線2/体部に呉須変形唐草文/高台に圏線2 内:体部にアラベスク文/底面周縁に圏線2/中央にアラベスク文	第Ⅸ区域 F39/SX5160
175	青磁 稜花皿	口: 16.6 高: 3.6 底: 9.6 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収め、切れ込みを入れ、緩い花卉状にする 体部:腰部で上方へやや屈曲 底部:削出高台	外:口縁部を6弁の花弁に成形	第Ⅸ区域 E40/SE5161
176	染付 皿	口: 14.0 高: 3.5 底: 8.8 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部上位に呉須圏線1/体部に呉須変形唐草文/高台に圏線2 内:体部にアラベスク文/底面周縁に圏線2/中央にアラベスク文	第Ⅸ区域 E40/SE5161

金属製品 (PL. 70 第47図)

単位: cm / g

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質	特徴	出土地点
177	鉄釘	4.5 0.5	0.4 -	2/3	鉄製品	釘頭欠損 断面正方形	第Ⅷ区域 E37
178	鉄釘	5.5 0.5	0.5 -	2/3	鉄製品	釘頭欠損 断面正方形	区域不明
179	火箸	6.5 0.7	0.6 -	1/2	銅製品	柄頭に通し孔 断面六角形	第Ⅸ区域 G39
180	飾金具	7.7 1.5	0.6 -	1/2	銅製品	釘頭に銅板 巻・縁金具?	第Ⅶ区域 O35/SK5236
181	銅板	5.5 3.7	0.7 -	1/1	銅製品	長方形/厚 さ不均等	第Ⅶ区域 R31/SB5325

土製品 (PL. 70 第47図)

単位: cm / g

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質 色調	特徴	出土地点
182	土製円盤	6.3 6.0	2.0 -	1/1	青磁碗 オリーブ	底部周縁打欠 外:底部露胎	第Ⅵ区域 F35/SB5166
183	土製円盤	5.6 5.5	2.2 -	1/1	青磁碗 オリーブ	底部周縁打欠 外:底部露胎	第Ⅵ区域 V34/SB5337
184	土製円盤	6.3 5.8	1.6 -	1/1	朝鮮碗 淡茶色	底部周縁打欠 外:高台端露胎	第Ⅷ区域 D37
185	土製円盤	4.8 4.4	1.0 -	1/1	鉄釉 天目茶碗 黒色	底部周縁打欠 外:底面露胎	第Ⅶ区域 L35
186	土製円盤	4.8 4.3	1.3 -	1/1	鉄釉 天目茶碗 黒色	底部周縁打欠 外:底面露胎	第Ⅷ区域 B・F31/ SA5183

3. 遺物

石製品(PL. 66・67 第37～39図)

単位:cm/g

No	器種	法量(最大値)			石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長 短	厚 重	残存				
187	石硯	6.1 5.0	2.0 —	1/10 以下	粘板岩 茶色 硬質	形状:板状 額幅0.8cm、高さ2.0cm	全体平滑 海:摩滅	第Ⅷ区域 B-G/SA5183
188	石硯	10.2 7.1	2.2 —	1/3	粘板岩 淡茶色 硬質	形状:板状 凹形内に海・岡/額欠 背面:欠損	全体平滑 岡:欠損/海:欠損	第Ⅷ区域 B-G/SA5183
189	砥石	6.9 1.9	0.9 —	4/5	凝灰岩 黄白色 硬質	形状:柱状直方体/上端部欠損 砥面/表裏面・左右側面・下端面 断面四角形	砥面5 粒度:密 中・仕上げ砥/浄教寺砥石	第Ⅴ区域 H36/SE4060
190	砥石	6.7 3.3	1.1 —	4/5	凝灰岩 淡灰茶色 硬質	形状:板状直方体/上端部欠損 砥面/表裏面・左右側面・下端面 断面四角形	砥面5 粒度:密 中・仕上げ砥/浄教寺砥石	第Ⅶ区域 Q35/SB5255
191	砥石	5.0 3.4	0.6 —	1/1	凝灰岩 淡橙褐色 硬質	形状:板状直方体 砥面/表裏面・左右側面・上・下端面 断面四角形	砥面6 粒度:密 中・仕上げ砥/浄教寺砥石	第Ⅵ区域 P34
192	砥石	6.7 4.6	1.6 —	1/2	凝灰岩 灰黒色 硬質	形状:板状直方体 砥面/表裏面・左右側面・上・下端面 断面四角形	砥面5/背面剥離 粒度:密 中・仕上げ砥/浄教寺砥石	区域不明
193	碁石	2.0 1.9	0.5 2.6	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第Ⅳ区域 G38
194	碁石	2.1 1.9	0.7 3.5	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第Ⅷ区域 K40
195	碁石	2.1 2.0	0.8 4.1	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第Ⅷ区域 H39
196	碁石	2.1 1.4	0.6 3.0	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:楕円状/平滑		第Ⅷ区域 G36/SD5176
197	碁石	2.1 1.4	0.7 3.3	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:楕円状/平滑		区域不明
198	碁石	2.0 1.7	0.6 2.9	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第Ⅶ区域 R32/SB5325
199	碁石	1.9 1.7	0.7 3.6	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第Ⅷ区域 L40
200	碁石	1.7 1.5	0.6 1.7	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第Ⅷ区域 I37
201	碁石	1.6 1.3	0.4 1.6	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第Ⅷ区域 K40
202	碁石	2.1 1.6	0.7 3.3	1/1	頁岩 暗灰色 硬質	形状:楕円状/平滑	白碁	第Ⅸ区域 T40
203	碁石	1.8 1.5	0.7 2.5	1/1	頁岩 灰色 硬質	形状:楕円状/平滑	白碁	第Ⅸ区域 T40
204	バンドコ 蓋	幅17.5 高3.4	奥行 13.0	2/3	笏谷石 淡褐色 軟質	0形バンドコの蓋 外:笠状に成形/平滑 内:身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑	第Ⅶ区域 L33・34/SE5225
205	バンドコ 蓋	幅17.5 高3.4	奥行 13.0	2/3	笏谷石 淡褐色 軟質	0形バンドコの蓋 外:笠状に成形/平滑 内:身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑	区域不明
206	バンドコ	幅 (22.0) 高13.8	奥行 (18.5)	1/4	笏谷石 橙褐色 軟質	0形バンドコ/合子形 外:幅1.0cm・長さ4.5cmの透孔5と推定 内:タタキ調整	全体平滑/被熱	第Ⅷ区域 B-G31/SA5183
207	バンドコ 蓋	幅16.1 高3.2	奥行 9.8	1/2	笏谷石 暗灰色 軟質	D形バンドコの蓋 外:笠状に成形/平滑 内:身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑	第Ⅵ区域 Y31/SD5073
208	バンドコ 蓋	幅18.3 高3.2	奥行 15.9	3/4	笏谷石 灰褐色 軟質	D形バンドコの蓋 外:笠状に成形/平滑 内:身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑 外:スス付着	第Ⅶ区域 L34/SE5225
209	バンドコ 蓋	幅17.4 高3.1	奥行 13.7	3/4	笏谷石 暗灰茶色 軟質	D形バンドコの蓋 外:笠状に成形/平滑 内:身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑	第Ⅷ区域 B-G31/SA5183
210	石盤	長17.4 高9.4	奥行 12.5	1/10以 下	笏谷石 淡青緑色 軟質	形状:長方形 外:平滑/口縁部幅1.5cm/体部平滑/底部粗い タタキ/底部に高さ1.8cmの脚	全体平滑	第Ⅵ区域 Y31/SD5073
211	石盤	長23.6 高9.5	奥行 13.5	1/8	笏谷石 緑灰色 軟質	形状:長方形 外:平滑/口縁部幅2.8cm/体部平滑/底部粗い タタキ/底部に高さ2.2cmの脚	全体平滑	第Ⅶ区域 Q35
212	石盤	長32.1 高12.0	奥行 32.0	1/1	笏谷石 淡灰緑色 軟質	形状:円形 外:平滑/口縁部幅2.0cm/体部平滑/底部タタ キ/底部に高さ1.0cmの脚3	全体平滑	第Ⅶ区域 U37/SK5291

木製品 (PL. 71 第48図)

単位: cm/g

No	種類	法量(最大値)		残存	木取樹種	特徴	出土地点
		長	高				
		底・幅	材厚				
213	漆器椀	—	3.5	1/3	横木取り 口縁部木裏 底部木表 ブナ属	体部はやや内湾して上方へ立ち上がる 体部外面: 黒漆地に朱漆で文様を描く 底部外面: ベタ高台 体部内面: 黒漆地/底面周縁に朱漆で文様を描く	第Ⅶ区域 L34・34/SE5225
		8.0	0.8				
214	面	9.5	—	1/2	横木取り ヒノキ	面下半残存 外面: 黒漆地/舌部に朱漆/下顎の糸切歯は牙状に延びる 内面: 黒漆地	第Ⅶ区域 L34・34/SE5225
		12.6	2.7				
215	木簡	12.4	—	1/1	柾目 ヒノキ	表面: 上端に墨書/「工」/下端に右下りの直角三角形・文字を墨書	第Ⅶ区域 L34・34/SE5225
		1.7	0.2				
216	木簡	7.6	—	1/2	柾目 ヒノキ	表面: 中央に墨書 裏面: 中央に墨書	第Ⅶ区域 L34・34/SE5225
		1.2	0.2				
217	木簡	10.2	—	3/4	柾目 ヒノキ	表面: 中央に呪符墨書 裏面: 中央に呪符墨書 先端・中央折れる	第Ⅶ区域 L34・34/SE5225
		1.6	0.3				
218	曲物 底板	4.5	6.7	1/1	板目 ヒノキ	形状: 円形/内側の径が外側の径より1.5mm大きい	第Ⅶ区域 L34・34/SE5225
		4.5	0.8				
219	曲物 底板	23.4	—	1/1	柾目 ヒノキ		第Ⅶ区域 L34・34/SE5225
		3.0	0.3				

その他の遺物(第48図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
220	土師器 甌	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	寸胴形の体部中位に付く把手	ナデ	第Ⅵ区域 U34/SE5355
221	土師器 長胴甌	焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 短く外傾して立ち上がる/口端部平坦 胴部: 上位から下位に窄まる	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部～胴部上位カキメ	第Ⅵ区域 U34/SE5355
222	須恵器 甕	口: 25.0 高: 6.0 焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 短く外傾して上方へ立ち上がる/口端部は平坦/口端部内側に段をもつ 胴部: 上位で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位タタキ・カキメ 内: 口縁部ヨコナデ	第Ⅵ区域 Y34
223	須恵器 杯A	口: 12.5 高: 3.5 底: 7.2 焼: 良好 色: 灰白色	極砂粒 堅緻 1/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ切り 内: 口縁部回転ナデ/底部ナデ	第Ⅵ区域 U34/SE5355
224	須恵器 杯B	口: 12.6 高: 4.2 底: 8.5 焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 精緻 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 付け高台	外: 口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ切り 内: 口縁部回転ナデ/底部ナデ	第Ⅵ区域 U34/SE5355
225	須恵器 杯A	口: 16.0 高: 2.2 底: 12.2 焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 精緻 1/4	口縁部: 直線状に短く斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部回転ナデ/底部回転ヘラ切り後ナデ 内: 口縁部回転ナデ/底部ナデ	第Ⅵ区域 U34/SE5355
226	須恵器 杯B	口: 15.0 高: 5.2 焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部回転ナデ 内: 口縁部回転ナデ	第Ⅵ区域 Y34

IV. 第 137・143 次調査(八地谷川南岸の遺構その 2)【城戸ノ内町字木蔵・斉藤】

1. 第 137・143 次調査(八地谷川南岸の遺構その 2)の概要(PL.35 第 49 図)

一乗谷朝倉氏遺跡の発掘調査および環境整備事業は、平成 23 年度(2011)の「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡発掘・整備基本計画」の改定に基づき、平成 24 年度から約 5 ヶ年にわたり上城戸周辺の発掘調査および環境整備を行うこととなった。

全国に先駆けて大規模遺跡の史跡公園化を推進してきた当県では、来園者に本物の遺跡に触れてもらうことを重視してきた経緯がある。しかし、半世紀にわたる風雨の浸食は年を追うごとに顕在化し、改定の特徴として、従来の計画調査を進める一方で、環境整備事業の中で、これまでに整備した露出展示の劣化防止対策が必要となった。

そこで、発掘調査の段階から劣化防止対策を視野に入れた整備を行う適地を検討した結果、朝倉館の対岸に位置し、見学者も多く、景観が重視される木蔵地区が選択された。事業は平成 24 年度から 2 ヶ年にかけて実施し、遺構の露出展示の劣化防止・維持管理に必要なデータを得ることを目的として、第 137・143 次調査に着手することとなった。

第 137・143 次調査区は、八地谷川南岸の遺構である。2 つの調査区は城戸ノ内町字斉藤・木蔵に位置し、朝倉館跡から北西へ約 140m 隔てた一乗谷川左岸に立地している。標高は約 50.0m を測り、調査前は水田であった。調査区は、一乗谷川の左岸に沿って、形状は南辺に底辺をもつ面長の三角形を呈し、南北長約 130m、南辺の東西長約 48m を測る。

調査区北西側は、町並立体復原地区から北方へ延びる南北道路 SS260 が検出された第 108 次調査区を間に挟み、第 112・114 次調査の武家屋敷・町屋と近接する。南西側は第 102・104 次調査の武家屋敷跡と近接する。

調査の方法は、調査区全体に 1 辺 3m を測る任意方向の方形グリッドを設定し、東西方向に 7~12、南北方向に Q~V' の番号を付して、遺構の記録、遺物の採集に用いた(第 50 図)。トレンチの掘削から埋め戻しは全て人力掘削で対応した。

調査区内には、第 137 次調査では、A~G までの 7 本のトレンチを設定した。その後、環境整備の進捗に伴い、第 143 次調査において、第 137 次調査 A トレンチで検出された石組排水溝 SD4798 の全体を確認するための 1・3 トレンチを設定し、南北道路の幅の東端を確認するために 2 トレンチを設定して、遺構の範囲・密度を確認した。

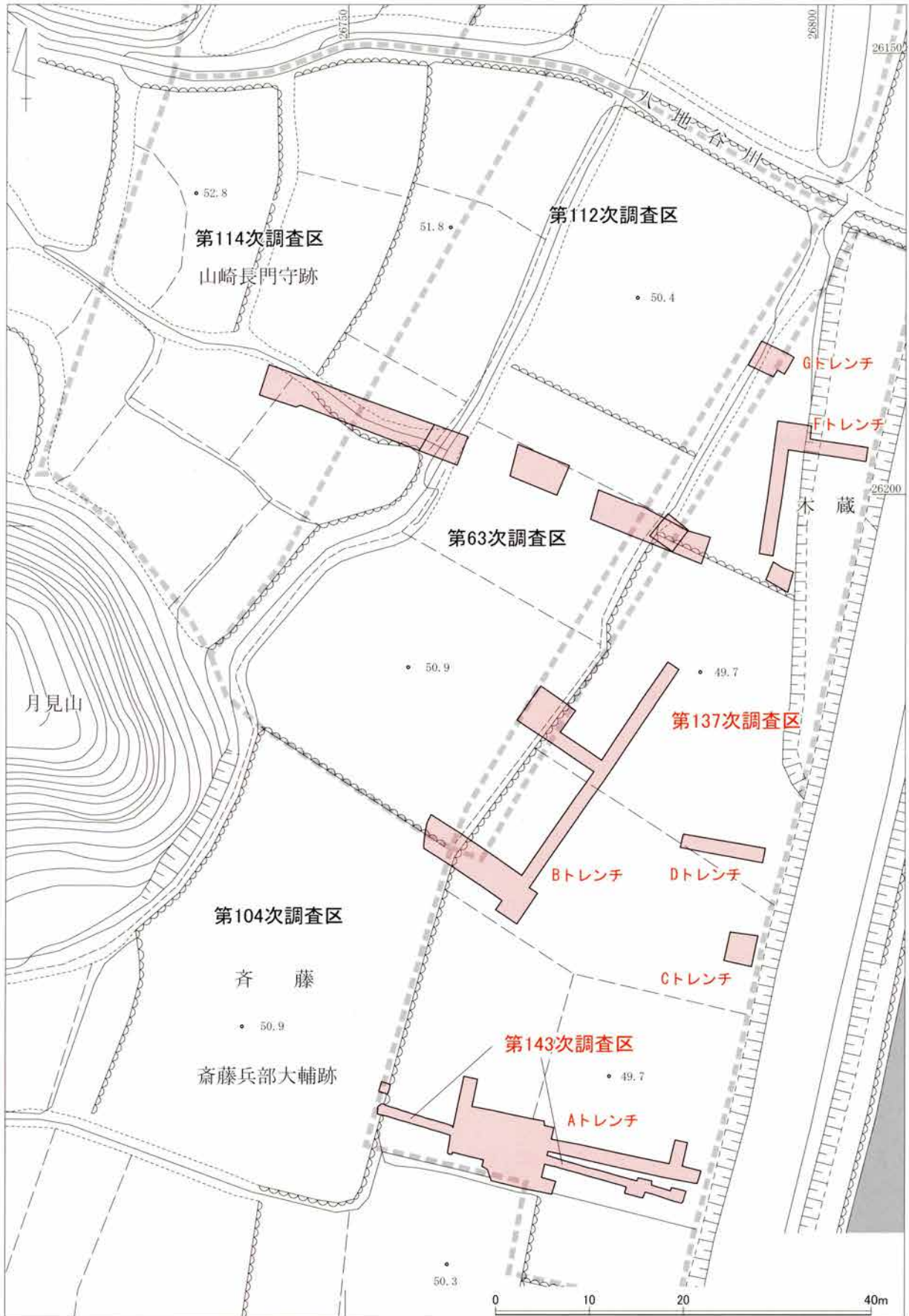
第 137 次調査の調査面積は計 300㎡を測り、調査期間は平成 24 年(2012)5 月 7 日~同年 6 月 8 日であり、第 143 次調査の調査面積は計 30㎡を測り、調査期間は平成 25 年(2013)6 月 6 日~同年 7 月 19 日を要した。以下、第 137 次調査の成果を中心に遺構の詳細を述べる。

2. 遺 構(PL.35~40 第 50~57 図)

【第 137 次調査】

A トレンチ(PL.37 第 52 図) A トレンチは、第 108 次調査で確認した東西道路 SS4822 の東西延長を確認するために設定した。A トレンチは調査区南端、Q-S8~17 に位置し、東西長約 10.5m×南北幅約 6.5m を測る長方形のトレンチに、東西長約 16.5m×南北幅 1.3m の直線状のトレンチが接続し、全体的に鍵状を呈す。

調査の結果、東西道路 SS4822 および道路両側に構築された北側土塁石垣 SA4784、南側土塁石垣 SA6801、SS4822 南側の側溝 SD4798 等を検出した。



第49図 第137・143次調査位置図(縮尺 1/600)



第50図 第137・143次調査遺構全体図(縮尺 1/300)

SS4822 は砂利敷きの道路であり、基底幅 3.0m を測る。S14 付近から東側の砂利密度は希薄になる。道路の断面を観察すると、南北両岸の土塁石垣基部から上層面まで約 0.8m 以上嵩上げしながら複数回にわたって道路を改修していることが確認できた。北側土塁石垣 SA4784 は T17～R9 まで SS4822 と並行して続いており、主軸は N74° W に向き、東西長 26.6m×幅 1.7m の規模が残存していることが確認できた。また、グリッド東端において、SA4784 の内側に幅 1.0m を測る土塁石垣 SA6802 も検出され、これは下層遺構と判断した。

南側土塁石垣 SA6801 は、幅 0.3～0.4m、深さ 0.2m を測る石組排水溝 SD4798 の南側に並行して設けられ、東西長 10.0m×幅 1.2m の規模が検出された。SA6801 の内側には、幅 1.2m を測る上段の石列 SV6804 と幅約 0.5m を測る下段の石列 SV6803 が並行し、犬走り状遺構と考える。遺物は灰釉鉢 1・2、越前焼甕 3 が出土した。

【第 143 次調査】

1～3 トレンチ(PL. 37・38 第 52 図) 第 143 次調査は、第 137 次調査で検出した東西道路 SS4822 の南側側溝である石組排水溝 SD4798 の延長を確認することを目的とし、1～3 トレンチを設定した。

1 トレンチは、第 137 次調査 A トレンチの西側に配置し、東西長約 8.5m×南北幅約 1.1m を測る。2 トレンチは T20 付近に配置し、東西長約 1.3m×南北幅約 1.1m を測る。3 トレンチは第 137 次調査 A トレンチの東側に配置し、東西長約 15.0m×南北幅約 1.1～1.6m を測る。

調査の結果、1 トレンチで SD4798 の西側、2 トレンチ西辺で石組が検出された。相互のトレンチの位置関係から、SD4798 は、本来 S20 付近で北側に屈曲し、東西道路 SS4822 を横断していた可能性があり、2 トレンチ西側で検出された石組は SD4798 の東岸と推定された。SD4798 の北側に屈曲する部分は、東西道路 SS4822 の改修に伴い、埋められてしまったと考える。3 トレンチでは SD4798 の東端が検出され、SD4798 は東西長だけでも長さ 34.5m×幅 0.5m の規模で構築されていることが明らかになった。

R10 付近で検出した SK6801 は、SD4798 と重複する土坑であり、径 1.2m を測る。土坑の周囲には SD4798 の石組を転用した配石が一部認められた。1～3 トレンチで越前焼甕 1・2・播鉢 3～6、土師器皿 7～17、白磁碗 18・19、青磁碗 20・皿 21、染付皿 22、朝鮮製碗 23、鉄釘 24・25 が出土した。

調査当初は、第 39 次調査(県道鯖江・美山線改良工事に伴う調査)の所見から、一乗谷川に近接する範囲は、河川の氾濫により遺構密度が希薄と想定されていたが、第 137 次 A トレンチおよび第 143 次調査 3 トレンチの所見から、この付近については未だ良好な状態で遺構が保存されていることが明らかになった。

【第 137 次調査】

B トレンチ(PL. 39 第 53 図) B トレンチは、屋敷地の区画を確認することを目的とした。調査区西側 A-J12～20 に位置し、変則的なトレンチは、さらに①～③に区分される。まず、南北長約 32.2m×東西幅 1.5～3.0m を測る直線状の B-③トレンチを設定した後、B-③トレンチ中央北西側に東西長 10.0m×南北幅 1.2～4.3m を測る旗状の B-①トレンチを設定した。旗状部分の北東隅には B-②トレンチとして深掘りを入れた。さらに B-③トレンチ南端北西側には、東西長 11.5m×南北幅 3.3m を測る長方形の B-④トレンチを設定した。

調査の結果、B-①トレンチ西端において、第 104 次調査区から北に続く SA4782 の内側に幅 1.5m を測る犬走り状遺構の石列が検出され、B-②トレンチと B-③トレンチを結んで東西に延びる石列 SV6806 を検出した。SV6806 は屋敷の区画と考えられるが、構築面は上層遺構面から約 0.7m 下の深度にあり、下層遺構と判断した。B-④トレンチ西端では、第 104 次調査から北に続く土塁石垣 SA6812 (旧 SV6812) が検出され、南東側では東西に延びる石組排水溝 SD6805 が東西長 9.5m×幅 0.5m の規模で確認された。SD6805 の東端には石組が周囲に一部残る土坑 SK6801 が検出された。遺物は、B トレンチ全体で越前焼鉢 4、土師器皿 5・6、灰釉播鉢 7、青磁瓶 8・酒会壺 9、朝鮮製碗 10 が出土した。

C トレンチ(PL.40 第54図) 旧Eトレンチである。Cトレンチは、一乗谷川の氾濫で削られた範囲を確認することを目的とした。調査区東側Z・A' 8に位置し、規模は南北長3.0m×東西幅3.0mを測り、方形を呈す。調査の結果、高さ約1.0mを測り東西に延びる石垣を検出したが、これは近現代の水田の石垣と判断した。

D トレンチ(PL.40 第54図) 旧Cトレンチである。Dトレンチは、一乗谷川の氾濫で削られた範囲を確認することを目的とした。調査区東側D8～11に位置し、規模は東西長9.0m×南北幅1.6mを測り、長方形を呈す。調査の結果、東側に面を向け、幅1.0mで南北に延びる石垣を検出した。石垣西側では幅3.0mを測る裏込め石も検出したが、Cトレンチと同様に近現代の水田石垣と判断した。水田石垣以东の遺構は流失していた。

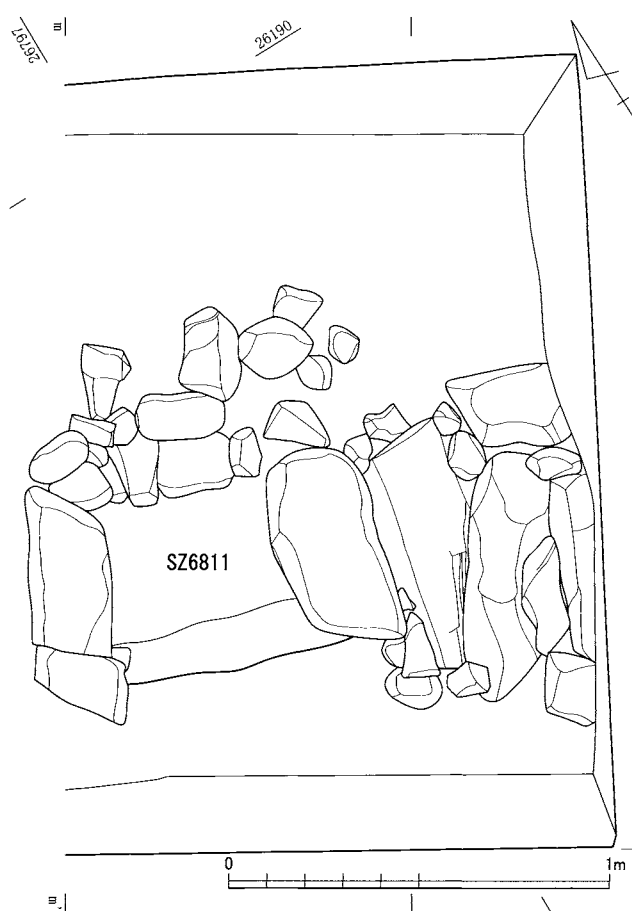
トレンチ西側の水田石垣の下層においては、地表下1.3mの深度で径1.0mを測る井戸SE6808が検出された。戦国期の遺構と考えるが、崩壊が危惧され、検出面から0.7mの掘削で止めた。石臼44が出土した。

E トレンチ(PL.40 第55図) Eトレンチは、南から延びる土塁石垣SA4782の延長を確認することを目的とした。調査区北西側O13に位置し、規模は南北長3.0m×東西幅2.8mを測り、方形を呈す。調査の結果、遺存状況が悪く、土塁石垣等の遺構は確認できなかった。遺物は庖丁42が出土した。

F トレンチ(PL.40 第56図) Fトレンチは、一乗谷川の氾濫で削られた範囲を確認することを目的とした。

調査区東側O-S10、S7～10に位置し、トレンチは①・②に区分される。F-①の規模は、南北長14.4m×東西幅1.5～3.2mを測り、旗状を呈す。F-②の規模は、東西長6.3m×南北幅1.6mを測り、直線状を呈し、①の旗状部に接続する。Fトレンチは全体的に倒立したL字状を呈す。

調査の結果、F-①中央において、高さ1.0mを測る近現代の水田石垣を検出し、下層で石列SV6809を検出した。地形的には石垣以南が上段、以北が下段になる。F-②の中央では東側に面を向け、高さ1.0mを測り、



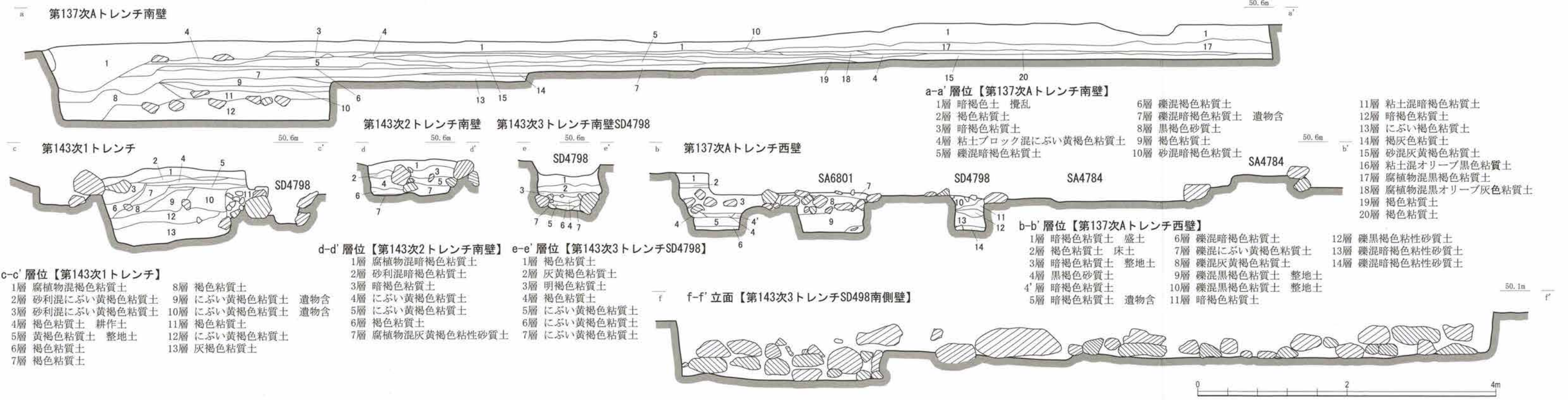
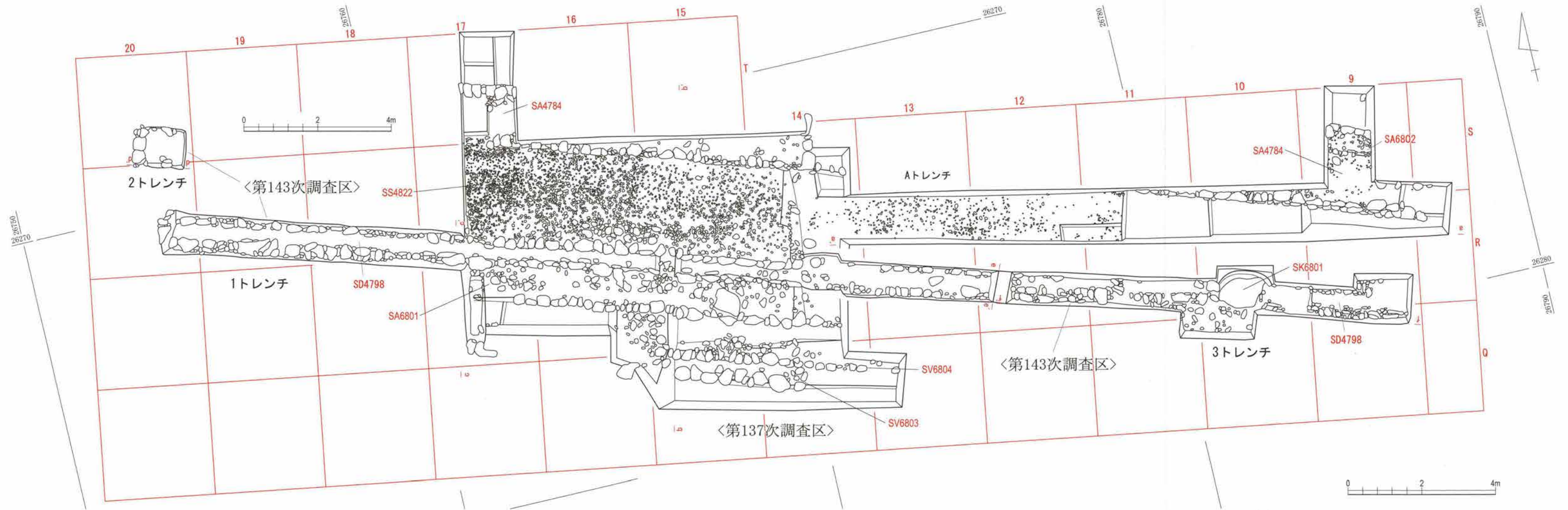
第51図 第137次調査GトレンチSZ6811(縮尺1/20)

南北に延びる近現代の水田石垣を検出した。水田石垣の西側では石積施設SF6810が検出された。

主軸はN9°Eに向き、推定長約2.4m、基底幅1.5mを測る。覆土からは土師器皿12～22、越前焼播鉢23、青磁碗27、白磁皿28、鋌41、砥石43が出土した。水田石垣の東側は河川の氾濫で遺構は流失していた。層位的にSF6810、SV6809は戦国期の遺構と判断した。

G トレンチ(PL.40 第51・56図) Gトレンチは、南から延びる土塁石垣SA4782の延長を確認することを目的とした。調査区北東側U・V10・11に位置し、規模は東西長約3.9m×南北幅約3.0mを測り、一隅が欠けた長方形を呈す。

調査の結果、SA4782の延長は確認できなかったが、地表下0.4mの深度で暗渠SZ6811を検出した。SZ6811は東西に延びる石組排水溝であり、主軸はN75°Wに向き、長さ約4.0m、幅0.3mを測る。東端は50～70cm大の石を大型の石を3石横位にして石組排水溝を覆い、西端は20～30cm大の石が複数これを覆っていた。



- c-c' 層位【第143次1トレンチ】**
- 1層 腐植物混褐色粘質土
 - 2層 砂利混にぶい黄褐色粘質土
 - 3層 砂利混にぶい黄褐色粘質土
 - 4層 褐色粘質土 耕作土
 - 5層 黄褐色粘質土 整地土
 - 6層 褐色粘質土
 - 7層 褐色粘質土
 - 8層 褐色粘質土
 - 9層 にぶい黄褐色粘質土 遺物含
 - 10層 にぶい黄褐色粘質土 遺物含
 - 11層 褐色粘質土
 - 12層 にぶい黄褐色粘質土
 - 13層 灰褐色粘質土

- d-d' 層位【第143次2トレンチ南壁】**
- 1層 腐植物混暗褐色粘質土
 - 2層 砂利混暗褐色粘質土
 - 3層 暗褐色粘質土
 - 4層 にぶい黄褐色粘質土
 - 5層 にぶい黄褐色粘質土
 - 6層 褐色粘質土
 - 7層 腐植物混灰黄褐色粘性砂質土

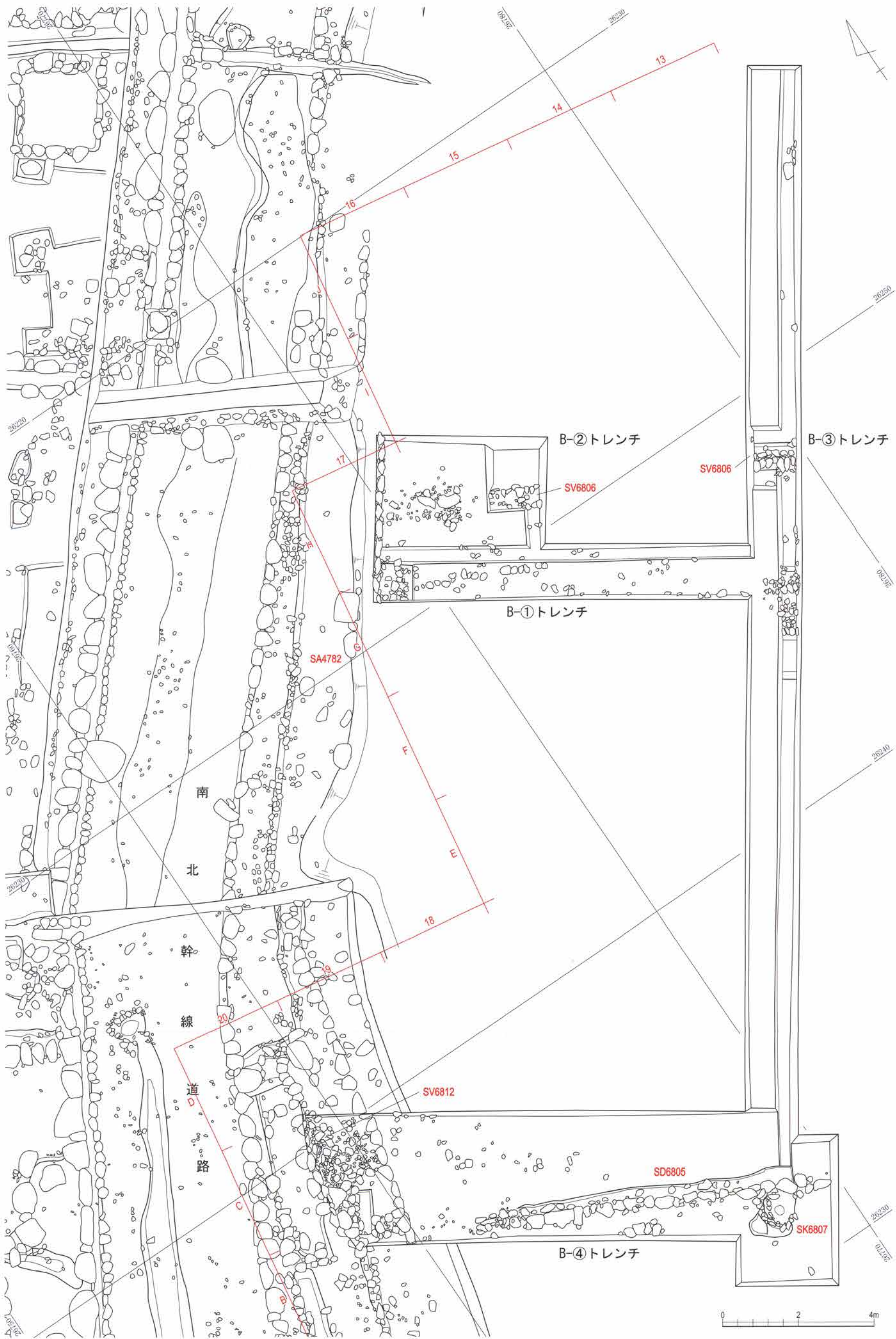
- e-e' 層位【第143次3トレンチSD4798】**
- 1層 褐色粘質土
 - 2層 灰黄褐色粘質土
 - 3層 明褐色粘質土
 - 4層 褐色粘質土
 - 5層 にぶい黄褐色粘質土
 - 6層 にぶい黄褐色粘質土
 - 7層 にぶい黄褐色粘質土

- a-a' 層位【第137次Aトレンチ南壁】**
- 1層 暗褐色土 攪乱
 - 2層 褐色粘質土
 - 3層 暗褐色粘質土
 - 4層 粘土ブロック混にぶい黄褐色粘質土
 - 5層 礫混暗褐色粘質土
 - 6層 礫混褐色粘質土
 - 7層 礫混暗褐色粘質土 遺物含
 - 8層 黒褐色砂質土
 - 9層 褐色粘質土
 - 10層 砂混暗褐色粘質土
 - 11層 粘土混暗褐色粘質土
 - 12層 暗褐色粘質土
 - 13層 にぶい褐色粘質土
 - 14層 褐灰色粘質土
 - 15層 砂混灰黄褐色粘質土
 - 16層 粘土混オリブ黒色粘質土
 - 17層 腐植物混黒褐色粘質土
 - 18層 腐植物混黒オリブ灰色粘質土
 - 19層 褐色粘質土
 - 20層 褐色粘質土

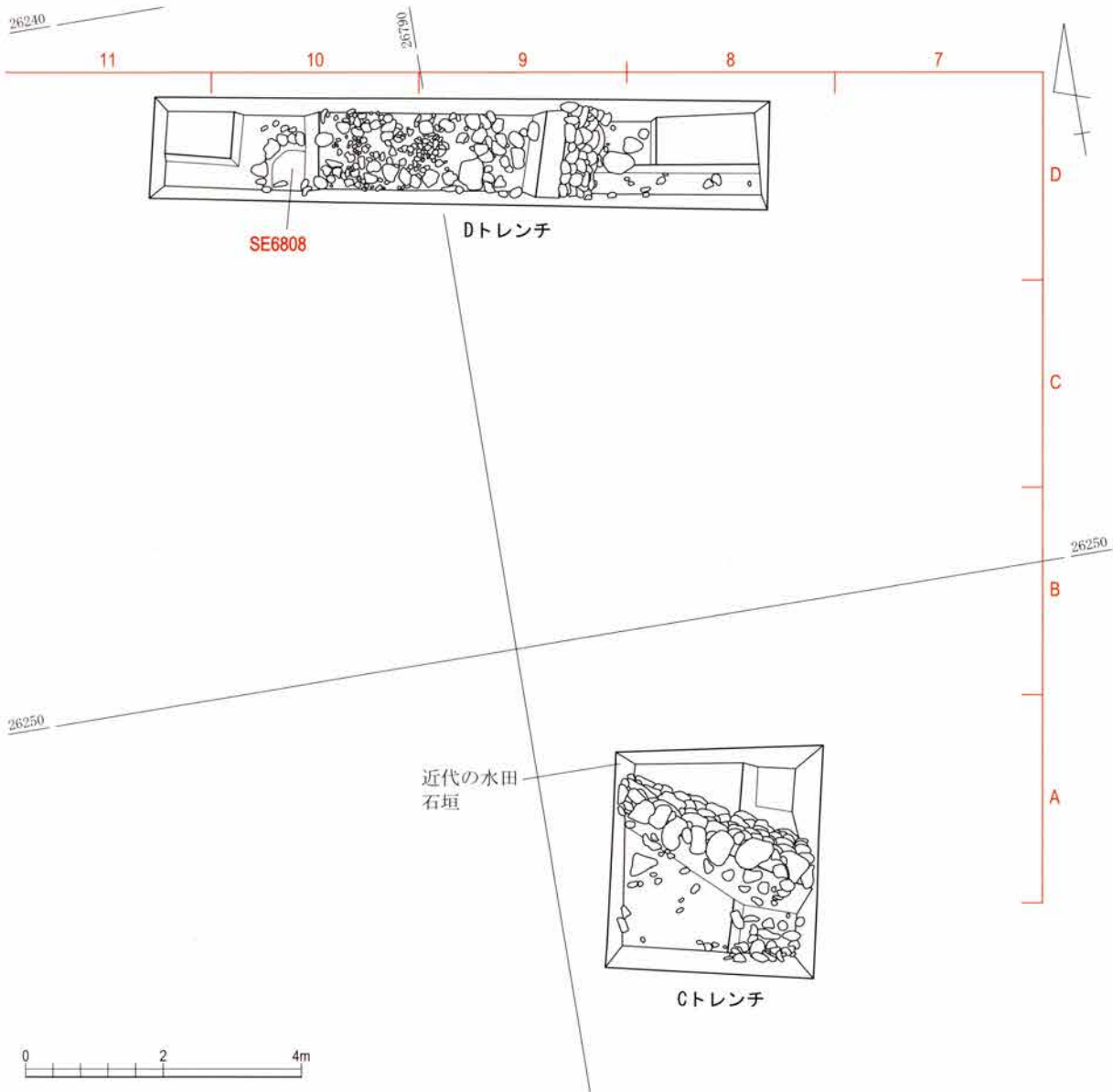
- b-b' 層位【第137次Aトレンチ西壁】**
- 1層 暗褐色粘質土 盛土
 - 2層 褐色粘質土 床土
 - 3層 暗褐色粘質土 整地土
 - 4層 黒褐色砂質土
 - 4'層 暗褐色粘質土
 - 5層 暗褐色粘質土 遺物含
 - 6層 礫混暗褐色粘質土
 - 7層 礫混にぶい黄褐色粘質土
 - 8層 礫混灰黄褐色粘質土
 - 9層 礫混黒褐色粘質土 整地土
 - 10層 礫混黒褐色粘質土 整地土
 - 11層 暗褐色粘質土
 - 12層 礫混褐色粘性砂質土
 - 13層 礫混暗褐色粘性砂質土
 - 14層 礫混暗褐色粘性砂質土

- f-f' 立面【第143次3トレンチSD498南側壁】**

第52図 第137次調査 Aトレンチ南壁・同西壁、第143次1トレンチ、同2トレンチ南壁、同3トレンチSD4798、同3トレンチSD4798南側壁(縮尺 1/100、1/50)



第53図 第137次調査 Bトレンチ(縮尺1/100)

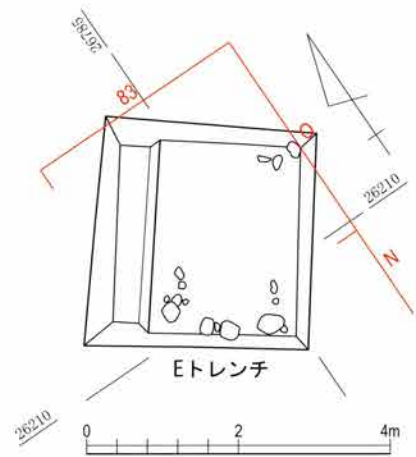


第54図 第137次調査C・Dトレンチ(縮尺1/100)

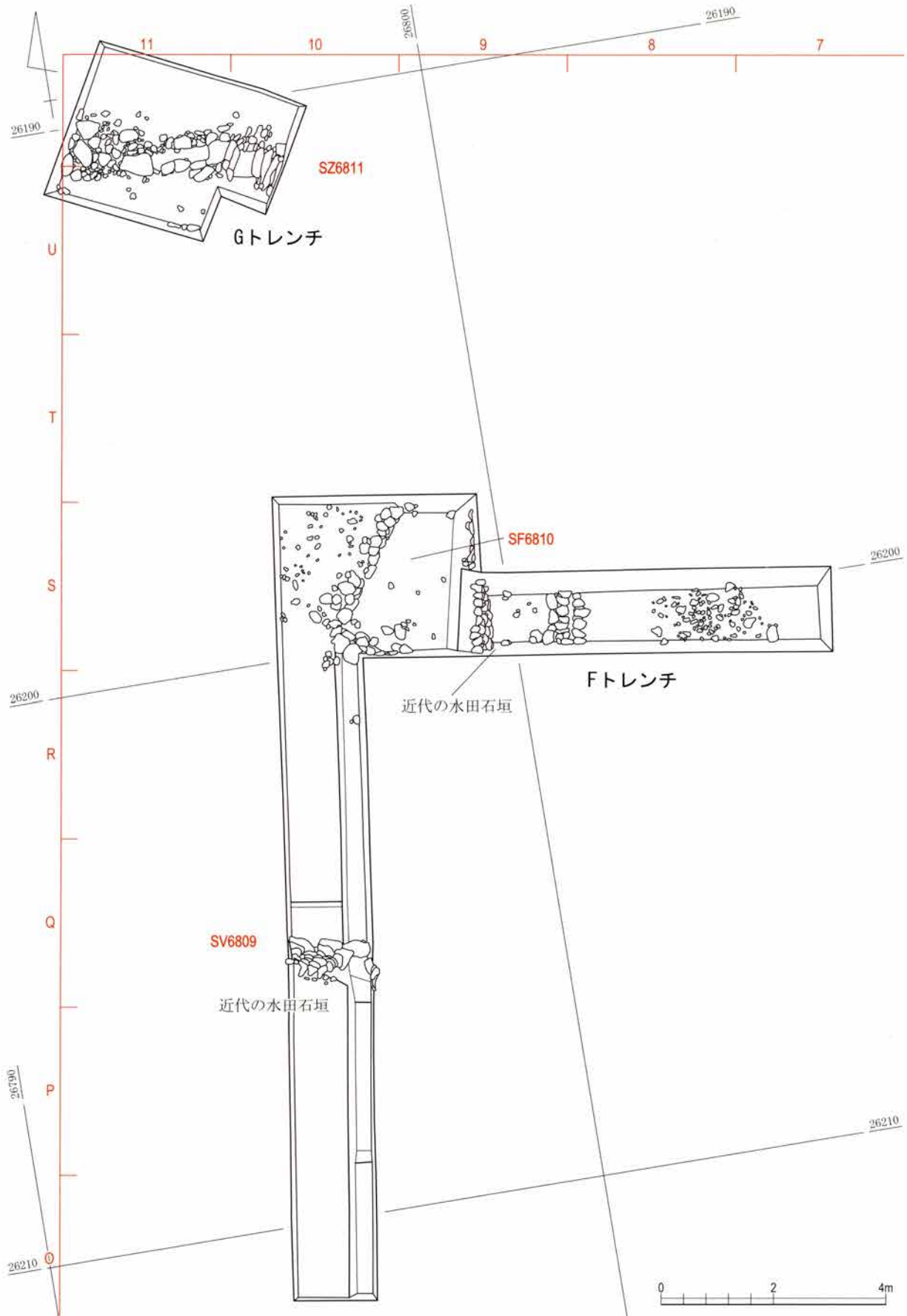
遺物は越前焼播鉢29、土師器皿30、灰釉卸皿31、白磁皿32・33、バンドコ46が出土した。

以上の調査結果から、第108次調査で示された南北道路SS260に沿った東側の土塁石垣SA4782は、比較的浅い深度で残存していることが示された。

しかし、C・D・Fトレンチ内で検出された近現代の水田石垣から東側の県道鯖江・美山線にかけてのA'-V'7・8にかかる遺構については、河川の氾濫または後世の耕作により、遺構は既に削られた可能性が高いと考える。

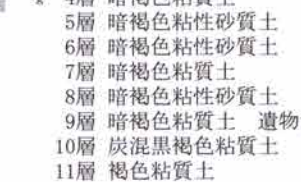
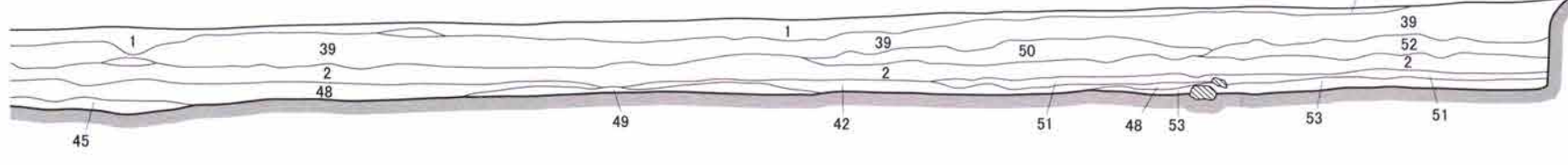
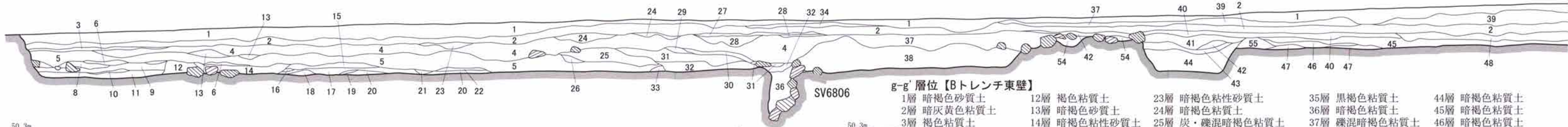


第55図 第137次調査Eトレンチ(縮尺1/100)

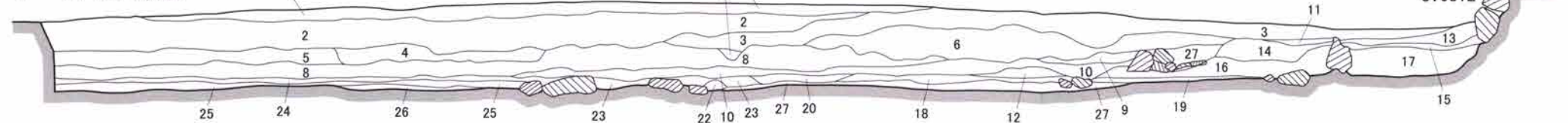


第56図 第137次調査F・Gトレンチ(縮尺1/100)

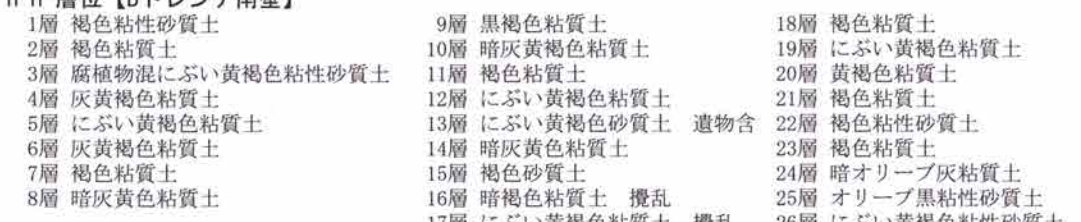
Bトレンチ東壁



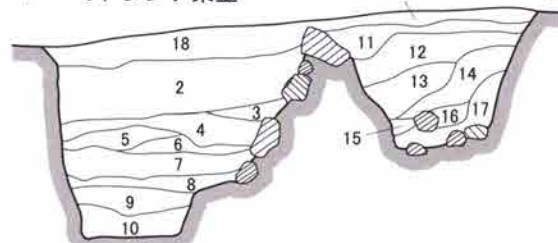
Bトレンチ南壁



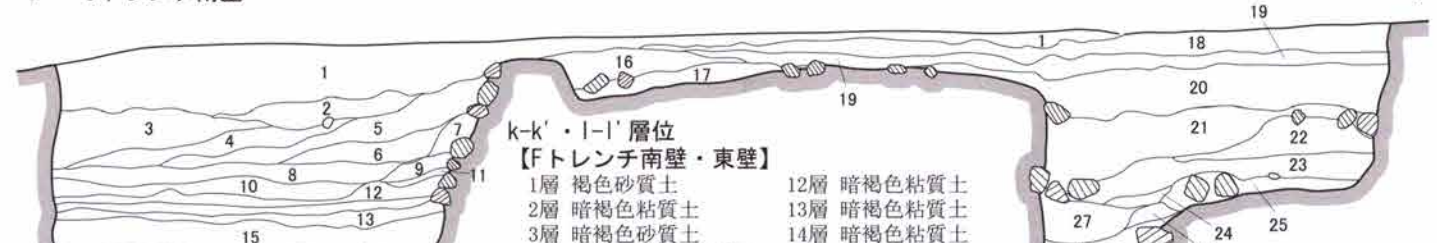
h-h' 層位【Bトレンチ南壁】



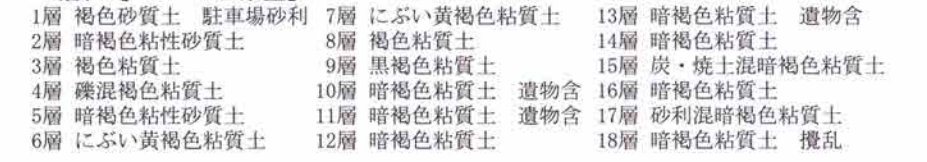
Cトレンチ東壁



Dトレンチ南壁



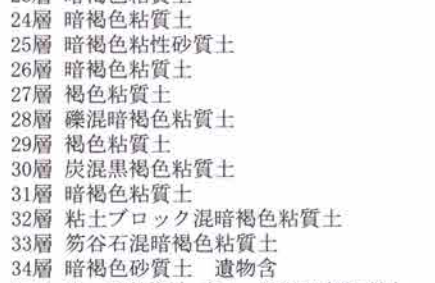
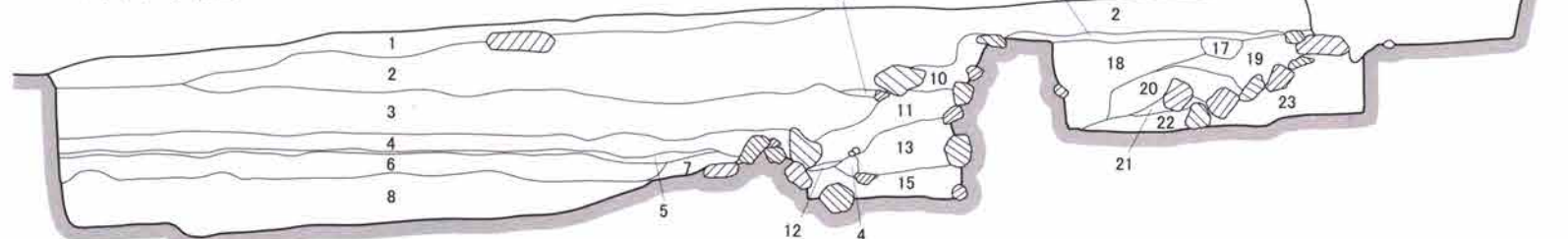
i-i' 層位【Cトレンチ東壁】



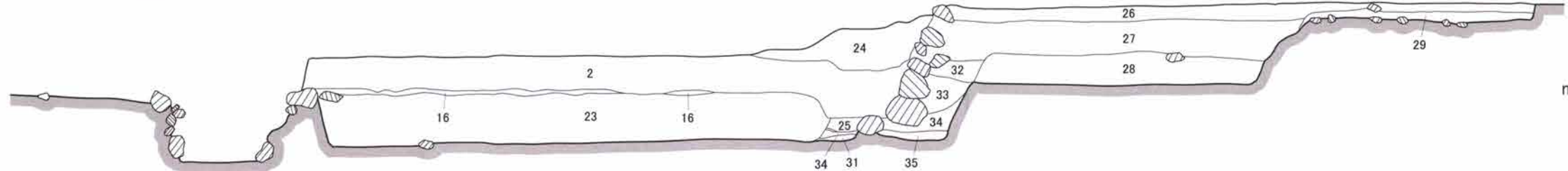
k-k'・l-l' 層位【Fトレンチ南壁・東壁】



Fトレンチ南壁



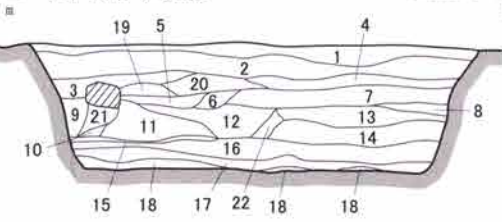
Fトレンチ東壁



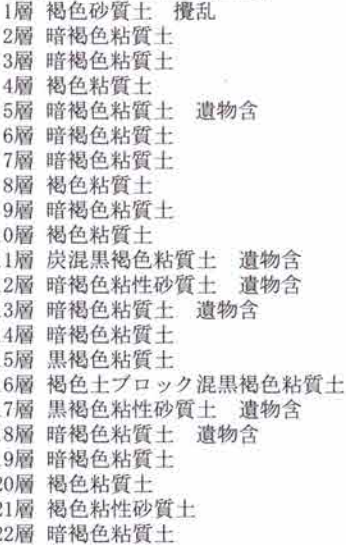
j-j' 層位【Dトレンチ南壁】



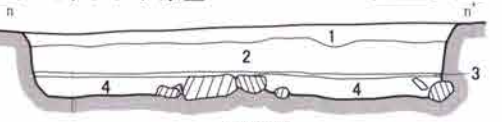
Eトレンチ西壁



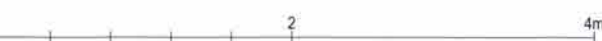
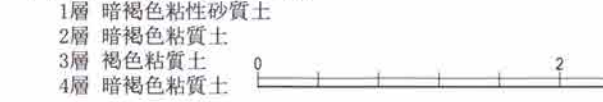
m-m' 層位【Eトレンチ西壁】



Gトレンチ東壁



n-n' 層位【Gトレンチ東壁】SZ6811



第57図 第137次調査 B~Gトレンチ断面(g-g'~n-n'層位)(縮尺1/50)

3. 遺物 (PL. 71 第 58~60 図、第 6 表)

第 137 次調査出土遺物 (PL. 71 第 58・59 図)

第 137 次調査の遺物は、1~50 を掲載した。内訳は土器(陶磁器類) 1~33、金属製品 34~42、石製品 43~46、銭貨 47~50 である。詳細は第 6 表に記し、以下、特徴的なものについて概要を述べる。

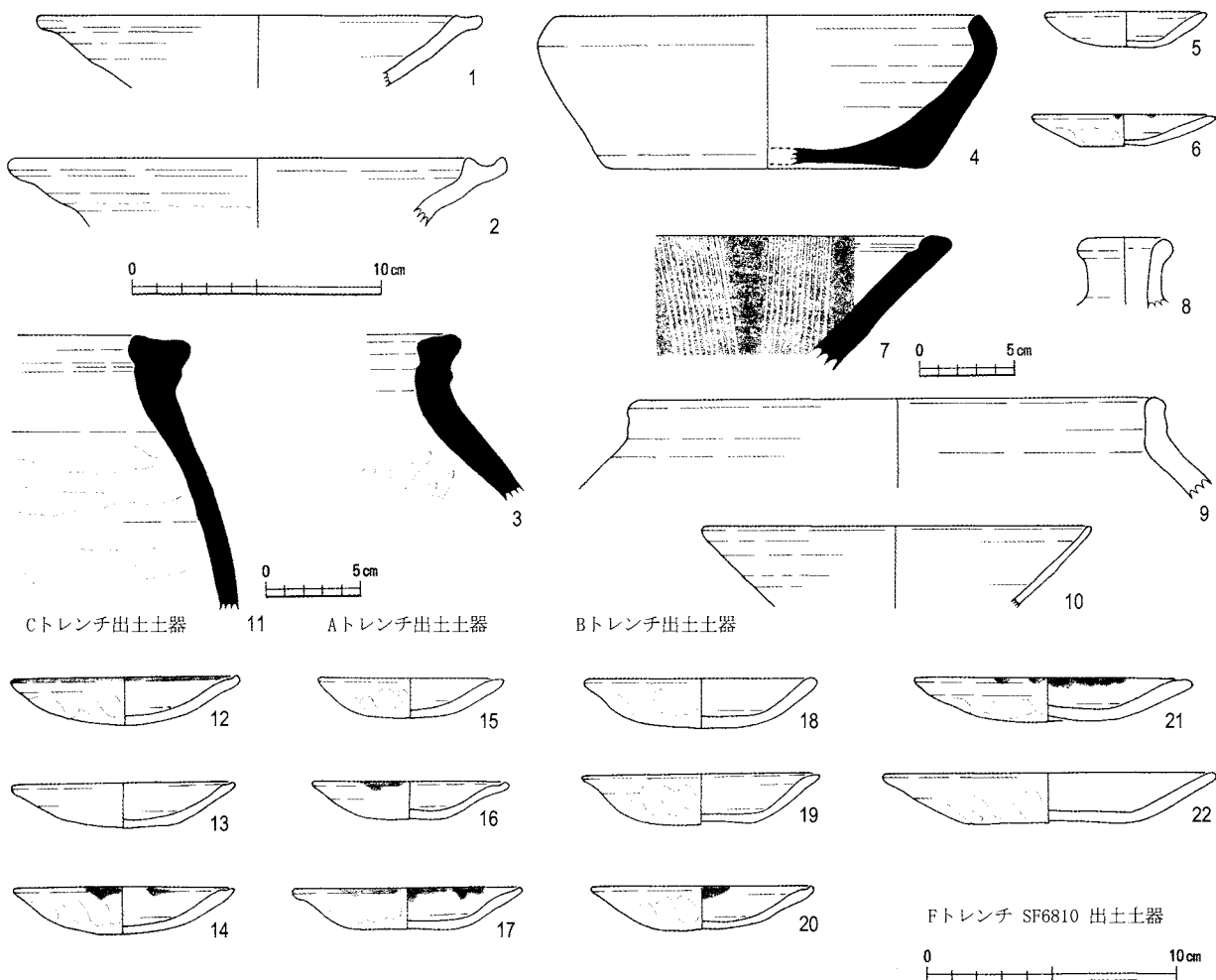
A トレンチでは灰釉御皿 1 と捏鉢 2 が出土した。1 は口端部が外方へ屈曲し、2 は受口状になる。B トレンチでは 4~10 が出土し、青磁瓶子 8 や酒会壺 9 も破片ながらも出土している。

F トレンチでは SF6810 出土のもの主体を占める。土師器小皿 13~22 が 12 は底部が丸底になる浅皿形 C 類であり、13~22 は杯形 C 類である。22 は口径 13.3cm を測り、盤に近い形状を呈す。越前焼播鉢 23 は口径 36.0cm を測り、内面に幅 3.0cm・10 条の卸目が入る。底部外面は未調整である。

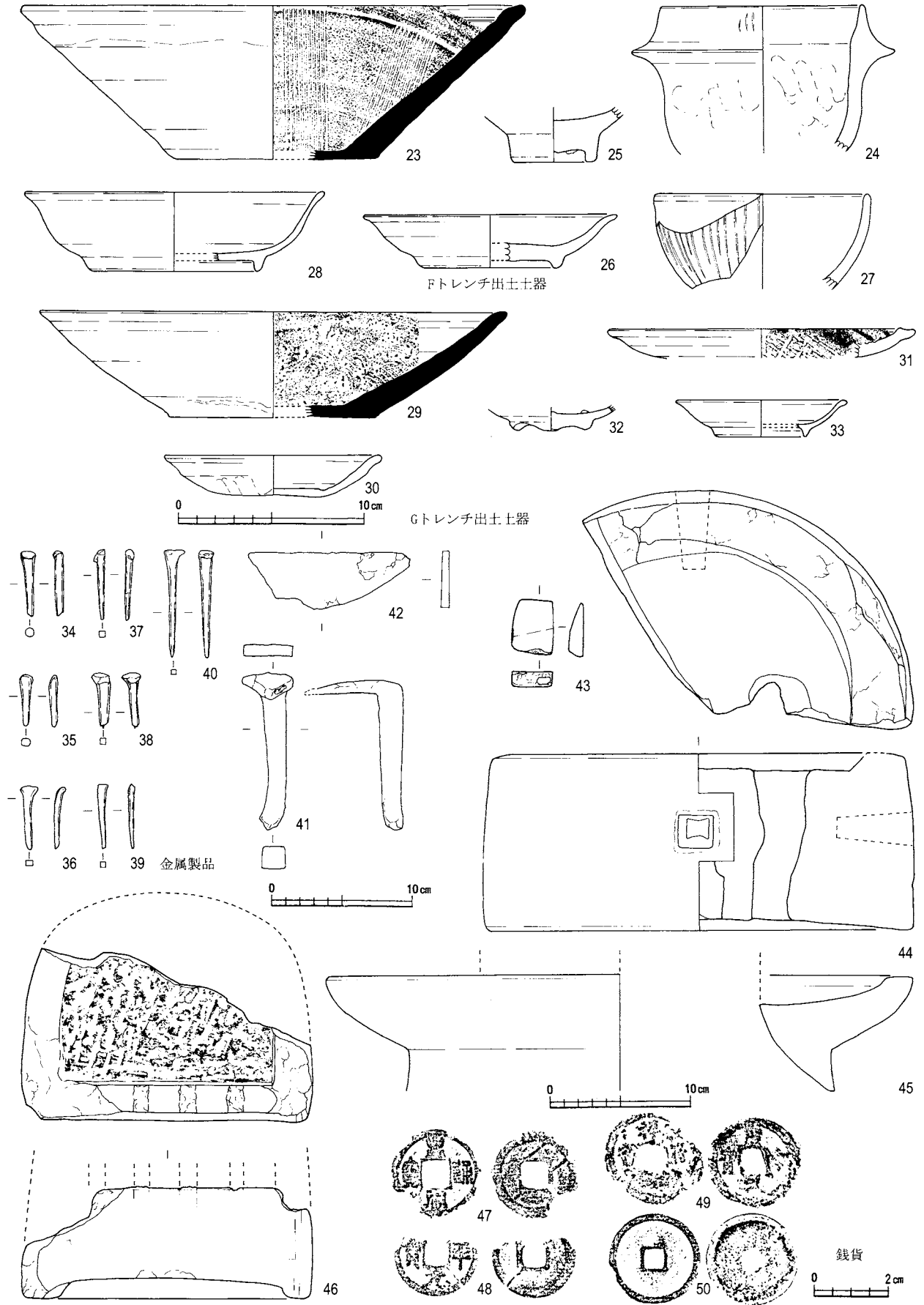
G トレンチでは SZ6811 周辺で土器類が出土した。越前焼播鉢 29 の卸目には青海波文が押印されていた。銭貨は 47~50 の 4 枚が出土した。石製品は、石臼 44、茶臼 45、バンドコ 46 が出土した。いずれも笏谷石製である。銭貨は、B トレンチ出土の 47 の「皇宋通宝」以外は判読できなかった。

第 143 次調査出土遺物 (PL. 71 第 60 図)

第 143 次調査の遺物は、1~26 を掲載した。1 越前焼甕 1~6、土師器小皿 7~17 が主体を占める。土師器皿 14~16、盤 17 は口縁部が直線状に外方へ延び、口端部に強いヨコナデによる段を有している。青磁碗 20 は口径 14.4cm を測り、体部に線刻蓮花文を入れる。

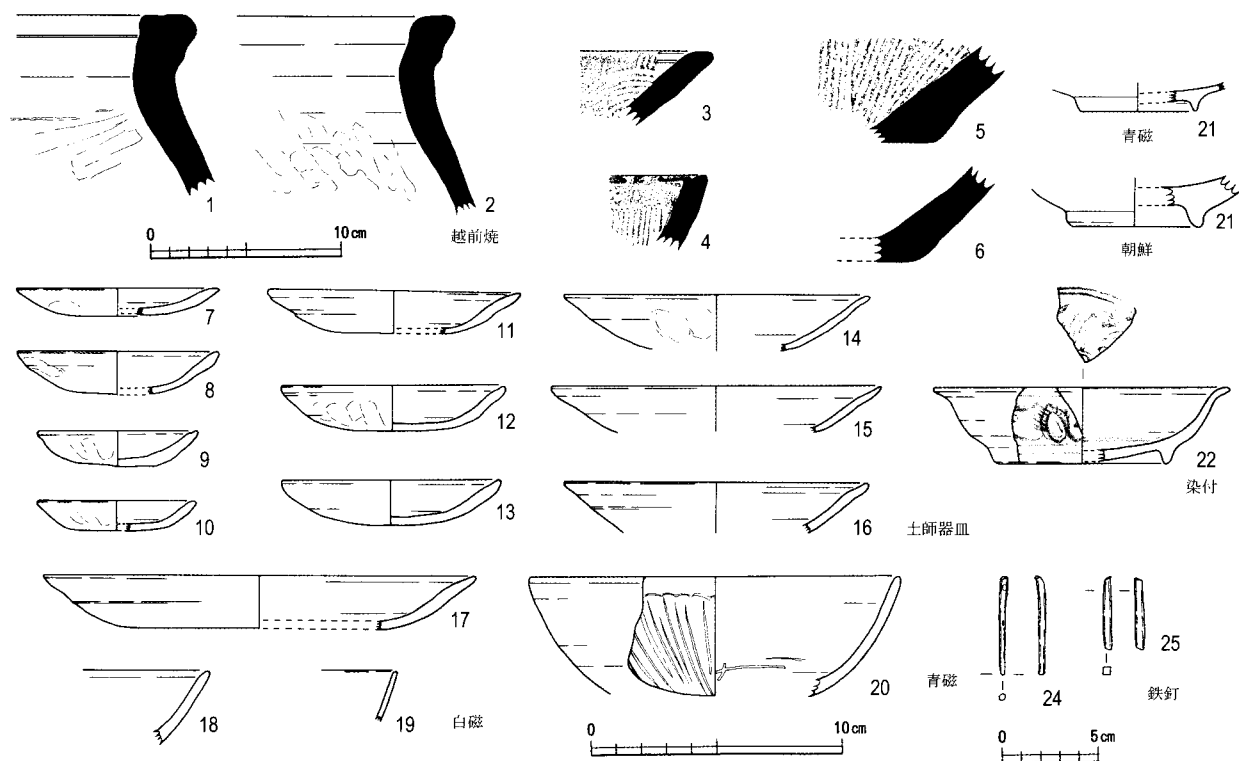


第 58 図 第 137 次調査 出土土器(縮尺 1/3、1/4)



第59図 第137次調査 出土土器、金属製品、石製品、錢貨(縮尺 1/3、1/4、2/3)

3. 遺物



第60図 第143次調査 出土土器、金属製品(縮尺 1/3、1/4)

第6表 第137・143次調査出土遺物観察表(PL.71 第58~60図)

第137次調査出土土器(PL.71 第58・59図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
1	灰釉 卸皿	口: 17.6 高: 2.9 焼: 不良 色: 濁緑色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部外方へ屈曲/口端部内側受口状	外: 口縁部~体部回転ナデ 内: 口縁部~体部回転ナデ	Aトレンチ R・S9~17 外: 体部下位露胎
2	灰釉 捏鉢	口: 19.6 高: 2.8 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部: やや外反して斜め外方へ立ち上がる/口端部内側受口状	外: 口縁部~体部回転ナデ 内: 口縁部~体部回転ナデ	Aトレンチ R・S9~17 外: 体部下位露胎
3	越前焼 大甕	焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部: 短く上方へ立ち上がる/口端面は平坦/口縁部中央に凹面/口端部内側に凹線 胴部: 上位で大きく張る	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部ナデ・指頭痕	Aトレンチ R・S9~17
4	越前焼 鉢	口: 17.0 高: 6.0 底: 12.6 焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部: 内湾して外方へ開く/口端部内傾して屈曲/口端面平坦 底部: やや凹底	外: 回転ナデ/底部未調整/底部周縁回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ	Bトレンチ A-J12~20
5	土師器 小皿	口: 6.3 高: 2.7 底: 1.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部~底部ナデ・被熱 内: 口縁部~体部ヨコナデ/底部ナデ	B-③トレンチ G14/SV6806 片口状に歪む
6	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.3 底: 2.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ヨコナデ	B-①トレンチ 片口状に歪む 口端部スス付着
7	越前焼 搦鉢	焼: 不良 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ開く/口端面は平坦/口端部内側に段	外: 回転ヘラケズリ/シャープ 内: 回転ナデ/幅3.3cm・11条の節目	B-①トレンチ G・H14~17
8	青磁 瓶子	口: 3.8 高: 2.7 焼: 良好 色: オリーブ青	精緻 1/10以下	口縁部: 短く上方へ立ち上がる/口端部外方へ屈曲		B-①トレンチ H16・17
9	青磁 酒会壺	口: 21.0 高: 3.4 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部: 短く上方へ立ち上がる/口端部丸く収める		B-①トレンチ H16・17

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点 備 考
10	朝鮮製 碗	口: 15.6 高: 3.2 焼: 良好 色: 透灰色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める	外: 胴部回転ナデ 内: 胴部回転ナデ	B-①トレンチ H16・17
11	越前焼 甕	焼: 良好 色: 暗こげ茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は 平坦/口縁部中央に突帯/口端部内側に段	外: 口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/押印/シャープ 内: 口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	Cトレンチ Z・A' 8 外:降灰
12	土師器 小皿	口: 8.9 高: 2.0 焼: 良好 色: 黄褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める/口端部 に段 底部:丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部～底部ヨコナデ	Fトレンチ O-S7～10 口端部スス付着
13	土師器 小皿	口: 8.4 高: 1.8 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内: 口縁部～底部ヨコナデ	Fトレンチ S9/SF6810
14	土師器 小皿	口: 8.9 高: 1.9 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部～体部ヨコナデ/底 部ナデ	Fトレンチ S9/SF6810 片口状に歪む 口端部スス付着
15	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	Fトレンチ S9/SF6810 片口状に歪む
16	土師器 小皿	口: 9.6 高: 1.5 底: 2.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内: 口縁部～底部ヨコナデ	Fトレンチ S9/SF6810 片口状に歪む 口端部スス付着
17	土師器 小皿	口: 9.0 高: 4.8 底: 4.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	Fトレンチ S9/SF6810 片口状に歪む 口端部3/4スス付着
18	土師器 小皿	口: 8.9 高: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部～底部ナデ	Fトレンチ S9/SF6810 片口状に歪む
19	土師器 小皿	口: 9.5 高: 2.0 底: 4.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	Fトレンチ S9/SF6810 片口状に歪む
20	土師器 小皿	口: 8.9 高: 1.7 底: 4.2 焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	Fトレンチ S9/SF6810 片口状に歪む 外・内:スス付着
21	土師器 小皿	口: 11.2 高: 1.7 底: 4.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める/口端部に段 底部:平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部～底部ヨコナデ	Fトレンチ S9/SF6810 片口状に歪む 口端部スス付着
22	土師器 小皿	口: 13.3 高: 1.9 底: 6.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/3	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	Fトレンチ S9/SF6810
23	越前焼 播鉢	口: 36.0 高: 11.2 底: 14.4 焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/ 口端部やや外反/口端部内側に沈線 底部:平坦	外: 回転ナデ/底面未調整 内: 回転ナデ/幅3.0cm・10条 の御目	Fトレンチ S9/SF6810 外: 口縁部自然釉 内: 自然釉
24	土師器 羽釜	口: 11.0 高: 8.0 焼: 良好 色: 淡茶白色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直上へ短く立ち上がる/口唇部は丸 く収める 受部:平滑/幅1.0cm 体部～底部:平底	外: 口縁部～受部ヨコナデ/体 部ナデ・指頭痕/受部にヘラ 記号 内: 口縁部～体部回転ナデ後 指頭痕	Fトレンチ S9/SF6810
25	青磁 碗	高: 3.0 底: 4.3 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/6	底部:削出高台		Fトレンチ S9/SF6810 外: 底部トチン・露胎
26	青磁 皿	口: 13.3 高: 2.9 底: 7.2 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部 で外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ	Fトレンチ O-S7～10 外: 底部周縁トチン・ 露胎

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
27	青磁碗	口: 11.6 高: 5.0 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部~体部に練刻蓮花文	Fトレンチ S9/SF6810 外:底部トチン・露胎
28	白磁皿	口: 15.7 高: 4.3 底: 9.0 焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/6	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部で外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		Fトレンチ S9/SF6810 外:高台端面露胎
29	越前焼 播鉢	口: 33.6 高: 7.6 底: 14.8 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部平坦 底部:平底	外:回転ナデ/底部未調整・周縁縄目痕 内:回転ナデ/同心円の青海文	Gトレンチ U10・11 内:自然釉・降灰
30	土師器 小皿	口: 9.7 高: 2.2 底: 6.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部段あり 底部:凹底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	Gトレンチ U10・11 片口状に歪む
31	灰釉 卸皿	口: 16.4 高: 1.6 焼: 良好 色: 淡灰緑色	極砂粒 精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部受口状	外:口縁部~体部回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内:口縁部~体部回転ナデ/底部卸目	Gトレンチ U10・11 外:体部露胎
32	白磁皿	高: 1.3 底: 4.4 焼: 良好 色: 灰白色	精緻 1/10以下	底部:割り高台		Gトレンチ U10・11 外:高台端部露胎
33	白磁皿	口: 9.2 高: 2.0 底: 5.0 焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/6	口縁部:外反して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:削出高台		Gトレンチ U10・11 外:高台端部露胎

金属製品(PL.71 第59図)

単位: cm/g

単位: cm/g

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質	特徴	出土地点
34	鉄釘	3.7 1.0	0.5 -	2/3	鉄製品	釘頭欠損 断面正方形	Fトレンチ S9/SF6810
35	鉄釘	4.6 1.3	0.4 -	4/5	鉄製品	断面長方形	Aトレンチ
36	鉄釘	4.6 1.3	0.4 -	4/5	鉄製品	断面長方形	Aトレンチ
37	鉄釘	5.0 0.8	0.4 -	4/5	鉄製品	断面正方形	Gトレンチ
38	鉄釘	3.9 1.3	0.7 -	4/5	鉄製品	断面正方形	B-②トレンチ

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質	特徴	出土地点
39	鉄釘	4.6 0.9	0.4 -	4/5	鉄製品	断面正方形	Aトレンチ
40	鉄釘	7.1 1.3	0.5 -	1/1	鉄製品	断面正方形	Gトレンチ
41	五徳	11.0 1.6	1.6 -	-	鉄製品	先端切先状に 加工して屈曲	Fトレンチ S9/SF6810
42	庖丁	11.5 4.0	0.5 -	1/4	銅製品	先端部残存	Bトレンチ

石製品(PL.71 第59図)

単位: cm/g

No	器種	法量(最大値)			石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長 短	厚 重	残存				
43	砥石	4.0 3.0	1.1 -	1/2	凝灰岩 暗赤色 硬質	形状:楔状直方体/下端部欠損 砥面/表裏面・左右側面・下端面 断面四角形	砥面5 粒度:密 中・仕上げ砥	Fトレンチ S9/SF6810
44	石臼 上臼	上29.4 下31.0	12.8 -	1/4	笏谷石 淡緑色 軟質	形状:扁平円柱 上面:上面は平坦/上面周縁帯は幅4.0cm、高さ1.5cm/中心と周縁帯の間に長方形の物入れを1つ穿つ/物入れは上下面から穿孔 側面:側面中位左右に長方形の挽柄穴を設ける 下面:下面は軸受穴を中心に凹面	底面摩耗	Dトレンチ D10/SE6808
45	茶臼 下臼	- 最:42.0	8.0 -	1/10 以下	笏谷石 淡緑灰色 軟質	形状:皿形扁平円柱 上面:搗面欠損/搗面周縁に受部/幅11.1cm 側面:ハの字に踏ん張る底部に内湾して立ち上がる受部が付く/平滑 底部:側面/平滑	被熱	Fトレンチ S9/SF6810
46	バンドコ	幅20.8 高8.0	奥行 12.5	1/2	笏谷石 暗茶色 軟質	D形バンドコ 外:幅2.0cm・長さ3.0cm以上の透孔4と推定 内:タタキ調整	全体平滑/被熱	Gトレンチ V11/SZ6811

銭貨(L.71 第59図)

単位: cm/g

単位: cm/g

No	種類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時期	出土地点
		径	厚	重			
47	皇宋通宝 2525	2.5	0.11	1.7	3/5	北宋 初鑄1039年	Bトレンチ 背文
48	平元宝 1205	2.5	0.13	1.1	3/5	北宋 初鑄995年	Aトレンチ

No	種類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時期	出土地点
		径	厚	重			
49	□□□宝 2152	2.5	0.13	2.6	1/1	北宋 初鑄990年	Fトレンチ 3枚重ね
50	不明 541	2.5	0.13	2.6	1/1	北宋 初鑄990年	Aトレンチ 2枚重ね

第143次調査出土土器(第60図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
1	越前焼 甕	焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は 平坦/口縁部中央に突帯/口端部内側に沈線	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	1トレンチ
2	越前焼 甕	焼: 良好 色: 淡褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して立ち上がる/口端面は 平坦/口縁部中央に突帯/口端部内側に段	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	3トレンチ
3	越前焼 播鉢	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/ 口端部内側に沈線	外:回転ナデ 内:回転ナデ/青海波文の卸目	不明
4	越前焼 播鉢	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面凹む	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ/幅3.0cm・12条 の卸目	不明
5	越前焼 播鉢	焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	底部:摩耗	外:底部:摩耗 内:幅2.0cm・7条卸目	3トレンチ
6	越前焼 播鉢	焼: 良好 色: 灰色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	底部:摩耗	外:底部:摩耗/底部周縁縄目 痕 内:幅2.7cm・11条卸目	1トレンチ
7	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.1 底: 3.0 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部～底部ナデ/白色化 粧土 内:口縁部～底部ナデ	1トレンチ
8	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.7 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	不明
9	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.5 底: 3.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口端部内側に段 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ/底 部ナデ	3トレンチ
10	土師器 小皿	口: 6.2 高: 1.2 底: 3.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	不明
11	土師器 小皿	口: 10.0 高: 1.7 底: 4.0 焼: 良好 色: 淡白褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口端部内側に段/ 口端部に段 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ/底 部ナデ	不明
12	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.8 底: 3.0 焼: 良好 色: 淡黄褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口端部内側に段 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ/底 部ナデ	3トレンチ
13	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.8 底: 2.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口端部内側に段 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部～底 部ナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ/底 部ナデ	3トレンチ
14	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.2 底: 2.2 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口端部に段	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕 内:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ	不明
15	土師器 小皿	口: 13.0 高: 2.0 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/8	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口端部やや外傾	外:口縁部～体部ヨコナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ	不明
16	土師器 小皿	口: 12.0 高: 2.0 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口端部内側に段/ 口端部に段	外:口縁部～体部ヨコナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ	不明
17	土師器 小皿	口: 17.0 高: 2.0 底: 10.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/6	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める/口端部外傾・内側に段/ 口端部に段	外:口縁部～体部ヨコナデ 内:口縁部～体部ヨコナデ	1トレンチ 外:底部スス付着

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎上 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
18	白磁皿	焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下			3トレンチ
19	白磁杯	焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/10以下			3トレンチ
20	青磁碗	口: 14.4 高: 4.6 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部～体部に練刻蓮花文 内:底面周囲に陰刻草花文	1トレンチ
21	青磁皿	高: 1.1 底: 4.7 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	底部:削出高台		不明 外:高台端面露胎
22	染付皿	口: 11.6 高: 3.0 底: 6.8 焼: 良好 色: 白黄色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部上位に呉須圏線1/ 体部に呉須宝珠文/高台に圏線2 内:口縁部に圏線1/底面周縁に圏線2/中央に玉抱き獅子文	2トレンチ
23	朝鮮製碗	高: 2.5 底: 5.0 焼: 良好 色: 灰色	不良 1/10以下	底部:削出高台		2トレンチ 外:高台端面露胎

金属製品 (第60図)

単位: cm / g

単位: cm / g

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質	特徴	出土地点
24	鉄釘	5.2 0.3	0.3 -	2/3	鉄製品	釘頭欠損 断面方形	区域不明

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質 色調	特徴	出土地点
25	鉄釘	3.8 0.4	0.4 -	2/3	鉄製品	釘頭欠損 断面方形	区域不明

V. 第 113・118 次調査(八地谷川北岸の遺構その 1)【城戸ノ内町字木蔵・雲正寺】

1. 第 113・118 次調査(八地谷川北岸の遺構その 1)の概要(PL. 41・42・49・50 第 61・62 図)

第 113・118 次調査区は、城戸ノ内町字木蔵・雲正寺に所在し、朝倉館跡唐門から北西へ約 240m 隔てた一乗谷川左岸に位置し、西方から一乗谷川に合流する八地谷川扇状地の北岸の水田に立地する。北岸東側は第 113 次調査区、同西側は第 118 次調査区に区分される。二つの調査区の南側は八地谷川を挟んで第 63・112・114 次調査区と対峙する。水田は、八地谷川に沿って、西から東へ向かって約 1.0~1.4m の段差を有して階段状に下降し、大きく上・中・下段に分かれる。標高は上段水田面で 52.8m、中段水田面で 51.4m、下段の水田面で 49.5m を測る。地形的には、調査区中央東西付近に高みをもって、南北に山折りの緩傾斜をもつ(第 69 図)。

一帯は、南岸と同様、通称「八地千軒」と言われ、従来から中小規模の屋敷跡の存在が想定されていた。八地谷川南岸の第 63・112・114 次調査によって武家屋敷、町屋が確認できたため、引き続き八地谷川北岸の遺構の状況を確認するべく、第 113・118 次調査に着手した。

調査の方法は、調査区内に任意の 1 辺 3m を測る方形グリッドをかけ、東西方向に 23~49、南北方向に Y' ~B' の番号を付して、遺構の記録と遺物の採集に用いた(第 62 図)。グリッドの傾きは南岸と異なるが、南岸同様、遺構検出面の高さを基準にして遺構全体を把握する必要があるため、第 113・118 次調査区の遺構を一括して、全体を改めて第 I ~VII 区域に区分した。第 I ~III 区域は第 113 次調査、第 II・IV~VII 区域は第 118 次調査区に含まれる。

2. 遺 構

第 113 次調査(PL. 41~48 第 62~65 図 第 7 表)

第 113 次調査の調査区は、一乗谷川左岸に立地し、南北長約 69.0m×東西長約 29.0~40.0m の規模を測る。調査面積は 1,700 m² を対象とした。調査期間は平成 14 年(2002) 4 月 2 日~同年 12 月 25 日である。航空測量は同年 12 月 6 日に実施し、その後埋め戻し作業を行った。

調査の方法は、地形に沿って、調査区内に任意の 1 辺 3m を測る方形グリッドをかけ、東西方向に 23~35、南北方向に B~Y の番号を付して、遺構の記録と遺物の採集に用いた(第 62 図)。

遺構は南岸と同様に、中・上段水田に広く展開し、中段水田の遺構を北から南に第 I・II 区域、上段水田の遺構を南から北に第 III・IV 区域に区分した。グリッド上では、第 I 区域は中段水田北側 N-Y23~31、第 II 区域は中段水田 B-M32~35、第 III 区域は上段水田 B-S32~35、第 IV 区域は上段水田 T-Y32 に相当する。

調査の結果、3 つの武家屋敷区画が確認され、第 I・II 区域を合わせた区画 I (旧区画①)、および第 III 区域の区画 II (旧区画②)、第 IV 区域の区画 III (旧区画③)の一部をとらえることができた。

3 つの区画は、全体的に削られており、遺構の残存状況は良くないが、中段水田に立地する第 I・II 区域の区画 I は、礎石建物と屋敷内区画溝を備え、現状で敷地面積は約 1,200 m² 以上を測る。遺構は、礎石建物 6、道路 2、土塁石垣 4、門 1、区画溝 3、暗渠 1、埋甕遺構 1、石積施設 2、井戸 3、石列 2 が検出された。

土塁石垣は西側に背を向けてコの字に配され、南・北側土塁石垣が一乗谷川まで延びていたとすれば、区画 I は扇形を呈し、当初は約 2,000 m² を測る区画であったと想定される。南側で東西に延びる古い時期の石列があり、本来小区画であった屋敷地を一つに改変したと考えられる。

上段水田に立地する第 III 区域の区画 II では、広範囲に砂利敷きが認められ、道路 1、土塁石垣 3、暗渠 1、門 2、井戸 1 が検出された。第 IV 区域の区画 III では、溝 1、石垣 1 を検出するにとどまった。以下、主要な遺構について述べる(第 7 表)。



第61図 第113・118次調査位置図(縮尺1/600)

第I区域 区画I 武家屋敷(PL.41~45 第62~65図)

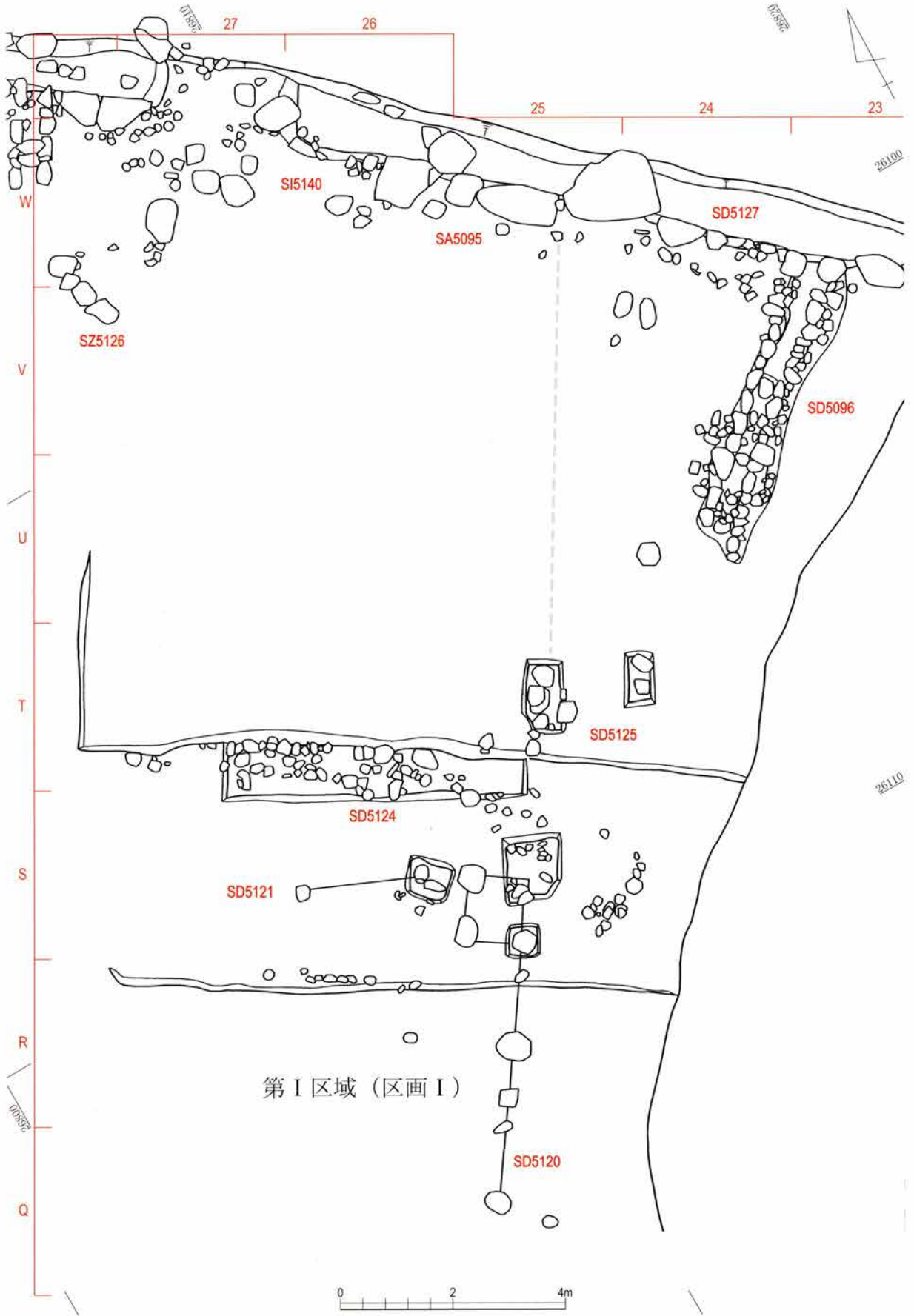
建物

SB5121(PL.43 第63図) S26に位置。礎石建物である。建物は桁行・梁間不明。柱列の主軸は $N75^{\circ}E$ に向き、桁間寸法2.1を測る。規模は不明。南東側のSB5120より後出する。土師器皿152が出土した。

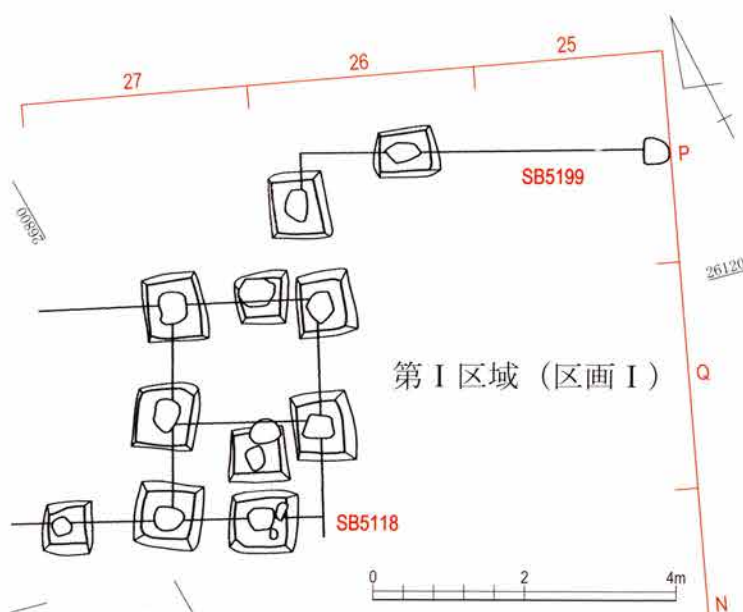
SB5120(PL.43 第63図) Q-S25~26に位置。礎石建物であり、桁行3間、梁間1間分が検出された。主軸は $N25^{\circ}E$ に向き、桁行5.8m、桁間寸法1.1m~2.8m、梁間1.1mを測る。床面積は不明。礎石は40~50cm大を測る。建物北東隅に1.0m四方を測る正方形の空間をもつ。検出面の高さから南側のSB5118に先行する。



第 62 図 第 113 図・118 次調査区遺構全体図(縮尺 1/300)



第 63 图 第 I 区域区画 I SB5121・5120、SA5095、SI5140、SZ5126、SD5096・5124・5125(縮尺 1/100)



第64図 第I区域区画I SB5118・5119(縮尺1/100)

4.8m、梁間0.8mを測る。東・南辺がSB5118に切られていると考えられ、SB5118に先行する建物と考える。

SB5122(PL.43 第62図) R・S29・30に位置。礎石建物である。桁行2間、梁間1間のみが検出された。東西に主軸をもつ建物と想定すれば、主軸は $N75^{\circ}E$ に向き、桁間寸法2.1m、梁間寸法1.7~2.3mを測る。建物の規模は不明。

東側のSB5121と建物の主軸、桁行寸法が同じであり、SB5121と同時期なら、南東側のSB5120より後出すると推定される。

SB5123(PL.43 第62図) Q30に位置。礎石建物である。桁行、梁間不明。建物の主軸や規模は不明。Q31付近で区画Iの西側土塁石垣の幅を縮小させて礎石を据えていた。北側のSB5122東辺の柱列を南に延長すると、柱列の向きから同一の建物であった可能性もある。

道路、土塁石垣

SS5091(第63図) X-Y30~32に位置。西端は南北道路SS295と接続する東西道路である。北側土塁石垣に沿って、主軸は $N52^{\circ}W$ に向き、全長約26.0×幅2.0m以上と推定される。

X29付近の門柱石と考えられる巨石から南東延長にはSD5127が構築されていた。さらに以東は、X27付近で農道と重複し、状況は不明である。

SA5092(PL.44 第62図) X28~31に位置。区画Iの北側土塁石垣である。西端は西側土塁石垣SA5094に接続し、東端は門SI5140に接続する。主軸は $N52^{\circ}W$ に向き、全長約11.0m×外寸幅は1.3mを測る。土塁内外側には30~70cm大の石が1・2段残存していた。

X30付近において180cm大の巨石が検出され、これを門柱石とすれば、北側のSS2952と並行するように、区画Iの北東隅にも幅2.0mを測る門が存在した可能性がある。X28付近では、土塁石垣を横断してSD5127に流れる暗渠SZ5126が検出された。

SA5095(第63図) W・X23~26に位置。区画Iの北側土塁石垣である。西端は門SI5091に接続する。主軸は $N52^{\circ}W$ に向き、全長約12.5m×外寸幅は1.3mを測る。W25付近に100~150cm大の石が4石集中して検出され、門が存在した可能性がある。東端手前で屋敷内からSD5096が開渠として直交する。

SB5118・5119(PL.45 第64図)

0-P25~27に位置。SB5118は小型の長方形の礎石建物と推定される。

桁行2間、梁間1間分のみが検出された。東西に主軸をもち、桁行は西へ延びてゆくとして推定される。主軸は $N76^{\circ}W$ に向き、桁行3.5m、桁間寸法2.1m、梁間2.9m、梁間寸法1.5mを測る。床面積は不明である。

SB5119は、SB5118と同一方向に主軸をもち、同規模の礎石建物と考えられるが、SB5118の桁行が西に延びてゆくに対し、東へ延びてゆく。全体の桁行、梁間は不明。桁行4.8m、桁間寸法1.4~

SA5094(PL.45 第62図) K-X30・31に位置。区画Ⅰの西側土塁石垣である。区画Ⅰ・Ⅱの間を通る南北道路SS2952が西側に並行して構築されていた。主軸はN10°Eに向き、全長約40.0m×外寸幅は2.2mを測る。南半分のC-K31・32の範囲は後世に削られていた。土塁東側面では0.5~0.8m大の石を用い、土塁西側面では0.8~1.2m大の大型の石を用いていた。越前焼壺154、朝鮮製甕155が出土した。

南端が東西に延びる南側土塁石垣SA5093に直交すれば、南北道路SS2952と共に全長約65.0mの規模を測ると推定される。Q31付近において幅を0.5m狭める特異な構造が観察されるが、石垣の新旧ではなく、礎石建物SB5123の構築に起因するものと考ええる。

門、溝、暗渠

SI5140(PL.44 第63図) W-X26・27に位置。区画Ⅰの北側石垣土塁SA5092とSA5095の間に挟まれた門である。主軸はN52°Wに向き、門の内寸幅3.5m×奥行2.0mを測る。上面は破壊され、20~70cm大の石が散乱していた。東西道路SS5091に面し、SD5127上に渡橋をかけて、北側の区画Ⅰへの入口としていたと考える。

SD5096(PL.44 第63図) U-V23・24に位置。主軸はN40°Eに向き、直線状に北東に流れる石組排水溝である。長さ5.2m×幅0.3m×深さ2.0mを測る。両岸に20~40cm大の石を2段積んでいた。底面に長さ約120cm×幅約25cm×厚さ約5.0cmの笏谷石の板石を底石として3枚敷いていた。北端はSD5127に直交する。

SZ5126(PL.45 第63図) W-X28に位置。SD5127に直線状に北東に流れる暗渠である。W28付近で北西側に向きをとる部分は、主軸はN30°Wに向き、長さ1.5m×幅0.3m×深さ0.3mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積み、30cm大の石を4石用いて蓋石としていた。屈曲部となる範囲は長さ1.3mほど削られていた。

北東側に向いた部分は、主軸はN25°Eに向き、長さ1.8m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。蓋石は1石を残して抜き取られていたが、両岸に20~40cm大の石を1段積み、SD5127と直交していた。

SD5124(PL.45 第63図) T25~27に位置。上面は破壊されていた。南東に流れる石組排水溝である。主軸はN78°Wに向き、長さ6.0m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。東西両端は攪乱を受けていたが、東端はL字に屈曲してSD5125に接続し、敷地内を細分する区画溝であったと考える。

SD5125(PL.45 第63図) T-W25に位置。上面は破壊されていた。北東に流れる石組排水溝である。主軸はN30°Eに向き、長さ10.0m×幅0.3m×深さ0.2mの規模と推定される。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。北端はSD5127に接続し、南端はSD5124に接続していたと考える。

第Ⅱ区域 区画Ⅰ 武家屋敷(PL.46 第65図)

埋甕遺構

SK5100(PL.46 第65図) G-H24・25に位置。下層の遺構である。埋甕遺構である。全体は焼土で覆われていた。調査当初は、第73図に示すように、東列に4基の土坑が南北に逆L字状に並び、西列に2基の土坑が直線状に並んでいる状況で検出した。全体測量後、再度、精査を試みた結果、SK5100は、PL.46で示したように、主軸がN25°Eに向き、東列に4基、中央列に5基、西列に3基の土坑が整然と並ぶ埋甕土坑群であることが明らかになった。各土坑は円形を呈し、径0.6~0.8m×深さ0.3m前後を測るが、東列中央の土坑にのみ越前焼甕底部159が残り、他の土坑の甕は抜き取られた後、埋め戻されていた。遺物は、越前焼越前焼甕156~160・捏鉢161・播鉢163、瓦質土器風炉162、白磁皿171、染付皿172・173が出土した。西側へ2.0m隔てたG26付近では、SK5100の覆土と同じ焼土層が広がり、ここからも多くの遺物が出土した。

石積施設、井戸、石列

SF5097(PL.29 第65図) C28に位置。石積施設である。土塁石垣SA5093に近接する。基底石のみが残存していた。平面形は長方形を呈す。主軸はN70°Wに向き、内寸長軸1.2m×内寸短軸0.8m×深さ0.2mを測る。

SF5110(PL.46 第65図) H27・28に位置。石積施設である。石列SX5113の南側に1.7m程隔てて構築されていた。基底石のみが残存していた。平面形は長方形を呈す。主軸はN20° Eに向き、内寸南北長軸1.4m×内寸短軸0.8m×深さ0.2mを測る。土師器皿174が出土した。

SE5111(PL.46 第62図) J・K25・26に位置。上層の遺構である。石組の井戸である。平面形は円形を呈す。上部は破壊されていた。20~40cm大の石を楕円形に配し、内寸長軸約0.9m×内寸短軸0.8mを測る。深さは2.3mまで掘削し、石積は6段検出した。底面は検出できなかった。曲物底板250、柄杓252、箸256が出土した。

SE5099(PL.46 第65図) F30に位置。石組の井戸である。南北道路SS2952が削られた後の構築とすれば、上層の遺構と考える。20~30cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.1m×内寸短軸0.9mを測る。深さは1.9mまで掘削し、石積は7段検出した。底面は検出できなかった。染付皿175・碗176が出土した。

SE5098(PL.46 第65図) D・E27・28に位置。石組の井戸である。上部はほぼ破壊されていたが、北側に30cm大の石が3石上面をとどめていた。20~30cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m×内寸短軸0.6mを測る。深さは1.7mまで掘削し、石積は5~6段検出した。底面は検出できなかった。

SK6025(第65図) F25に位置。土坑である。内寸長軸約0.8m×内寸短軸0.7mを測る。深さは0.2mを測る。青磁碗177・輪花皿178・皿179、白磁向付180・皿181、染付大皿182・碗183・皿184・185、石硯259が出土した。

SX5112・5113(PL.46・47 第65図) I23~28に位置。上層の遺構と考える。大部分の石を失っているが、共に一連となって東西に延びる石列と考える。SX5112では長さ3.0m分、SX5113では長さ7.0m分しか検出できなかったが、区画Iを最終段階で南北に区画したのではないかと考える。

土塁石垣、道路

SA5093(PL.47 第65図) C23~30に位置。区画Iの南側土塁石垣である。後世に大きく削られていたが、土塁石垣の西端は、C30まで延びていたと推定され、B30付近で西側土塁石垣SA5094と直交していたと推定される。主軸はN70° Wに向き、全長約25.0m以上×外寸幅は0.8mを測る。外側は30~50cm大の石を用い、内側は20cm大の石を用いていた。南側に八地谷川北岸に沿った道路SS5090が並行する。

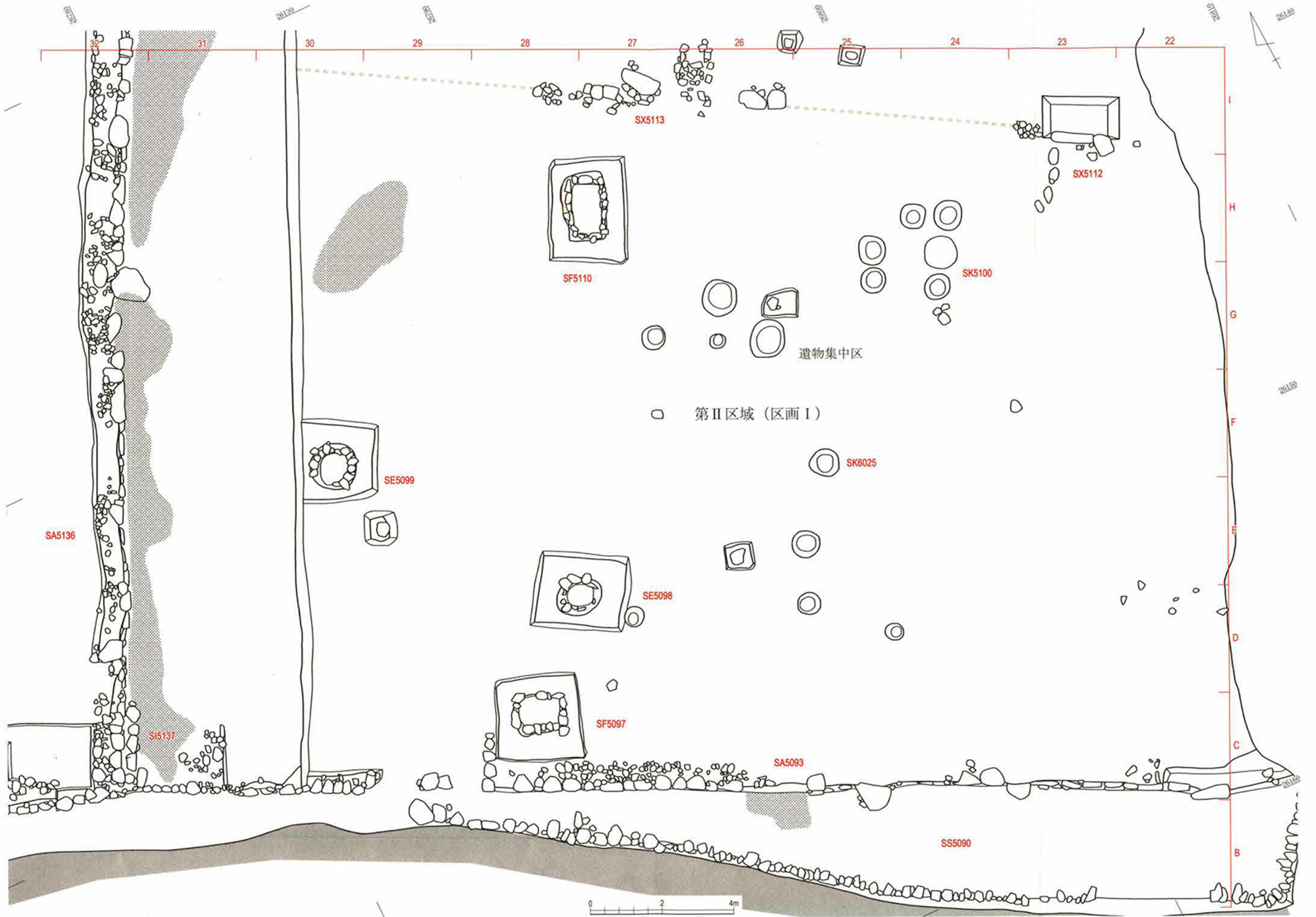
SS5090(PL.48 第65図) B23~29に位置。南側土塁石垣SA5093と八地谷川北岸に挟まれた砂利敷きの東西道路である。第118次調査区第V区域西側まで延び、主軸はN75° Wに向き、全長40.0m×幅3.2mを測る。標高は西端で標高50.7m、東端で48.8m、比高2.1mを測る。B25-31付近は八地谷川によって挟まれていた。道路東端は、南北基幹道路SS260との交差点が想定されたが検出できなかった。青磁香炉186・皿187が出土した。

第Ⅲ区域 区画Ⅱ 町屋(PL.47 第62図)

道路、土塁石垣

SS2952(PL.48 第62図) B-Y31・32に位置。区画Iと区画Ⅱ・Ⅲの間を通る、全面砂利敷きの南北道路である。K31付近から南側は、大きく削られていた。東側に側溝SD5128が並行する。北側の区画Ⅲと接している部分は主軸をN25° Eに向け、南側の区画Ⅱと接している部分は主軸をN20° Eに向け、長さ42.0m×幅3.0mを測る。平面形は、S・T32付近で鈍角に屈曲する。道路は南端の東西道路SS5090まで延びていた可能性があり、本来は全長67.5mの規模を測ると推定される。道路の最高所はSI5135前の地点において50.88mを測り、そこから南北にかけては下り坂になる。最高所から北側はやや急勾配に下る。南側は比較的緩やかな勾配をもち、東西道路SS5090と接続する地点で標高50.36mを測る。越前焼壺188・192・播鉢190・鉢191・広口壺193、鉄釉壺189、青磁香炉194、朝鮮製皿195、備前焼角杯196が出土した。

SA5130(PL.47・48 第62図) O-S33に位置。区画Ⅱの東側土塁石垣である。直線状に南北に延びる。上部は



第 65 图 第 II 区域区画 I SK5100、SF5097·5110、SE5111·5099·5098、SX5112·5113、SA5093、SS5090、第 III 区域区画 II SA5136、SI5137(縮尺 1/100)

破壊されていた。土塁石垣の北端は、SV4129と直交して接続し、南端はSI5135と接続する。主軸はN18° Eに向き、全長約13.0m×外寸幅は0.8mを測る。外側は30～50cm大の石を用い、内側は20cm大の石を用いていた。R33付近に暗渠SZ5131が設けられていた。土師器皿197～202、越前焼広口壺203・播鉢204・205・壺206が出土した。

SA5136(PL.47・48 第62図) D-M32に位置。区画Ⅱの東側土塁石垣である。やや蛇行して南北に延びる。上部は破壊されていた。土塁石垣の北端は門SI5135と接続し、南端は門SI5137と接続する。主軸はN18° Eに向き、全長約30.0m×外寸幅は1.1mを測る。外側は30cm大の石を用い、内側は20cm大の石を用いていた。越前焼甕207・208・卸皿209、朝鮮壺210が出土した。

SA5138(PL.48 第62図) B-C32～35に位置。区画Ⅱの南側土塁石垣である。後世に大きく削れられていたが、土塁石垣の東端はSI5137と直交し、西端はSD5850と直交する。主軸はN87° Wに向き、全長約8.5m×外寸幅は1.0mを測る。外側は30～50cm大の石を用い、内側は20cm大の石を用いていた。南側に八地谷川北岸に沿った道路SS5090が並行する。越前焼壺211が出土した。

暗渠、門、井戸

SZ5131(PL.48 第62図) R33に位置。暗渠である。東側土塁石垣SA5130を横断してSD5128に直交する。主軸はN70° Wに向き、長さ1.5m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。SA5130東側において、基底から0.2m上の位置で方形の升口が構築されていた。

SI5135(PL.48 第62図) N-O32に位置。区画Ⅱへ上がる門である。北側をSA5130南端、南側をSA5136北端に挟まれる。主軸はN18° Eに向き、門の内寸幅4.0m×奥行き1.8mを測る。2段の踏面を備え、外側踏面には30～50cm大の石を9石並べ、内側踏面には20～40cm大の石を13石が並べていた。南北道路SS2952の最高所に面しており、並行する側溝SD5128上に渡橋をかけていたと考える。

SI5137(PL.48 第65図) C32に位置。区画Ⅱへ上がる門である。北側をSA5136南端と接する。主軸はN20° Eに向き、門の内寸幅2.2m×奥行き1.8mを測る。2段の踏面を備え、外側・内側の踏面には30～50cm大の石が5石並べていた。南側を東西道路SS5090が通り、C32付近に入口が存在したと考える。

SE5139(第62図) D35に位置。石組の井戸である。第118次調査第V区域SD5850が西側に近接する。上部は破壊されていた。20～30cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m×内寸短軸0.9mを測る。深さは3.2mまで掘削した。底面は崩壊が危惧され検出できなかった。井戸の覆土は焼土が充填されていた。越前焼播鉢212・213・捏鉢214・播鉢215～217・壺218・掛花生220、鉄釉鉢223・天目茶碗224～229、青磁碗230・輪花皿231・232、白磁皿233、染付皿234が出土した。

第IV区域 区画Ⅲ 広場(第62図)

区画溝、石垣

SD5128(PL.48 第62図) N-Y32・33に位置。区画Ⅲは第114次調査で広場と推定された。広場の東辺に相当し、南北道路SS2952の西側側溝として検出した。北側の区画Ⅲと接している部分は、主軸をN25° Eに向け、南側の区画Ⅱと接している部分は主軸をN20° Eに向け、鈍角に屈曲する。長さ36.0m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。西側に区画Ⅱ・Ⅲの東側土塁石垣SA5130が部分的に検出された。

SV5129(第62図) T33～35に位置。上面は破壊されていた。SA5130に直交する石垣である。主軸はN72° Wに向き、長さ4.6mを測る。広場の南辺に相当する。区画Ⅱの遺構面より0.6m高い。本来は第118次調査第IV区域まで延長し、区画Ⅲの南辺として全長約15.0mの規模を測ると推定される。

第7表 第113次調査主要遺構観察表(PL.41~48 第62~65図)

第I区域【区画I 武家屋敷】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
1	S 26	SB5121	礎石建物						PL. 43	第63図	
2	Q-S 25~26	SB5120	礎石建物						PL. 43	第63図	
3	O-P 25~27	SB5118	礎石建物						PL. 45	第64図	
4	O-P 25~27	SB5119	礎石建物						PL. 45	第64図	
5	R-S 29・30	SB5122	礎石建物						PL. 43	第62図	
6	Q 30	SB5123	礎石建物						PL. 43	第62図	
7	X-Y 30~32	SS5091	東西道路						—	第63図	
8	X 28~31	SA5092	北側 土塁石垣						PL. 44	第62図	
9	W-X 23~26	SA5095	北側 土塁石垣						—	第63図	
10	K-X 30・31	SA5094	土塁石垣						PL. 45	第62図	
11	W-X 26・27	SI5140	門						PL. 44	第63図	
12	U-V 23・24	SD5096	区画溝						PL. 44	第63図	
13	W-X 28	SZ5126	暗渠						PL. 45	第63図	
14	T 25~27	SD5124	区画溝						PL. 45	第63図	
15	T-W 25	SD5125	区画溝						PL. 45	第63図	

第II区域【区画I 武家屋敷】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
16	G・H 24・25	SK5100	埋蔵遺構						PL. 46	第65図	
17	C 28	SF5097	石積施設						PL. 46	第65図	
18	C 28	SF5110	石積施設						PL. 46	第65図	
19	M・N 41	SE5111	井戸						PL. 46	第62図	

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
20	F 30	SE5099	井戸						PL. 46	第65図	
21	D・E 27・28	SE5098	井戸						PL. 46	第65図	
22	F 25	SK6025	土坑						—	第65図	
23	J 23~28	SX5112	石列						PL. 46 PL. 47	第65図	
24	I 23~28	SX5113	石列						PL. 46 PL. 47	第65図	
25	C 23~30	SA5093	南側 土塁石垣						PL. 47	第65図	
26	B 23~29	SS5090	東西道路						PL. 48	第65図	

第III区域【区画II 町屋】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
27	B-Y 31~32	SS2952	南北道路						PL. 48	第62図	
28	O-S 33	SA5130	東側 土塁石垣						PL. 47 PL. 48	第62図	
29	D-M 32	SA5136	東側 土塁石垣						PL. 47 PL. 48	第62図	
30	B・C 32~35	SA5138	南側 土塁石垣						PL. 48	第62図	
31	R 33	SZ5131	暗渠						PL. 48	第62図	
32	N・O 32	SI5135	門						PL. 48	第62図	
33	C 32	SI5137	門						PL. 48	第65図	
34	D 35	SE5139	井戸						—	第62図	

第IV区域【区画III 広場】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
35	Y 31・32	SD5128	区画溝						PL. 48	第62図	
36	T 33~35	SV5129	石垣						—	第62図	

第118次調査(PL.49~60 第62・66~72図 第8表)

第118次調査の調査区は、一乗谷川左岸に立地し、南北長約88.0m×東西長約30.0~53.0mの規模を測る。調査面積は3,000m²を対象とした。調査期間は平成17年(2005)4月1日~平成18年(2006)3月31日である。年度末に荒天が続いたため、航空測量は平成18年4月7日に実施し、その後補足調査をしつつ、埋め戻し作業を行った。

調査の方法は、第113次調査区のグリッドを西側に延長する形をとり、1辺3mを測る方形グリッドをかけ、東西方向に33~49、南北方向にY'~B'の番号を付して、遺構の記録と遺物の採集に用いた(第62図)。

第118次調査区については、調査区は大部分が上段水田で占められ、西側に最上段水田が控える。調査区中央付近は大きく削られており、遺構の密度は南北に集中する傾向を示す。

報告にあたっては、八地谷川北岸の遺構として、第113次調査区(第I~IV区域)から続くものとし、第114次調査区については、東西に延びるSD5966・5966を境として中段水田を北側と南側を区分し、北側を第IV・

V区域とし、南側を第VI区域、西側の上段水田を第VII区域に区分した。グリッド上では、第IV区域は中段水田北側 T-A' 32~38、第V区域は中段水田 T-B' 38~49、第VI区域は中段水田 Y' -T35~45 に含まれる。第VII区域は上段水田 Y' -W44~49 に含まれる。

調査の結果、2つの武家屋敷と広場、町屋などの4つの区画が確認され、第113次調査の区画Ⅰ～Ⅲを含むと、第IV区域で区画Ⅲの広場(旧4調査区・113次調査区画Ⅲ)、第V区域で区画Ⅳの武家屋敷(旧3調査区)、第VI区域で区画Ⅱの武家屋敷(旧2調査区・第113次調査区画Ⅱ)の全容と、第VII区域で区画Ⅴの町屋(旧1調査区)の様相の一部をとらえることができた。八地谷川北岸においては、全5区画の屋敷地が検出されたことになる。

4つの区画は、中段水田に立地する第IV区域区画Ⅲは広場と推定され、四方は1辺約17.0m×幅0.3mを測る溝で正方形に区画され、敷地面積は約290㎡を測る。遺構は、溝4、石積施設1が検出された。第V区域区画Ⅳは、中規模の礎石建物を中心とした武家屋敷であり、敷地面積は約500㎡以上を測ると考えられる。遺構は、道路4、石列2、門1、溝2、礎石建物2、掘立柱建物3、石積施設1、井戸2等が検出された。中段水田の大部分を占める第VI区域区画Ⅱは、武家屋敷であり、遺構は南側で集中的に検出された。第III区域の中段水田部分を含めると、本来の敷地面積は約2,080㎡を測る。遺構は、礎石建物1、井戸3、掘立柱建物1、溝4、道路1、石列3、土坑3等が検出された。第VII区域区画Ⅳは墓域と考えられ、火葬墓8、石垣1、道路1が検出された。以下、主要な遺構について述べる(第8表)。

第IV区域 区画Ⅲ 広場(PL.41~45 第66図)

区画溝、石積施設

SD5992(PL.52 第66図) Y・Z33~37に位置。区画Ⅲの広場北辺として直線状に南東に流れる石組排水溝である。主軸はN70°Wに向き、長さ15.0m×幅0.3m×深さ2.0mを測る。南岸には20~40cm大の石を2段積んでいた。北岸は大部分が破壊されていたが、北岸にそって延びる東西道路SS5091の一部が検出された。西端は南北道路SS5994の北端を横断する。

SD5128(PL.48 第66図) T-W32・33に位置。上面は破壊されていた。第113次調査で一部が確認されていた。区画Ⅲの広場東辺として、北東に流れる石組排水溝である。主軸はN15°Eに向き、長さ15.7m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。西側は南北道路SS2952が並行する。北端はSD5995に接続し、南端はSV5129に接続する。西岸南側にSA5130から続く土塁石垣が一部残されていた。

SD5996(PL.53 第66図) T36~38に位置。上面は破壊されていた。区画Ⅲの広場南辺として南東に流れる石組排水溝である。主軸はN73°Wに向き、長さ7.5m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。西端は短く蛇行してSD5993に接続する。東端はT35付近で切れる。排水は区画Ⅲの外に出て、SVSA5130の内側に沿った後、暗渠SZ5131へ流れたと考える。土師器皿239~242が出土した。

SD5993(PL.50 第66図) U-Y37・38に位置。上面は破壊されていた。区画Ⅲの広場西辺として北東に流れる石組排水溝である。主軸はN20°Eに向き、長さ17.0m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。北端はやや東に鈍角に屈曲してSD5992に接続する。南端はSD5996と接続した後、西へ短く延びるSD5999と接続する。土師器皿243~251・耳皿252、鉄釉天目茶碗253が出土した。

SF6000(PL.53 第66図) V37・38に位置。区画Ⅲ内唯一の遺構である。石積施設である。SD5993の東岸沿いに構築されていた。基底石のみが残存していた。平面形は長方形を呈す。主軸はN25°Eに向き、内寸南北長軸1.1m×内寸短軸0.9m×深さ0.2mを測る。西壁で石積が4段検出された。SD5993を埋めて、北東側に道路SS6002を構築する段階で埋められたと考える。土師器皿254~257が出土した。

第V区域 区画IV 武家屋敷(PL.51 第66図)

道路、石列、門、溝、建物

SS5994(PL.52 第66図) U-Z38~39に位置。東側の区画Ⅲと西側の区画Ⅳとの境界となる南北道路である。砂利敷はない。主軸はN40° Eに向き、全長約19.0×幅3.3mを測る。東側はSD5993、西側はSD5991に区画され、北側はSD5992を越え東西道路SS6001に接続する。Y38付近では、踏面の石列SX5995が道路を横断していた。V38付近ではSD5993が埋められ、道路SS6002が接続していた。越前焼播鉢258・広口壺259、土師器皿260・261、灰釉皿262、青磁皿263、白磁輪花皿264、染付皿265・水柱266、バンドコ480が出土した。

SX5995(PL.52 第66図) Y38・39に位置。南北道路SS5994を横断する踏面の石列である。主軸はN61° Wに向き、長約2.6mを測る。石列上面と道路面は同じ高さを測る。

SI6024(PL.52 第66図) Z・A' 39に位置。南北道路SS5994に面した門である。木製の門柱を建てたと考えられる小穴が2基検出された。周辺に砂利敷が残存する。主軸はN40° Eに向き、柱穴間は2.0mを測る。柱穴は0.4m×深さ0.3mを測る。

SD5991(PL.52 第66図) X-Z39に位置。上面は破壊されていた。やや蛇行して北東に流れる石組排水溝である。主軸はN40° Eに向き、長さ7.3m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。北端は主軸をN0°に向けて屈曲する。南端は井戸SE5989の東側を取り巻くように緩やかな曲線を描く。

SD6022(第66図) A' 40に位置。上層の遺構と考える。直線状に北東に短く流れる石組排水溝である。主軸はN35° Eに向き、長さ2.6m×幅0.3m×深さ0.2mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。

SS6001(第66図) Z-B' 37・38に位置。SD5992を南岸側溝とする東西道路である。大部分が農道下にあり、幅は不明である。区画Ⅱ・Ⅲの東側を通る南北道路SS2952と直交する。越前焼小壺267が出土した。

SS6002(第66図) V30に位置。SD5993を埋めて区画ⅢからⅣへ至るために構築された道路である。全面砂利敷である。主軸はN52° Eに向き、全長約5.3×幅0.6mを測る。SS5994廃絶後に構築されたと推定される。越前焼広口壺268・壺269、土師器皿270・271が出土した。

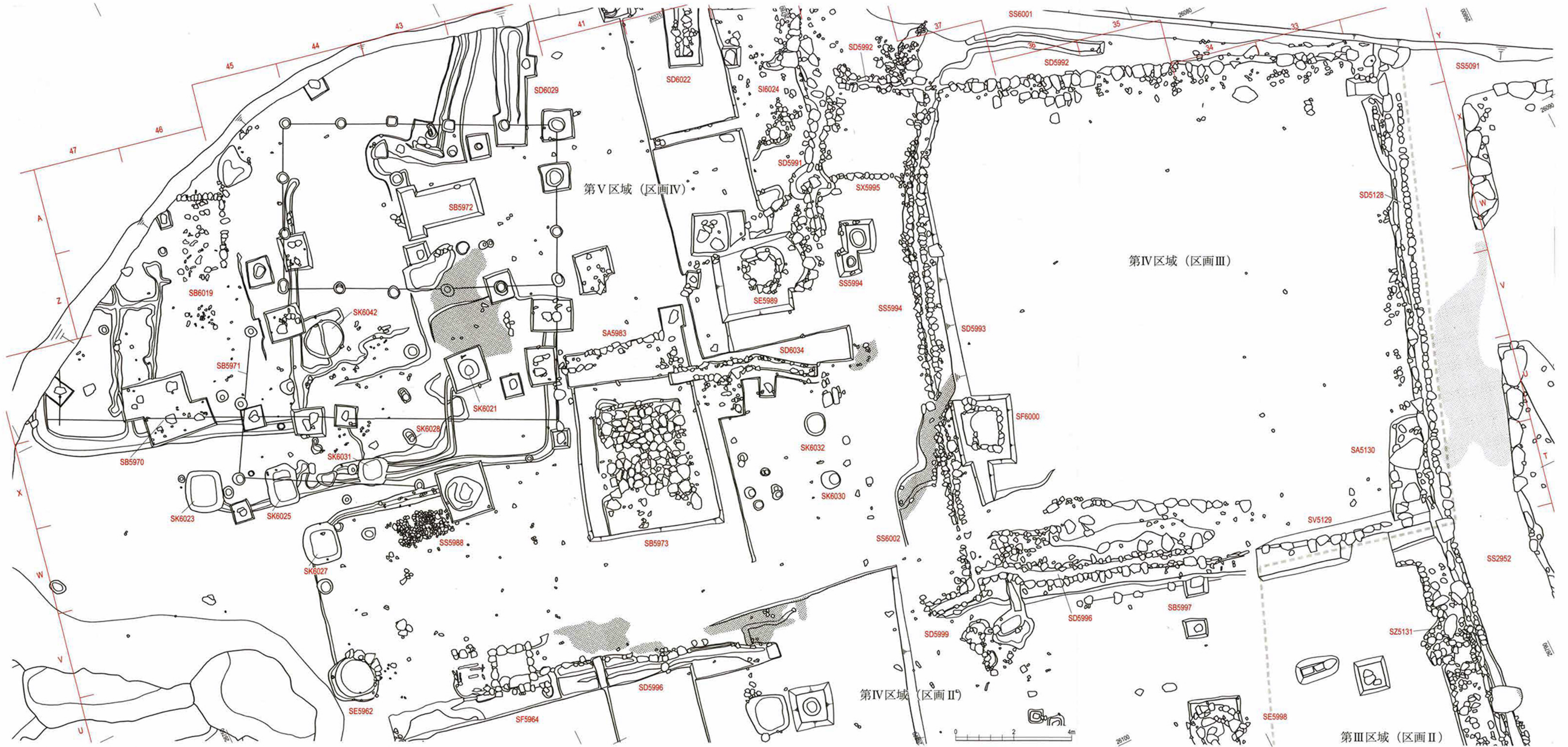
SB5970(PL.54 第66図) W-A' 42~48に位置。上層の遺構である。長方形の大型の礎石建物と推定される。桁行5間、梁間3間を測る。主軸はN65° Wに向き、桁行17.2m、桁間寸法3.1m、梁間10.3m、梁間寸法1.0~3.5mを測る。床面積は約177㎡を測る。南辺に長さ17.2m×幅1.0mの庇が付くと考える。越前焼甕272・273、土師器皿274~279、青磁香炉280、染付皿281、中国製緑釉鉢282が出土した。

SB5971(PL.54 第66図) W-Y44~46に位置。下層の遺構である。方形に近い小型の掘立柱建物と推定される。桁行2間、梁間2間を測る。東西に主軸をもち、主軸はN60° Wに向き、桁行6.3m、桁間寸法3.0~3.2m、梁間5.0m、梁間寸法2.5mを測る。床面積は約32㎡を測る。青磁碗283、漆器碗521が出土した。

SB5972(PL.54 第66図) Y-A' 41~45に位置。下層の遺構である。長方形の掘立柱建物である。桁行5間、梁間3間。東西に主軸をもち、主軸はN65° Wに向き、桁行9.5m、桁間寸法1.9m、梁間5.6m、梁間寸法1.9mを測る。床面積は約53㎡を測る。越前焼甕284・285、土師器皿286~294・盤295~297・羽釜298、鉄釉天目茶碗299、灰釉皿300・碗301、青磁碗302・303、染付皿304、砥石451が出土した。

SB5973(PL.55 第66図) V・W41・42に位置。上層の遺構と考える。小型の長方形礎石建物であり、30cm大の石が敷き詰められていた。土蔵と考える。桁行2間、梁間2間が検出された。主軸はN25° Eに向き、桁行3.2m、桁間寸法1.4~1.7m、梁間2.7m、梁間寸法1.2~1.5mを測る。床面積は8.6㎡を測る。南辺に入口があり、越前焼甕305・播鉢306~308、土師器皿309、瓦質土器香炉310、青磁碗311、染付皿312が出土した。

SA5983(PL.55 第66図) 旧SX5983である。X41・42に位置。上層の遺構と考える。SB5973の北辺石垣土塁と



第 66 图 第IV区域区画III SD5992、SD5128·5996·5993、SF6000、第V区域区画IV SS5994、SX5995、SI6024、SD5991·6022、SS6001·6002、SB5970~5973、SA5983(缩尺 1/100)

推定される。主軸はN75° Wに向き、長約3.5m×幅0.5mを測る。鉄釉天目碗315、青白磁皿316が出土した。

SS5988(PL.55 第66図) V44に位置。上層の遺構と考える。東西道路である。10~20cm大の石が長方形に敷かれていた。主軸はN74° Wに向き、長約2.0m×幅1.0mを測る。主軸方向からSB5973、SD5966と同一時期に構築されたと考える。鉄釉天目茶碗317が出土した。

SB6019(PL.55 第66図) Z・A' 46に位置。礎石建物である。建物は桁行2間・梁間不明。柱列の主軸はN34° Eに向き、東辺2.1m×北辺1.6m分の礎石列を検出した。内部は砂利敷であった。東辺を基準にすれば2.1m四方を測る堂のような建物が想定される。

SF5964(PL.55 第66図) T・U43・44に位置。SD5986北岸に接して構築されていた。石積施設である。溜枘と考える。平面形は長方形を呈す。主軸はN70° Wに向き、内寸南北長軸1.1m×内寸短軸0.8m×深さ0.2mを測る。西側に長さ1.0m×幅0.5mを測る木杵が付属していた。土師器皿318~322、ホゾ角材536が出土した。

SE5989(PL.53 第66図) X40に位置。下層の遺構と推定される。石組の井戸である。平面形は円形を呈す。井戸壁は深さ0.9mまで崩壊していた。20~40cm大の石を楕円形に配し、内寸長軸約1.0m×内寸短軸0.9mを測る。石積は8段検出したが、安全を優先し、底面は検出できなかった。

SE5962(第66図) U45に位置。石組の井戸である。平面形は円形を呈す。井戸壁は一部が残存していた。内寸長軸約1.3m×内寸短軸1.2mを測る。深さは1.8mまで掘削した。安全を優先し、底面は検出できなかった。上層には、U46付近で出土した石塔類を含む埋土が50cm厚で堆積し、遺物は、越前焼小壺323、白磁皿324、青磁皿325・香炉326、染付碗327、朝鮮製壺329、中国製天目茶碗328、井戸杵496、漆器碗522、横槌531、板材537が出土した。中層では遺物は検出されず、下層では20cm大の石と骨片が含まれていた。

第VI区域 区画II 武家屋敷(PL.41~45 第62・67・68図)

建物、井戸

SB5997(PL.53 第62図) T36・37に位置。礎石建物である。建物は桁行3間・梁間不明。桁行3間分のみが検出された。柱列の主軸はN75° Wに向き、桁間寸法1.0~1.8mを測る。建物の規模は不明。北側に0.8m隔ててSD5996が並行する。南側のSE5998は付属施設と推定される。東西に主軸を想定すれば、区画IのSB5118やSB5119と同規模の礎石建物と考えられる。北西に焼土が広がる。

SE5998(PL.53 第66図) R36に位置。石組の井戸である。平面形は円形を呈す。20~40cm大の石を楕円形に配し、内寸長軸約1.2m×内寸短軸1.0mを測る。深さは1.0mまで掘削し、底面は検出できなかった。

建物、溝

SB5904(PL.56 第62図) C-E41~44に位置。掘立柱建物である。桁行3間、梁間2間。東西方向に主軸をもち、主軸はN72° Wに向き、桁行9.3m、桁間寸法2.5~3.7m、梁間6.8m、梁間寸法2.8~4.0mを測る。床面積は63㎡を測る。土鈴418、バンドコ474が出土し、南辺の柱穴SK5974から多くの陶磁器が出土した。

SD5850(PL.56・57 第68図) B-F35に位置。主軸はN19° Eに向き、直線状に南の八地谷川に流れる石組排水溝である。長さ14.2m×幅0.3m×深さ2.0mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。底石はない。西側に9.6m隔てて並行するSD5853と対となる屋敷内区画溝である。土師器皿354・355が出土した。

SD5853(PL.56・57 第68図) A-E39に位置。主軸はN19° Eに向き、直線状に南の八地谷川に流れる石組排水溝である。長さ13.0m×幅0.3m×深さ2.0mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。底石はない。東側に並行するSD5850と対となる屋敷内区画溝でもある。SD5850とSD5853に挟まれた空間内には径0.8mを測る浅い土坑が約9基集中して検出された。井戸SE5851を内包した礎石建物がほぼ敷地全体に建てられていたとすれば、床面積約140㎡を測る建物が想定される。土師器皿356、越前焼甕357・358が出土した。

SD5864(PL.57 第68図) A39・40に位置。石組排水溝である。東へ三日月状に流れる。主軸は $N80^{\circ}E$ に向き、長さ2.4m×幅0.3m×深さ2.0mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。底石はない。

SD5869(第68図) Z'-B41に位置。石組排水溝である。やや蛇行気味に直線状に南北に流れる。主軸は $N10^{\circ}E$ に向き、長さ6.0m×幅0.3m×深さ2.0mを測る。両岸に20~40cm大の石を1段積んでいた。底石はない。に西側に9.5m隔てて石垣SV5908が並行する。SB5904の南側に南北長約9.5m×東西長9.5m、面積約90㎡以上を測る方形の空間が設けられていたと考えられる。鉄釉天目茶碗359が出土した。

道路、石列、井戸、土坑

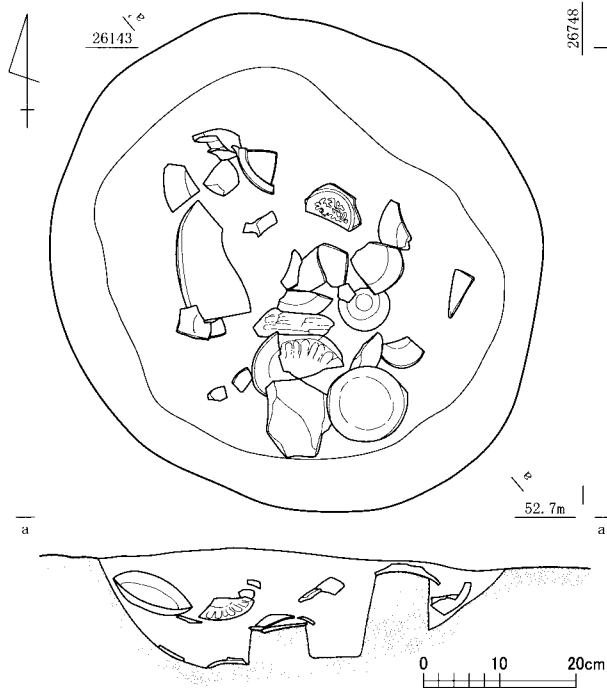
SS5860(PL.57 第68図) A-C40に位置。区画IIの南端で検出された南北道路である。主軸は $N20^{\circ}E$ に向き、長さ約7.5×幅1.8mを測る。全面砂利敷である。西側は石列SX5859、東側は石列SX5858に区画され、北端は井戸SE5866手前まで延び、南端は石列SX5857、東西道路SS5090と直交していたと推定される。

SX5857(PL.57 第68図) A-C40に位置。南北道路SS5860砂利敷面上の南端で東西に並ぶ石列である。東端はSX5858、西端はSX5859に接続する。南側の東西道路SS5090へ降りる踏面と考える。主軸は $N80^{\circ}W$ に向き、全長約1.8mを測る。20~40cm大の石を1段直線状に6石並べていた。

SX5858(PL.57 第68図) A-C39・40に位置。南北道路SS5860上の東側で南北に並ぶ石列である。南端はSX5857に接続する。主軸は $N19^{\circ}E$ に向き、全長約5.5mを測る。30cm大の石を1段直線状に並べていた。

SX5859(PL.57 第68図) A・B40に位置。南北道路SS5860の上の西側で南北に並ぶ石列である。南端はSX5857に接続する。主軸は $N19^{\circ}E$ に向き、全長約2.9mを測る。20~40cm大の石を1段直線状に並べていた。

SE5851(PL.57 第68図) E・F37・38に位置。石組の井戸である。平面形は円形を呈す。上部は破壊されていた。20~40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約1.2m×内寸短軸1.1mを測る。深さは2.0mまで掘削し、石積は14~15段検出した。底面は検出できなかった。周辺に井戸枠と考えられる石材が散乱していた。越前焼鉢361・掛花生360・播鉢362~365、土師器皿366・367、鉄釉天目茶碗368、青磁桜花皿369、石鉢486、石盤487、花立492、井戸枠497~499・502、板石503・504、漆器桶523、釣瓶524~529が出土した。



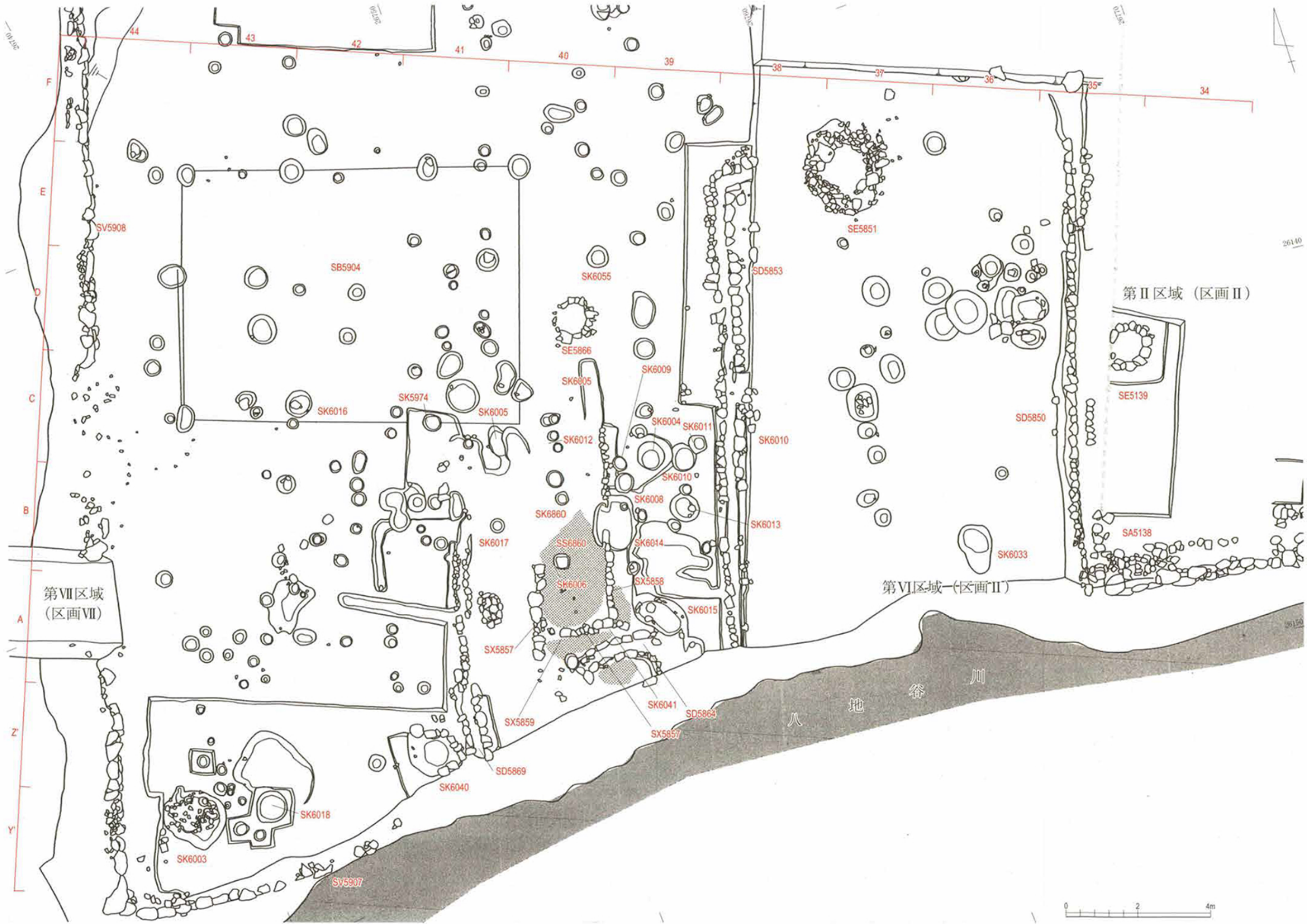
第67図 第VI区画区画II SK5974(縮尺1/10)

SE5866(PL.57 第68図) D40に位置。石組の井戸である。平面形は円形を呈す。20~40cm大の石を円形に配し、内寸長軸約0.9m×内寸短軸0.8mを測る。深さは2.0mまで掘削し、石積は15段検出した。底面は検出できなかった。

越前焼壺370・甕371・広口壺372・捏鉢373・播鉢374・375、鉄釉碗376、備前焼花入377、白磁輪花皿378、染付皿379、土鉢412、石硯444、バンドコ472・473・475、炉壇石488、井戸枠500、桶530・535が出土した。

SK5974(PL.58 第67図) C41に位置。旧仮32である。SB5904の南辺柱列の柱穴である。平面形は円形を呈す。主軸は $N38^{\circ}W$ に向き、内寸長軸0.7m×内寸短軸0.6m×深さ0.2mを測る。

土師器皿380~383、白磁輪花皿384、白磁皿385が出土した。



第 68 图 第VI区域区画II SB5904、SD5850·5853·5864·5869、SS5860、SX5857~5859、SE5851、SK5974·6015·6018、第VII区域区画V SV5908(缩尺 1/100)

SK6014(第68図) B39・40に位置。旧仮36である。土坑である。平面形は円形を呈す。内寸長軸1.4m×内寸短軸1.1m×深さ0.3mを測る。土師器皿391~393が出土した。

SK6026(第62図) K44に位置。土坑である。平面形は楕円形を呈す。内寸長軸1.5m×内寸短軸0.9m×深さ0.2mを測る。土師器皿387~390が出土した。

SK6030(第66図) V39に位置。土坑である。平面形は円形を呈す。内寸長軸0.7m×内寸短軸0.5m×深さ0.2mを測る。土師器皿394、鉄釉水滴395が出土した。

第Ⅶ区域 区画Ⅴ 墓域

(PL.58~60 第62・69図)

SK5943~5950(PL.60 第62・69図)

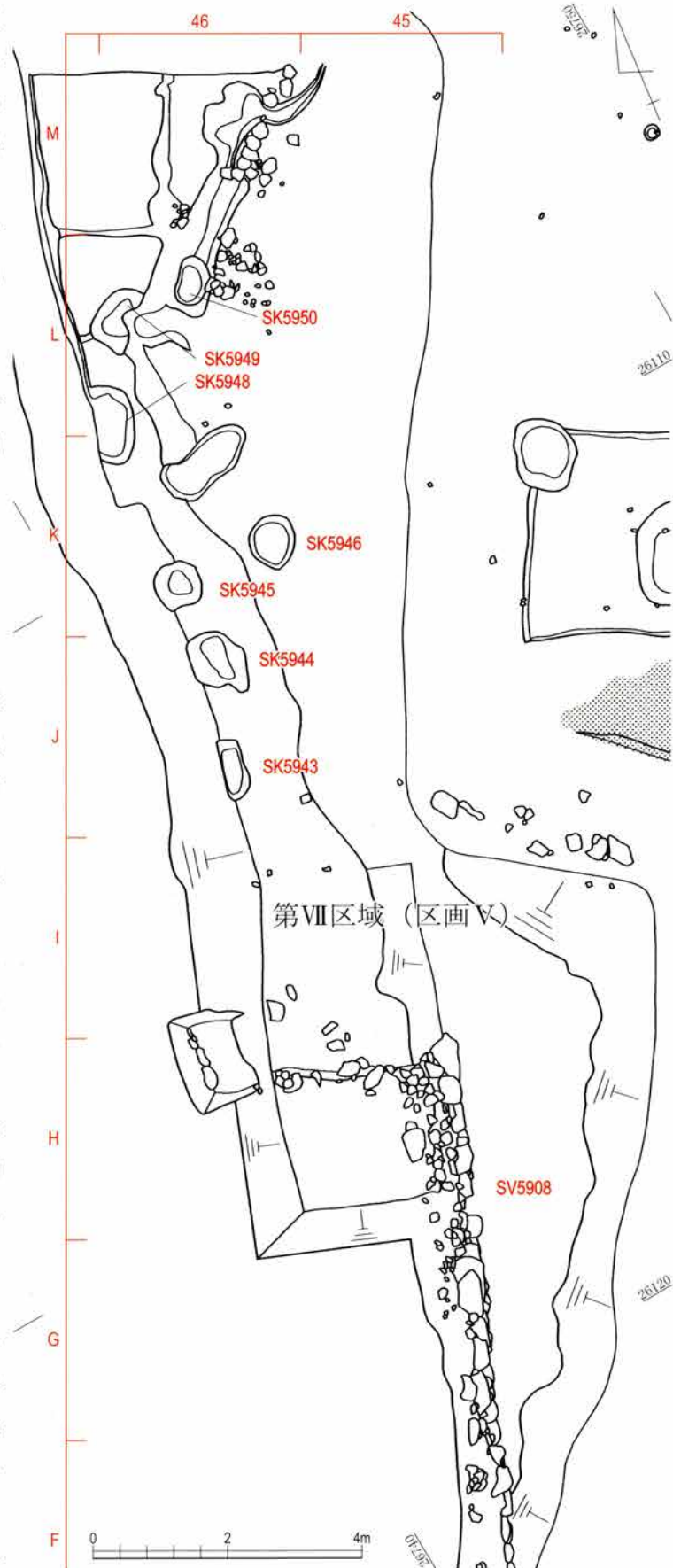
J・L46に位置。火葬墓群である。6基の土坑が区画Ⅴの東際に構築され、南北にわたる狭い範囲に集中していた。区画Ⅱより約1.0m高い地点に立地する。周辺からは石塔類が散乱した状態で出土した。

南側の石垣SV5908北端が墓域の南辺と想定すれば、西側をコの字状に区画して、南北長15m以上を測る墓域が存在した可能性がある。

各土坑は歪楕円形、歪円形を呈し、径0.6~1.8m×深さ0.2mを測る。相互の切り合いはない。炭化物、火葬骨が含まれていた。

SV5908(PL.58 第62・68・72図)

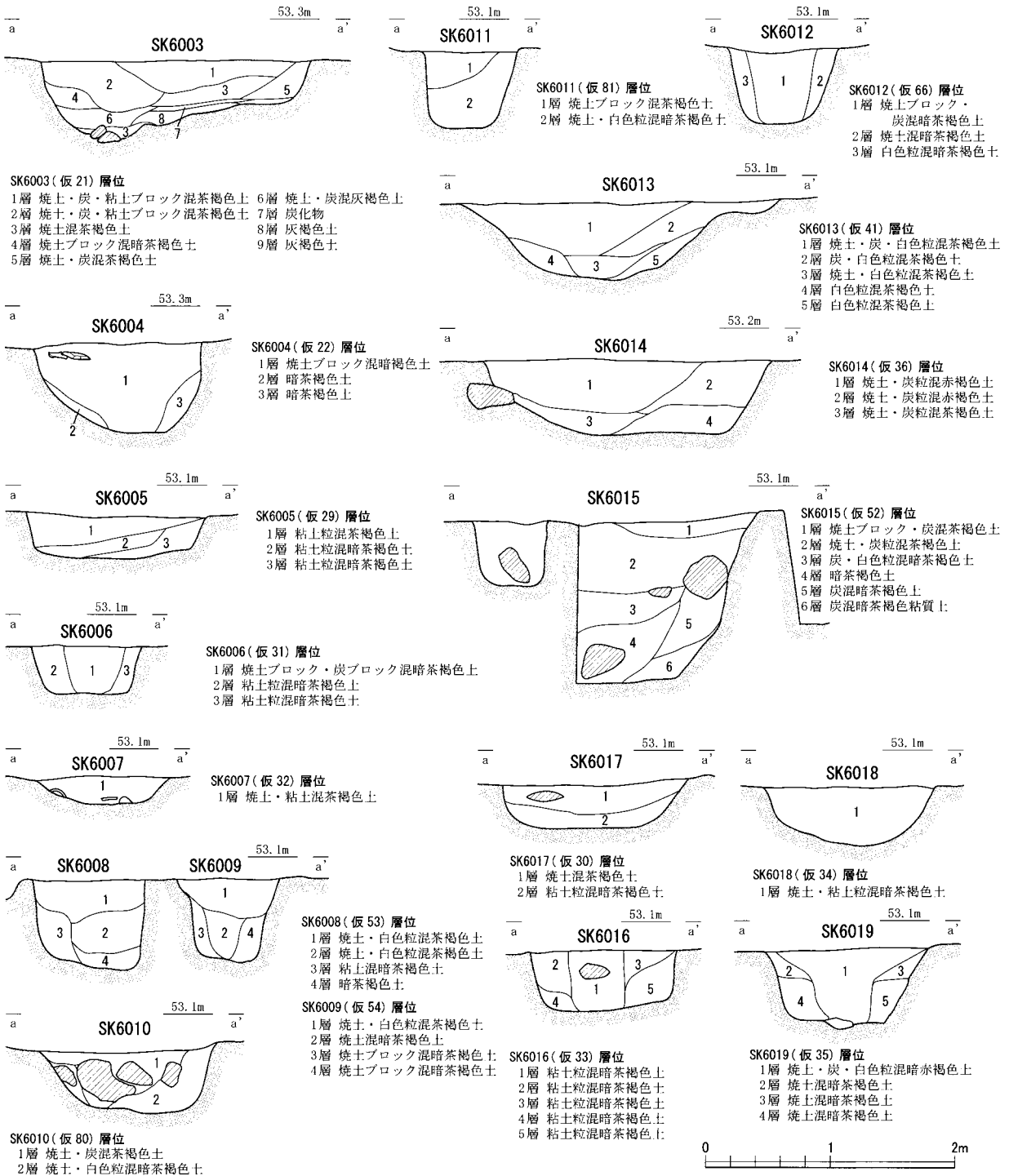
Y' -H44・45に位置。上層の遺構である。区画Ⅴの東側石垣である。主軸はN19°Wに向き、全長約30.5m×高さ1.3mを測る。30~100cm大の石を4~5段積んでいた。越前焼播鉢401~403・鉢404、土師器皿405・406、灰釉皿407、白磁皿408・409、染付皿410・411が出土した。



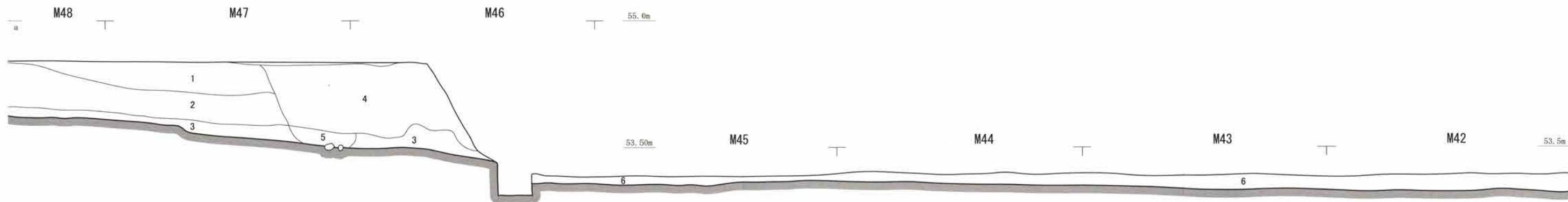
第69図 第Ⅶ区域区画Ⅴ SK5943~5950(縮尺1/100)

SS5909(PL.60 第62図) A47に位置。下層の遺構である。区画Vを南北に通る道路と推定される。C-C' トレンチ西端において深さ1.0mの位置で検出された。10cm大の石を固く敷き詰め、全面砂利敷であった。

区画V北端(PL.59・60 第62図) S-V46~49に位置。区画Vの北端一帯は、内寸長軸1.0~5.0m×深さ0.2mを測る不定形の土坑が地山を掘り込み、切り合って検出された。本来は墓域であったが、最終段階に至って、片付けられ、墓域の石塔類は全て造成土と共に、U-W43~45付近の東側斜面に押し出された状況を呈していた。造成土には火葬骨や炭化物のほか、陶磁器類、金属器、漆器も含まれていた。

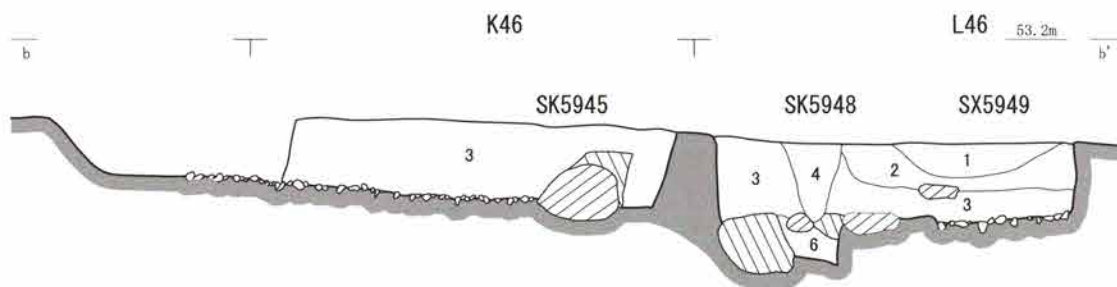
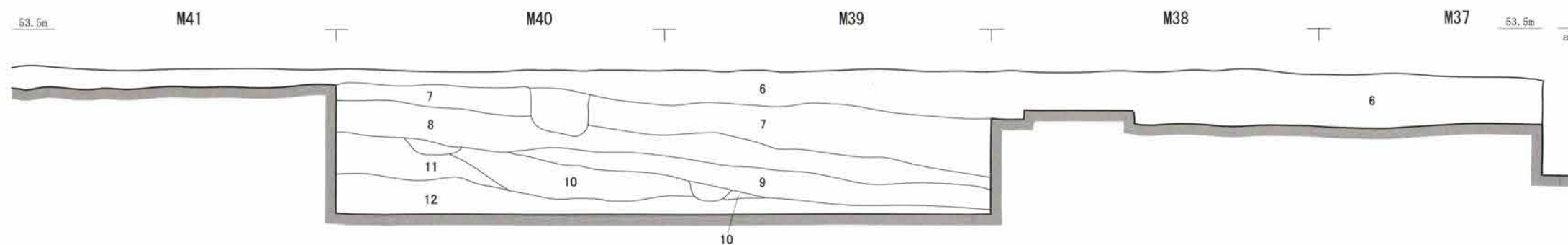


第70図 第VI区画区画II SK6003~6019断面(縮尺1/50)



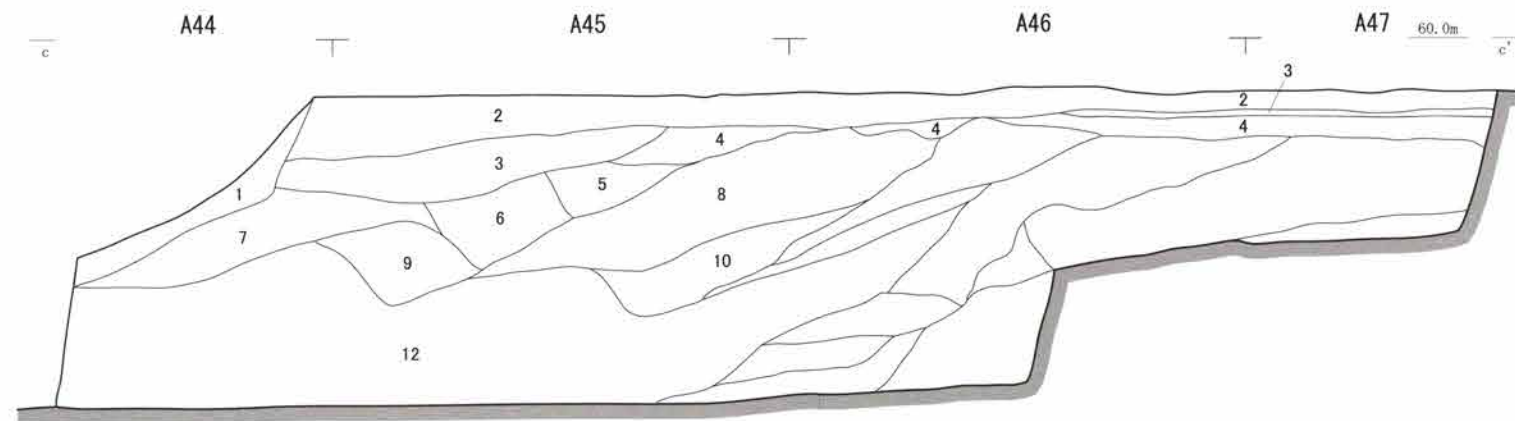
a-a' 層位【M48~37】

- 1層 茶褐色土整地層
- 2層 茶褐色土整地層 1層よりやや暗い
- 3層 黄褐色土 地山
- 4層 暗褐色土 石塔多し
- 5層 焼土・炭混茶褐色土
- 6層 暗褐色土 遺物多し
- 7層 礫混茶褐色土
- 8層 炭混暗茶褐色土 遺物含む
- 9層 黒褐色土 須恵器を含む古代の包含層
- 10層 小砂利混茶褐色土
- 11層 小砂利混黄茶褐色土
- 12層 黄茶褐色土 地山



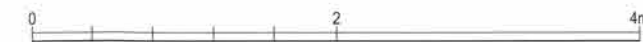
b-b' 層位【K-L46】

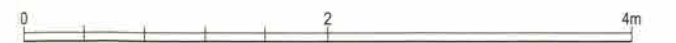
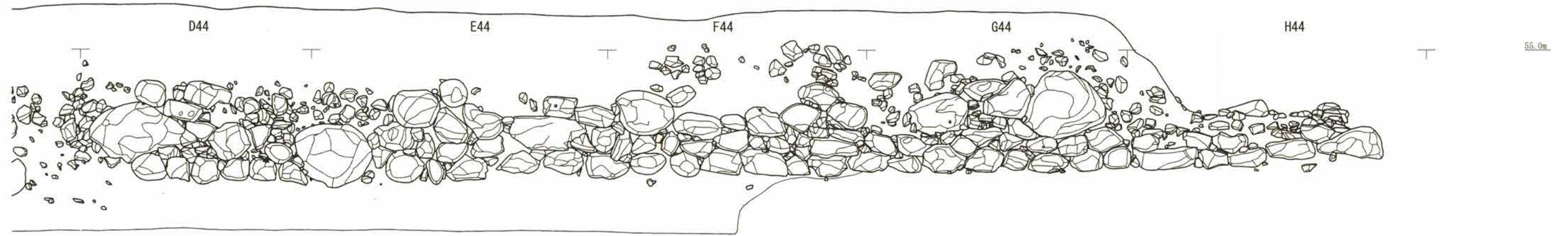
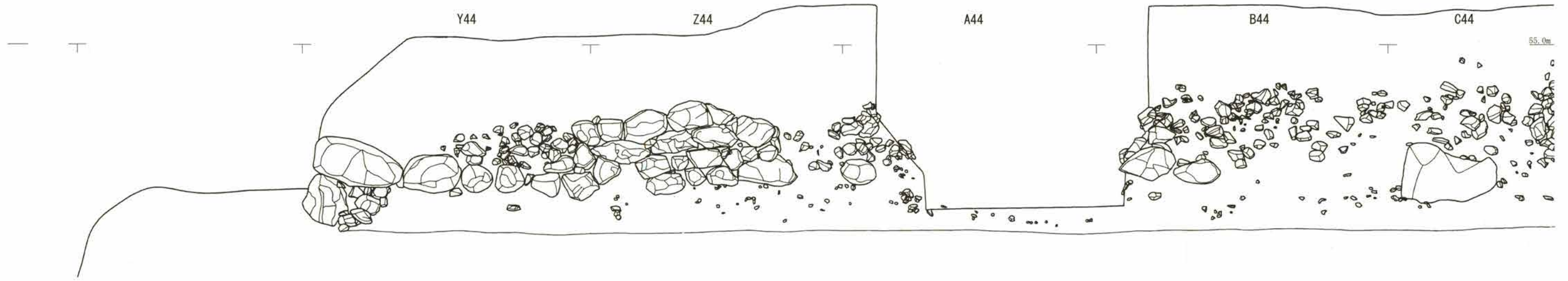
- 1層 砂岩ブロック混黄褐色土
- 2層 炭・焼土混暗茶褐色土
- 3層 炭・焼土混暗茶褐色土 2層より暗い色調
- 4層 炭・焼土混暗茶褐色土 白色粒多し



c-c' 層位【A44~47】

- 1層 表土
- 2層 暗茶褐色土 旧水田
- 3層 凝灰岩ブロック混茶褐色土
- 4層 凝灰岩ブロック・炭混茶褐色土
- 5層 凝灰岩ブロック混茶褐色土 しまり悪い
- 6層 凝灰岩ブロック混茶褐色土 5層より明るい
- 7層 凝灰岩ブロック混茶褐色土
- 8層 凝灰岩ブロック少量混茶褐色土
- 9層 凝灰岩ブロック混茶褐色土
- 10層 凝灰岩ブロック
- 11層 焼土・凝灰岩ブロック混橙茶褐色土
- 12層 凝灰岩ブロック多量混茶褐色土





2. 遺 構

第 8 表 第 118 次調査主要遺構観察表(PL. 49~60 第 62・66~72 図)

第Ⅳ区域【区画Ⅲ 広場】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
1	Y・Z 33～37	SD5992	広場北辺 区画溝							PL. 52	第 66 図
2	T-W 32・33	SD5128	広場東辺 区画溝							PL. 48	第 66 図
3	T 36～38	SD5996	広場南辺 区画溝							PL. 53	第 66 図
4	U-Y 37・38	SD5993	広場西辺 区画溝							PL. 50	第 66 図
5	V 37・38	SF6000	石積施設							PL. 53	第 66 図

第Ⅵ区域【区画Ⅱ 町屋】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
22	U 45	SE5962	井戸							PL. 53	第66図
23	T 36・37	SB5997	礎石建物							PL. 53	第62図
24	R 36	SE5998	井戸							PL. 53	第66図
25	C-E 41~44	SB5904	掘立柱建物							PL. 56	第62図
26	B-F 35	SD5850	区画溝							PL. 56 PL. 57	第68図
27	A-E 39	SD5853	区画溝							PL. 56 PL. 57	第68図
28	A 39・40	SD5864	区画溝							PL. 57	第68図
29	A 39・40	SD5869	区画溝							—	第68図
30	A-C 40	SS5860	南北道路							PL. 57	第68図
31	A-C 40	SX5857	石列							PL. 57	第68図
32	A-C 39・40	SX5858	石列							PL. 57	第68図
33	A・B 40	SX5859	石列							PL. 57	第68図
34	E・F 37・38	SE5851	井戸							PL. 57	第68図
35	D 40	SE5866	井戸							PL. 57	第68図
36	C 41	SK5974	土坑							PL. 58	第67図
37	B 39・40	SK6014	土坑							—	第68図
38	K 44	SK6026	土坑							—	第62図
39	Y 39	SK6030	土坑							—	第66図

第Ⅴ区域【区画Ⅳ 武家屋敷】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
6	U-Z 38~39	SS5994	南北道路							PL. 52	第66図
7	Y 38・39	SX5995	石列							PL. 52	第66図
8	Z・A' 39	S16024	門							PL. 52	第66図
9	X-Z 39	SD5991	南北道路 側溝							PL. 53	第66図
10	A' 40	SD6022	区画溝							PL. 53	第66図
11	Z-B' 37・38	SS6001	区画Ⅳ北辺 東西道路							PL. 52	第66図
12	V 30	SS6002	道路							—	第66図
13	W-A' 42~48	SB5970	礎石建物							PL. 54	第66図
14	W-Y 44~46	SB5971	掘立柱建物							PL. 54	第66図
15	W-Y 44~46	SB5972	掘立柱建物							PL. 54	第66図
16	W-Y 44~46	SB5973	掘立柱建物							PL. 54	第66図
17	X 41・42	SA5983	土塁石垣							PL. 55	第66図
18	V 44	SS5988	東西道路							PL. 52	第66図
19	Z・A' 46	SB6019	礎石建物							PL. 55	第66図
20	T・U 43・44	SF5964	石積施設							PL. 55	第66図
21	X 40	SE5989	井戸							PL. 53	第66図

第Ⅶ区域【区画Ⅴ 墓域】

NO	グリッド	遺構	種類	下層			上層			写真 図版	挿図
				I期	II期	III期	I期	II期	III期		
40	J・L 46	SK5943~ 5950	火葬墓							PL. 60	第69図 第70図
41	Y-H 44・45	SV5908	区画Ⅴ 東側石垣							PL. 58	第62図 第68図 第72図
42	A 47	SS5909	南北道路							PL. 60	第62図 第71図

3. 遺物

第113次調査出土遺物(PL. 72～76 第73～82図 第9表)

第113次調査の遺物は、1～306を掲載した。内訳は、包含層出土土器1～151、第Ⅰ～Ⅲ区域の土器(陶磁器類)152～234、金属製品235～239、土製品240～248、木製品249～257、石製品258～291 その他の遺物292～302、銭貨303～306である。詳細は第9表に記し、以下、特徴的なものについて概要を述べる。

包含層出土土器(PL. 76～79 第73～76図)

越前焼壺6・甕7～10にはヘラ記号が入る。播鉢19は口径37.2cmを測り、内面に幅2.8cm・10条の卸目が入る。底面で卸目が交差する。20は体部に赤色化粧土の痕跡が残る。内面に幅2.8cm・10条の卸目が入る。23は底部周縁に縄目痕があり、内面に幅2.8cm・13条の卸目が入る。土師器小皿29～66は浅皿形C類、杯形C類が大半を占める。盤67は口径18.8cmを測り、内外面の底部は黒色に焼成されている。鉄釉香炉78は口端部を押圧して波状に成形する。体部には簾状文が押圧され、底部の3方向に脚が付く。瓦質土器瓦燈92は蓋の下端部であり、体部下位に半菊花文が押印する。香炉44の体部は寸胴形を呈し2個1組の雷文を押印する。火舎95は体部が外反し、ヘラ描きによる炎背3重円文と「×」字文を入れている。青磁盤96は体部内面には線刻蓮花文が入る。香炉110には体部に陽刻算木文が入る。琮形瓶111は方柱状の体部を呈し、体部に陽刻算木文が入る。白磁皿114・115・輪花皿117・118・119・皿125・127・杯131は第Ⅱ区域G26で集中して出土し、SK5100を含めて、礎石建物が存在した可能性がある。染付皿136は体部に変形唐草文を充填し、底部内面にアラベスク文を入れる。137・138は底部内面に呉須玉抱き獅子文、139には羯磨文を描く。

第Ⅰ～Ⅲ区域遺構出土土器(PL. 73・74 第77～79図)

SK5100出土(PL. 73 第77図) 越前焼甕156～160は口径80.0～90.0cm、最大径90.0～96.0cmを測る大甕である。播鉢163は口径36.0cmを測り、体部下位に縄目痕が残る。底部は未調整である。内面に幅2.7cm・9条の卸目が入り、底面にも卸目が施される。白磁皿164・165・167・168は、口径20cm前後を測り、口端部が外反する。染付皿178は底部内面に玉抱き獅子文を描く。

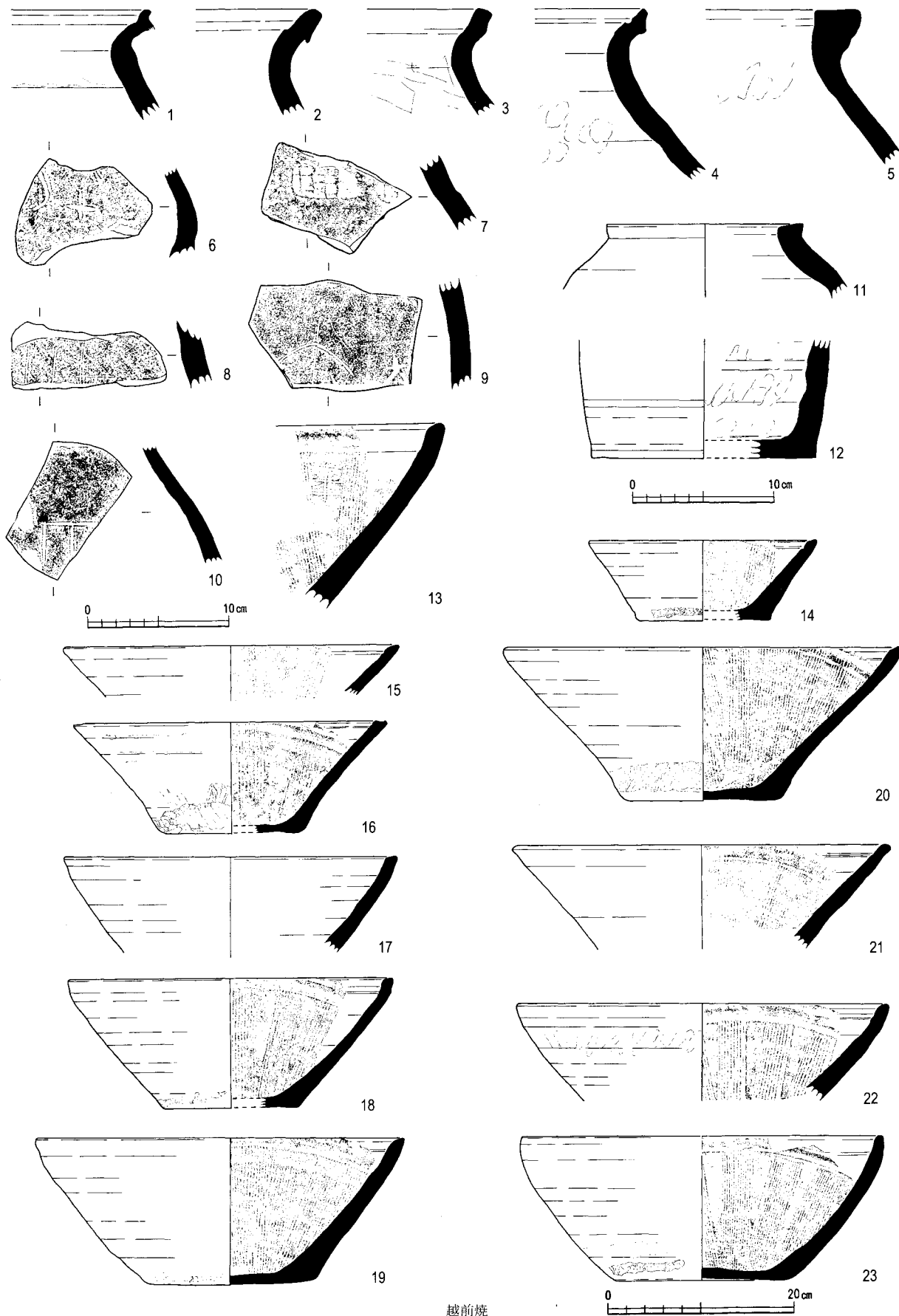
SK6025出土(PL. 74 第78図) SK5100に関連する土坑と考える。白磁香炉180は口径8.4cm、器高6.7cmを測る。底部は平底である。染付皿182は口径28.0cmを測る大型品であり、体部に呉須草花文、内面にアラベスク文を描く。皿184・185は体部に呉須草花文、内面に圏線と草花文を描く。

SS2952出土(PL. 74 第78図) 鉄釉壺189の口縁部は内傾し、胴部上位に稜をもつ。青磁香炉194は口径9.0cm、器高5.6cmを測り、底部周縁に直方体の疑似脚が付く。備前焼の角形掛花生196は、口径5.6cm、器高14.0cmを測る。底部は角状に湾曲し、体部はヘラケズリで調整する。

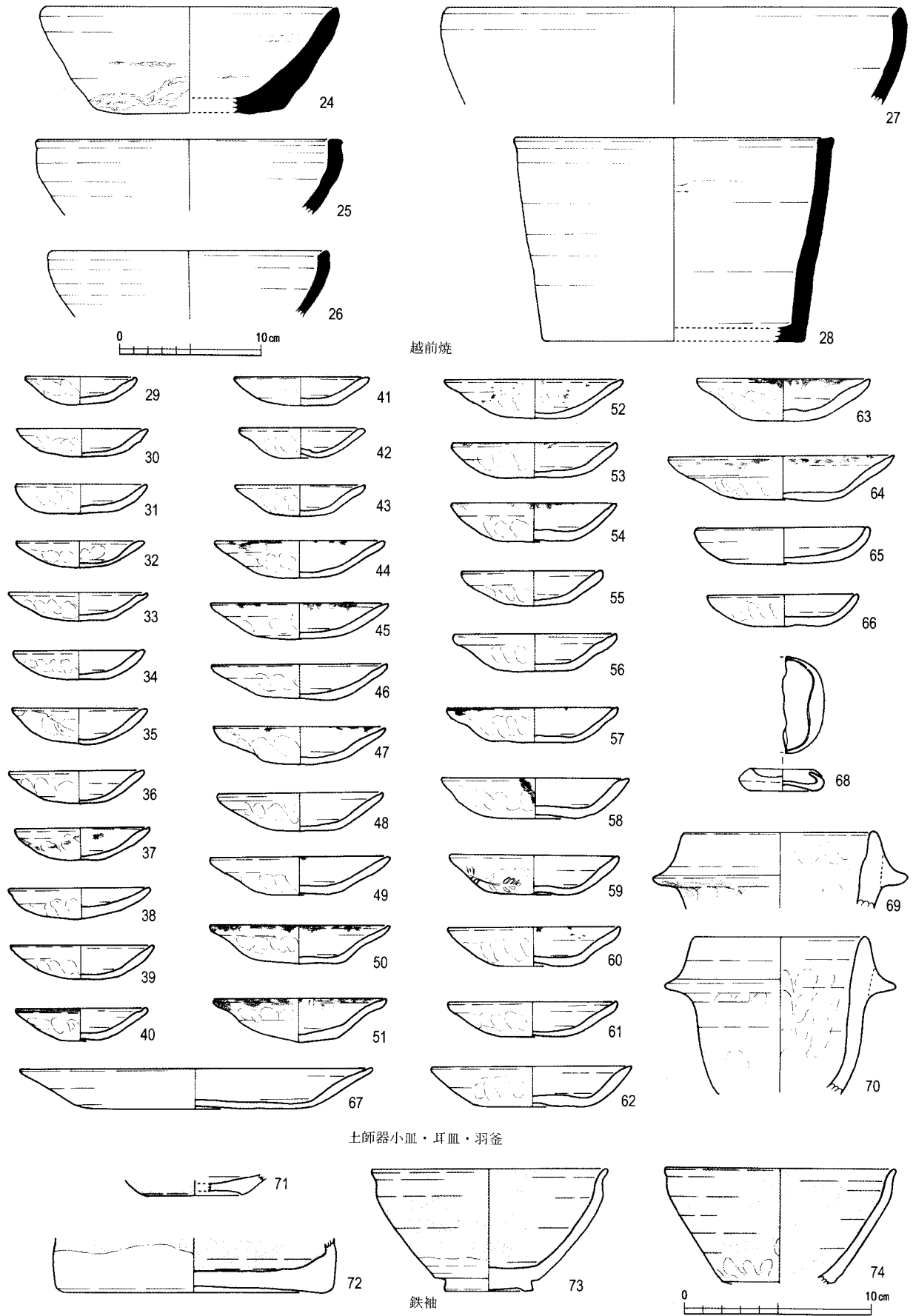
SE5139出土(PL. 74 第79図) 越前焼掬鉢212は口径35.2cmを測り、内面に波状卸目を入れる。播鉢213は口径31.0cmを測り、内面に幅2.9cm・10条の卸目を入れる。215は口径39.0cmを測り、内面に幅2.5cm・8条の卸目を入れる。掛花生220は鋸歯文と突起で装飾し、背面は平坦となる。断面は蒲鋸形になる。

木製品(PL. 75 第80図) 250・252・256が第Ⅱ区域SE5111から出土し、他は包含層から出土した。柄杓252は断面が蒲鋸形になる。材質はクワ属である。下駄253の材質はマツ属複雑管束亜属、254はクリである。

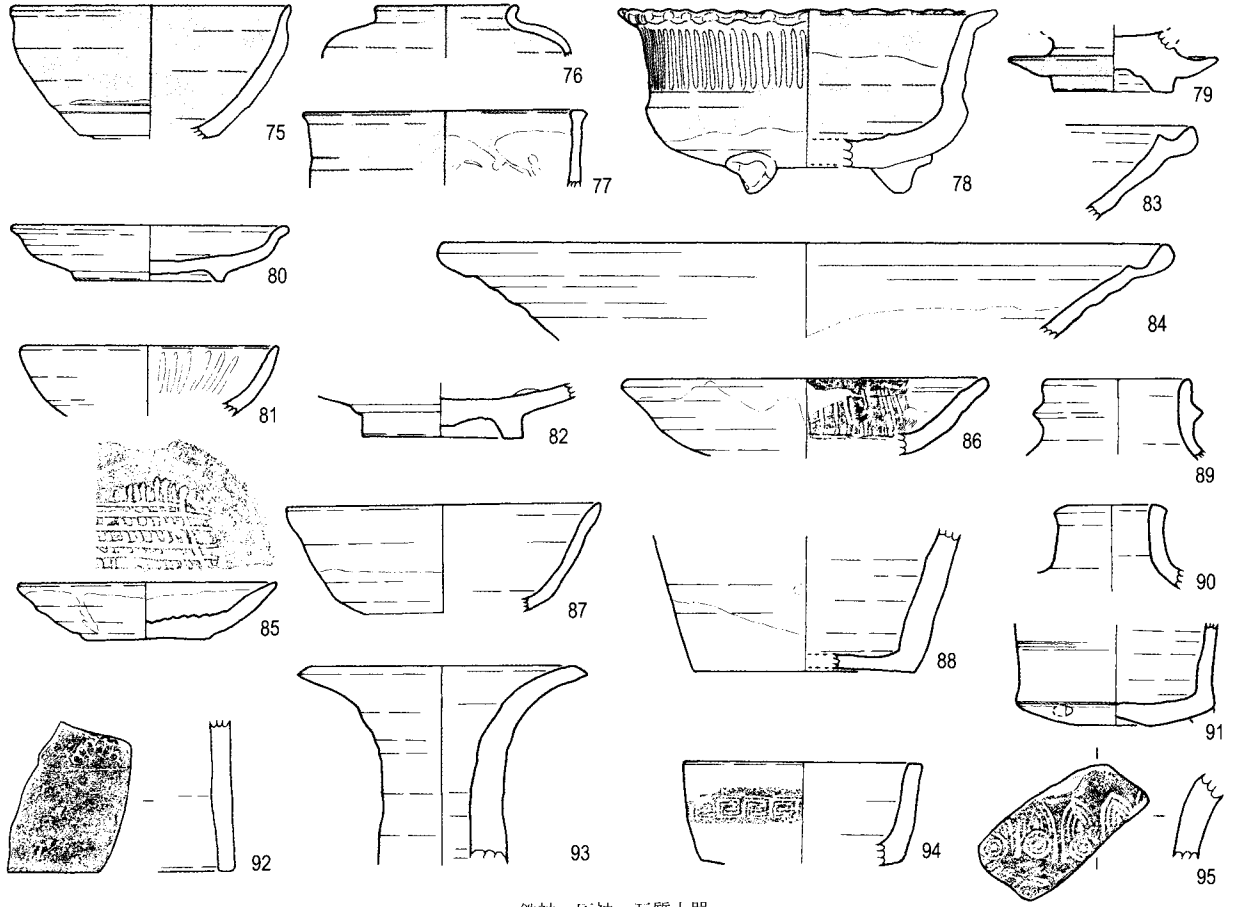
石製品(PL. 75・76 第81・82図) 石硯258は表面が剥離しているものの全体の形状をとどめている。259は長さ10.5cm、幅3.6cmを測り、SK6025から出土した。基石は264～279が出土し、第Ⅰ・Ⅱ区域出土のものが占める。すべて黒色の粘板岩製である。舟形五輪塔289は頂部を鈍い三角形に加工し、双立五輪塔を陽刻している。五輪塔内に「南無妙」の銘が読み取れる。五輪塔の輪郭に朱漆が残る。291は五輪塔を陽刻し、塔内に「南無阿弥陀佛」を刻む。全体が被熱し、ススが付着する。



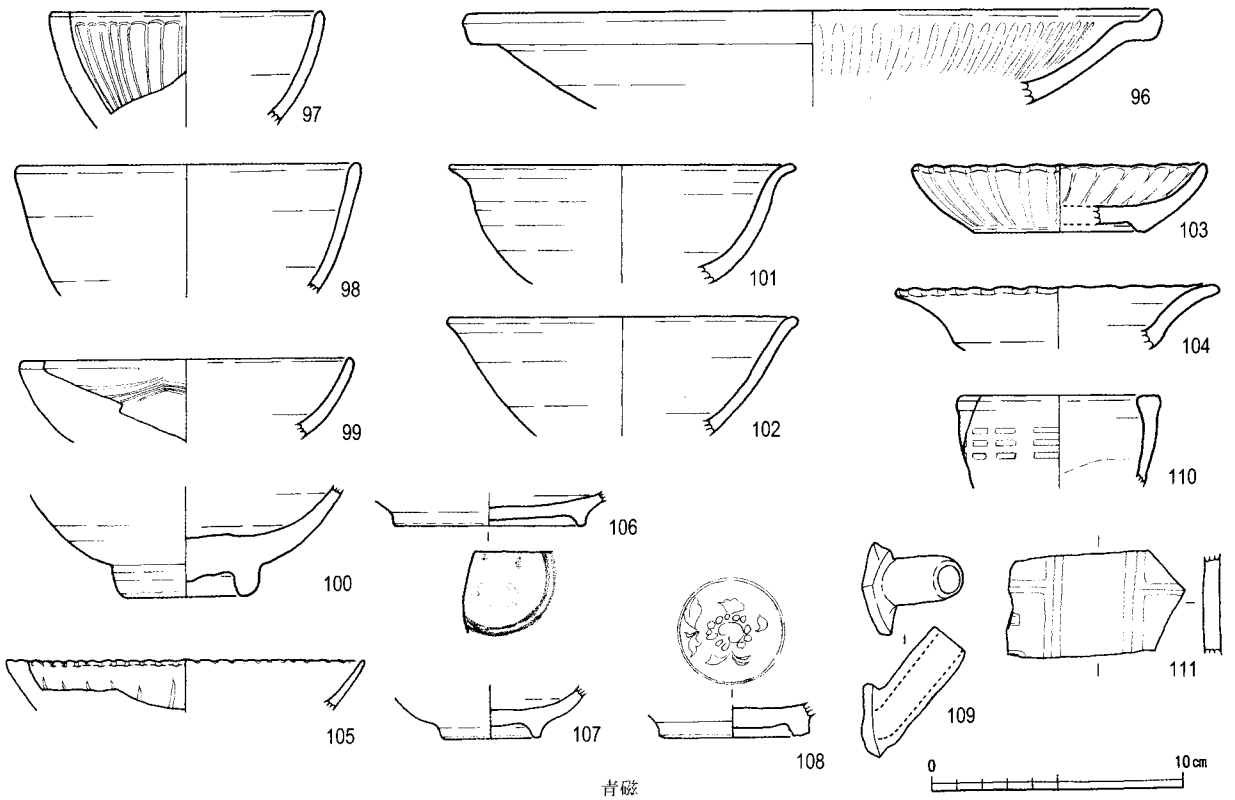
第73図 第113次調査 包含層出土土器(縮尺1/4、1/6)



第74図 第113次調査 包含層出土土器(縮尺1/3、1/4)

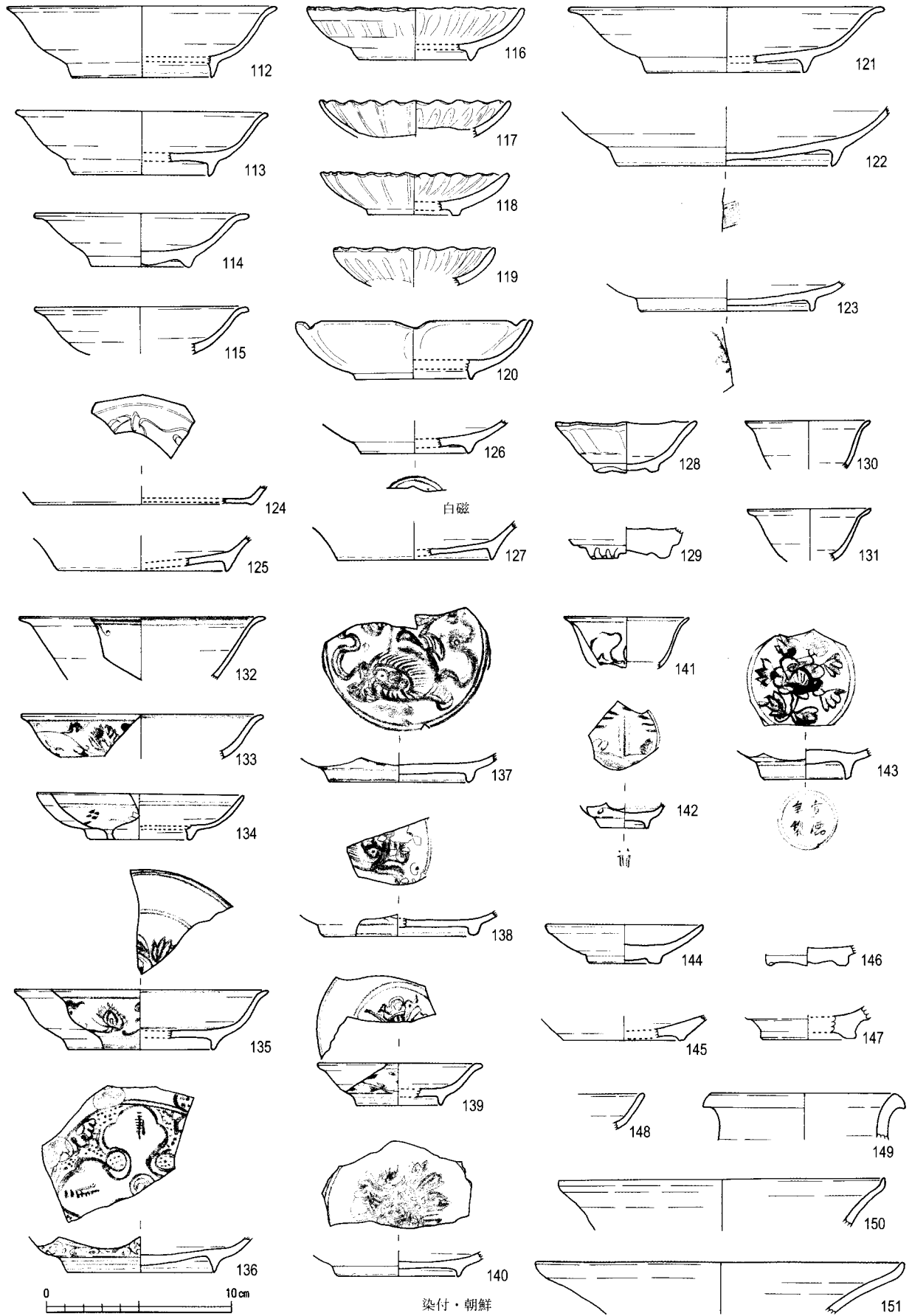


鉄袖・灰袖・瓦質土器



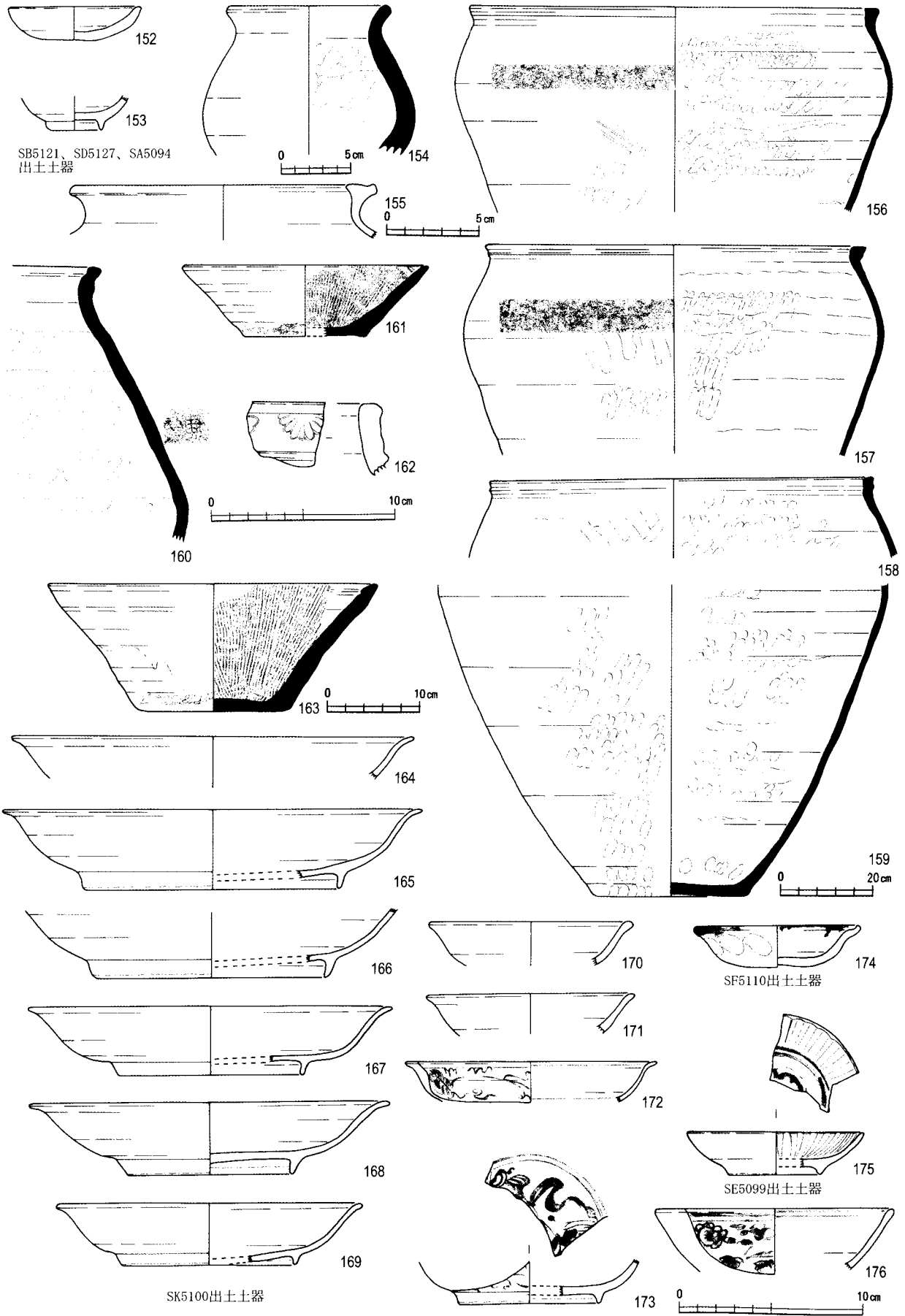
青磁

第 75 図 第 113 次調査 包含層出土土器(縮尺 1/3)

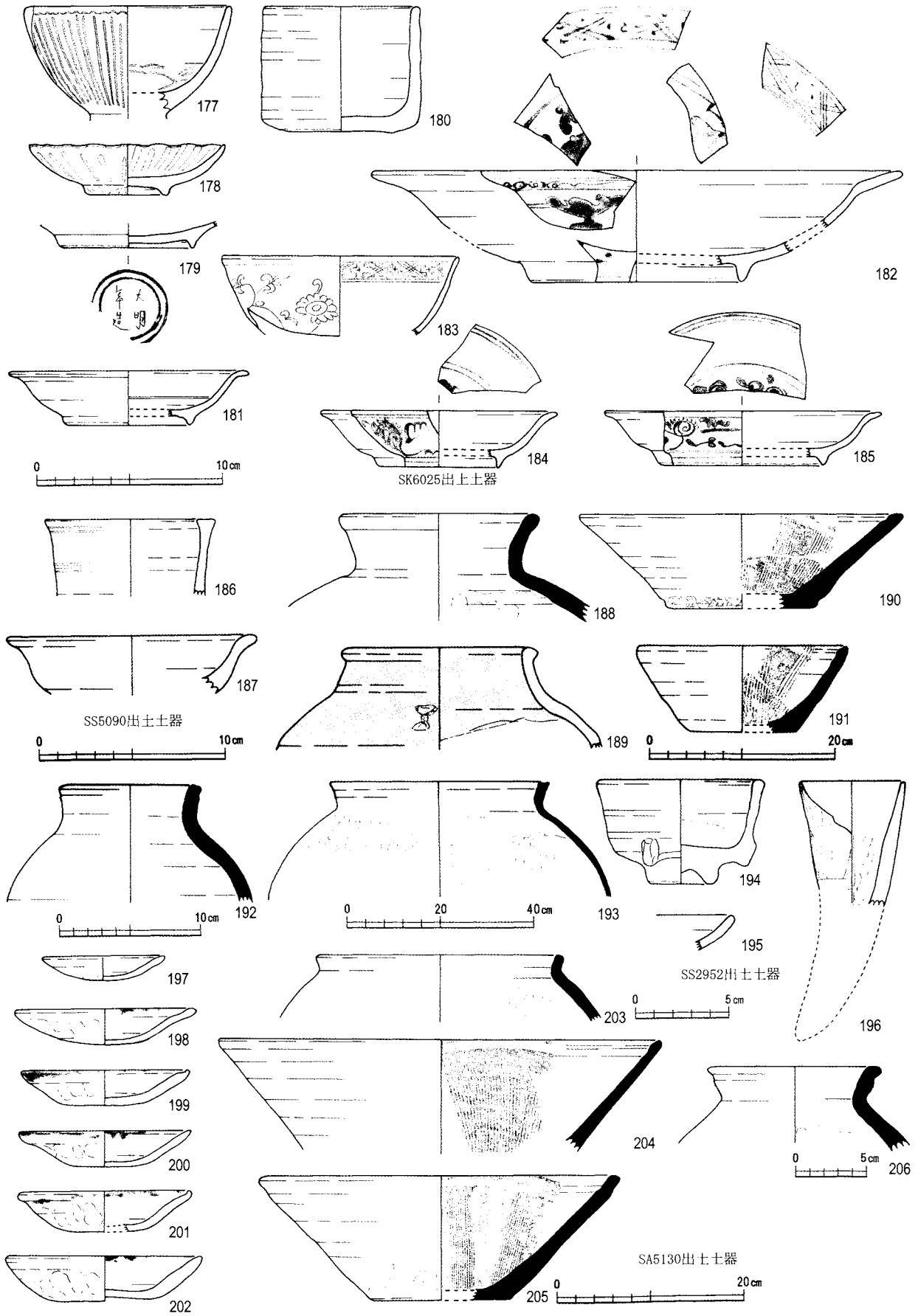


第 76 図 第 113 次調査 包含層出土土器(縮尺 1/3)

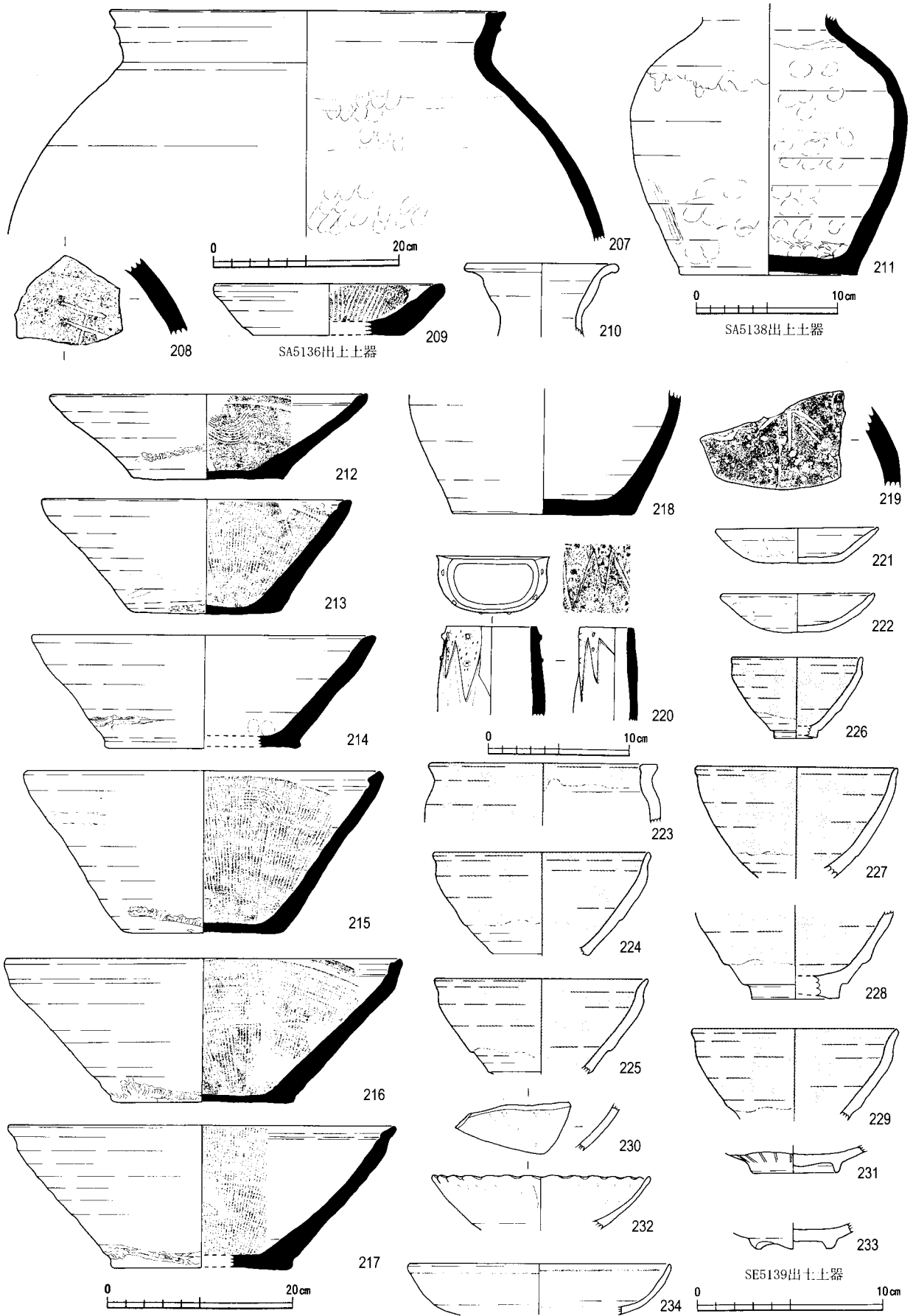
3. 遺物



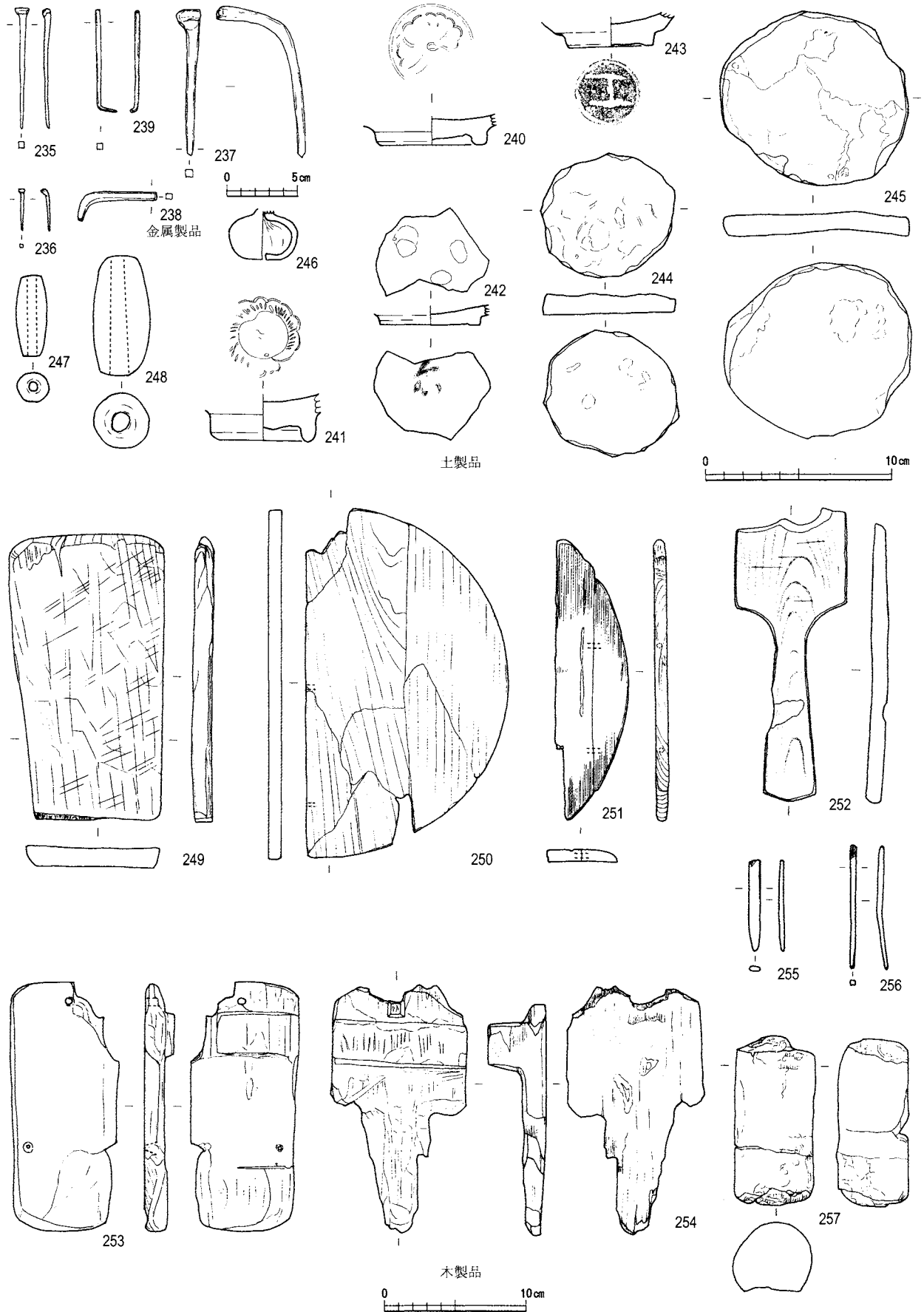
第77図 第113次調査 第I・II区域区画I遺構出土土器(縮尺1/3、1/4、1/6、1/12)



第 78 図 第 113 次調査 第 II 区域区画 I、第 III 区域区画 II 遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4、1/6)

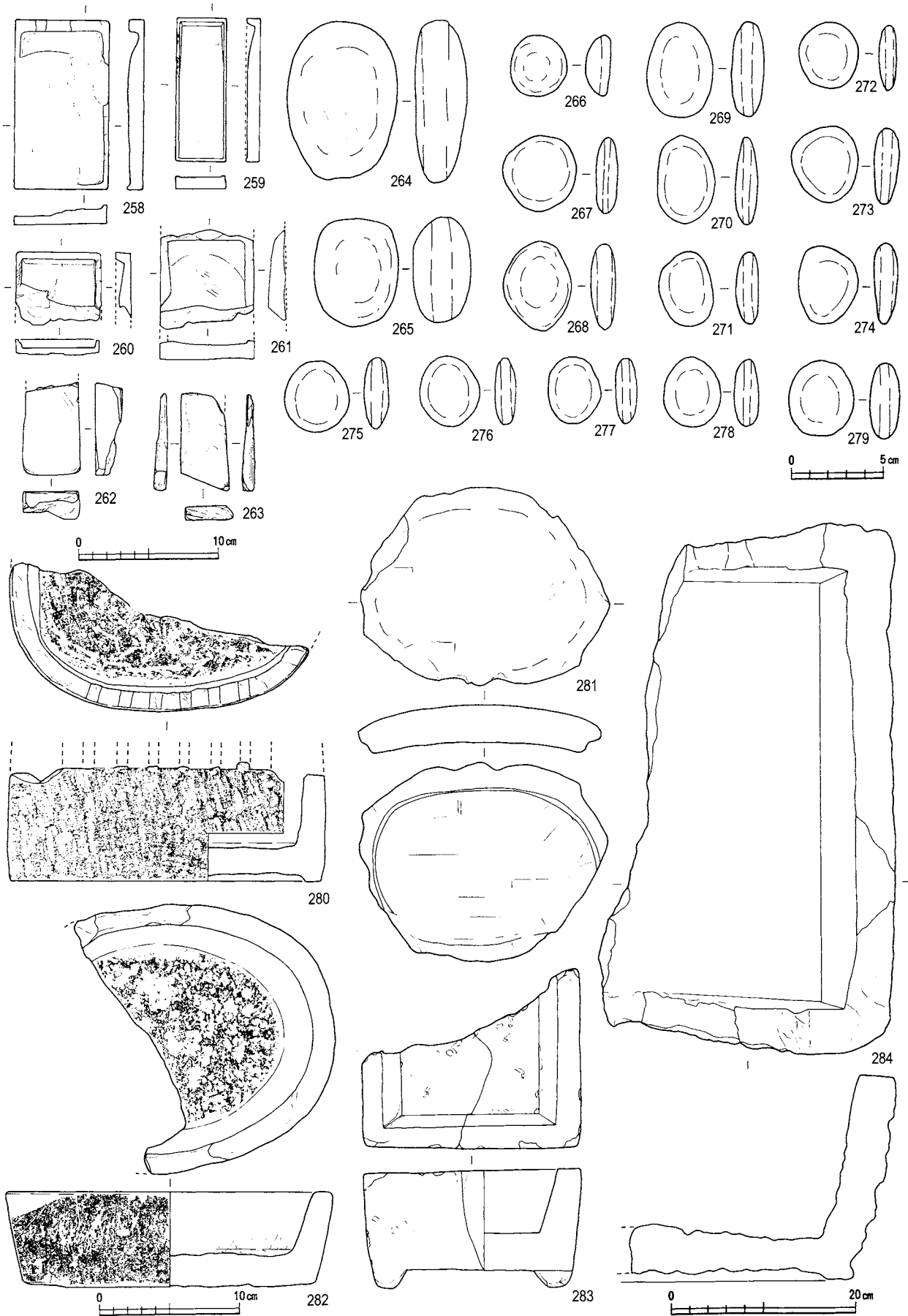


第 79 図 第 113 次調査 第三区域区画Ⅱ遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4、1/6)

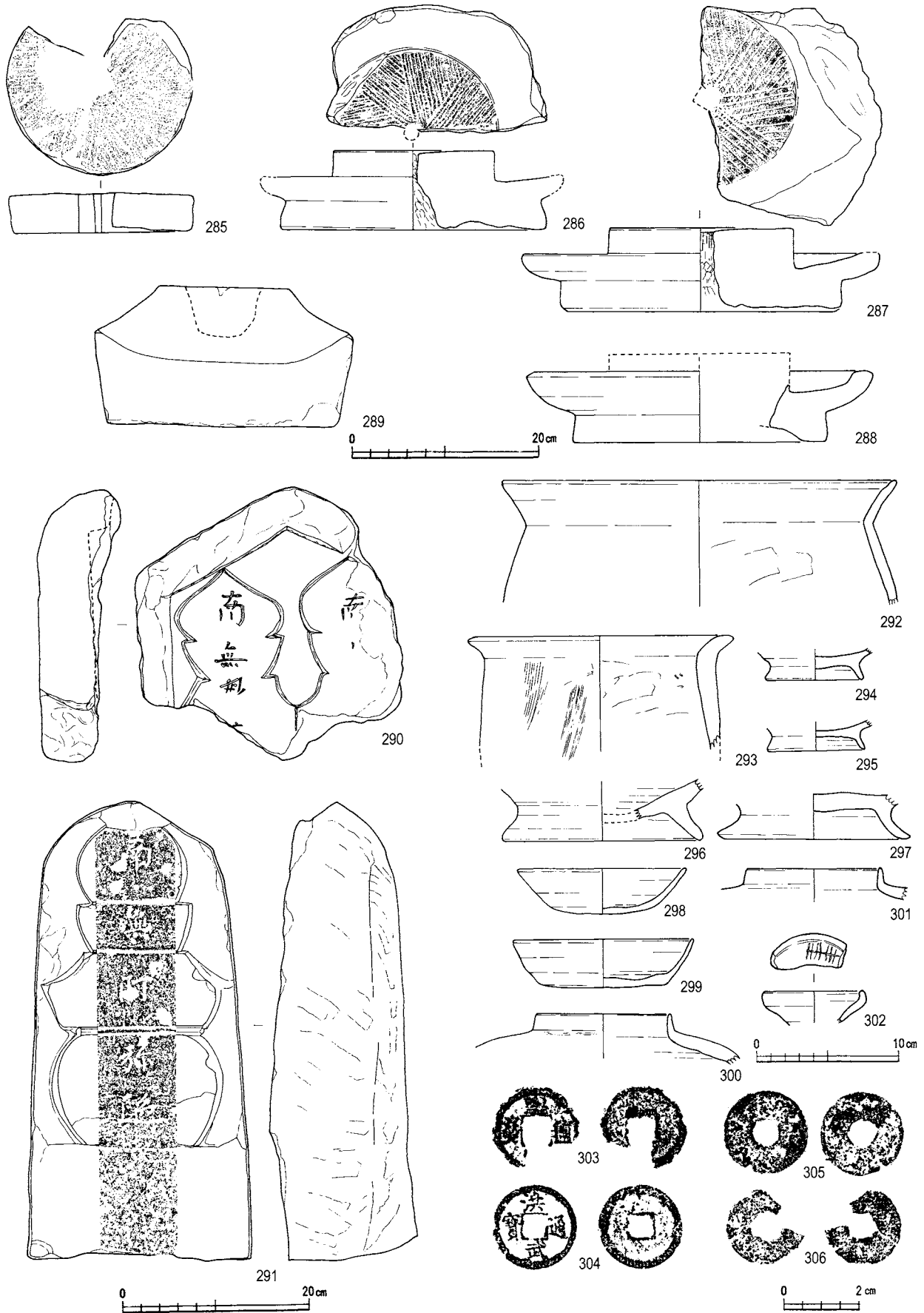


第80図 第113次調査 金属製品、土製品、木製品(縮尺 1/3、1/4)

3. 遺物



第81図 第113次調査 石製品(縮尺1/4、2/3、1/6)



第82図 第113次調査 石製品、石塔、その他の遺物、銭貨(縮尺1/3、2/3、1/6)

3. 遺物

第9表 第113次調査出土遺物観察表(PL.72~76 第73~82図)

包含層出土陶磁器類(PL.72~73 第73~76図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点
						備考
1	越前焼大甕	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外方へ屈曲/口唇部は上方へ外反/口端部凹面 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ	第Ⅲ区域 P35 外:胴部自然釉 内:口縁部自然釉
2	越前焼大甕	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口端部下位突出/口端部内側に段 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ	第Ⅱ区域 A27 外:胴部降灰 内:口縁部降灰
3	越前焼大甕	焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口端部平坦/口端部内側に段 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ・指頭痕	第Ⅲ区域 A32 外:口縁部~胴部自然釉
4	越前焼大甕	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外反して立ち上がる/口端部下位突出/口端部内側に凹線 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ・指頭痕	第Ⅲ区域 Q35 外:胴部降灰
5	越前焼大甕	焼: 良好 色: 濃茶黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端部平坦/口端部に条線1 胴部:上位で大きく張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ・指頭痕	第Ⅲ区域 C32 外:口縁部自然釉
6	越前焼壺	焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下		外:胴部上位ナデ/ヘラ記号2種 内:胴部上位ナデ	第Ⅲ区域 R34 外:自然釉
7	越前焼甕	焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下		外:胴部上位ナデ/格子文押印 内:胴部上位ナデ	第Ⅰ区域 M30
8	越前焼甕	焼: 良好 色: 灰褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下		外:胴部上位ナデ/ヘラ記号 内:胴部上位ナデ	第Ⅱ区域 B24
9	越前焼甕	焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下		外:胴部上位ナデ/「大」・弓矢状のヘラ記号 内:胴部上位ナデ	第Ⅱ区域 B22
10	越前焼甕	焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下		外:胴部上位ナデ/ヘラ記号 内:胴部上位ナデ	第Ⅰ区域 J26
11	越前焼広口壺	口: 14.0 高: 5.0 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く外傾して屈曲/口端部平坦 胴部:上位で張る	外:口縁部~胴部回転ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ	第Ⅱ区域 A28~30 外:胴部上位降灰
12	越前焼火桶	高: 8.5 底: 16.0 焼: 良好 色: 茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/8	体部:寸胴形 底部:平坦	外:回転ナデ/底部ナデ/シャープ 内:回転ナデ・指頭痕	第Ⅱ区域 A21/28~30
13	越前焼播鉢	焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/口端部内側に段	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ/幅2.6cm・9条の卸目/ヘラ記号	第Ⅱ区域 A29
14	越前焼播鉢	口: 24.8 高: 8.8 底: 14.0 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/口端部内側に凹線 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に縄目痕/底面未調整/赤色化粧土 内:回転ナデ/幅2.9cm・10条の卸目	区域不明
15	越前焼播鉢	口: 36.4 高: 6.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部丸く収める/口端部内側に凹線	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ/幅2.8cm・10条の卸目/口縁部に一指し指と中指の押圧	第Ⅰ区域 U25
16	越前焼播鉢	口: 33.8 高: 12.0 底: 15.0 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/口端部内側に段 底部:平坦	外:回転ナデ/赤色化粧土/体部下位に縄目痕/底面未調整/シャープ 内:回転ナデ/幅2.7cm・8条の卸目/体部下位~底部摩擦	第Ⅰ区域 V25/U25/W24
17	越前焼捏鉢	口: 36.0 高: 10.5 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ	第Ⅳ区域 W34
18	越前焼播鉢	口: 35.0 高: 14.2 底: 14.6 焼: 良好 色: 灰茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/4	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部上方に屈曲/口端面平坦/口端部内側に条線 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に縄目痕/底面未調整/シャープ 内:回転ナデ/幅2.5cm・9条の卸目	第Ⅲ区域 G33/I30

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点
						備 考
19	越前焼 播鉢	口: 37.2 高: 16.0 底: 18.0 焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部上方に 屈曲/口端面平坦/口端部内側に条線 底部:平坦	外:回転ナデ/底部周縁に縄目 痕/底面摩耗/シャープ 内:回転ナデ/幅2.8cm・10条 の卸目/底面卸目交差	第I区域 T26
20	越前焼 播鉢	口: 43.0 高: 16.6 底: 17.0 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/ 口端部内側に段 底部:平坦	外:回転ナデ/赤色化粧土/底 部周縁に縄目痕/底面未調整/ シャープ 内:回転ナデ/幅2.8cm・10条 の卸目/底部摩耗	第I区域 W24 口端部スス付着
21	越前焼 播鉢	口: 41.0 高: 11.3 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/ 口端部内側に条線	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ/幅3.0cm・10条 の卸目	第III区域 Q35/P35/S34
22	越前焼 播鉢	口: 40.0 高: 10.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ開く/口端部丸 く収める/口端部内側に条線	外:回転ナデ/口縁部ヘラナデ シャープ 内:回転ナデ/幅2.8cm・10条 の卸目	第I区域 T26
23	越前焼 播鉢	口: 39.0 高: 15.6 底: 18.0 焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部:内湾して外方へ開く/口端面丸く 収める/口端部内側に段 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位ヘラケ ズリ/底部周縁に縄目痕/底面 摩耗/シャープ 内:回転ナデ/幅2.8cm・13条 の卸目/底部摩耗	第III区域 F33/G33
24	越前焼 捏鉢	口: 21.0 高: 7.7 底: 13.0 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/6	口縁部:やや内湾して外方へ開く/口端面丸 く収める 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に縄目 痕/底面未調整 内:回転ナデ	第IV区域 T34 内:自然釉
25	越前焼 鉢	口: 33.0 高: 8.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:内湾して上方へ開く/口端面平坦	外:回転ナデ 内:回転ナデ	第II区域 A28 - 30 内:降灰
26	越前焼 鉢	口: 30.2 高: 7.0 焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:内湾して上方へ開く/口端面平坦	外:回転ナデ/シャープ/回転 ヘラケズリ 内:回転ナデ	第II区域 A27 内:スス付着 火鉢に転用
27	越前焼 鉢	口: 32.0 高: 7.0 焼: 良好 色: 淡橙色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:内湾して上方へ開く/口端面平坦	外:回転ナデ/シャープ 内:回転ナデ	区域不明
28	越前焼 火桶	口: 22.6 高: 14.5 底: 18.4 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:直線状にやや外傾して立ち上がる/ 口端面平坦 体部:寸胴形 底部:平坦	外:回転ナデ/シャープ/底部 ナデ 内:回転ナデ	第II区域 H30 第III区域 I34 外:口縁部降灰
29	土師器 小皿	口: 6.0 高: 1.5 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:丸底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/白色化粧土/底部 ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第II区域 A28 - 30
30	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.5 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 I34 片口状に歪む
31	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.4 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	区域不明 片口状に歪む
32	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.4 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第III区域 I34 片口状に歪む
33	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.5 底: 2.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第I区域 I26 片口状に歪む
34	土師器 小皿	口: 6.9 高: 1.5 底: 2.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第III区域 G34 片口状に歪む

3. 遺物

第9表 第113次調査出土遺物観察表(PL.72~76 第73~82図)

包含層出土陶磁器類(PL.72~73 第73~76図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点
						備考
35	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 丸底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 R27 片口状に歪む
36	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.8 底: 2.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 H34 片口状に歪む 外・内: スス付着
37	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.7 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第IV区域 T34 片口状に歪む 外・内: スス付着
38	土師器 小皿	口: 7.3 高: 1.7 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第IV区域 T34 片口状に歪む 外・内: スス付着
39	土師器 小皿	口: 7.3 高: 1.7 底: 2.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 T34 片口状に歪む
40	土師器 小皿	口: 7.0 高: 1.7 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 E33 片口状に歪む
41	土師器 小皿	口: 7.2 高: 1.5 底: 2.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第I区域 T26 片口状に歪む
42	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.6 底: 2.3 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 凹底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第I区域 T26
43	土師器 小皿	口: 6.8 高: 1.6 底: 2.4 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第III区域 G34 片口状に歪む
44	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.0 底: 2.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 H34 片口状に歪む 口端部1/2スス付着
45	土師器 小皿	口: 9.4 高: 2.0 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 Q34 片口状に歪む 口端部スス付着
46	土師器 小皿	口: 9.4 高: 1.8 底: 4.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第I区域 I26 片口状に歪む
47	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 3.4 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第III区域 Q34 片口状に歪む 口端部3/4スス付着
48	土師器 小皿	口: 8.8 高: 2.0 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ヨコナデ	第II区域 D27
49	土師器 小皿	口: 9.5 高: 2.0 底: 3.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/ 口唇部は丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ヨコナデ	第I区域 N24

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点 備 考
50	土師器 小皿	口: 9.6 高: 2.0 底: 4.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 V34 片口状に歪む 口端部1/2スス付着
51	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.3 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:やや外反して斜め外方へ立ち上 がる/口端部内側に段/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第III区域 R34 片口状に歪む 口端部スス付着
52	土師器 小皿	口: 9.3 高: 2.1 底: 3.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 G34 片口状に歪む 外・内:スス付着
53	土師器 小皿	口: 8.5 高: 1.9 底: 4.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 D34 片口状に歪む 口端部スス付着
54	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.9 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部～底部ナデ	第II区域 A27 口端部全周スス付着
55	土師器 小皿	口: 7.4 高: 1.9 底: 2.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 J26 片口状に歪む
56	土師器 小皿	口: 8.6 高: 1.9 底: 3.6 焼: 良好 色: 暗灰褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	区域不明 片口状に歪む
57	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.9 底: 4.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 Q35 片口状に歪む 口端部スス付着
58	土師器 小皿	口: 10.0 高: 2.2 底: 4.5 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部～体部ナデ・指頭 痕/底部未調整 内:口縁部～底部ナデ	第II区域 A24 外:スス付着
59	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.1 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部 丸く収める 底部:平底	外:口縁部～体部ナデ・指頭 痕/底部ナデ/体部にシダの押 印 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 T34
60	土師器 小皿	口: 9.1 高: 2.1 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部～体部ナデ・指頭 痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第IV区域 T34 片口状に歪む 内:スス付着
61	土師器 小皿	口: 8.8 高: 1.9 底: 4.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第III区域 F30 片口状に歪む
62	土師器 小皿	口: 10.6 高: 2.2 底: 6.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:凹底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第I区域 J24 片口状に歪む
63	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.2 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 A24 片口状に歪む 口端部3/4スス付着
64	土師器 小皿	口: 11.8 高: 2.3 底: 5.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部丸く収める/口端部段あり 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第II区域 A24 片口状に歪む 口端部1/3スス付着

3. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
65	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.3 底: 6.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して上方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第I区域 K26 片口状に歪む 外・内:スス付着
66	土師器 小皿	口: 8.0 高: 1.7 底: 3.5 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:内湾して斜め上方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第I区域 V24 片口状に歪む
67	土師器 小皿	口: 18.8 高: 2.1 底: 11.5 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや外反して上方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナデ/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	区域不明 外・内:底面黒色
68	土師器 耳皿	長: 5.1 幅: 2.2 高: 1.1 焼: 良好 色: 白褐色	極砂粒 軟質 1/2	口縁部:左右内側に屈曲/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第III区域 S35
69	土師器 羽釜	口: 10.0 高: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直上へ短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 受部:平滑/幅1.2cm 体部:ヘラナデ	外:口縁部~受部回転ナデ/体部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 後指頭痕	第I区域 U25
70	土師器 羽釜	口: 9.0 高: 8.3 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/5	口縁部:直上へ短く立ち上がる/口唇部は丸く収める 受部:平滑/幅1.1cm 体部:ナデ	外:口縁部~受部回転ナデ/体部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/体部ナデ 後指頭痕	第I区域 U26/V24 スス付着
71	瀬戸美濃 鉄釉 皿	高: 0.8 底: 5.0 焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/10以下	底部:碁笥底		区域不明 外:底部鉄釉露胎 内:鉄釉発色悪い
72	瀬戸美濃 鉄釉 瓶	高: 2.8 底: 14.0 焼: 良好 色: 赤茶色	軟質 1/1	胴部:下膨れ 底部:平底	外:体部下位回転ナデ/底部回転ヘラケズリ 内:体部下位回転ナデ	第III区域 I32 外:体部下位露胎
73	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.2 高: 6.5 底: 4.6 焼: 良好 色: 黒茶色	軟質 2/3	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部で上方に屈曲後外反/口唇部は短く外傾し丸く収める 底部:蛇の目高台	外:口縁部~体部下位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ/シャープ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第II区域 G26 外:体部下位露胎
74	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 12.0 高: 6.0 焼: 良好 色: 濃茶黒色	軟質 1/6	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端部で上方に屈曲/口唇部は短く外傾し丸く収める 底部:蛇の目高台	外:口縁部~体部下位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ/シャープ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第III区域 E33 外:体部下位露胎
75	瀬戸美濃 鉄釉 天目碗	口: 11.0 高: 5.2 底: 5.0 焼: 良好 色: 茶黒色	軟質 1/8	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部で上方に屈曲/口唇部は外傾し丸く収める	外:口縁部~体部下位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ/シャープ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第I区域 T25 外:体部下位露胎
76	瀬戸美濃 鉄釉 茶入	高: 5.6 最: 10.0 焼: 良好 色: 褐色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に短く上方へ立ち上がる 胴部:上位で張る 底部:蛇の目高台	外:回転ナデ 内:回転ナデ	第III区域 G32
77	瀬戸美濃 鉄釉 香炉	口: 11.0 高: 3.0 底: 3.0 焼: 良好 色: 黒色	精緻 1/10以下	体部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる/ 口端部平坦/口端部外側突出	外:回転ナデ 内:回転ナデ	第III区域 F32 外:発色悪い 内:体部露胎
78	瀬戸美濃 鉄釉 香炉	口: 14.6 高: 7.3 底: 12.6 焼: 良好 色: 黒茶色	堅緻 1/5	口縁部:外傾して立ち上がる/口端部で外方に屈曲/口唇部は丸く収める 体部:短く内湾して立ち上がる 底部:3脚	外:口縁部押圧波状文・押圧平行線/シャープ/体部回転ヘラケズリ 内:口縁部~体部下位回転ナデ	第III区域 P35 外:体部下位~底部露胎
79	瀬戸美濃 鉄釉 托	高: 2.6 最: 8.4 底: 4.6 焼: 良好 色: 黒色	軟質 1/8	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:上位に突帯/削出高台	外:回転ナデ/突帯回転ヘラケズリ 内:回転ナデ	第III区域 D32 外:体部下位~底部露胎
80	灰釉 小皿	口: 11.0 高: 2.2 底: 5.8 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 3/4	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端部で上方に屈曲後外反/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内:口縁部回転ナデ	第II区域 E27
81	灰釉 碗	口: 10.2 高: 2.7 底: 2.7 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して上方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 体部:腰部で内湾する	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ/陰刻花卉	第I区域 U29

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
82	灰釉 小皿	高: 2.2 底: 6.4 焼: 良好 色: 透灰緑色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:回転ナデ 内:回転ナデ/底面トチン4	区域不明 外:高台端面露胎
83	灰釉 捏鉢	焼: 良好 色: 白色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側受口状	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ	区域不明 G24 内・外:体部露胎
84	灰釉 捏鉢	口: 29.0 高: 3.7 焼: 良好 色: 明灰色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側受口状	外:回転ナデ 内:回転ナデ	第IV区域 W34 内:体部下位露胎
85	灰釉 卸皿	口: 10.2 高: 2.2 底: 4.8 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/2	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口端部 は丸く収める 底部:平坦	外:口縁部～体部回転ヘラケ ズリ/底部右回転糸切り痕 内:口縁部～体部回転ナデ/底 部卸目	第II区域 I25 外:体部灰釉露胎
86	灰釉 卸皿	口: 13.8 高: 3.0 焼: 良好 色: 灰白色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口 端部やや外傾/口端部内側に段/口端部は丸 く収める	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ/底 部卸目	第II区域 C25 外:体部～底部露胎
87	灰釉 碗	口: 12.4 高: 4.3 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して上方へ立ち上がる/口 端部やや外傾/口唇部は丸く収める 体部:腰部で内湾する	外:口縁部回転ナデ/体部回転 ヘラケズリ 内:口縁部回転ナデ	第III区域 R34
88	灰釉 水指	高: 4.6 底: 8.6 焼: 良好 色: 淡緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	体部:直線状に外方へ立ち上がる 底部:平坦	外:体部下位回転ヘラケズリ/ 底部ナデ 内:体部下位回転ナデ	第III区域 L33 外:体部下位～底部露 胎
89	灰釉 瓶子	口: 6.0 高: 3.0 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に短く上方へ立ち上がる/口 端部外側突帯/口唇部は丸く収める	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ	第III区域 G35
90	灰釉 瓶子	口: 4.2 高: 3.0 焼: 良好 色: 灰緑色	極砂粒 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に短く上方へ立ち上がる/口 端部平坦	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ	第I区域 U25
91	灰釉 香炉	高: 4.0 底: 7.9 焼: 良好 色: 灰緑色	堅緻 1/4	体部:外傾して立ち上がる 底部:碁笥底	外:体部中央条線3/シャープ 内:体部～底部回転ナデ	第I区域 V24 外:体部下位～底部露 胎
92	瓦質土器 瓦燈蓋	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	底部:内傾して上方へ立ち上がる/口端部平 坦	外:底部～体部回転ナデ/体部 下位に半菊花文押印めぐる 内:底部～体部回転ナデ	第III区域 E33
93	瓦質土器 花瓶	口: 11.4 高: 8.0 焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:外反して立ち上がる/口端部平坦	外:口縁部～頸部回転ナデ/シ ャープ 内:口縁部～頸部回転ナデ	第III区域 J35
94	瓦質土器 香炉	口: 9.4 高: 4.0 焼: 良好 色: 白色	極砂粒 軟質 1/10以下	口縁部:外傾して立ち上がる/口端部平坦	外:口縁部:回転ナデ/体部に2 個1組の雷文押印/シャープ 内:口縁部:回転ナデ	第III区域 M32
95	瓦質土器 火舎	焼: 良好 色: 暗灰褐色	極砂粒 軟質 1/10以下	体部:外反して立ち上がる	外:体部:ヘラ描き炎背3重円 文・×文がめぐる 内:ナデ	第I区域 W24
96	青磁 盤	口: 27.0 高: 3.8 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部 内側に段/口端部は外側に屈曲/口唇部は上 方に立ち上がり丸く収める	外:回転ナデ 内:回転ナデ/線刻蓮花文	第I区域 U25
97	青磁 碗	口: 10.8 高: 4.5 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める	外:体部に線刻蓮花文	第I区域 V25
98	青磁 碗	口: 13.6 高: 4.0 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める		第III区域 G34
99	青磁 皿	口: 13.0 高: 3.2 焼: 良好 色: 淡オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める	外:体部に線刻内行線3	第IV区域 T35
100	青磁 碗	高: 4.3 底: 4.6 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	体部:内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台		第II区域 E29 外:底部～高台端面露 胎

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
101	青磁碗	口: 13.6 高: 4.6 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部シャープ	第I区域 T26
102	青磁碗	口: 13.8 高: 4.6 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部シャープ	区域不明
103	青磁輪花皿	口: 11.6 高: 2.6 底: 6.4 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/6	口縁部:外反して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口唇部押圧して花卉状にする	外:口唇部を押圧して花卉状に成形/体部に花卉陰刻 内:体部に花卉陰刻	第II区域 A24 外:高台内側露胎
104	青磁稜花皿	口: 12.9 高: 2.5 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:外反して外方へ立ち上がる口唇部は丸く収め、切れ込みを入れ、緩い花卉状にする 体部:腰部で上方へやや屈曲	外:口唇部を押圧して花卉状に成形	第I区域 J25
105	青白磁輪花皿	口: 14.0 高: 2.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口唇部押圧して細かい花卉状にする	外:口唇部を押圧して花卉状に成形/体部に花卉陰刻	第II区域 G30
106	青磁皿	高: 1.1 底: 7.6 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:底部に呉須圏線2/中央に「大明口進」	第II区域 G26 外:高台端面露胎
107	青白磁皿	高: 2.1 底: 3.6 焼: 良好 色: 透白緑色	精緻 1/8	底部:削出高台		区域不明 漆継ぎ
108	青磁皿	高: 1.4 底: 5.8 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	底部:削出高台	内:底部に呉須圏線2/中央に陰刻蓮花文	第I区域 V24 外:底部～高台端面露胎
109	青磁水注	長: 5.8 径: 1.8 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/10以下	注口:内径1.2cm		第I区域 A28～30
110	青磁香炉	口: 7.2 高: 3.6 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/6	口縁部:やや外傾して立ち上がる/口端面平坦 体部:寸胴形	外:体部下位に陽刻算木文	第II区域 I25 内:体部下位露胎
111	青磁琮形瓶	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	体部:直方体	外:体部に陽刻算木文	第II区域 A22
112	白磁皿	口: 14.4 高: 3.8 底: 7.4 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部シャープ	第II区域 D25 外:高台端面露胎
113	白磁皿	口: 13.5 高: 3.4 底: 7.4 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部シャープ	第III区域 Q32/S33 外:高台端面露胎
114	白磁皿	口: 11.4 高: 2.8 底: 5.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部シャープ	第II区域 G26 外:高台端面露胎
115	白磁皿	口: 11.4 高: 2.4 焼: 良好 色: 淡オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める	外:口縁部シャープ/褐釉	第II区域 G26
116	白磁輪花皿	口: 11.8 高: 2.7 底: 6.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は棒状工具で押圧/緩い花卉状にする 底部:削出高台	外:体部に鏤状蓮花文 内:体部に鏤状蓮花文	第I区域 V25 外:高台端面露胎
117	白磁輪花皿	口: 10.2 高: 1.5 焼: 良好 色: 透白緑色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は棒状工具で押圧/緩い花卉状にする	外:体部に陰刻蓮花文 内:体部に陰刻蓮花文	第II区域 G26/D25
118	白磁輪花皿	口: 10.0 高: 2.2 底: 4.9 焼: 良好 色: 透白緑色	精緻 1/3	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は棒状工具で押圧/緩い花卉状にする 底部:削出高台	外:体部に陰刻蓮花文 内:体部に陰刻蓮花文	第II区域 G26/B22

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形 状	調 整 / 文 様	出土地点 備 考
119	白磁 輪花皿	口: 8.4 高: 2.0 焼: 良好 色: 透白緑色	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は棒状工具で押圧/緩い花弁状にする	外:体部に陰刻蓮花文 内:体部に陰刻蓮花文	第II区域 G26
120	白磁 稜花皿	口: 12.3 高: 3.0 底: 6.0 焼: 良好 色: 灰色	精緻 1/8	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部に押圧の切れ込み/緩い花弁状に成形 底部:削出高台	外:体部に花弁状の膨らみ 内:体部に花弁状の膨らみ	第II区域 A24 外:高台端面露胎
121	白磁 皿	口: 16.8 高: 3.4 底: 8.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部シャープ	第II区域 I25/B22 外:高台端面露胎
122	白磁 皿	高: 3.2 底: 11.4 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:口縁部シャープ/底部中央に「福」呉須印判	第II区域 I25 外:高台端面露胎
123	白磁 皿	高: 1.5 底: 9.2 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:底部中央に呉須文様	第II区域 I25 外:高台端面露胎
124	白磁 皿	高: 1.0 底: 11.8 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	底部:ベタ高台	内:底部中央に陰刻花文/シャープ	第II区域 B29
125	白磁 皿	高: 1.8 底: 9.0 焼: 良好 色: 灰色	精緻 1/10以下	底部:ベタ高台		第II区域 G26 外:高台端面露胎
126	白磁 皿	高: 1.8 底: 5.6 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	体部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部シャープ/底部中央に呉須圏線2	第II区域 A21 外:高台端面露胎
127	白磁 皿	高: 2.0 底: 8.2 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	底部:ベタ高台		第II区域 G26 外:高台端面露胎
128	白磁 杯	口: 7.4 高: 2.7 底: 3.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/6	口縁部:緩やかに外反して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口端部は波状 体部:多角形状に稜あり 底部:割り高台		第IV区域 V34 外:体部下位~高台端面露胎
129	白磁 香炉	高: 1.6 底: 4.5 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	体部:寸胴形 底部:周縁に脚3	外:底部の脚端面に切込2	第II区域 D25 外:高台下位露胎 内:底面露胎
130	白磁 杯	口: 6.8 高: 2.7 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める		第II区域 F25
131	白磁 杯	口: 6.6 高: 2.8 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/8	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める		第II区域 G26/F25
132	染付 碗	口: 13.0 高: 3.4 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須圏線2 内:口端部に圏線2	第I区域 V34
133	染付 皿	口: 13.0 高: 2.4 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須圏線1/ 体部に呉須唐草文・宝珠文 内:口端部に呉須圏線1	第II区域 G26/L25
134	染付 皿	口: 10.9 高: 2.5 底: 5.4 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部上位に呉須圏線2/ 体部に呉須草花文 内:口端部に呉須圏線2/底面周縁に呉須圏線1	第I区域 W24 高台端面露胎
135	染付 皿	口: 13.6 高: 3.0 底: 7.8 焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部上位に呉須圏線1/ 体部に呉須草花文・宝珠文 内:口端部に呉須圏線1/底面周縁に呉須圏線2/圏線内に呉須草花文	第II区域 G25 外:高台端面露胎
136	染付 皿	高: 1.8 底: 8.0 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	体部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部下位に呉須変形唐草文/高台に呉須圏線3 内:体部にアラベスク文/底面周縁に圏線2/中央にアラベスク文	第I区域 W24 高台端面露胎

3. 遺物

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点
						備考
137	染付皿	高: 1.1 底: 7.6 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/4	底部: 削出高台	外: 高台に呉須圏線1 内: 底面周縁に呉須圏線2/中央に呉須玉抱き獅子文	第Ⅲ区域 G32 第Ⅱ区域 D25/G26 外: 高台端面露胎
138	染付皿	高: 1.1 底: 8.0 焼: 良好 色: 透白白色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台	外: 体部下位に呉須圏線1/高台に呉須圏線1 内: 底面周縁に呉須圏線2/中央に呉須玉抱き獅子文	第Ⅱ区域 G26 外: 高台端面露胎
139	染付皿	口: 8.8 高: 2.2 底: 4.6 焼: 良好 色: 透白白色	精緻 1/8	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台	外: 口縁部上位に呉須圏線1/体部に呉須草花文/体部下位~高台に呉須圏線3 内: 口端部に圏線1/底面周縁に圏線2/中央に呉須羯磨文	第Ⅳ区域 Y34 外: 高台端面露胎
140	染付皿	高: 1.2 底: 6.4 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台	内: 底面周縁に圏線2/中央に呉須花文	区域不明 外: 高台端面露胎
141	染付杯	口: 6.7 高: 2.7 焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める	外: 口縁部上位に呉須圏線1/体部に呉須草花文 内: 口端部に圏線1/底面周縁に圏線1	第Ⅲ区域 F32/D32
142	染付杯	高: 1.3 底: 2.6 焼: 良好 色: 透青白色	精緻 1/10以下	体部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台	外: 体部に呉須草花文/高台に呉須圏線1/底面に呉須印文 内: 底面周縁に圏線2/中央に呉須太湖石文	第Ⅰ区域 U29 外: 高台端面露胎
143	染付皿	高: 1.6 底: 4.4 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台	外: 体部下位に呉須圏線3/底面に呉須銘「宣徳年製」 内: 底面周縁に圏線2/中央に呉須花文	第Ⅰ区域 V24 外: 高台端面露胎
144	朝鮮白磁皿	高: 8.2 口: 2.0 底: 4.0 焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/10以下	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める 底部: 削出高台		第Ⅰ区域 O29 外: 底面~高台端面露胎
145	朝鮮白磁壺	高: 1.8 底: 9.0 焼: 良好 色: 暗灰色	精緻 1/10以下	底部: ベタ高台	外: 体部下位回転ヘラケズリ 内: 回転ナデ	第Ⅳ区域 T35
146	朝鮮白磁皿	高: 1.0 底: 4.4 焼: 良好 色: 透白灰色	精緻 1/10以下	底部: 割り高台	外: 底部墨痕	第Ⅲ区域 G33 外: 底面~高台端面露胎
147	朝鮮白磁碗	高: 1.1 底: 5.0 焼: 良好 色: 灰色	精緻 1/10以下	底部: 削出高台	内: 底部トチン	第Ⅰ区域 U29
148	朝鮮白磁皿	焼: 良好 色: 白灰色	精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める		第Ⅲ区域 I34
149	朝鮮壺	口: 9.6 高: 2.5 焼: 良好 色: 明灰色	精緻 1/10以下	口縁部: 上方へ短く外反して立ち上がる/口端部平坦	外: 口縁部ヨコナデ/シャープ 内: 口縁部ヨコナデ	第Ⅲ区域 K33
150	朝鮮碗	口: 17.0 高: 2.6 底: 良好 焼: 明灰褐色 色:	精緻 1/10以下	口縁部: やや外反して外方へ立ち上がる/口端部やや内傾/口唇部は丸く収める	外: 口縁部回転ナデ/シャープ 内: 口縁部回転ナデ	第Ⅱ区域 G25
151	朝鮮碗	口: 19.4 高: 2.7 底: 良好 焼: 淡灰茶色 色:	精緻 1/10以下	口縁部: やや外反して外方へ立ち上がる/口端部やや内傾/口唇部は丸く収める	外: 口縁部回転ナデ/シャープ 内: 口縁部回転ナデ	区域不明

第Ⅰ区域遺構出土土器(PL. 73・74 第77図)

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点
						備考
152	土師器小皿	口: 7.2 高: 1.9 底: 2.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部: やや内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部~体部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第Ⅰ区域 S26/SB5121
153	白磁杯	高: 1.9 底: 2.8 焼: 良好 色: 透白白色	精緻 1/8	体部: 内湾して斜め外方へ立ち上がる 底部: 削出高台		第Ⅰ区域 X29/SB5127

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
154	越前焼壺	口: 12.0 高: 11.0 最: 15.2 焼: 良好 色: 淡茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/8	口縁部:短く外反して開く/口唇部は丸く収める 胴部:下膨れ	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 内:回転ナデ後指頭痕	第I区域 Q31/SA5094
155	朝鮮製壺	口: 16.6 高: 2.6 焼: 良好 色: 淡灰茶色	精緻 1/10	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端部外・内側突出/口端部浅く凹む 胴部:上位で張る	外:口縁部回転ナデ/シャープ 内:口縁部回転ナデ	第I区域 Q31/SA5094
156	越前焼甕	口: 90.0 高: 46.5 最: 96.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/8	口縁部:外傾して短く屈曲/口端部平坦/口端部凹面 胴部:上位で張る/下位窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部上位「大」・格子文押印/胴部下位ヘラナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ・指頭痕	第II区域 G25/SK5100 - P1・2 B27/SS5090 A26
157	越前焼甕	口: 82.6 高: 47.0 最: 92.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:外傾して短く屈曲/口端部平坦/口端部下位突出 胴部:上位で張る/下位窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部上位「大」・格子文押印/胴部下位ヘラナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ・指頭痕	第II区域 H25/SK5100 - P4 G25
158	越前焼甕	口: 80.0 高: 18.0 最: 90.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/10以下	口縁部:外傾して短く屈曲/口端部平坦/口端部下位突出 胴部:上位で張る/下位窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部上位ヘラナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ・指頭痕	第II区域 H25/SK5100 - P2・P7
159	越前焼甕	高: 69.9 最: 98.6 底: 33.6 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/5	胴部:上位で張る/下位窄まる 底部:平坦	外:胴部ナデ/胴部上位～下位ヘラナデ 内:胴部ナデ・指頭痕	第II区域 H25/SK5100
160	越前焼甕	焼: 良好 色: 黒茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/5	口縁部:外傾して短く屈曲/口端部平坦/口端部下位突出 胴部:上位で張る/下位窄まる	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ/胴部上位「大」・格子文押印 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ・指頭痕	第II区域 H25/SK5100 - P5 I25
161	越前焼播鉢	口: 26.5 高: 7.9 底: 13.0 焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部平坦/口端部内側に浅い段 底部:平坦	外:口縁部回転ナデ/底部周縁に縄目痕/底面未調整/シャープ 内:体部回転ナデ/幅2.8cm・9条の卸目	第II区域 H25/SK5100 F25/SK6025 G26
162	瓦質土器火舎	焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 軟質 1/10以下	体部:内傾して立ち上がる	外:口縁部:口端部は上・下端を突線で区画/区画内に半菊花文押印 内:ナデ	第II区域 H25/SK5100
163	越前焼播鉢	口: 36.0 高: 14.1 底: 16.8 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側平坦/口唇部平坦/口端部内側に浅い段をもつ 底部:平坦	外:口縁部回転ナデ/底部周縁に縄目痕/底面未調整/シャープ 内:体部回転ナデ/幅2.7cm・9条の卸目/底面卸目	第II区域 H25/SK5100 - P9 第I区域 J25/SE5111 S26 外:体部下位スス付着・被熱
164	白磁稜花皿	口: 21.4 高: 2.2 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める/口端部に切れ込みを入れ、緩い花卉状にする	外:口縁部シャープ	第II区域 H25/SK5100 - P6 F26
165	白磁皿	口: 22.8 高: 4.3 底: 14.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部シャープ	第II区域 H25/SK5100 - P6 外:高台端面露胎
166	白磁皿	高: 3.6 底: 12.8 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	体部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる 底部:削出高台	外:体部シャープ	第II区域 H25/SK5100 外:高台端面露胎
167	白磁皿	口: 19.6 高: 3.7 底: 10.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部シャープ	第II区域 H25/SK5100 外:高台端面露胎
168	白磁皿	口: 19.4 高: 4.0 底: 8.8 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部シャープ	第II区域 H25/SK5100 - P6 I25 外:高台端面露胎
169	白磁皿	口: 16.3 高: 3.3 底: 9.4 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部シャープ/底部中央に呉須印判	第II区域 H25/SK5100 外:高台端面露胎

3. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
170	白磁皿	口: 11.0 高: 2.3 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める	外:口縁部シャープ	第Ⅱ区域 H25/SK5100-P4
171	青白磁皿	口: 11.2 高: 2.2 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める	外:口縁部シャープ	第Ⅱ区域 H25/SK5100-P5
172	染付皿	口: 13.6 高: 2.4 焼: 良好 色: 透灰白色	精緻 1/8	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須圏線1/ 体部に呉須唐草文・宝珠文 内:口端部に呉須圏線2/底部 周縁に呉須圏線1	第Ⅱ区域 H25/SK5100
173	染付皿	高: 2.2 底: 7.8 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	底部:削出高台	外:体部下位に呉須草花文/高 台に呉須圏線2 内:底面周縁に呉須圏線2/中 央に呉須玉抱き獅子文	第Ⅱ区域 H25/SK5100 外:高台端面露胎
174	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.2 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 4/5	口縁部:直線状に斜め上方へ立ち上がる/口 端部外反/口端部内側に段/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部未調整 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅱ区域 H28/SF5110 片口状に歪む 口端部1/2スス付着
175	染付 輪花皿	口: 9.6 高: 2.3 底: 4.8 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める/口唇部内側波 状	内:鎬状輪花文	第Ⅱ区域 F35/SE5099 外:口唇部褐釉
176	染付 碗	口: 12.8 高: 3.5 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部に呉須圏線/体部に 草花文 内:口縁部に呉須圏線2	第Ⅱ区域 F35/SE5099
177	青磁 碗	口: 11.0 高: 6.0 焼: 良好 色: オリーブ灰	精緻 1/3	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める	外:口縁部～体部に線刻蓮花 文がめぐる	第Ⅱ区域 F25/SK6025 G26/I25
178	青磁 稜花皿	口: 10.4 高: 2.7 底: 4.0 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収め、切れ込みを入れ、緩い花弁状 にする 底部:削出高台	外:口縁部～体部に陰刻蓮花 文 内:口縁部～体部に陰刻蓮花 文	第Ⅱ区域 F25/SK6025
179	青磁 皿	高: 1.3 底: 7.0 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	底部:削出高台	内:底部周縁に呉須圏線2/中 央に「大明年造」銘	第Ⅱ区域 F25/SK6025 外:高台端面露胎
180	白磁 香炉	口: 8.4 高: 6.7 底: 8.0 焼: 良好 色: 明灰白色	精緻 1/10以下	体部:寸胴形 底部:平坦	外:口縁部～体部回転ナデ 内:口縁部～体部回転ナデ	第Ⅱ区域 F25/SK6025 外:底面露胎
181	白磁 皿	口: 12.6 高: 2.9 底: 6.3 焼: 良好 色: 明灰色	精緻 1/6	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口端部は外反する/口唇部は丸く収める 底部:削出高台	外:口縁部シャープ	第Ⅱ区域 F25/SK6025 G26 外:底面～高台端面露 胎
182	染付 皿	口: 28.0 高: 6.0 底: 11.0 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収め る	外:口縁部上位に呉須圏線2・ 唐草文/体部に呉須草花文 内:口縁部にアラベスク文/底 面に圏線2・中央に呉須文様	第Ⅱ区域 F25/SK6025 G26 外:高台端面露胎
183	染付 碗	口: 12.6 高: 4.3 焼: 良好 色: 明白色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して外方へ立ち上 がる/口唇部は丸く収める	外:口縁部上位に呉須圏線1/ 体部に陰刻花文 内:口端部に菱文・十字文の 組合せ文	第Ⅱ区域 F25/SK6025
184	染付 皿	口: 12.8 高: 3.0 底: 6.4 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収め る	外:口縁部上位に呉須圏線2/ 体部に呉須草花文・宝珠文/ 高台に圏線2 内:口縁部に呉須圏線2/底部 周縁に呉須圏線2	第Ⅱ区域 F25/SK6025 G26 外:高台端面露胎
185	染付 皿	口: 14.8 高: 3.0 底: 8.6 焼: 良好 色: 透白青色	精緻 1/10以下	口縁部:緩やかに内湾して斜め外方へ立ち 上がる/口端部やや外反/口唇部は丸く収め る 底部:削出高台	外:口縁部上位に呉須圏線1/ 体部に呉須草花文・宝珠文/ 高台に圏線2 内:口縁部に呉須圏線2/底部 周縁に呉須圏線2	第Ⅱ区域 F25/SK6025 外:高台端面露胎

第Ⅲ区域遺構出土土器(PL.74 第78図)

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
186	青磁 香炉	口: 9.0 高: 4.0 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/6	口縁部:口端部内側突出 体部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる	外:口縁部に条線2体部中位に 条線3 内:回転ナデ	第Ⅲ区域 B33/SS5090
187	青磁 皿	口: 13.0 高: 3.1 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/10以下	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部 で外反/口唇部は丸く収める		第Ⅲ区域 B23~29/SS5090
188	越前焼 壺	口: 14.0 高: 8.0 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:外傾して開く/口端部は丸く収める	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ /シャープ 内:回転ナデ後指頭痕	第Ⅲ区域 SS2952 外:胴部降灰
189	鉄釉 壺	口: 10.2 高: 5.5 焼: 良好 色: 黒茶色	微砂粒 白色粒子 軟質 1/10	口縁部:内傾して立ち上がる/口端部外側突 出 胴部:胴部中位で張る	外:口縁部~胴部回転ナデ/シ ャープ/胴部上位耳痕 内:胴部回転ナデ	第Ⅲ区域 SS2952
190	越前焼 播鉢	口: 35.0 高: 10.4 底: 16.0 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面平坦/ 口端部内側に段 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に罫目 痕/底面摩耗/シャープ 内:回転ナデ/幅2.0cm・10条 の罫目/体部下位~底部摩耗	第Ⅲ区域 W32/SS2952 内:スス付着
191	越前焼 播鉢	口: 22.8 高: 9.3 底: 11.6 焼: 良好 色: 赤茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部上方に 屈曲/口端面平坦/口端部内側に凹線 底部:平坦	外:回転ナデ/底面ナデ/シャ ープ 内:回転ナデ/幅2.5cm・8条の 罫目	第Ⅲ区域 U32/SS2952
192	越前焼 壺	口: 10.0 高: 8.8 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/6	口縁部:外傾して開く/口端部平坦	外:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ /シャープ 内:回転ナデ後指頭痕/ベンガ ラ痕	第Ⅲ区域 SS2952 外:胴部自然釉
193	越前焼 甕	口: 47.0 高: 25.0 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面平坦 /口縁部中央に稜 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ 内:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ・指頭痕	第Ⅲ区域 SS2952 外:胴部自然釉
194	青磁 香炉	口: 9.0 高: 5.6 底: 7.4 焼: 良好 色: オリーブ	精緻 1/2	口縁部:寸胴形/直線状に上方へ立ち上がる /口端部内側突出/口端部は平坦 体部下位:周縁に直方体の脚 底部:削出高台	外:回転ナデ/稜が口端部、体 部中位・下位にめぐる 内:回転ナデ	第Ⅲ区域 R32/SS2952 外:底部~高台端面露 胎 内:体部下位露胎
195	朝鮮製 碗	焼: 良好 色: 灰色	精緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/口唇部 は丸く収める		第Ⅲ区域 W32/SS2952 外:胴部自然釉
196	備前焼 角形 掛花生	口: 5.6 高: 14.0 焼: 良好 色: 暗灰茶色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/2	口縁部:直線状に外傾して立ち上がる/口唇 部は丸く収める 底部/角状に湾曲して窄まる	外:口縁部~胴部ヘラクスリ 内:口縁部~胴部ナデ	第Ⅲ区域 U32/SS2952
197	土師器 小皿	口: 6.6 高: 1.4 底: 2.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部~底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 R33/SA5130 片口状に歪む
198	土師器 小皿	口: 9.8 高: 2.0 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:やや内湾して斜め外方へ立ち上 がる/口端部外傾/口唇部丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 R33/SA5130 片口状に歪む 口端部スス付着
199	土師器 小皿	口: 9.0 高: 2.0 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 S33/SA5130 片口状に歪む 口端部スス付着
200	土師器 小皿	口: 9.2 高: 1.9 底: 3.3 焼: 良好 色: 淡橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 R33/SA5130 片口状に歪む 口端部1/2スス付着
201	土師器 小皿	口: 9.2 高: 2.2 底: 3.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部内側に段あり/口唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 R33/SA5130 片口状に歪む 口端部全周スス付着
202	土師器 小皿	口: 10.4 高: 2.5 底: 5.0 焼: 良好 色: 橙色	極砂粒 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 唇部は丸く収める 底部:平底	外:口縁部ヨコナデ/体部ナ デ・指頭痕/底部ナデ 内:口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 S33/SA5130 片口状に歪む 口端部一部スス付着

3. 遺物

単位:cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整/文様	出土地点 備考
203	越前焼 広口壺	口: 26.8 高: 7.0 焼: 良好 色: 灰黒色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:外方へ短く屈曲/口端部平坦 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 後指頭痕	第Ⅲ区域 S33/SA5130
204	越前焼 播鉢	焼: 良好 色: 明茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面丸く収 める/口端部内側に凹線	外:口縁部回転ナデ/体部中位 回転ヘラケズリ 内:回転ナデ/幅2.8cm・9条の 卸目	第Ⅲ区域 S33/SA5130
205	越前焼 播鉢	口: 39.0 高: 13.6 底: 15.4 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/6	口縁部:直線状に外方へ開く/口端部内側に やや屈曲/口端面平坦/口端部内側に凹線	外:回転ナデ/体部下位ヘラナ デ/底部摩擦 内:回転ナデ/底面ナデ・摩擦 /幅2.5cm・11条の卸目	第Ⅲ区域 S33/SA5130
206	越前焼 壺	口: 12.4 高: 6.0 焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:外方へ短く屈曲/口端部平坦 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 後指頭痕	第Ⅲ区域 S33/SA5130 外:降灰
207	越前焼 甕	口: 43.0 高: 25.0 焼: 良好 色: こげ茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/10以下	口縁部:短く上方へ立ち上がる/口端面は平 坦/口縁部中央に稜2/口端部内側に段 胴部:上位で張る	外:口縁部ヨコナデ/胴部上位 ナデ/シャープ 内:口縁部ヨコナデ/胴部ナデ 後指頭痕	第Ⅲ区域 I32/SA5136 第Ⅱ区域 B21/SS5090 外:自然釉
208	越前焼 甕	焼: 良好 色: 淡茶褐色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下		外:胴部ナデ/ヘラ記号 内:胴部ナデ	第Ⅲ区域 G32/SA5136
209	越前焼 卸皿	口: 16.6 高: 3.6 底: 10.8 焼: 良好 色: 濃こげ茶色	微砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下	口縁部:直線状に短く外方へ立ち上がる/口 端部平坦 底部:平坦	外:回転ナデ/底部ナデ/シャ ープ 内:回転ナデ/幅2.6cm・8条の 卸目	第Ⅲ区域 I32/SA5136 内:自然釉
210	朝鮮製 壺	口: 8.0 高: 4.0 焼: 良好 色: 灰色	精緻 1/4	口縁部:短く外反して上方へ立ち上がる/口 端部端面	外:口縁部回転ナデ 内:口縁部回転ナデ	第Ⅲ区域 H32/SA5136
211	越前焼 壺	高: 18.8 最: 19.8 焼: 良好 色: こげ茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/2	頸部:窄まる 胴部:上位で張る 底部:平坦	外:胴部回転ナデ後ナデ/底部 未調整 内:回転ナデ後指頭痕/底部ナ デ	第Ⅲ区域 D32/SA5138 外:胴部上位自然釉
212	越前焼 捏鉢	口: 35.2 高: 9.0 底: 16.6 焼: 良好 色: 暗灰色	極砂粒 白色粒子 堅緻 4/5	口縁部:直線状に外方へ開く/口端面やや平 坦/口端部内側に段 底部:平坦	外:回転ナデ/体部下位に縄目 痕/底面未調整/シャープ 内:回転ナデ/波状卸目1	第Ⅲ区域 D35/SE5139 片口に歪む 外:降灰
213	越前焼 播鉢	口: 31.0 高: 12.6 底: 16.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 3/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端面平坦/口端部内側に浅い凹線 底部:平坦	外:口縁部回転ナデ/底部周縁 に縄目痕/底面摩擦/シャープ 内:体部回転ナデ/幅2.9cm・ 10条の卸目/底面卸目	第Ⅲ区域 D35/SE5139 片口に歪む
214	越前焼 捏鉢	口: 24.6 高: 8.2 底: 14.0 焼: 良好 色: 灰色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端面平坦 底部:平坦	外:口縁部回転ナデ/底部周縁 に縄目痕/底面未調整/シャ ープ 内:体部回転ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139
215	越前焼 播鉢	口: 39.0 高: 17.8 底: 17.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端面平坦/口端部内側に凹線 底部:平坦	外:口縁部回転ナデ/底部周縁 に縄目痕/底面摩擦/シャープ 内:体部回転ナデ/幅2.5cm・8 条の卸目/口縁部扇状卸目/底 面卸目	第Ⅲ区域 D35/SE5139
216	越前焼 播鉢	口: 43.0 高: 16.8 底: 20.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/4	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端部上方へ屈曲/口端面凹む/口端部内側に 段 底部:平坦	外:口縁部回転ナデ/底部周縁 に縄目痕/底面摩擦/シャープ 内:体部回転ナデ/幅2.8cm・9 条の卸目/底面卸目	第Ⅲ区域 D35/SE5139 外・内:赤色化粧土
217	越前焼 播鉢	口: 42.0 高: 15.6 底: 19.6 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/2	口縁部:直線状に斜め外方へ立ち上がる/口 端面平坦/口端部内側に凹線 底部:平坦	外:口縁部回転ナデ/底部周縁 に縄目痕/底面摩擦/シャープ 内:体部回転ナデ/幅2.2cm・8 条の卸目/体部下位摩擦	第Ⅲ区域 D35/SE5139
218	越前焼 壺	高: 13.8 最: 29.2 底: 20.0 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 白色粒子 堅緻 1/8	胴部:やや内湾して上位で張る 底部:平坦	外:胴部回転ナデ後ナデ/底部 未調整 内:回転ナデ後指頭痕/底部ナ デ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 L31/SS2952

単位: cm

No	器種	法量/焼成/色調	胎土 残存	形状	調整 / 文様	出土地点 備考
219	越前焼壺	焼: 良好 色: 褐色	極砂粒 白色粒子 精緻 1/10以下		外: 胴部回転ナデ/ヘラ記号 内: 回転ナデ後指頭痕	第Ⅲ区域 D35/SE5139
220	越前焼掛花生	口: 7.9 高: 6.3 厚: 4.0 焼: 良好 色: 濃赤茶色	極砂粒 白色粒子 軟質 1/5	口縁部: 断面半円形/直線状にやや内傾して立ち上がる/口端部平坦	外: 口縁部~体部回ナデ/体部上位に突起5/体部上位を鋸歯文で区画/シャープ 内: 体部ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139
221	土師器小皿	口: 8.7 高: 2.0 底: 4.0 焼: 良好 色: 橙褐色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段/口唇部丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部~底部ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 片口状に歪む
222	土師器小皿	口: 8.2 高: 2.1 底: 2.5 焼: 良好 色: 橙赤色	極砂粒 軟質 1/1	口縁部: 直線状に斜め外方へ立ち上がる/口端部内側に段/口唇部丸く収める 底部: 平底	外: 口縁部ヨコナデ/体部ナデ・指頭痕/底部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ/底部ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 片口状に歪む
223	鉄釉壺	口: 12.0 高: 3.4 焼: 良好 色: 黒色	微砂粒 白色粒子 堅緻 1/10	口縁部: やや外反して立ち上がる/口端部平坦 胴部: 胴部上位で張る	外: 口縁部~胴部回転ナデ/シャープ 内: 胴部回転ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 内: 口縁部下位露胎
224	瀬戸美濃鉄釉天目碗	口: 11.5 高: 5.6 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 精緻 2/3	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端部は上方へ屈曲/口唇部は短く外反し丸く収める	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 外: 体部下位露胎
225	瀬戸美濃鉄釉天目碗	口: 11.4 高: 5.0 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 精緻 1/6	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端部は上方へ屈曲/口唇部は短く外反し丸く収める	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 外: 体部下位露胎
226	瀬戸美濃鉄釉天目碗	口: 7.0 高: 4.3 底: 2.2 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 精緻 1/8	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は短く外反し丸く収める 底部: 蛇の目高台	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 外: 体部下位露胎
227	瀬戸美濃鉄釉天目碗	口: 10.8 高: 6.0 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 精緻 1/6	口縁部: やや内湾して外方へ立ち上がる/口端部は上方へ屈曲/口唇部は短く外反し丸く収める	外: 口縁部~体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 外: 体部下位露胎
228	瀬戸美濃鉄釉天目碗	高: 5.0 底: 4.6 焼: 良好 色: 黒色	極砂粒 精緻 1/10以下	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる 底部: 蛇の目高台	外: 体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 外: 体部下位露胎
229	瀬戸美濃鉄釉天目碗	口: 11.1 高: 4.0 焼: 良好 色: 濃茶色	極砂粒 精緻 1/6	口縁部: 直線状に外方へ立ち上がる/口端部は上方へ屈曲/口唇部は短く外反し丸く収める	外: 体部中位回転ナデ/体部下位回転ヘラケズリ 内: 口縁部~体部下位回転ナデ	第Ⅲ区域 D35/SE5139 外: 体部下位露胎
230	青磁碗	焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/6	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる	外: 体部に鎬状蓮花文	第Ⅲ区域 D35/SE5139
231	青磁輪花皿	高: 1.5 底: 4.6 焼: 良好 色: 透オリーブ	精緻 1/6	底部: 削出高台	外: 体部に線刻蓮花文	第Ⅲ区域 D35/SE5139
232	白磁輪花皿	口: 11.6 高: 3.0 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10	口縁部: 内湾して外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める/口唇部押圧して花弁状にする	外: 口唇部を押圧して花弁状に成形/体部に花卉陽刻 内: 体部に花卉陰刻	第Ⅲ区域 D35/SE5139
233	華南系白磁皿	高: 1.4 底: 4.0 焼: 良好 色: 白色	精緻 1/10以下	底部: 割り高台		第Ⅲ区域 D35/SE5139 外: 底面~高台端面露胎 内: 底面トチン
234	染付皿	口: 14.0 高: 2.7 焼: 良好 色: 透白色	精緻 1/10以下	口縁部: 緩やかに内湾して斜め外方へ立ち上がる/口唇部は丸く収める	外: 口縁部上位に呉須圏線1 内: 口端部に呉須圏線1/底面周縁に呉須圏線1	第Ⅲ区域 D35/SE5139

金属製品(PL. 75 第80図)

単位: cm / g

単位: cm / g

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質	特徴	出土地点
235	鉄釘	8.6 1.0	0.6 6.2	1/1	鉄製品	釘頭巻込 断面方形	第Ⅰ区域 J25/SE5111
236	鉄釘	3.0 0.5	0.3 0.4	1/1	鉄製品	釘頭巻込 断面方形	第Ⅱ区域 F25/SK6025
237	鉄釘	15.0 1.7	1.0 61.4	1/1	鉄製品	釘頭平坦 断面方形	第Ⅲ区域 K32/SA5136

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質 色調	特徴	出土地点
238	鋸	5.8 2.4	0.7 10.5	1/2	鉄製品	両端欠損 断面方形	第Ⅲ区域 R33/SA5130
239	鉄釘	8.2 0.4	0.4 -	4/5	鉄製品	釘頭欠損 断面方形	第Ⅰ区域 J25/SE5111

3. 遺物

土製品(PL. 75 第80図)

単位: cm/g

単位: cm/g

No	器種	長 幅	厚 重	残存	材質 色調	特 徴	出土地点
240	土製円盤	7.0 6.0	1.6 —	1/8	青磁碗 オリーブ	底部周縁打欠 底面花文押印 /底部露胎	区域不明
241	土製円盤	6.0 6.0	2.3 —	1/8	青磁碗 濃オリーブ	底部周縁打欠 底面花文押印 /底部露胎	第I区域 W24/SA5095
242	土製円盤	6.0 5.9	1.0 —	1/8	灰釉皿 淡灰緑色	底部周縁打欠 底部露胎/墨書	第I区域 Q31/SA5094
243	土製円盤	7.0 4.4	1.6 —	1/8	鉄釉碗 天目茶碗 黒色	底部周縁打欠 底部露胎/ヘ ラ記号	第III区域 P32/SS2952
244	土製円盤	7.2 6.7	1.0 —	1/10 以下	越前焼 甕 暗茶色	周縁打欠	区域不明

木製品(PL. 75 第80図)

単位: cm/g

No	種類	法量(最大値)		残存	木取 樹種	特 徴	出土 地点
		長	高				
249	桶 側板	20.4	—	1/3	マツ属 複維管束 亜属	表面:手斧痕/右側面平滑/左側面欠損/上端面丸く加工/下端 面切断痕 裏面:鋸の引き痕	第II区域 A27
		11.1	1.5				
250	曲物 底板	24.8	—	2/3	板目 マツ属 複維管束 亜属	左欠損部断面に木釘2を打ち補修	第II区域 J25/SE5111
		14.3	1.1				
251	桶 底板	20.0	—	1/5	榎目 スギ	右側接合面に木釘2を打ち補修/表面周縁~背面周縁にかけ て断面を斜めに加工	第II区域 A27
		5.0	0.8				
252	柄杓	20.8	—	2/3	板目 クワ属	杓部断面長半円形/関部平滑/柄部先端鈍角に加工	第II区域 J25/SE5111
		8.0	1.2				
253	下駄	17.7	2.0	4/5	榎目 マツ属 複維管束 亜属	足板:上・下端面の左右は隅丸に成形/上端側に鼻緒孔として 径0.8cmの円孔を穿つ/歯部幅3.0cm・高さ0.6cm/背面左側 辺下位の踵部欠損 表面:木表・平滑 背面:木裏・平滑	第II区域 A27
		7.7	1.6				
254	下駄	17.8	4.2	1/2	芯持ち~板目 クリ	足板:歯部幅3.0cm・高さ2.4cm/背面歯部外側に1cm角の凹み /再利用の痕か 表面:木表・平滑 背面:木裏・平滑	第II区域 A27
		9.7	4.2				
255	ヘラ	6.5	—	1/2	— 竹亜科	形状:細板材	第II区域 A28
		0.8	0.3				
256	箸	8.9	—	1/1	芯去り スギ	形状:角柱材/下部部:削り加工/断面方形	第II区域 J25/SE5111
		0.4	0.4				
257	横槌	12.0	—	1/2	芯持ち	外:上端部:笠状/下部部:柄部欠損/片面扁平	第II区域 A27

石製品(PL. 75・76 第81・82図)

単位: cm/g

No	器種	法量(最大値)			石材 色調 材質	調 整・特 徴	備考	出土地点
		長 短	厚 重	残存				
258	石硯	12.4 6.8	1.1 —	4/5	粘板岩 暗赤茶色 硬質	形状:板状 額幅0.8cm、高さ1.2cm	全体平滑 凹:剥離	第II区域 A27
259	石硯	10.5 3.6	1.0 —	1/1	粘板岩 暗赤紫色 硬質	形状:板状 額幅0.3cm、高さ1.0cm	全体平滑 背面一部エグリ	第II区域 F25/SK6025
260	石硯	5.2 6.1	1.1 —	1/4	粘板岩 黒色 硬質	形状:板状 額幅0.5cm、高さ1.0cm	全体平滑 凹:欠損	第II区域 H30
261	石硯	7.1 6.8	1.2 —	1/4	粘板岩 黒色 硬質	形状:板状 高さ1.0cm	全体平滑/背面剥離 凹:欠損	区域不明 全面スス付着
262	砥石	6.7 4.1	2.0 —	1/2	凝灰岩 淡褐色 硬質	形状:柱状直方体/上端部欠損 砥面/表裏面・左右側面・下端面 断面長方形	砥面5 粒度:密 仕上げ砥/浄教寺砥石	第IV区域 W34
263	砥石	8.0 3.5	1.0 —	2/3	凝灰岩 淡黄褐色 硬質	形状:柱状直方体/上端部欠損 砥面/表面・左右側面・下端面 断面長方形	砥面4/背面剥離 粒度:密 仕上げ砥/浄教寺砥石	第II区域 A24
264	基石	4.3 3.0	1.2 29.2	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:楕円盤状/平滑/表面中央に擦痕		第II区域 A21
265	基石	2.8 2.3	1.6 16.5	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第II区域 C28/SF5097
266	基石	1.7 1.6	0.7 2.6	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第I区域 W32

No	器種	法量(最大値)			石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長短	厚重	残存				
267	基石	2.1 1.4	0.6 3.0	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状: 楕円状/平滑		第Ⅷ区域 G36/SD5176
268	基石	2.4 1.6	0.5 3.3	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第Ⅰ区域 O-X32/SS2952
269	基石	2.7 1.8	0.9 5.9	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第Ⅱ区域 C28/SF5097
270	基石	2.4 1.5	0.5 2.8	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第Ⅰ区域 O-X32/SS2952
271	基石	2.0 1.4	0.6 2.7	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状: 楕円状/平滑		第Ⅲ区域 E33
272	基石	1.8 1.6	0.5 2.2	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状: 楕円状/平滑		第Ⅱ区域 C28/SF5097
273	基石	2.1 1.8	0.7 3.6	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第Ⅲ区域 O31/SA5094
274	基石	1.9 1.7	0.7 3.6	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第Ⅲ区域 S33/SA5130
275	基石	1.9 1.8	0.7 2.9	1/1	頁岩 灰黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第Ⅰ区域 T26
276	基石	1.9 1.7	0.6 2.6	1/1	頁岩 黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第Ⅱ区域 F25
277	基石	1.8 1.5	0.6 2.2	1/1	頁岩 暗灰色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第Ⅱ区域 A21
278	基石	1.9 1.6	0.7 2.9	1/1	頁岩 暗灰色 硬質	形状: 円盤状/平滑		区域不明
279	基石	2.1 1.8	0.8 4.8	1/4	頁岩 暗灰色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第Ⅱ区域 C28/SF5097
280	バンドコ	幅22.8 高8.3	奥行 10.8	1/3	笏谷石 灰褐色 軟質	0形バンドコ/合子形 外: 幅1.5cm・長さ3.5cm以上の透孔7と推定 内: タタキ調整	全体平滑/高台楕円形	第Ⅱ区域 A27 スス付着
281	バンドコ 蓋	幅18.0 高3.4	奥行 14.5	2/3	笏谷石 暗灰色 軟質	0形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑	区域不明 外・内: スス付着
282	石盤	長21.3 高6.9	奥行 19.3	1/2	笏谷石 灰色 軟質	形状: 楕円形 外: 平滑/口縁部幅2.0cm/体部平滑/外底部平坦・タタキ	全体平滑/底面摩耗	第Ⅱ区域 A28・30 外・内: スス付着
283	石盤	長15.7 高8.8	奥行 12.5	1/2	笏谷石 淡青緑色 軟質	形状: 長方形 外: 平滑/口縁部幅1.6cm/体部平滑/外底部粗いタタキ/底部に高さ1.3cmの脚	全体平滑	第Ⅳ区域 W34
284	炉壇石	長32.5 高22.8	奥行 58.2	1/2	笏谷石 灰色 軟質	形状: 方形 外: 平滑/口縁部幅4.3cm/体部平滑/外底部粗いタタキ	全体平滑	区域不明
285	石臼 下臼	上20.0 下18.8	4.3 -	3/4	凝灰岩 白色 軟質	形状: 扁平円柱 上面: 主溝8分画・副溝9条/中央に1.8cm角の方形軸受孔を上下面から穿孔 下面: 下面は軸受穴を中心に凹面	被熱・摩耗	区域不明
286	茶臼 下臼	上17.5 最30.0 底28.7	8.8 -	1/3	斑晶質 安山岩 灰色 硬質	形状: 皿形扁平円柱 上面: 主溝8分画・副溝13条/中央に径1.6cmの軸受孔を上下面から穿孔/播面周縁に受部/幅5.5cm以上 側面: ハの字に踏ん張る底部に内湾して立ち上がる受部が付く/平滑 底部: 側面/平滑		第Ⅲ区域 O33
287	茶臼 下臼	上19.8 最38.4 底30.2	9.2 -	1/4	笏谷石 淡灰緑色 軟質	形状: 皿形扁平円柱 上面: 主溝8分画・副溝8条/中央に2.2cm角の方形軸受孔を上下面から穿孔/播面周縁に受部/幅9.3cm以上 側面: ハの字に踏ん張る底部に内湾して立ち上がる受部が付く/平滑 底部: 側面/平滑		区域不明

3. 遺物

単位:cm/g

No	器種	法量(最大値)			石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長 短	厚 重	残存				
288	茶臼 下臼	上19.5 最37.2 底27.3	9.2 -	1/10 以下	安山岩 暗灰色 硬質	形状:皿形扁平円柱 上面:播面周縁に受部/幅8.9cm 側面:ハの字に踏ん張る底部に内湾して立ち 上がる受部が付く/平滑 底部:側面/平滑		第Ⅲ区域 F32/SA5136
289	組合式 五輪塔 火輪	最27.8 底25.0	15.0 -	1/3	笏谷石 緑灰色 軟質	上面:方形/中央に径8.0cm・深さ5.4の接合孔 側面:全面平滑/四隅の高さ10.0cm/辺の中央 で高さ7.0cm底面:タタキ		第Ⅲ区域 032/SS2952
290	舟形 五輪塔	30.0 28.2	9.0 -	1/3	笏谷石 緑灰色 軟質	前面:頂部鈍角三角形/上端・左右側面に幅 4.0cm・高さ0.5~3.5cmの周縁帯 双立五輪塔陽刻/五輪塔の輪郭に朱漆痕/五輪 塔内に「南無妙」銘 背部:側面先端湾曲	下位欠損	区域不明
291	舟形 五輪塔	49.8 24.3	15.5 -	1/3	笏谷石 緑灰色 軟質	前面:頂部鈍角三角形 五輪塔陽刻/五輪塔内に「南無阿弥陀仏」銘 背部:側面先端湾曲	前面下位・背面:被熱・ スス附着	区域不明

銭貨(PL.76 第82図)

単位:cm/g

単位:cm/g

No	種 類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時 期	出土地点	No	種 類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時 期	出土地点
		径	厚	重						径	厚	重			
303	皇宋通宝 4998	2.45	0.14	1.5	4/5	北宋 初鑄1039年	第Ⅰ区域 U32	305	不明 4874	2.28	0.09	1.9	1/1	-	第Ⅳ区域 T35
304	洪武通宝 11641	2.27	0.18	2.2	1/1	北宋 初鑄1368年	区域不明	306	不明 11539	2.5	0.13	2.6	1/1	-	第Ⅱ区域 F25/SK6025

第118次調査出土遺物(PL.77~88 第83~100図 第10表)

第118次調査の遺物は、1~574を掲載した。内訳は、包含層出土土器1~238、第Ⅰ~Ⅲ区域の土器(陶磁器類)239~411、土製品412~418、金属製品419~443、石製品444~504、石塔505~519、木製品520~537、銭貨538~574、その他の遺物575~580である。出土土器の観察表は諸事情により掲載を断念した。第10表では土製品から銭貨までの詳細を記し、土器については別稿をもって掲載したい。

包含層出土土器(PL.76~79 第83~88図)

越前焼播鉢2は口径35.4cmを測り、内面に幅3.0cm・13条の卸目が入る。底部周縁に縄目痕が残る。3は体部がやや外反する。口径35.4cmを測り、内面に幅3.3cm・10条の卸目が入る。底面に三角状に卸目が入る。4は口径30.4cmを測り、内面に幅2.6cm・10条の卸目が入る。底面にも卸目が入る。鉢11は体部内面に弓矢状のへら記号が入る。壺8は胴部上位が張り、胴部外面に「E」状のへら記号が入る。9は口径27.4cm、器高47.2cmを測り、胴部外面に自然釉が厚くかかり、内面に指頭痕が多く残る。土師器小皿12~149は浅皿形C類、杯形C類が大半を占める。盤86は口径34.6cmを測る稀有な大型品である。体部内外面はミガキで調整する。灰釉皿輪花皿157は口端部を花卉状に成形する。鳥形水滴162は径4.9cm、器高2.8cmを測る。上面に鳥頭を意匠化した注口が付き、体部に羽を線刻する。鉄釉164は口径31.6cmを測る花瓶である。鉄釉天目茶碗166~173は口径11.0~12.0cmを測り、体部は直線状に外方へ開き、口端部で上方に屈曲して外反する。瓦質土器盤181は口径30.6cm、器高4.5cmを測り、体部はミガキ、内面はナデで調整する。風炉184は脚部が付く底部であり、周縁に突帯が3条めぐり、青磁稜花皿186は口径11.8cmを測り、口端部を押圧して花卉状に成形する。内面に草花文の線刻がある。盤195は口径26.8cmを測り、口端部内側に受部をもつ。内面には線刻蓮花文が入る。稜花盤196は口径30.4cmを測り、体部内外面に鎬状の花卉が入る。酒会壺蓋198は発芽状のツマミをもち、天井部外面に圏線と放射状の線刻を施す。内面中央に羯磨文を陰刻する。盤197は高台の破片であり、底部内面に豆粒状の文様を陽刻をする。琮形瓶202は方柱状の体部に算木文を陽刻する。燭台203は内外面施釉され、口端面に雲文を陽刻する。染付皿225~227は体部に呉須唐草文・宝珠文を描き、底部内面に呉須羯磨文を描く。碗233は口端部に呉須圏線を描き、体部に陰刻花文を施す。釉裏紅水注238

は稀少品であり、釉裏紅は第43次調査で鉢の破片として出土しているのみである。径2.0cmを測り、水柱の注口部に唐草文と三葉文を赤絵で描く。包含層から出土したが区域不明である。

第IV～VII区域遺構出土土器 (PL.79～81 第88～92図)

SS5994 出土 (PL.79 第88図) 越前焼突帯広口壺259は口径19.8cmを測り、胴部上位に断面三角形の突帯をもつ。白磁輪花皿264は口端部を花卉状に成形する。体部内外に鎬状花卉を入れる。底部外面に呉須圏線と「宣口口製」の銘が入る。染付皿265は口径10.0cmを測り、体部外面に呉須圏線と鳥足状変形唐草文を描き、底部内面にも圏線と鳥足状変形唐草文・風景文を描く。水注266は注口部が残存し、呉須文様を描く。

SB5970 出土 (PL.79 第89図) 青磁香炉280は底部周縁に三角形の脚が3方向に付き接地する。染付皿281は体部に呉須変形唐草文を入れ、内面にアラベスク文を入れる。緑釉鉢282は半球形を呈す。

SB5972 出土 (PL.79 第89図) 越前焼壺285は胴部に弓矢状のヘラ記号をもつ。土師器皿296・297は口径16.0cm前後を測る中型品である。羽釜298の受部には柵状のヘラ記号が入る。染付皿304は口径20.0cmを測り、体部に草花文、内面に変形唐草文が入る。

SE5962 出土 (PL.80 第90図) 越前焼壺323はお歯黒壺である。口縁部に片口が付き、胴部中位以下はヘラナデで調整する。青磁香炉326は口径9.2cm、器高7.0cmを測る。底部周縁に三角形の脚が3方向に付き接地する。底部中央の蛇の目高台は接地しない。染付碗327は口径12.2cm、器高5.7cmを測る。体部に呉須圏線と草花文を描き、底部内面にも呉須花文を描く。

SD5853 出土 (PL.80 第90図) 越前焼壺357は口径40.3cmを測り、口端部に段を有す。358は口径22.0cm、器高36.5cmを測る。口縁部外面に稜があり、胴部上位に自然釉がかかる。内面に指頭痕が残る。

SE5851 出土 (PL.80 第91図) 越前焼掛花生360は背面が平坦である。播鉢362は口径40.3cmを測り、体部下位に縄目痕が残る。鉄釉天目碗368は完形品であり、黄褐色の釉がかかる。体部下位は露胎する。青磁稜花皿369は口径12.4cmを測り、口端部を押圧して花卉状に成形する。内面に草花文を線刻する。

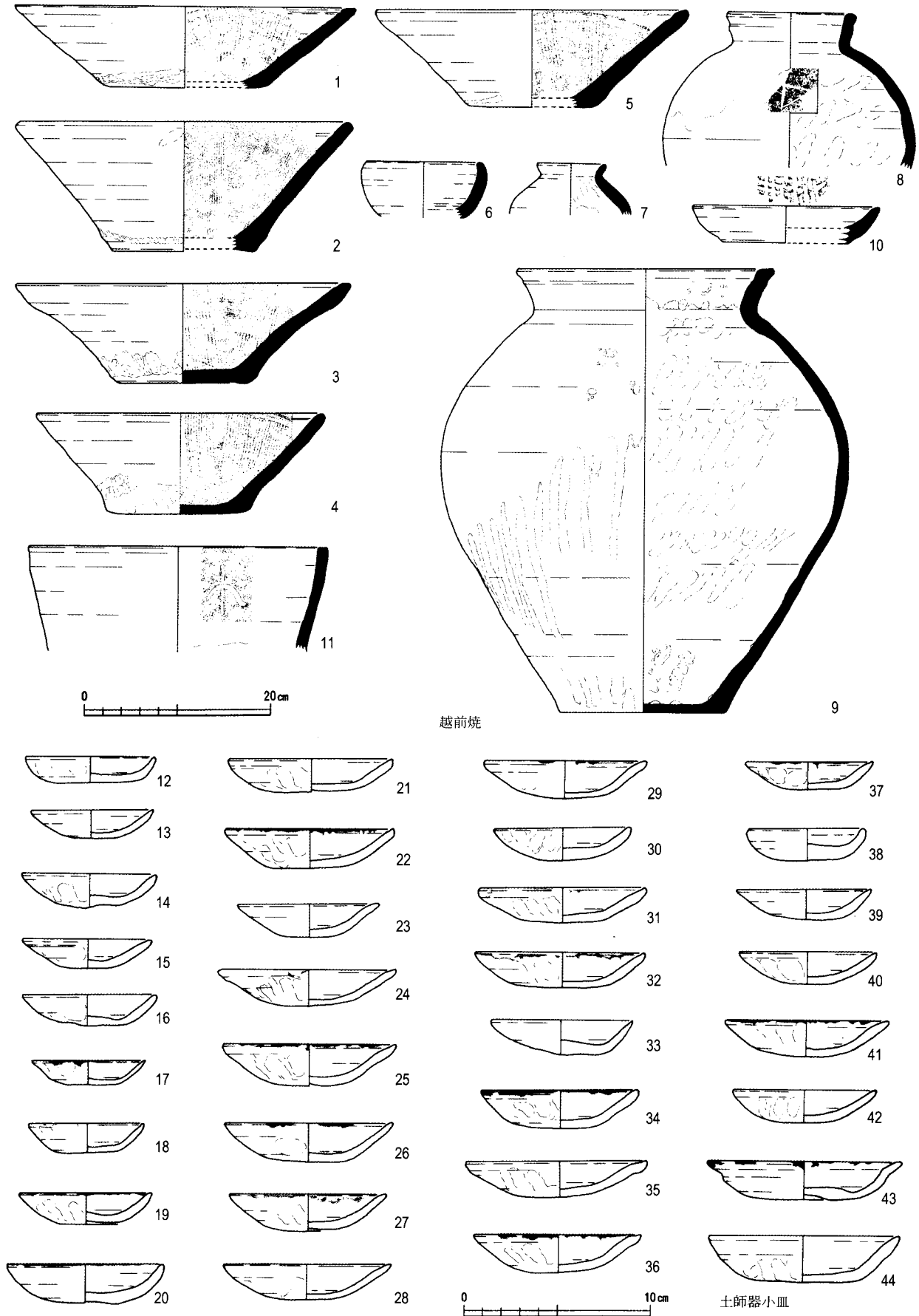
土製品 (PL.81 第92図) 陶錘412は須恵質である。土製円盤414は白磁皿の底部周縁を打欠している。415は越前焼甕の底部周縁を打欠している。鉄釉人形416は型押し成形品であり、寿老人と考える。

金属製品 (PL.81 第92図) 掛金具419は刃先が二又状に分かれて内側に屈曲する。目貫424は長さ4.4cm、幅1.0cmを測り、羽形を呈す。鉏426は銅板を巻いたものである。峯側に条線を有す。足金具427は鞘に嵌める金具であり、上端面に吊金具が付く。鍵441は長さ15.0cmを測り、上下端面が凹む。開閉金具442は長さ25.0cmを測り、楔状の金具の端に軸が付く。

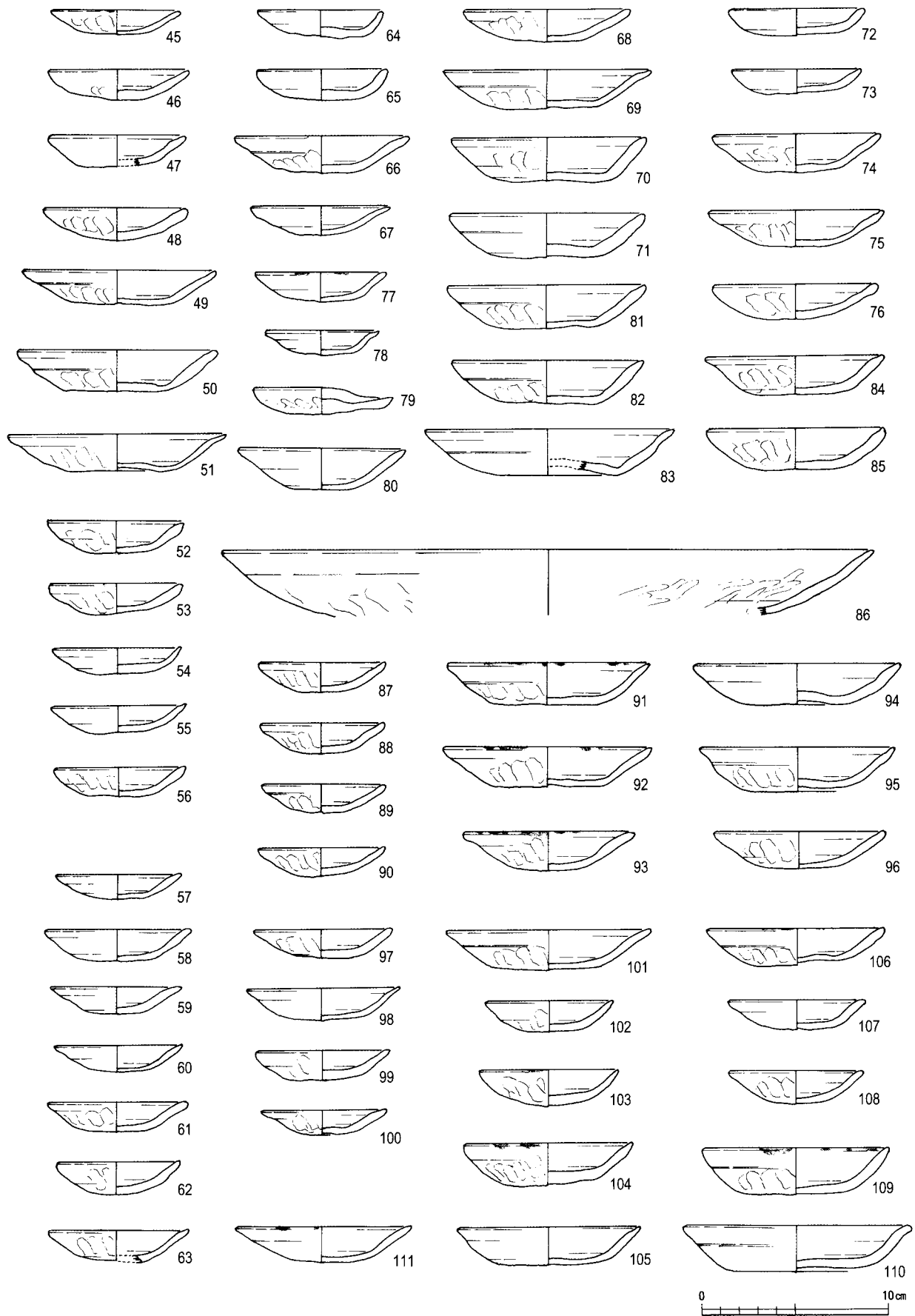
石製品 (PL.82 第93～97図) 石硯444は表面の岡が剥離するが、ほぼ外形をとどめる。舍利470は方柱状の白色の頁岩である。基石は453～469の17点が出土した。458・464の2点は数少ない頁岩製の白基石である。バンドコはD形の蓋が多く、471～476が出土した。内面はススが付着する。478・479・481・482はO形の蓋である。石鉢486は内面は平滑だか、外面に粗いタタキが残る。花立492は長さ40.3cm、高さ16.1cm、厚さ5.0cmを測る。右側に花瓶を陽刻する。花瓶上端面には径2.3cm、深さ5.0cmの孔を穿つ。493は石灯籠の火袋であり。三日月状の透孔をもつ。板石496・497・499・501・502は下端面がL字状に屈曲する井戸枠である。厚さが不均一な板石498・503・504は洗場の踏石と考える。石塔は505～519を資料化した。地輪に銘を刻む一石五輪塔が多い。舟形五輪塔518・519は五輪塔を陽刻し、南無阿弥陀佛と銘を刻む。

木製品 (PL.86 第100図) 漆器碗520は黒漆地であり、底部内面に朱漆で扇開文を描く。522も黒漆地で底部外面に朱漆で「八」を書く。釣瓶524～529は木釘で組み合わさる。

銭貨 (PL.87 第100・101図) 銭貨538～574の36枚が出土した。第V・VI区域から出土したのが多い。

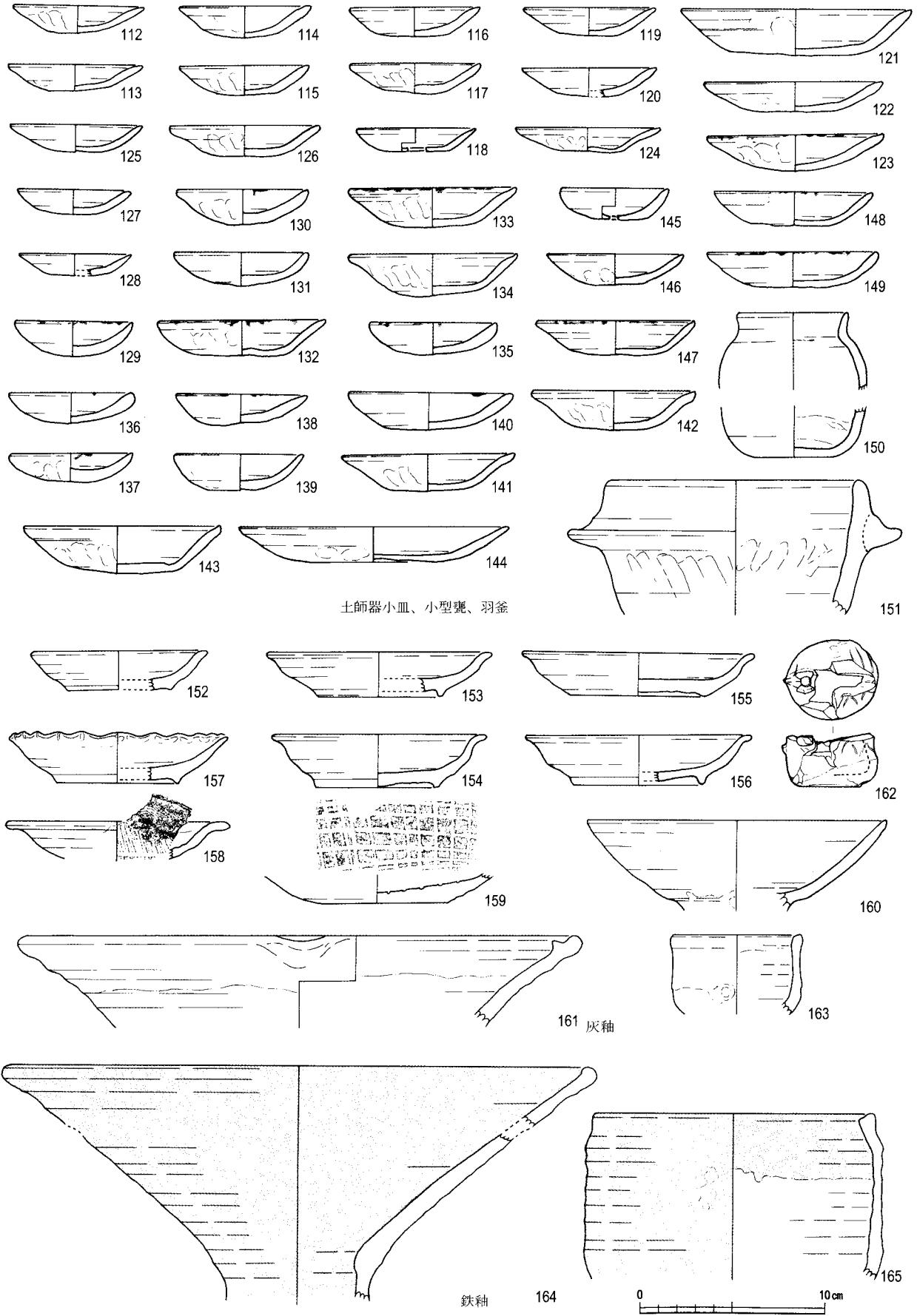


第 83 図 第 118 次調査 包含層出土土器(縮尺 1/3、1/6)

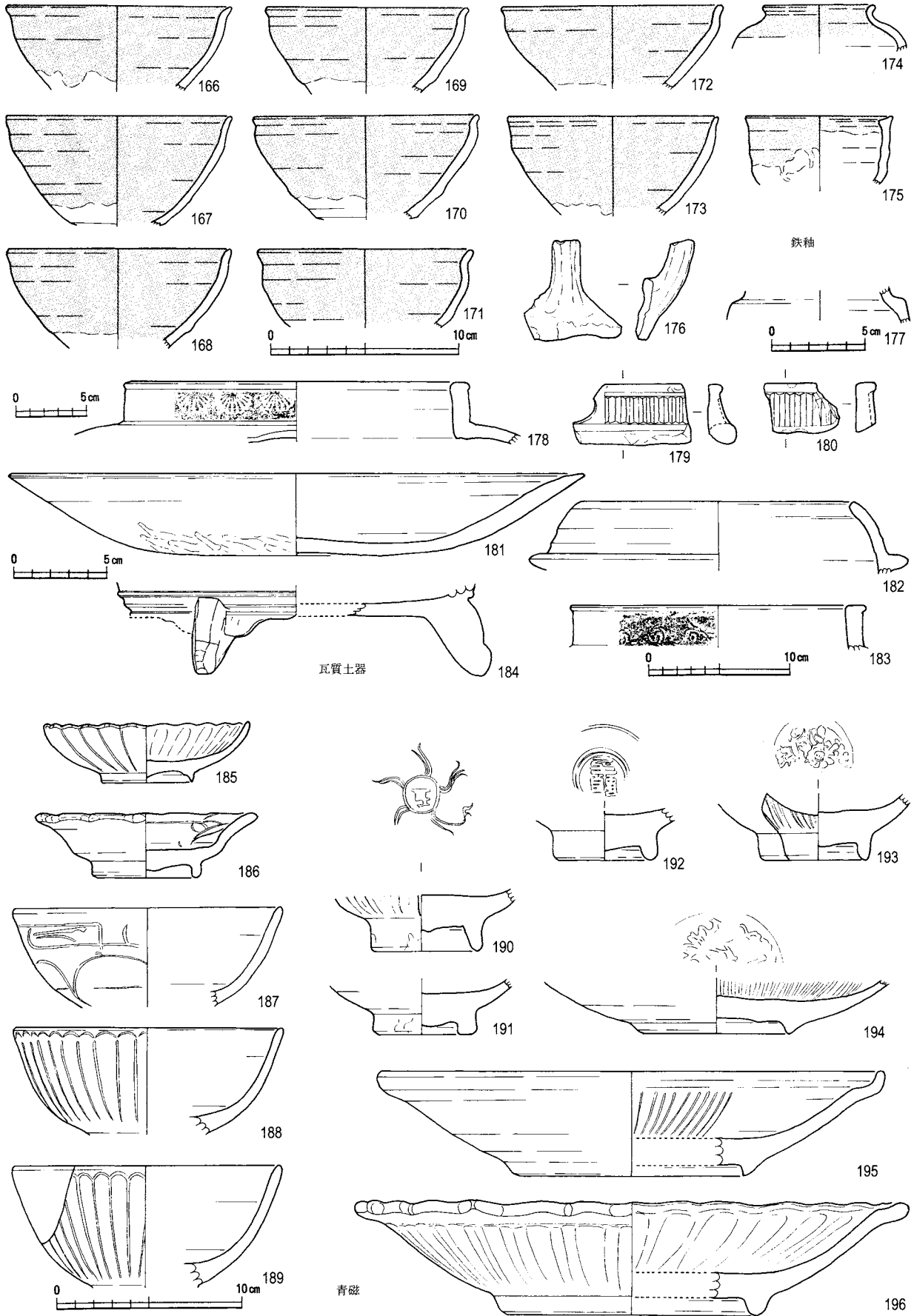


第 84 図 第 118 次調査 包含層出土土器(縮尺 1/3)

3. 遺物

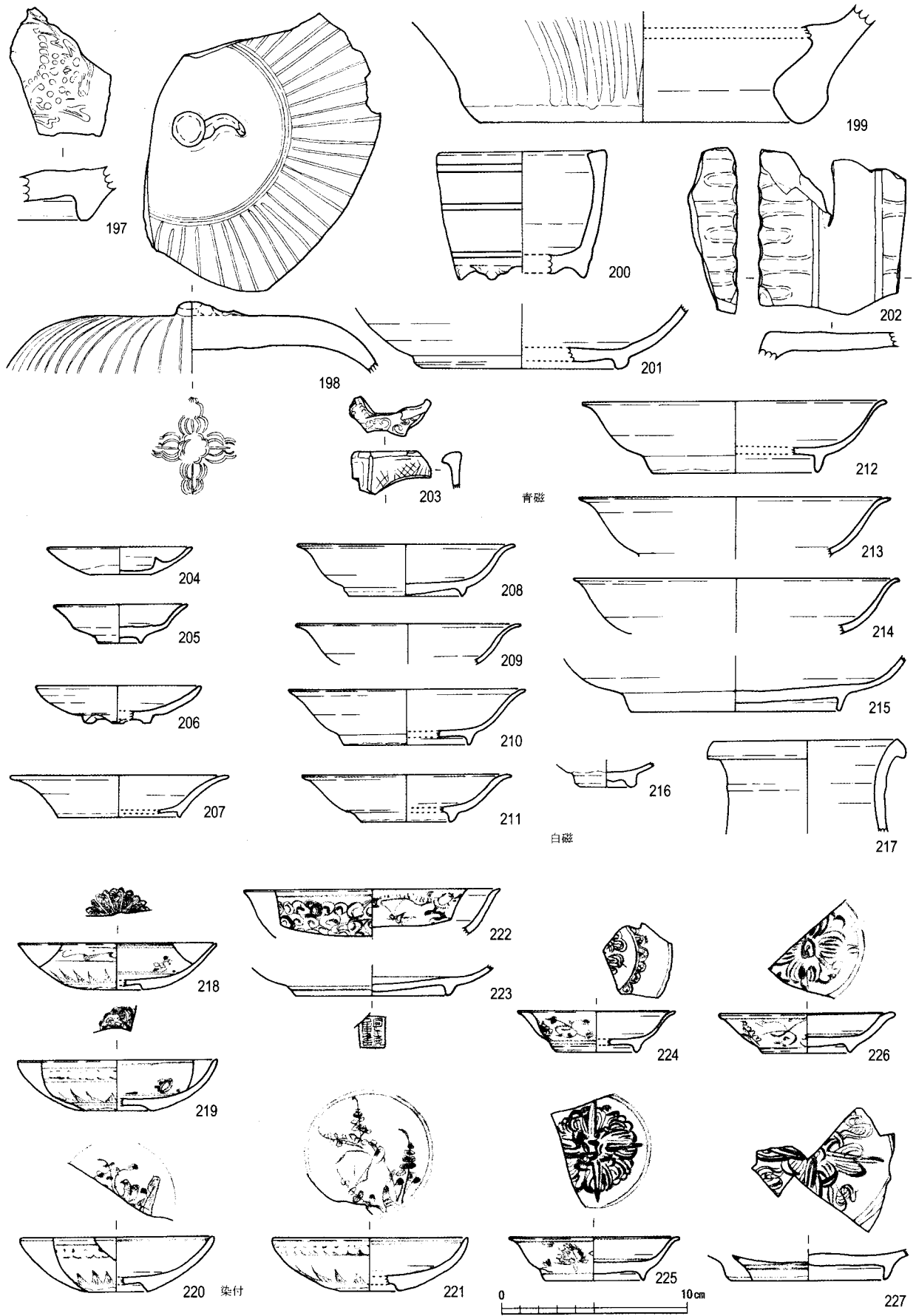


第 85 図 第 118 次調査 包含層出土土器(縮尺 1/3)

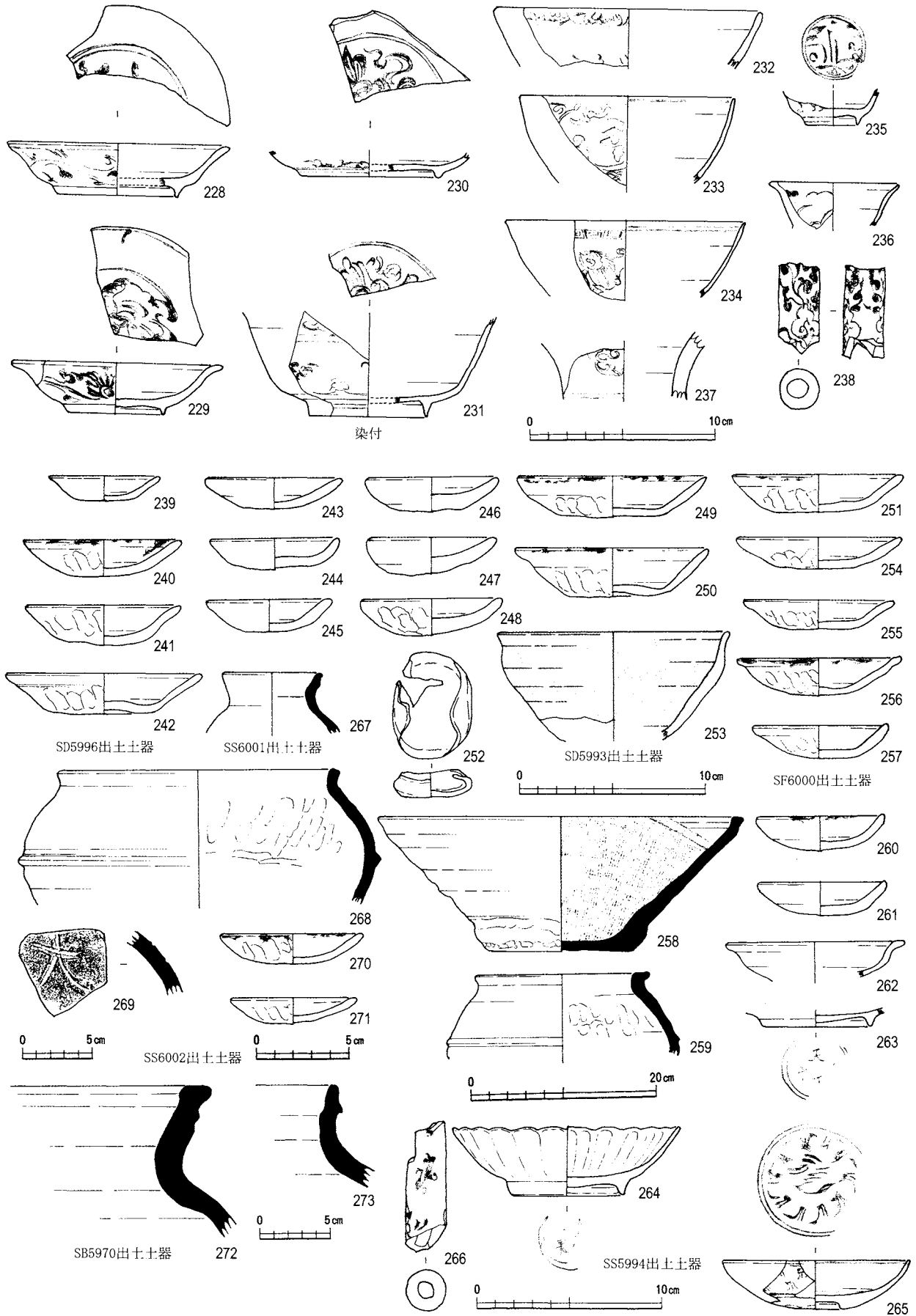


第 86 図 第 118 次調査 包含層出土土器(縮尺 1/3、1/4)

3. 遺物

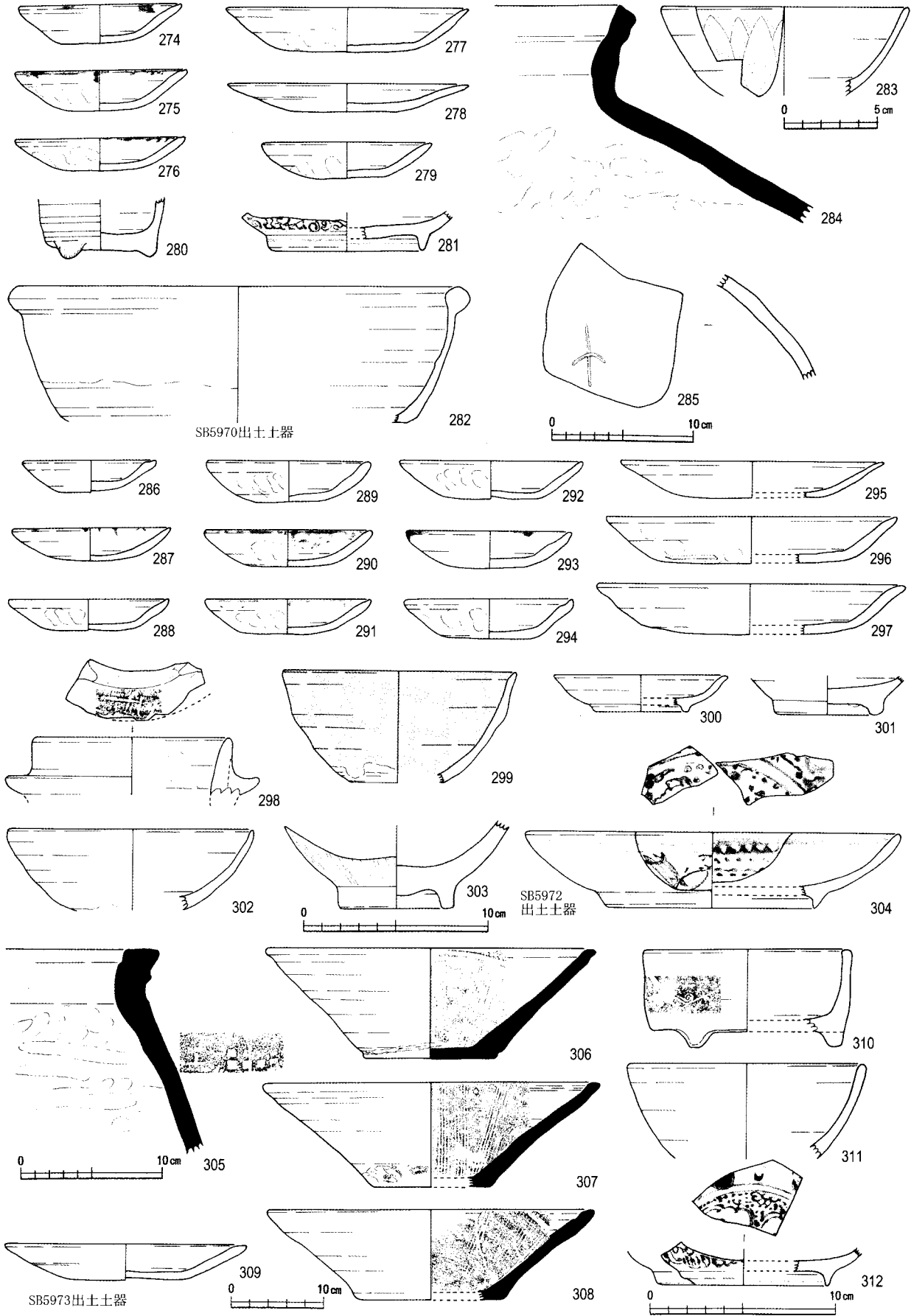


第 87 図 第 118 次調査 包含層出土土器(縮尺 1/3)

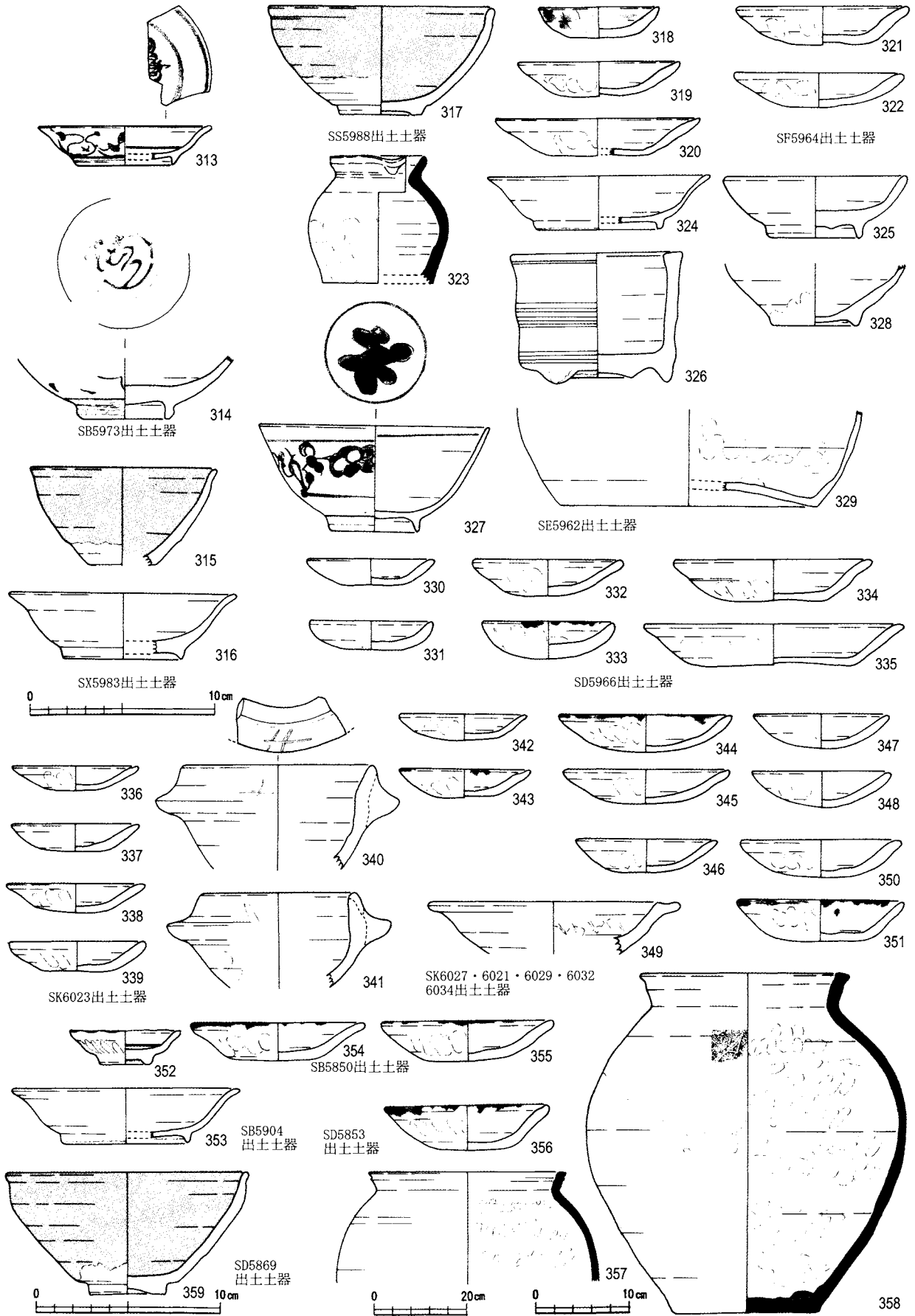


第88图 第118次調査 包含層出土土器、第IV区域区画Ⅲ、第V区域区画Ⅳ遺構出土土器(縮尺1/3、1/4、1/6)

3. 遺物

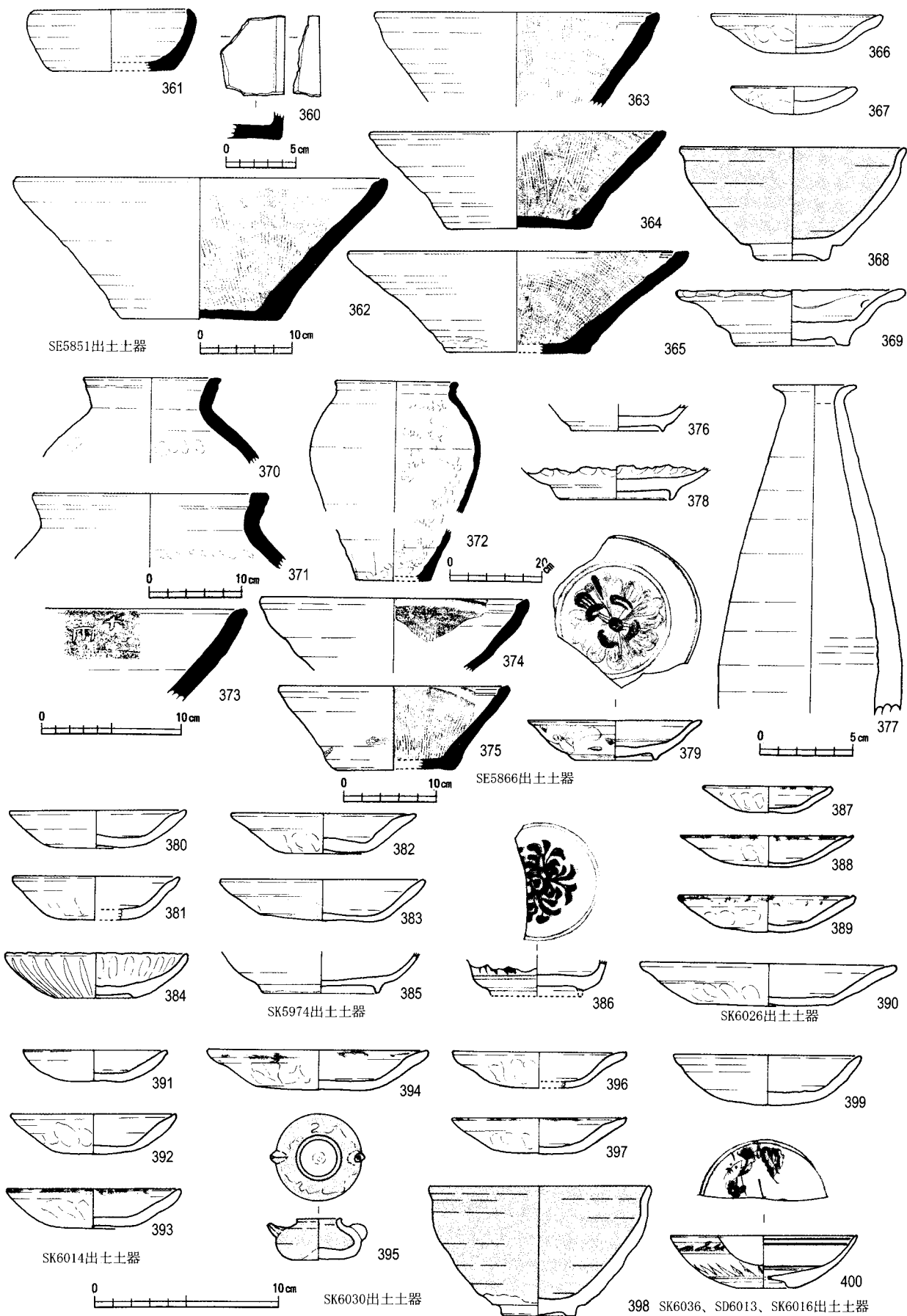


第 89 図 第 118 次調査 第 V 区域区画 IV 遺構出土土器(縮尺 1/3、1/4、1/6)

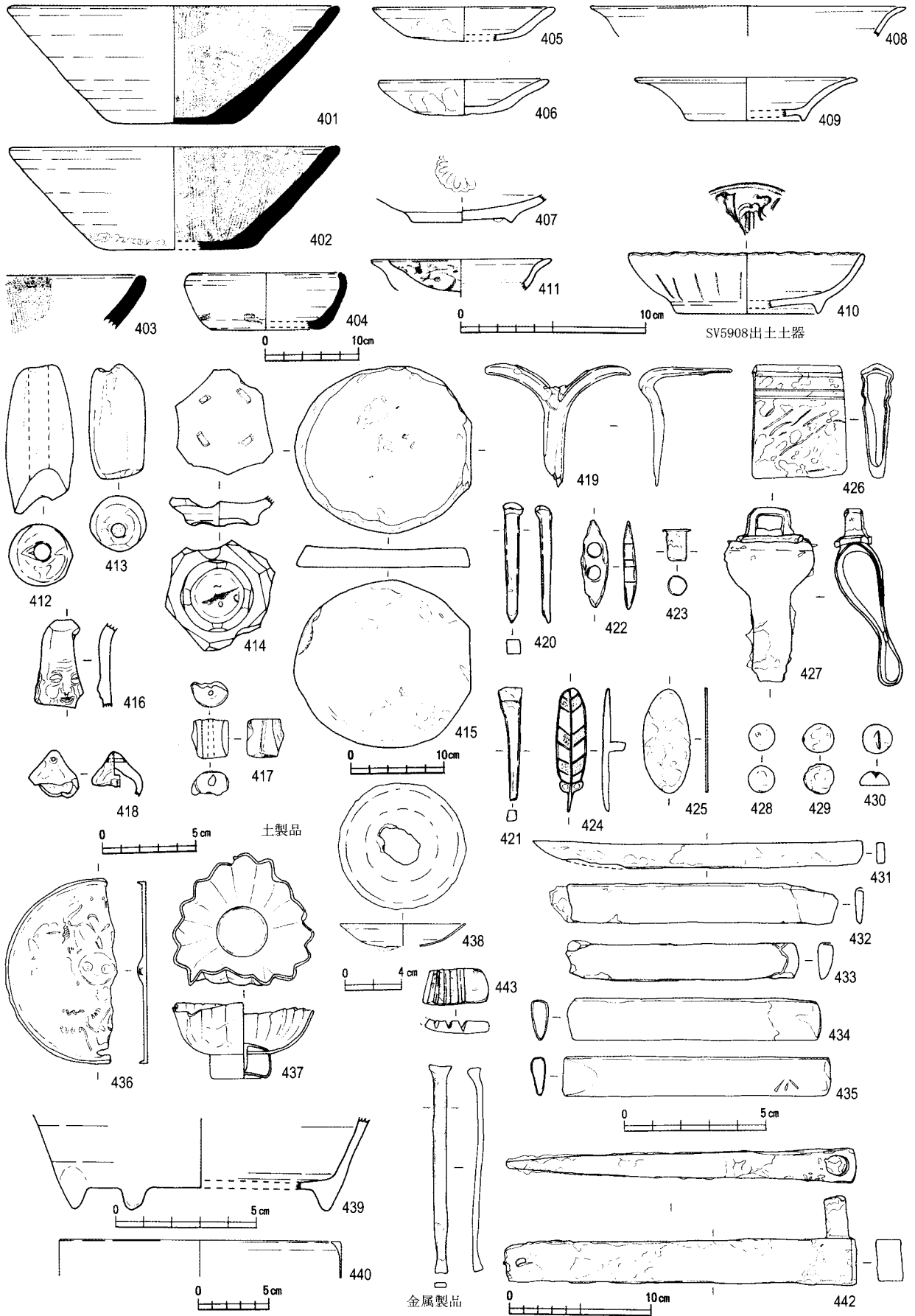


第90図 第118次調査 第V区域区画IV、第IV区域区画II遺構出土土器(縮尺 1/3、1/6、1/12)

3. 遺物

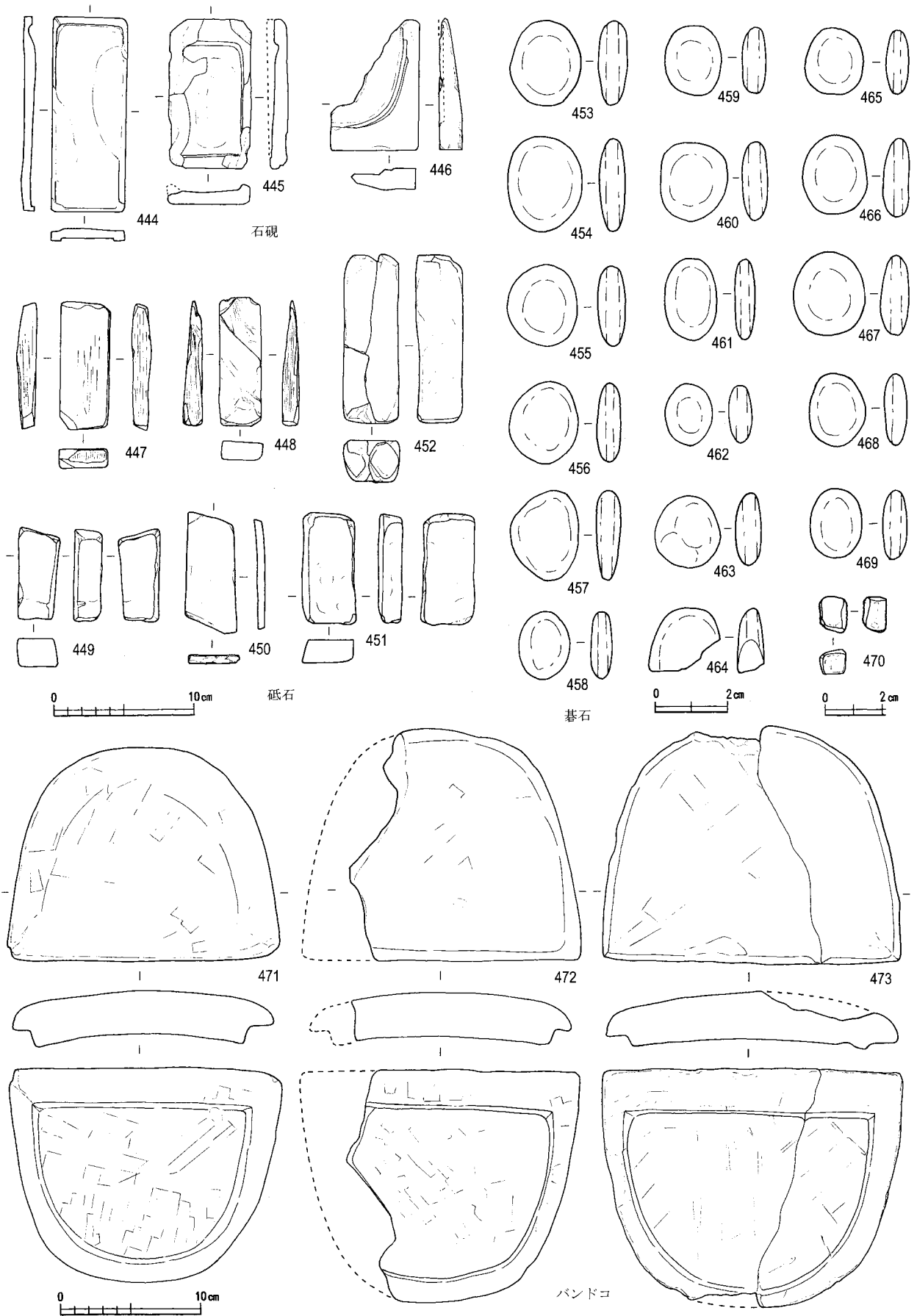


第91図 第118次調査 第VI区域区画II遺構出土土器(縮尺1/2、1/3、1/6)

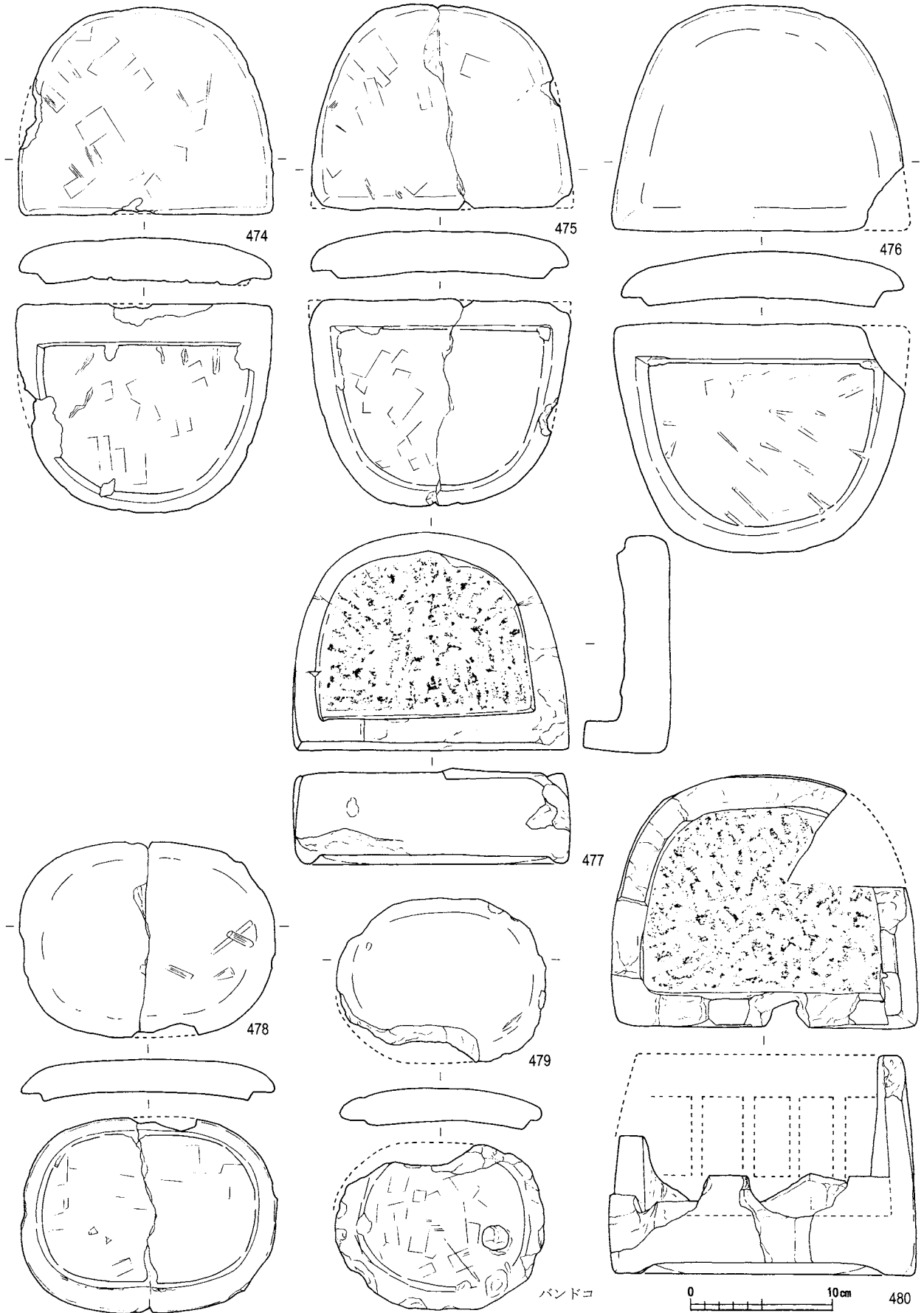


第92図 第118次調査 第Ⅶ区区域画V遺構出土土器、金属製品(縮尺1/2、1/3、1/4、1/6)

3. 遺物

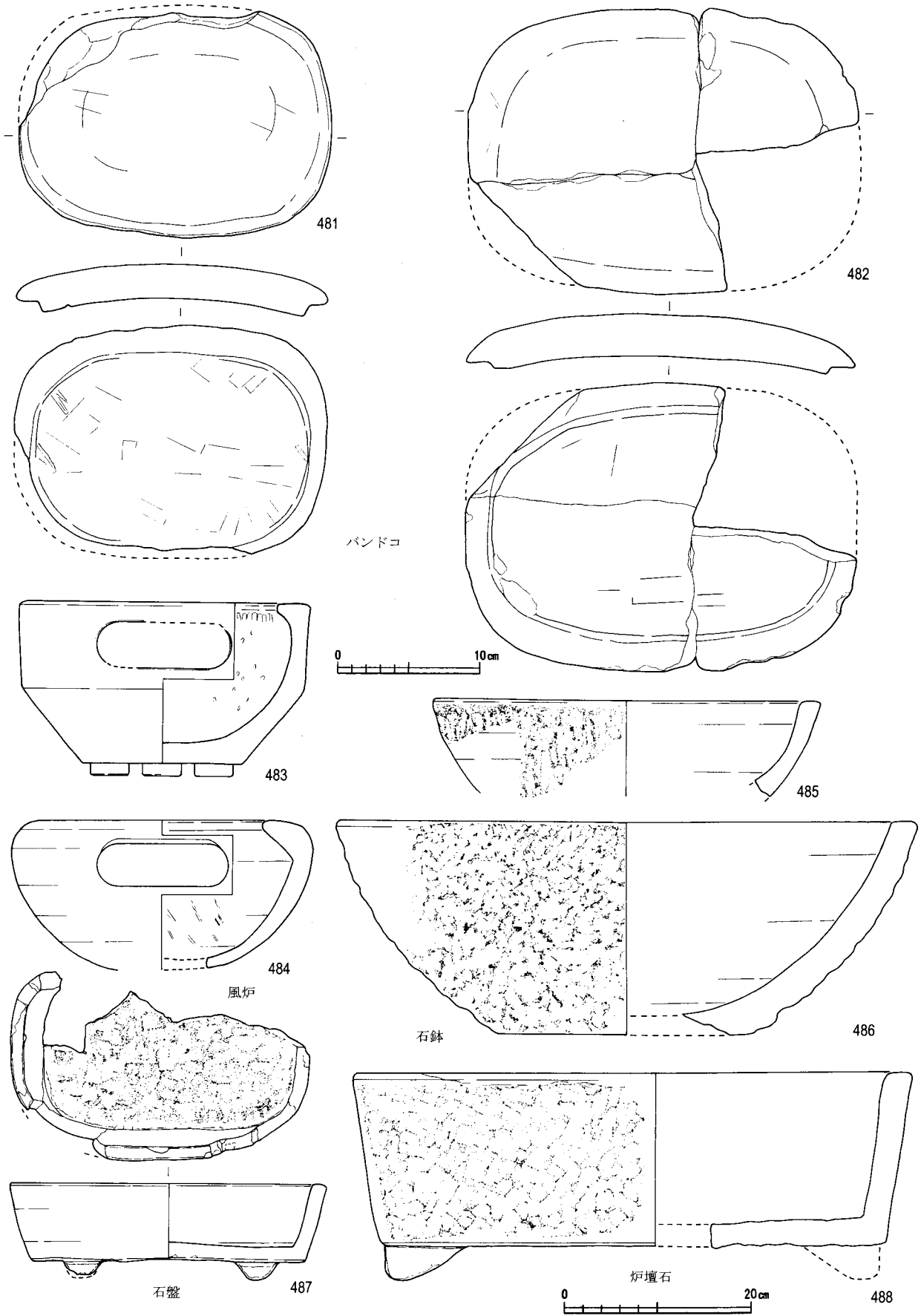


第 93 図 第 118 次調査 石製品 (縮尺 1/4、2/3)

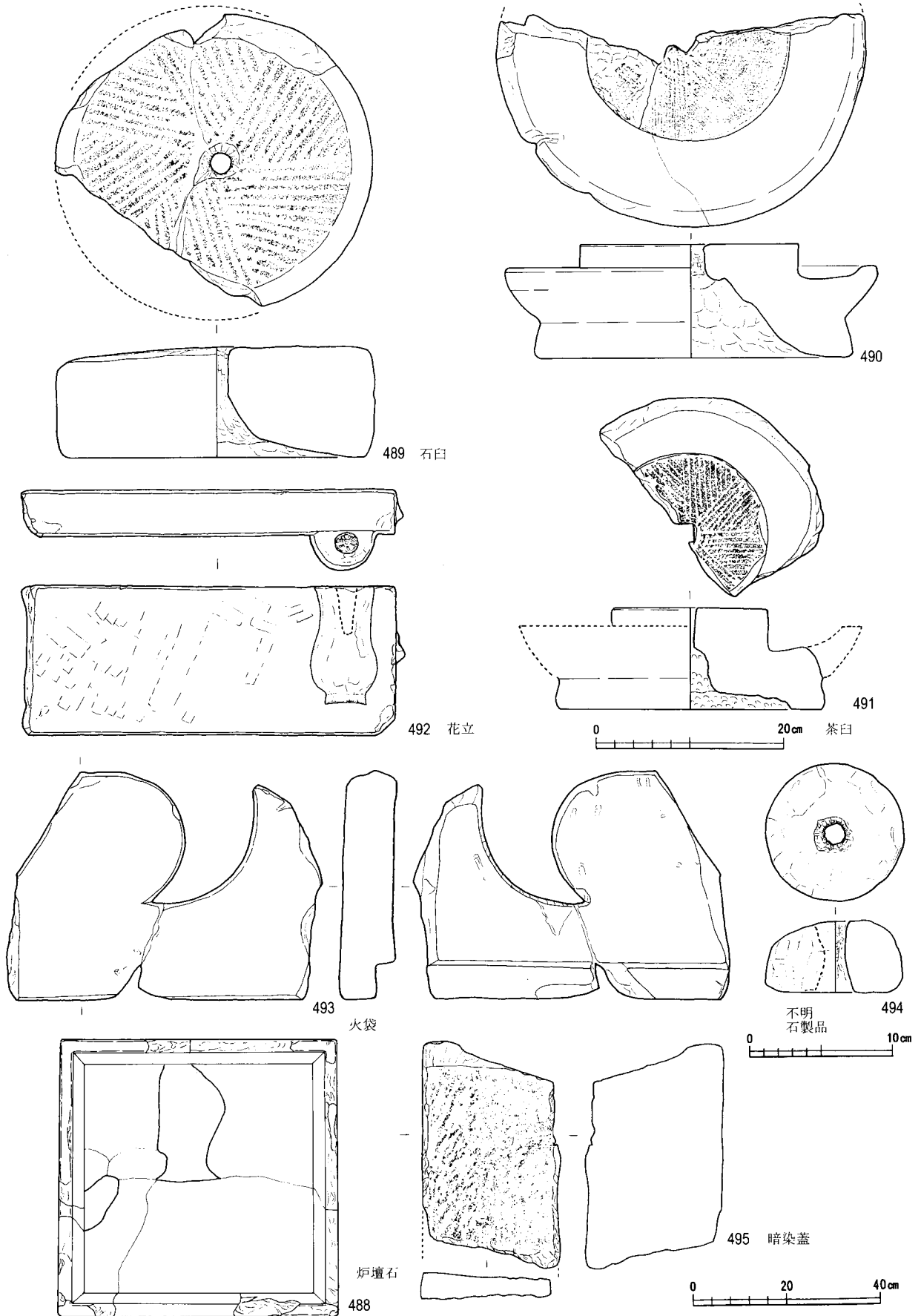


第94図 第118次調査 石製品(縮尺1/4)

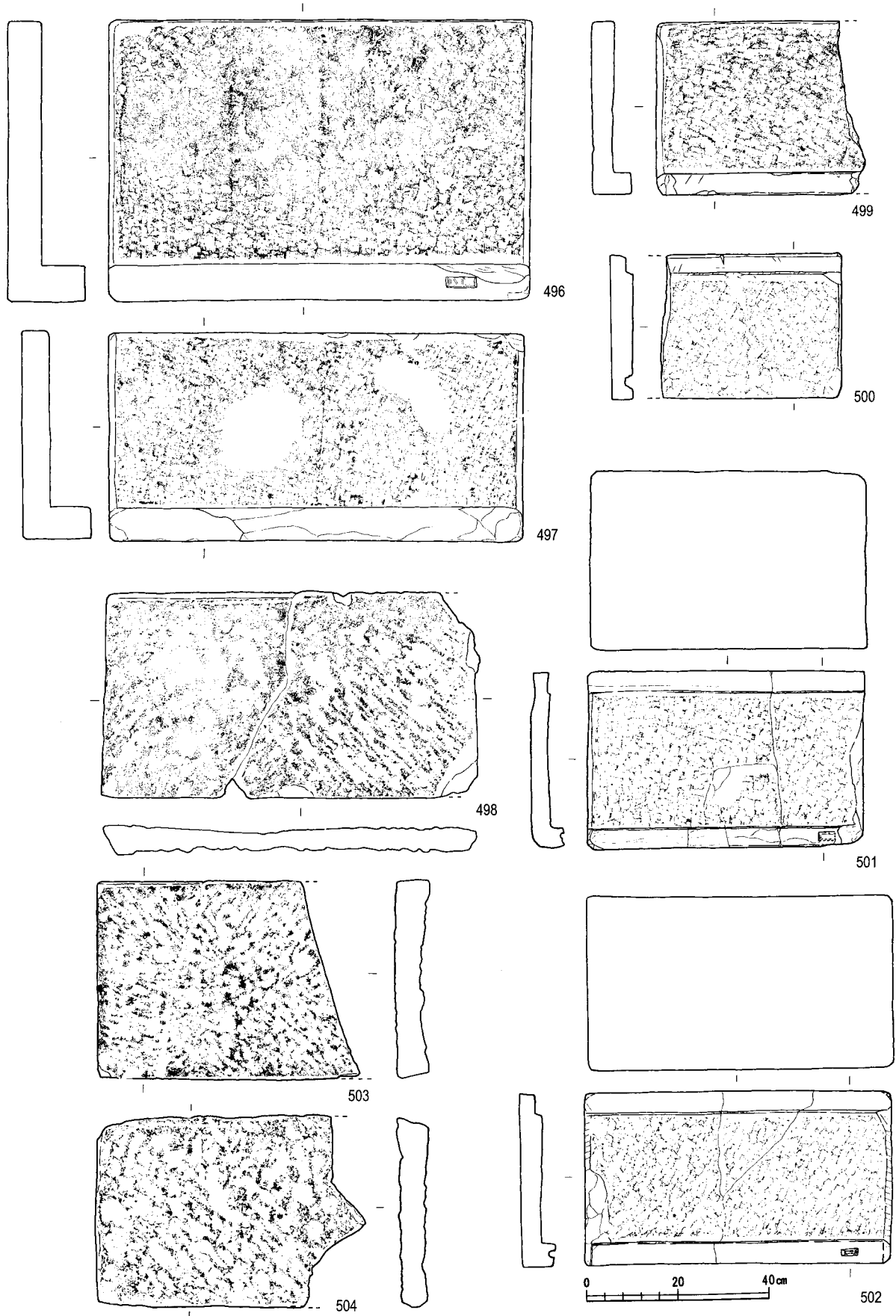
3. 遺物



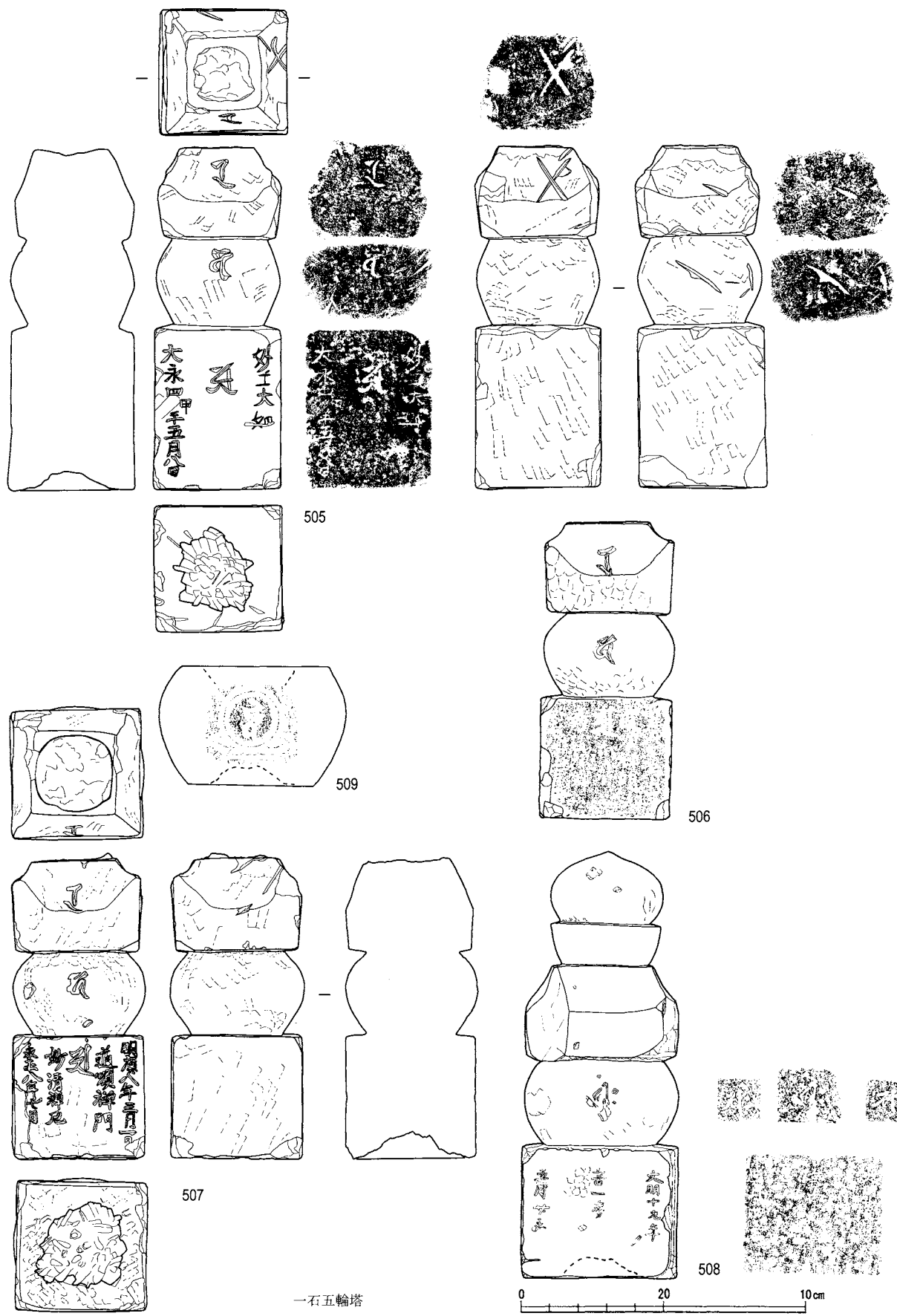
第95図 第118次調査 石製品(縮尺1/4、1/6)



第96図 第118次調査 石製品(縮尺1/4、1/6、1/12)



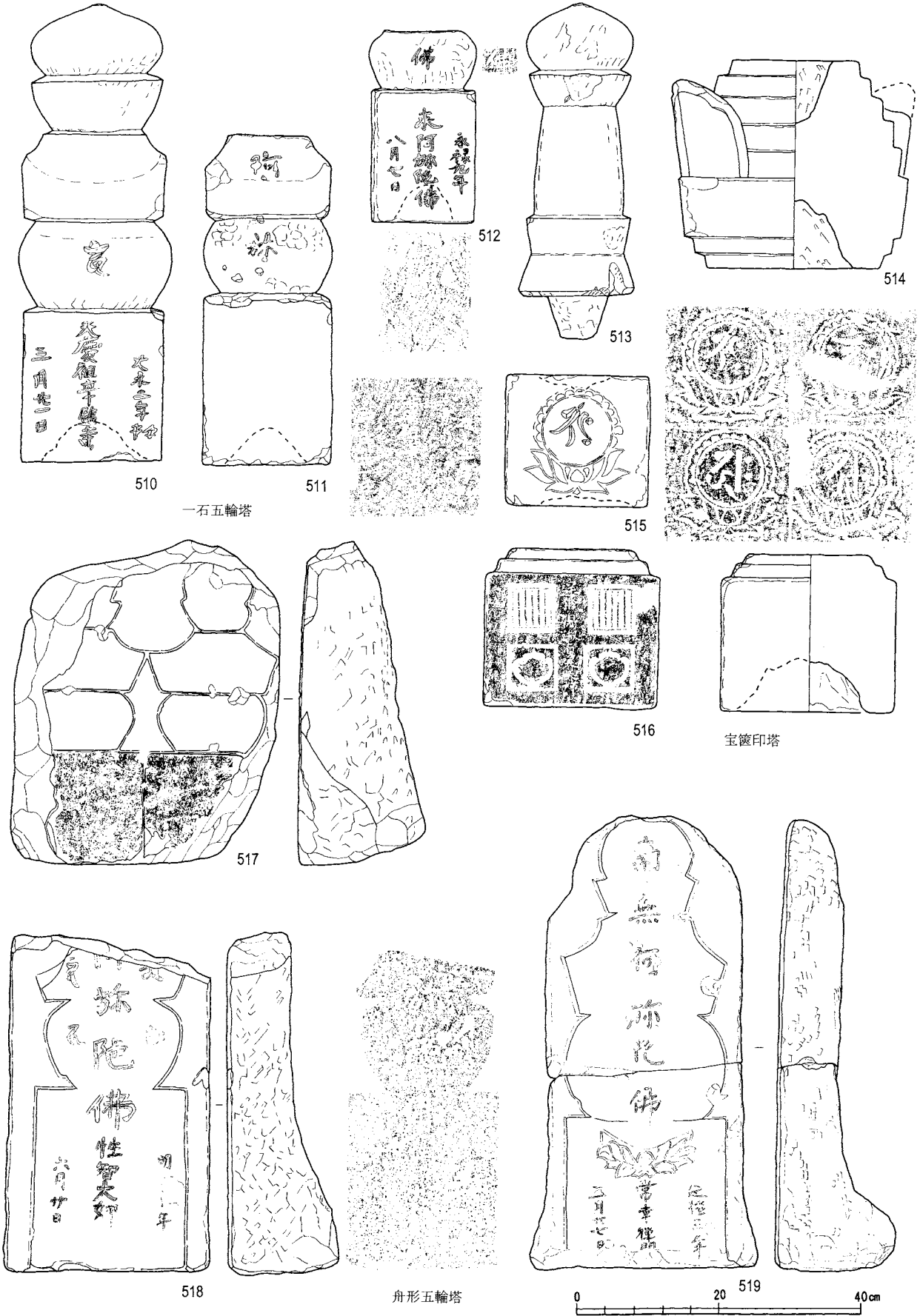
第 97 図 第 118 次調査 石製品(縮尺 1/12)



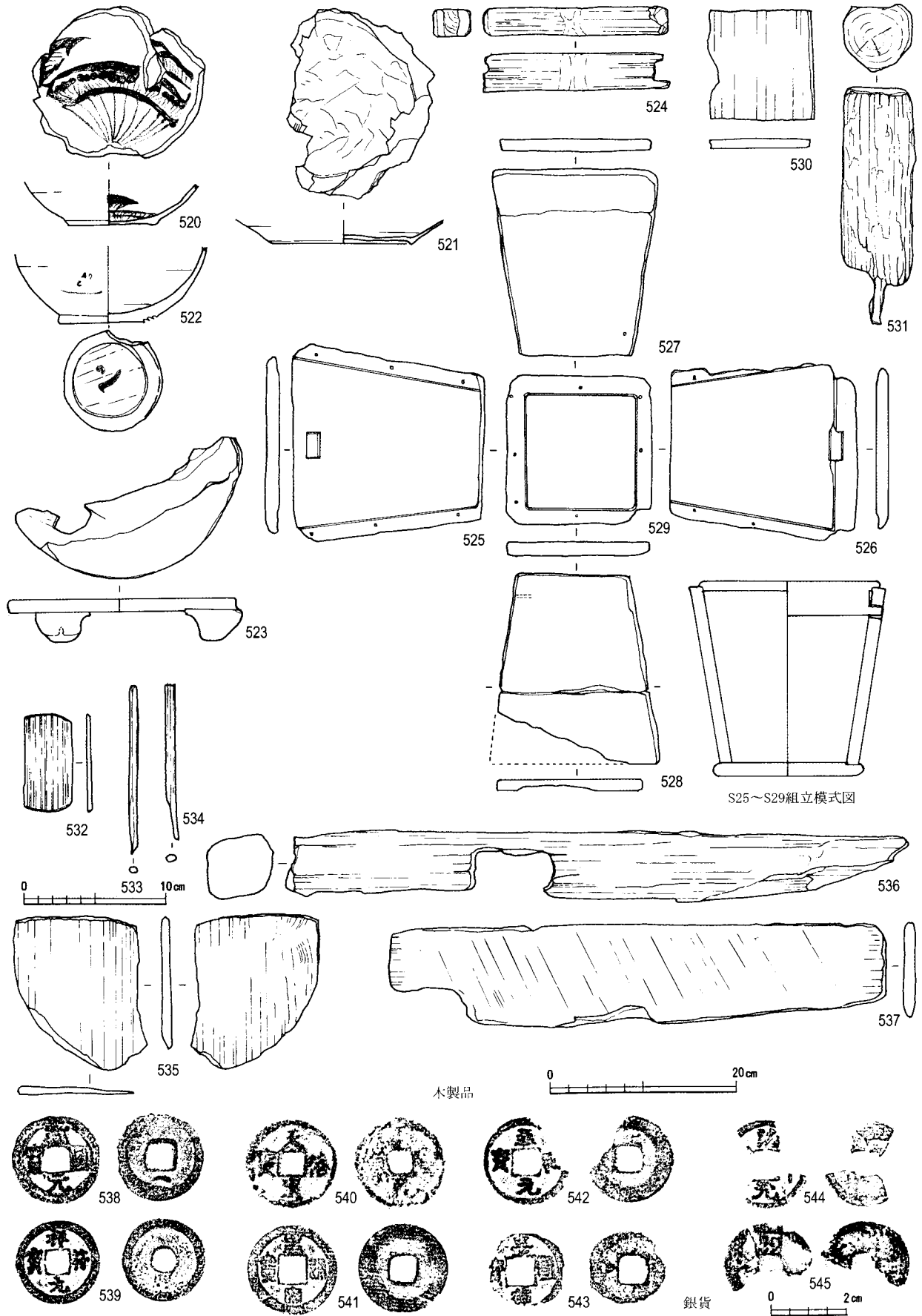
一石五輪塔

第 98 図 第 118 次調査 石塔(縮尺 1/8)

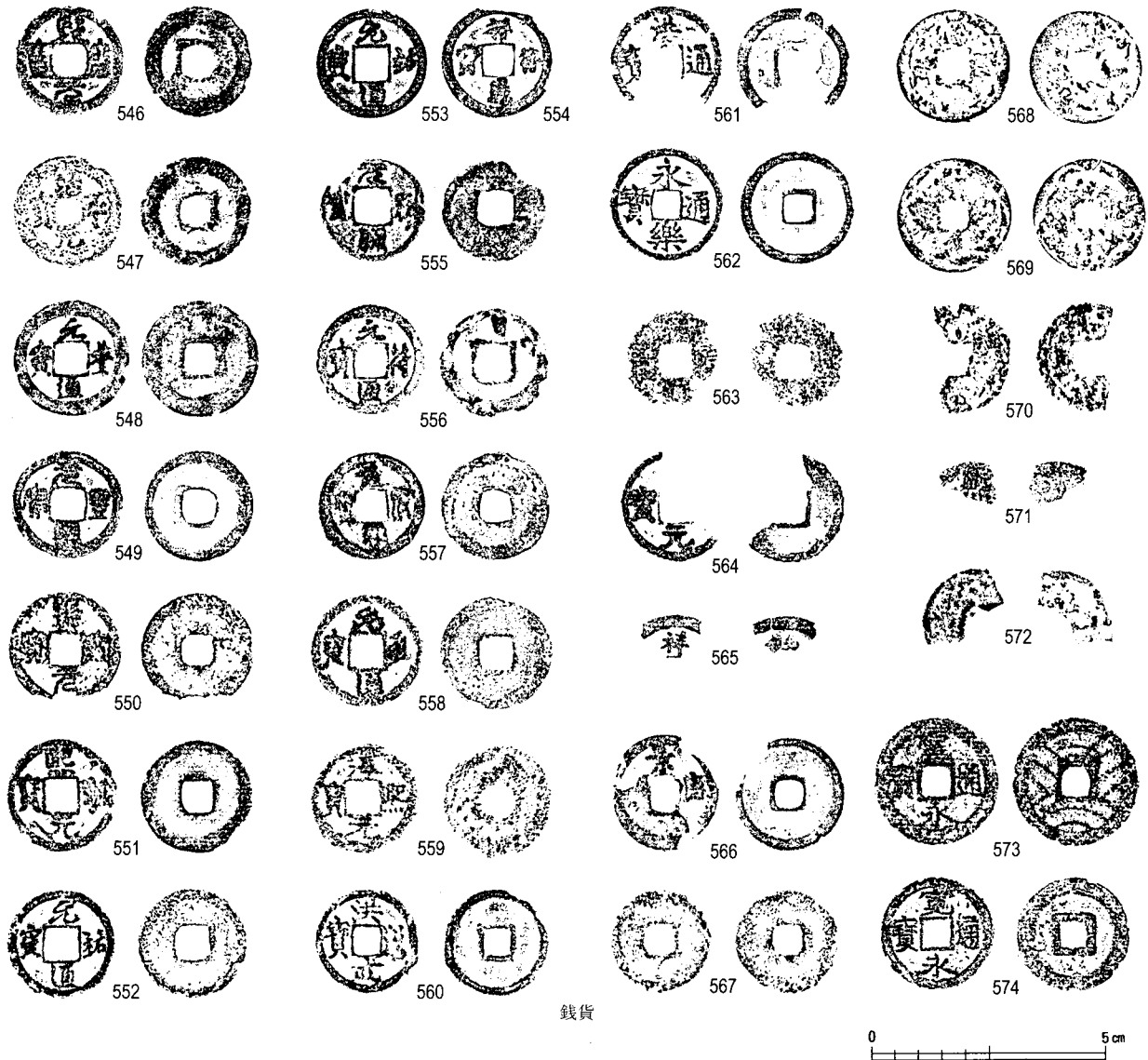
3. 遺物



第99図 第118次調査 石塔(縮尺1/8)



第100図 第118次調査 木製品、錢貨(縮尺1/4、1/6、2/3)



第101図 第118次調査 錢貨(縮尺2/3)

第10表 第118次調査出土遺物観察表(PL.81~87 第92~101図)

土製品(PL.81 第92図)

単位:cm/g

単位:cm/g

No	器種	長幅	厚重	残存	材質色調	特徴	出土地点
412	陶錘	7.9 3.6	3.6 —	2/3	土師質 灰黒色	藁形/紐穴径 0.9cm/棒巻き 技法/スス付着	第Ⅶ区域 D40/SE5866
413	土錘	6.2 3.0	3.2 —	4/5	土師質 橙褐色	藁形/紐穴径0.6 cm/棒巻き技法	第Ⅶ区域 T46
414	土製円盤	7.0 6.0	1.6 —	1/8	白磁皿 白色	底部周縁打欠 /底部露胎・墨書	第Ⅴ区域 A'39
415	土製円盤	18.8 18.2	2.2 —	1/10以下	越前焼 壺 暗茶色	周縁打欠	第Ⅶ区域 M46

No	器種	長幅	厚重	残存	材質色調	特徴	出土地点
416	鉄軸人形	4.6 2.6	2.6 —	1/4	土師質 茶色	型成形/寿 老人	区域不明
417	土製 仏像	2.0 1.9	1.3 —	1/4	土師質 橙褐色	仏像立像下位/ 長軸中心に径 0.2cmの穿孔	区域不明
418	土鈴	— 2.6	2.5 —	1/2	土師質 橙褐色	ナデ/頂部紐 孔径0.2cm	第Ⅵ区域 C42/SB5904

金属製品(PL. 81 第92図)

単位: cm/g

単位: cm/g

No	器種	長幅	厚重	残存	材質色調	特徴	出土地点	No	器種	長幅	厚重	残存	材質色調	特徴	出土地点
419	掛金具	8.7 10.2	0.7 —	1/2	鉄製品	二又状の刃先/鑊台か?	区域不明	432	小柄	10.3 1.4	0.3 —	1/2	銅製品	断面長三角形/折損	第V区域 V42/SB5973
420	鉄釘	4.3 0.5	0.4 —	1/1	鉄製品	釘頭平坦 断面方形	区域不明	433	小柄	8.3 1.4	0.5 —	1/2	銅製品	断面長三角形	第VI区域 E39
421	鉄釘	4.1 0.8	0.3 —	1/1	鉄製品	釘頭平坦 断面方形	第V区域 Y'43/SK6300	434	小柄	9.1 1.5	0.5 —	1/2	銅製品	断面長三角形	第IV区域 X36
422	鞋	3.0 1.0	0.4 —	1/1	銅製品	木葉形/径0.5cmの紐孔2	第VI区域 C38	435	小柄	9.6 1.4	0.5 —	1/2	銅製品	断面長三角形	第V区域 W44/SK6028
423	金具	1.0 1.0	0.5 —	1/1	銅製品	円筒形	第V区域 U45/SE5762	436	銅鏡	6.6 3.9	0.3 —	1/2	銅製品	鏡背:中央に鈕/双鳥文	第V区域 V39/SS6002
424	目貫	4.4 1.0	0.8 —	1/1	銅製品	羽形/魚子打	第V区域 Z46/SB6019	437	紅皿	5.0 5.0	2.7 —	1/1	銅製品	口縁部:輪花状	第V区域 A'44/SB5972
425	飾金具	3.7 1.7	0.2 —	1/1	銅製品	平滑	区域不明	438	燭台	9.0 9.0	1.6 —	4/5	銅製品	口縁部:皿状	第V区域 V41
426	刀装具 鍔	3.3 4.6	2.0 —	1/1	銅製品	峯側に条線2	第VII区域 U46	439	香炉	12.0 8.0	3.4 —	4/5	鉄製品	底部周縁に脚3	区域不明
427	刀装具 足金物	3.2 5.7	2.0 —	1/1	銅製品	上端に長方形吊金具	第VII区域 U46	440	香炉	20.0 —	2.3 —	1/10	銅製品	口端部内側突出	区域不明
428	彈丸	1.0 1.0	1.0 —	1/1	鉛製品	鈍い球形	第VII区域 N45	441	鍵	15.0 0.9	0.4 —	1/1	鉄製品	両端凹む	区域不明
429	彈丸	1.0 1.0	1.0 —	1/1	鉛製品	鈍い球形	第VII区域 V48	442	開閉金具	25.0 3.3	2.2 —	1/1	鉄製品	楔状/径長1.5cm・長さ3.0cmの軸あり	第V区域 U45/SE5962
430	彈丸	1.0 1.0	0.5 —	1/1	鉛製品	鈍い半球形/頂部に刻み	第V区域 A'40	443	銅板	2.5 4.6	0.8 —	1/1	銅製品	V字状切れ込み3条	第V区域 V41/SB5973
431	小柄	11.7 1.0	0.3 —	4/5	鉄製品	断面長方形	第V区域 W47/SK6023								

石製品(PL. 82~84 第93~97図)

単位: cm/g

No	器種	流量(最大値) 長短	石材色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
444	石硯	14.2 5.2	粘板岩 茶色 硬質	形状:板状 額幅0.8cm、高さ0.5cm/底面:挿手口/左右側辺に幅0.7cm・段差0.2cmの縁	全体平滑 面:剥離	第VI区域 D40/SE5866
445	石硯	10.9 5.9	粘板岩 暗褐色 硬質	形状:板状 額幅1.7cm、高さ0.9cm/下端面にキズ	正面:剥離 背面:平滑	区域不明
446	石硯	9.3 6.5	粘板岩 黒色 硬質	形状:板状 楕円形の区画	全体平滑 背面:剥離	区域不明
447	砥石	9.1 3.5	凝灰岩 橙褐色 硬質	形状:柱状直方体/上端部欠損 砥面/表裏面・左右側面・下端 断面長方形	砥面5 粒度:密 仕上げ砥/浄教寺砥石	区域不明
448	砥石	9.3 3.0	安山岩 暗灰色 硬質	形状:柱状直方体/上下端部欠損 砥面/表裏面・左右側面 断面長方形	砥面4/剥離多し 粒度:密 仕上げ砥/浄教寺砥石	第VI区域 T43
449	砥石	6.8 3.0	凝灰岩 淡灰色 硬質	形状:柱状直方体/上下端部欠損 砥面/表裏面・左右側面 断面長方形	砥面4 粒度:密 仕上げ砥/浄教寺砥石	第V区域 V44
450	砥石	8.8 3.7	凝灰岩 白褐色 硬質	形状:板状直方体/上端部欠損 砥面/表裏面・左右側面・下端 断面長方形	砥面5 粒度:密 仕上げ砥/浄教寺砥石	第VII区域 T47
451	砥石	8.1 4.0	凝灰岩 灰色 硬質	形状:板状直方体/左右側辺・上下端部欠損 砥面/表裏面・左右側面 断面長方形	砥面2 粒度:密 仕上げ砥/浄教寺砥石	第V区域 A'44/SB5972
452	砥石	12.2 4.0	凝灰岩 橙褐色 硬質	形状:直方体 砥面/表裏面・左右側面・上下端 断面長方形	砥面6 粒度:密 仕上げ砥/浄教寺砥石	区域不明
453	基石	2.3 1.9	頁岩 黒灰色 硬質	形状:円盤状/平滑		第V区域 V45/SK6027
454	基石	2.7 2.0	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		第VI区域 A43
455	基石	2.3 1.9	頁岩 灰黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		区域不明
456	基石	2.2 1.9	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		区域不明
457	基石	2.4 1.9	頁岩 黒色 硬質	形状:円盤状/平滑		区域不明
458	基石	1.8 1.4	頁岩 灰色 硬質	形状:円盤状/平滑		第V区域 Z41
459	基石	1.9 1.4	頁岩 暗灰色 硬質	形状:円盤状/平滑		区域不明

3. 遺物

単位: cm/g

No	器種	法量(最大値)		石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長	短				
460	基石	2.2	1.8	頁岩 灰黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		区域不明
461	基石	2.3	1.4	頁岩 黒色 硬質	形状: 楕円盤状/平滑		区域不明
462	基石	1.6	1.3	頁岩 灰黒色 硬質	形状: 楕円盤状/平滑		第II区域 B31
463	基石	2.0	1.8	頁岩 灰黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第V区域 A' 38
464	基石	1.7	1.9	頁岩 白褐色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第VI区域 Q45
465	基石	1.8	1.6	頁岩 黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第VI区域 T41
466	基石	2.2	1.7	頁岩 黒色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第VI区域 T41
467	基石	2.3	1.9	頁岩 暗灰色 硬質	形状: 円盤状/平滑		第VI区域 A44・45
468	基石	2.0	1.5	頁岩 黒灰色 硬質	形状: 円盤状/平滑		区域不明
469	基石	1.9	1.3	頁岩 暗灰色 硬質	形状: 円盤状/平滑		区域不明
470	舍利	1.3	1.0	頁岩 白色 硬質	形状: 直方体		第V区域
471	バンドコ 蓋	幅18.5	高4.0	笏谷石 暗灰色 軟質	D形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑 外・内: スス付着	第VI区域 D37
472	バンドコ 蓋	幅16.2	高4.0	笏谷石 淡灰緑色 軟質	D形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑	第VI区域 D40/SE5866
473	バンドコ 蓋	幅21.5	高4.0	笏谷石 暗灰色 軟質	D形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑 外・内: スス付着	第VI区域 D40/SE5866
474	バンドコ 蓋	幅18.2	高3.5	笏谷石 淡茶色 軟質	D形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑 外: スス付着・被熱	第VI区域 D41/SB5904
475	バンドコ 蓋	幅18.6	高3.5	笏谷石 淡緑灰色 軟質	D形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑 外・内: スス付着	第VI区域 D40/SE5866
476	バンドコ 蓋	幅21.0	高4.1	笏谷石 淡橙褐色 軟質	D形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑 外・内: スス付着	第VI区域 Y43/SK6003
477	バンドコ	幅22.0	高6.5	笏谷石 淡緑灰色 軟質	D形バンドコ 外: 上位欠損 内: タタキ調整	全体平滑	区域不明
478	バンドコ 蓋	幅18.3	高3.0	笏谷石 淡橙褐色 軟質	O形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑	第VII区域 M・N45
479	バンドコ 蓋	幅15.0	高2.8	笏谷石 淡橙褐色 軟質	O形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑 外・内: スス付着 内: 付着物	第V区域 V44
480	バンドコ	幅21.7	高15.8	笏谷石 淡橙褐色 軟質	D形バンドコ 外: 上位欠損/長方形透孔5と推定 内: タタキ調整	全体平滑/被熱	第IV区域 T36 第V区域 Y39/SS5994 第III区域 R32/SS29952
481	バンドコ 蓋	幅22.1	高3.7	笏谷石 暗灰色 軟質	O形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑 内: スス付着	区域不明
482	バンドコ 蓋	幅27.8	高4.3	笏谷石 淡橙褐色 軟質	O形バンドコの蓋 外: 笠状に成形/平滑 内: 身と接合する周縁に段をつくる	全体平滑/被熱	第VI区域 S45 第VII区域 U46

No	器種	法量(最大値)		石材 色調 材質	調整・特徴	備考	出土地点
		長	短				
483	風炉	31.2	17.2	笏谷石 灰褐色 軟質	口縁部:直線状に外方へ立ち上がる/体部中位で上方へ立ち上がる/口端部平坦/口端部内側は突出 体部:体部上位に幅14.0cm・高さ4.2cmの長楕円透孔1 底部:径4.2cm・高さ1.3cmの円柱脚3	全体平滑/被熱 内:粗いタタキ	第Ⅶ区域 J・K45 第Ⅶ区域 U46
484	風炉	21.4	10.0	笏谷石 橙褐色 軟質	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/体部上位で内側に屈曲/口唇部は丸く収める 体部:体部上位に幅14.0cm・高さ4.6cmの長楕円透孔1 底部:丸底	全体平滑/被熱 内:粗いタタキ	第Ⅵ区域 V45/T45
485	石鉢	21.4	—	笏谷石 淡茶褐色 軟質	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部平坦	外:タタキ 内:平滑	第Ⅶ区域 J・K45/P45
486	石鉢	62.4	—	笏谷石 灰色 軟質	口縁部:内湾して外方へ立ち上がる/口端部平坦	外:タタキ 内:平滑	第Ⅵ区域 F37・38/SE5851
487	石盤	長34.0 高10.2	—	笏谷石 淡灰緑色 軟質	形状:長楕円形 外:平滑/口縁部幅1.5cm/体部平滑/底部粗いタタキ/底部に高さ1.8cmの脚4	全体平滑	第Ⅵ区域 F37・38/SE5851
488	炉壇石	長60.0 高22.5	—	笏谷石 淡灰緑色 軟質	形状:方形 外:平滑/口縁部幅3.0cm/体部平滑/底部粗いタタキ/底部に高さ3.5cmの脚4	全体平滑 外:底部粗いタタキ 内:スス付着・被熱	第Ⅵ区域 D40/SE5866
489	石臼 下臼	上33.0 下32.5	—	凝灰岩 灰色 軟質	形状:扁平円柱 上面:主溝6分画・副溝11条/中央に径4.0cm角の軸受孔を上下面から穿孔 下面:下面は軸受穴を中心に凹面	全体被熱・摩耗	区域不明
490	茶臼 下臼	上23.3 最40.0 底33.5	—	笏谷石 淡茶灰色 軟質	形状:皿形扁平円柱 上面:/主溝8分画・副溝14条/中央に2.0cm角の方形軸受孔を上下面から穿孔/播面周縁に受部/幅8.3cm以上 側面:ハの字に踏ん張る底部に内湾して立ち上がる受部が付く/平滑 底部:側面/平滑	全体被熱・摩耗 底部端面スス付着	第Ⅳ区域 T36/T37
491	茶臼 下臼	上16.8 最36.8 底28.8	—	笏谷石 淡茶灰色 軟質	形状:皿形扁平円柱 上面:/主溝8分画・副溝9条/中央に2.0cm角の方形軸受孔を上下面から穿孔/播面周縁に受部/幅10.0cm以上 側面:ハの字に踏ん張る底部に内湾して立ち上がる受部が付く/平滑 底部:側面/平滑	全体被熱・摩耗	区域不明
492	花立	40.3 16.1 5.0	—	笏谷石 淡灰緑色 軟質	前面:左側に花瓶陽刻 左側面:3.8cm×2.6cm×1.0cmのホゾ 右側面:欠損 上端面:花瓶口縁部中央に径2.3cm・深さ5.0cmの孔 背面:平滑	前面:手斧痕 背面:手斧痕 角は面取り加工	第Ⅵ区域 F38/SE5851
493	石灯籠	16.2 22.1	—	笏谷石 淡緑色 軟質	前面:三日月状の透孔 下端面:背面に合欠 背面:平滑	前面:手斧痕 背面:粗い手斧痕	第Ⅵ区域 I37
494	不明 石製品	9.7 9.6	—	笏谷石 淡緑灰色 軟質	形状:半球状 上面:中央に径2.7cmの軸受孔を上下から穿孔 底部:平坦	粗い手斧痕	区域不明
495	板石	48.5 29.7	—	笏谷石 淡緑灰色 軟質	形状:板状の直方体/暗渠蓋/右側面厚さ5.7cm・右側面厚さ3.8cm 上下端面・左側面欠損	区域不明 /表土	第Ⅵ区域 F38/SE5851
496	板石	93.0 62.0	—	笏谷石 淡緑灰色 軟質	形状:板状/井戸枠/左右側面・上下端面の角を面取り/ 下端面L字状に外方へ屈曲/外方に向けた端面左側に6.8cm×2.4cm×2.0cmの長方形ホゾ孔1/屈曲部の左右側面の角も面取り		第Ⅴ区域 U45/SE5962
497	板石	91.0 46.0	—	笏谷石 淡緑灰色 軟質	形状:板状/井戸枠/左右側面・上下端面の角を面取り/ 下端面L字状に外方へ屈曲//屈曲部の左右側面の角も面取り		第Ⅵ区域 F38/SE5851
498	板石	81.7 45.8	—	笏谷石 淡緑灰色 軟質	形状:板状/洗場踏石? /右側面欠損/左側面斜行/厚さ不均一	前面:手斧痕 背面:手斧痕 上下端面・左側面:平滑	第Ⅵ区域 F38/SE5851
499	板石	46.2 38.5	—	笏谷石 淡緑灰色 軟質	形状:板状/井戸枠/右側面欠損/左側面・上下端面の角を面取り/ 下端面L字状に外方へ屈曲//屈曲部の左右側面の角も面取り		第Ⅵ区域 F38/SE5851
500	板石	39.4 31.7	—	笏谷石 淡灰緑色 軟質	形状:板状/井戸枠/左側面欠損/右側面・上下端面の角を面取り/ 表面上端は幅4.5cm・段差1.8cmの合欠加工/ 表面左側下位に6.0cm×2.8cm×2.0cmの長方形ホゾ穴1		第Ⅵ区域 D40/SE5866
501	板石	61.3 39.6	—	笏谷石 淡灰色 軟質	形状:板状/井戸枠/左右側面・上下端面の角を面取り/ 表面上端は幅4.0cm・段差1.0cmの合欠加工/ 下端面L字状に外方へ屈曲/外方に向けた端面左側に3.5cm×1.8cm×0.5cmの長方形ホゾ孔1/屈曲部の左右側面の角も面取り		区域不明

3. 遺物

単位: cm/g

No	器種	法量(最大値)		調整・特徴	備考	出土地点
		長短	石材色調材質			
502	板石	67.2 38.3	笏谷石 暗灰色 軟質	形状:板状/井戸枠/左側面下位欠損/左右側面・上下端面の角を面取り/表面上端は幅4.8cm・段差1.7cmの合欠加工/下端面L字状に外方へ屈曲/外方に向けた端面左側に3.6cm×1.4cm×1.2cmの長方形ホヅ孔1/屈曲部の左右側面の角も面取り		第Ⅵ区域 F38/SE5851
503	板石	57.8 44.2	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:板状/洗場踏石? /右側面欠損/上下端面の角面取り/厚さ不均一	前面:タタキ 背面:粗いタタキ 上下端面・左側面:平滑	区域不明
504	板石	59.4 42.6	笏谷石 灰緑色 軟質	形状:板状/洗場踏石? /右側面・上端面欠損/右側面の角面取り/厚さ不均一/上端面斜行	前面:タタキ 背面:粗いタタキ 下端面・左側面:平滑	第Ⅵ区域 F38/SE5851

単位: cm/g

No	器種	法量(最大値)		特徴	銘	出土地点
		長短厚残	石材色調材質			
505	一石 五輪塔	48.3 18.1 17.6 4/5	笏谷石 淡緑灰色 軟質	空・風輪欠損 上端面:方形/中央に径8.0cm・深さ5.4cmの接合孔 下端面:方形/中央に径10.0cm・深さ2.8cmの孔 前面:火輪にラ・水輪にバ・地輪アの種字 右面:火輪に「×」 背面:火・水輪にキズ	地輪:妙主大姉 大永四 甲□ 年五月八日 大永4年 (1524)	第Ⅵ区域 S・T/45・46
506	一石 五輪塔 7763	43.1 18.7 17.0 4/5	笏谷石 灰色 軟質	空・風輪欠損 上端面:方形 下端面:方形/中央に径10.5cm・深さ2.8cmの孔 前面:火輪にラ・水輪にバ・地輪アの種字	地輪:明応八年三月一日 (明応8年 (1499)) 道順禪門 妙清禪尼 永正八年七月/	第Ⅶ区域 L-P45
507	一石 五輪塔 10974	43.1 18.7 17.0 4/5	笏谷石 灰色 軟質	空・風輪欠損 上端面:方形 下端面:方形/中央に径12.0cm・深さ6.0cmの孔 前面:火輪に阿弥/水輪に陀/地輪に佛	地輪:元亀元年 (元亀元年 (1570)) 長阿弥陀仏 六月廿八日	第Ⅶ区域 U46
508	一石 五輪塔 10740	60.8 22.1 20.0 4/5	笏谷石 灰色 軟質	火輪一部欠損 下端面:方形/中央に径12.0cm・深さ3.0cmの孔 前面:水輪にキリークの種字	地輪:文明十九年 (文明19年 (1487)) 音一房 五月廿三日	第Ⅵ区域 S・T/45・46
509	組合式 五輪塔 7723	60.8 22.1 20.0 4/5	笏谷石 灰色 軟質	水輪 上端面:円形/中央に径14.0cm・深さ5.2cmの孔 下端面:円形/中央に径12.5cm・深さ2.6cmの孔 前面:中央に月輪・蓮台・種字		第Ⅶ区域 L-P45
510	一石 五輪塔 10863	65.6 21.9 20.0 1/1	笏谷石 灰色 軟質	下端面:方形/中央に径16.0cm・深さ5.5cmの孔 前面:水輪にバの種字	地輪:大永二年壬午 (大永2年 (1522)) 天慶祖華監寺 三月廿一日	第Ⅵ区域 S・T/45・46
511	一石 五輪塔 7739	47.0 18.5 17.8 4/5	笏谷石 灰緑色 軟質	空・風輪欠損 上端面:方形 下端面:方形/中央に径12.0cm・深さ5.0cmの孔 前面:火輪に阿・水輪に弥・地輪に陀佛	地輪:天文九年 (天文9年 (1540)) 但阿弥陀仏 七月廿五日	第Ⅵ区域 P45
512	一石 五輪塔 9331	27.5 15.6 14.8 1/2	笏谷石 暗灰褐色 軟質	空・風・火輪欠損 上端面:円形 下端面:方形/中央に径9.5cm・深さ5.8cmの孔 前面:水輪に佛/名号・銘は赤色塗彩	地輪:永禄九年 (永禄9年 (1566)) 来阿弥陀仏 八月七日	第Ⅵ区域 S・T/45・46
513	宝篋印塔 10861	47.8 15.6 15.0 1/1	笏谷石 灰緑色 軟質	相輪 宝珠・受花・九輪・受花・返花でなる 下端:径8.7cm・長さ6.2cmのホヅ		第Ⅵ区域 S・T/45・46
514	宝篋印塔 10864	29.5 34.0 34.0 1/1	笏谷石 灰緑色 軟質	露盤・隅飾り・蓋 露盤:5段 隅飾り:露盤の四隅から花卉状に立ち上がる/幅1.2cm の縁で区画/上面に切れ込み 蓋:高さ8.8cm/下端に露盤が2段付く		第Ⅵ区域 S・T/45・46
515	宝篋印塔 10839	18.7 20.4 21.0 1/1	笏谷石 淡灰緑色 軟質	塔身 4面に月輪と蓮台を陽刻/月輪内に種字		第Ⅵ区域 S・T/45・46
516	宝篋印塔 10856	22.5 24.8 24.0 1/1	笏谷石 淡灰褐色 軟質	露盤・基礎 露盤:2段 基礎:7.0cm×7.2cmの方形区画4/上段の方形区画には 校倉文/下段の方形区画には三葉文	基礎:逆修陽淑貞春大姉	第Ⅵ区域 S・T/45・46

単位:cm/g

No	器種	法量(最大値)		調整・特徴	備考	出土地点
		長短	石材 色調 材質			
517	舟形 五輪塔 7722	46.5 37.2 18.0 2/3	笏谷石 灰色 軟質	周縁欠損 前面:双立五輪塔陽刻/左右地輪に銘 背面:側面先端湾曲/下位L字状/粗いたタキ		第VI区域 P45
518	舟形 五輪塔 11005	48.9 29.5 16.1 2/3	笏谷石 灰褐色 軟質	上端部欠損 前面:五輪塔陽刻/火輪~地輪中央に阿弥陀佛/名号左 右に種字 背面:側面先端湾曲/下位L字状/粗いたタキ	地輪:明□□年 性智大姉 六月廿日	第VII区域 T・U46
519	舟形 五輪塔 10981 10996	69.7 32.4 17.3 4/5	笏谷石 灰褐色 軟質	前面:五輪塔陽刻/空輪~水輪中央に南無阿弥陀佛/地 輪に蓮台 背面:側面先端湾曲/下位L字状/粗いたタキ	地輪:延徳三年 (延徳3年(1491)) 常華禪門 三月廿七日	第VII区域 T・U46

木製品(PL. 86 第100図)

単位:cm/g

No	種類	法量(最大値)		残存	木取 樹種	特徴	出土地点
		長 底・幅	高 材厚				
520	漆器椀	—	3.0	1/3	横木取り 口縁部木裏 底部木表 ブナ属	体部はやや内湾して上方へ立ち上がる 体部外面:黒漆地 底部外面:ベタ高台 体部内面:黒漆地/底面に朱漆で開扇文を描く	第V区域 X43/SK6021
		6.7	0.5				
521	漆器皿	—	1.7	1/4	横木取り 柱目 環孔材	体部は直線状に外方へ立ち上がる 体部~底部外面:黒漆地 体部内面:黒漆地	第V区域 W45/SB5971
		10.0	0.3				
522	漆器椀	—	5.5	2/3	横木取り 柱目 ブナ属	体部はやや内湾して上方へ立ち上がる 体部外面:黒漆地に朱漆で文様を描く 底部外面:高台欠損/底面に朱漆で「ン」 体部内面:黒漆地	第VII区域 U45/SE5962
		—	0.8				
523	漆器 曲物	—	3.0	1/3	ヒノキ	底部外面:黒漆字/周縁に半円形の板状の高台が3方向に嵌る 底部内面:黒漆地	第VI区域 F38/SE5851
		16.2	1.0				
524	釣瓶	19.3	—	4/5	追柱 マツ属複雑管束 垂属	把手 両端部:上下に長さ1.6cm・幅3.0cm・厚さ1.0cmのホゾが突出 中央部:紐掛けによる凹み	第VI区域 F38/SE5851
		4.0	3.0				
525	釣瓶	20.0	—	1/1	柱目 マツ属複雑管束 垂属	長辺側板 内面:上位中央に2.9cm×1.6cmの長方形柄孔/左右側面に幅 1.7cm・段差0.3cmの合欠加工/合欠部上・中・下位に断面方 形の木釘孔穿孔	第VI区域 F38/SE5851
		上21.0 下16.5	1.5				
526	釣瓶	19.8	—	4/5	板目~追柱目 マツ属複雑管束 垂属	長辺側板/左側面欠損 内面:上位中央に3.1cm×1.5cmの長方形柄孔/左右側面に幅 1.7cm・段差0.3cmの合欠加工/合欠部中・下位に断面方 形の木釘孔穿孔	第VI区域 F38/SE5851
		上18.0 下16.5	1.3				
527	釣瓶	19.8	—	1/1	板目~追柱目 マツ属複雑管束 垂属	短辺側板 内面:左右側面上位に木釘孔穿孔	第VI区域 F38/SE5851
		上17.6 下12.2	1.3				
528	釣瓶	20.1	—	1/1	追柱目 マツ属複雑管束 垂属	短辺側板/上位右隅欠損 内面:左側面上・中・下位に木釘孔/右側面下位に木釘 孔/下端面中央に木釘孔穿孔 外面:スス付着	第VI区域 F38/SE5851
		上16.4 下12.0	1.3				
529	釣瓶	16.0	—	1/1	板目~追柱目 マツ属複雑管束 垂属	底板 内面:左右側面・上下端面に幅2.0cm・段差0.1cmの合欠加工 /左右側面合欠部上・中・下位と上下端面合欠部中央に断面 方形の木釘孔穿孔/周縁端面は丸み面取り	第VI区域 F38/SE5851
		15.3	1.5				
530	桶	12.0	—	1/1	柱目 スギ	側板/左側面欠損 左側面:木表 右側面:木浦	第VI区域 D40/SE5866
		11.0	1.0				
531	柱材	25.3	—	1/10 以下	芯持ち クリ	上端面:周囲面取り	第V区域 U45/SE5962
		7.5	7.5				
532	曲物	6.9	—	2/3	柱目 スギ	底板 内:周縁は斜めに削る	第V区域 W45
		3.5	0.4				
533	箸	12.2	—	2/3	芯去り ヒノキ科	下位欠損	区域不明
		0.5	0.4				
534	箸	11.1	—	2/3	芯去り スギ	下位欠損	第IV区域 A'36/SS6001
		0.7	0.7				

3. 遺物

単位:cm/g

No	種類	法量(最大値)		残存	木取 樹種	特 徴	出土 地点
		長	高				
		底・幅	材厚				
535	桶	16.4	—	1/5	榎目	底板 内:周縁は丸く加工 木表左下位周縁削られる	第VI区域 D40/SE5866
		13.9	1.0		スギ		
536	柱材	74.2	—	1/2	芯持ち	杵材 ホソ穴:8.5cm×4.5cm/角材の半身を貫通	第V区域 U44/SF5964
		6.2	6.2		マツ属複雑管束 亜属		
537	板材	52.7	—	1/2	榎目	板材 表背面:鋸による擦痕 左右端面:加工痕	第V区域 U45/SE5962
		11.2	1.2		クリ		

銭貨(PL. 87 第100・101区)

単位:cm/g

単位:cm/g

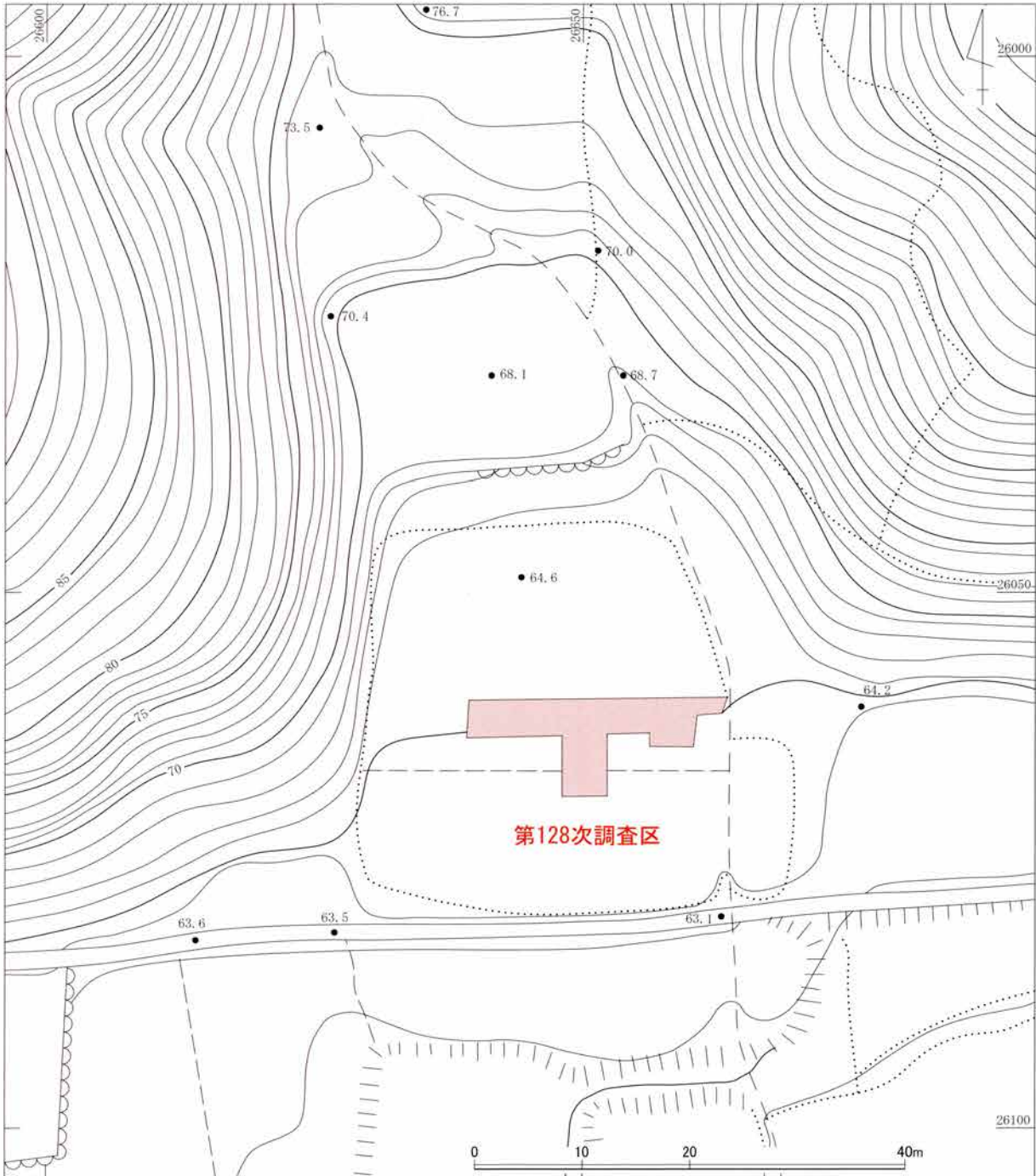
No	種 類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時 期	出土地点
		径	厚	重			
538	開元通宝	2.40	0.11	1.8	1/1	唐 初鑄621年	第VI区域 C41
539	祥符元宝	2.25	0.11	2.3	1/1	北宋 初鑄1009年	第V区域 A' 36
540	天禧通宝	2.50	0.12	2.2	1/1	北宋 初鑄1017年	第V区域 Y39
541	皇宋通宝	2.44	0.11	2.2	1/1	北宋 初鑄1039年	第V区域 Y40
542	至和元宝	2.37	0.14	2.2	4/5	北宋 初鑄1055年	第V区域 X39
543	嘉祐通宝	2.14	0.08	1.0	3/4	北宋 初鑄1056年	第V区域 A' 39
544	治平元宝	—	0.13	0.6	2/3	北宋 初鑄1064年	区域不明
545	熙□□宝	2.46	0.18	1.2	1/2	北宋 初鑄1068年	区域不明
546	熙寧元宝	2.33	0.10	2.5	1/1	北宋 初鑄1068年	第V区域 A' 44
547	熙寧元宝	2.39	0.10	2.5	1/1	北宋 初鑄1068年	第V区域 W45
548	元豐通宝	2.50	0.11	3.3	1/1	北宋 初鑄1078年	第V区域 V46
549	元豐通宝	2.39	0.12	2.9	1/1	北宋 初鑄1078年	第VI区域 C41
550	熙寧元宝	2.45	0.12	2.8	4/5	北宋 初鑄1078年	区域不明
551	熙寧元宝	2.41	0.12	2.2	1/1	北宋 初鑄1078年	第V区域 W47/SK6023
552	元祐通宝	2.36	0.15	2.8	1/1	北宋 初鑄1086年	第V区域 V39
553	元祐通宝	2.39	0.23	5.4	1/1	北宋 初鑄1086年	第VI区域 C41
554	元符通宝	—	—	—	1/1	北宋 初鑄1099年	第VI区域 C41
555	元祐通宝	2.33	0.09	1.1	4/5	北宋 初鑄1086年	区域不明
556	元符通宝	2.33	0.10	2.2	1/1	北宋 初鑄1099年	第V区域 V39

No	種 類 台帳番号	法量(最大値)			残存	時 期	出土地点
		径	厚	重			
557	元符通宝	2.35	0.15	3.3	1/1	北宋 初鑄1099年	第VI区域 C41
558	元符通宝	2.41	0.12	2.9	1/1	北宋 初鑄1099年	第VI区域 C41
559	淳熙元宝	2.40	0.14	2.5	1/1	南宋 初鑄1174年	第V区域 V41
560	洪武通宝	2.29	0.12	2.6	1/1	明 初鑄1368年	第V区域 A' 39
561	洪□通宝	2.45	0.11	0.7	3/5	明 初鑄1368年	第V区域 W38
562	永樂通宝	2.46	0.11	2.6	1/1	明 初鑄1408年	第V区域 A' 39
563	不明	2.03	0.09	0.9	2/5	—	第V区域 W39
564	□□元宝	2.43	0.09	1.2	1/2	—	区域不明
565	祥□□□	—	0.12	0.3	1/6	—	区域不明
566	景□□□	2.41	0.24	2.8	4/5	—	区域不明
567	不明	2.22	0.10	2.0	1/1	—	区域不明
568	不明	2.43	0.12	3.1	1/1	—	第V区域 U44/SF5964
569	不明	2.45	0.12	2.9	1/1	—	第V区域 W47/SK6023
570	不明	2.36	0.15	1.5	1/2	—	第VII区域 P45
571	不明	—	0.10	0.2	1/6	—	区域不明
572	不明	—	0.10	0.7	1/3	—	区域不明
573	寛永通宝	2.78	0.12	4.2	1/1	—	第VI区域 K38
574	寛永通宝	2.45	0.13	3.3	1/1	—	第V区域 Y39

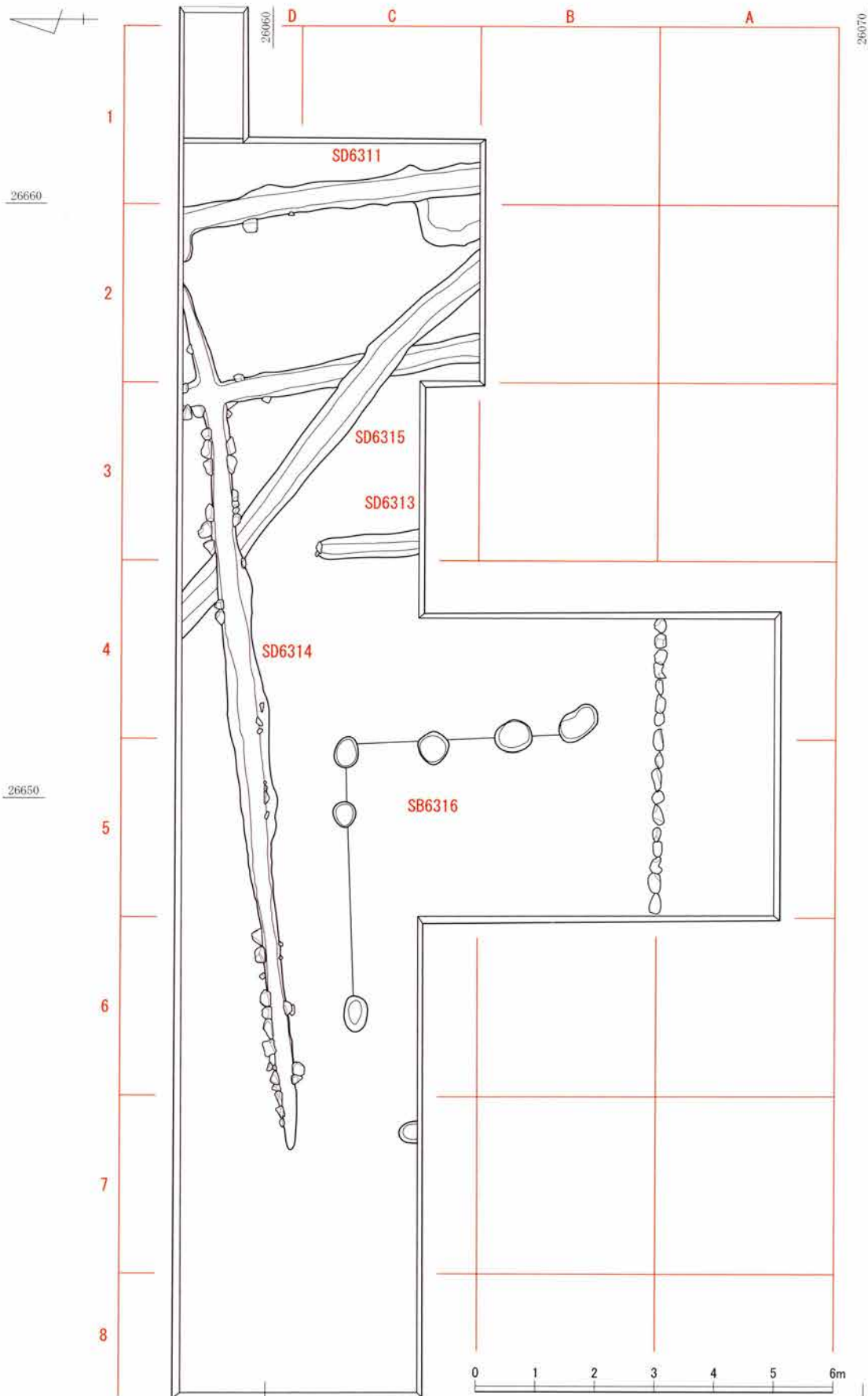
VI. 第128次調査(八地谷川北岸の遺構その2)【城戸ノ内町字八地】

1. 第128次調査(八地谷川北岸の遺構その2)の概要(PL.61・62 第102図)

第128次調査は、第3次中期10ヶ年計画に基づく調査である。調査区は城戸ノ内町字八地、字八地谷3番地に位置し、八地谷川北岸の山林中腹部に立地し、標高は約65mを測る。地形は南北長約80m、東西長約45mを測る小規模な谷であり、南方の八地谷川に段状に下降して開く。調査区の南東側には既述した第112・114・113・118次調査区が眼下に広がり、一乗谷川を挟んで朝倉館を眺望することができる。周辺の林道には五輪塔などの石造物が散見され、^{きよはらのぶかた}儒学者清原宣賢の墓石も当初はこの付近に存在したと伝わる。



第102図 第128次調査位置図(縮尺1/600)



第103図 第128次調査遺構全体図(縮尺 1/50)

2. 遺構

調査の方法は、東西に長く、南北に短いT字形の調査区を設定し、人力掘削によって遺構の範囲・密度を確認し、記録作業を行った。調査区の総面積は120㎡を測る。調査期間は平成20年(2008)5月15日～同年7月2日を要した。調査区は、東西に長さ23m、南北に幅4.2mのトレンチを設定した後、トレンチ南辺中央に南北長6.0m、東西幅5.2mの拡張区を設けた。拡張区内には近現代の水田の石垣が含まれる(第103図)。

耕作土を除去して層位を観察すると、遺構面は上・中・下層の3面が確認できた。上層面は3層暗茶褐色粘質土の上面を遺構面とし、中層面は5層茶褐色粘質土(水田整地層)上面を遺構面としていた。下層面は9層黄褐色土・礫混茶褐色土ブロック上面を遺構面としていた(第104図)。

上層面では径0.3m×深さ0.2mを測る浅い小穴が複数検出され、中層面では幅0.5m×深さ0.2mを測るSD6315が検出されたが、いずれも堆積土や遺物の時期から近世以降の遺構と判断した。下層面は地表下約0.6mの深度で確認され、遺構は掘立柱建物1、溝3を検出した。遺物は中世・戦国期の時期に相当し、調査は下層面を対象に精査を行った。以下、概略を述べる。

2. 遺構(PL.62 第103・104図)

建物、溝

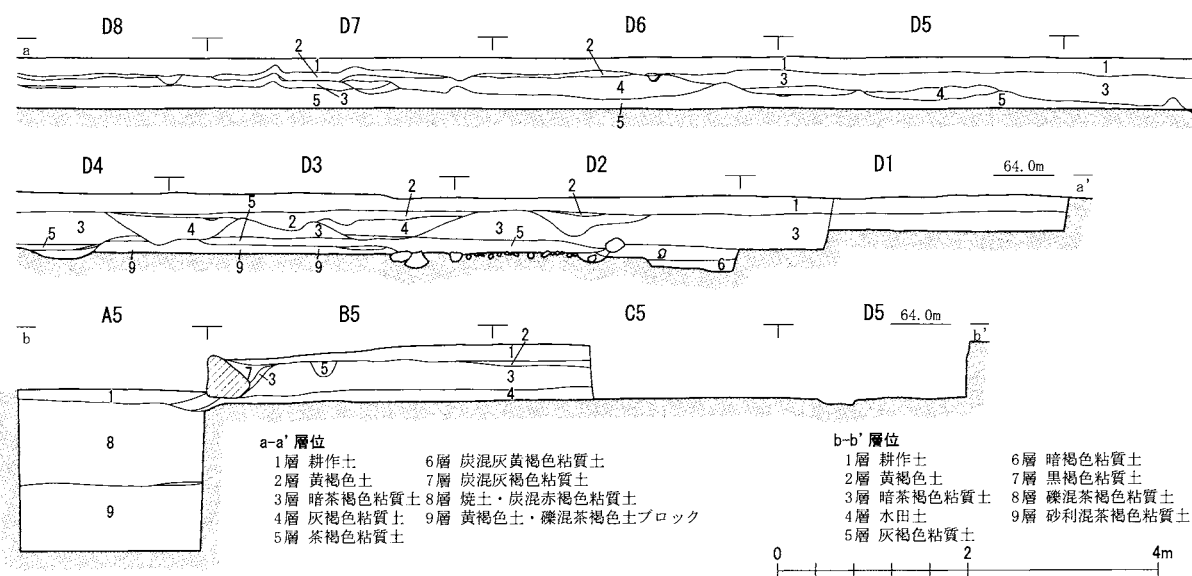
SB6316(PL.62 第103図) B・C5・6に位置。掘立柱建物である。建物南・北・西辺は削平され、柱列は不明であるが、桁行4間、梁間3間と推定される。主軸はN2°Wに向き、桁行4.4m、桁間寸法1.0m、梁間3.9m、梁間寸法1.2～1.4mを測る。床面積は推定約17㎡を測る。柱穴は径0.5m×深さ0.2～0.3mの規模を測り浅い。

SD6311(PL.62 第103図) C・D1・2に位置。排水溝である。主軸はN10°Wに向き、長さ5.0m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。調査区北壁のD2付近でSD6314と直交する。

SD6312(PL.62 第103図) C・D2・3に位置。SD6311と並行し、主軸はN10°Wに向き、長さ4.5m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。D3付近でSD6314と直交する。

SD6313(PL.62 第103図) C3に位置。SD6311と並行し、主軸はN4°Wに向き、長さ1.7m、幅0.4m、深さ0.2mを測る。SD6314の手前1.3m付近で止まる。

SD6314(PL.62 第103図) D2～6に位置。調査区北壁に沿って西流する石組排水溝である。主軸は、N85°Eに向き、長さ14.7m、幅0.7m、深さ0.3mを測る。石組は西端北岸と東端両岸のみが残存していた。



第104図 第128次調査区 a-a'、b-b' 断面(縮尺1/40)

3. 遺物 (PL. 87・88 第105～107図)

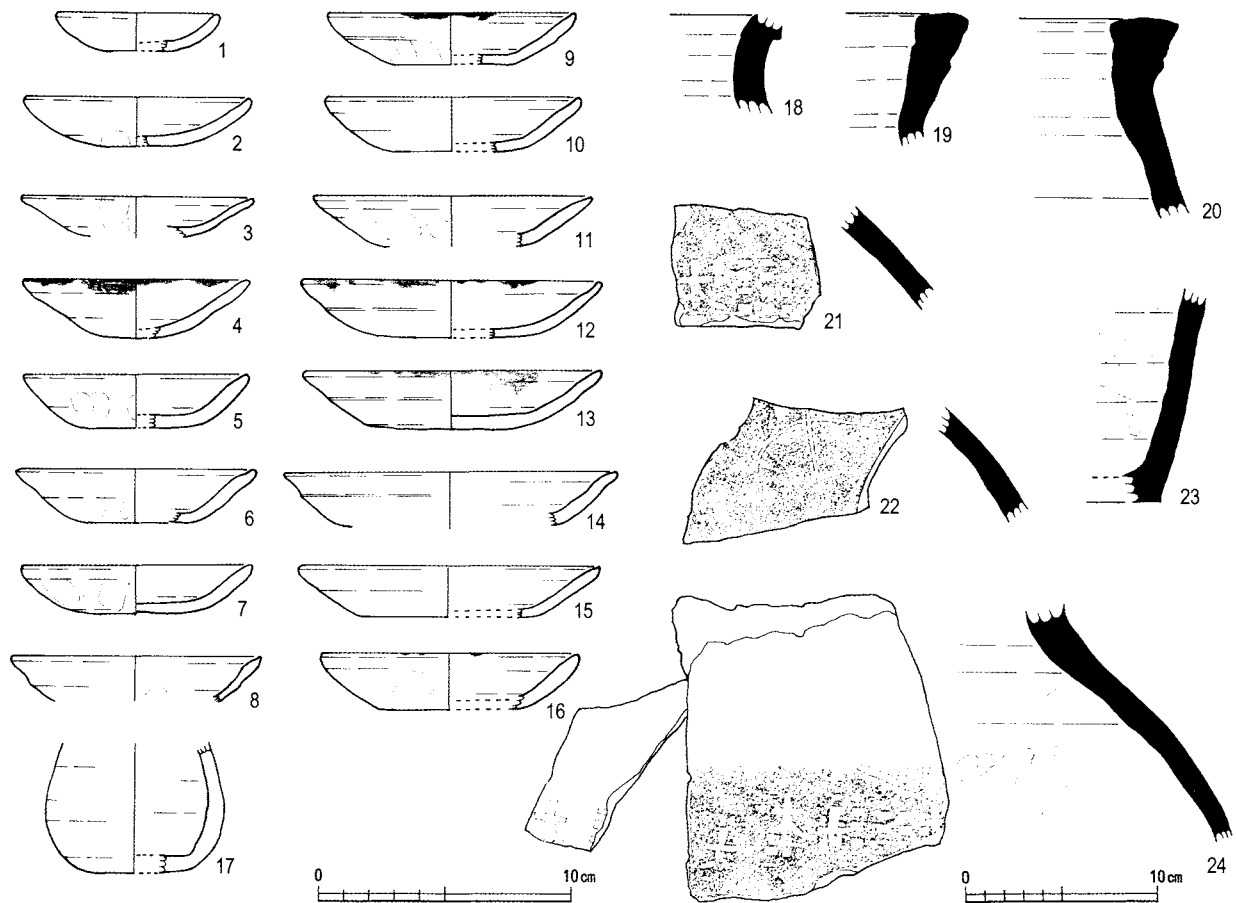
遺物は1～66までを掲載した。ほぼ包含層の出土遺物で占められる。内訳は土器(陶磁器類) 1～44、金属製品 45・46、土製品 47、石製品 48～60、銭貨 61・62、その他の遺物(石器) 63～65、高麗青磁梅瓶 66である。以下、特徴的なものについて概要を述べる。

出土土器(PL. 88 第105～107図) 土師器小皿 1・2は、底部が丸底になる浅皿形C類である。3～16は杯形C類である。口端部にススが付着し、灯明皿として使用されたものは4・9・12・13である。9・12・13は口径9.0～12.0 cmを測り、口端部に強いヨコナデによる段をもつ。

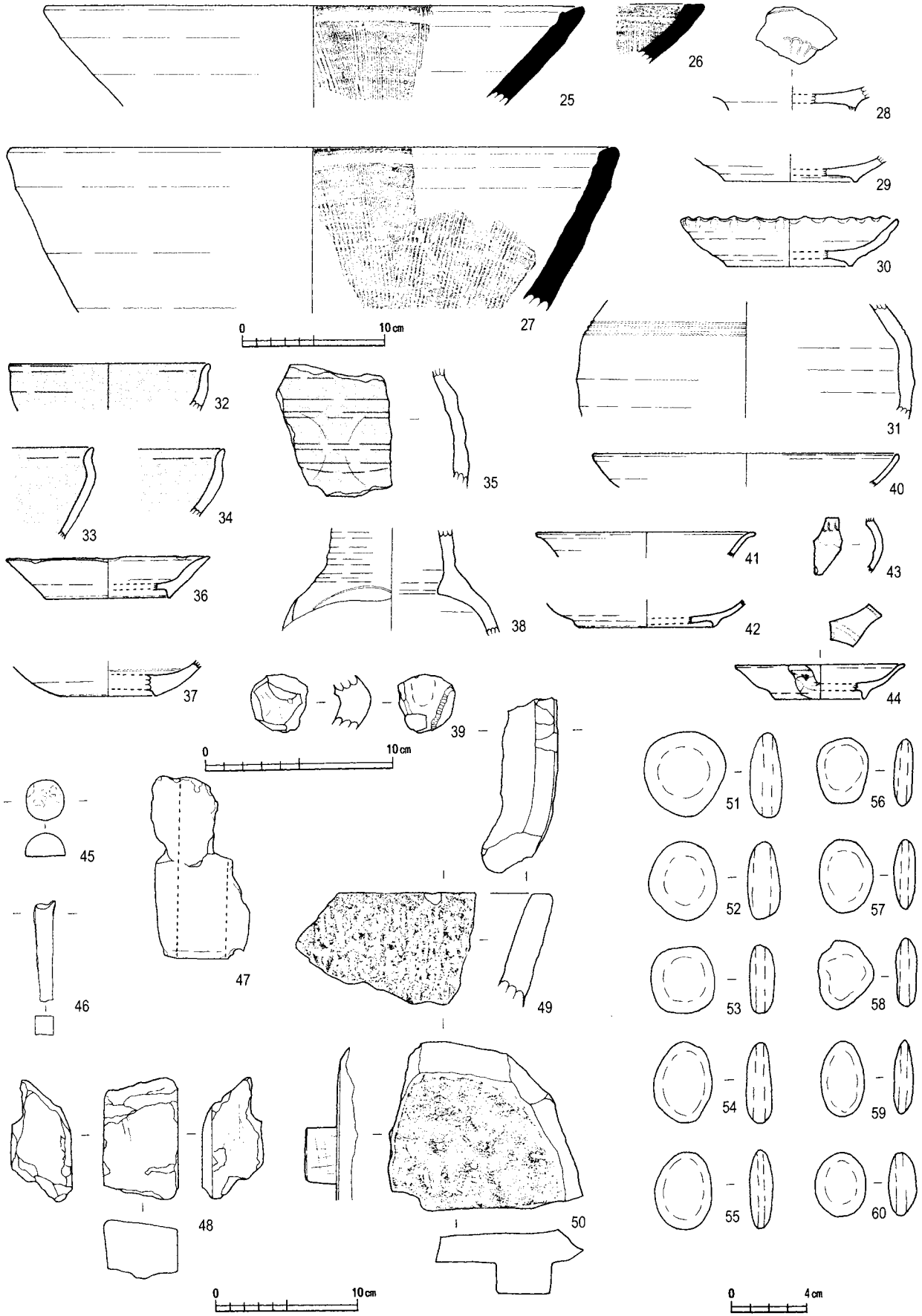
越前焼甕 22の胴部上位には弓矢状のへラ記号、壺 24の胴部上位には「本」・格子目文の押印が入る。播鉢 25・26の口端部は平坦であり、口端部内側に段を有す。25の内面には幅2.8 cm・10条の卸目、27の内面には幅3.0 cm・11条の卸目入る。

灰釉輪花皿 30は口径11.6 cmを測り、口唇部は波状を呈す。壺 31は胴部上位に条線が3条めぐる三筋壺である。鉄釉天目茶碗 32～34は直線状に外方へ立ち上がり、口端部で上方へ屈曲してやや外反する。瓶は胴部が下膨れの器形になると考える。青磁稜花皿 36は口唇部に切れ込み状の押圧を入れて花卉状に成形している。皿 37の底部は碁笥底である。花瓶 38は精緻であり、頸部に稜線をもつ。胴部上位に曲線文がへらで施されている。39は表裏に釉がかかり、表面に豆粒線が2条陽刻されている。人物を象形化した燭台や花瓶の一部の可能性がある。白磁皿 40～42は非常に薄手のつくりである。

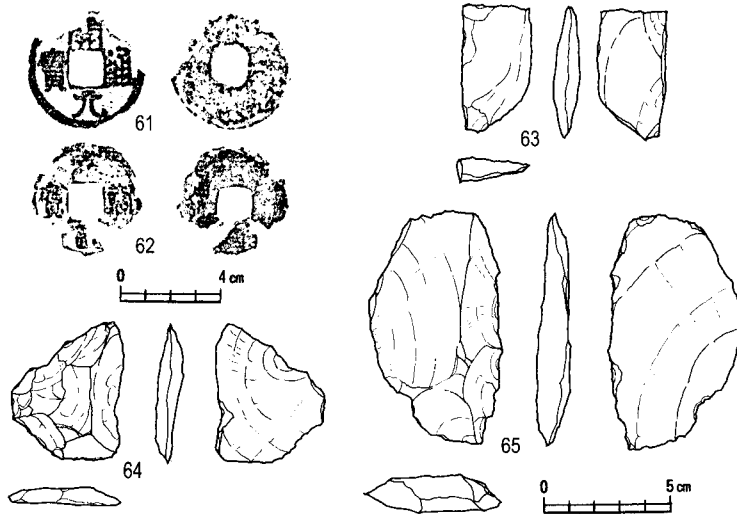
金属製品・土製品(PL. 88 第106図) 弾丸 45は半球形で径1.3 cmを測る。酸化により表面は白色を呈す。鉄釘 46は長さ3.6 cmを測り、釘頭、釘先は欠損している。断面は0.6 cm角の方形を呈す。47は轆の羽口である。



第105図 第128次調査 出土土器(縮尺1/3、1/4)



第106図 第128次調査 出土土器、土製品、石製品(縮尺1/3、1/4、2/3)



第107図 第128次調査 銭貨、その他の遺物(石器)(縮尺1/3、2/3)
 色であるが、他は暗灰色である。

銭貨(PL.88 第107図) 銭貨61・62の2枚が包含層から出土した。61は「開元通宝」、62は不明である。2枚は溶着する。

その他の遺物(PL.88 第107図) 石器の剥片が3点出土した。63・64は剥片であり、64の左上側辺には打点が残る。65は右側辺に押圧剥離を施し、刃部を形成している。66は高麗青磁の梅瓶であり、12世紀代のものと考えられる。素地に白色土を象嵌し、文様を描いている。

石製品(PL.88 第106・107図) 砥石48は長さ8.6cm、幅5.2cm、厚さ4.6cmを測る。表面、左右側面の3面に砥面をもつ。上下端面は欠損し、背面は剥離している。石盤49は平面が長楕円形を呈すと考えられる。内外面は平滑に仕上げられている。50は底部片であり、径3.8cm、高さ2.2cmを測る円柱状の脚を有す。底面の厚さは2.0cmを測る。基石は49～60が出土し、形状は円・楕円形であり、断面は円盤状である。石材は頁岩である。51・53・59・60は黒

Ⅶ. まとめ

1. 八地谷川南岸(第 63・112・114・137・143 次調査)

第 63 次調査【城戸ノ内町字木蔵】 調査の結果、B～F トレンチで遺構が検出された。第 112・114 次調査の遺構と照合すると、B トレンチで南北幹線道路 SS260、第 112 次調査第 I 区域石組排水溝 SD4810、同第 II 区域の井戸 SE5047、同第 II 区域礎石建物 SB5034 に伴う砂利敷が検出された。

E トレンチでは同第 VI 区域土坑 SK5357 と道路 SS5060 の砂利敷きが東西に渡って散在して検出された。F トレンチでは第 114 次調査 SD5042 西端を検出したことになるが、越前焼大甕の破片を含む SK5355 については、第 114 次調査において確認できなかった。本調査は、全体的に遺構が比較的良好な状態で残っていたため、後に続く八地谷川の調査の契機となった。

第 112 次調査【城戸ノ内町字雲正寺】 調査の結果、5 つの区画が確認され、南北基幹道路 SS260 から西へ上る東西道路 SS5059 を基準とした区画が検出された。

第 I 区域では掘立柱建物 SB5036 を中心として、東側に門 SI4910 を構え、北西から南西にかけて石積施設 SF5055・5054・5053、井戸 SE5049 を配置していた。西側の第 VI 区域との境界には段差部分に石垣を築いていた。北側の SX5069 は焼土が堆積し、カマドまたは炉と推定され、儀礼に伴い構築されたものとする。

第 II 区域は、下層の土蔵 SB5034 を中心として、石積施設 SF5052、井戸 SE5047 が配置されていた。上層の建物も存在しようだが、検出できなかった。

第 III 区域は、東西道路 SS5059 の区画溝である SD5043・5040 によって T 字状に区画され、埋甕遺構 SK5057 を内蔵する礎石建物 SB5361 が中心の建物となる。SD5040 は、西側の SD5042 と直線状につながっていたが、SB5361 を構えた後、埋められていた。

第 IV 区域は、礎石建物 SB5033 が敷地いっぱい建てられ、SF5051、SX5066 などが付属したとする。第 V 区域は調査区の南端部を占め、礎石建物 SB5072、掘立柱建物 SB5031 を中心として、東側に門 SI4909 を構え、敷地の北東隅に石積施設 SF5050 を構築していた。南東には小規模ながら庭 SG5056 が築庭され、SD5038 も庭に関連するとする。

第 114 次調査【城戸ノ内町字雲正寺】 調査の結果、3 つの区画が確認され、第 112 次調査区の成果と照合すると、八地谷川南岸で計 8 つの区画が検出されたことになる。

第 VI 区域と第 VII 区域は二つで区画 VI を構成することが明らかになり、方形の掘立柱建物が 4 棟、長方形の掘立柱建物が 2 棟を検出した。構築順は SB5337、SB5325、SB5035、SB5304 である可能性が高い。SB5255 は北辺に道路 SS5272 が接続し、これらを堂と参道と理解した場合、SS5272 の北西側に位置する SK5291 出土の石盤 212 と播鉢 98 は、SB5255 に関連する儀礼に伴う埋納遺物と考えられる。SB5255 の南側で検出された SK5236 出土の越前焼壺 99 もおそらく同様な背景で埋納されたとする。SX5239 は平面形が眼鏡状になる複式のカマドと推定され、カマド部は破壊されているが特殊な形状を呈している遺構である。周辺の遺構から見ても、やはり、SB5255 は神性を期待され、日常とは一線を引いた建物ではないかと考える。

第 VIII 区域は SD5042 と土塁石垣 SA5196 で北辺を区画し、東側は SA5183、西側は第 IX 区域の石垣 SA5162 を敷地の境としていた。北側には下層に床面積約 21㎡を測る小規模な礎石建物 SB5191 を構築し、その後、上層に床面積約 110㎡の大型建物 SB5165 を構築し、最上層において床面積 70㎡以上と推定される SB5164 を構築していることが明らかになった。南側には SD5176・5175 に区画された SB5166 が、北側の礎石建物と並行する形で検出された。SB5166 は上層の礎石建物であり、桁行 5 間、梁間 2 間で床面積約 33㎡と小規模である。

建物内に長さ 2.7m×幅 1.8m を測る空間が 4 つ見出され、SB5165 に伴う馬小屋のような施設ではないかと考える。

第IX区域は調査区の西側を占め、最高所に位置する。中心となる建物は掘立柱建物 SB5200 であり、第VI区域 SB5337 と同規模になる。第IX区域へは SD5163 を側溝とする坂を上がるが、周辺は削平され判然としない。カマド SX5199、井戸 SE5198 は付属施設と考える。

第 137・143 次調査【城戸ノ内町字木蔵・斎藤】 第 137 次調査では、南北基幹道路の西側に A～G トレンチを設定し、第 143 次調査では、第 137 次調査で検出した SD4798 の全容を確認した。

第 137 次調査 A トレンチでは北側土塁石垣 SA4784、南側土塁石垣 SA6801、南側の側溝 SD4798、砂利敷道路 SS4822 を検出した。SA4784 の下層には SV6802 が同一方向をもって重複していることが判明した。SS4822 は構築時の高さから、最終的に 0.8m ほど嵩上げして複数回改修をしていたことが明らかになった。

B トレンチでは第 104 次調査から北に延びる土塁石垣 SA6812、東西に延びる SD6805 を検出した。SD6805 内には土坑 SK6801 が重複していた。D トレンチでは井戸 SE6808 を検出し、石臼 44 が出土した。F トレンチでは石積施設 SF6810 から土器類がまとまって出土した。G トレンチでは暗渠 SZ6811 を検出した。

2. 八地谷川北岸(第 113・118・128 次調査)

第 113 次調査【城戸ノ内町字木蔵・雲正寺】

調査の結果、3 つの区画が確認され、北端を東西道路 SS5091、南端を東西道路 SS5090 で区画した区割りを検出した。第 I・II 区域で【区画 I 武家屋敷】、第 III 区域で【区画 II 町屋】、第 IV 区域で【区画 III 広場】の一部が確認したことになる。3 つの区画は、全体的に後世の開墾等で削られており、遺構の残存状況は良くない。

第 I 区域では礎石建物 SB5118～5123 などを検出したが、全体像が把握できる建物は不明である。西側は土塁石垣 SA5094 を境とする。

第 II 区域では、SX5113・5112 が石列として最終段階に区画 I を区分したと考える。中心となる建物は検出できなかったが、SK5100 や SK6025、G26 において白磁を主体に青磁、染付が多く出土している点は注目しなければならない。周辺の石積施設 SF5110・5097 や井戸 SE5098・5099 の配置から見ても、埋甕遺構 SK5100 を覆い、これらの品を扱うような建物が存在した可能性は高いと言わざるを得ない。

第 I 区域と西側の第 III 区域の境には幅約 3.0m を測る南北道路 SS2952 が検出され、SS2952 を中程まで下った地点において土塁石垣 SA5130 内に門 SI5135、土塁石垣 SA5136 南端で門 SI5137 を検出した。第 III 区域においては砂利敷面が多く散見されたが、第 113 次調査において、遺構は井戸 SE5139 以外明確なものは確認できなかった。

第 118 次調査【城戸ノ内町字雲正寺】 調査の結果、武家屋敷、広場、町屋、墓域などの 4 つの区画が確認され、上段水田において、第 IV 区域で【区画 III 広場】、第 V 区域で【区画 IV 武家屋敷】、第 VI 区域で【区画 II 町屋】を検出し、最上段の第 VII 区域で【区画 V 墓域】の状況が明らかになった。第 113 次調査区の成果と照合すると、八地谷川北岸においては計 5 つの区画を検出したことになる。

第 IV 区域の区画 III の広場は、1 辺約 17.0m×幅 0.3m を測る溝で正方形に区画され、敷地面積は約 290㎡を測る。西側に隣接する区画 IV の武家屋敷に伴うものと考え。遺物もわずかであり、広場の遺構は区画溝を除くと石積施設 SF6000 のみであり、当初から広場の役割を担っていたと考える。

第 V 区域は調査区北西隅を占め、礎石建物 SB5970、掘立柱建物 SB5971・5972 が重複して検出された。構築順は下層の床面積約 32㎡を測る SB5971、床面積約 53㎡を測る SB5972 を構築した後、上層の床面積 177㎡を測る大型礎石建物 SB5970 を構築したと考える。周辺で土蔵と有力視される SB5973、井戸 SE5989・5962、

石積施設 SF5964 を付属施設として検出した。

第VI区域では掘立柱建物 SB5904 を中心として井戸 SE5851・5866、道路 SS5860 などの付属施設を検出した。遺物を含む土坑や小穴は SB5904 の南東側に集中していた。

第VII区域は最上段に位置し、区域の中央付近で火葬骨を含む焼土が充填した土坑が集中して検出され、北側の第VI区域との境となる S.T45 付近で大量の笏谷石製の石塔を検出し、八地谷川の川上が墓域であったことが明らかになった。

第128次調査【城ノ内町字八地】 下層面では掘立柱建物、区画溝が検出された。12世紀代の高麗青磁梅瓶も出土し、寺院関連の施設が存在した可能性は濃厚になった。今後の調査に注意が必要とされる。

参考文献

Ⅲ. 第63次調査

福井県立朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 XX』一昭和63年度発掘調査整備事業概報一 福井県立朝倉氏遺跡資料館 1989年3月

Ⅲ. 第108次調査

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』一中山間地域総合整備事業施設間連絡道整備事業に伴う発掘調査 第108次 第110・111次 第116次調査一 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2005年3月

Ⅲ. 第112次調査

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 33』一平成13年度発掘調査・環境整備事業概報一 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2002年3月

Ⅲ. 第114次調査

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 35』一平成15年度発掘調査・環境整備事業概報一 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2004年3月

Ⅳ. 関連137次調査

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 43』一平成24年度発掘調査・環境整備事業概報一 2002年3月 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

木村孝一郎「特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡(第137・140次発掘調査)」『年報28』一平成24年度一 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター編 2014年3月

Ⅳ. 第143次調査

福井県教育庁埋蔵文化財調査センター編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 44』一平成25年度発掘調査・環境整備事業概報一 2013年3月 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター

Ⅴ. 第113次調査

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 34』一平成14年度発掘調査環境整備事業概報一 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2003年3月

Ⅴ. 第118次調査

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 36』一平成17年度発掘調査・環境整備事業概報一 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2006年3月

Ⅵ. 第128次調査

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 39』一平成20年度発掘調査・環境整備事業概報一 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2009年3月

写 真 图 版



(1) 第63次調査区遠景(南東から)



(2) 同遠景(北西から)



(3) BトレンチSA4926、SS260(南東から) (4) 同(南から) (5) 同SD4816、SS260(南東から) (6) 同(南から)



(1) BトレンチSD5043、SE5046(南西から)



(2) 同SD4810、SA4926(南から)



(3) 同SE5047(南西から)



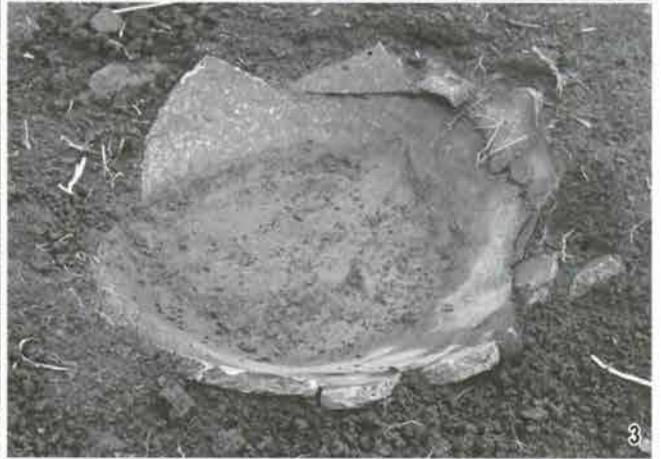
(4) 同SE5047(北西から)



(1) CトレンチSD5043(南から) (2) 同(北西から) (3) 同(西から)



(4) DトレンチSD5042(南東から)



(1) DトレンチSD5042(北東から) (2) Eトレンチ(南西から) (3) EトレンチSK5357(北東から)



(4) FトレンチSD5042(北西から)



(1) FトレンチSD5042(南東から)



(2) 同(北東から) (3) 同(南西から) (4) 同SK5355(南西から)



(1) 第112次調査区遠景(北西から)



(2) 同遠景(南から)



(1) 第112次調査区遠景(北東から)



(2) 同遺構全景(南から)



(1) 第112次調査区遺構全景(南西から)



(2) 同遺構全景(北東から)



(1) SV5063付近石灯籠213・214(北東から) (2) 石灯籠214(南から) (3) 石灯籠213(北から)



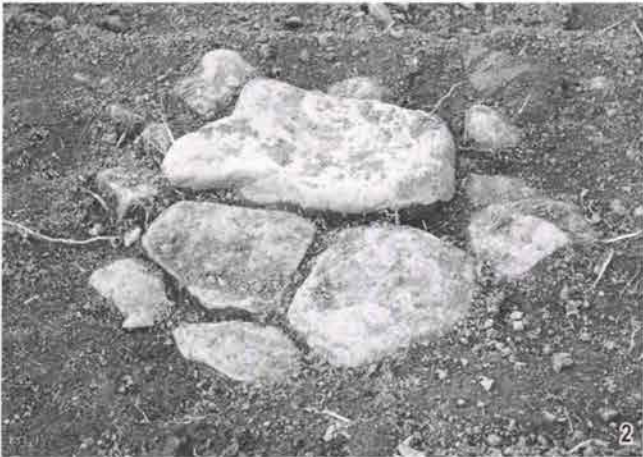
(4) SV4904(南東から) (5) SI4910(東から) (6) 同(南東から) (7) 同(北西から)



(1) SX5069、SF5055、SD5044・5045・5073(西から)



(2) 同(北東から)



(1) SX5069(南西から) (2) SX5075(北西から) (3) SB5036,SE5049(北西から) (4) SF5053・5054,SE5048(北西から)



(5) SF5053・5054(南東から) (6) SE5048(南東から) (7) SE5049(南から)



(1) 第Ⅱ区域遺構全景(北西から)



(2) 同遺構全景(南東から)



(1) SB5034(北西から)



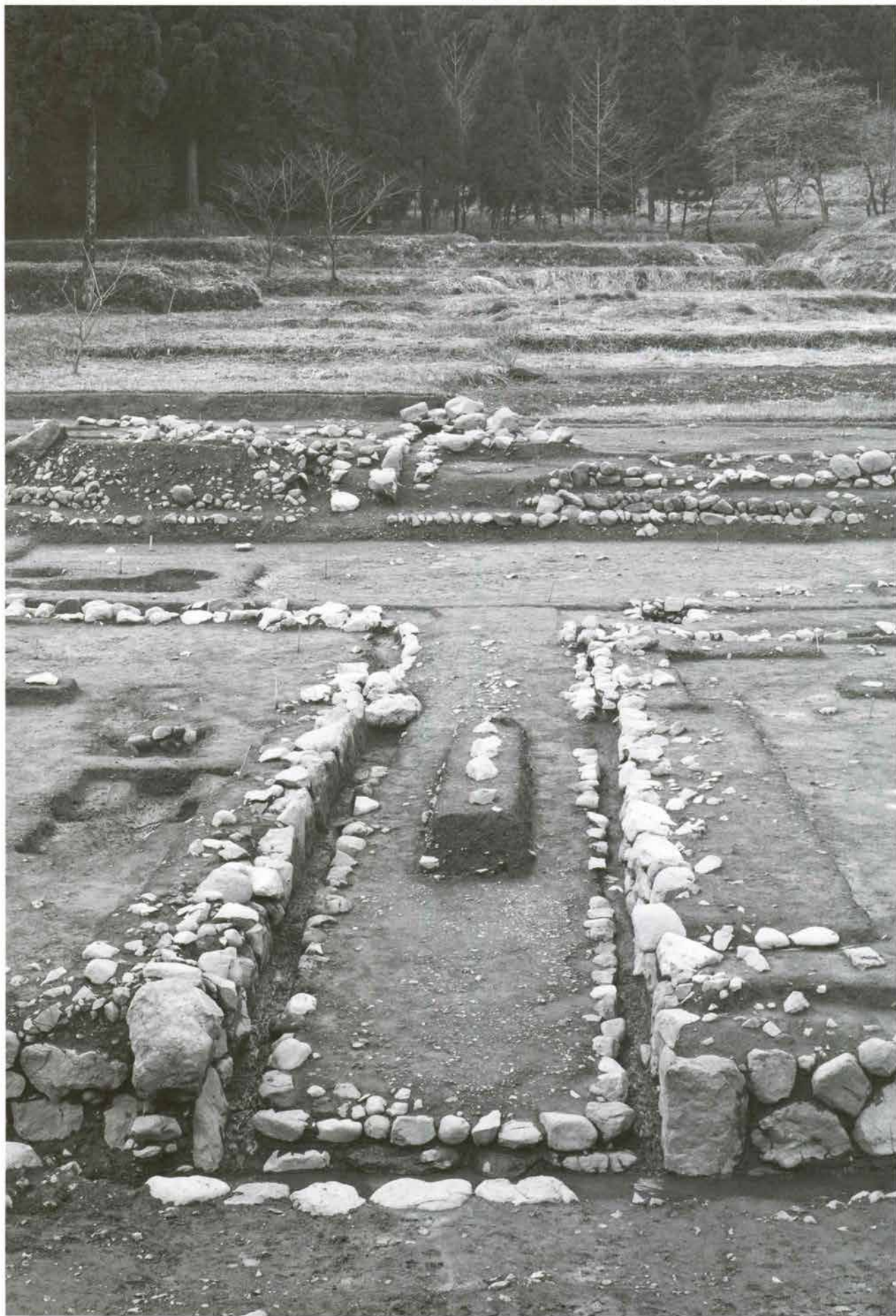
(2) SE5046(南西から)



(3) 第Ⅲ・Ⅳ区域遺構全景(南東から)



(4) 第Ⅲ～Ⅴ区域遺構全景(西から)



(1) SS5059(南東から)



(1) SK5057(南東から)



(2) SD5040出土環状鉄製品197(北東から)



(3) 第V区域遺構全景(北東から) (4) 同遺構全景(南西から)



(1) SS260、SI4909、SX5065、SF5050、SV4902、SD5038・5039、SZ5070(東から)



(2) 同(南東から)



(1) SI4909(南東から) (2) SF5050(南東から) (3) SD5038、SX5065、SS260(南西から)



(4) 第VI・VIII区域遺構全景(東から)



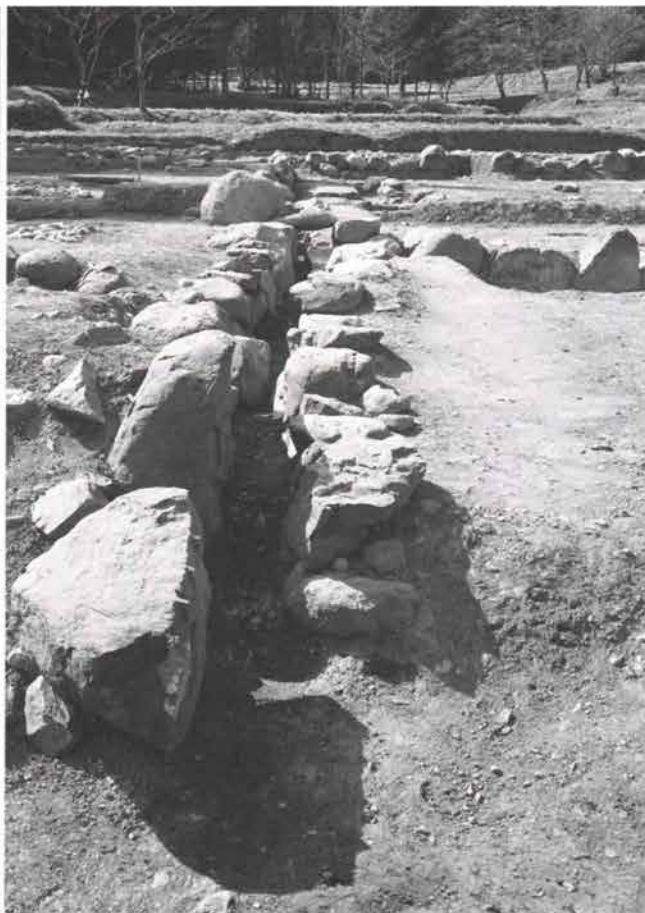
(1) SD5041・5042(南西から)



(2) SD5039(南から) (3) SS5059(南東から) (4) SS5060(北から) (5) SD5042(南東から)



(1) SD5042(東から)



(2) 同(南東から)



(3) SX5360(南東から)



(1) SS5060・SD5041・5042(北東から)



(2) SS5060(北西から)



(1) 第114次調査区遠景(南から)



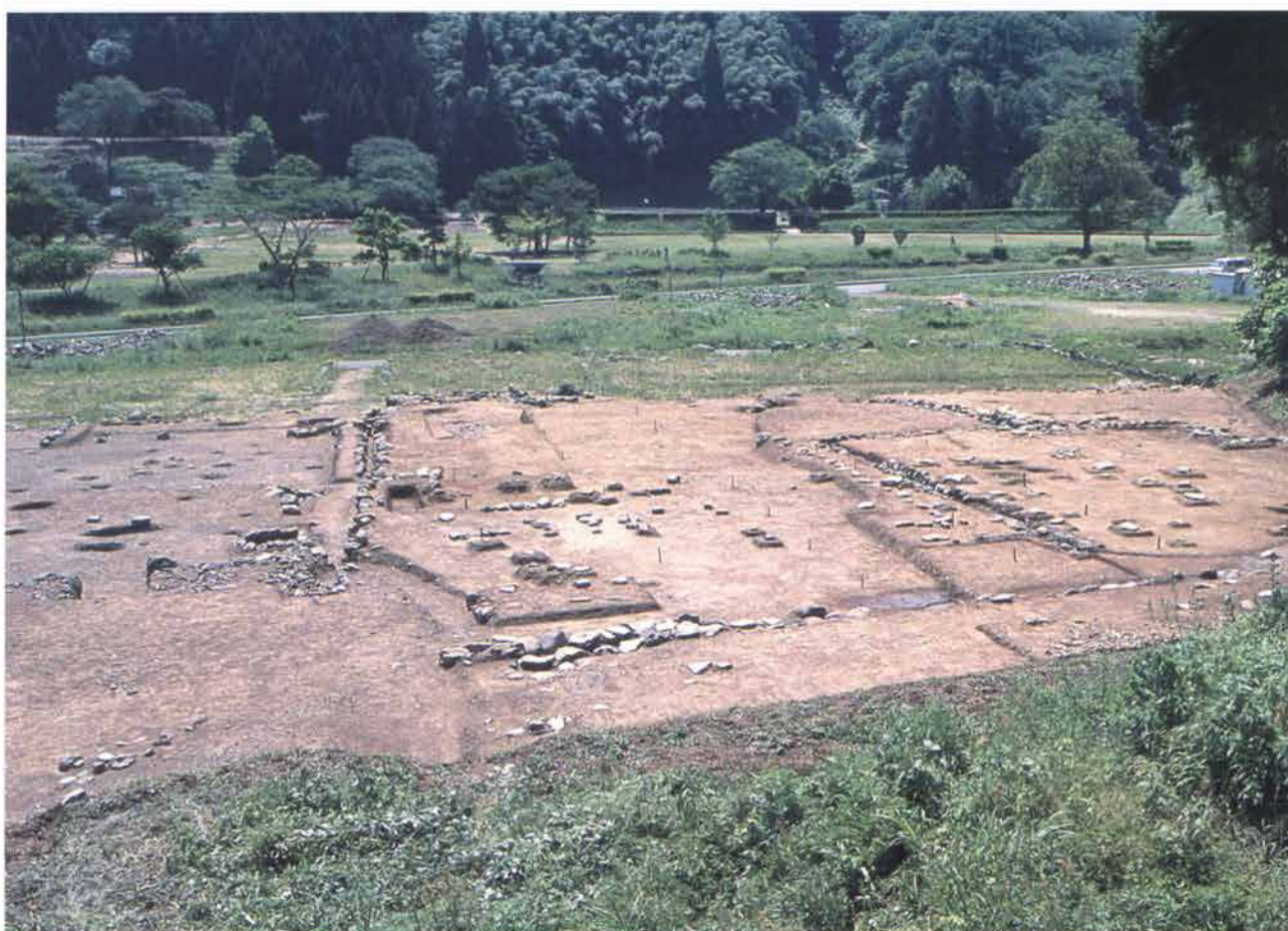
(2) 同遠景(南東から)



(1) 第112・114次調査区遺構全景(南西から)



(1) 第114次調査区北側遺構全景(北西から)



(2) 同南側遺構全景(東から)



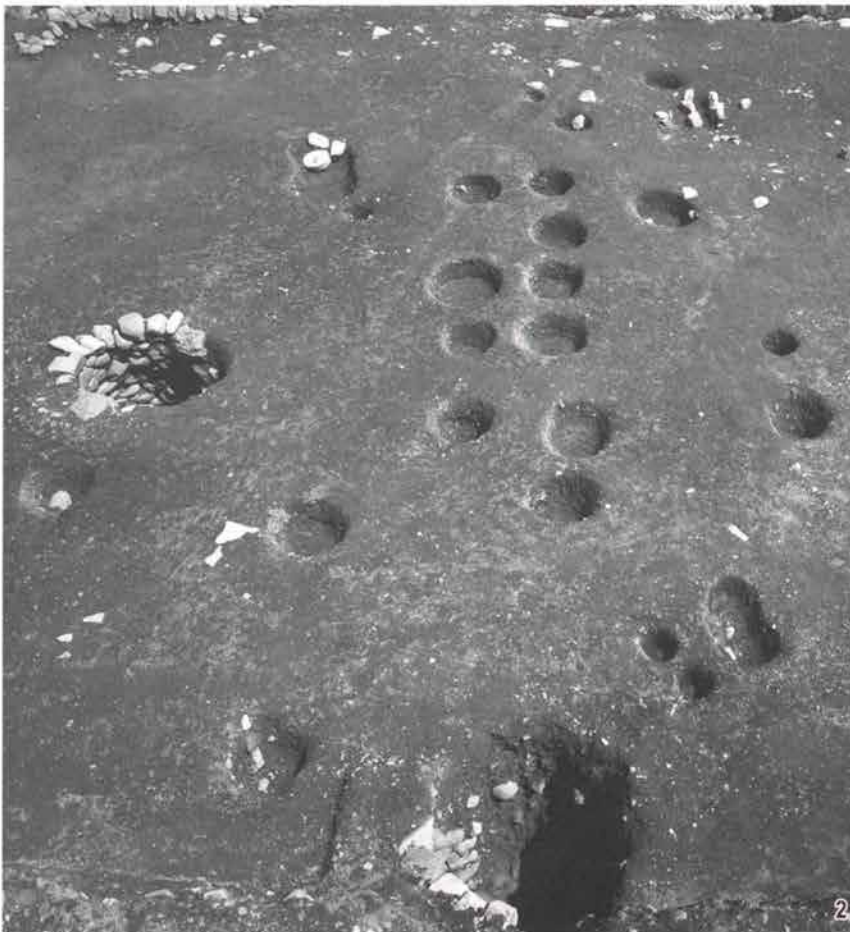
(1) 八地谷川、SD5073、SV5063(北西から)



(2) SD5073、SV5063(北西から) (3) 同(北から) (4) 同(南東から) (5) 同(北から)



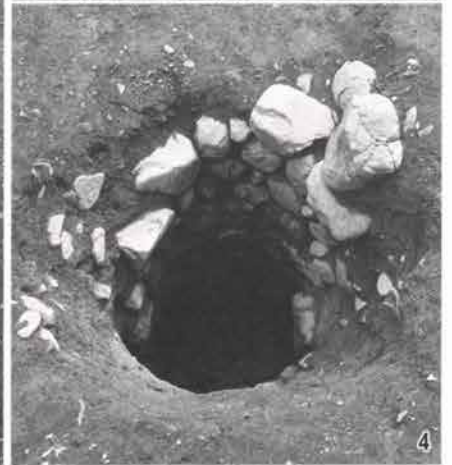
(1) SB5337、SK5344～5352、SE5333・5354・5355(北西から)



(2) 同(南西から)



3



4

(3) SE5354(南東から) (4) SE5355(南東から)



(1) SB5035(北西から)



2



4



3



5

(2) SE5333(西から) (3) SE5324(南東から) (4) SB5325(北西から) (5) SB5304・5311(西から)



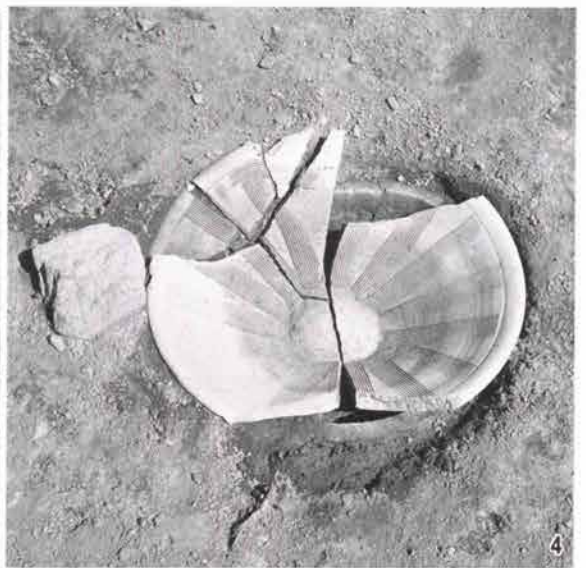
(1) SB5296、SK5291、SS5272、SD5271~5273(北西から)



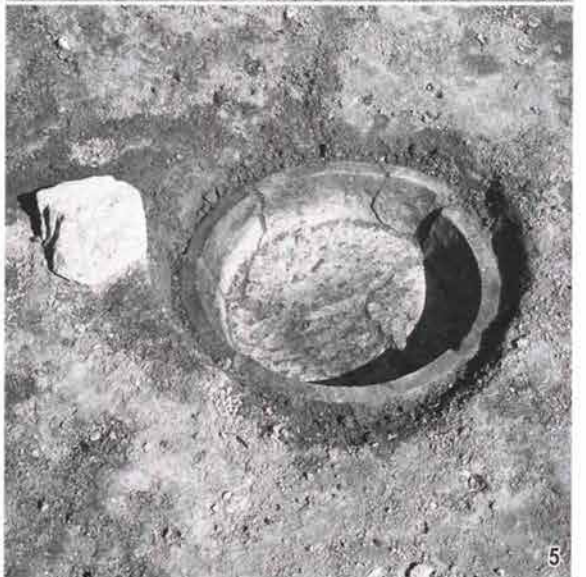
2



3



4



5

(2) SB5296(西から) (3) SK5291(南西から) (4) SK5291出土越前焼擂鉢96(西から) (5) 同出土石盤212(西から)



(1) SK5236(北東から)



(2) SK5236出土越前焼壺99(北東から)



(3) SS5272、SD5271・5273(南西から)



(1) SB5255(北東から)



2



3



4



5

(2) SF5076(北東から) (3) SX5239(南から) (4) SF5218(南西から) (5) SE5225(北東から)



(1) 第Ⅷ区域遺構全景(北西から)



(2) 同遺構全景(東から)



(1) SS5185(西から) (2) SE5184(南西から) (3) SA5196(北東から)



(4) SB5191・5164・5165、SA5191、SD5042(北東から)



(1) SB5191(東から)



(2) SB5165(北西から)



(3) SB5165・5191、SK5173、SA5196、SD5176(南東から)



(4) SB5166、SK5173、SD5175~5177(東から)



(1) SB5166、SK5173、SD5176(南西から)



(2) 第Ⅸ区域遺構全景(南西から)



(3) 同遺構全景(北東から)



(1) SB5200(南東から)



(2) SX5199(北東から) (3) SE5198(東から) (4) SD5163(南東から) (5) SE5161、SX5160(南東から)



(1) 第137次調査区遠景(東から)



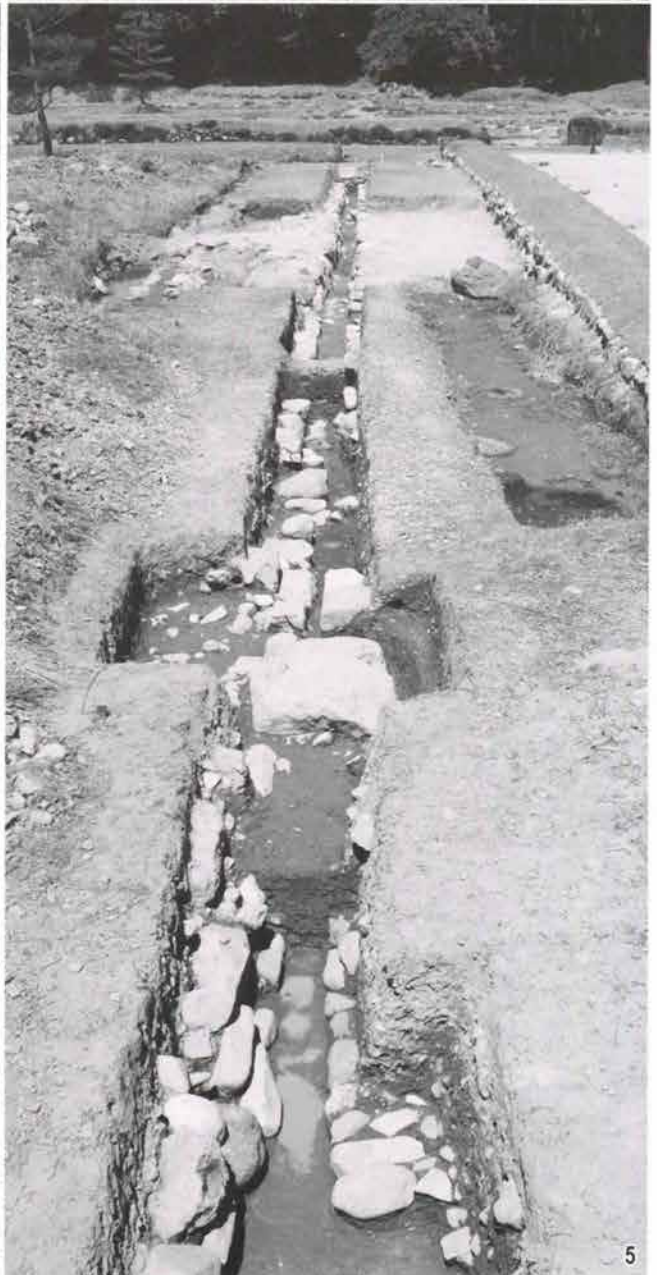
(2) 同遠景(南から)



(1) 第137次調査区遠景(南から)



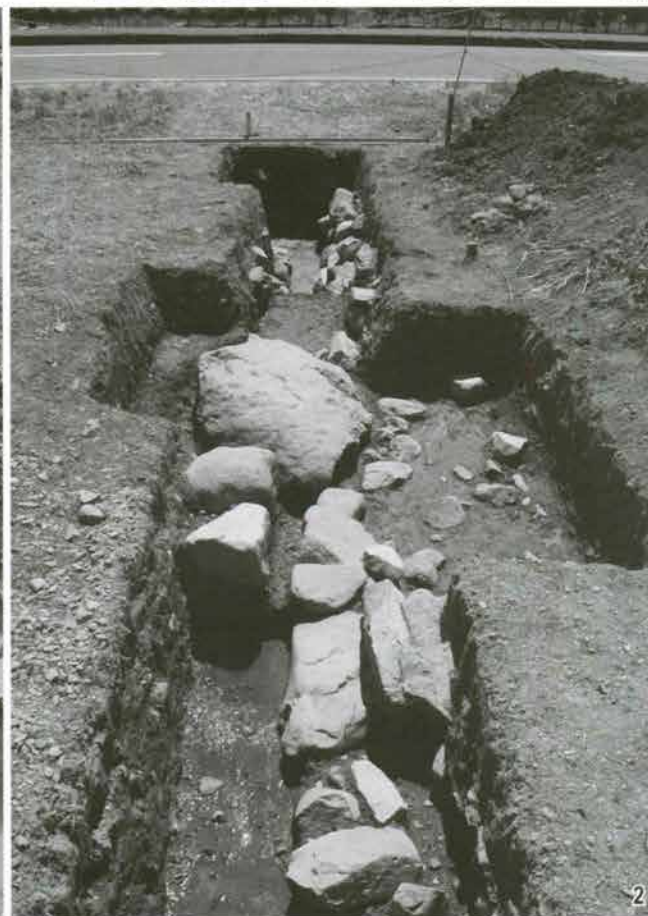
(2) 同遠景(東から)



(1) 第137次Aトレンチ(北西から) (2) 同(南東から) (3) 同SA6802(南西から)
(4) 第143次4トレンチSA6802断面(北西から) (5) 第143次3トレンチ、第137次AトレンチSD4798(南東から)



(1) 3 トレンチSD4798(南東から)



(2) 同(北西から)



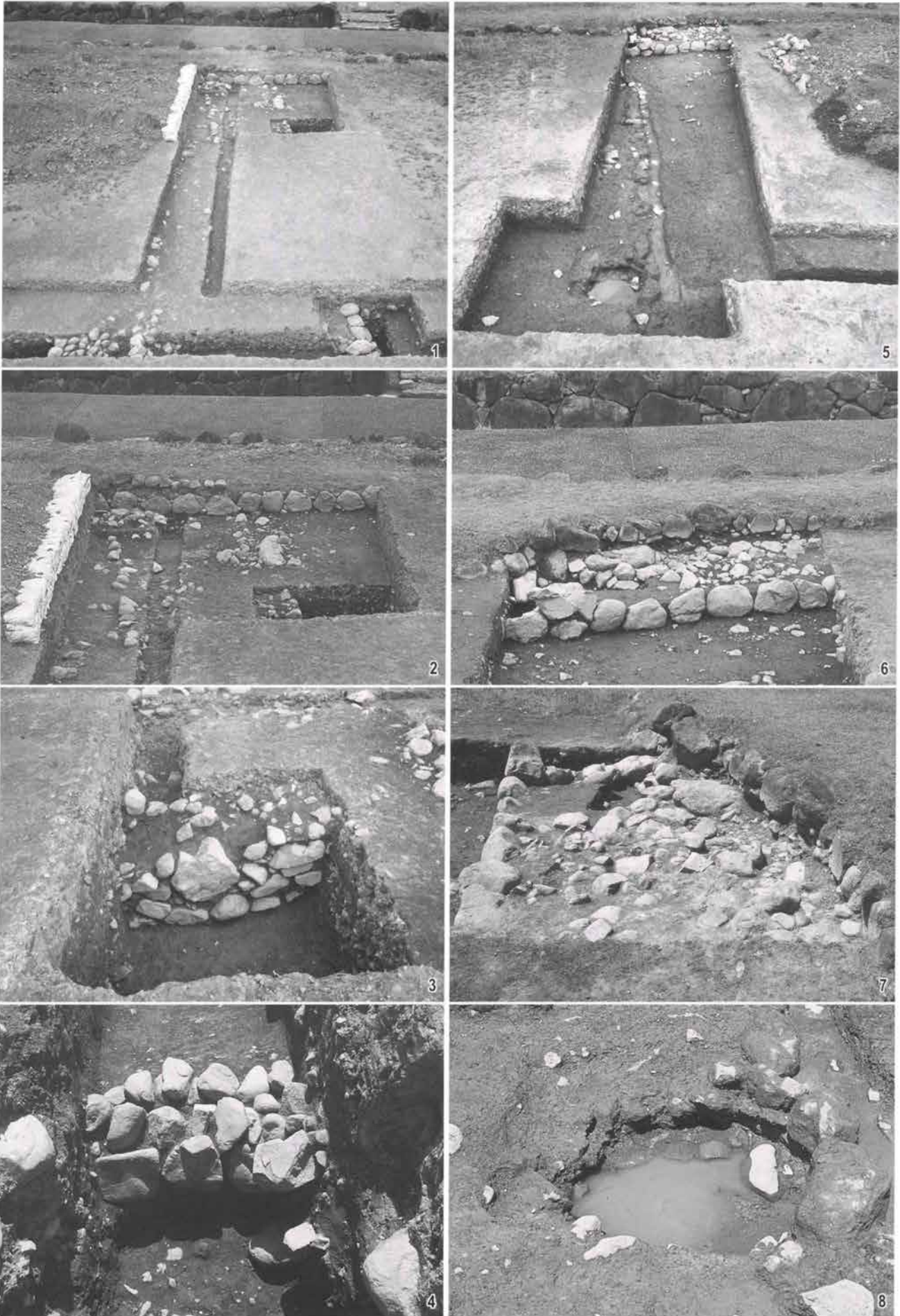
(3) 1 トレンチ、第137次A トレンチSD4797(北西から)



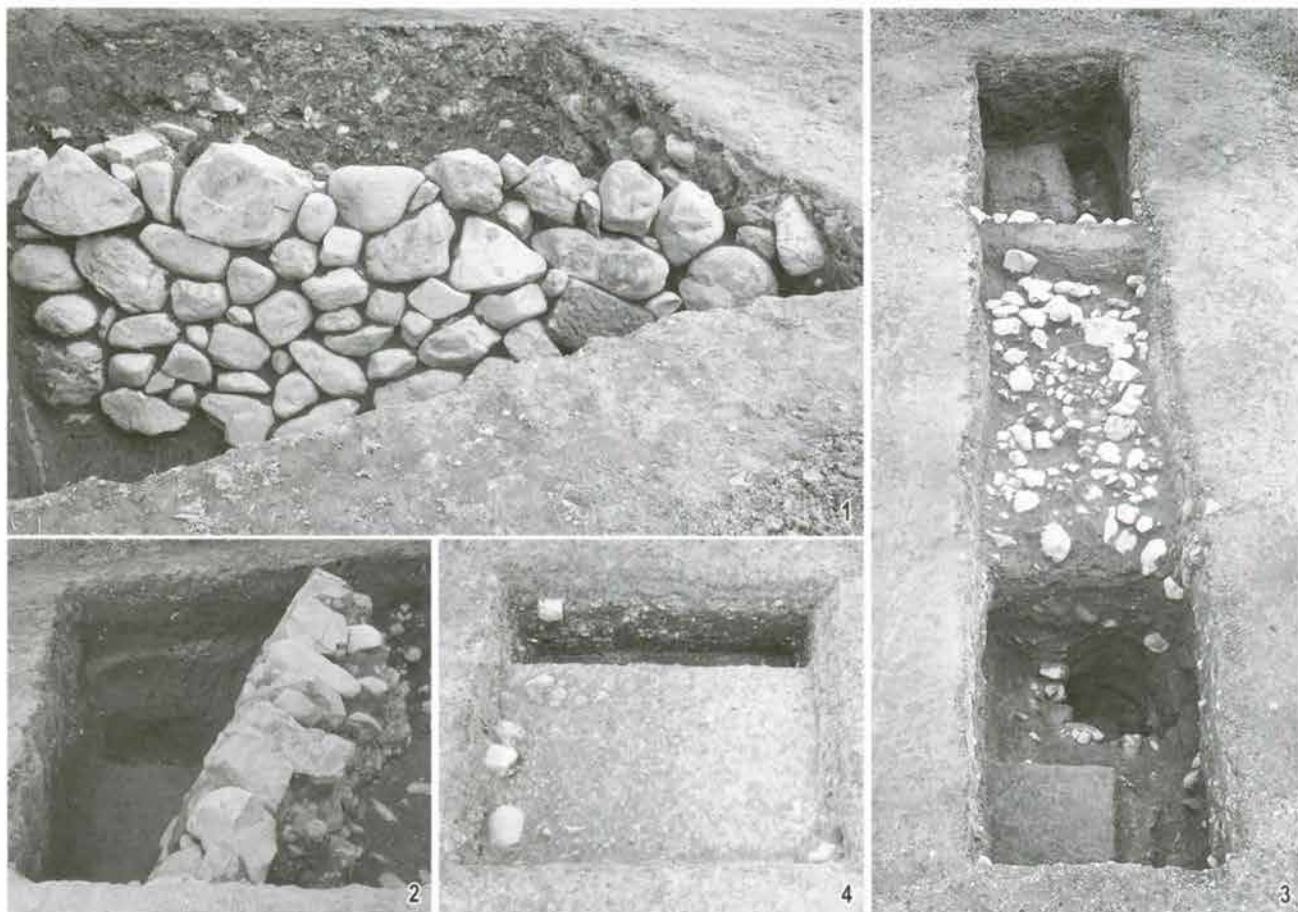
(4) 1 トレンチC-C'層位(南東から)



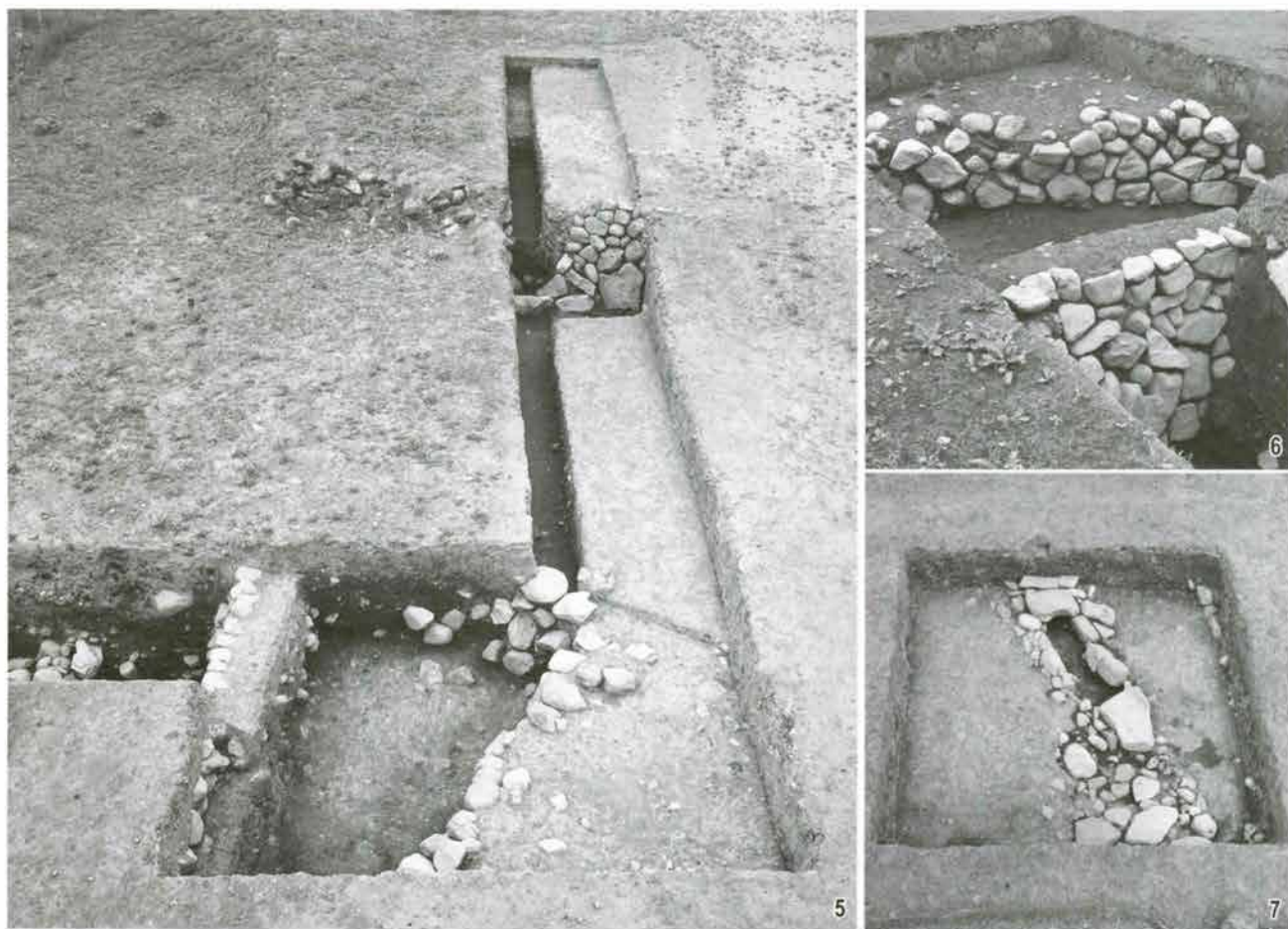
(5) 2 トレンチ(北西から)



(1) B-①トレンチSV6806(南東から) (2) 同(南東から) (3) B-②トレンチSV6806(北東から)
(4) B-③トレンチSV6806(南西から) (5) B-④トレンチSD6805(南東から) (6) 同SV6812(南東から)
(7) 同(北東から) (8) B-④トレンチSV6807(南東から)



(1) Cトレンチ水田石垣(北東から) (2) 同(北西から) (3) DトレンチSE6806(西から) (4) Eトレンチ(南東から)



(5) FトレンチSF6810、SV6809(北から) (6) 同SF6810(南東から) (7) GトレンチSZ6811(北西から)



(1) 第113次調査区遠景(南から)



(2) 同遠景(北西から)



(1) 第113次調査区遠景(南東から)



(2) 同遠景(北東から)



(1) 第Ⅰ区域遺構全景(南から)



(2) 第Ⅱ区域遺構全景(東から)



(1) SA5095(南西から) (2) 同(北東から)

(3) SI5140(北西から)

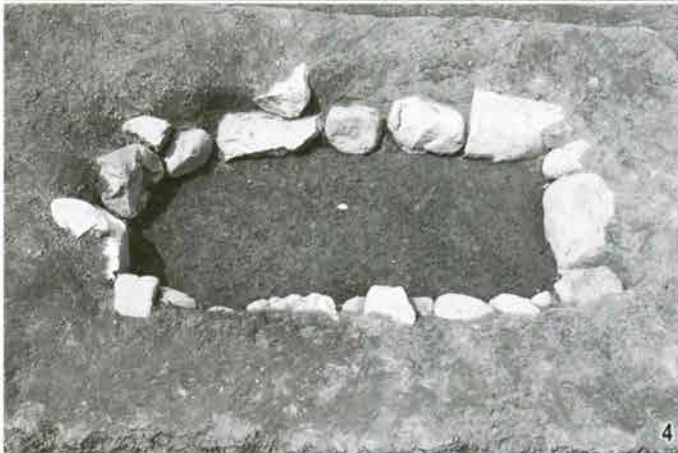


(4) SD5096(南西から)

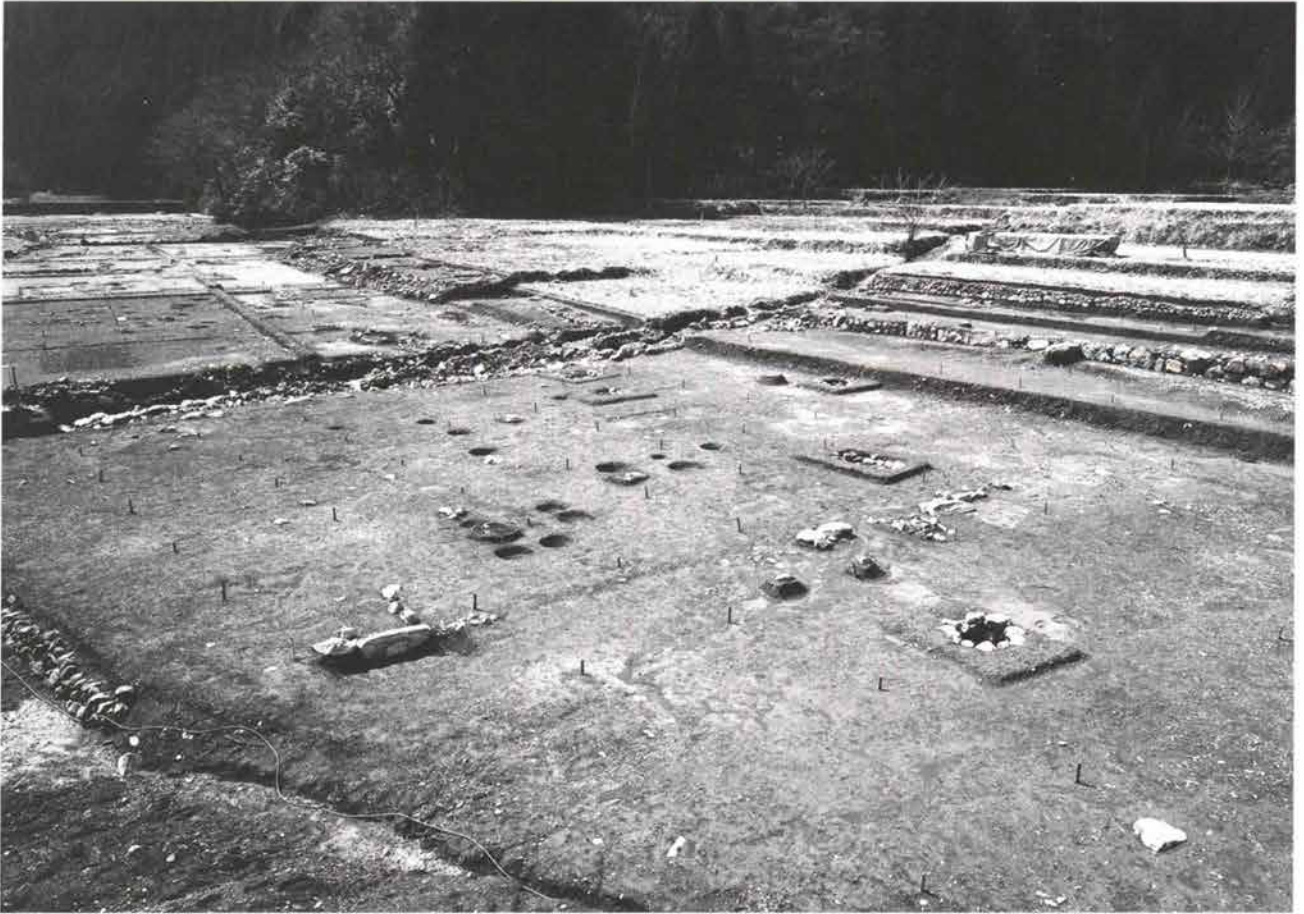
(5) 同(北東から)



(1) SA5092、SD5127、SZ5126(北東から) (2) SZ5126(北東から) (3) SB5118・5119(北西から)
(4) SD5124(南東から) (5) 同(北西から)



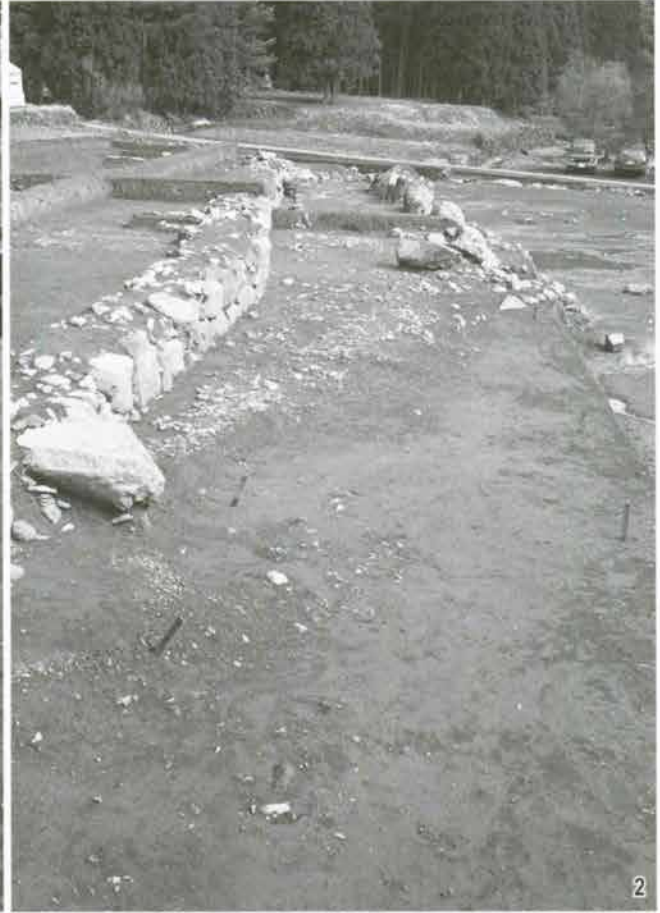
(1) SK5100(南東から) (2) 同(南東から) (3) SF5110(南東から) (4) SF5097(北東から) (5) SE5111(南東から)
 (6) SE5099(南東から) (7) SE5098(東から) (8) SX5112(北東から)



(1) SX5112・5113(東から)



(2) 第Ⅲ区域遺構全景(南東から)



(1) SA5094、SS2952、SA5130・5136(北東から) (2) 同(南西から) (3) SZ5131(南東から) (4) SI5135(南東から)
 (5) SI5137(南東から) (6) SA5138、SS5090(南西から)



(1) 第118次調査区遠景(北から)



(2) 同遠景(北東から)



(1) 第118次調査区遠景(南東から)



(2) 同遠景(北から)



(1) 第V区域遺構全景(北東から)



(2) 第V・VI区域遺構全景(南西から)

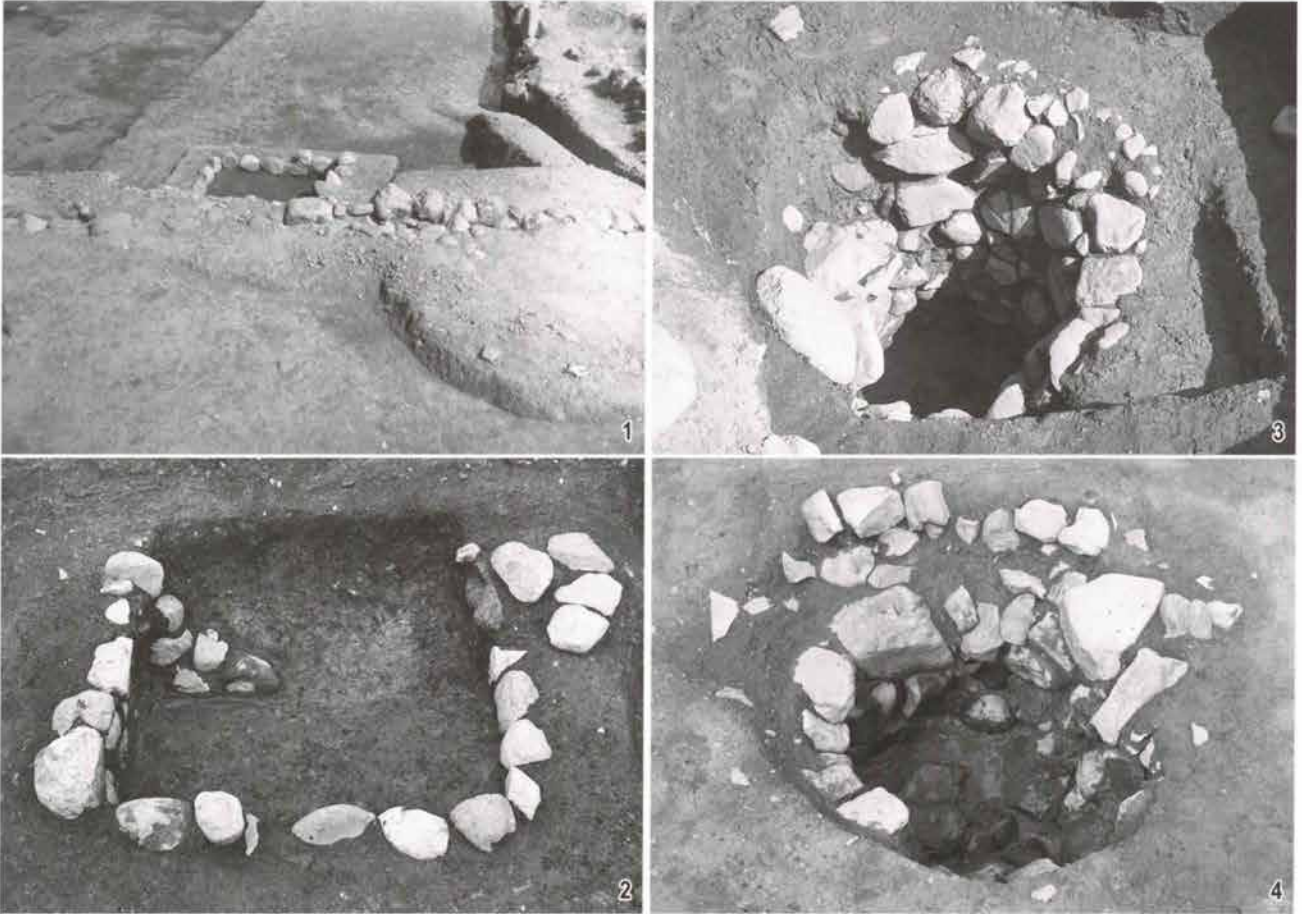


(1) SD5992(南東から) (2) 同(北東から) (3) SD5991~5993(南東から)



(4) SS5994、SD5991~5993(北東から)

(5) SD5996・5999、SS5994、SF6000(南西から)



(1) SF6000、SS6002(北西から) (2) SF6000(南東から) (3) SE5989(北から) (4) SE5998(南から)



(5) SB5997、SD5996(南西から)



(1) SB5972・5973(北東から)



(2) SB5970・5972(南西から)



(1) SB5973、SX5983(北東から) (2) SS5988(北東から) (3) SB6019(南西から)



(4) SF5964(北東から)



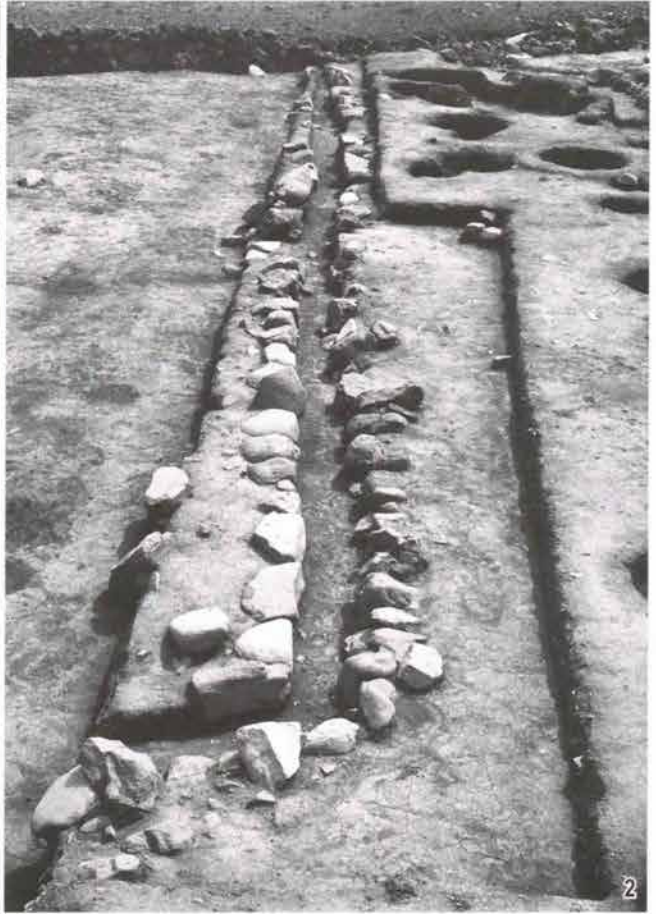
(1) 第VI区域遺構全景(南東から)



(2) 同遺構全景(北東から)



(1) SD5850(北東から)



(2) SD5853(北東から)



(3) SS5860、SX5857、SD5869、SK6014・6015(北西から)



4



5

(4) SE5851(北東から) (5) SE5866(南から)



(1) SK5974(西から) (2) SK6015(南から) (3) SK6018(北東から) (4) 釉裏紅238



(5) SV5907・5908(南東から)



(1) R-T46表土出土石塔類



(2) R-T46表土出土石塔類(南東から)



(1) 第七区域北側遺構全景(南西から) (2) SK5943~5950(南東から) (3) 同(北東から)



(4) SV5908(南東から) (5) 同(東から) (6) C-C'層位(北東から) (7) SS5909(北西から)



(1) 調査前風景(北から) (2) 同(南西から) (3) 上層面検出状況(東から)



(4) 上層面遺構全景(南から) (5) 中層面検出状況(西から) (6) 中層面遺構全景(西から)



(1) 下層面遺構全景(西から)



(2) SD6314(東から)



(3) SD6314出土青磁梅瓶66(北西から)



(5) C4付近出土土器(北西から)



(4) SD6312出土羽口47(東から)



(6) 同(北西から)

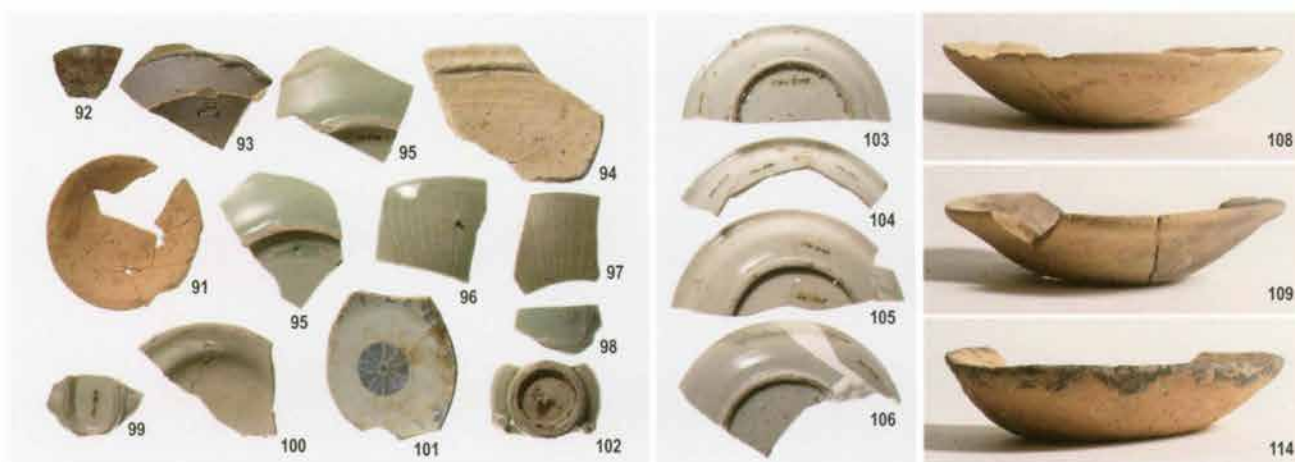


第112次調査 包含層出土土器





(1) 包含層出土土器



(2) SV5063出土土器

(3) SX5074出土土器

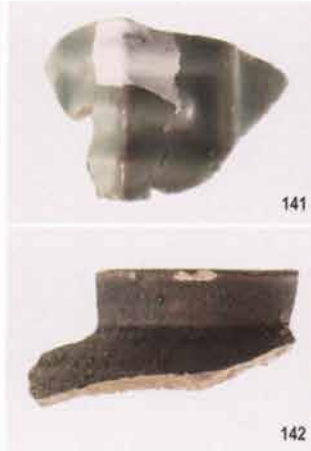


(4) SE5046出土土器

(5) SB5034出土土器



(1) SS5059出土土器



(2) SD5039出土土器



(3) SD5040出土土器



(5) SF5051出土土器



(6) SX5066出土土器



(4) SK5057出土土器



(1)SB5035出土土器



(2) SB5072・5031、SG5056出土土器



(3) SB5042出土土器



(4) 小柄、五徳、環状鉄製品



(5) 土錘、土製円盤、碁石



(6) 石仏



204



205



206



207



208



209



210

211

(7) 板石、台石、石灯笼



(1) 石灯籠 宝珠、笠部、竿部4面（背面、左側面、正面、右側面）



(2) 銭貨



(3) その他の遺物（縄文土器）



(1) 包含層出土土器



(2) 包含層出土土器

(3) SB5325出土土器



(1) SE5355出土土器



(3) SK5236出土土器



100



101



(4) SB5225出土土器



96



96

(2) SK5291出土土器



106

105

107

109



108



123

124

(6) SF5218出土土器



111

112

113

116

117

119

120



114



131

129

130

132



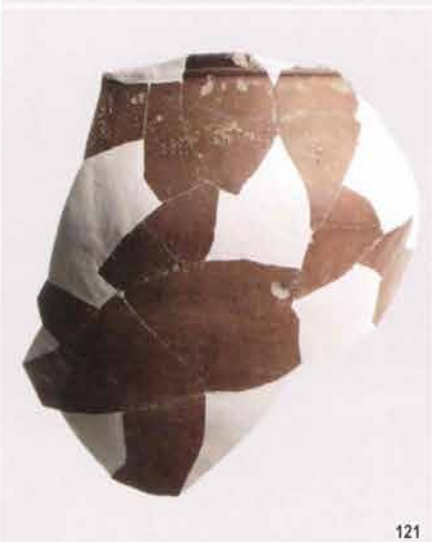
135

138



134

(7) SA5183出土土器



121



122

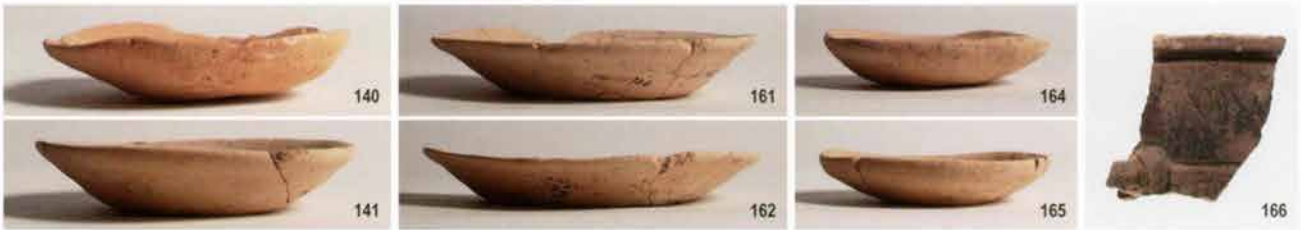


121



122

(5) SE5225出土土器



(1) SD5176出土土器

(3) SK5167出土土器



(2) SB5166出土土器

(4) SD5175出土土器

(5) SE5161出土土器



(6) 鉄釘、火箸、飾金具、銅板

(7) 土製円盤

(8) 石硯



(9) 砥石

(10) 基石

(11) バンドコ



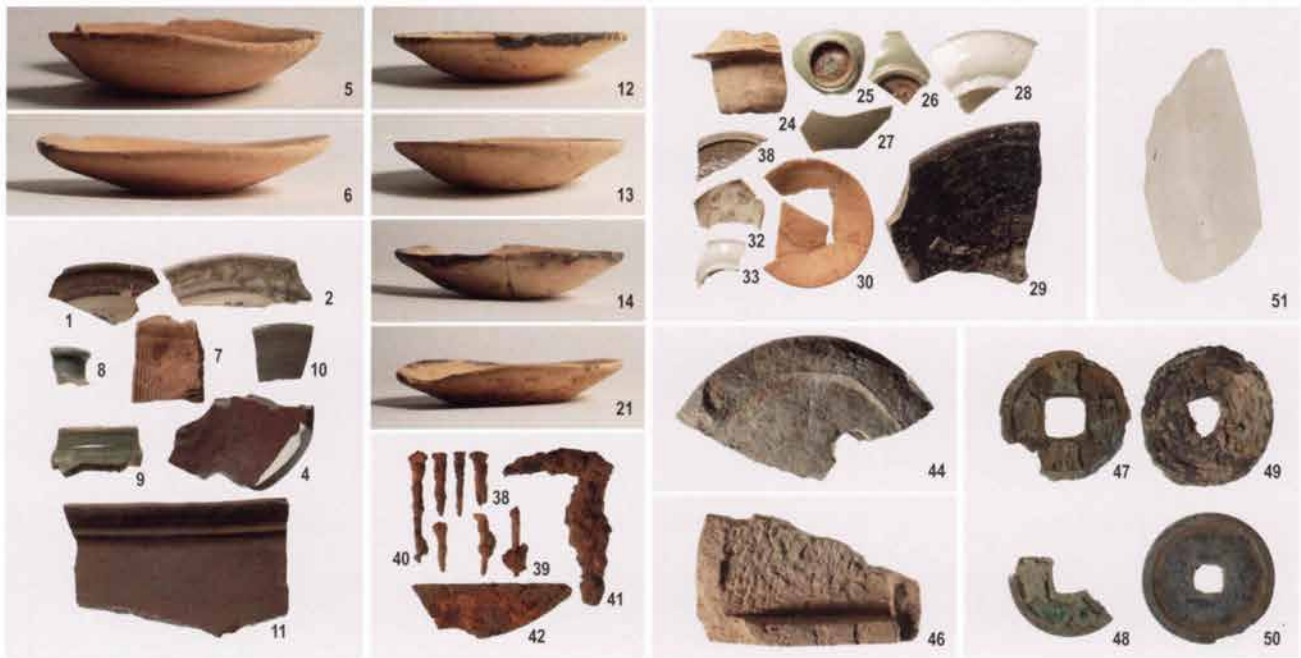
(1) バンドコ

(2) 石盤



(3) 木製品

第137次調査 出土土器、金属製品、石製品、銭貨、その他遺物



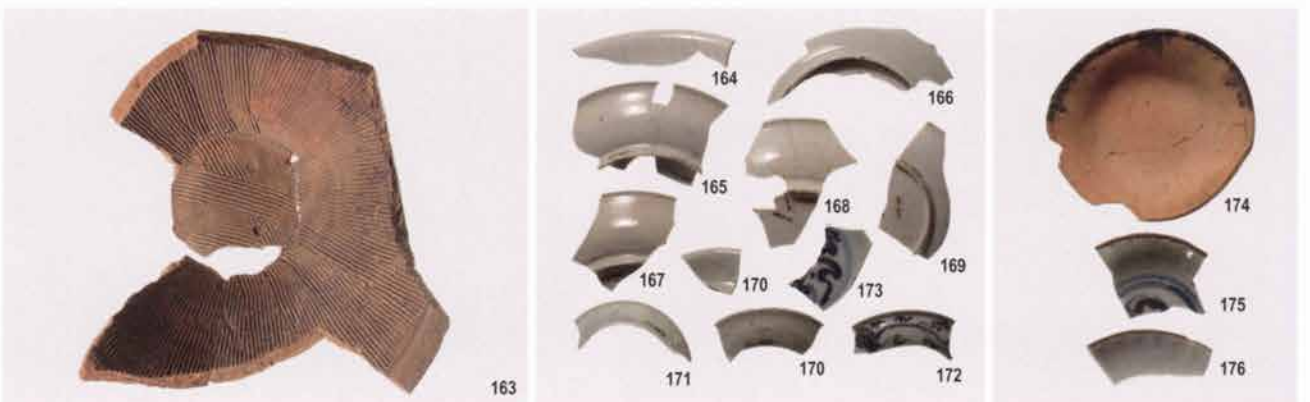




(1) 包含層出土土器



(2) SK5100出土土器



(3) SK5100出土土器

(4) SF5110、SE5099出土土器



(1) SK6025出土土器



(2) SS5090出土土器



(3) SS2952出土土器



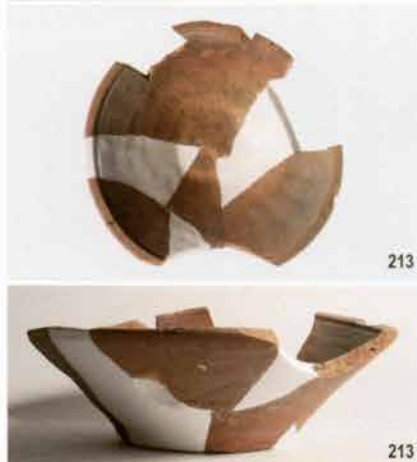
(4) SA5130出土土器



(5) SA5136出土土器



(6) SA5138出土土器



(7) SE5139出土土器



(1) 金属製品

(2) 陶錘、土錘、土鈴

(3) 土製円盤



(5) 石硯、砥石



(6) 碇石



(4) 雑器、下駄



(7) バンドコ

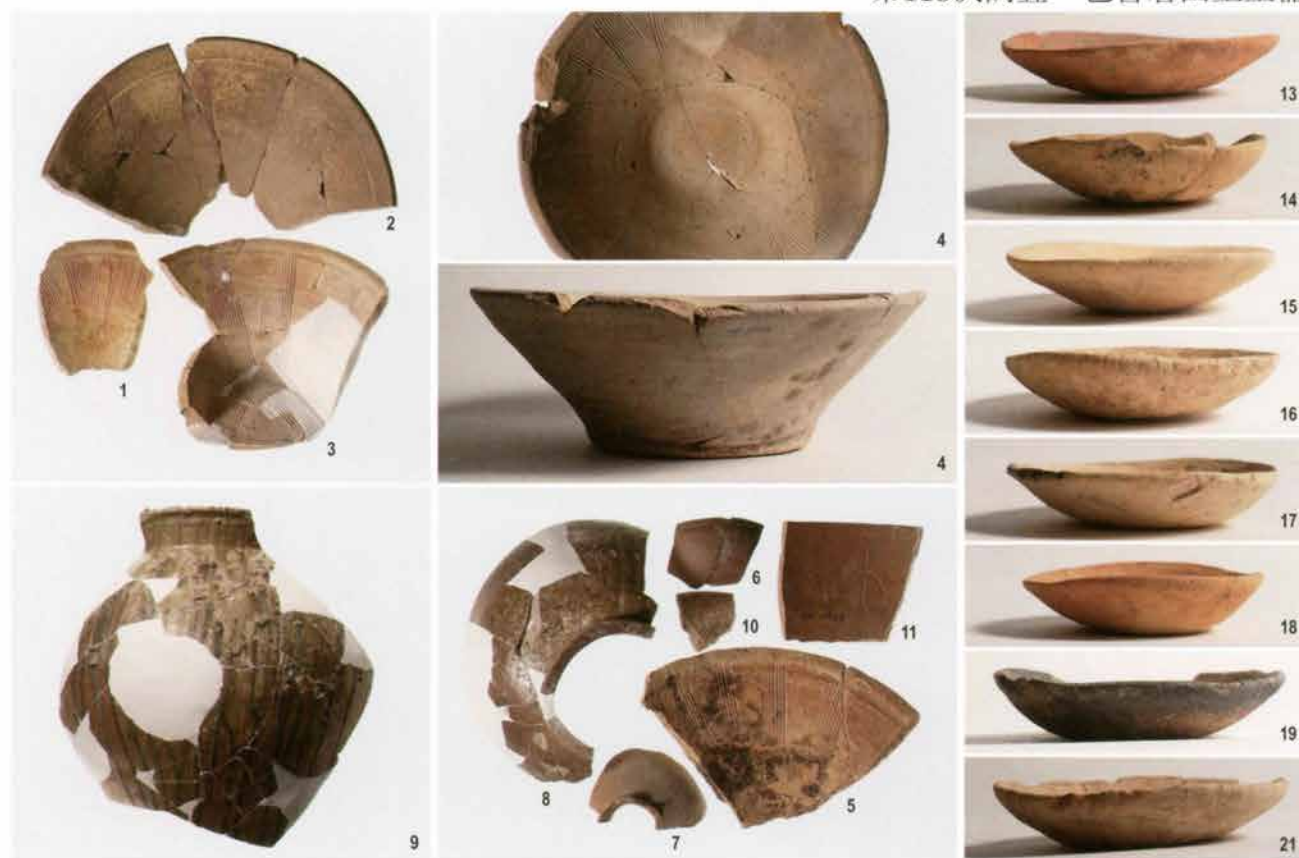
(8) 石盤

(9) 石盤



(1) 石臼、茶臼

(2) 茶臼、石塔、その他遺物、銭貨









(1) 包含層出土土器

(2) SD5996出土土器

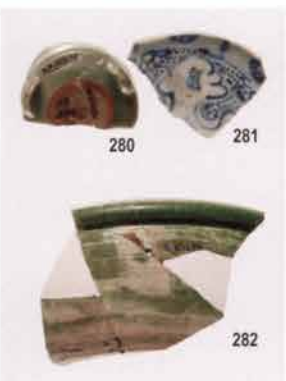
(3) SD5993出土土器



(1) 包含層出土土器

(4) SF6000出土土器

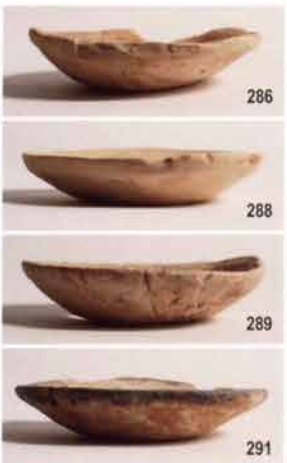
(5) SS5994出土土器



(6) SS6002、SB5970出土土器

(7) SB5970出土土器

(8) SB5973出土土器



(9) SB5972出土土器



(1) SD5973出土土器



(2) SE5964出土土器



(4) SD5966出土土器



(3) SE5962出土土器



(6) SK6027出土土器



(5) SK6023出土土器



(9) SD5853出土土器



(7) SD6034出土土器



(11) SK5974出土土器



(10) SE5851・5866出土土器



(1) SK6026出土土器



(2) SK6014出土土器

(4) SK6036出土土器

(3) SK6030出土土器



(5) SV5908出土土器



(6) 土製品

(7) 金属製品



(1) 石硯、砥石、舍利

(2) 碁石

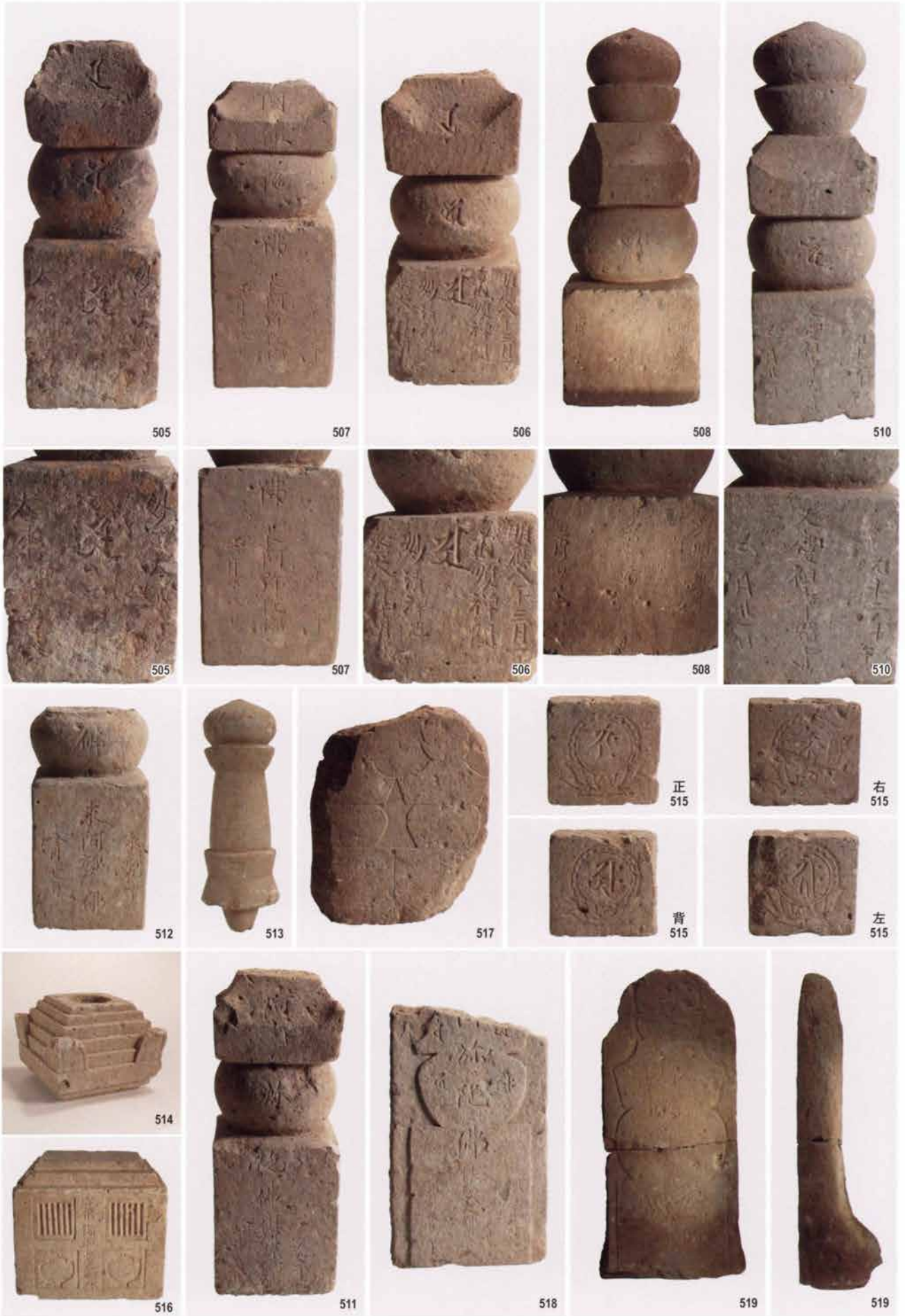


(3) バンドコ



(1) バンドコ、風炉、石鉢、石盤、石臼、茶臼、不明石製品







(1) 漆器、雑器、釣瓶



(2) 釣瓶



(3) 木柁、板材



(1) 銭貨



(2) その他の遺物 (華南陶器、釉裏紅、種子、樺状樹皮、鉛溶解片、鉄塊)

第128次調査 包含層出土土器





(1) 灰釉、鉄釉、青磁、白磁



(3) 弾丸、鉄釘



(5) 砥石



(6) 石鉢



(7) 風炉



(2) 青磁



(4) 羽口



(8) 碁石



61

62



63

64



65



65



66

(9) 銭貨、その他の遺物(石器)

(10) 高麗青磁梅瓶

報告書抄録

ふりがな	とくべつしせき いちじょうだにあさくらしいせきはつかつちようさほうこく
書名	特別史跡 一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 21
副書名	第 63・112・113・114・118・128・137・143 次発掘調査
シリーズ番号	21
編著者名	鈴木篤英
編集機関	福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館
所在地	〒910-2152 福井県福井市安波賀町 4-10 TEL. 0776-41-2301
発行年月日	令和 5 年 3 月 29 日

調査地区	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
第 63 次	福井県福井市城戸ノ内町 字木蔵	18210	史一31	36度 00分 10秒	136度 29分 39秒	19881202～ 19881219	200 m ²	環境整備に伴う 発掘調査
第 112 次	福井県福井市城戸ノ内町 字雲正寺	〃	〃	36度 00分 08秒	136度 29分 39秒	20010402～ 20011227	2,000 m ²	〃
第 114 次	福井県福井市城戸ノ内町 字雲正寺	〃	〃	36度 00分 11秒	136度 29分 38秒	20030701～ 20031225	1,700 m ²	〃
第 137 次	福井県福井市城戸ノ内町 字木蔵・斉藤	〃	〃	36度 00分 06秒	136度 29分 42秒	20120507～ 20120608	300 m ²	〃
第 143 次	福井県福井市城戸ノ内町 字木蔵・斉藤	〃	〃	36度 00分 03秒	136度 29分 41秒	20130606～ 20130719	30 m ²	〃
第 113 次	福井県福井市城戸ノ内町 字木蔵・雲正寺	〃	〃	36度 00分 15秒	136度 29分 44秒	20020402～ 20021225	1,700 m ²	〃
第 118 次	福井県福井市城戸ノ内町 字雲正寺	〃	〃	36度 59分 37秒	136度 17分 44秒	20050401～ 20060331	3,000 m ²	〃
第 128 次	福井県福井市城戸ノ内町 1 字八地	〃	〃	36度 00分 22秒	136度 29分 27秒	200808515～ 20080702	120 m ²	〃

調査地区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八地谷川南岸 第 63 次	屋敷跡	室町・戦国 15・16 世紀	A～F トレンチ 道路 1、溝 1、井戸 1、土坑 1	越前焼、土師器皿、青磁、磁石、 板石	概報：『特別史跡一乗谷朝倉 氏遺跡』XX 一昭和 63 年度 発掘調査整備事業概報 福井 県立朝倉氏遺跡資料館 1989 年 3 月 概報：『特別史跡一乗谷朝倉 氏遺跡』33 平成 13 年度発 掘調査環境整備事業概報 同 2002 年 3 月
八地谷川南岸 第 112 次	〃	〃	第 I 区域区画 I 土塁石垣 1、門 1、暗渠 1、炉 2、 石積施設 3、掘立柱建物 1、溝 3、 土坑 1、井戸 2 第 II 区域区画 II 礎石建物 1、石積施設 1、井戸 1、 石列 1	越前焼、土師器皿、鉄釉、灰釉、 瓦質土器、青磁、琮形青磁瓶、白 磁、染付、小柄、五徳、環状鉄製 品、土錘、土製円盤、碁石、石仏、 板石、石灯籠、銭貨、縄文土器	概報：『特別史跡一乗谷朝倉 氏遺跡』35 平成 15 年度発 掘調査・環境整備事業概報 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資 料館 2004 年 3

調査地区	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八地谷川南岸 第 112 次	"	"	第Ⅲ区域区画Ⅲ 道路 1、溝 3、井戸 1、埋甕遺構 1、礎石建物 1 第Ⅳ区域区画Ⅳ 礎石建物 1、石積施設 1、炉 1 第Ⅴ区域区画Ⅴ 門 1、石積施設 1、溝 1、礎石建物 1、掘立柱建物 1、庭 1、石敷遺構 1、炉 1 第Ⅵ区域区画Ⅵ 道路 1、石列 1、土坑 1 第Ⅷ区域区画Ⅶ 溝 2	"	"
八地谷川南岸 第 114 次	"	"	第Ⅵ区域区画Ⅵ 溝 1、土坑 3、掘立柱建物 5、井戸 4 第Ⅶ区域区画Ⅶ 掘立柱建物 3、土坑 2、道路 1、溝 2、石積施設 2、カマド 1、井戸 1 第Ⅷ区域区画Ⅶ 道路 1、井戸 1、土墨石垣 2、門 1、掘立柱建物 3、石列 1、溝 3、礎石建物 1、埋甕遺構 1、土坑 1 第Ⅸ区域区画Ⅸ 掘立柱建物 1、カマド 1、井戸 2、土墨石垣 1、溝 1、石敷遺構 1	越前焼、土師器皿、鉄釉、灰釉、瓦質土器、青磁、白磁、染付、鉄釘、火箸、飾金具、銅板、土製円盤、石硯、砥石、基石、バンドコ、石盤、漆器椀、面、木簡、ヘラ、小型曲物、桶、土師器、須恵器	概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』35 平成 15 年度発掘調査・環境整備事業概報 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2004 年 3 月
八地谷川南岸 第 137 次	"	"	A～G トレンチ 土墨石垣 2、溝 1	越前焼、土師器皿、羽釜、灰釉、青磁、白磁、鉄釘、庖丁、バンドコ、石臼、茶臼、銭貨	概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』34 平成 14 年度発掘調査環境整備事業概報 同 2003 年 3 月
八地谷川南岸 第 143 次	"	"	1～3 トレンチ 土墨石垣 1、土坑 1	越前焼、土師器皿、青磁、白磁、染付、鉄釘	概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』44 平成 25 年度発掘調査・環境整備事業概報 福井県教育庁埋蔵文化財調査センター 2015 年 3 月
八地谷川北岸 第 113 次	"	"	第Ⅰ区域区画Ⅰ 礎石建物 6、道路 1、土墨石垣 3、門 1、溝 3、暗渠 1 第Ⅱ区域区画Ⅱ 埋甕遺構 1、石積施設 2、井戸 3、土坑 1、石列 2、土墨石垣 1、道路 1 第Ⅲ区域区画Ⅲ 道路 1、土墨石垣 3、暗渠 1、門 2、井戸 1 第Ⅳ区域区画Ⅳ 溝 1、石垣 1	越前焼、越前焼花生、備前焼角杯、土師器皿、羽釜、鉄釉、灰釉、瓦質土器、青磁、白磁、染付、朝鮮陶器、鉄釘、土錘、土製円盤、桶、杓子、ヘラ、箸、下駄、横槌、石硯、砥石、基石、バンドコ、炉壇石、石臼、茶臼、石臼、組合式五輪塔火輪、舟形双五輪塔、舟形五輪塔、土師器、須恵器、銭貨	概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』34 平成 14 年度発掘調査環境整備事業概報 同 2005 年 3 月
八地谷川北岸 第 118 次	"	"	第Ⅳ区域区画Ⅳ 溝 4、石積施設 1 第Ⅴ区域区画Ⅴ 道路 4、石列 2、門 1、溝 2、礎石建物 2、掘立柱建物 3、石積施設 1、井戸 2 第Ⅵ区域区画Ⅵ 礎石建物 1、井戸 3、掘立柱建物 1、溝 4、道路 1、石列 3、土坑 3 第Ⅶ区域区画Ⅶ 火葬墓 8、石垣 1、道路 1	越前焼、越前焼花生、備前焼花入、土師器皿、土師器甕、羽釜、鉄釉、灰釉、灰釉鳥形水滴、瓦質土器、青磁、青磁琮形瓶、青磁酒会壺、青磁壺、白磁、染付、釉裏紅水注、朝鮮陶器、土錘、土製円盤、土人形、土鈴、五徳、鉄釘、靱、飾金具、足金具、弾丸、小柄、銅鏡、紅皿、燭台、砥金具、鍵、扉金具、石盤、石硯、砥石、基石、バンドコ、風炉、石鉢、石盤、炉壇石、石臼、茶臼、石臼、花立、石灯籠、板石、石製井戸枠、一石五輪塔、宝篋印塔、舟形双五輪塔、舟形五輪塔、漆器、桶、木製釣瓶、枡材、銭貨	概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』36 平成 17 年度発掘調査・環境整備事業概報 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 2006 年 3 月
八地谷川北岸 第 128 次	"	"	礎石建物、溝	越前焼、土師器皿、土師器甕、鉄釉、灰釉、青磁、青磁梅瓶、白磁、染付、鉄釘、弾丸、羽口、砥石、石盤、基石、銭貨、石器	概報：『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡』39 平成 20 年度発掘調査・環境整備事業概報 同 2009 年 3 月

令和5年3月15日 印刷

令和5年3月29日 発行

特別史跡

一乗谷朝倉氏遺跡発掘調査報告 21

第63・112・113・114・118・128・137・143次調査

編 集 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館
発 行 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館
〒910-2152 福井市安波賀町4-10
印 刷 白崎印刷株式会社